

栃木県埋蔵文化財調査報告第 418 集

小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

（第 1 分冊）

2024. 3

栃 木 県
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

こいずみ ぶんこう うら いせき もとぬま おおつか いせき
小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

（第1分冊）

2024.3

栃 木 県
公益財団法人とちぎ未来づくり財団



M区 SI-25 甕と置きカマド

序

小泉分校裏遺跡と本沼大塚遺跡は、栃木県南東部の益子町長堤・本沼地内に位置しています。この地域は益子焼を中心とした産業が発展するとともに、自然環境にも恵まれ、小貝川周辺には豊かな水田地帯も広がっています。また、町内には古墳や中世からの古刹など多くの文化財が残っています。

この度、栃木県農政部による小泉・本沼地区の農地整備事業に先立ち、所在する遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を実施いたしました。

小泉分校裏遺跡では規則的に配置された大型の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が確認されました。調査地点の西側には谷を挟んで、谷津入窯跡やカスガ入窯跡をはじめとした古代の窯跡群が所在することから、益子古窯跡群の一角を管理する重要な集落と思われる。また、本沼大塚遺跡については塚を調査しました。これらにより地域の歴史を解明する貴重な成果が得られています。

本報告書は、令和2年度から令和3年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました益子町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに地権者の皆様など関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

令和6（2024）年3月

栃 木 県

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

例 言

- 1 本書は、栃木県益子町小泉・長堤・本沼地区内に所在する小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、令和2年度年から令和4年度県農政部の事業のうち、農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する記録調査である。
- 3 調査は、県農政部より公益財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課（現・栃木県生活文化スポーツ部文化振興課）の指導のもと、実施したものである。
- 4 本遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は以下の通りである。

令和2年度	発掘調査（小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡）	
期 間	令和2（2020）年6月22日～令和3（2021）年3月30日	
担当者	調査課課長 津野 仁	整理課課長 篠原祐一
	副主幹 中村享史	副主幹 江原 英
	副主幹 池田敏弘	副主幹 今平昌子
	主任 後藤信祐	嘱託調査員 黒川正義
令和3年度	発掘調査（小泉分校裏遺跡・山根遺跡）	
期 間	令和3年（2021）年6月1日～令和4（2022）年3月30日	
担当者	調査課課長 津野 仁	主任 後藤信祐
	嘱託調査員 森嶋秀一	嘱託調査員 関口正明
令和4年度	発掘調査（山根遺跡）	
期 間	令和4年（2022）年4月1日～令和4（2022）年6月30日	
担当者	調査課副主幹 篠原浩恵	嘱託調査員 関口正明
令和4年度	整理（小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡・山根遺跡整理）	
期 間	令和4年（2022）年4月1日～令和5（2023）年3月30日	
担当者	整理課副主幹 今平昌子	主事 神林幸太郎（福島県文化振興財団派遣）
令和5年度	整理・報告（小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡・山根遺跡整理）	
期 間	令和5年（2023）年4月3日～令和5（2024）年3月28日	
担当者	整理課課長 江原 英	副主幹 今平昌子
	嘱託調査員 黒川正義	
- 5 本書の執筆・報告書作成は今平昌子・神林幸太郎が行った。
- 6 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡の調査～整理・報告書作成にあたり、以下の事業を委託した。

令和2年度	基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影：株式会社ニッコー
	航空写真撮影：中央航業株式会社
令和3年度	基準点測量及び基準杭設定：株式会社ニッコー
	航空写真撮影：中央測量設計株式会社
	土器洗浄・遺構図トレース：株式会社シン技術コンサル
令和4年度	土器洗浄・注記・遺構図トレース・遺物復元・実測・遺物実測用写真

：株式会社シン技術コンサル

令和5年度 遺物写真撮影・図版作成：株式会社松井ビ・テ・オ・印刷

遺構図トレース：株式会社シン技術コンサル

- 7 発掘調査中における遺構の写真撮影は各担当者が行った。
- 8 金属製品のX線撮影・保存処理は有限会社武蔵野文化財修復研究所が行った。
- 9 須恵器・土師器の産地、時期決定については、津野 仁氏（前調査課課長）の協力を得た。
- 10 瓦については下野市教育委員会の下谷 淳氏と当センターの手島菜美氏の協力を得た。
- 11 本沼大塚遺跡の石器については当センターの森嶋秀一の協力を得た。
- 12 陶磁器については、東京藝術大学の非常勤講師 水本和美氏のご教示をいただいた。
- 13 発掘調査・報告書作成にあたっては、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの職員その他、次の方々から御指導・御協力をいただいた。

栃木県農政部 栃木県教育委員会事務局文化財課（現文化振興課） 芳賀農業振興事務所
益子町土地改良区 益子町教育委員会 今平利幸 下谷 淳 塚本師也

- 14 発掘調査の参加者は、次の通りである。

令和2年度

赤井喜久夫 阿久津忠男 伊藤千景 宇田川 勉 宇都宮 剛 大関東太 大和田茂樹 奥 修子
小倉昭三 小高曉 片岡九二三 加藤博史 上村良夫 川上宏子 菊井和美 木村文子 小島勝美
後藤晃 後藤美知子 児玉祐美子 酒井正樹 佐藤清二 佐藤圭子 塩澤未代 白鳥義昭 須藤哲夫
瀬下勇夫 五月女耕一 添谷知宏 高橋麻佐美 徳重富子 中山正夫 永山秀子 成田博熙
西丸久美子 野澤貴代美 平野美詠子 福田晴夫 松本芳雄 三田和実 山内愛子 山本恭子
ヤングテルミ 吉澤 薫 米澤浩一

令和3年度

赤井喜久夫 阿久津妙子 新井有希 伊藤 巖 伊藤千景 岩村吉影 宇田川勉 宇塚ヒサ
宇都宮剛 大関東太 大和田茂樹 小川征男 奥 修子 上村良夫 木村文子 後藤美知子
児玉祐美子 酒井正樹 佐藤圭子 塩澤未代 白鳥義昭 鈴木和二 五月女耕一 高根澤三郎
高野 守 高橋麻佐美 高橋晴子 塚本準一 直井正行 永山秀子 成田博熙 西村順男
野澤貴代美 萩庭正幸 日向野久雄 平野美詠子 廣澤文雄 福田晴夫 松本一夫 三田和実
森 秀昭 柳 秀晴 築瀬律子 山内愛子 山岸 弘 米山良平 米澤浩一

令和4年度

赤井喜久夫 伊藤 巖 伊藤千景 岩村吉影 宇田川勉 宇都宮剛 大関東太 上村良夫 塩澤未代
五月女耕一 高野 守 塚本準一 直井正行 成田博熙 廣澤文雄 山岸 弘 米澤浩一

- 15 整理・報告書作成作業の参加者は次の通りである。

和田恵美 熊谷早苗 武田智子 長 道子 佐藤 愛 沖田有孝 天野崇弘 塚田幸枝 野中美帆
田中英紀

- 16 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。
- 17 本遺跡の出土遺物・図面写真等資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡 例

1 遺跡

- (1) 遺跡の略号は、小泉分校裏遺跡は MK-KB (MashiKo-KoizumiBunkoura)、本沼大塚遺跡は MK-MO (MashiKo-MotonumaQtsuka) である。

2 遺構

- (1) 遺構の略号は、SI (竪穴建物跡・方形竪穴)・SA (塀・柵列)・SD (溝)・SE (井戸)・SK (土坑)・P (ピット) とした。
- (2) 遺構番号は、発掘調査時に発番したものを原則使用した。番号を振り替えた遺構については、計測表中に記載し、対応させている。
- (3) 遺構図の縮尺は、原則として 1/80、カマドは 1/40 を用いた。挿図中にスケールで示す。
- (4) 方位および測定座標は世界測地系に拠っている。
- (5) セクション図中のポイントの線上が水準 (標高) を示す。
- (6) グリッドの番号は、左上、北西隅を起点とし、発番している。
- (7) 土層堆積図の番号は、原則堆積の順序を示す。図中の KP は鹿沼軽石、SP は七本桜軽石を省略したものである。
- (8) 竪穴建物跡の主軸はカマドが確認されない場合、南北を主軸とした。カマドが 2 基確認されている場合は新しいカマドを主軸としている。
- (9) 遺物の出土位置と出土状況は、遺構図中にその形状で示した。形状で示せなかったものは●で位置のみを示した。その他、遺構図版中のスクリーントーンは以下を示す。

----- 推定ライン -·-·-·-·- 硬化面 -·-·-·-·- 掘方

--	--	--	--

3 遺物

- (1) 瓦の名称については、歴史的名称を使い、男瓦 (丸瓦)、女瓦 (平瓦) とした。
 - (2) ヘラ記号については文字と区別すべきであるが、刻書として一括した。
 - (3) 実測図の縮尺は原則として 1/4、縄文土器・弥生土器 1/3、紡錘車・鉄製品 1/2、一部の瓦・石製品は 1/5 を用いた。挿図中にスケールで示す。
 - (4) 挿図中の遺物番号は、遺構毎の出土番号及び遺物観察表並びに写真図版の番号に対応する。
 - (5) 漆仕上げ・黒色処理は観察表中に示している。
 - (6) 遺物図版中のスクリーントーンは以下を示す。
- | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
- (7) 遺物実測図・拓影図で内外面を示したものは、断面の縄文・弥生土器は左側に内外面、須恵器は右側に外面、左側に内面を基本に表示した。
 - (8) 観察表中の [] 付き数値は残存値、() 付き数値は推定値を示したものである。
 - (9) 胎土の色調はエックスライト社の CAPSURE 測定器により測定し、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修

第1分冊 目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

第1章 調査に至るまでの経緯	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	5
第3節 調査の方法	6
第2章 遺跡の環境	8
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3章 小泉分校裏遺跡	15
第1節 基本土層	15
第2節 調査の概要	17
第3節 旧石器～古墳時代前期	19
1. 旧石器時代 2. 縄文時代 3. 弥生時代 4. 古墳時代前期	
第4節 A区	26
1. 竪穴建物跡 2. 柵列 3. 溝 4. 土坑 5. ビット	
第5節 B区	46
1. 溝 2. 土坑	
第6節 C区	51
1. 井戸 2. 溝 3. 土坑 4. ビット	
第7節 D区	60
1. 竪穴建物跡 2. 掘立柱建物跡 3. 溝 4. 土坑 5. 遺構外の遺物	
第8節 E区	123
1. 竪穴建物跡 2. 掘立柱建物跡 3. 柵列 4. 溝 5. 円形有段遺構 6. 土坑	
7. ビット 8. その他 9. 遺構外の遺物	
第9節 F区	231
1. 土坑 2. ビット 3. 遺構外の遺物	
第10節 G・N区	239
1. 竪穴建物跡 2. 掘立柱建物跡 3. 柵列 4. 溝 5. 土坑 6. ビット	
7. 遺構外の遺物	
第11節 H区	297
1. 竪穴建物跡 2. 溝 3. 地下式坑 4. 土坑 5. ビット 6. 遺構外の遺物	
第12節 I区	330
1. 竪穴建物跡 2. 土坑 3. 遺構外の遺物	

第13節 J区	334
1. 溝 2. 土坑	
第14節 K区	339
第15節 L区	340
1. 竪穴建物跡 2. 掘立柱建物跡 3. 柵列 4. 地下式坑 5. 土坑 6. 遺構外の遺物	
第16節 M区	368
1. 竪穴建物跡 2. 方形竪穴 3. 溝 4. 土坑 5. ビット	

挿図目次

第1図	2018年度現況範囲確認調査	1	第37図	C区SK-1・4・7・9・10道構実測図	56
第2図	小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡確認調査トレンチ出土遺物実測図	2	第38図	C区ビット道構実測図(1)	58
第3図	小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡調査区配置図	7	第39図	C区ビット道構実測図(2)	59
第4図	栃木県位置図	8	第40図	D区全体図	60
第5図	栃木県地形区分図	8	第41図	D区SI-6道構実測図	62
第6図	周辺地形区分図	9	第42図	D区SI-6出土遺物実測図(1)	63
第7図	周辺道跡分布図	11	第43図	D区SI-6出土遺物実測図(2)	64
第8図	北部・基本土層図(A・C・G・H・J・M・N区)	15	第44図	D区SI-7道構・出土遺物実測図	66
第9図	南部・基本土層図(D・E・K・L・O・T区)	16	第45図	D区SI-9道構・出土遺物実測図	67
第10図	小泉分校裏・本沼大塚遺跡配置図(1)北部	17	第46図	D区SI-11・12道構・出土遺物実測図	68
第11図	小泉分校裏・本沼大塚遺跡配置図(2)南部	18	第47図	D区SI-13道構実測図	69
第12図	旧石器・石器実測図	19	第48図	D区SI-13出土遺物実測図	70
第13図	縄文・土器実測図	20	第49図	D区SI-14道構実測図(1)	72
第14図	縄文・石器実測図	21	第50図	D区SI-14道構(2)・出土遺物実測図(1)	73
第15図	弥生・土器実測図(1)	23	第51図	D区SI-14出土遺物実測図(2)	74
第16図	弥生(2)・古墳前期土器実測図	24	第52図	D区SI-14出土遺物実測図(3)	75
第17図	A区全体図(ビットは別図あり)	26	第53図	D区SI-14出土遺物実測図(4)	76
第18図	A区SI-1道構実測図	27	第54図	D区SI-14出土遺物実測図(5)	77
第19図	A区SI-1出土遺物実測図	28	第55図	D区SI-14出土遺物実測図(6)	78
第20図	A区SI-2道構実測図	29	第56図	D区SI-16道構実測図	83
第21図	A区SI-2出土遺物実測図	30	第57図	D区SI-23道構・出土遺物実測図	84
第22図	A区SI-3道構・出土遺物実測図	31	第58図	D区SI-24道構実測図	85
第23図	A区SI-4道構・出土遺物実測図	32	第59図	D区SI-24出土遺物実測図	86
第24図	A区SA-8道構実測図	33	第60図	D区SI-25道構・出土遺物実測図	87
第25図	A区SD-20・29・91道構・出土遺物実測図	35	第61図	D区SI-26道構・出土遺物実測図	89
第26図	A区SK-7・10・14・16・17・28・30・32・36・41・43・48・50・52・53・64・67道構実測図	40	第62図	D区SI-28道構・出土遺物実測図	90
第27図	A区SK-95・131道構・SK-28出土遺物実測図	41	第63図	D区SI-29道構実測図(1)	91
第28図	A区ビット道構実測図(1)	43	第64図	D区SI-29道構(2)・出土遺物実測図	92
第29図	A区ビット道構実測図(2)	44	第65図	D区SI-43道構実測図(1)	93
第30図	A区ビット道構実測図(3)	45	第66図	D区SI-43道構実測図(2)	94
第31図	B区全体図	46	第67図	D区SI-43出土遺物実測図	95
第32図	B区SD-4-6道構・出土遺物実測図	48	第68図	D区SI-48道構実測図	96
第33図	B区SK-1-3道構実測図	50	第69図	D区SB-10道構・出土遺物実測図	97
第34図	C区全体図(ビットは別図あり)	51	第70図	D区SB-19道構・出土遺物実測図	98
第35図	C区井戸遺構実測図	52	第71図	D区SB-19出土遺物実測図	99
第36図	C区SD-2・5・6道構・出土遺物実測図	54	第72図	D区SB-21道構・出土遺物実測図	100
			第73図	D区SB-27道構・出土遺物実測図	102

第74図	D区SB-30道構実測図	103	第126図	E区SI-76道構・出土遺物実測図(1)	166
第75図	D区SB-30出土遺物実測図	104	第127図	E区SI-76出土遺物実測図(2)	167
第76図	D区SB-31道構・出土遺物実測図	105	第128図	E区SI-77道構実測図(1)	168
第77図	D区SB-32道構・出土遺物実測図	106	第129図	E区SI-77道構(2)・出土遺物実測図	169
第78図	D区SB-34道構実測図	107	第130図	E区SI-78道構・出土遺物実測図	171
第79図	D区SB-35道構・出土遺物実測図	108	第131図	E区SI-84道構実測図	173
第80図	D区SB-36道構・出土遺物実測図	109	第132図	E区SI-84出土遺物実測図	174
第81図	D区SB-37道構・出土遺物実測図	110	第133図	E区SI-86道構・出土遺物実測図	175
第82図	D区SB-39道構・出土遺物実測図	111	第134図	E区SI-87道構実測図(1)	176
第83図	D区SB-41道構・出土遺物実測図	112	第135図	E区SI-87道構(2)・出土遺物実測図	177
第84図	D区SB-42道構・出土遺物実測図	113	第136図	E区SI-89道構実測図(1)	178
第85図	D区SB-49道構・出土遺物実測図	115	第137図	E区SI-89道構(2)・出土遺物実測図	179
第86図	D区SD-1出土遺物実測図	116	第138図	E区SI-91・92道構実測図(1)	180
第87図	D区SD-1・5・8・17・18道構実測図	117	第139図	E区SI-91・92道構実測図(2)	181
第88図	D区SK-20・33・38・44-47道構・SK-46出土遺物実測図	121	第140図	E区SI-91・92道構実測図(3)	182
第89図	D区道構外出土遺物実測図	122	第141図	E区SI-92出土遺物実測図(1)	183
第90図	E区全体図(ビットは別図あり)	123	第142図	E区SI-92出土遺物実測図(2)	184
第91図	E区SI-4道構実測図	125	第143図	E区SI-92出土遺物実測図(3)	185
第92図	E区SI-4出土遺物実測図	126	第144図	E区SI-115道構・出土遺物実測図	187
第93図	E区SI-9道構・出土遺物実測図	127	第145図	E区SI-128道構・出土遺物実測図	187
第94図	E区SI-10道構実測図	128	第146図	E区SB-69道構・出土遺物実測図	189
第95図	E区SI-11道構・出土遺物実測図	129	第147図	E区SB-139道構・出土遺物実測図	190
第96図	E区SI-12道構・出土遺物実測図	130	第148図	E区SB-183道構・出土遺物実測図	191
第97図	E区SI-15道構・出土遺物実測図	131	第149図	E区SB-185道構・出土遺物実測図	192
第98図	E区SI-29道構実測図	132	第150図	E区SA-186道構実測図	194
第99図	E区SI-29出土遺物実測図	133	第151図	E区SD-1・SD-3道構実測図	195
第100図	E区SI-35道構実測図	134	第152図	E区SD-1・SD-3出土遺物実測図	196
第101図	E区SI-35出土遺物実測図	135	第153図	E区SK-2・36・83道構実測図	198
第102図	E区SI-43道構実測図	136	第154図	E区SK-2出土遺物実測図(1)	199
第103図	E区SI-43出土遺物実測図	137	第155図	E区SK-2出土遺物実測図(2)	200
第104図	E区SI-44道構実測図(1)	139	第156図	E区SK-2出土遺物実測図(3)	201
第105図	E区SI-44道構(2)・出土遺物実測図(1)	140	第157図	E区SK-36出土遺物実測図	204
第106図	E区SI-44出土遺物実測図(2)	141	第158図	E区SK-83出土遺物実測図(1)	205
第107図	E区SI-49道構実測図	143	第159図	E区SK-83出土遺物実測図(2)	206
第108図	E区SI-51道構・出土遺物実測図(1)	144	第160図	E区SK-5-7・13・17・19・21・22・24-28道構実測図	216
第109図	E区SI-51出土遺物実測図(2)	145	第161図	E区SK-30-34・37-42・46・47・50道構実測図	217
第110図	E区SI-51出土遺物実測図(3)	146	第162図	E区SK-52-59・62・65・66・73道構実測図	218
第111図	E区SI-61道構実測図(1)	148	第163図	E区SK-79-82・88・90・93-98・199道構実測図	219
第112図	E区SI-61道構(2)・出土遺物実測図(1)	149	第164図	E区SK-99・100・102・106・107・109・113・114・116・120-123道構実測図	220
第113図	E区SI-61出土遺物実測図(2)	150	第165図	E区SK-124-127・129・130・135-137・140・141・143・144道構実測図	221
第114図	E区SI-64道構実測図(1)	151	第166図	E区SK-145-155・159道構実測図	222
第115図	E区SI-64道構(2)・出土遺物実測図(1)	152	第167図	E区SK-160・162・164-167・176-178・184・190・201道構実測図	223
第116図	E区SI-64出土遺物実測図(2)	153	第168図	E区SK-7・13・19・25・27出土遺物実測図	223
第117図	E区SI-67道構実測図	154	第169図	E区SK-30-33・40・53・59・73・88・106・124・126・129・154出土遺物実測図	224
第118図	E区SI-67出土遺物実測図	155	第170図	E区ビット道構実測図(1)	227
第119図	E区SI-68道構実測図	156			
第120図	E区SI-68出土遺物実測図	157			
第121図	E区SI-72道構実測図	159			
第122図	E区SI-72出土遺物実測図	160			
第123図	E区SI-74道構・出土遺物実測図	162			
第124図	E区SI-75道構・出土遺物実測図(1)	163			
第125図	E区SI-75出土遺物実測図(2)	164			

第171図	E区 ビット道構実測図(2)	228	第221図	G区 道構外出上遺物実測図	296
第172図	E区 ビット道構実測図(3)	229	第222図	H区 全体図(ビットは別図あり)	297
第173図	E区 坑上道構実測図	230	第223図	H区 SI-5 道構・出土遺物実測図	298
第174図	E区 道構外出上遺物実測図	230	第224図	H区 SI-8・54 道構・出土遺物実測図	299
第175図	F区 全体図(ビットは別図あり)	231	第225図	H区 SI-10・11 道構・出土遺物実測図(1)	301
第176図	F区 SK-1-13・60 道構実測図	235	第226図	H区 SI-10・11 出土遺物実測図(2)	302
第177図	F区 ビット実測図	236	第227図	H区 SI-13 道構実測図	303
第178図	F区 SK-2・9・道構外出上遺物実測図	238	第228図	H区 SI-13 出土遺物実測図(1)	304
第179図	G区 全体図(ビットは別図あり)	239	第229図	H区 SI-13 出土遺物実測図(2)	305
第180図	G区 SI-1 道構実測図	241	第230図	H区 SI-14 道構実測図	306
第181図	G区 SI-1 出土遺物実測図	242	第231図	H区 SI-17 道構・出土遺物実測図	307
第182図	G区 SI-2 道構実測図(1)	243	第232図	H区 SI-19 道構・出土遺物実測図(1)	308
第183図	G区 SI-2 道構実測図(2)	244	第233図	H区 SI-19 出土遺物実測図(2)	309
第184図	G区 SI-2 出土遺物実測図	245	第234図	H区 SI-21 道構・出土遺物実測図	311
第185図	G区 SI-3・4 道構実測図	247	第235図	H区 SI-27 道構実測図	312
第186図	G区 SI-3・4 出土遺物実測図	248	第236図	H区 SI-27 出土遺物実測図	313
第187図	G区 SI-5 道構実測図	250	第237図	H区 SI-29 道構・出土遺物実測図(1)	315
第188図	G区 SI-5 出土遺物実測図	251	第238図	H区 SI-29 出土遺物実測図(2)	316
第189図	G区 SI-6 道構実測図	252	第239図	H区 SI-29 出土遺物実測図(3)	317
第190図	G区 SI-6 出土遺物実測図	253	第240図	H区 SI-29 出土遺物実測図(4)	318
第191図	G区 SI-8a・b 道構実測図	255	第241図	H-1区 SD-7・9・28・30 道構実測図	321
第192図	G区 SI-8 出土遺物実測図	256	第242図	H-2区 SD-53・2区 櫻橋上層道構実測図	322
第193図	G区 SI-38 道構・出土遺物実測図	257	第243図	H-1区 SK-34 道構実測図	322
第194図	G区 SI-40 道構実測図	258	第244図	H区 SK-4・12・15・16・22-26・33・48・49 道構実測図	325
第195図	G区 SI-40 出土遺物実測図	259	第245図	H区 SK-26 出土遺物実測図	326
第196図	G区 SI-41 道構実測図	261	第246図	H区 ビット道構実測図(1)	327
第197図	G区 SI-41 出土遺物実測図	262	第247図	H区 ビット道構実測図(2)	328
第198図	G区 SI-42 道構・出土遺物実測図	263	第248図	H区 道構外出上遺物実測図	329
第199図	G区 SI-43 道構実測図(1)	264	第249図	I区 全体図	330
第200図	G区 SI-43 道構(2)・出土遺物実測図(1)	265	第250図	I区 SI-1 道構実測図	331
第201図	G区 SI-43 出土遺物実測図(2)	266	第251図	I区 SI-1 出土遺物実測図	332
第202図	G区 SI-44 道構実測図(1)	267	第252図	I区 SK-2 道構実測図	333
第203図	G区 SI-44 道構(2)・出土遺物実測図(1)	268	第253図	I区 道構外出上遺物実測図	333
第204図	G区 SI-44 出土遺物実測図(2)	269	第254図	J区 全体図	334
第205図	G区 SI-46 道構・出土遺物実測図	272	第255図	J区 SD-1-3・5-10 道構実測図	337
第206図	G区 SI-47 道構実測図	273	第256図	J区 SD-9 出土遺物実測図	338
第207図	G区 SI-71・72 道構実測図	274	第257図	J区 SK-4・11 道構実測図	338
第208図	G区 SI-72 出土遺物実測図	275	第258図	K区 全体図	339
第209図	G区 SI-73 道構実測図	277	第259図	L区 全体図	340
第210図	G区 SI-73 出土遺物実測図	278	第260図	L区 SI-1 道構実測図	341
第211図	G区 SB-79 道構・出土遺物実測図	280	第261図	L区 SI-2 道構・出土遺物実測図	342
第212図	G区 SA-48 道構実測図	281	第262図	L区 SI-7 道構・出土遺物実測図	343
第213図	G区 SD-20・24・74 道構実測図	282	第263図	L区 SI-12 道構・出土遺物実測図	344
第214図	G区 SD-25・45・75 道構・SD-25 出土遺物実測図	283	第264図	L区 SI-13 道構実測図	344
第215図	G区 SK-7・17・19・26・27・36・37・51-54・ 56・114 道構実測図	289	第265図	L区 SI-15 道構・出土遺物実測図	345
第216図	G区 SK-57・64・76・77・81・85・95・101 道構 実測図、SK-51・52・57・85 出土遺物実測図	290	第266図	L区 SI-18 道構・出土遺物実測図	345
第217図	G区 ビット道構実測図(1)	293	第267図	L区 SI-24 道構実測図	346
第218図	G区 ビット道構実測図(2)	294	第268図	L区 SI-24 出土遺物実測図	347
第219図	G区 ビット道構実測図(3)	295	第269図	L区 SI-25 道構・出土遺物実測図	349
第220図	G区 ビット道構実測図(4)	296	第270図	L区 SI-26 道構・出土遺物実測図	350
			第271図	L区 SI-29 道構・出土遺物実測図	351
			第272図	L区 SI-34 道構・出土遺物実測図	352

第 273 図	L 区 SI-38・39・40 道構・出土遺物実測図	353	第 294 図	M 区 SI-12 道構・出土遺物実測図	378
第 274 図	L 区 SI-42 道構・出土遺物実測図	354	第 295 図	M 区 SI-13 道構・出土遺物実測図	379
第 275 図	L 区 SB-9 道構実測図	355	第 296 図	M 区 SI-15 道構実測図	380
第 276 図	L 区 SB-43 道構実測図	356	第 297 図	M 区 SI-21 道構実測図	380
第 277 図	L 区 SD-6・10・17・19 道構実測図	357	第 298 図	M 区 SI-21 出土遺物実測図	381
第 278 図	L 区 SD-10・17 出土遺物実測図	358	第 299 図	M 区 SI-24 道構・出土遺物実測図	382
第 279 図	L 区 SK-41 道構実測図	359	第 300 図	M 区 SI-25 道構・出土遺物実測図 (1)	383
第 280 図	L 区 SK-3-5・8・11・14・16・20 道構実測図	363	第 301 図	M 区 SI-25 出土遺物実測図 (2)	384
		363	第 302 図	M 区 SI-26・27 道構・出土遺物実測図	385
第 281 図	L 区 SK-21-23・27・28・30-33・35-37 道構実測図	364	第 303 図	M 区 SI-28 道構・出土遺物実測図	387
		364	第 304 図	M 区 SI-31 道構実測図	388
第 282 図	L 区 SK-8・21・30・33 出土遺物実測図	366	第 305 図	M 区 SI-31 出土遺物実測図	389
第 283 図	L 区道構外出土遺物実測図	367	第 306 図	M 区 SI-34 道構実測図	389
第 284 図	M 区全8図 (ビットは別図あり)	368	第 307 図	M 区 SI-36a・b 道構・出土遺物実測図 (1)	390
第 285 図	M 区 SI-2 道構・出土遺物実測図	370	第 308 図	M 区 SI-36a・b 出土遺物実測図 (2)	391
第 286 図	M 区 SI-3・4 道構・出土遺物実測図	371	第 309 図	M 区 SK-29・30 道構・出土遺物実測図	393
第 287 図	M 区 SI-5 道構・出土遺物実測図	373	第 310 図	M 区 SK-32 道構・出土遺物実測図	394
第 288 図	M 区 SI-6 道構・出土遺物実測図	373	第 311 図	M 区 SD-7・11・17・23・33・37 道構実測図	396
第 289 図	M 区 SI-8 道構実測図	374	第 312 図	M 区 SD-7・23・33 出土遺物実測図	397
第 290 図	M 区 SI-8 出土遺物実測図	375	第 313 図	M 区 SK-1・14・16・18-20・22・35 道構実測図	400
第 291 図	M 区 SI-9 道構実測図	375			
第 292 図	M 区 SI-9 出土遺物実測図	376	第 314 図	M 区 SK-16 出土遺物実測図	401
第 293 図	M 区 SI-10 道構・出土遺物実測図	377	第 315 図	M 区ビット道構実測図	402

表 目 次

第 1 表	確認調査トレンチ出土遺物観察表	3	第 26 表	D 区 SI-7 出土遺物観察表	66
第 2 表	周辺の道跡	12・13	第 27 表	D 区 SI-9 出土遺物観察表	67
第 3 表	目石器・石器観察表	19	第 28 表	D 区 SI-11・12 出土遺物観察表	69
第 4 表	縄文・石器観察表	20	第 29 表	D 区 SI-13 出土遺物観察表	70
第 5 表	A 区 竪穴建物跡計測表	27	第 30 表	D 区 SI-14 出土遺物観察表	79-82
第 6 表	A 区 SI-1 出土遺物観察表	28	第 31 表	D 区 SI-23 出土遺物観察表	85
第 7 表	A 区 SI-2 出土遺物観察表	30	第 32 表	D 区 SI-24 出土遺物観察表	86
第 8 表	A 区 SI-3 出土遺物観察表	31	第 33 表	D 区 SI-25 出土遺物観察表	88
第 9 表	A 区 SI-4 出土遺物観察表	32	第 34 表	D 区 SI-26 出土遺物観察表	89
第 10 表	A 区 SA-8 計測表	33	第 35 表	D 区 SI-28 出土遺物観察表	91
第 11 表	A 区 溝計測表	34	第 36 表	D 区 SI-29 出土遺物観察表	93
第 12 表	A 区 SD-29・91 出土遺物観察表	34	第 37 表	D 区 SI-43 出土遺物観察表	95
第 13 表	A 区 土坑計測表	36	第 38 表	D 区 掘立柱建物跡計測表	96
第 14 表	A 区 SK-28 遺出土物観察表	41	第 39 表	D 区 SB-10 出土遺物観察表	97
第 15 表	A 区 ビット計測表	41・42	第 40 表	D 区 SB-19 出土遺物観察表	99・100
第 16 表	B 区 溝計測表	47	第 41 表	D 区 SB-21 出土遺物観察表	101
第 17 表	B 区 溝出土遺物観察表	49	第 42 表	D 区 SB-27 出土遺物観察表	103
第 18 表	B 区 土坑計測表	49	第 43 表	D 区 SB-30 出土遺物観察表	104
第 19 表	C 区 井戸計測表	52	第 44 表	D 区 SB-31 出土遺物観察表	105
第 20 表	C 区 溝計測表	52	第 45 表	D 区 SB-32 出土遺物観察表	107
第 21 表	C 区 SD-5 出土遺物観察表	53	第 46 表	D 区 SB-35 出土遺物観察表	108
第 22 表	C 区 土坑計測表	55	第 47 表	D 区 SB-36 出土遺物観察表	110
第 23 表	C 区 ビット計測表	57	第 48 表	D 区 SB-37 出土遺物観察表	111
第 24 表	D 区 竪穴建物跡計測表	61	第 49 表	D 区 SB-39 出土遺物観察表	112
第 25 表	D 区 SI-6 出土遺物観察表	64・65	第 50 表	D 区 SB-41 出土遺物観察表	113

第51表	D区SB-42出土遺物観察表	114	第102表	E区道橋外出土遺物観察表	230
第52表	D区SB-49出土遺物観察表	115	第103表	F区土坑計測表	232
第53表	D区溝計測表	116	第104表	F区ビット計測表	237・238
第54表	D区SD-1出土遺物観察表	118	第105表	F区出土遺物観察表	238
第55表	D区土坑計測表	120	第106表	G区竪穴建物跡計測表	240
第56表	D区SK-46出土遺物観察表	122	第107表	G区SI-1出土遺物観察表	242・243
第57表	D区道橋外出土遺物観察表	122	第108表	G区SI-2出土遺物観察表	245・246
第58表	E区竪穴建物跡計測表	124	第109表	G区SI-3・4出土遺物観察表	249
第59表	E区SI-4出土遺物観察表	126	第110表	G区SI-5出土遺物観察表	251・252
第60表	E区SI-9出土遺物観察表	127	第111表	G区SI-6出土遺物観察表	253
第61表	E区SI-11出土遺物観察表	129	第112表	G区SI-8a・b出土遺物観察表	256
第62表	E区SI-12出土遺物観察表	131	第113表	G区SI-38出土遺物観察表	258
第63表	E区SI-15出土遺物観察表	132	第114表	G区SI-40出土遺物観察表	260
第64表	E区SI-29出土遺物観察表	133・134	第115表	G区SI-41出土遺物観察表	262・263
第65表	E区SI-35出土遺物観察表	135	第116表	G区SI-42出土遺物観察表	263
第66表	E区SI-43出土遺物観察表	138・139	第117表	G区SI-43出土遺物観察表	266
第67表	E区SI-44出土遺物観察表	141・143	第118表	G区SI-44出土遺物観察表	270・271
第68表	E区SI-51出土遺物観察表	147・148	第119表	G区SI-46出土遺物観察表	272
第69表	E区SI-61出土遺物観察表	150・151	第120表	G区SI-72出土遺物観察表	276
第70表	E区SI-64出土遺物観察表	153	第121表	G区SI-73出土遺物観察表	279
第71表	E区SI-67出土遺物観察表	155・156	第122表	G区竪立柱建物跡計測表	279
第72表	E区SI-68出土遺物観察表	158	第123表	G区SB-79出土遺物観察表	280
第73表	E区SI-72出土遺物観察表	161	第124表	G区SA-48計測表	281
第74表	E区SI-74出土遺物観察表	162	第125表	G区溝計測表	281
第75表	E区SI-75出土遺物観察表	165	第126表	G区SD-25出土遺物観察表	284
第76表	E区SI-76出土遺物観察表	167・168	第127表	G区土坑計測表	285
第77表	E区SI-77出土遺物観察表	170	第128表	G区SK-51・52・57・85出土遺物観察表	291
第78表	E区SI-78出土遺物観察表	172	第129表	G区ビット計測表	292・293
第79表	E区SI-84出土遺物観察表	174	第130表	G区道橋外出土遺物観察表	296
第80表	E区SI-86出土遺物観察表	176	第131表	H区竪穴建物跡計測表	298
第81表	E区SI-87出土遺物観察表	178	第132表	H区SI-5出土遺物観察表	298
第82表	E区SI-89出土遺物観察表	179	第133表	H区SI-8出土遺物観察表	300
第83表	E区SI-92出土遺物観察表	185・186	第134表	H区SI-10・11出土遺物観察表	302・303
第84表	E区SI-115出土遺物観察表	187	第135表	H区SI-13出土遺物観察表	304・306
第85表	E区SI-128出土遺物観察表	188	第136表	H区SI-17出土遺物観察表	307
第86表	E区竪立柱建物跡計測表	188	第137表	H区SI-19出土遺物観察表	310
第87表	E区SB-69出土遺物観察表	189	第138表	H区SI-21出土遺物観察表	312
第88表	E区SB-139出土遺物観察表	190	第139表	H区SI-27出土遺物観察表	314
第89表	E区SB-183出土遺物観察表	194	第140表	H区SI-29出土遺物観察表	319
第90表	E区SB-185出土遺物観察表	193	第141表	H区溝計測表	320
第91表	E区SA-186計測表	194	第142表	H区地下式坑計測表	322
第92表	E区溝計測表	194	第143表	H区土坑計測表	323
第93表	E区SD-1・3出土遺物観察表	196	第144表	H区SK-26出土遺物観察表	326
第94表	E区円形有段道橋計測表	197	第145表	H区ビット計測表	327
第95表	E区SK-2出土遺物観察表	201・203	第146表	H区道橋外出土遺物観察表	329
第96表	E区SK-36出土遺物観察表	204	第147表	I区竪穴建物跡計測表	331
第97表	E区SK-83出土遺物観察表	207・208	第148表	I区SI-1出土遺物観察表	332
第98表	E区土坑計測表	208・211	第149表	I区土坑計測表	332
第99表	E区SK-7・13・19・25・27・30・33・53・59・73・88・106・124・129・154出土遺物観察表	225・226	第150表	I区道橋外出土遺物観察表	333
第100表	E区ビット道橋計測表	226	第151表	J区溝計測表	335
第101表	E区焼土道橋計測表	230	第152表	J区SD-9出土遺物観察表	338
			第153表	J区土坑計測表	338
			第154表	L区竪穴建物跡計測表	341

第 155 表	L 区 SI-2 出土遺物觀察表	342	第 177 表	M 区 SI-5 出土遺物觀察表	373
第 156 表	L 区 SI-7 出土遺物觀察表	343	第 178 表	M 区 SI-6 出土遺物觀察表	374
第 157 表	L 区 SI-12 出土遺物觀察表	344	第 179 表	M 区 SI-8 出土遺物觀察表	375
第 158 表	L 区 SI-15 出土遺物觀察表	345	第 180 表	M 区 SI-9 出土遺物觀察表	376
第 159 表	L 区 SI-18 出土遺物觀察表	346	第 181 表	M 区 SI-10 出土遺物觀察表	377
第 160 表	L 区 SI-24 出土遺物觀察表	348	第 182 表	M 区 SI-12 出土遺物觀察表	378
第 161 表	L 区 SI-25 出土遺物觀察表	350	第 183 表	M 区 SI-13 出土遺物觀察表	379
第 162 表	L 区 SI-26 出土遺物觀察表	351	第 184 表	M 区 SI-21 出土遺物觀察表	381
第 163 表	L 区 SI-29 出土遺物觀察表	351	第 185 表	M 区 SI-24 出土遺物觀察表	383
第 164 表	L 区 SI-34 出土遺物觀察表	352	第 186 表	M 区 SI-25 出土遺物觀察表	384
第 165 表	L 区 SI-38・39 出土遺物觀察表	354	第 187 表	M 区 SI-26・27 出土遺物觀察表	386
第 166 表	L 区 SI-42 出土遺物觀察表	355	第 188 表	M 区 SI-28 出土遺物觀察表	388
第 167 表	L 区獨立柱建物跡計測表	355	第 189 表	M 区 SI-31 出土遺物觀察表	389
第 168 表	L 区溝計測表	356	第 190 表	M 区 SI-36a・b 出土遺物觀察表	392
第 169 表	L 区 SD-10・17 出土遺物觀察表	358	第 191 表	M 区方形竪穴計測表	393
第 170 表	L 区地下式坑計測表	359	第 192 表	M 区 SK-30 出土遺物觀察表	394
第 171 表	L 区土坑計測表	360	第 193 表	M 区 SK-32 出土遺物觀察表	394
第 172 表	L 区 SK-8・21・30・33 出土遺物觀察表	366	第 194 表	M 区溝計測表	395
第 173 表	L 区道橋外出土遺物觀察表	367	第 195 表	M 区 SD-7・23・33 出土遺物觀察表	398
第 174 表	M 区竪穴建物跡計測表	369	第 196 表	M 区土坑計測表	398
第 175 表	M 区 SI-2 出土遺物觀察表	370	第 197 表	M 区 SK-16 出土遺物觀察表	401
第 176 表	M 区 SI-3・4 出土遺物觀察表	372	第 198 表	M 区ピット計測表	401

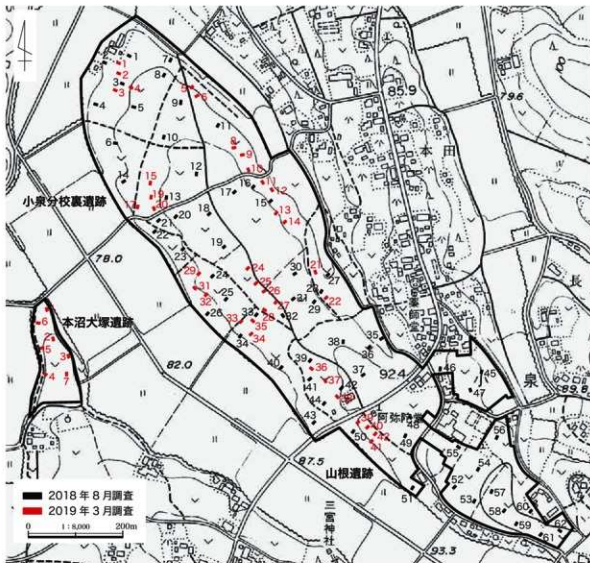
第1章 調査に至るまでの経緯

第1節 調査の経緯

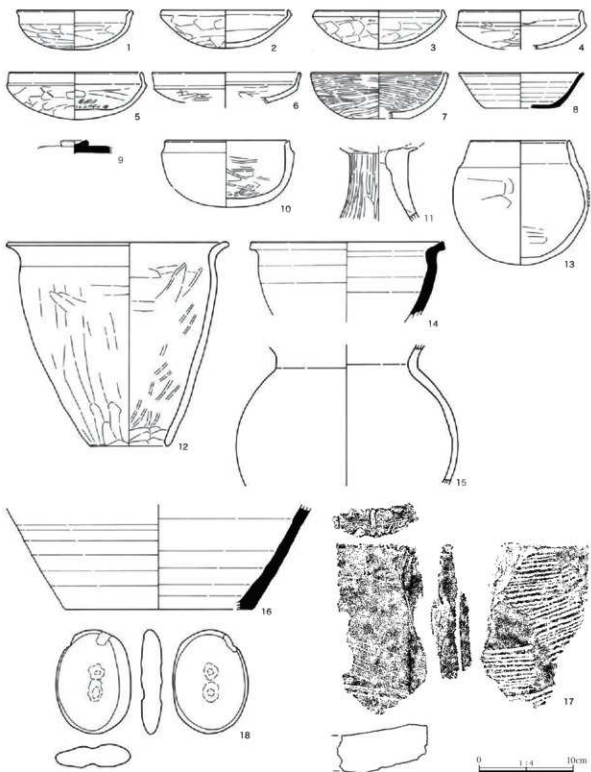
小泉分校裏遺跡・山根遺跡・本沼大塚遺跡の調査は、県農政部の行う「農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区」に伴う記録保存のための発掘調査である。令和2年7月から令和4年6月まで実施された。

平成27年度に所在分布調査、平成28年度の確認調査を経て、令和2年度から発掘調査が開始され、「農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区」事業計画から、事業予定地に位置する埋蔵文化財の取り扱いについて平成28年1月20日に協議が行われた。まず、県文化財課（現：県文化振興課）による現地踏査による確認調査が行われた。その結果、遺物の分布が確認され、取り扱いが必要な状況が確認されたことから、遺跡の確認調査の実施が必要となった。

本格的な確認調査の実施の前に、設計計画のため遺跡の所在する地下深度や地山の掘削深度を把握したいとの芳賀農業振興事務所の要望を受け、掘削地点を6か所に絞り、平成29年1月24日に県文化財課が試掘を行った。



第1図 2018年度現況範囲確認調査



第2図 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡確認調査トレンチ 出土遺物実測図

第1表 確認調査トレンチ出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 名称	用途 用途 (高さ)	色調	胎土・石質 構成	器面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状況	出土 位置	注記	備考
2	1	土師器 杯	口径 12.0 底径 - 器高 4.2	外面 7.5YR4/3 黒 内面 7.5YR3/2 黒	砂粒多量、礫 少量、赤色粒 子微量	良好	口縁部外面・内 面 黒色処理	口縁部外面 ココナデ 胴部外面 ミガキに近いケ ズリ 底部 ヘラケズリ 内面 ナデ	ほぼ完形 一部欠損	一括	17 トレンチ (2019)
2	2	土師器 杯	口径 13.3 底径 - 器高 4.0	外面 7.5YR4/2 黒 内面 5YR3/1 黒	砂粒少量、礫 微量	良好	口縁部外面・内 面 塗仕上げ	口縁部外面 ココナデ 体～底部外面 ヘラナデ 口縁～胴部上半内面 ココ ナデ 胴部下半～底部内面 ナデ	ほぼ完形 一部欠損	一括	19 トレンチ (2019)
2	3	土師器 杯	口径 (13.3) 底径 - 器高 4.2	7.5YR4/3 黒	砂粒少量、黒 色粒子微量	良好	口縁部外面 塗 仕上げか	口縁部縁あり (内縁・外 縁) 口縁部 ココナデ 胴～底部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁～底 部 3/4 残 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	4	土師器 杯	口径 (12.8) 底径 - 器高 4.1	外面 10YR4/2 灰黄 内面 10YR6/4 にぶい黄	砂粒少量、赤 色粒子微量、 黒色粒子若干	良好	体部外面 黒	口縁部縁あり (内縁・外 縁) 口縁部 ココナデ 体～底部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁～底 部 1/4 残 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	5	土師器 杯	口径 (13.9) 底径 - 器高 5.0	外面 7.5YR4/3 黒 内面 10YR3/1 黒	砂粒微量	良好	内外面塗仕上げ	口縁部縁あり (内縁・外 縁) 口縁部 ココナデ 胴～底部外面 ヘラナデ 胴部内面 ナデ 底部内面 ナデ後ミガキ	口縁～底 部 1/2 残 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	6	土師器 杯	口径 (15.4) 底径 [3.3] 器高 -	外面 7.5YR5/4 にぶい黒 内面 7.5YR5/3 にぶい黒	砂粒微量	良好	口縁部内外面 塗仕上げ	口縁部縁あり (内縁・内 外縁) 口縁部外面 ココナデ 胴部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁～体 部 1/8 残 存	一括	5 トレンチ (2018)
2	7	土師器 杯	口径 (14.1) 底径 (6.4) 器高 1.9	外面 5YR4/4 にぶい赤 内面 7.5YR3/2 黒	赤色粒子少 量、砂粒微量	良好	口縁部外面・内 面 黒色処理	口縁部内高 平底 口縁～胴部外面 ヘラミガ キ 底部 ヘラケズリ後ミガキ 内面 ヘラミガキ	口縁～底 部 1/3 残 存	一括	3 トレンチ (2019)
2	8	葉土器 杯	口径 (13.0) 底径 (8.4) 器高 3.7	7.5YR5/1 灰	砂粒少量、黒 色粒子微量	良好		ロクロ目肌	口縁～底 部 1/8 残 存	一括	6 トレンチ (2018)
2	9	葉土器 器	つまみ径 3.0 器高 (1.35)	外面 7.5YR4/2 灰黄 内面 10YR4/2 灰黄	砂粒少量、礫 微量	やや 不良		天井部 回転ヘラケズリ後 つまみ嵌付	つまみ～ 天井部一 部残存	一括	22 トレンチ (2018) フタ土一 括
2	10	土師器 碗	口径 (13.0) 底径 - 器高 7.1	外面 10YR6/3 にぶい黄 内面 5YR2/1 黒	砂粒少量、黒 色微量	良好	体～底部外面 残れている 内面 黒色処理	口縁部直立 口縁部 ココナデ 胴部外面 調整不明 胴～底部内面 ナデ後ヘラ ミガキ	口縁部一 部残存、 底部完 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	11	土師器 高杯	口径 - 底径 - 器高 [7.8] 器径 (6.3)	外面 7.5YR4/1 灰 内面 10YR4/1 灰	砂粒少量、赤 色粒子微量	良好		胴部 ナデ 器部外面 タテ方向のヘラ ミガキ 内面 ヘラナデ	胴部 1/2 残存	一括	19 トレンチ (2019)
2	12	土師器 壺	口径 (23.0) 底径 - 器高 21.6	7.5YR6/4 にぶい黄	砂粒少量、赤 色粒子微量	良好	外面黒	口縁部 ココナデ 胴～底部外面 タテ方向の ヘラケズリ 胴部内面 ヘラナデ後ミガ キ 底部内面 ナデ	口縁～底 部 1/2 残 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	13	土師器 鉢	口径 (10.3) 底径 - 器高 13.2 最大径 14.4	7.5YR6/4 にぶい黄	砂粒・礫少量、 赤色粒子微量	良好	胴部外面 塗 残れている 被熱	丸底 口縁部 ココナデ 胴～底部外面 ヘラケズリ 胴～底部内面 ナデ	口縁～底 部 1/3 残 存	一括	19 トレンチ (2019)
2	14	葉土器 鉢	口径 (20.0) 底径 - 器高 [7.8]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫・白 色粒子微量	良好		ロクロ目肌	口縁部 1/8 残 存	一括	2 トレンチ (2018)
2	15	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 [14.6] 最大径 [23.4]	外面 7.5YR5/6 灰 内面 10YR4/1 灰	砂粒少量、礫・ 赤色粒子微量	良好	外面 残ってい る	胴部 ココナデ 胴部外面 不明 内面 ヘラナデか	胴～体部 一部残 存	一括	19 トレンチ (2019) No.4
2	16	葉土器 甕か	口径 - 底径 (19.8) 器高 [11.1]	10YR5/2 灰黄	砂粒少量、礫 微量	良好		ロクロ目肌 体部下端 持ち手ナデ	胴～底部 一部残 存	一括	6 トレンチ (2018)
2	17	瓦	厚 4.0 底 950.03	外面 2.5Y5/2 黄灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒微量	良好		凸面 磨甲き 凹面 布目肌・糸切 断面 ヘラケズリ 端部 ヘラケズリ	一部残存	一括	富士及び 周辺採集 (2019)
2	18	礫石	長 10.9 幅 8.0 厚 2.4 重 276.23			安山岩			ほぼ完形	表採	富士及び 周辺採集 (2019)

県文化財課の試掘結果を受け、重要遺跡等現況範囲確認調査として小泉分校裏遺跡・山根遺跡・本沼大塚遺跡に係る確認調査が当センターにより、平成30年7・8月（第1回目）と平成31年3月（第2回目）の2回にわたって行われた。

第1回目の7・8月の調査では62本のトレンチ調査を計画したが、重機の搬入できない箇所が1箇所あり、結果61本の調査が実施された。7月23日から30日まで、重機によるトレンチ掘削、8月1～10日に人力により精査が行われた。

61本のトレンチのうち、5・10・13・31・46・58トレンチから6軒の竪穴建物跡が確認された。46・58トレンチは次年度報告予定の山根遺跡内である。小泉分校裏遺跡にかかる5・10・13・31トレンチの竪穴建物跡は古代であるとみなされた。また、27・35・36・44・66トレンチ付近は遺構・遺物とも確認されなかった。

第2回目の3月の調査では、本沼大塚遺跡も含め、44本のトレンチ調査が実施された。2・3・4・17・19・20・23・25・40・42トレンチより、古墳時代から古代にかけての11軒の竪穴建物跡が、その他、溝・土坑・ピットなども確認されている。遺構が発見されなかったトレンチ付近でも、遺物が多く確認されており、近くに遺構や遺物包含層の存在が想定された。本沼大塚遺跡では塚の存在が確認された。

この2回にわたる確認調査時の出土物については、第2図に主要なものを示した。この確認調査により、小泉分校裏遺跡は古墳時代から古代にかけての遺跡で、竪穴建物跡を中心に多くの遺構が遺存していることが推測されるに至った。

確認調査・試掘の成果を踏まえ、県文化財課と芳賀農業振興事務所による協議が行われた。この協議の結果、平成30年5月23日に「農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査」として、小泉分校裏遺跡・山根遺跡について本調査が必要なこと、期間については発掘調査2年、整理作業2年で調査・報告をすることの調整が行われた。

発掘調査は令和2年6月24日付けで公益財団法人とちぎ未来づくり財団に費用見積について依頼された。これを受け、令和2年7月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、令和2年度の委託業務の契約が締結された。発掘調査着手後、現地調査の進捗等、芳賀農業振興事務所と文化財課との間で調整を行いながら調査が進められた。

7月30日には、塚を残して農地整備する予定であった本沼大塚が、削平することに計画変更されたため、本沼大塚遺跡を先に調査することとし、小泉分校裏遺跡の一部調査（L・K区）が次年度送りとなり、令和2年10月26日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」にて、委託業務の変更契約が締結された。

令和3年度については、令和3年6月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて委託業務の契約が締結された。また、本年度より山根遺跡の発掘調査も開始された。

令和4年2月16日の県文化財課との協議で、山根遺跡の調査では想定以上に縄文時代の遺構や大量の土器や石器が出土したことから令和3年度中のB区の調査完了が困難であること、小泉館跡の土塁（F区）についても本調査が必要となったことから、次年度にこれらの調査を行うことになった。

令和4年度については、令和4年4月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて委託契約が取り交わされた。小泉分校裏遺跡の整理作業と併行して、山根遺跡のB区・F区についての調査が6月中旬まで行われ、現地での調査はすべて完了した。

令和5年度については、令和5年4月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて委託契約が取り交わされた。小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡の報告書作成と併行して山根遺跡の整理作業を行うこととな

った。

令和6年3月28日に栃木県埋蔵文化財調査報告第418集『小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡』を刊行。
山根遺跡については令和6年度末に刊行予定である。

第2節 調査の経過

小泉分校裏遺跡・山根遺跡・本沼大塚遺跡の発掘調査は、令和2～5年度に現地調査を行い、令和4年度から整理作業・報告書作成作業を行っている。

以下に調査の概略を記す。

令和2年度 発掘調査

調査範囲	小泉分校裏遺跡 (A～J・M・N)・本沼大塚遺跡 13,255㎡
調査費用	74,880,000円 (うち消費税および地方消費税額6,807,272円)
契約	令和2年7月1日～令和3年3月30日
調査の経過	令和2年6月24日～7月14日 発掘諸準備 令和2年7月15日～令和3年3月30日 発掘作業・遺構測量・図化 令和2年11月19日・12月18日 令和3年3月2日 航空写真撮影 令和3年1月27日 芳賀農業振興事務所との現地協議 令和3年2月5日 県文化財課との現地協議

令和3年度 発掘調査

調査範囲	小泉分校裏遺跡 (K・L・O～T区)・山根遺跡 (A～D区) 14,674㎡
調査費用	90,560,000円 (うち消費税および地方消費税額8,232,727円)
契約期間	令和3年6月1日～令和4年3月30日
調査の経過	令和3年5月13日 芳賀農業振興事務所・県文化財課との現地協議 令和3年6月1日～6月19日 発掘諸準備 令和3年6月18日～令和4年3月30日 発掘作業・遺構測量・図化 令和3年8月4日 県文化財課との現地協議 令和3年8月24日・11月25日 令和4年2月9日・3月10日 航空写真撮影 令和4年2月16日 県文化財課との現地協議

令和4年度 発掘調査・整理作業

調査範囲	山根遺跡 (B・C・F区) 800㎡
調査費用	66,640,000円 (うち消費税および地方消費税額6,058,181円)
契約期間	令和4年4月1日～令和5年3月30日
調査の経過	発掘調査 令和4年4月11日 芳賀農業振興事務所・県文化財課との現地協議 令和4年4月1日～4月14日 発掘諸準備 令和4年4月15日～6月22日 発掘作業・遺構測量・図化 令和4年5月18日 県文化財課との現地協議 令和4年7月5日 芳賀農業振興事務所、県文化財課との現地協議・引き渡し

整理作業（小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡）

令和4年4月1日～令和5年3月30日 整理作業

令和5年度 整理作業・報告書作成

調査費用 38,720,000円（うち消費税および地方消費税額 3,520,000円）

契約期間 令和5年4月3日～令和6年3月28日

調査の経過 整理作業・報告書作成（小泉分校裏遺跡・山根遺跡・本沼大塚遺跡）

令和5年4月3日～令和6年3月28日 整理作業・報告書作成・収納

令和6年3月28日 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡報告書刊行

第3節 調査の方法

【現地調査】

・小泉分校裏遺跡

調査区はA区～T区とした。H～M区は水路部分で、幅約2mの細長いトレンチ状の調査区である。

調査区の表土除去は重機により行った。

その後、遺構確認作業及び国家座標に基づくグリッド杭を建植した。グリッドは10m四方(第3図)とする。

遺構・遺物の調査については、以下を基本に行った。

- ① 遺構確認後、調査区の壁により土層観察が出来るものは壁を使用し、状況に応じて土層観察用のベルト（セクションベルト）を設定、これを残し、覆土を除去した。
- ② 覆土除去後、土層堆積状況を記録（セクション図作成）、併せてデジタルカメラを用い、写真撮影を行った。
- ③ セクションベルト除去後、出土遺物の位置・出土した高さを平板実測にて記録（遺物出土状況図作成）した。写真撮影後、遺物の取り上げを遺構毎に行った。
- ④ カマドについても土層堆積状況や遺存状況を平面図に記録し、写真撮影も行っている。
- ⑤ 遺構の完掘後、平面図を作成し、その後、写真を撮影した。
一部の平面図・遺物出土状況図の作成については、専門業者への委託による測量図化を行った。
作図については、1/20の縮尺を基本に行った。カマドについては1/10である。
- ⑥ 調査区毎に全体図を作成した。
- ⑦ 航空写真については、専門業者に委託した。
調査終了後は埋め戻し、調査前の状況に復旧している。

・本沼大塚遺跡

本沼大塚遺跡は塚の調査および周溝の有無の確認のため、1～8本のトレンチを設定した。

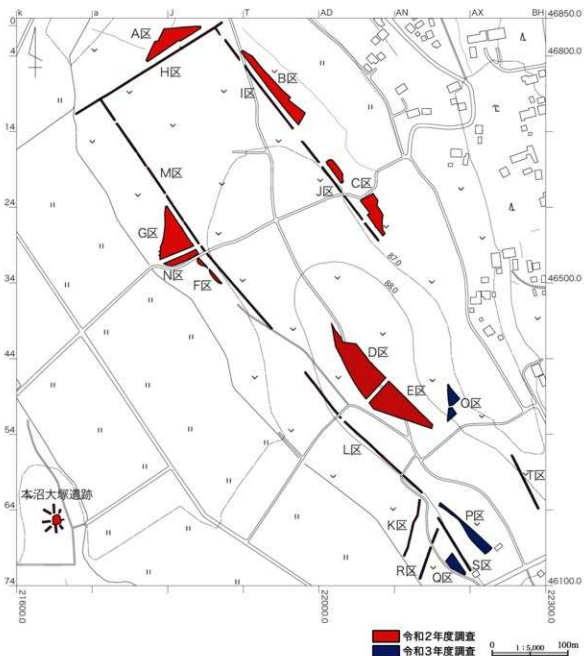
- ① 塚の現況図を作成した。
- ② 土層観察のためのトレンチを設定。
- ③ 表土を重機で除去、遺構確認を行った後、墳丘の掘り下げを行った。
- ④ セクション図作成・写真撮影後、墳丘を除去した。
- ⑤ 墳丘下、およびトレンチ内の精査を行い、確認された遺構の調査を行った。
- ⑥ 遺構の調査は小泉分校裏遺跡と同様である。

【整理作業・報告書作成作業】

整理作業は栃木県埋蔵文化財センターで行った。

- ① 現地作成の実測図は、原因からコンピュータートレースで図版化し、修正・補正・版組を行った。一部、外部委託を行っている。

- ②出土遺物は、洗浄・注記作業後に接合作業を行い、欠失部分についてはクレイテックスを充填し、復元及び補強、その後遺物の実測図作成を行った。一部の遺物については、写真実測を専門業者に委託し、図化した。図化した実測図は浄書（トレース）し、スキャニング・編集を行いデジタルデータ化して図版とした。
- ③上記の作業に併行して、遺物観察表等の作成を行うとともに、遺物の写真撮影を一部を除き業者に委託し、版組も行った。
- ④報告書刊行に必要な遺構・遺物の事実記載等の原稿執筆と図版作成を行い、遺構・遺物図版、写真図版、原稿等と併せ割付し、入稿・校正後、刊行となった。
- ⑤併せて、本報告書に係る遺物、遺構・遺物実測図・写真、空中写真等の成果品、各種台帳の整理を行い、収蔵庫・記録保管室に収納し、小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡発掘調査の全ての作業を完了した。



第3図 小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡調査区配置図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

【位置】

栃木県は関東平野の北部に位置し、東は茨城県、西は群馬県、南は埼玉県、北は福島県の各県に接する内陸県である。地理的には、阿武隈山地の南に連なる八溝山地からなる東部山地、関東平野の最奥部となる中央部平地、帝釈山地から足尾山地に連なる西部山地と大きく三分でき、中央部平地は南に開け、北は福島県中通へと続く地形的特徴から、古来より、関東地方と東北地方を結ぶ交通路とされてきた。

小泉分校裏・本沼大塚遺跡は栃木県益子町小泉・長堤・本沼地内に所在する。

益子町は、栃木県の南東部に位置する。北は市貝町、西は真岡市、東は茂木町、南は茨城県桜川市と接する。人口約2.1万人、県庁所在地である宇都宮市からは東南東方向約23kmの距離である。

【地形】

益子町は北から連なる八溝山地と関東平野の境にあり、町の西側を小貝川が南流し、東には八溝山地の南半にあたる鶏足山塊、南東には雨巻山。八溝山地は茨城県の筑波山に連なり、北から八溝山塊、鷲子山塊、鶏足山塊、筑波山塊に分類される。

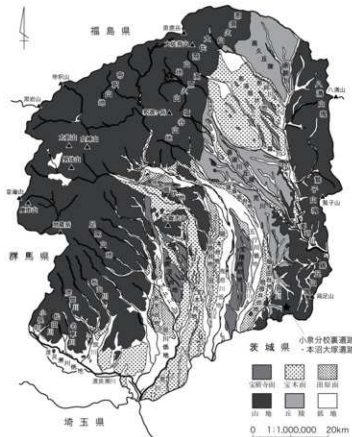
小泉分校裏遺跡は鷲子山塊、鶏足山塊の西側に広がる丘陵地帯の南西端に位置し、益子町の市街地より南へ約5km、小貝川の支流により開析された、北西から南東に伸びる台地上に立地している。

山根遺跡とは道路により分断されているが、同じ台地上にある。本沼大塚遺跡は谷を挟んだ低い台地上に所在する。

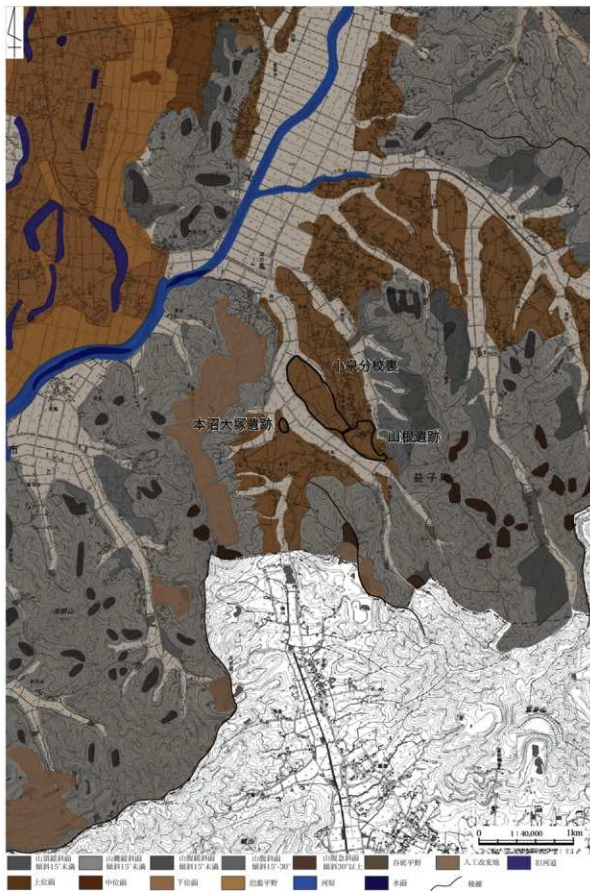
台地を開析する小支谷は幅200m前後であり、谷は水田としての利用が多い。台地上はたばこや野菜を中心とした畑地が広がっている。



第4図 栃木県位置図



第5図 栃木県地形区分図



第6圖 周辺地形区分図

山根遺跡の東には沢が存在する。

小泉分校裏遺跡の標高は31.0～31.9 m、西側の低地面の標高は15.0 m前後、比高差は16.0 m前後である。鹿沼軽石層は台地上（E区周辺）で漸移層より0.7～1 m、厚さは0.75～0.9 m程、台地縁辺（C区）では表土直下に確認されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡では旧石器・縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が確認されている。

ここで小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡・山根遺跡の周辺の遺跡を概観する。

【旧石器時代】

小泉分校裏遺跡では、石器が出土している。

本遺跡より北東約5.5 kmに所在する埴遺跡では、1981年の調査により遺物集中地点が確認され、尖頭器やナイフ形石器等が出土している。北へ約7 kmの星の宮A遺跡でも、1979年の調査で礫群を伴う遺物集中地点が確認されている。そのほか、東へ約4 kmの柿平遺跡や約4.5 kmに所在する山居台遺跡などでも尖頭器などが採集されている。

【縄文時代】

小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡では、早期、前期（黒浜）、中期（阿玉台・加曾利E）、後期（加曾利B～堀之内）の土器が出土し、遺構としては陥し穴などの土坑が確認され、隣接する山根遺跡では中期から晩期にかけての集落が確認されている。

大郷戸南遺跡(42)は、小泉分校裏遺跡や山根遺跡と同じ時期の集落である。1978年に調査が行われ、陥し穴が2基確認されている。

大郷戸南遺跡と谷を挟んだ台地上に山居台遺跡は立地する。1984年に益子町史編さん事業の一環として発掘調査が行われた。早期・中期・後期～晩期の土器が確認され、長期間継続した拠点的な集落であることが推定されている。後期堀之内1式期の住居跡1軒と晩期の遺物包含層が確認されている。

北東約8 km、小貝川の支流である大羽川の右岸に所在する御霊前遺跡は、1995～1998年と1999年の2回、調査が行われ、住居跡20軒と土坑536基と中期～晩期の遺物が多量に出土した。確認された住居跡は中期後半の10軒、後期後半1軒、晩期前半7軒で、ほかに中期の袋状土坑群が確認されている。

北東約13 kmには茂木町の天矢場遺跡が所在する。1989年に調査が行われ、住居跡が2軒確認されている。早期器系文期に、千葉・茨城・栃木・福島にかけて分布する天矢場式土器が提唱された標識遺跡である。また、この分布圏に特徴的な石畿を堀込型石畿として提唱されている。（中村2017）

ほかに茂木町域では中～後期の集落跡として松ノ木遺跡や埴平遺跡などの調査報告例がある。

【弥生時代】

本遺跡では後期の土器が出土する。周辺の弥生時代の遺跡は少数である。

中期では、1980年に本遺跡の北東約13.5 kmの大羽川に開析された丘陵斜面上に所在する新福寺遺跡が調査された。土坑が1基確認され、丘陵の斜面で、底面近くに深鉢形土器が磨製石斧とともに出土している。

後期では、長堤遺跡(26)が、1975年の県道新設工事による発掘調査により、住居跡3軒と土坑1基が確認されている。中期から後期にかけての年代幅がみられる遺跡である。立地も沖積低地との比高差がわずかな低位台地上に立地し、ほかの遺跡が小舌状台地に立地するのと様相を異にする。



第7図 周辺遺跡分布図

第2表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	主な参考文献・備考
1	小泉分校直遺跡	大字小泉	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
2	大字大塚遺跡	大字本沼	散布地	縄文前期(黒土)、中剛(阿玉台1b～1)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
3	山根遺跡	大字小泉	散布地	縄文中期(阿玉台IV、加賀利E1～E5)、後剛(巻石寺一安行2)、晩新前期	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
4	小泉城跡	大字小泉	城跡	中世	『古子町遺跡地区』、『芳賀の文化財 第19集 城跡・陣屋跡編』
5	堀内遺跡	大字東田井	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
6	堀内遺跡	大字生田井	散布地	古墳(後期)、奈良・平安(8～9C)	『古子町遺跡地区』
7	木尻塚跡	大字前沢	塚跡	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
8	前山山頂遺跡	大字前沢・大字益子	散布地	縄文(早期末)、奈良・平安(8～9C)	『古子町遺跡地区』
9	天王塚遺跡	大字前沢	散布地	古墳(中・後期)、奈良・平安	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
10	坂野古墳群	大字前沢	古墳群	古墳後期(9C後半～7C末)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
11	坂野狐塚古墳群	大字前沢	古墳群	古墳	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編、『古子町狐塚古墳第一次調査報告』、『古子町史』第1号、『古子町狐塚古墳第二次調査報告』、『古子町史』第2号
12	坂野遺跡	大字前沢	散布地	縄文、中世	『古子町遺跡地区』
13	前沢上ノ台遺跡	大字前沢・大字上山	集落跡		『古子町遺跡地区』
14	山本稲荷神ノ古墳	大字山本	古墳	古墳(7C)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
15	八坂神社北遺跡	大字山本	散布地	縄文、古墳、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
16	三の宮神社遺跡	大字山本	散布地	縄文(加賀利E)、古墳(後期)、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
17	久保前遺跡	大字長堤	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
18	山野中学校庭内遺跡	大字長堤	散布地	古墳後期(7C後半)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
19	山野城跡	大字長堤	城跡	中世	『古子町遺跡地区』、『N 高田市・芳賀郡版』、『栃木県の中世城跡跡』、『山野城跡と山野陣屋について』、『芳賀の文化財 第19集 城跡・陣屋跡編』
20	新山山北遺跡	大字長堤	散布地	古墳、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
21	新山山古墳群	大字長堤	古墳群	古墳	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
22	新山山遺跡	大字長堤	散布地	縄文早期(稲荷台、稲荷跡)、弥生後期	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
23	大正寺人塚跡	大字長堤	塚跡	平安(9C)	『古子町遺跡地区』
24	新山山遺跡	大字長堤	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
25	新山山南遺跡	大字長堤	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
26	長堤遺跡	大字長堤	散布地	縄文中期(厚島1～II)、弥生後期、古墳前期、古墳後期(7C)、奈良・平安(8～9C)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編、『長堤遺跡跡別調査報告書』
27	西山古墳	大字長堤	古墳	古墳	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
28	西山古墳	大字長堤	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
29	西山南古墳群	大字長堤	古墳群	古墳	『古子町遺跡地区』
30	西山塚跡	大字長堤	塚跡	奈良・平安	『古子町遺跡地区』、『栃木県埋蔵文化財調査報告書 第407集 谷津人塚跡・カスガ人塚跡・西山塚跡』
31	長堤八幡古墳群	大字長堤	古墳群	古墳	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
32	長堤八幡遺跡	大字長堤	散布地	古墳、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
33	長堤大石堂古墳	大字長堤	古墳(円墳)	古墳後期(7C前半)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
34	新原教遺跡	大字長堤	集落跡		『古子町遺跡地区』
35	山野陣屋跡	大字長堤	陣屋跡	近世	『古子町遺跡地区』、『山野城跡と山野陣屋について』、『芳賀の文化財 第19集 城跡・陣屋跡編』
36	八幡市南遺跡	大字小泉	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
37	長峰遺跡	大字小泉	散布地	縄文、弥生、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
38	長峰南遺跡	大字小泉	散布地	縄文、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
39	邊峰遺跡	大字小泉	散布地	縄文	『古子町遺跡地区』
40	本田山神遺跡	大字小泉	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
41	大野ノ北遺跡	大字大野ノ	散布地	古墳、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
42	大野ノ南遺跡	大字大野ノ	集落跡	縄文中期(阿玉台II、加賀利E1日～IV)、後剛(巻石1)、古墳(7C)、奈良・平安(8・9C)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編、『新宮陣屋跡内発掘調査報告書』
43	大日隠遺跡	大字大野ノ	墓域	中世	『古子町遺跡地区』
44	大野ノ寺前遺跡	大字大野ノ	散布地	奈良・平安	『古子町遺跡地区』
45	本沼遺跡	大字本沼	集落跡	平安(9C)	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編、『新宮陣屋跡内発掘調査報告書』
46	北山塚跡	大字本沼	塚跡	奈良(8C)	『古子町遺跡地区』
47	北山遺跡	大字本沼	散布地	縄文、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
48	小田毛遺跡	大字本沼	散布地	縄文	『古子町遺跡地区』
49A	本沼東遺跡	大字本沼	散布地	縄文、奈良・平安	『古子町遺跡地区』 Aと同じ遺跡の可能性
49B	本沼南遺跡	大字本沼	散布地	縄文、奈良・平安	『古子町遺跡地区』 Bと同じ遺跡の可能性
50	本沼古墳	大字本沼	古墳(円墳)	古墳	『古子町遺跡地区』、『古子町史』第1巻考古資料編
51	鹿沼門人塚跡	大字本沼	塚跡	平安(9C)	『古子町遺跡地区』、『栃木県埋蔵文化財調査報告書 第407集 谷津人塚跡・カスガ人塚跡・西山塚跡』
52	谷津人塚跡	大字本沼	塚跡	奈良・平安(8C前半～9C 第1四半期)	『古子町遺跡地区』、『栃木県埋蔵文化財調査報告書 第407集 谷津人塚跡・カスガ人塚跡・西山塚跡』
53	笠原遺跡	大字本沼	散布地	縄文、奈良・平安	『古子町遺跡地区』
54	カスガ人塚跡	大字本沼	塚跡	平安(9C 第4四半期～9C 第1四半期)	『古子町遺跡地区』、『栃木県埋蔵文化財調査報告書 第407集 谷津人塚跡・カスガ人塚跡・西山塚跡』

55	古ヶ原竪跡	大字本沼	竪跡	平安(9C前半)	「益子町遺跡地区」・「根本町埋蔵文化財調査報告 第407集 古井人竪跡・カスガ人竪跡・西山京跡」
56	土崎竪跡	大字本沼	竪跡	奈良・平安(8C第4四半期～9C第1四半期)	「益子町遺跡地区」
57	本沼2号竪跡	大字本沼	竪跡	奈良(8C)	「益子町遺跡地区」
58	小人竪跡	大字本沼	竪跡	奈良・平安(8～9C)	「益子町遺跡地区」
59	大塚氏館跡	大字本沼	城跡跡	中～近世	「益子町遺跡地区」
60	小田毛三の宮神社南遺跡	大字本沼	散布地		「益子町遺跡地区」

新田山遺跡(22)でも後期の遺物が出土する。二軒屋式が大部分を占めるが、十王台式も含まれている。

北東へ約7kmに所在する車堂遺跡は、北向きの小舌状台地上に立地する。1983年に発掘調査が行われ、住居跡5軒、溝2条、土坑1基が確認されている。十王台式の壺が2点出土し、うち1つは口縁部が片口になっている。二軒屋式の土器片や紡錘車も出土する。北東約6kmに所在する聖ヶ丘遺跡では口縁部が外反する壺形土器が出土し、長岡式に比定される。茨城県との関連が強い。

また、小貝川を挟んで西側の根本山丘陵上の真岡市山崎遺跡や柳久保遺跡でも、この時期の集落が確認されている。

【古墳時代】

前期の遺物は台付裏の口縁部が1点出土している。中～後期の遺構・遺物はM区周辺で確認されている。

長堤遺跡(26)では遺物が確認されているものの、周辺からはこの時期の遺構や遺物はほとんど確認されていない。北東へ約10kmに所在する向北原遺跡では、1973年の調査により竪穴建物跡15軒と本県では調査事例の少ない方形周溝墓8基が確認された。北へ約7.8kmに所在する屋の宮浅間塚古墳は、小貝川右岸の丘陵上に立地する前方後方墳で、全長約52m、前方部と後方部の比高が1mと低い。前方部の平面プランは正方形である。聖ヶ丘遺跡でも前期の土器が確認されている。

中期以降の周辺の主な集落遺跡としては、天王原遺跡(9)、長堤遺跡(26)、大郷戸南遺跡(42)が所在し、天王原遺跡では後期前半の土器が採集されている。大郷戸南遺跡では竪穴建物跡1棟が確認されている。

古墳後期の荒町古墳群(10)は標高90m程の丘陵上に分布する群集墳である。30基の円墳から構成されている。横穴式石室の石材が散在し、円筒埴輪の破片や玉類・耳輪などが採集されている。谷を隔てた東側には荒町孤塚古墳群(11)がある。6基の古墳で構成され、そのうちの孤塚古墳は前方後円墳である。1976・1977年に宇都宮大学考古学研究会による古墳の測量と周溝調査が行われている。その東350mには円墳である山本稲荷神社古墳が所在する。

長堤八幡古墳群(31)では古墳20基が確認され、うち2基は前方後円墳である。1号墳からは馬具や唐須・菅玉が出土している。そのほか新田山古墳群(21)と同じ丘陵尾根筋には長堤大日堂古墳(33)があり、更にその南西約800mには、本沼古墳(50)などが所在する。

本遺跡より北東7.8kmには6世紀後半～7世紀にかけての小宅古墳群が所在し、前方後円墳6基、円墳28基が残存する。

【奈良・平安時代】

本遺跡では、この時期を中心とした遺構・遺物が確認されている。

益子町域は芳賀郡に属する。堂法田遺跡が芳賀郡衙とされる。真岡市京泉寺堂法田に所在し、本遺跡から約7km北西にある。「塔法田堂遺跡」と呼ばれてきたが、近くに塔法田という地名はなく、字名は堂法田であったため、「堂法田遺跡」となった。昭和42年に調査が行われ、38基の建物跡が確認された。北には大内廃寺が所在する。

周辺の主な集落遺跡としては、長堤遺跡(26)や大郷戸南遺跡(42)などがあげられる。長堤遺跡(26)では

古墳時代から奈良・平安時代にかけての50棟以上の竪穴建物跡や30基以上の土坑が、大郷戸南遺跡では竪穴建物跡2棟と土坑18基が確認され、瑞花双鳥鏡が出土している。

本遺跡より北へ8kmに所在する星の宮ケカチ遺跡では、竪穴建物跡24軒、掘立柱建物跡8棟、井戸跡3基などが確認されている。土師器・須恵器のほか、石帯や佐波理の匙なども出土している。北へ14kmに所在する東台遺跡では竪穴建物跡7軒のほか、本遺跡でも確認されている円形有段遺構1基が確認されている。

益子町周辺には窯跡が多く見つっている。益子町から真岡市南高岡に及ぶ窯跡群を益子窯跡群とされる。本遺跡と谷を挟んだ台地上には西山・本沼・小泉支群の西山窯(30)・北山窯(46)・毘沙門入窯(51)・谷津入窯跡(52)・カスガ入窯跡(54)・古ヶ原窯跡(55)が所在する。東約5kmには8世紀前半の脇屋窯跡、9世紀中葉の倉見沢窯跡や滝ノ入窯跡のある栗生支群や原東窯跡などの前沢・山本支群が所在する。

このうち、本沼窯跡群の確認調査が平成29年度、谷津入窯跡群・カスガ入窯跡群が令和元年度、西山窯跡が令和2年度に行われた。谷津入窯跡では窯体が露出していたため、形状や断面の確認、カスガ入窯跡群では窯体・灰原の確認、西山窯跡では灰原の確認調査が行われた。

茨城県の桜川市(旧岩瀬町)にある堀ノ内窯跡群は本遺跡より約4km南と近い。本遺跡でもこの窯跡群で作られた須恵器が出土している。

【中世～近世】

今回の調査においては、小泉館跡の土塁及び堀の一部が確認された。山根遺跡の範囲内で多数の中世の遺構が確認されているが、次年度の山根遺跡の報告で示す予定である。

二次資料を根拠とするが、館主については田野城主羽石内蔵介配下の小泉小三郎の館であったといい、調査時には御藏台(おくらんだい)と地元で通称される土塁が残っていた。

本遺跡周辺においては、中世の遺跡として、荒町遺跡(12)、田野城跡(19)、大日陰遺跡(43)、大塚氏館跡(59)が確認されている。田野城は近世軍記物によれば、永禄三(1560)年、笠間一族の羽石内蔵介時政築城によるもので、天正十三(1585)年に久下田城主水谷蟠龍斎正村に攻められて落城したという。城の本丸地には廃城後の延宝四(1676)年、千八十三石取旗本松平定昌の出張陣屋が置かれ、長百姓が陣屋詰を命じられて勤めた。この田野陣屋跡(35)には、現在も土塁と堀の一部が残る。大日陰遺跡では1961年の土砂崩れの際に五輪塔が出土した。大塚氏館は付近の開発領主もしくは上層農民の屋敷と考えられる。近年まで土塁と堀の一部が見られたというが、現在、遺構はほぼ消滅している。

※遺跡の位置する益子町内の埋蔵文化財包蔵地の分布状況については、益子町教育委員会刊行『益子町遺跡地図』(2023年)にて詳細な調査が行われているので、詳しくはそちらを参照されたい。

また、益子町城の歴史的環境・考古学的成果については益子町史で示されている。

【参考文献】

- 阿久津 純 1976 『栃木県の地形・地質』
 進藤敬雄ほか 2000 『御霊前遺跡Ⅰ』 栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団
 後藤信祐 2001 『御霊前遺跡Ⅱ』 栃木県教育委員会・財団法人とちぎ生涯学習文化財団
 大工原豊・中村信博ほか 2017 『石鏡を中心とする押圧剝離系石器群の石材別広域編年の整備』 『化学研究費補助金 基盤研究(C) 考古学 研究課題番号: 25370894』
 津野 仁 2022 『谷津入窯跡群・カスガ入窯跡群・西山窯跡』 栃木県教育委員会・公益財団法人とちぎ未来づくり財団
 益子町史編さん委員会 1987 『益子町史』 1 考古資料編
 益子町教育委員会 2023 『益子町遺跡地図』

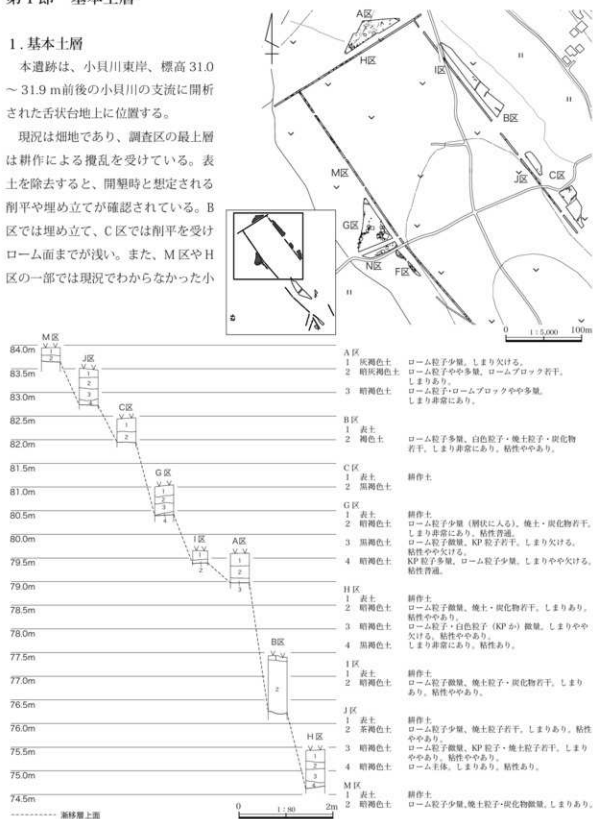
第3章 小泉分校裏遺跡

第1節 基本土層

1. 基本土層

本遺跡は、小貝川東岸、標高 31.0～31.9 m 前後の小貝川の支流に開析された舌状台地上に位置する。

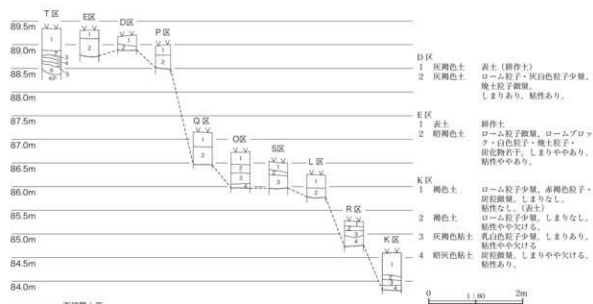
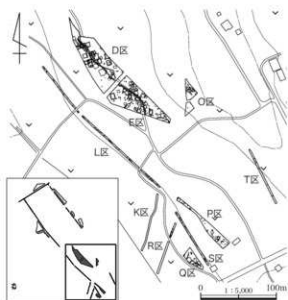
現況は畑地であり、調査区の最上層は耕作による攪乱を受けている。表土を除去すると、開墾時と想定される削平や埋め立てが確認されている。B区では埋め立て、C区では削平を受けローム面までが浅い。また、M区やH区の一部では現況でわからなかった小



第8図 北部・基本土層図 (A～C・G・H～J・M・N区)

支谷が入ることが確認された。A・D・E・O・P区は台地の平坦面上、F・G・H・L・M・N・Q・R・S・T区は台地の南西側の平坦面～斜面上、B・C・I・J・T区は北東側の平坦面～斜面上に立地する。

本遺跡では鹿沼軽石層までE区では0.7～1m、T区では1mである。C区では表土下層に鹿沼軽石層が確認されている。E区での鹿沼軽石層の厚さは0.75～0.9mである（各区の漸移層までの深さは第8・9図を参照）。



----- 漸移層上面

- L区
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子や中少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりや中欠ける、粘性欠ける。

- O区
- 1 褐色土 2～3mmのローム粒子微量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 2 褐色土 2～3mmのローム多量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 3 褐色土 2～3mmのローム少量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 4 明褐色土 しまり欠ける、粘性欠ける。

- P区
- 1 灰褐色土 しまり欠ける、粘性欠ける。(表土)
 - 2 暗灰褐色土 黒褐色土粒子多量、ローム粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。

- Q区
- 1 暗褐色土 ローム粒子や中少量、しまりあり、粘性欠ける。(耕作土)
 - 2 褐色土 ローム粒子多量、IP粒子微量、しまりや中欠ける、粘性や中あり。(耕作土)

- D区
- 1 灰褐色土 表土(耕作土)
 - 2 灰褐色土 ローム粒子・灰白色粒子少量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性あり。

- E区
- 1 表土 耕作土
 - 2 暗褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりや中あり、粘性ややあり。

- K区
- 1 褐色土 ローム粒子少量、赤褐色粒子・炭粒微量、しまりなし、粘性なし。(表土)
 - 2 褐色土 ローム粒子少量、しまりなし、粘性やや欠ける。
 - 3 灰褐色粘土 乳白色粒子少量、しまりあり、粘性やや欠ける。
 - 4 暗灰色粘土 炭粒微量、しまりや中欠ける、粘性あり。

- R区
- 1 灰褐色土 しまりなし、粘性なし。(耕作土)
 - 2 灰褐色土 しまりあり、粘性なし。
 - 3 褐色土 しまりあり、粘性なし。
 - 4 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。

- S区
- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、しまりや中欠ける、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子若干、しまり欠ける、粘性ややあり。

- T区
- 1 褐色土 φ1mmのローム粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(耕作土)
 - 2 暗褐色土 φ2～3mmのローム粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 3 褐色土 φ1～2mmのロームブロック少量、2～3mmのローム粒子微量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 4 暗褐色土 φ2～3mmのローム粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 5 褐色土 明褐色土と褐色土の混合土壌、しまり欠ける、粘性欠ける。
 - 6 明褐色土 IP粒子若干、しまり欠ける、粘性欠ける。

第9図 南部・基本土層図(D・E・K・L・O～T区)

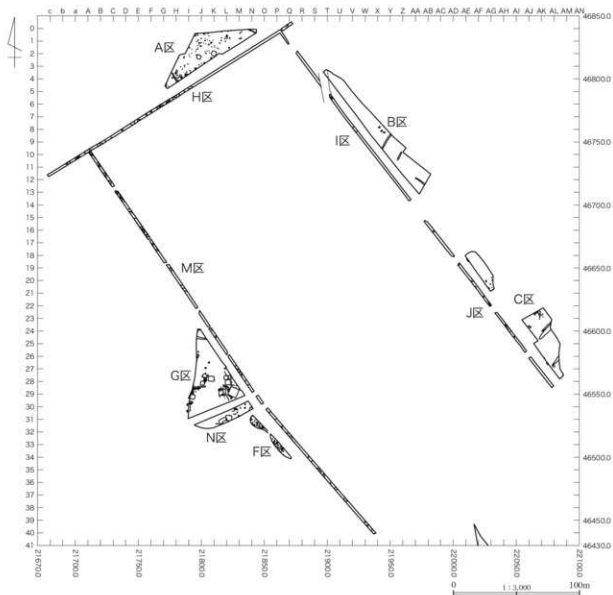
第2節 調査の概要

小泉分校裏遺跡は、圃場整備により現状変更を受ける部分について、A～T区に分けて調査を行った。一部は水路部分の調査のため、H～M、R～T区のように幅約2mの長いトレンチ状であった。

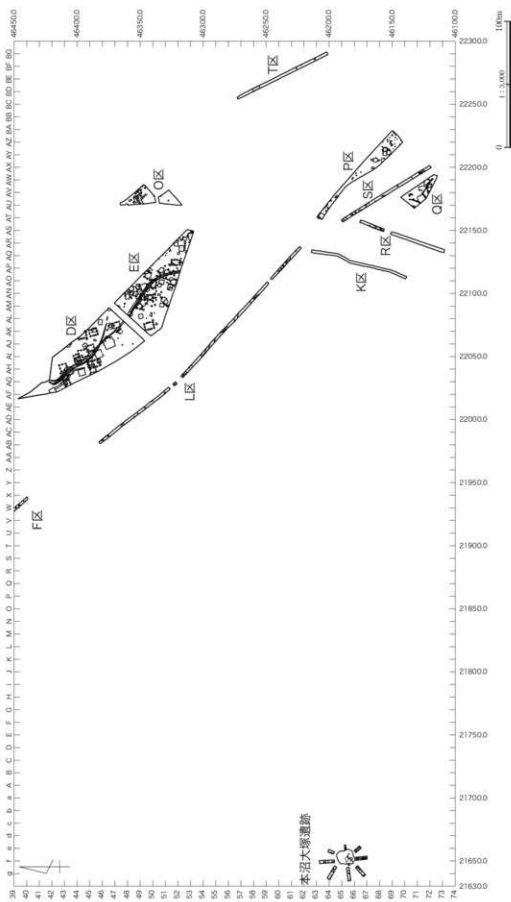
遺構は、古墳時代中期から中～近世にかけての竪穴建物跡14軒、掘立柱建物跡22棟、柵列3列、井戸1基、円形有段遺構3基、方形竪穴5基、地下式坑7基、溝58条、土坑281基、ビット332基、焼土遺構2基が確認されている。本沼大塚遺跡は塚1基、竪穴建物跡1軒、溝2条、土坑6基、ビット7基である。遺構配置図は第10・11図と南北2つに分けている（CDに全体図収録）。

遺物は旧石器時代から近世までの遺物が遺物収納箱78箱分出土しているが、主体となるのは古代の住居跡から出土した土師器・須恵器である。旧石器時代の石器や縄文時代早期から晩期・弥生時代後期・古墳時代前期の土器も出土している。また、土器のほか、陶磁器や鉄製品、銭貨、鉄滓なども確認されている。

以下、旧石器～古墳時代前期の遺物と、古墳時代中期～近世までは、区毎に分けて報告する。



第10図 小泉分校裏・本沼大塚遺跡配置図(1) 北部



第11図 小泉分校裏・本沼大塚遺跡配置図(2) 南部

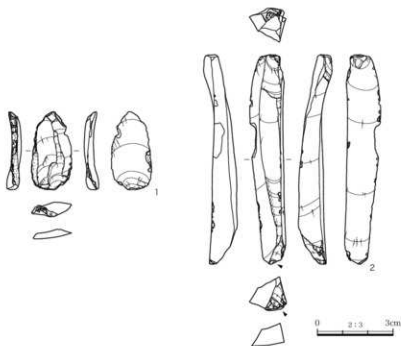
第3節 旧石器～古墳時代前期

本遺跡では、他の時代に比べて少量ではあるが、旧石器から古墳時代前期の土器や石器が確認されている。ここにまとめて掲載する。

1. 旧石器時代

石器 (第12図、第3表、図版一四四)

1は、頁岩製のナイフ形石器で、基部側に打面のある縦長剥片を用いる。背面左側縁に稜面がみられ、プランディングは先端付近に集中する。基部の打面はそのまま残り、断面図からも分かるように剥片自体にゆがみが生じている。2は、斑頁頁岩製を用いた彫刻刀形石器である。上面に打面のある大型の縦長剥片を素材とし、末端に打面を設けて彫刻刀面を作出する。なお、本石器自体が削片であろう。



第12図 旧石器・石器実測図

第3表 旧石器・石器観察表

検出No.	No.	種別	器種	遺存状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	注記名	特徴
12	1	削片石器	ナイフ形石器	完存	頁岩	3.1	1.6	0.6	2.1	G区	素材に小型な縦長削片を用いる。基部に打面をそのまま残し、左側先端付近にプランディングを集中する。
12	2	削片石器	彫刻刀形石器	完存 後世の痕あり	斑頁頁岩	8.3	1.4	1.3	11.2	小泉K区	素材は断面が台形形の縦身の石片。下部に打面を設け、彫刻刀面を作出する。また、背面左側縁には微細な使用痕が観察される。

2. 縄文時代

土器 (第14図、図版一四四・一四五)

A区から1点、B区は2点、C区は1点、D区は3点、E区は10点、G区は3点、H区は1点、L区は4点、M区は1点、P区・Q区から各1点、R区は6点の合計34点が出土した。

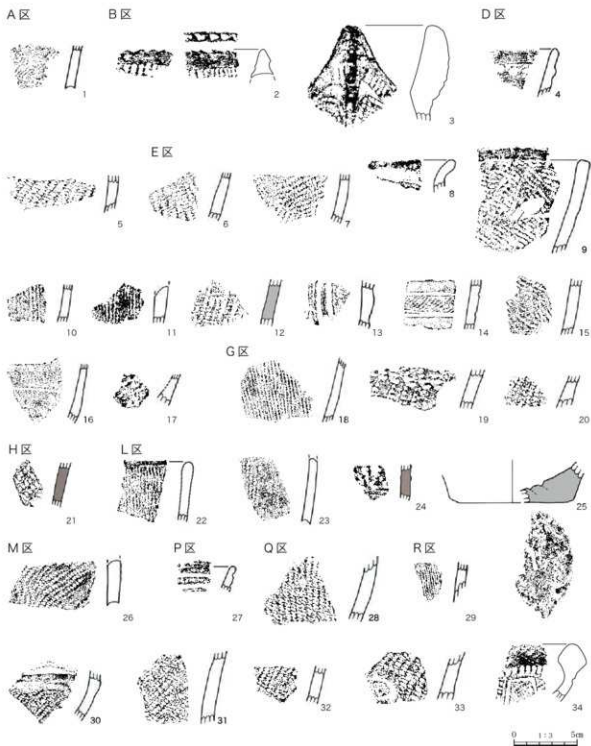
出土した縄文土器は早期瀬糸文系から後期加曾利B式まで認められる。

各調査区から数点の出土で、やや広く面的に調査したE区がやや多い。

10は縄文R L、11・18は縄文R Lが施されるもので、早期の井草式。22は縄文R Lが施されているもので、夏島式か。29は撫糸文R、23は縄文R Lが施されるもので、いずれも撫糸文系と推定される。

12・21・25は前期黑浜式である。胎土に繊維が含まれる。21はL R+附加条が横方向に施される。25は擦痕がみられる。

19は浮島式。貝殻文が施され、内面が荒れている。



第14図 縄文土器実測図

24 は興津式である。爪形文と条線が施される。

1 は前期末の可能性ある。LR と結節文が施文される。

8 は緩やかな波状となる口縁の一部で、中期初頭の可能性がある。

2・3・34 は阿玉台Ⅲ～Ⅳ式である。2 は口縁端部に刻みがみられる。3 は突起の部分である。隆帯上に刻み、隆帯器に押し引き文が施される。34 はLR 施文後、沈線と爪形文を施す。

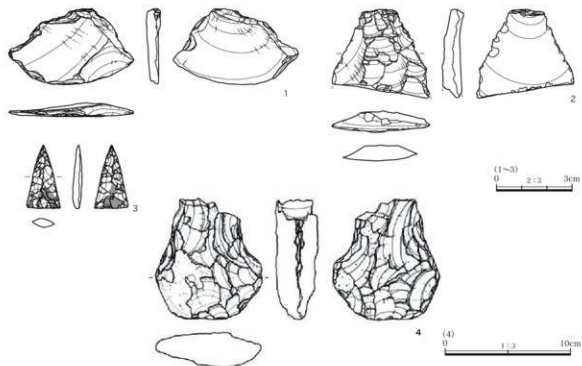
5・20 は中期の加曾利E式で、5 はRL が縦方向に施される。内面が若干荒れている。20 はRL が縦～斜め方向に施される。30 はRL を縦方向に施したのち、沈線及び低い隆帯による文様が描かれる。加曾利EⅢ式か。26 は加曾利EⅣ式と考えられる。LR 及び微隆線がみられる。28・31 は加曾利E式である。28 はRL を縦方向に施文する。31 もRL を縦方向に施文する。

27・33 は堀之内1式か。27 はLR を斜め方向に施した後、2本の沈線が施される。33 はLR を横方向に施文後、沈線を施す。4・14 は堀之内2式か。4 は細線上に押捺が加えられる。14 は2本の沈線間に縄文LR を充填している。6・7・9・13・15 は堀之内式か。6 はRL が横方向に施される。7 はLR が斜め方向に施されている。9 は無節R を施文する。15 も無節R を施文する。

16 はヘラ状工具による沈線が施されているもので、後期加曾利B式もしくは弥生の可能性がある。17 は粗いLR が施されるもので、加曾利B式の可能性がある。

1・5・18・23 は胎土に砂粒を多量含む。2・26・32・34 は金雲母を多く含む。

石器 (第14図、第5表、図版一四五)



第13図 縄文・石器実測図

- 1 は、上端を打面とする不安定削片を用いる。打面部周辺を整形し、鋭利な下縁に剥離を加えて刃部とする。
- 2 は、上端に打面を残す縦長削片を素材とする。下半を欠損し、両側縁には微細な使用痕がみられる。
- 3 は、チャート製の石鏃で、基部形状は平基である。基部・側縁共に直線的で厚みも一定し、極めて優美な作りである。背・腹面には、研磨が確認できることから、早期後半の無文と削痕が特徴的な矢狩場長に伴出する楕円型石鏃である。
- 4 は、安山岩製の分銅形石斧で、上半を欠損する。背・腹面に礫面がみられることから、円礫を使用していることが伺える。側面には、敲打による剥離が連続する。

第4表 縄文・石器観察表

検出No.	No.	種別	原料	遺存状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	注記等	特 徴
13	1	削片石器	赤団	完存	ホルンフェルス	3.0	5.0	0.5	7.4	E区 SE-106 一拵	素材は横長の薄い削片。左右の側縁を加工して山部状とし、両縁を互す刃部には細かい剥離が施され、研磨に近い使用痕も残る。
13	2	削片石器	赤団か	胴体下部欠損 後部の確あり	珩質頁岩	0.5	0.9	0.9	9.0	C区 I30-31	縦長の大型削片。両側縁に見られる細かな剥離は使用に伴うものである。残存部に意図的な剥離はないが、削痕とすべきである。
13	3	削片石器	石鏃	完存	チャート	2.5	1.3	0.4	1.0	P区 SI-36	固体形状は、側縁・基部共に直線的な二等辺三角形。両縁から胴体中央部まで連続的に剥離が入り、断面はレンガ状となる。胴体上半の背・腹面の稜線を中心に研磨が施される。早期の矢先型式土器に伴う楕円型石鏃である。
13	4	打製石器	分銅形石斧	一部欠損	安山岩	9.7	8.3	3.1	267.08	R区 北	表裏面に自然面あり。扁平な楕円形の両側縁を素材。表面には焼熱あり、スス付着。一部の側縁は焼熱によるハンカカ。刃部は丸みを帯び、両利きはない。くびれ部には敲打によるつぶしあり。

3. 弥生時代

土器 (第15・16図、図版一四五・一四六)

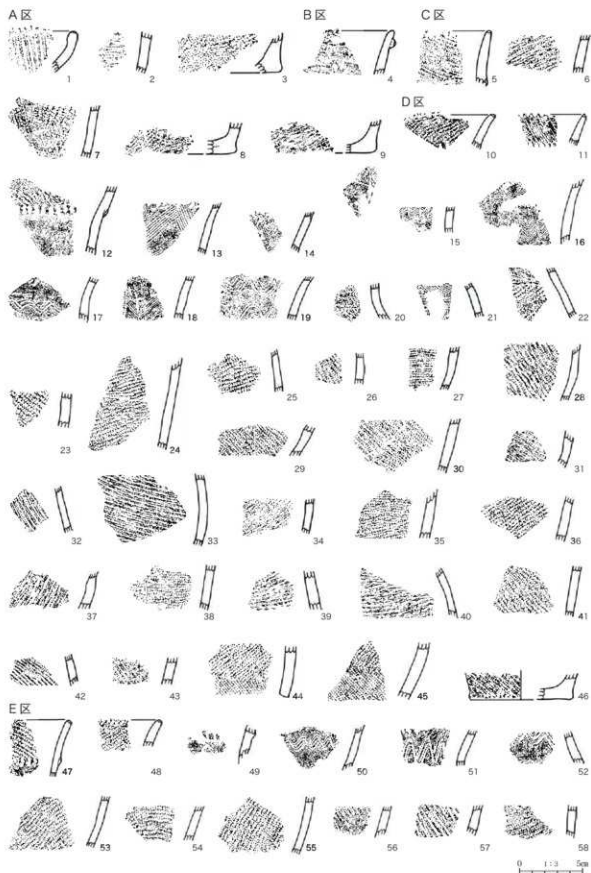
A区から3点、B区は1点、C区は5点、D区は37点、E区は16点、F区は2点、G区は20点、H区は1点、L区は5点、M区は11点、R区は1点、その他2点の合計104点が出土した。台地の平坦面から斜面に多く確認されている。特にD・E区での出土が顕著である。

1 は壺の口縁部で内湾する。棒状工具による縦方向の沈線、口唇部にキザミが施される。

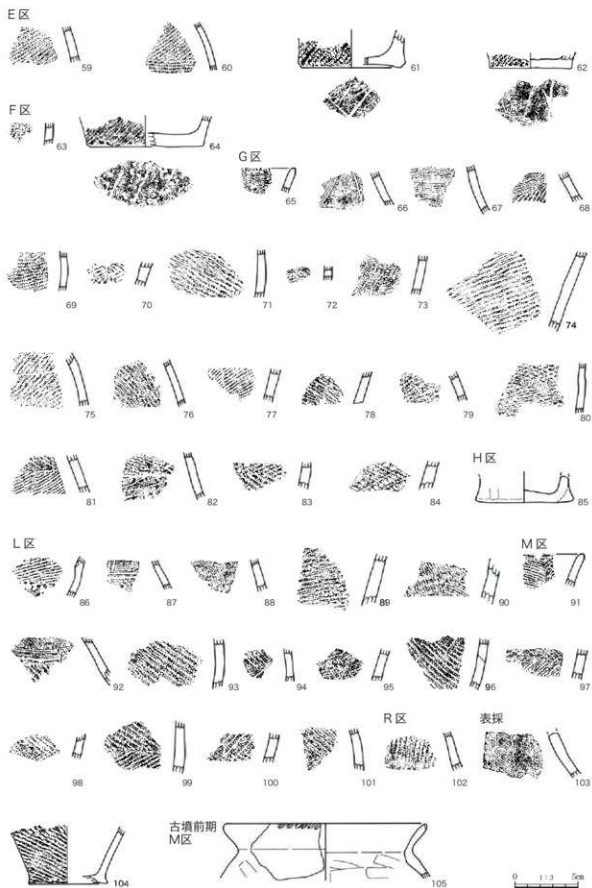
4 は無文の口縁部で、段部に棒状工具による押捺、縄文施文後、横位の沈線が施される。

5・10・11・47は口唇部と口縁部下端に原体が押捺されている。12・14は口縁部下端に原体が押捺されている。51・86は口縁部下端に原体押捺か。48は口唇部に原体押捺。87はR LにLを付加した縄文を施文した後、櫛歯状工具による横線文、その後縦方向に施文する。91は櫛歯状工具による連弧文が施文される。13は9本歯の櫛歯状工具による山形文が施文されている。16は9本歯の櫛歯状工具による波状文が2列施文されている。14・15・50・51・52・49・65・88は櫛歯状工具による波状文が施文されている。17は3本歯の櫛歯状工具による波状文が施文されている。19は5本単位の波状文が2列以上施されている。21・92は櫛歯状工具による山形文と直線文。18・66は櫛歯状工具による山形文が施文されている。67は4本歯の櫛歯状工具による波状文か山形文と横線文が施文される。

附加条1種は2・3・5・6・7・9・11・20・27～29・31～38・40～44・46・56・57・58・63・64・68・70～77・81・83・86～89・92～94・96・97・101・104である。49・100は附加条1種か。



第15図 弥生・土器実測図(1)



第16图 弥生(2)・古墳前期土器実測図

3・30・31・32・33・46・57・67・80・94・104 は R L に L を附加している。49・71・75・93・104 は R L に R を附加している。3・59・63・は L R に L を附加している。5・42・43・92 は軸縄（不明）に L が附加されている。68・77・78・79・86 は軸縄（不明）に R が附加されている。41・56 は R L に L を附加していると推測される。

44・81・98 は L R に R と R L に L を附加した原体を羽状に施文する。45 は L R の原体を羽状に施文する。70・76 は L R に R を附加した原体を羽状に施文する。97 は L R に R と R L に L を附加したと想定される原体を羽状に施文する。99 は軸縄（不明）に R が附加されている。原体を羽状に施文する。101 は軸縄（不明）に R と L を羽状に施文する。

附加条 2 種は 8・80・82・84・95・100 で、80・82 は原体不明だが、羽状に施文されている。84 は L R に L と R L に R が格子状に施文される。95 は L R に R を附加した原体と R の原体を網目状に施文する。

その他、12 は R を横方向に施文している。69・102 は L R か 0 段多条が施文される。

90 は 0 段多条か R L に L を附加していると考えられる。

8・10・22・23・25・54・61・62 は L R、26・60 は R L が施文されている。25 は外面にススが付着する。

85 の底部は縦方向のヘラナデが施される。底部は無文である。

103 はヘラ状工具による縦方向の直線文の中を格子状に施文している。

2・80・92 は器面がやや荒れている。

12・19・30・36・88 は砂粒が胎土に多量に含まれる。

8・6・62・64・104 は底部に木葉痕が残る。

出土した土器はほとんどが後期の二軒屋式がほとんどであり、十王台式も少量（8・80・82・84・95・100）混入している。

4. 古墳時代前期

土器（第16図、図版一四六）

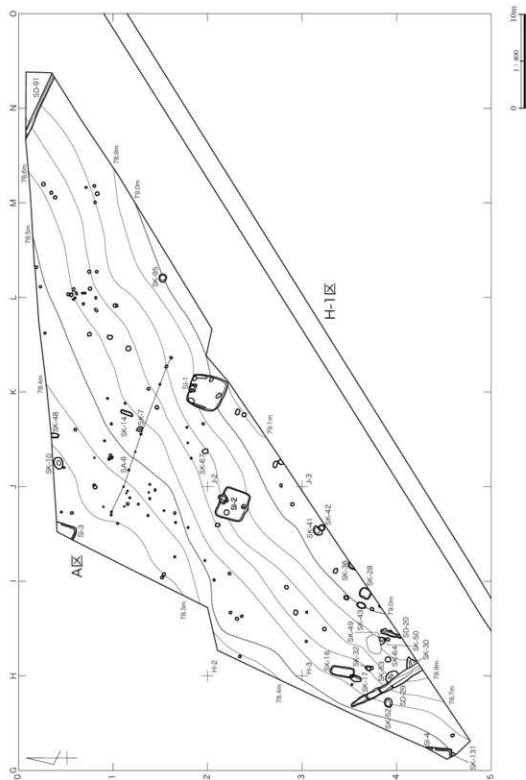
M 区で 1 点出土している。

105 の口唇部にはハケ目状工具によるキザミが、胴部も同じ工具によるハケ目が施されている。頸部付近は炭化物が付着している。付近から同時期の遺構は見つかっていない。

他の調査区でも当該期の遺物は確認されていない。

第4節 A区

A区は小泉分校裏遺跡の北の端、台地上から緩やかに北西に下がる斜面に位置する。H区とは約8m離れている。北側の水田との比高差は約8mである。竪穴建物跡4軒、櫓列1列、溝3条、土坑21基、ピット



第17図 A区全体図(ピットは別図あり)

94 基が確認されている。カマドの確認された住居跡は2軒で、いずれも北カマドである。

1 竪穴建物跡

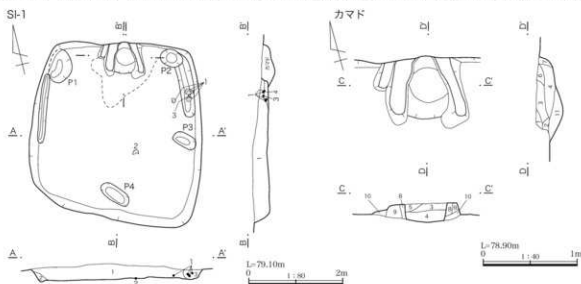
4軒の竪穴建物跡の主軸方向はほぼ同じである。調査区の中央に散在している。

第5表 A区竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	炉	カマド	竪穴	炊爨	凹状切溝	出土遺物	重複関係
SI-1	J・K-1・2	N-15°-E	方形	3.60	3.50	0.30	4	無	有	無	有	無	有	
SI-2	I-2	N-20°-E	方形	3.30	3.00	0.40	2	無	有	無	無	無	有	
SI-3	I-0	N-20°-E	方形か	1.30	1.20	0.50	無	無	無	無	有	無	有	
SI-4	G-4	N-0°	方形か	1.10	1.20	0.60	無	無	無	無	有	無	有	SK-131より新

A区 SI-1 (第18-19図、第5-6表、図版二・一一二)

位置 調査区中央南部にあたる J・1・2、K・1・2 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形で、東西 3.6 m、南北 3.5 m、面積 12.6 m² である。壁は遺存状況の良い部分が高さ 30 cm ほどで、床面から垂直に立ち上がる。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 4層に分層した。このうち1層とした暗灰褐色土が竪穴全体を覆い、2・3層は壁際のみ堆積する。4層はカマド由来の土とみられる。**床面** 貼床などは認められず、地山であるローム層を床面としている。なおカマド前面には踏み締まりとみられる硬化面が認められた。西壁と東壁北側には幅 10～30 cm、深さ 5 cm ほどの壁溝が巡る。**柱穴等** 4基確認した。P1は北西隅に位置しており、長軸 70 cm、短軸 40 cm、深さ 18 cm である。P2は北東隅に位置しており、長軸 50 cm、短軸 35 cm、深さは 10 cm 未満である。P3は東壁中央に接しており、長軸 50 cm、短軸 35 cm、深



SI-1

- 1 暗灰褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、炭化物粒子多量。しまり非常にあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒子やや少量、ロームブロック少量。しまり欠ける。
- 4 黒褐色土 砂礫多量、ローム粒子やや多量、ロームブロック少量。焼土粒子多量。しまりあり。

SI-1 カマド

- 1 黒褐色土 焼土粒子少量、白色・灰色粘土やや多量。しまりあり、粘性欠ける。(炭灰土)
- 2 灰褐色土 灰色・灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子やや多量。しまりあり、粘性やや欠ける。(大井崩落土)
- 3 褐色土 灰色粘土やや少量、焼土粒子少量。しまりあり、粘性やや欠ける。(大井崩落土)
- 4 暗赤褐色土 焼土粒子主体、灰色粘土粒子やや多量。しまり欠ける、粘性欠ける。(燃焼層)
- 5 暗褐色土 焼土粒子やや少量、灰色粘土少量。しまり欠ける、粘性欠ける。(炭灰土)
- 6 暗赤褐色粘質土 焼土粒子やや多量、白色粘土少量。しまりあり、粘性ややあり。(大井崩落土)
- 7 灰褐色土 白色粘土多量。しまりややあり、粘性ややあり。(壁面崩落土)
- 8 赤褐色土 焼土主体、白色粘土粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり。(軸心崩落土北端部)
- 9 乳赤褐色粘質土 灰色・白色粘土多量、焼土やや少量。しまりあり、粘性あり。(軸)
- 10 明灰褐色粘質土 白色粘土やや少量。しまりあり、粘性あり。
- 11 明褐色土 焼土。しまりやや欠ける、粘性欠ける。(大井崩)

第18図 A区 SI-1 遺構実測図

さ10cm未満である。P4は南壁中央に隣接している。長軸70cm、短軸30cm、深さ10cmである。いずれも小形で浅いという特徴が共通しているが、具体的な機能は不明である。カマド 北壁中央に位置する。粘質土を積んで構築された両袖とそれに挟まれた燃焼部が確認された。袖は幅20cm竪穴壁からの長さ70cm、両袖間の幅40cmである。燃焼部側は焼土化している。覆土は流入土(1・4～5層)、天井崩落土(2・3・6・7層)、カマド構築土(8～10層)、掘方埋土(11層)などからなる。出土遺物 西壁付近から須恵器などがまとまって出土した。いずれも床面から10cmほど浮いた覆土中からの出土であり、竪穴埋没過程において廃棄または流入したものと思われる。須恵器環1点、高台付環1点、石1点を図示した。1の底部は摩耗している。3はチャートである。このほかに土師器環1点6.57g、甕11点235.09g、須恵器環5点29.07g、蓋1点7.31g、陶器甕1点、18.88gが出土している。時期 9世紀第1四半期。



第19図 A区SI-1出土遺物実測図

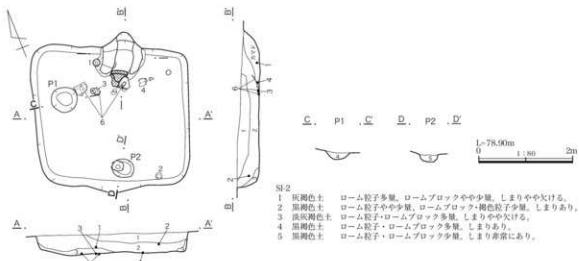
第6表 A区SI-1出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 高径	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
19	1	須恵器 環	口径 15.0 底径 8.8 器高 4.9	外面 5V4/2 灰ナリープ 内面 10YR4/2 灰黄緑	砂粒・礫少量	良好	底部摩耗	ロクロ目顯著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部一 部欠損	床上約 10cm	A区SI-1 No.2・3・5・ 6	磁子産
19	2	須恵器 高台付環	口径 15.0 底径 9.6 器高 5.6	外面 5V4/1 灰 内面 10YR4/1 灰灰	砂粒・礫少量	良好		ロクロ目顯著 底部ヘラ切り後回転ナデ 高台附付	体部1/4 欠損。底 部完存	床面直 上	A区SI-1 No.1	磁子産
19	3	石 (川砂+硝)	長 5.0 幅 4.1 厚 2.6 重 98.80				チャート		完存	床上約 10cm	A区SI-1 No.4	

A区SI-2 (第20・21図、第5・7表、図版二・三・一一二)

位置 調査区中央西側にあたる1-2グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西にわずかに長い長方形で、東西3.3m、南北3.0m、面積9.9㎡である。壁は遺存状況の良い部分が40cmほどで、床面からほぼ垂直に立ち上がる。主軸方向 N-20°-E 覆土 4層に分層した。レンズ状の堆積状態を示しており、自然堆積とみられる。床面 貼床は認められず、ローム層を床面としており、平坦に作られている。柱穴等 2基確認した。P1は北西壁中央部に近接しており、直径55cm、深さ15cmである。具体的な機能は不明である。P2は南西壁中央部に近接しており、直径50cm、深さ14cmである。位置的に入口施設の可能性がある。カマド 北東壁中央に位置する。粘質土を積んで構築された両袖と燃焼部および煙道が確認された。袖は灰褐色系の粘土を積んで構築されており幅40cm、竪穴壁からの長さ60cm、両袖間の幅40cmである。袖の先端には焚口天井の構築材とみられる粘土塊が確認された。また左袖の内側には土師

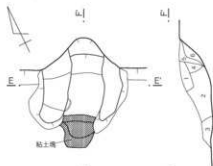
器裏の破片が張り付けられていた。カマドの覆土は9層に分層した。このうち2・5層が廃絶後の流入土、4・6層が崩落土、1・7～9層が煙道や袖の構築土である。出土遺物 カマド前面の床面および覆土からまとまって出土している。土師器の裏は破片の状態であり、接合しても完形の状態にはならない事から、カマドの構築材の一部として用いられたものとみられる。また須恵器環の一部は伏せた状態で置かれていた。土師器裏2点、須恵器環3点、高台付環1点を図示した。3は片口。このほかに土師器裏12点70.66g、須恵器環11点142.61gが出土している。時期 9世紀第1四半期。



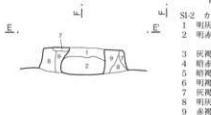
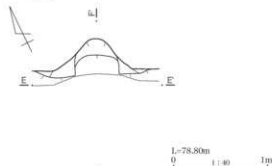
SI-2

- | | | |
|---|-------|---------------------------------|
| 1 | 灰褐色土 | ローム粒子多量、ロームブロックやや少量、しまりやや欠ける。 |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒子やや少量、ロームブロック・褐色粒子少量、しまりあり。 |
| 3 | 淡灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、しまりやや欠ける。 |
| 4 | 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり。 |
| 5 | 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量、しまり非常にあり。 |

カマド



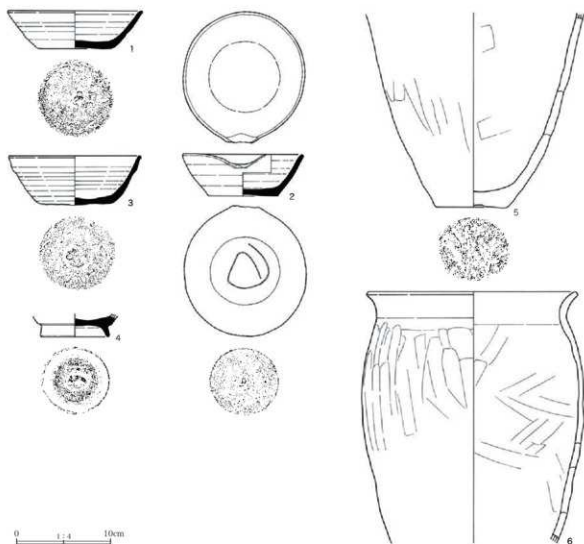
カマド掘方



SI-2 カマド

- | | | |
|---|---------|--|
| 1 | 明灰褐色粘質土 | ローム粒子・白色粒子少量、焼土粒子微量、しまりややあり、粘性あり。(煙道天井) |
| 2 | 明赤褐色土 | 焼土粒子やや多量、焼土粒子やや少量、黒褐色ブロック少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(流入土) |
| 3 | 灰褐色粘土 | 焼土粒子少量、しまりあり。(天井崩落土) |
| 4 | 暗赤褐色土 | 焼土多量、褐色土やや少量、ローム粒子微量、しまり欠ける、粘性欠ける。(天井崩落土) |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒子やや少量、白色粒子・焼土粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(流入土) |
| 6 | 明褐色土 | ローム粒子多量、白色粒子少量、しまり欠ける、粘性やや欠ける。(煙道構築土) |
| 7 | 灰褐色粘土 | 褐色土ブロックやや少量、白色粒子少量、しまりややあり、粘性あり。(袖) |
| 8 | 明灰褐色粘土 | 白色粒子多量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性ややあり。(袖) |
| 9 | 赤褐色粘土 | 焼土主体、白色粒子多量、しまりあり、粘性ややあり。(袖内側焼土化範囲) |

第20図 A区SI-2遺構実測図



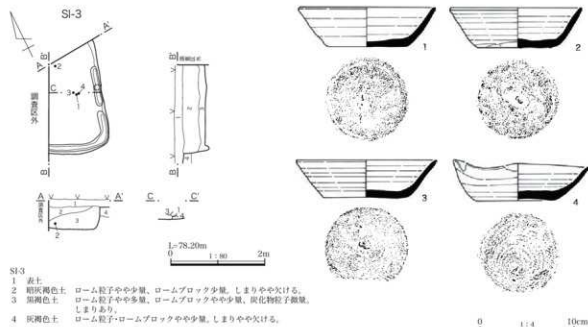
第21図 A区SI-2出土遺物実測図

第7表 A区SI-2出土遺物観察表

種別	№	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
21	1	環志器 環	口径 14.1 底径 8.8 器高 4.1	外面 10YR4/1 黄灰 内面 7.5YR7/1 明黄灰	母粒・確少量	良好	内外面 底面付 凸摩耗 底部へラの痕 跡顕著	ロクロ目節裏 底部へラ切り後回転ナデ	完形	実上の 16 cm	A区SI3 No.10	磁子産
21	2	環志器 環	口径 13.8 底径 7.8 器高 5.3	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10YR4/2 灰黄褐色	母粒少量、確 微量	良好		ロクロ目節裏 底部へラ切り後回転ナデ	ほぼ完形	実上の 20 cm	A区SI2 No.7	磁子産
21	3	環志器 環	口径 12.8 底径 7.4 器高 4.4	外面 5Y4/1 灰 内面 10YR4/1 黄灰	母粒少量、確 微量	良好	割唐あり	ロクロ目節裏 丁寧にナデ消されている 底部へラ切り後回転ナデ 片口	完形	床面直上	A区SI2 No.4	磁子産
21	4	環志器 高台付環	口径 - 底径 7.2 器高 [2.4]	外面 5YR3/1 黒褐色 内面 7.5YR4/2 灰褐色	母粒少量、確 微量	良好	自然輪付着	底部へラ切り後回転ナデ 高台部付	底部ほぼ 完形	床面直上	A区SI2 No.3	磁子産
21	5	土師器 甕	口径 - 底径 7.6 器高 [20.6]	外面 5YR4/2 灰褐色 内面 5YR4/4 にぶい赤褐色	母粒・確・赤 色粒子多量	良好		底部本量前 外面へラケズリ 内面ナデ	胴部1/2 残存、底 部完形	覆土中	A区SI2 カマド・カ マド左端・ カマド一柱・ A区SI3	
21	6	土師器 甕	口径 22.2 底径 - 器高 [26.7]	外面 5YR4/3 にぶい赤褐色 内面 7.5YR5/4 にぶい赤褐色	母粒少量、赤 色粒子・黒色 粒子微量	良好		外面口縁部ヨコナデ 胴部ナデ方向のへラケズリ 内面口縁部ヨコナデ 胴部ナデ	口縁部 残存	床面直上	A区SI2 No.5・6・8	

A区SI-3 (第22図、第5-8表、図版三・一一二)

位置 調査区北部にあたるI-Oグリッドに位置する。重複関係なし。規模・形状 遺構の大半が調査区外のため詳細は不明だが、方形を基調とした竪穴建物の南東隅部分とみられる。確認された範囲で東西1.3m以上、南北2.2m以上である。壁は遺存状況の良い部分が50cmほどで、垂直に立ち上がる。主軸方向 N-20°-E 覆土 3層に分層した。2・3層は竪穴部に堆積する土で、床面を覆う3層はロームブロックを多く含み、しまりが強い。3層は壁溝に堆積する土である。床面 貼床は認められず、ローム層を床面としている。全体的に踏み締まりによるとみられる硬化面が形成されており、若干の凹凸が認められる。壁に沿って幅15cm、深さ10cmほどの壁溝が巡る。柱穴等 確認できなかった。カマド 確認されていない。出土遺物 須恵器環が4点出土している。このうち床面から出土した須恵器環は、1点を伏せ置きし、その上に正位で2点重ね置きするという特異な出土状態を示している。このほか、壁溝の覆土上面に1点正位で置かれた須恵器環が認められた。須恵器環4点を図示した。1は口縁部が、使用時に欠けたと考えられる。4は口縁部に歪みがあり、一部を故意にうち欠いている。このほかに土師器甕1点15.75g、須恵器環1点3.76gが出土している。時期 9世紀第1四半期。



SI-3

- 1 表土
2 暗褐色土 ローム粒子や中少量、ロームブロック少量、しまりやや欠ける。
3 黒褐色土 ローム粒子や中多量、ロームブロックや中少量、炭化物粒子微量、しまりあり。
4 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロックや中少量、しまりやや欠ける。

第22図 A区SI-3遺構・出土遺物実測図

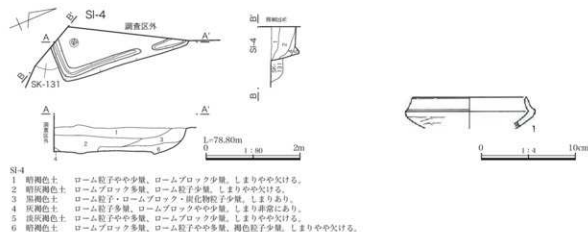
第8表 A区SI-3出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 図様	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
22	1	須恵器 環	口径 14.2 底径 8.5 断面高 4.3	外面 5Y5/1 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・礫少量	良好	口縁部一部欠 けている	口縁目面溝 底部へつ切り後回転ナデ	完形	覆土中	A区SI-3 No.2	磁子産
22	2	須恵器 環	口径 13.7 底径 7.5 断面高 4.4	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・礫少量	良好		口縁目面溝 底部へつ切り後ヘラケズリ 底部半周回転ヘラケズリ	完形	床面より 約12cm	A区SI-3 No.4	磁子産
22	3	須恵器 環	口径 14.5 底径 8.8 断面高 4.1	外面 5Y4/1 内面 10Y3/4/1 黄灰	砂粒少量、礫 微量	良好		底部へつ切り後回転ナデ	口縁～体 部3/8残 存、底部 一部欠損	覆土中	A区SI-3 No.1	磁子産
22	4	須恵器 環	口径 (14.3) 底径 8.0 断面高 4.3	外面 5Y4/2 内面11-Y 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒少量、礫 微量	良好	口縁部 故意に うち欠か 口縁部歪みあ り	口縁目面溝 底部系切り	口縁部 1/3欠 損、体部 1/4欠損	覆土中	A区SI-3 No.3	磁子産

A区 SI-4 (第23図、第5-9表、図版三・四)

位置 調査区西部にあたるG-4グリッドに位置する。**重複関係** SK-131と重複し、本遺構が新しい。

規模・形状 遺構の大半が調査区外のため規模などの詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡の南東隅部分とみられる。確認できた範囲で東西1.1m以上、南北2.8m以上、壁は遺存状況の良い部分が60cmほどで、急斜度で立ち上がる。**覆土** 6層に分層した。1~4・6層は竪穴部に堆積する土で、全体的にロームブロックを多く含んでいる。限られた範囲での観察であるが堆積状況からいずれも流入土とみられる。5層は壁溝に堆積する淡灰褐色土である。**床面** 貼床は認められず、掘方底面にあたるローム層をそのまま床面としている。全体的に硬化しており若干の凹凸が認められる。壁に沿って幅10cm、深さ10cmほどの壁溝が巡る。**柱穴等** 確認できなかった。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** (床面付近の覆土中から平面図にある土師器の破片が出土している。土器の出土量は多くない。) 土師器環1点を図示した。内外面とも漆仕上げが施される。このほかに土師器環1点7.6g、甕8点104.57gが出土している。**時期** 7世紀前葉。



第23図 A区 SI-4遺構・出土遺物実測図

第9表 A区 SI-4出土遺物観察表

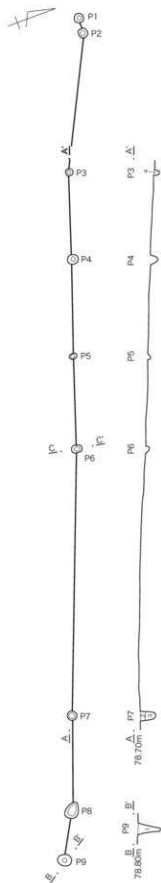
探尺 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	備考
23	1	土師器 環	口径 (120) 底径 器高 3.3	外面 7.5YR3/1 黒灰 内面 7.5Y3/3 暗褐色	暗灰少量、赤 色胎土微量	良好	口縁一体部内 面 漆仕上げ	口縁部は「く」の字状に 内傾する	口縁一体部 一部残存	覆土中	A区 SI-4	

2 柵列

柵列とみられるピット群が1列、調査区の中央に台地の傾斜に対し、垂直に確認されている。

A区 SA-8 (第24図、第10表)

位置 調査区中央部にあたるI-0、J・K-1グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 9基の柱穴が約18mの長さで、東西方向にほぼ直線的に並んでいる。柱穴の平面形は円形あるいは楕円形、長軸で16~22cmほどで、深さは8~30cm、柱間距離はP1-P2間約0.3m、P2-P3間約2.9m、P3-P4間約1.8m、P4-P5間約2.08m、P5-P6間約1.95m、P6-P7間約3.6m、P7-P8間約2.0m、P8-P9間約1.05mである。**主軸方向** N-70°-W **出土遺物** 出土していない。**時期** 間尺から中近世か。



第10表 A区SA-8計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物
SA-8 P1	S8P6	1.0	-	円形	0.20	0.20	0.08	U字状	無
SA-8 P2	S8P5	1.0	-	円形	0.22	0.20	0.24	U字状	無
SA-8 P3	S8P4	J-1	-	円形	0.16	0.14	0.10	U字状	無
SA-8 P4	S8P3	J-1	-	円形	0.22	0.20	0.16	U字状	無
SA-8 P5	S8P2	J-1	N-5° -W	楕円形	0.18	0.12	0.06	U字状	無
SA-8 P6	S8P1	J-1	N-10° -E	楕円形	0.22	0.14	0.08	U字状	無
SA-8 P7	S12	K-1	-	円形	0.18	0.18	0.30	U字状	無
SA-8 P8	S8P7	K-1	N-43° -W	楕円形	0.30	0.23	0.48	逆台形	無
SA-8 P9	S58	K-1	N-25° -E	不整形円形	0.36	0.27	0.12	U字状	無



SA-8

- 1 黒褐色土: ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、しまりあり。
- 2 灰褐色土: ロームブロックやや多量、ローム粒子少量、しまり非常にあり。
- 3 黒褐色土: ローム粒子少量、しまりやや欠ける。
- 4 黒褐色土: ローム粒子少量、しまりやや欠ける。



第24図 A区SA-8遺構実測図

3 溝 3条の溝が確認されている。SD-29・91は調査区の中央に台地の傾斜に対し垂直、SD-20は緩やかに曲がって確認されている。

A区SD-20(第25図、第11表、図版四)

第11表 A区溝計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SD-20	SD20	H-3・4	N-20°・E	緩い弧状か	[2.00]	0.50～0.60	0.15	U字状	無	
SD-29	SD29	G-3・4 H-4	N-30°・W	直線状	[8.22]	0.18～0.51	0.04～0.10	U字状	有	SK-30・53より新
SD-91	SD91	M-N-0	N-65°・W	直線状	[6.70]	0.40～0.50	0.08～0.15	逆台形	有	

位置 調査区南西部にあたるH-3・4グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南北方向に2m以上延びている。北端は緩やかに立ち上がっている。幅は50～60cm、深さは15cm前後である。

主軸方向 N-20°・E 覆土 不明。底面 ローム層中に作られている。やや凹凸が目立つが丸みを帯び、壁は底面から緩やかに立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SD-29(第25図、第11・12表、図版四・一一二)

位置 調査区南東部のG-3・4、H-4グリッド位置する。重複関係 SK-30・53と重複しており、本遺構が最も新しい。平面形状・規模 北西-南東方向に直線的に8.2m以上延びているとみられる。主軸方向 N-30°・W 覆土 覆土は上部を覆う明灰褐色土と底面～壁を覆う黒褐色土の2層である。底面 ローム層中に作られ、丸みを帯びている。溝に直行する溝状の掘り込みが3か所で確認された。壁は緩やかな立ち上がりを示す。出土遺物 手捏ね土器1点、須恵器の裏2点を図示した。このほかに土師器裏27点328.31g、須恵器環4点35.3g、蓋3点21.78g、裏16点674.83g、陶器3点12.61gが出土している。

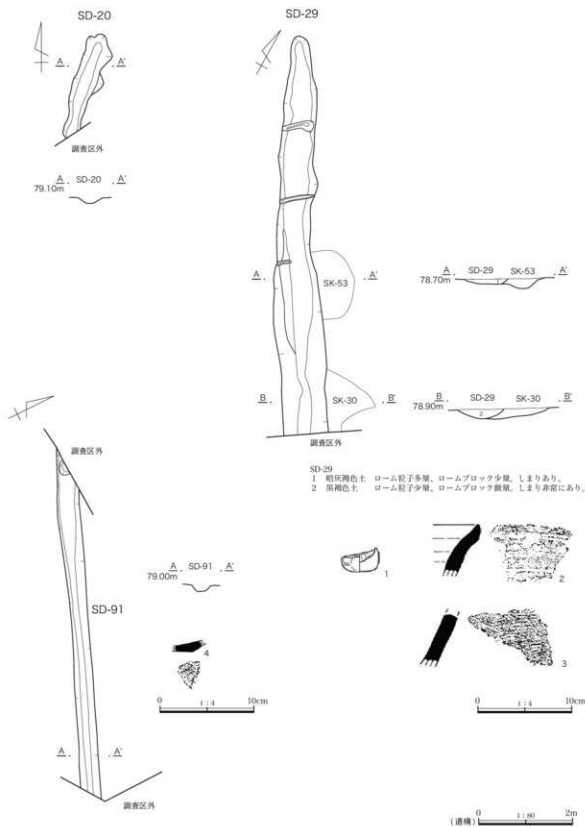
時期 不明。

A区SD-91(第25図、第11・12表、図版四)

位置 調査区北東端にあたるM・N-0グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 北西-南東方向に直線的に6.7m以上延びている。幅は40～50cm、深さは8～15cmほどである。主軸方向 N-65°・W 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており、平坦となっているが、北西端にはピット状の掘り込みが確認された。断面形が逆台形となり、壁の立ち上がりは緩やかである。出土遺物 須恵器環1点を図示した。このほかに須恵器環1点4.38g、裏1点38.55gが出土している。時期 不明。

第12表 A区SD-29・91出土遺物観察表

図版No.	No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
25	1	土師器 手捏ね	口径 3.8 底径 2.5 器高 2.6	外面 7.5YR5/4 に赤い斑 内面 7.5YR4/3 斑	砂粒微量	良好		外面 指オサエ	ほぼ完形	覆土中	A区SD-29 北北	
25	2	須恵器 裏	口径 - 底径 - 器高 [5.4]	外面 2.5Y6/3 に赤い斑 内面 10YR5/3 に赤い斑	砂粒少量	良好		口縁部 ロクロナデ 内面 ナデ 外面 縦線波状文と横点 状斑	口縁部一部 既存在	覆土中	A区SD-29 北南	磁子産
25	3	須恵器 裏	口径 - 底径 - 器高 [5.4]	2.5Y4/1 黄灰	砂粒・黒色粒 子微量	良好	内面 自然釉付 着	外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一部 既存在	覆土中	A区SD-25 南	磁子産
25	4	須恵器 環	口径 - 底径 - 器高 [1.2]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 5Y5/2 灰オリーブ	砂粒微量	良好		底部 糸切り	底部一部 既存在	覆土中	A区SD-91	磁子産



第25図 A区SD-20・29・91遺構・出土遺物実測図

4 土坑

調査区の中央部の台地上と南部の台地の落ち際に集中している。21基が確認された。

第13表 A区土坑計測表

遺構番号	田番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-7	S7	J-1	N-10°-W	不整形方形	0.70	0.55	0.10	皿状	無	
SK-10	S10	J-0	N-70°-E	楕円形	1.30	0.95	0.30	鍋底状	有	
SK-14	S14	J-1	N-20°-E	隅丸長方形	1.35	0.40	0.05	逆台形	無	
SK-16	S16	C-H-3	N-10°-E	隅丸長方形	2.50	1.00	0.14	逆台形	有	SK-17より古
SK-17	S17	C-H-3	N-20°-E	楕円形	1.27	0.67	0.33	鍋底状	有	SK-16より新
SK-28	S28	H-3	N-25°-W	楕円形	1.23	1.08	0.55	鍋底状	有	
SK-30	-	H-4	不明	不整形方形か	[1.00]	1.20	0.20	皿状	無	SD-29より古
SK-32	S32	H-3	N-30°-W	楕円形	0.63	0.45	0.11	U字状	無	P-33より古
SK-36	P36	I-3	N-20°-E	楕円形	[0.80]	[0.70]	0.20	皿状	有	
SK-41	S41	I-3	N-50°-W	楕円形	1.10	[0.70]	0.20	鍋底状	無	SK-42より古
SK-42	S42	I-3	N-50°-W	楕円形	0.65	0.55	0.28	鍋底状	無	SK-41より新
SK-43	S43	H-3	N-30°-W	長楕円形	0.99	0.61	0.19	逆台形	無	
SK-48	S48	J-0	N-0°	隅丸方形	[0.85]	0.50	0.30	U字状	無	
SK-49	S49	H-3	不明	楕円形か	0.80	[0.55]	0.74	U字状	有	SK-50より新
SK-50	S50	H-3	不明	楕円形か	[0.35]	[0.18]	0.50	U字状	無	SK-49より古
SK-52	S52	G-3	N-85°-E	楕円形	0.95	0.80	0.13	U字状	無	
SK-53	S53	G-H-3-4	N-35°-W	楕円形か	1.45	[0.80]	0.18	逆台形	無	SD-29より古
SK-64	S64	H-3	-	円形	0.60	0.55	0.12	逆凸形	無	
SK-67	S67	J-1	N-25°-W	楕円形	0.61	0.52	0.15	U字状	無	
SK-95	S95	L-1	N-80°-W	楕円形	0.85	0.78	0.28	U字状	無	
SK-131	-	G-4	不明	円形か	[0.24]	[0.20]	0.12	U字状	無	SI-4より古

A区SK-7 (第26図, 第13表)

位置 調査区中央部にあたるJ-1グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い不整形な方形で、長軸70cm、短軸55cm、深さ10cmである。**主軸方向** N-10°-W **覆土** 1層のみで、地山由来のロームブロックを多く含む暗灰褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つ。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-10 (第26図, 第13表)

位置 調査区北部にあたるJ-0グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形で、長軸130cm、短軸95cm、深さ30cmである。**主軸方向** N-70°-E **覆土** 中央部分に堆積する暗灰褐色土と、周縁部に堆積する灰褐色土の2層に分層した。**底面** ローム層中に作られており、非常に凹凸が目立つ。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 図示していないが土師器裏1点3.42gが出土している。**時期** 不明。

A区SK-14 (第26図, 第13表, 図版四)

位置 調査区中央部にあたるJ-1グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形で、長軸135cm、短軸40cm、深さ5cmほどである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 地山由来のローム粒子やロームブロックを少量含む黒褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、底面は凹凸が認められる。壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-16 (第26図、第13表、図版四)

位置 調査区南西部にあたるG・H-3グリッドに位置する。**重複関係** SK-17と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南北方向に長い隅丸長方形で、南北250cm、東西100cm、深さ14cmである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 地山由来のローム粒子を含む黒褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示していないが、土師器裏1点3.03gが出土している。**時期** 不明。

A区SK-17 (第26図、第13表、図版四)

位置 調査区南西部にあたるG・H-3グリッドに位置する。**重複関係** SK-16と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形である。長軸127cm、短軸67cm、深さ33cmである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 上部中央に堆積する暗灰褐色土と、底面を覆う灰褐色土の2層を確認した。**底面** ローム層中に作られている。全体的に底面はやや丸みを帯び、壁は緩やかな立ち上がりを示す。中央部分が1段深く掘り込まれている。**出土遺物** 図示していないが、土師器裏1点4.16gが出土している。**時期** 不明。

A区SK-28 (第26-27図、第13-14表、図版四)

位置 調査区南西部にあたるH-3グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に主軸をもつ楕円形で、長軸123cm、短軸108cm、深さ55cmである。**主軸方向** N-25°-W **覆土** 上面を覆う暗灰褐色土と、底面を覆う黒褐色土の2層である。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 須恵器裏の胴部片1点を図示した。このほか須恵器裏1点16.24gが出土している。**時期** 不明。

A区SK-30 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるH-4グリッドに位置する。**重複関係** SD-29と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分がSD-29によって破壊されているため詳細は不明であるが、長軸1.0m以上、短軸1.2mのおそらく不整な方形を呈する土坑の隅部分とみられる。**主軸方向** 不明。**覆土** 不明。**底面** ローム層中に作られており、幅狭く丸みを帯びている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-32 (第26図、第13表、図版四)

位置 調査区南西部にあたるH-3グリッドに位置する。**重複関係** P-33と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形とみられ、長軸63cm、短軸45cm、深さ11cmである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 不明。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯び、細かな凹凸が目立つ。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-36 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるI-3グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南半が調査区外であるが、南北方向に長い楕円形とみられる。確認できた範囲で長軸80cm以上、短軸70cm以上、深

さ20cmである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 上部を覆う黒褐色土と底面を覆う暗褐色土の2層を確認した。**底面** 平坦となっており、壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示していないが、須恵器壺1点7.75gが出土している。**時期** 不明。

A区SK-41 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるI-3グリッドに位置する。**重複関係** SK-42と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南側をSK-42に切られているが、北東-南西方向に長い楕円形である。長軸110cm、短軸70cm以上、深さ20cmである。**主軸方向** N-50°-W **覆土** 黒褐色土と暗灰褐色土の2層を確認した。

底面 ローム層中に作られており部分的に段を有する。壁は比較的急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-42 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるI-3グリッドに位置する。**重複関係** SK-41と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北東-南西方向に長い楕円形である。長軸65cm、短軸55cm、深さ28cmである。

主軸方向 N-50°-W **覆土** 黒色土および暗褐色土の2層である。重複するSK-42の覆土と近似する。

底面 ローム層中に作られている。段を有し丸みを帯びている。壁は比較的急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-43 (第26図、第13表、図版五)

位置 調査区南西部にあたるH-3グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形で、長軸99cm、短軸61cm、深さ19cmである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 不明。

底面 ローム層中に作られており、丸みを帯び、中央部分が1段掘り下げられている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-48 (第26図、第13表)

位置 調査区北部にあたるJ-0グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北側が調査区外に延びているが、南北方向に長い隅丸方形とみられる。長軸85cm以上、短軸50cm、深さ30cmである。

主軸方向 N-0° **覆土** 確認できた範囲で4層に分層した。全体的に地山由来の土塊が多く含まれており人為的な埋戻しの可能性がある。**底面** ローム層中に作られており、南端が1段深く掘り込まれ、北側ほど浅くなっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

A区SK-49・50 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるH-3グリッドに位置する。**重複関係** SK-49がSK-50より新しい。**平面形状・規模** SK-49は攪乱によって北側の大部分が破壊されているが、南北方向に主軸をもつ楕円形の土坑とみられる。長軸80cm、短軸55cm以上、深さ74cmである。SK-50はSK-49の南側で確認された。大部分がSK-49と重複しており詳細は不明であるが、楕円形の土坑とみられ、確認された範囲で長軸35cm以上、短軸18cm以上、深さ50cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 不明。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯び、壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示していないが、土師器杯1点2.05gが

土している。時期 不明。

A区SK-52 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるG・3グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西方向にわずかに長い楕円形である。長軸95cm、短軸80cm、深さ13cmである。主軸方向 N-85° - E 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びているが凹凸が著しい。壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SK-53 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるG・H・3・4グリッドに位置する。重複関係 SD-29と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 南西側をSD-29によって破壊されているが、南北方向に主軸を持つ楕円形の土坑とみられる。長軸145cm、短軸80cm以上、深さ18cmである。主軸方向 N-35° - W 覆土 不明。底面 ローム層中につくられており、比較的丸みを帯びている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SK-64 (第26図、第13表)

位置 調査区南西部にあたるH・3グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南北方向にわずかに長い円形で、直径約60cm、深さ12cmである。覆土 不明。底面 ローム層中に作られ南東部分は1段深く掘り込まれるが、おおむね平坦となっている。壁は比較的急斜度で立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SK-67 (第26図、第13表)

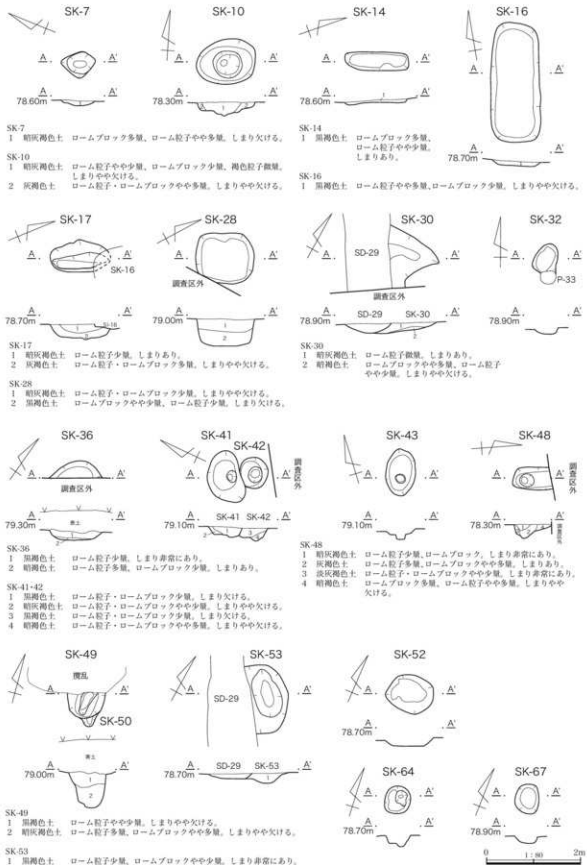
位置 調査区中央部にあたるJ・1グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南北方向に長い楕円形で、長軸61cm、短軸52cm、深さ15cmである。主軸方向 N-25° - W 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており、丸みを帯びる。壁はU字状に立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SK-95 (第27図、第13表、図版5)

位置 調査区東部にあたるL・1グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西方向がわずかに長い楕円形で、長軸85cm、短軸78cm、深さ28cmである。主軸方向 N-80° - W 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており丸みを帯びる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

A区SK-131 (第27図、第13表)

位置 調査区西部にあたるG・4グリッドに位置する。重複関係 SI-4より古い。平面形状・規模 形状は円形か、遺存する部分で長軸24cm以上、短軸20cm以上、深さ12cmである。主軸方向 不明。覆土 1層で、自然堆積と考えられる。底面 ローム層中に作られており丸みを帯びる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。



第26図 A区SK-7・10・14・16・17・28・30・32・36・41～43・48～50・52・53・64・67遺構実測図



第27図 A区SK-95・131遺構・SK-28出土遺物実測図

第14表 A区SK-28出土遺物観察表

発掘 No.	No.	植物 図柄	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質 構成	断面の状態	断形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
27	1	葉虫 器蓋	口径 底径 器蓋 (5.4)	10YR4/2 灰黄褐色	砂粒・白雲母 少量	やや 不良	断面外面 平行タタキ 内面 無文当貝殻	断面一部 残存	覆土中	A14.5.28	新出産

5 ピット

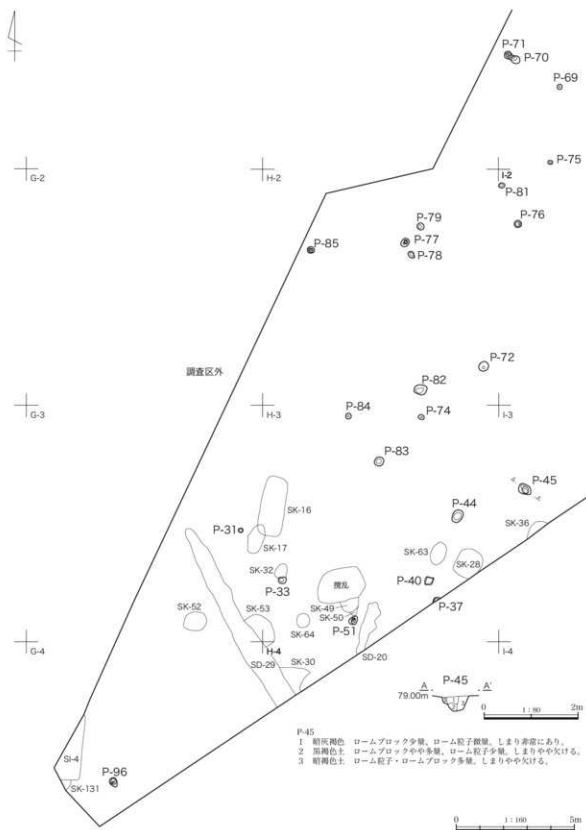
ピットは調査区の中央部に集中して確認されている。いくつか直線状に並ぶものや、まとめて確認されるものもあるが、建物跡や欄か判別できなかった。深さもほとんどが約10から30cmほどと浅い。計測表にまとめる。

第15表 A区ピット計測表

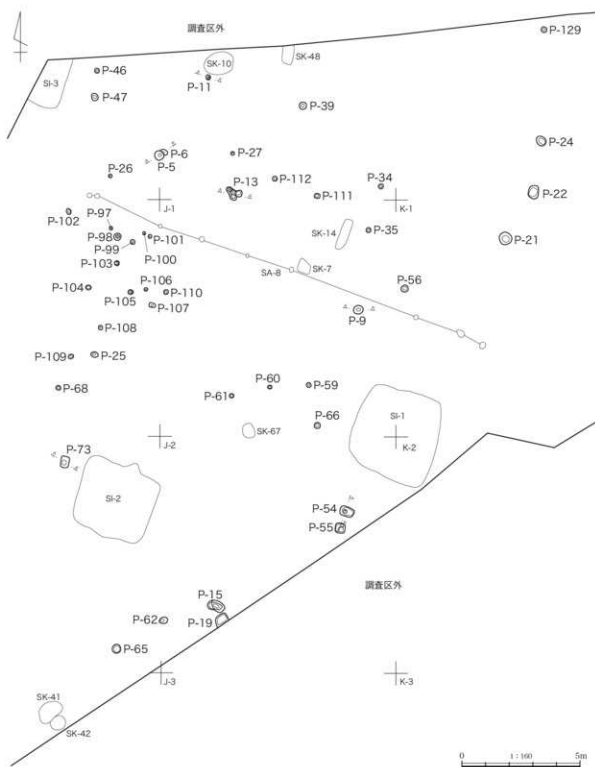
遺構番号	田番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
P-5	S56	I-J0	-	円形	0.22	0.20	0.25	U字状	無	P6より新
P-6	S56	I-J0	-	円形	0.20	0.20	0.15	U字状	無	P5より古
P-9	S9	J-1	-	円形	0.40	0.36	0.90	箱形	無	
P-11	S11	J-0	-	円形	0.20	0.20	0.20	U字状	無	
P-13	S13	J-0	N-58°-W	不整形円形	0.55	0.25	0.35	段有	無	
P-15	S15	J-2	N-68°-W	楕円形	0.70	0.40	0.17	-	無	
P-19	S19	J-2	N-55°-E	楕円形	0.57	0.41	0.12	-	無	
P-21	S21	K-1	-	円形	0.50	0.50	0.18	-	無	
P-22	S22	K-0	N-0°	楕円形	0.60	0.55	0.12	-	無	
P-24	S24	K-0	-	円形	0.45	0.45	0.09	-	無	
P-25	S25	I-1	N-67°-W	楕円形	0.32	0.22	0.25	-	無	
P-26	S26	I-0	-	円形	0.15	0.15	0.17	-	無	
P-27	S27	J-0	-	円形	0.15	0.15	0.06	-	無	
P-31	S31	G-3	-	円形	0.20	0.20	0.07	-	無	
P-33	S33	H-3	N-68°-W	楕円形	0.30	0.25	0.09	-	無	SK-32より新
P-34	S34	J-0	-	円形	0.22	0.20	0.23	-	無	
P-35	S35	J-1	-	円形	0.20	0.20	0.18	-	無	
P-37	S37	H-3	N-58°-E	楕円形	0.35	[0.15]	0.16	-	無	
P-39	S38	J-0	-	円形	0.30	0.30	0.20	-	無	
P-40	S40	H-3	-	方形	0.35	0.32	0.07	-	無	
P-44	S44	H-3	N-37°-E	長方形	0.54	0.41	0.16	-	無	
P-45	S45	I-3	N-46°-W	楕円形	0.60	0.45	0.30	U字状	無	
P-46	S46	I-0	-	円形	0.20	0.20	0.10	-	無	
P-47	S47	I-0	N-0°	楕円形	0.32	0.27	0.20	-	無	
P-51	S51	H-3	N-50°-E	楕円形	0.40	0.31	0.19	-	有	
P-54	S54	J-2	N-75°-W	長方形	0.60	0.44	0.40	U字状	無	
P-55	S55	J-2	-	方形	0.43	0.41	0.17	-	無	
P-56	S56	K-1	-	円形	0.40	0.35	0.27	-	無	
P-59	S59	J-1	-	円形	0.20	0.20	0.08	-	無	
P-60	S60	J-1	-	円形	0.17	0.17	0.08	-	無	

第3章 小泉分校裏遺跡

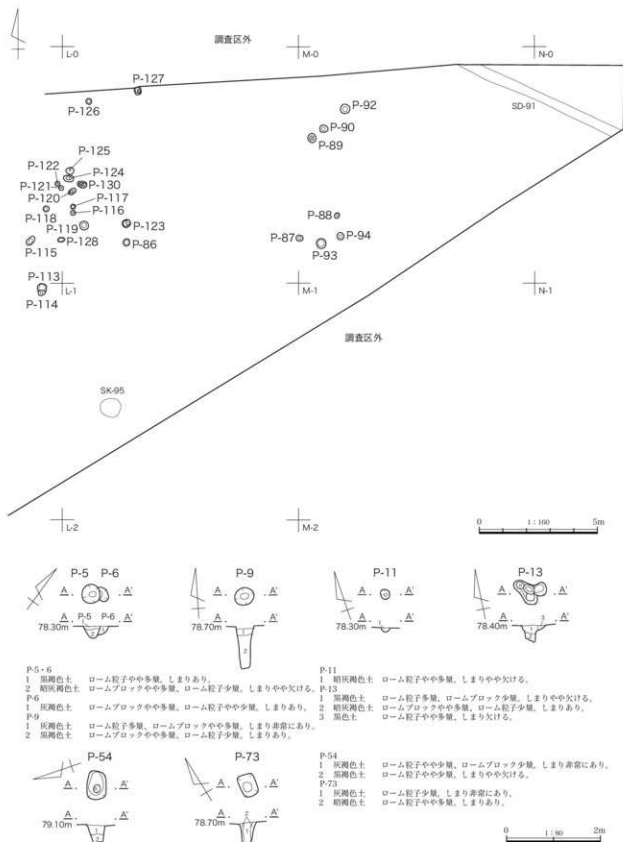
P-61	561	J-1	-	-	円形	0.20	0.20	0.21	-	無
P-62	562	J-2	N-67°	・E	楕円形	0.38	0.26	0.28	-	無
P-65	565	I-2	-	-	円形	0.37	0.37	0.07	-	無
P-66	566	J-1	-	-	円形	0.25	0.25	0.13	-	無
P-68	568	I-1	-	-	円形	0.20	0.20	0.24	-	無
P-69	569	I-1	-	-	円形	0.20	0.20	0.24	-	無
P-70	570	I-1	-	-	円形	0.35	0.35	0.32	-	有
P-71	571	I-1	-	-	円形	0.30	0.30	0.40	-	P-71と重複
P-72	572	H-2	-	-	円形	0.42	0.40	0.37	-	P-70と重複
P-73	573	I-2	N-10°	・E	長方形	0.50	0.35	0.45	-	無
P-74	574	H-3	N-83°	・W	楕円形	0.26	0.20	0.13	-	無
P-75	575	I-1	N-90°	・E	楕円形	0.20	0.18	0.39	-	無
P-76	576	I-2	-	-	円形	0.30	0.30	0.20	-	無
P-77	577	H-2	N-45°	・E	楕円形	0.35	0.30	0.22	-	無
P-78	578	H-2	N-46°	・W	半楕円形	0.32	0.23	0.21	-	無
P-79	579	H-2	-	-	楕円形	0.30	0.25	0.75	-	無
P-81	581	I-2	N-8°	・W	楕円形	0.30	0.25	0.39	-	無
P-82	582	H-2	N-75°	・E	楕円形	0.55	0.40	0.10	-	無
P-83	583	H-3	-	-	円形	0.40	0.40	0.12	-	無
P-84	584	H-3	-	-	円形	0.25	0.25	0.22	-	無
P-85	585	H-2	-	-	円形	0.30	0.25	0.24	-	無
P-86	586	L-0	-	-	円形	0.30	0.30	0.17	-	無
P-87	587	L・M-0	N-90°	・E	楕円形	0.30	0.25	0.22	-	無
P-88	588	M-0	N-30°	・E	楕円形	0.25	0.20	0.24	-	無
P-89	589	M-0	N-0°	-	楕円形	0.40	0.34	0.56	-	無
P-90	590	M-0	N-90°	・E	楕円形	0.36	0.30	0.07	-	無
P-92	592	M-0	-	-	円形	0.40	0.40	0.14	-	無
P-93	593	M-0	-	-	円形	0.40	0.40	0.11	-	無
P-94	594	M-0	-	-	円形	0.30	0.30	0.08	-	無
P-96	-	G-4	N-40°	・W	楕円形	0.43	0.30	0.23	-	無
P-97	P 群 18-1	I-1	-	-	円形	0.15	0.15	0.13	-	無
P-98	P 群 18-2	I-1	-	-	円形	0.30	0.30	0.23	-	無
P-99	P 群 18-3	I-1	-	-	円形	0.20	0.20	0.15	-	無
P-100	P 群 18-4	I-1	-	-	円形	0.12	0.12	0.09	-	無
P-101	P 群 18-5	I-1	-	-	円形	0.14	0.14	0.18	-	無
P-102	P 群 18-6	I-1	N-30°	・E	楕円形	0.25	0.20	0.24	-	無
P-103	P 群 18-8	I-1	N-90°	・E	楕円形	0.30	0.24	0.11	-	無
P-104	P 群 18-9	I-1	-	-	円形	0.22	0.20	0.14	-	無
P-105	P 群 18-10	I-1	N-90°	・E	楕円形	0.23	0.20	0.14	-	無
P-106	P 群 18-11	I-1	-	-	円形	0.15	0.15	0.10	-	無
P-107	P 群 18-12	I-1	N-75°	・W	長方形	0.27	0.17	0.13	-	無
P-108	P 群 18-13	I-1	-	-	円形	0.18	0.18	0.12	-	無
P-109	P 群 18-14	I-1	N-70°	・E	楕円形	0.23	0.19	0.15	-	無
P-110	P 群 18-15	J-1	-	-	円形	0.20	0.20	0.27	-	無
P-111	P5	J-0	-	-	円形	0.23	0.21	0.08	-	無
P-112	P6	J-0	-	-	円形	0.21	0.20	0.23	-	無
P-113	P 群 23-1	K-1	不明	-	楕円形	[0.28]	0.38	0.06	-	P-114と重複
P-114	P 群 23-2	K-1	N-85°	・E	楕円形	0.30	0.20	0.12	-	P-113と重複
P-115	P 群 23-3	K-0	N-40°	・E	楕円形	0.44	0.25	0.12	-	無
P-116	P 群 23-4	L-0	-	-	円形	0.22	0.22	0.24	-	無
P-117	P 群 23-5	L-0	-	-	円形	0.20	0.20	0.15	-	無
P-118	P 群 23-6	K-0	-	-	円形	0.25	0.25	0.24	-	無
P-119	P 群 23-7	L-0	N-0°	-	楕円形	0.40	0.35	0.17	-	無
P-120	P 群 23-8	L-0	N-58°	・E	楕円形	0.35	0.21	0.18	-	無
P-121	P 群 23-9	K-0	-	-	円形	0.20	0.20	0.14	-	無
P-122	P 群 23-10	K-0	-	-	円形	0.20	0.20	0.13	-	無
P-123	P 群 23-11	L-0	N-0°	-	楕円形	0.35	0.33	0.59	-	無
P-124	P 群 23-12	L-0	N-90°	・E	楕円形	0.43	0.37	0.20	-	無
P-125	P 群 23-13	L-0	N-90°	・E	楕円形	0.34	0.30	0.27	-	無
P-126	P 群 23-14	L-0	-	-	円形	0.24	0.22	0.19	-	無
P-127	P 群 23-15	L-0	不明	-	楕円形	[0.32]	0.28	0.18	-	無
P-128	P 群 23-16	K・L-0	N-74°	・E	楕円形	0.30	0.20	0.21	-	無
P-129	P 群 23-17	K-0	-	-	円形	0.24	0.24	0.16	-	無
P-130	P 群 23-18	L-0	N-67°	・W	楕円形	0.41	0.30	0.14	-	無



第28図 A区ピット遺構実測図(1)



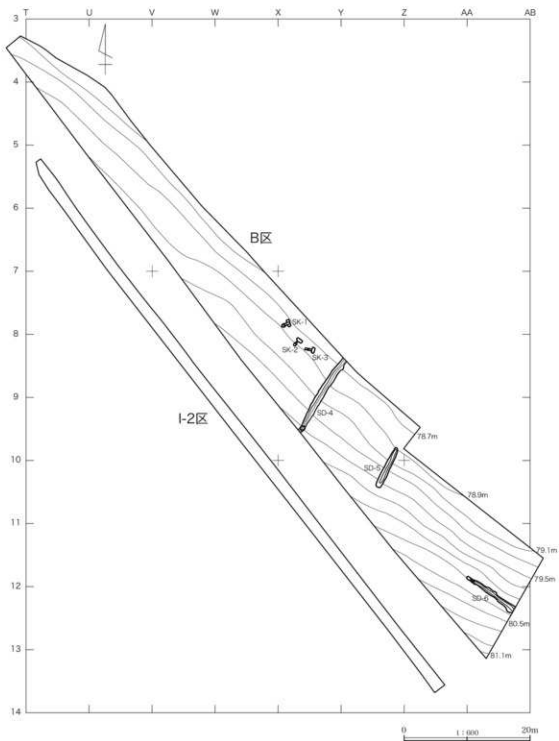
第29図 A区ピット遺構実測図(2)



第30図 A区ピット遺構実測図(3)

第5節 B区

B区は小泉分校裏遺跡の北、A区の南、1区の東に位置する。東側は急斜面で、水田との比高差は6m。溝3条と土坑3基が確認されている。



第31図 B区全体図

1 溝

3条確認されている。うちSD-4・5は地形の傾斜に対し、直行する。SD-6は傾斜に対し平行している。

第16表 B区溝計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	断面形	出土 遺物	備考
SD-4	X-8・9 Y-8	N-30°-E	直線状	13.6	1.05	0.24	U字形	有	
SD-5	Y-9・10	N-24°-E	直線状	7.00	2.10	0.20	U字形	有	
SD-6	AA-11・12	N-63°-w	直線状	9.16	1.32	0.48	U字形	有	

B区SD-4 (第32図、第16-17表、図版五)

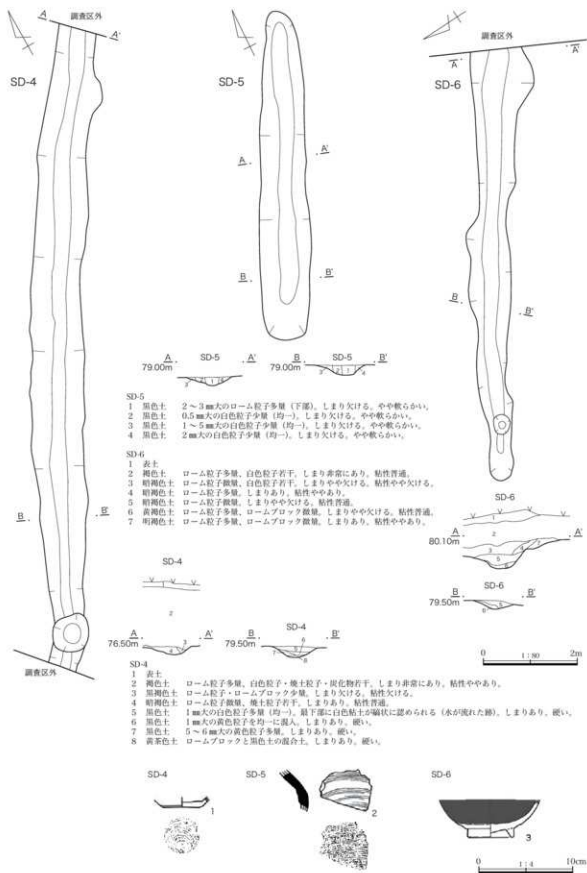
位置 調査区中央部にあたるX-8・9、Y-8グリッドに位置する。**重複関係** なし。南側の溝内にピットがあるが、ほぼ同時期と考えられる。溝の一部か。**平面形状・規模** 北東-南西方向に13.6m以上延びている。北端は緩やかに立ち上がっている。幅は50～105cm、深さは24cm前後である。**主軸方向** N-30°-E **覆土** 8層に分層される。1層は耕作土、2層は整地のために埋めたと考えられる。3層から8層が溝の覆土である。5層は流水の痕跡が確認されている。**底面** ローム層中に作られている。やや凹凸が目立つが丸みを帯び、壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** かわらけ1点を図示した。このほかに土師器甕1点40.21g、須恵器環2点25.99g、提瓶1点20.14g、甕5点90.71gが出土している。**時期** SD-5と並行している。ほぼ同じ時期か。

B区SD-5 (第32図、第16-17表、図版五・一一二)

位置 調査区中央部にあたるY-9・10グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に7.0m直線的に延びているとみられる。幅は210cm、深さは20cmである。**主軸方向** N-24°-E **覆土** 溝の覆土は4層で、自然堆積である。2層から4層まで、火山灰と考えられる白色粒子を含む。**底面** ローム層中に作られており丸みを帯びている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 須恵器の提瓶1点を図示した。このほかに土師器甕2点19.08gが出土している。**時期** 6～7世紀の提瓶が出土しているため、古墳時代の可能性も考えられる。SD-4と並行する。

B区SD-6 (第32図、第16-17表、図版六・一一二)

位置 調査区南東端にあたるAA-11・12グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北西-南東方向に直線的に9.16m以上延びている。幅は20～132cm、深さは深いところで48cmほどである。**主軸方向** N-63°-E **覆土** 1層は耕作土、2層は整地のために埋めたと考えられる。溝の覆土は3～7層の5層である。2・3層は火山灰と考えられる白色粒子を含む。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。東側では断面形が逆台形、西側では壁の立ち上がりは緩やかで浅くなる。一部ピット状に深くなっている。**出土遺物** 陶器碗1点を図示した。鉄軸が施軸される。**時期** 不明。



第32図 B区SD-4~6遺構・出土遺物実測図

第17表 B区溝出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質 構成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
32	1	かわらけ	口径 - 底径 4.1 高さ (1.1)	外面 7.3YR5/4 に白い層 内面 10YR6/4 に白い裏層	砂粒・金雲母 少量	良好		底面未切り	底面完存	覆土中	B区 SD-4 一括
32	2	銅土器 瓶	口径 - 底径 高さ [4.4]	外面 5Y4/1 に 内面 10YR4/2 灰黄層	砂粒微量	良好		外面カキ目	一部現存	覆土中	B区 SD-5 一括
32	3	陶器 瓶	口径 - 底径 4.9 高さ [4.0]	外面 5YR4/4 に白い水層 内面 7.5YR4/4 部	砂粒・微量量	良好	外面口縁・体 部・内面 灰黄	口ロ成形成	底面完存	覆土中	B区 SD-6 一括

2 土坑

3基の土坑が調査区のほぼ中央にまとまって確認されている。いずれも人骨の出土が確認され、人骨の分析については附編第1節、放射性炭素年代測定については附編第2節に示した。

第18表 B区土坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	備考
SK-1	X-7	N-12° -W	T字形	1.14	1.48	0.47	逆台形	無	骨出土
SK-2	X-8	N-37° -W	T字形	1.04	1.46	0.14	逆台形	無	骨出土
SK-3	X-8	N-20° -E	T字形	0.94	1.62	0.16	逆台形	有	骨出土

B区 SK-1 (第33図、第18表、図版六・七・九)

位置 調査区中央部にあたるX・7グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** T字形で、長方形部分東西50cm、南北114cm、深さ18cm、掘り返し部分の長軸148cm、短軸56cm、深さ38cmである。

主軸方向 N-12° -W **覆土** 25層に分層される。焼土や炭化物が多く確認される。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つ。長方形部分の壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁際は焼土化している部分が見られる。長方形部分の中央は円形状に深くなり、人骨が埋納された状態であった。**出土遺物** 出土していない。**時期** 人骨の分析から14～15世紀の火葬遺構と考えられる。

B区 SK-2 (第33図、第18表、図版七・九)

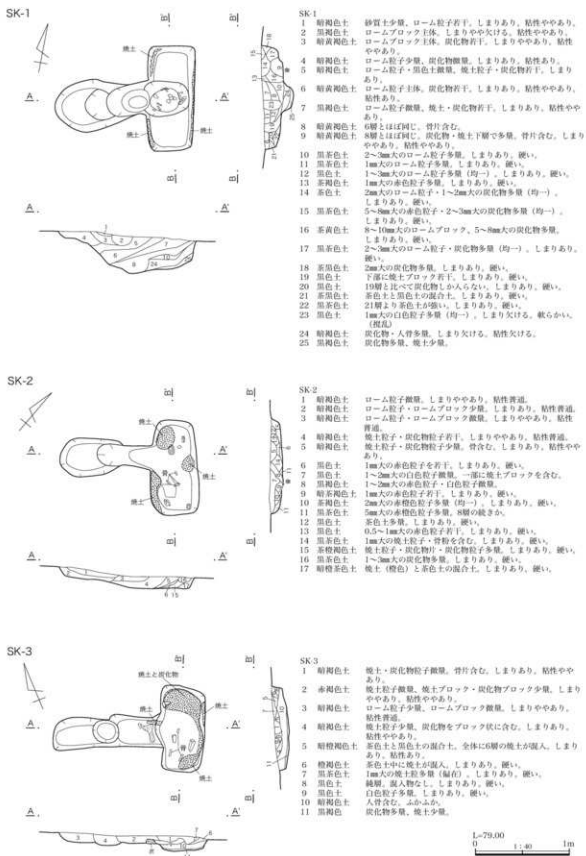
位置 調査区中央部にあたるX-8グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** T字形で、長方形部分東西52cm、南北102cm、深さ14cm、掘り返し部分の長軸146cm、短軸42cm、深さ11cmである。**主軸方向** N-37° -W **覆土** 17層に分層され、焼土や炭化物が多く確認される。**底面** ローム層中に作られており、底面は凹凸が認められる。長方形部分の方が深くなっている。壁は急斜度で立ち上がる。

出土遺物 図示していないが土師器甕1点3.42gが出土している。チャートの平たい石が底面上に確認されている。人骨は長方形部分中央を中心に確認されている。**時期** SK-1・3と近い時期と推測される。

B区 SK-3 (第33図、第18表、図版八・九)

位置 調査区中央部にあたるX-8グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** T字形で、長方形部分東西46cm、南北91cm、深さ13cm、掘り返し部分の長軸158cm、短軸35cm、深さ12cmである。**主軸方向** N-20° -E **覆土** 11層に分層される。10層は人骨を多く含む。**底面** ローム層中に作られており、底面は凹凸が認められる。長方形部分の方が深くなっている。壁は急斜度で立ち上がりを示す。

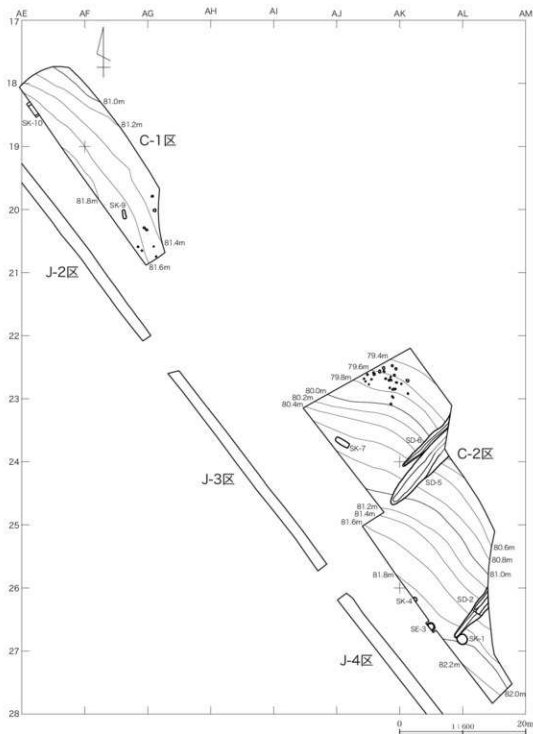
出土遺物 チャートの石が底面上に確認されている。人骨は長方形部分に広く確認されている。**時期** SK-1・2と近い時期と推測される。



第33図 B区SK-1~3 遺構実測図

第6節 C区

C区は本遺跡の東、J区の東に位置する。台地の東斜面が削平され、J区より1段低くなっている。井戸1基、溝3条、土坑5基、ピット36基が確認された。後世の削平のため、ローム確認面が浅く、鹿沼軽石層が表土を除去するとすぐに確認されている。



第34図 C区全体図(ピットの詳細は別図)

1 井戸

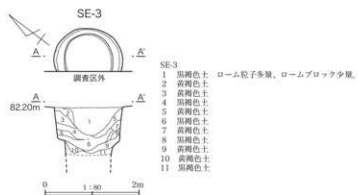
東に斜向する台地上に1基が確認されている。

第19表 C区井戸計測表

遺構番号	区	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SE-3	2	SK-3	AK-26	-	円形か	1.40	[1.00]	[1.30]	T字状	有	

C区 SE-3 (第35図、第19表、図版九)

位置 調査区2区の南東部にあたるAK-26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南西側が調査区外のため詳細は不明であるが、南北方向にわずかに長い円形とみられる。長軸1.4m、短軸1m以上、深さは確認出来た範囲が1.3m以上で、それ以上の掘削は行っていない。確認面から深さ80cmほどの部分に段を有し、そこからひと回り小さく掘り込まれている。**覆土** 確認できた範囲で10層に分層した。いずれも井戸枠除去後の埋め土とみられる。**底面** 完掘できなかったため不明。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕1点11.79g、須恵器甕2点98.04g、陶器甕1点5.59gが出土している。**時期** 不明。



第35図 C区井戸 遺構実測図

2 溝

溝は3条が確認されている。3条とも地形の傾斜に対し、直行する。

第20表 C区溝計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-2	2	AK-26 AL-25・26	N-35°・E	直線状	9.50	2.00	0.36	U字状	有	SK-1より新
SD-5	2	AI-24 AK-23・24	N-40°・E	直線状	14.50	[3.50]	0.90	U字状	有	SD-6より古
SD-6	2	AK-23・24	N-40°・E	直線状	11.50	1.20	0.22	U字状	無	SD-5より新

C区SD-2 (第36図、第20表、図版九)

位置 調査区2区の南東隅にあたるAK-26、AL-25・26グリッドに位置する。**重複関係** SK-1と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南西-北東方向に確認された範囲で約9.5m延びている。幅は最大で2m、深さは最大で36cmである。南西側ほど幅が狭くなり、深さも徐々に浅くなりながら緩やかに立ち上がっている。なお北東側では掘り返しの痕跡が確認された。**主軸方向** N-35°-E **覆土** 2層確認した。**底面** ローム層中に作られている。北東側は掘り返しに伴う凹凸がみられるが、南西側では丸みを帯びる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環4点28.36g、甕3点37.99g、須恵器甕4点77.05g、陶器碗1点5.59gが出土している。**時期** 不明。

C区SD-5 (第36図、第20-21表、図版九)

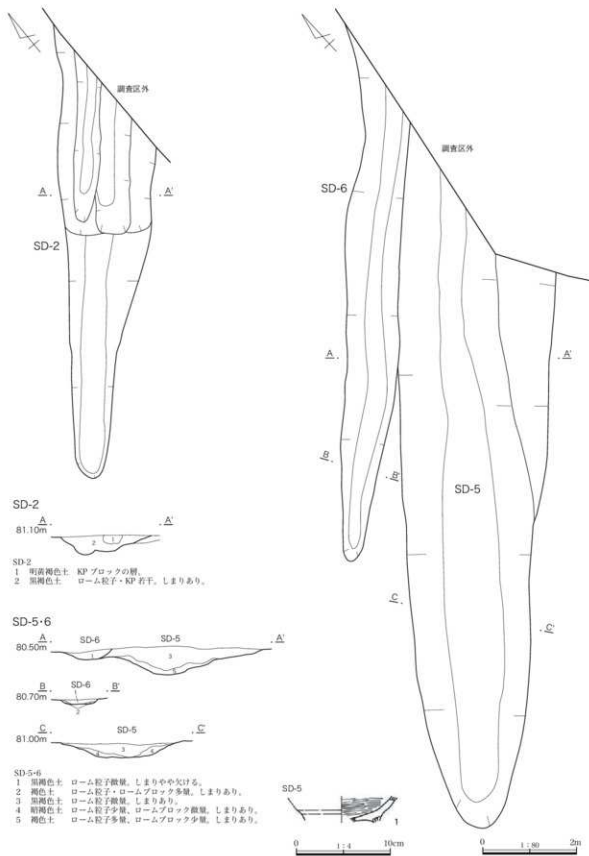
位置 調査区2区の中央部にあたるAJ-24、AK-23・24グリッドに位置している。**重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が古い。**平面形状** 南西-北東方向に確認された範囲で約14.5m延びている。幅は最大3.5m以上、深さは最大90cmである。南西側ほど幅が狭くなり、深さも徐々に浅くなりながら緩やかに立ち上がる。なお重複するSD-6は規模こそ異なるが、ほぼ同地点で本遺構と同一方向に延びていることから、同様の目的で掘削された溝の可能性が考えられる。**主軸方向** N-40°-E **覆土** 3層に分層した。3層とした黒褐色土が溝の大部分を覆っており、4層は南西側、5層が北東側の底面を覆っている。5層は北東側に堆積するロームブロックを多量に含んだ褐色土であり、壁の崩落土と考えられる。5層が堆積する部分の溝の上端が崩落したような状態で確認されており、この部分の土の可能性が考えられる。**底面** ローム層中に作られており、若干の凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。**出土遺物** 土師器の高台付環1点を図示した。このほかに土師器甕10点168.2g、須恵器甕10点574.14g、環3点24.05g、瓦質土器1点24.4g、陶器甕1点5.15g、碗1点15.46gが出土している。**時期** 不明。

第21表 C区SD-5出土遺物観察表

検出No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	土質・石質	構成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
36	1 土師器 高台付環	口径 - 底径 - 器高 (2点)	外面 10YR7/4 に赤い黄褐色	砂粒少量、赤 色粘土微量	良好	外面 黒色処理	外面 ロウロナ字 内面 ヘウミガキ 高台付	一部残存	覆土中	C区SD-5	

C区SD-6 (第36図、第20表)

位置 調査区2区の中央部にあたるAK-23・24グリッドに位置する。**重複関係** SD-5と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状** 南西-北東方向に確認された範囲で約11.5m延びている。幅は最大1.2m、深さは最大22cmである。南西側ほど幅が狭くなり、深さも徐々に浅くなりながら緩やかに立ち上がる。なお重複するSD-15は規模こそ異なるが、ほぼ同地点において同一方向に延びていることから、同様の目的で掘削された溝の可能性が考えられる。**主軸方向** N-40°-E **覆土** 覆土は2層で、溝の大部分を覆う黒褐色土と壁の崩落土とみられる褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。**出土遺物** なし。**時期** 不明。



第36図 C区SD-2・5・6遺構・出土遺物実測図

3 土坑

2基の土坑が1区、3基の土坑が2区の台地の落ち際に確認されている。後世の削平のため、鹿沼軽石層が表土を除去するとすぐに確認されている。

第22表 C区土坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-1	2	AK-AL-26	N-20° - E	円形	[1.70]	1.60	0.28	圓底状	無	SD-2より古
SK-4	2	AK-26	N-35° - W	楕円形か	0.70	[0.42]	0.20	逆台形	無	
SK-7	2	AI-AJ-23	N-60° - W	長方形	2.40	0.90	0.30	逆台形	無	
SK-9	1	AF-19-20	N-10° - W	長楕円形	1.50	0.55	0.22	逆台形	無	
SK-10	1	AE-18	不明	不明	1.81	[0.61]	0.21	圓底状	無	

C区SK-1 (第37図、第22表、図版九)

位置 調査区南東隅にあたるAK・AL-26グリッドに位置する。**重複関係** SD-2と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い円形で、長軸170cm以上、短軸160cm、深さ28cmである。**主軸方向** N-20° - E **覆土** 3層確認された。1層とした褐色土が大部分を覆い、2・3層は壁際に堆積する。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** なし。**時期** 不明。

C区SK-4 (第37図、第22表)

位置 調査区南東部にあたるAK-26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南西側が調査区外であるが、南北方向に長い楕円形とみられる。長軸70cm、短軸42cm以上、深さ20cmである。**主軸方向** N-35° - W **覆土** 3層に分層され、いずれも白色粒子を微量に含み、堅く締まっている。**底面** ローム層と鹿沼軽石層の境付近に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** なし。**時期** 不明。

C区SK-7 (第37図、第22表、図版九)

位置 調査区中央部にあたるAI・AJ-23グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北西-南東方向に長い長方形で、長軸240cm、短軸90cm、深さ30cmである。**主軸方向** N-60° - W **覆土** 中央部に堆積する黒色土および明褐色土と、周縁部に堆積する黄褐色土に大別される。**底面** ローム層中に作られており、わずかに丸みを帯びるもののおおむね平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** なし。**時期** 不明。

C区SK-9 (第37図、第22表)

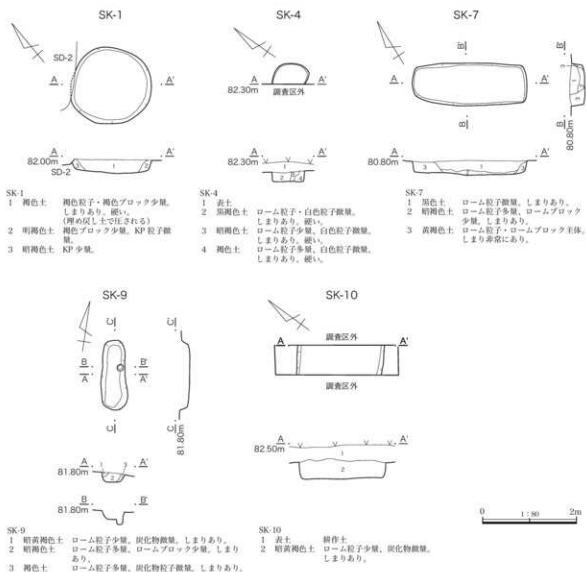
位置 調査区中央北部にあたるAF-19・20グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い長楕円形である。長軸150cm、短軸55cm、深さ22cmである。中央東寄りの底面に直径12cm、深さ10cmほどの小穴が掘り込まれているが、この土坑に伴うものか不明である。**主軸方向** N-10°

-W 覆土 覆土は3層で、地山由来のローム粒子を多く含む土が堆積している。底面 ローム層中に作られており、おおむね平坦となっている。壁は底面から急斜度で立ち上がる。出土遺物 なし。時期 不明。

C区 SK-10 (第37図, 第22表)

位置 調査区北部にあたるAE-18 グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 調査区際の一部を拡張して確認したため、全体の形状や規模についてはほとんど不明である。主軸方向 不明。

覆土 ローム粒子を多量に含む褐色土が堆積している。底面 ローム層上面に作られており平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。出土遺物 なし。時期 不明。



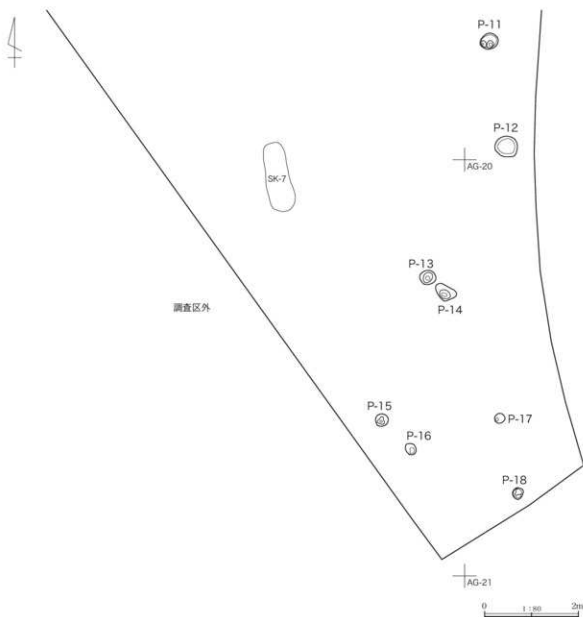
第37図 C区SK-1・4・7・9・10遺構実測図

4 ビット

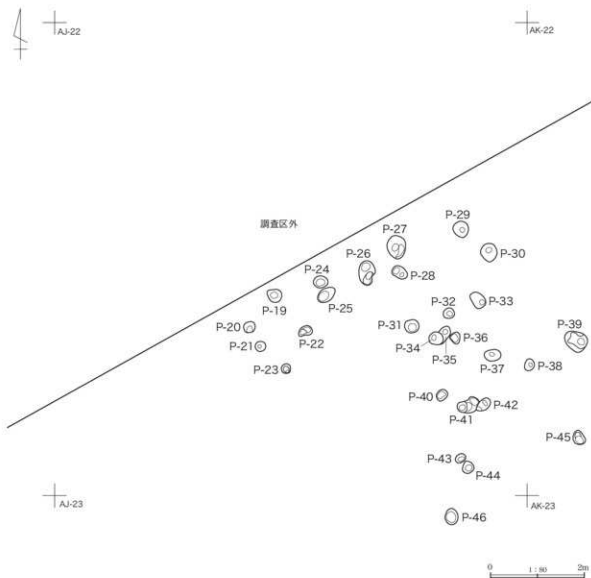
東側に傾斜する台地上に、1区の南端と2区の北端に集中し、36基が確認されている。計測表にまとめる。

第23表 C区ビット計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土 遺物	重複関係
P-11	1	AG-19	N-65°-E	楕円形	0.40	0.32	0.23	無	
P-12	1	AG-19	N-0°	楕円形	0.47	0.42	0.20	無	
P-13	1	AF-20	N-0°	楕円形	0.32	0.30	0.28	無	
P-14	1	AF-20	N-60°-W	不整形	0.40	0.32	0.26	無	
P-15	1	AF-20	-	円形	0.25	0.25	0.23	無	
P-16	1	AF-20	N-40°-W	楕円形	0.25	0.20	0.21	無	
P-17	1	AG-20	-	円形	0.22	0.20	0.25	無	
P-18	1	AG-20	-	円形	0.24	0.22	0.22	無	
P-19	2	AJ-22	N-50°-W	楕円形	0.30	0.27	0.25	無	
P-20	2	AJ-22	-	円形	0.24	0.23	0.24	無	
P-21	2	AJ-22	-	円形	0.22	0.21	0.31	無	
P-22	2	AJ-22	N-50°-W	楕円形	0.31	0.20	0.27	無	
P-23	2	AJ-22	-	円形	0.19	0.19	0.20	無	
P-24	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.31	0.26	0.35	無	
P-25	2	AJ-22	N-57°-E	楕円形	0.42	0.28	0.34	無	
P-26	2	AJ-22	N-8°-W	楕円形	0.52	0.34	0.35	無	
P-27	2	AJ-22	N-11°-W	楕円形	0.49	0.39	0.41	無	
P-28	2	AJ-22	N-31°-W	楕円形	0.34	0.24	0.30	無	
P-29	2	AJ-22	-	円形	0.33	0.32	0.54	無	
P-30	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.40	0.34	0.43	無	
P-31	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.30	0.26	0.33	無	
P-32	2	AJ-22	-	円形	0.22	0.22	0.26	無	
P-33	2	AJ-22	N-40°-W	楕円形	0.37	0.26	0.37	無	
P-34	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.30	0.26	0.22	無	P-35と重複
P-35	2	AJ-22	N-51°-E	楕円形	0.35	0.22	0.28	無	P-34と重複
P-36	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.25	0.22	0.29	無	
P-37	2	AJ-22	N-75°-E	楕円形	0.35	0.25	0.18	無	
P-38	2	AK-22	N-0°	楕円形	0.25	0.20	0.44	無	
P-39	2	AK-22	N-60°-W	楕円形	0.48	0.38	0.28	無	
P-40	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.25	0.20	0.25	無	
P-41	2	AJ-22	N-65°-E	不整形	0.46	0.27	0.30	無	P-42と重複
P-42	2	AJ-22	N-49°-E	楕円形	0.35	0.22	0.26	無	P-41と重複
P-43	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.23	0.18	0.15	無	
P-44	2	AJ-22	N-0°	楕円形	0.25	0.25	0.49	無	
P-45	2	AK-22	N-0°	楕円形	0.30	0.26	0.30	無	
P-46	2	AJ-23	N-0°	楕円形	0.34	0.29	0.31	無	



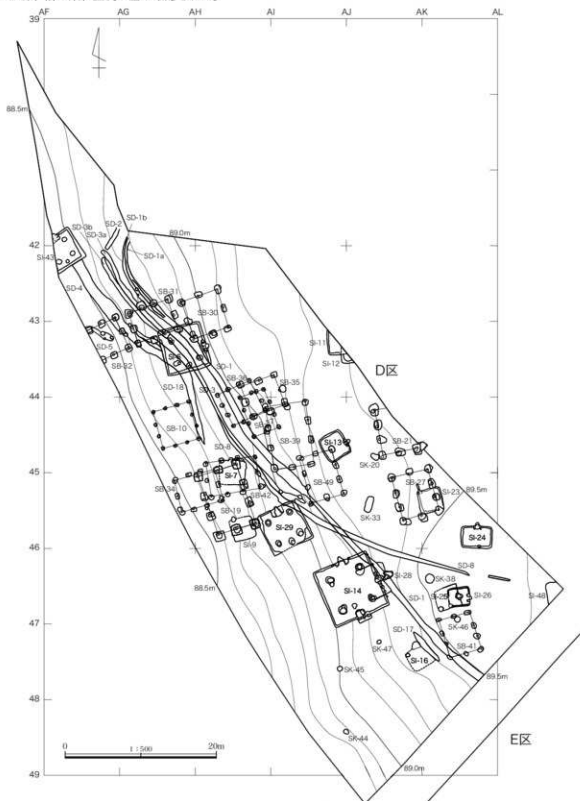
第38図 C区ピット遺構実測図(1)



第39図 C区ピット遺構実測図(2)

第7節 D区

台地の中央やや南寄りに位置するD区は、道路を挟んでE区に隣接する。竪穴建物跡16軒、掘立柱建物跡15棟、溝8条、土坑7基が確認された。



第40図 D区全体図

1. 竪穴建物跡

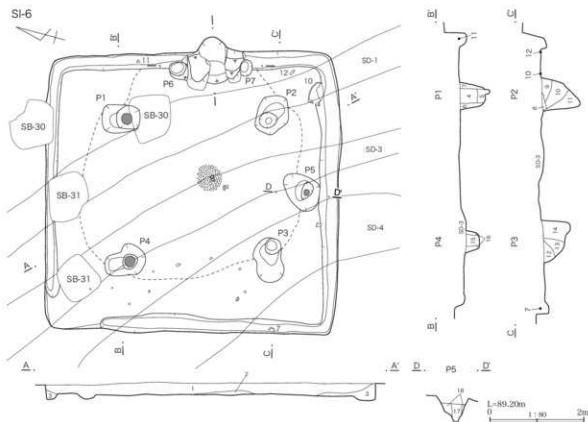
西側に傾斜する台地上から落ち際に16軒が確認されている。

第24表 D区竪穴建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	炉	カマド	貯蔵穴	炊爨	間仕 切壁	出土 遺物	重複関係
SI-6	AG-43 AH-42・43	N-75° - E	方形	6.00	6.20	0.30	7	有	有	無	有	無	有	SB-30, SD-1・3・4より古 SB-31より新
SI-7	AH-44・45	N-0°	方形	(3.60)	3.20	-	無	無	有	無	無	無	有	SB-34・42より古 SB-19より新
SI-9	AH-45	N-75° - E	方形	3.10	3.00	0.10	無	無	2	無	無	無	有	SB-19より新
SI-11	AJ-43	N-0°	方形	[2.50]	[3.30]	0.10	3	無	無	無	有	無	有	SI-12より新
SI-12	AI・AJ-43	N-0°	方形	[1.50]	[2.40]	0.30	無	無	無	無	有	無	有	SI-11より古
SI-13	AI・AJ-44	N-60° - E	方形	3.40	3.60	0.30	無	無	有	無	有	無	有	SB-49より古
SI-14	AJ-46・47 AJ-46	N-67° - E	方形	7.80	8.00	0.20	16	無	2	有	有	無	有	SI-28, SD-1より新
SI-16	AJ・AK-47	N-25° - W	方形	3.10	2.80	-	1	無	有	無	無	無	有	SD-17より古
SI-23	AJ・AK-45	N-15° - W	方形	3.10	3.20	0.15	無	無	有	無	有	無	有	SB-27より古
SI-24	AK-45	N-0°	長方形	4.20	2.90	0.30	1	無	有	無	有	無	有	
SI-25	AK-46	N-70° - E	方形	3.10	3.00	-	1	無	有	無	無	無	有	SI-26より新
SI-26	AK-46	N-86° - E	方形	2.90	2.60	0.10	無	無	有	無	有	無	有	SI-25より古
SI-28	AJ-46	N-70° - E	方形	[3.50]	4.40	-	無	無	有	無	無	無	有	SI-14, SD-1より古
SI-29	AH-45 AI-45・46	N-30° - W	方形	5.80	5.70	-	5	有	有	有	有	無	有	SB-49, SD-8より古
SI-43	AF-41・42	N-30° - W	方形か	[4.40]	4.70	0.40	4	無	有	無	有	無	有	SD-4より新
SI-48	AL-46	N-10° - W	方形か	[3.00]	[2.20]	-	無	無	無	無	無	無	無	

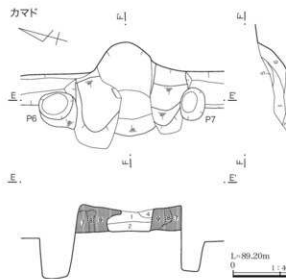
D区 SI-6 (第41-43図、第24・25表、図版一〇・一一二・一一三・一四八)

位置 調査区北部にあたる、AG-43、AH-42・43グリッドに位置する。重複関係 SB-30、SD-1・3・4より古く、SB-31より新しい。**平面形状・規模** 南北にわずかに長い長方形で、東西6.0m、南北6.2m、面積は37.2㎡である。壁は遺存状況の良い部分で30cmである。**主軸方向** N-75° - E **覆土** 3層で、地山由来のローム粒子を多く含む褐色土である。**床面** 地山であるローム層を床面としており、貼床等は確認されなかった。主柱穴で囲まれた範囲を中心に踏み締まりとみられる硬化面が確認された。また北西隅を除き、壁に沿って幅20～40cm、深さ10cmほどの壁溝が巡る。**柱穴等** 主柱穴とみられるP1～4と、入口施設とみられるP5、カマドに付随するP6・7を確認した。主柱穴の規模はP1が長軸80cm、短軸70cm、深さ30cm、P2が長軸100cm、短軸60cm、深さ60cm、P3が長軸80cm、単軸70cm、深さ80cm、P4が長軸90cm、短軸65cm、深さ56cmである。P1・4からは直径30～40cmほどの柱痕跡が確認されている。入口施設とみられるP5は南壁中央に接して位置しており、直径90cm、深さ50cmであり、中央には直径20cmほどの柱痕跡が確認されている。P6・7はカマドの両袖脇に位置している。いずれも直径40cm、深さ50cmほどで、おそらくカマド部分の屋根の傾斜を変えるための柱穴とみられる。**カマド** 東壁中央に位置しており、灰色粘土で構築された両袖と燃焼部・煙道が遺存していた。袖は幅60cm、竪穴壁からの長さ70cm、高さ30cm、両袖間の幅30cmである。また天井部のアーチ構造が一部遺存しており、高さは20cmほどである。燃焼部は底面および袖の内側が焼土化しているが、焼け方は弱い。煙道は竪穴壁から短く張り出している。**炉** 竪穴中央部分において、直径50cmほどの範囲で焼けた痕跡を確認した。地床炉の可能性が高いが、焼け方が弱い。**出土遺物** 南東隅付近から、土師器の長胴甕が出土している。他は小さい破片が散発的に出土している。土師器壺1点、甕3点、須恵器環3点、高台付環1点、皿1点、粗製土器1点、土鈴1点、



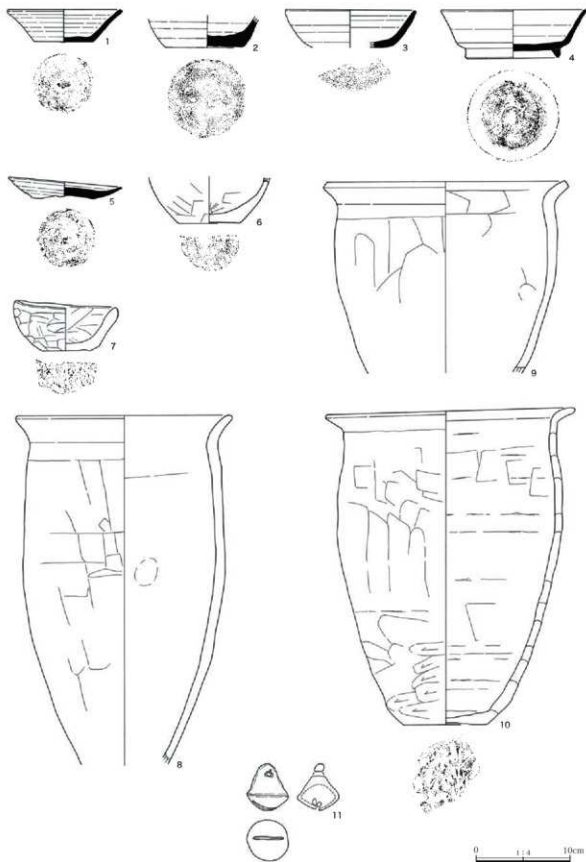
- SI-6
- 1 褐色土 ローム粒子・焼土粒子やや少、白色粒子微量。しまりあり。粘性欠ける。
 - 2 褐色土 ローム粒子やや多量。焼土粒子やや少。しまりややあり。粘性やや欠ける。
 - 3 褐色土 ローム粒子やや多量。ロームブロック・焼土粒子・灰色粘土ブロック少量。しまりあり。粘性欠ける。
 - 4 褐色土 ローム粒子少量。KP粒子・焼土粒子微量。しまりあり。粘性あり。
 - 5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。KP粒子・KPブロック少量。しまりあり。粘性あり。
 - 6 褐色土 ローム粒子・KP粒子やや少。焼土粒子・灰色物粒子微量。しまりあり。粘性あり。
 - 7 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。KP粒子微量。しまりあり。粘性やや欠ける。

- 8 褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 明褐色土 ローム粒子多量。焼土粒子少量。しまりあり。粘性あり。
- 10 明褐色土 ローム粒子多量。ロームブロックやや多量。焼土粒子微量。しまりあり。粘性あり。
- 11 暗褐色土 古い柱痕。
- 12 暗褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子微量。しまりやや欠ける。
- 13 明褐色土 ローム粒子多量。白色粒子微量。しまり欠ける。粘性ややあり。
- 14 暗褐色土 古い柱痕。
- 15 明褐色土 ローム粒子やや少。しまりあり。粘性欠ける。
- 16 明褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりあり。粘性やや欠ける。
- 17 暗褐色土 ローム粒子・KPブロック少量。しまり欠ける。粘性ややあり。
- 18 明褐色土 ローム粒子多量。しまり欠ける。粘性ややあり。



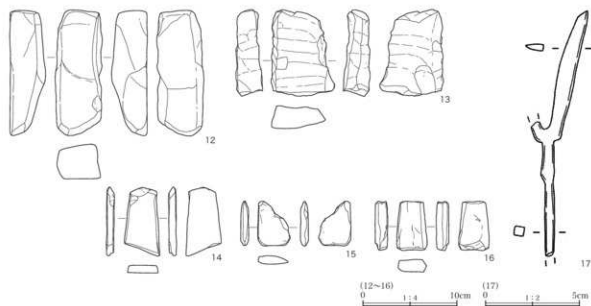
- SI-6 カマド
- 1 灰褐色砂質土 砂粒やや多量。ローム粒子・焼土粒子少量。しまりあり。粘性あり。(流入土)
 - 2 暗赤褐色土 焼土粒子・山砂粒子やや多量。しまりあり。粘性あり。(燃灰土)
 - 3 明灰褐色土 山砂主体。焼土粒子少量。しまりあり。粘性あり。(天舟御落土)
 - 4 明灰褐色砂質土 山砂主体。焼土粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。(天舟)
 - 5 暗灰褐色土 山砂主体。焼土粒子やや多量。炭化物粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。(天舟御落)
 - 6 暗赤褐色土 焼土多量。山砂少量。しまり欠ける。粘性ややあり。(流入土)
 - 7 灰色粘土 褐色土少量。しまりあり。粘性欠ける。(燻)
 - 8 明赤褐色土 焼土。しまりあり。粘性欠ける。(燻)
 - 9 灰褐色粘質土 焼土やや少。ローム粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。(天舟・燻)

第41図 D区SI-6遺構実測図



第42圖 D区SI-6出土遺物実測圖(1)

石5点、鉄製品1点を図示した。1は須恵器の環である。焼きが悪く、にぶい褐色を呈する。5は歪みが著しく、焼成時のひび割れがみられる。11は土鈴で、中に玉が2つ入っている。12は編物石か。13～16は用途不明の石である。17は雁股の鉄鍔である。そのほかに土師器環7点38.01g、埴1点253.65g、甕118点3486.18g、須恵器環7点95.08g、蓋19点394.63g、高坏7点95.08g、鉢4点41.87g、壺1点60.5g、甕15点303.81gが出土している。時期 9世紀中葉。



第43図 D区SI-6出土遺物実測図(2)

第25表 D区SI-6出土遺物観察表

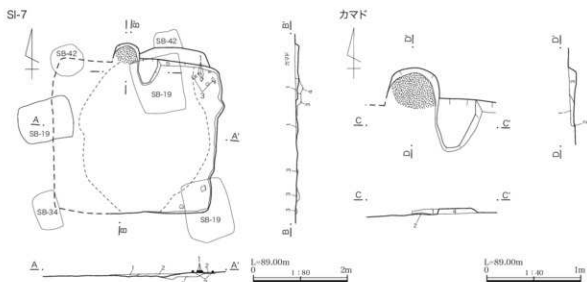
検出 No.	No.	種類 名称	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
42	1	須恵器 環	口径 11.9 底径 6.3 高さ 3.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	砂粒・礫少量	不良	口縁部外面 スス付着	底部へラ切り後回転ナデ	完形	覆土中	D区SI-6	磁子産
42	2	須恵器 環	口径 - 底径 8.2 高さ (3.3)	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/2 黄灰	砂粒少量、礫 微量	良好		ロクロ目陶器 底部へラ切り	底部完存	覆土中	D区SI-6	磁子産
42	3	須恵器 環	口径 (13.6) 底径 4.0	外面 2.5Y5/2 黄灰 内面 10YR5/2 灰黄	砂粒・白色粒 子多量	やや 良好	表面が割れ ている	ロクロ目 手にナデ消される 底部へラ切り不明後回転 ナデ	口縁・底部 1/6 残存	覆土中	D区SI-6 カマド一括	磁子産
42	4	須恵器 高台付環	口径 15.3 底径 9.5 高さ 5.1	2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量、礫 微量	良好		ロクロ目陶器 底部へラ切り後回転へラケ ズリ 高台貼付	口縁部 5/12 残存、 底部完存	覆土中	D区SI-6	磁子産
42	5	須恵器 皿	口径 12.0 底径 6.6 高さ 2.2	2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量	良好	歪み陶器、 焼成時のひ び割れあり	ロクロ目陶器 底部へラ切り後回転ナデ	口縁・底部 5/12 残存、 底部完存	覆土中	D区SI-6	磁子産
42	6	土師器 埴か	口径 - 底径 (6.4) 高さ (4.7)	外面 7.5YR5/3 にぶい褐色 内面 7.5YR3/1 黄灰	砂粒少量	良好	内面 黒色胎 土	胴部外面へラケズリ 胴部内面へラナデ	口縁・底部 1/2 残存	覆土中	D区SI-6 カマド一括	
42	7	雁股土師 器環	口径 (11.0) 底径 (5.0) 高さ 5.4	外面 10YR5/3 にぶい黄褐色 内面 10YR4/3 にぶい黄褐色	砂粒少量	良好	黒斑あり	口縁部内外面 ココナデ 胴部内外面 ナデ・ヘ ラナデ 底部へラケズリ	口縁・底部 1/2 残存	覆土中	D区SI-6 No.2	
42	8	土師器 甕	口径 (23.0) 底径 - 高さ (37.0)	外面 5YR4/3 にぶい赤褐色 内面 7.5YR4/2 灰褐色	砂粒・礫多量	良好	外面 スス付 着	口縁部内外面 ココナデ 胴部外面へラケズリ・ナ デ 胴部内面 ナデ	口縁・胴部 1/6 残存	覆土中	D区SI-6 カマド一括・カ マドNo.71 付託	

42	9	土師器 甕	口径 25.0 底径 20.0 高さ 20.0	外面 10YR5/4 にふい黄褐色 内面 7.5YR5/4 にふい褐色	砂粒・礫多量	良好	胴部外面 ス ス付着	口縁部 ココナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面 ナデ	口縁一側部 1/4残存	覆土中	D区 SI-6 一括	
42	10	土師器 甕	口径 (26.2) 底径 (9.0) 高さ 33.5	10YR6/4 にふい黄褐色	砂粒少量	良好	黒皮あり	口縁部内外面 ココナデ 胴部外面上下ヘラナデ 胴部外面下平ケズリ 胴部内面 ヘラナデ 底部 木葉痕 砥石痕	口縁部 1/4、胴一 側部 1/3残 存	床面直 上	D区 SI-6 No.13	
42	11	土製品 土鈴	高さ 4.92 幅 4.28 厚 4.41 重 35.53	10YR5/4 にふい黄褐色	砂粒少量	やや 不貞		須恵質	完存	溝槽底 面直上	D区 SI-6 No.16	中玉2点
42	12	陶物石か	長 13.4 幅 5.0 厚 3.9 重 376.82		砂岩				ほぼ完存	床面直 上	D区 SI-6 No.14	
43	13	石 (用途不明)	長 9.2 幅 6.7 厚 2.8 重 210.0		チャート				一部欠損	覆土中	D区 SI-6	
43	14	石 (用途不明)	長 7.3 幅 3.3 厚 0.8 重 38.19		灰岩				ほぼ完存	覆土中	D区 SI-6	
43	15	石製品 (用途不明)	長 4.8 幅 3.4 厚 6.9 重 17.7		チャート				一部欠損	覆土中	D区 SI-6	
43	16	石製品 (用途不明)	長 5.2 幅 2.2 厚 1.3 重 38.03		蛇紋岩				ほぼ完存	覆土中	D区 SI-6	
43	17	鉄製品 鉄鏝	長 [12.8] 幅 [1.66] 厚 0.51 重 14.92					薄板	鉄鏝身部片 方基部先端 欠損	覆土中	D区 SI-6 一括	

D区 SI-7 (第44図、第24・26表、図版一〇)

位置 調査区中央西側にあたるAH-44・45グリッドに位置する。重複関係 SB-34・42より古く、SB-19より新しい。平面形状・規模 遺存状況が極めて悪く、西壁は推定ラインであるが、東西方向がわずかに長い方形とみられる。東西3.6m、南北3.2m、面積は11.52㎡である。壁はほとんど遺存していない。

主軸方向 N-0° 覆土 2層で地山由来のローム粒子やロームブロックを含む黄褐色土または暗褐色土である。このうち3・4層は貼床の残骸とみられるが、その他は遺存状況がよくないため堆積要因については不明である。床面 壁に沿って貼床が確認された。貼床構築土にはロームブロックを多く含む土が使用されている。そのほかの部分にはローム層を床面にしているとみられる。また竪穴中央部を中心に踏み締まりとみられる硬化面が確認された。柱穴等 確認できなかった。カマド 北壁中央に位置しており、灰褐色の粘質土で構築された袖の片方と、燃焼部が遺存していた。袖は幅40cm、竪穴壁からの長さ40cm、高さ5cmほどが遺存していた。燃焼部は竪穴壁から短く張り出しており、底面がわずかに焼土化している。出土遺物 北東隅を中心に土師器の破片が出土している。土師器環1点、甕1点、須恵器環1点を図示した。2は底部内面に朱墨が確認された。このほかに土師器環15点42.91g、甕18点419.11g、須恵器環12点74.14g、蓋1点3.66g、甕9点176.25g、壺1点6.58g、瓦9点19.69gが出土している。時期 9世紀中葉。

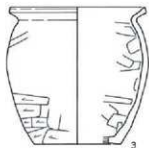
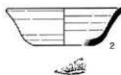


SI-7

- 1 黒褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。焼土若干。しまりあり。粘性普通。(築地)
- 4 黒褐色土 ロームブロック多量。ローム粒子少量。しまりやや欠ける。粘性普通。(築地)

SI-7 カマド

- 1 褐色土 ローム粒子多量。焼土粒子少量。しまりあり。粘性欠ける。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量。焼土粒子微量。しまりややあり。粘性欠ける。
- 3 暗赤褐色土 焼土粒子多量。ローム粒子少量。炭化物粒子微量。しまりやや欠ける。粘性欠ける。(燃焼部)
- 4 灰褐色粘質土 ローム粒子やや少量。焼土粒子・灰色粘土ブロック少量。しまりあり。粘性やや欠ける。(皿)



0 1:4 10cm

第44図 D区 SI-7遺構・出土遺物実測図

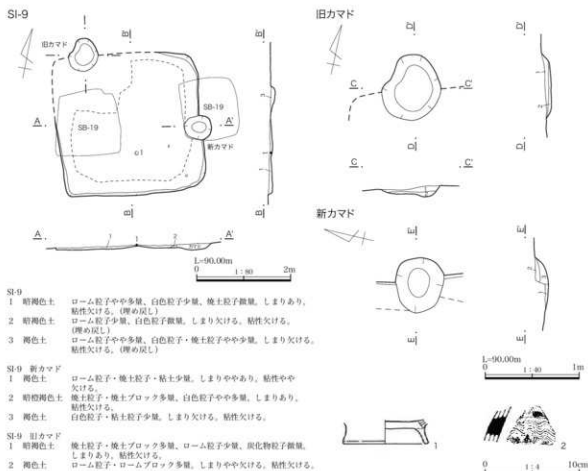
第26表 D区 SI-7出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 形状	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
44	1	土師器 杯	口径 (14.2) 底径 (4.9) 器高 14.9	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 7.5YR3/1 整地	砂粒少量。黒 色粒子微量	良好	内面 黒色処理	内面へつみガキ 口縁部外面 ロケロナデ 体部外面 ナメカ	口縁部 1/3 残存	体面直 上	D区 SI-7 No.7・8・9・ 北東隅	
44	2	土師器 杯	口径 (11.9) 底径 (6.4) 器高 4.0	10YR6/4 にぶい黄褐	砂粒少量。黒 色粒子微量	やや 不良	底部内面 未塗	口縁口縁直	一部残存	覆土中	D区 SI-7	産地不明
44	3	土師器 壺	口径 (14.2) 底径 (9.0) 器高 14.6	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 7.5YR5/3 にぶい褐	砂粒少量。黒 色粒子微量	良好	スス付着	口縁部内外面 ココナデ 胴部外面上平 ナデ 胴部下半～底部外面へつ みガキ 内面 ナデ	1/8 残存	体面直 上	D区 SI-7 No.5・11・ 北東隅	

D区 SI-9 (第45図、第24・27表、図版一一)

位置 調査区中央西側にあたる AH-45 グリッドに位置する。**重複関係** SB-19と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い長方形で、東西 3.1 m、南北 3.0 m、面積は 9.3 m² であ

壁は遺存状況の良い部分で10cmである。主軸方向 N-75°-E 覆土 地山由来のローム粒子を多く含む暗褐色土および褐色土の3層からなる。いずれも人為的な埋戻しとみられる。床面 地山であるローム層を床面としており、やや凹凸が認められる。中央部分では踏み締まりとみられる硬化面が認められた。柱穴等 確認できなかった。カマド 北壁西寄りと東壁中央にそれぞれ位置しており、前者が古く、後者が新しいカマドとみられる。いずれも遺存状況が悪く燃焼部の一部と下部の掘方を確認した。北壁に位置する旧カマドは長軸70cm、短軸60cmである。覆土には焼土ブロックやロームブロックが多く含まれている。東壁に位置する新カマドは長軸58cm、短軸56cmである。旧カマドと同様に焼土ブロックやロームブロックを多く含む土が堆積している。出土遺物 土師器高台付杯1点、須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器杯5点28.39g、鉢5点32.46g、甕10点86.93g、須恵器杯12点74.14g、蓋2点4.78g、甕10点203.52gが出土している。時期 9世紀後半～10世紀。



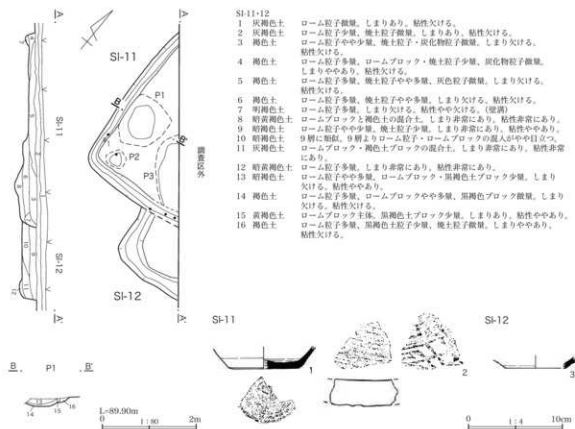
第45図 D区SI-9遺構・出土遺物実測図

第27表 D区SI-9出土遺物観察表

図記号	No.	種類 器種	計量値 (cm・g)	色調	新土・石質	焼成	断面の状態	器形・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	発見・備考
45	1	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (9.6) 高さ (2.5)	外面7SYR4/3 藍 内面10YR3/1 黒黒	砂粒少量、礫 石子	良好	外部底面 黒色 処理	底部外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ後へツミ 高台取付	1/3 残存	床面直上	D区SI-9 No.3	
45	2	須恵器 甕	口径 - 底径 - 高さ (4.1)	5Y6/1 灰	砂粒少量	良好		ロクロナデ 縞縞状文	一部残存	覆土中	D区SI-9	産地不明

D区 SI-11・12 (第46図、第24・28表、図版一)

位置 調査区東側にあたる AI-43、AJ-43 グリッドに位置する。**重複関係** 2軒の竪穴建物跡が重複しており、SI-12が古く、SI-11が新しい。**平面形状・規模** 大半が調査区外のため詳細は不明であるが、いずれも方形を基調とした竪穴建物跡の南西隅部分と考えられる。SI-11は確認できた範囲で東西2.5 m以上、南北3.3 m以上、壁は遺存状況の良い部分が10 cmほどである。SI-12は確認できた範囲で東西1.5 m以上、南北2.4 m以上、壁は遺存状況の良い部分が30 cmほどである。**主軸方向** N-0° **覆土** 表土である1・2層以下を10層に分層し、3～8層がSI-11の覆土、9～12層がSI-12の覆土である。SI-11は6層下の7層から建て替えの可能性がある。3～5・7層は竪穴を覆う土でローム・埴土・炭化物を多く含む。7層は壁溝、6・8層は旧段階の貼床と考えられる。SI-12の覆土も地山由来のローム粒子を多量に含んでいる。**床面** SI-11・12ともにローム層を床面としている。またいずれも壁に沿って幅20～30 cm、深さ10 cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** SI-12では柱穴は確認されなかった。SI-11は床下土坑が3基確認されている。床下土坑はいずれも不整形でP1は長軸110 cm、短軸90 cm、深さ14 cm、P2は長軸44 cm、短軸35 cm、深さ10 cm、P3は長軸110 cm、短軸50 cm以上、深さ30 cmである。床の構築に関する土坑の可能性もある。**カマド** 調査した範囲では確認されなかった。**出土遺物** 須恵器環2点、瓦1点を図示した。1は底面に刻書が確認されている。このほかに土師器環70点893.42 g、甕397.57 g、須恵器環75点926.58 g、高台付環2点113.2 g、蓋4点19.15 g、甕23点153.02 gが出土している。**時期** SI-11は9世紀第1四半期、SI-12は9世紀後葉。



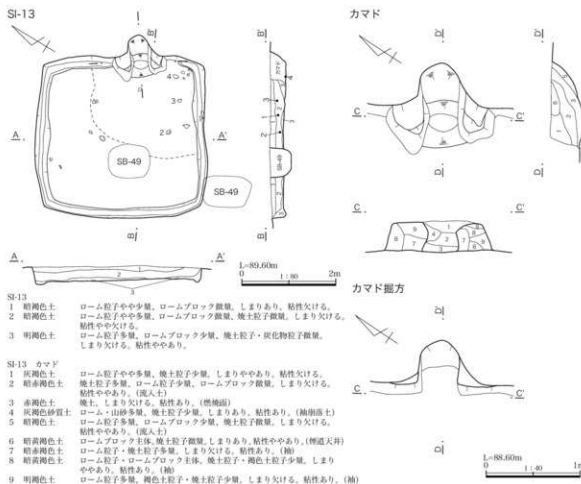
第46図 D区 SI-11・12 遺構・出土遺物実測図

第28表 D区SI-11・12出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	胎面の状態	胎形・胎形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
46	1	須恵器 環	L径 底径 (7.4) 胎高 (2.4)	10YR4/1 黒灰	砂粒少量、赤 色粒子微量	良好	滑溜あり「一」 か	口クロ目縁着	胎面1/4 現存	壁面滑 上	D区SI-11 No.6	磁子産
46	2	瓦瓦	厚 2.7 重 116.92	外面 10YR6/3 にぶい黄褐色 内面 10YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒・塵多量	やや 不良		凸面 格子タタキ 凹面 糸切り痕	一部現存	覆土中	D区SI-11 フタ土中	
46	3	須恵器 環	L径 底径 (6.4) 胎高 (1.2)	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂粒少量	不良			体~底面 一部現存	覆土中	D区SI-12	産地不明

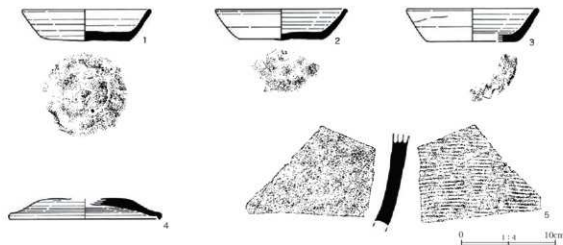
D区SI-13 (第47-48図、第24-29表、図版一・二・三)

位置 調査区中央部にあたるAI・AJ-44グリッドに位置する。重複関係 SB-49と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 南北方向にわずかに長い方形である。東西3.4m、南北3.6m、面積は12.24㎡である。壁は遺存状況の良い部分で30cmほどである。主軸方向 N-60°-E 覆土 3層確認した。暗褐色土または明褐色土が堆積しており、レンズ状の堆積状況を示している。床面 貼床等は認められずローム層を床面としており、平坦に作られている。カマド前面を中心に踏み締まりとみられる硬化面が形成



第47図 D区SI-13遺構実測図

されている。また壁に沿って幅20～30cm、深さ10cmの壁溝が巡っている。柱穴等 確認できなかった。カマド 北東壁南寄りに位置しており、ロームブロックを主体とした暗褐色土で構築された両袖と燃焼部と煙道が遺存していた。袖は幅40cm、竪穴壁からの長さ50cm、高さ30cm、両袖間の幅30cmである。燃焼部は良く焼けており、底面は赤褐色に焼土化している。煙道は竪穴壁から短く張り出しており、緩やかな立ち上がりを示す。出土遺物 須恵器環3点、蓋1点、甕1点を図示した。3点の環はヘラ切り後、ヘラケズリに近い回転ナデで底面を調整している。須恵器はすべて益子産である。このほかに土師器甕13点397.57g、須恵器環67点874.57g、蓋8点88.08g、高台付杯2点113.2g、甕13点77.77g、壺1点10.95gが出土している。時期 8世紀第4四半期。



第48図 D区SI-13出土遺物実測図

第29表 D区SI-13出土遺物観察表

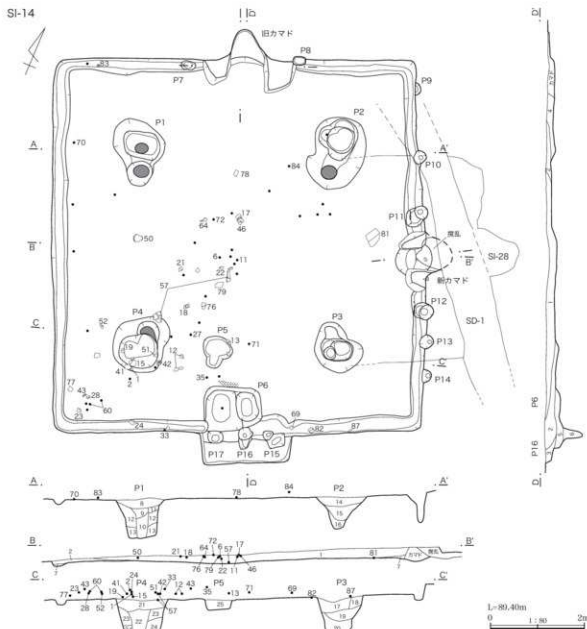
種別No.	種類 名称	非腐蝕 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
48-1	須恵器 環	口径(13.3) 底径 9.0 器高 3.4	外面 2.5Y6/3 に深い黄 内面 10YR6/2 灰黄褐色	砂粒・塵少量	良好		底部へつ切り後回転ナデ	口縁部 1/3 残存、 底部完存	床土約 6cm	D区SI-13 No.9	益子産
48-2	須恵器 環	口径(13.6) 底径(9.8) 器高 3.3	外面 7.5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、礫 若干	良好		口縁目面磨 底部へつ切り後回転ナデ	口縁部 1/8、底部 1/4 残存	床土約 4cm	D区SI-13 No.7	益子産
48-3	須恵器 環	口径(13.6) 底径(9.8) 器高 3.5	外面 10Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量	良好		口縁目面磨 底部へつ切り後回転ナデ	口縁～体 部 1/4 残 存	床土約 10cm	D区SI-13 No.10	益子産
48-4	須恵器 蓋	口径(15.7) 底径 - 器高 [2.2]	外面 10YR4/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒少量、礫 若干	良好	つまみの痕跡 あり	口縁目面磨 天井部 回転ヘラケズリ	1/4 残存	床面直 上	D区SI-13 No.11・一 括	益子産
48-5	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [9.5]	外面 2.5Y3/1 黄褐色 内面 5Y4/1 灰	砂粒・塵少量	良好	自然輪付着	胴部外面 平行タタキ 胴部内面当て具磨 ナデ消し	胴部一部 残存	覆土中	D区SI-13 D	益子産

D区 SI-14 (第49-55図、第24-30表、図版一一・一二・一三・一四・一五・一四八)

位置 調査区南部にあたるAI-46・47、AJ-46グリッドに位置する。**重複関係** SI-28、SD-1と重複しており、本遺構が新しい。また主柱穴やカマドの調査所見から、一度建て替えられたと考えられる。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い方形で、東西7.8m、南北8.0m、面積は62.4㎡である。壁は遺存状況の長い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-67°-E **覆土** ロームブロックや焼土粒子を多く含む土を主体としており、2・3層は人為的な埋め戻しとみられる。**床面** 貼床等は認められず、ローム層を床面としており、比較的平坦に作られている。また壁に沿って幅20cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等**

主柱穴とみられるもの(P1～4)のほか、性格不明なもの(P5)と、壁柱穴(P7～17)、が認められた。主柱穴はいずれも楕円形を基調としており、いずれも1度建て替えを行ったとみられる。柱穴の重複状況から古い柱穴の南側に新しい柱を立てた様子が窺える。柱穴の規模はP1が長軸140cm、短軸110cm、深さ80cm、P2は長軸120cm、短軸110cm、深さ70cm、P3が長軸110cm、短軸100cm、深さ80cm、P4が長軸150cm、短軸110cm、深さ60cmである。なおP3を除いて直径20cmほどの柱痕跡が確認されている。壁柱穴とみられるものは北カマド両脇(P7・8)、東カマド周辺(P9～14)、張り出し部分(P15～17)にそれぞれ位置している。規模はいずれも直径20～30cm、深さ50cmほどである。P7～14はカマド部分の上屋傾斜を変えるものと推測される。**貯蔵穴** 貯蔵穴または裏掘穴とみられるP6は南壁中央に位置している。平面形は東西方向に長い長方形で規模は長軸120cm、短軸100cm、深さは10～20cmほどと浅い。なおP6に接して床面に粘土ブロックが確認されており、本施設に関連するものの可能性がある。**張り出し** 南壁中央部分に位置し、幅1.9m、竪穴壁ラインから50cmほど外側に張り出している。前述した貯蔵穴および壁柱穴と接している。大裏を掘えた場所か。**カマド** カマドは北壁中央および東壁中央に位置している。全体的な遺存状況から、北カマドが古く、東カマドがやや新しいとみられる。北壁の旧カマドは灰褐色・明灰色の砂質土で構築された両袖と燃焼部・煙道が遺存していた。袖は幅50～65cm、竪穴壁からの長さ70cm、高さ両袖間の長さ75cmである。カマドに向かって右側の袖の遺存率が高い。燃焼部は底面および袖の内側が焼土化している。煙道は竪穴壁から短く伸びている。東壁の新カマドは灰色の砂質土で構築された両袖と燃焼部、煙道の一部が遺存していた。袖の幅は50cm、竪穴壁からの長さ50cm、両袖間の長さ43cmである。燃焼部底面は非常に良く焼けており、赤褐色に焼土化している。**出土遺物** 建物の中央から南西部から土師器の裏や須恵器の坏などの多量の遺物が出土している。多くは覆土中～上層にかけてである。土師器坏2点、高台付坏1点、鉢1点、甕6点、須恵器坏30点、高台付坏7点、盤3点、捏鉢1点、蓋10点、甕4点、甕5点、陶器蓋1点、土製支脚1点、瓦9点、カマド構築材1点、土製紡錘車1点、鉄製品4点を図示した。13と50には墨書、5と14には「-」、36の底部には「井」に類似した刻書が確認された。41・43は転用視の可能性が高く、底部の内面は平滑で赤色物が付着する。72は土製支脚の一部である。75・76・79は被熱を受けており、その他の瓦も含め、瓦のほとんどはカマドで使用されたものと推測される。83は土製紡錘車である。84は釘、85・86は刀子で、85は木質部が残存する。87はほぼ完形の盥である。このほかに、土師器坏7点90.76g、高台付坏1点5.95g、鉢1点25.97g、埴1点9.09g、甕1202点14387.6g、甕1点7.08g、須恵器坏1012点6405.39g、高台付坏18点181.06g、高坏1点30.05g、蓋202点1980.83g、鉢1点16.67g、捏ね鉢18.18g、皿1点47.19g、甕157点3057.12g、壺3点247.05g、長頸壺72.04g、甕13点507.19g、粗製土器2点41.19g、瓦8点1869.85g、内耳土器2点63.01gが出土している。

時期 9世紀中葉。

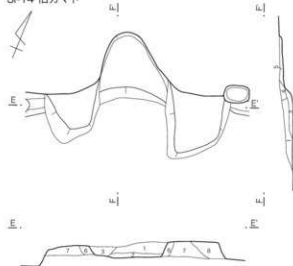


SI-14

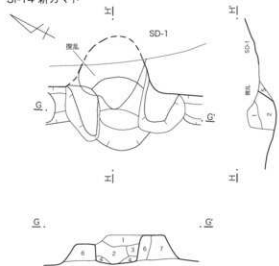
- | | | | |
|----------|---|---------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子多量, 粘土粒子・炭化物やや少量, しまり非常にあり。粘性ややあり。(埋め戻し, 土層片を多く含む)。 | 13 暗褐色土 | KPブロック主体, ローム粒子多量, しまり欠ける。粘性あり。 |
| 2 暗褐色土 | 1層に類似, 1層より焼土粒子・炭化物の混入が少なめ。(埋め戻し) | 14 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子多量, 炭化物粒子少量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 3 灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロックやや少量, 粘土粒子・炭化物やや少量, しまり非常にあり。粘性ややあり。(埋め戻し) | 15 褐色土 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子やや多量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 4 暗灰褐色土 | ローム粒子やや多量, ロームブロックやや少量, しまり非常にあり。粘性非常にあり。(埋め戻し) | 16 暗褐色土 | ローム粒子多量, ロームブロック微量, しまり欠ける。粘性あり。 |
| 5 灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量, 焼土粒子・粘土粒子・炭化物やや少量, しまり非常にあり。粘性非常にあり。(埋め戻し) | 17 暗褐色土 | ロームブロック・灰褐色ブロック・KP粒子少量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 6 暗赤灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック多量, 炭化物少量, しまり非常にあり。粘性非常にあり。 | 18 褐色土 | ローム粒子多量, KP粒子やや多量, 焼土粒子微量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 7 暗灰褐色土 | ローム粒子やや多量, 焼土粒子少量, しまり非常にあり。粘性ややあり。 | 19 褐色土 | ローム粒子少量, KP粒子・焼土粒子微量, しまり欠ける。粘性ややあり。 |
| 8 褐色土 | 焼土粒子・ローム粒子多量, KP粒子・炭化物粒子少量, しまりあり。粘性欠ける。 | 20 褐色土 | ロームブロック多量, ローム粒子少量, しまりややあり。粘性あり。 |
| 9 暗褐色土 | 焼土粒子多量, KP粒子微量, しまり欠ける。粘性ややあり。(柱頭跡) | 21 黒褐色土 | 焼土粒子やや多量, ローム粒子・炭化物粒子少量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 10 明褐色土 | ローム粒子主体, KP粒子少量, 焼土粒子微量, しまり欠ける。粘性ややあり。(柱頭跡) | 22 暗褐色土 | ローム粒子やや少量, KP粒子・焼土粒子・炭化物少量, しまりあり。 |
| 11 暗褐色土 | ローム粒子やや少量, KP粒子少量, しまりあり。粘性欠ける。 | 23 暗褐色土 | ローム粒子・KP粒子やや多量, 焼土粒子微量, しまりあり。粘性欠ける。 |
| 12 褐色土 | ローム粒子多量, ロームブロック・KP粒子少量, 焼土粒子微量, しまりあり。粘性ややあり。 | 24 灰褐色土 | KP粒子多量, KPブロック少量, しまりややあり。粘性欠ける。 |
| | | 25 褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量, しまりあり。粘性欠ける。 |

第49図 D区SI-14遺構実測図(1)

SI-14 旧カマド



SI-14 新カマド



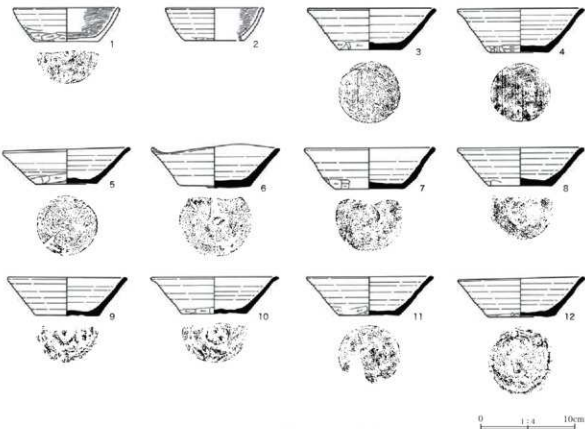
L=89.40m
0 1:80 1m

SI-14 旧カマド

- 1 灰褐色砂質土 山砂粒子多量、焼土粒子中や多量、しまりあり、粘性欠ける。(流人土)
- 2 暗赤褐色土 焼土粒子多量、山砂や中や少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(焼灰面)
- 3 暗赤褐色土 2層に似るが、焼土が中や少ない、しまり欠ける。粘性や中あり。(流人土)
- 4 灰褐色砂質土 山砂主体、焼土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(柳道天井崩落土)
- 5 赤褐色土 焼土、しまり中やあり、粘性欠ける。
- 6 明赤褐色土 焼土主体、山砂多量、しまりあり、粘性欠ける。(抽)
- 7 明褐色砂質土 山砂からなる焼土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(抽)
- 8 灰褐色砂質土 山砂粒子多量、焼土粒子中や多量、しまりあり、粘性欠ける。(抽)

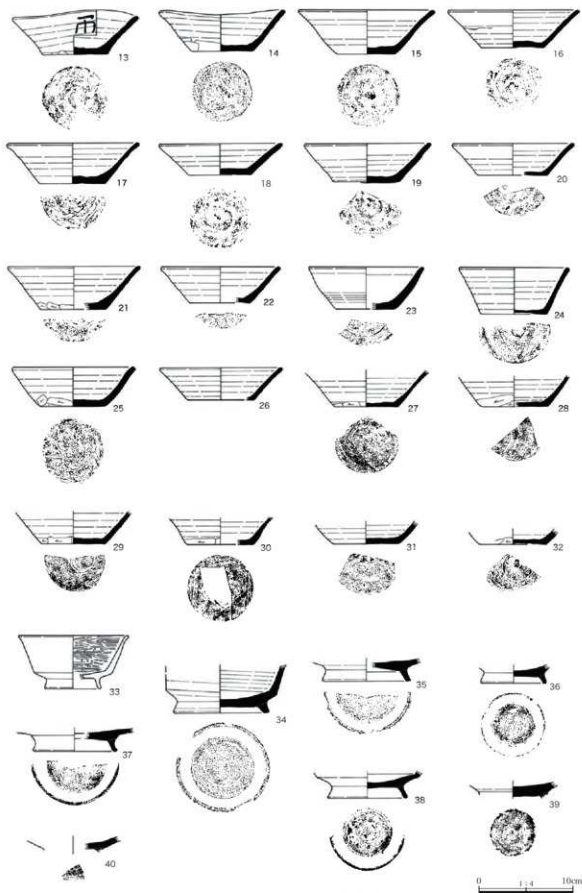
SI-14 新カマド

- 1 褐色土 焼土粒子中や少量、ローム粒子-山砂少量、しまり中やあり、粘性欠ける。(流人土)
- 2 褐色土 ローム粒子-焼土粒子-山砂少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(流人土)
- 3 赤褐色土 焼土主体、山砂少量、しまり欠ける。(柳道落土)
- 4 灰褐色土 山砂主体、ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(流人土)
- 5 赤褐色土 焼土、しまり欠ける。粘性欠ける。(柳道灰面)
- 6 灰褐色砂質土 焼土多量、しまり中やあり、粘性あり。(抽)
- 7 灰褐色砂質土 山砂主体、焼土粒子中や多量、しまりあり、粘性欠ける。(抽)

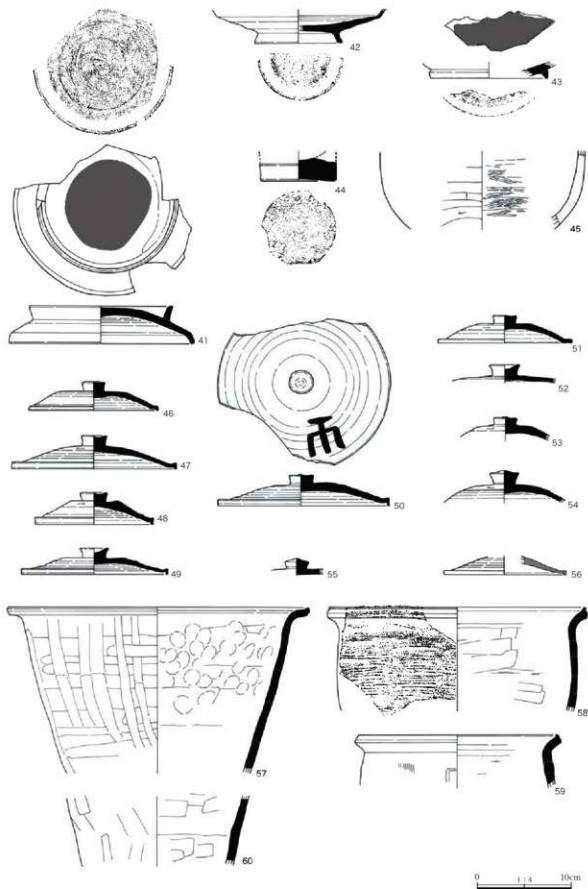


0 1:4 10cm

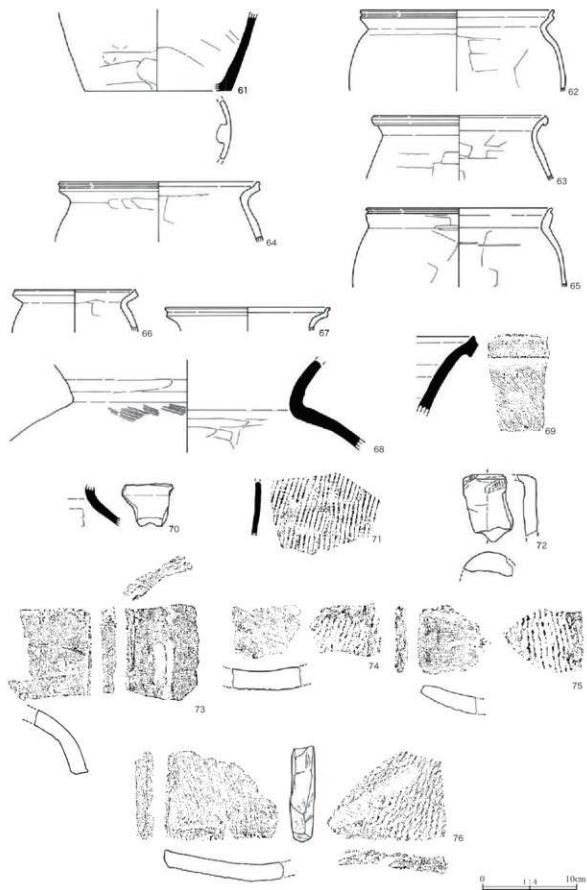
第50図 D区SI-14遺構(2)・出土遺物実測図(1)



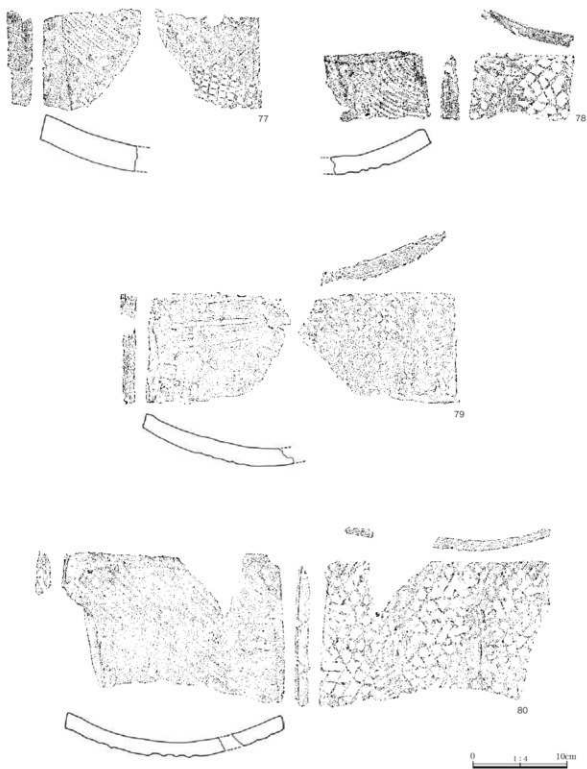
第51圖 D区SI-14出土遺物実測図(2)



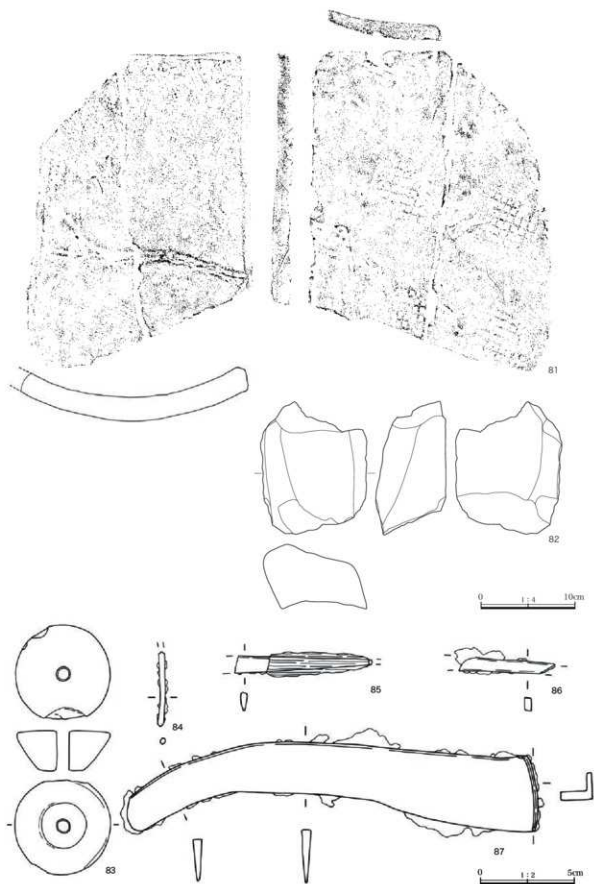
第52图 D区SI-14出土物实测图(3)



第53图 D区SI-14出土物实测图(4)



第54图 D区SI-14出土物实测图(5)



第55圖 D区SI-14出土遺物実測図(6)

第30表 D区SI-14 出土遺物観察表

探検 No.	種別 No.	種別 名称	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石 質	底成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備 考
50	1	土銅器 環	口径 (11.0) 底径 (6.5) 器高 3.6	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・礫 微量	良好		内面 ヘウミガキ 口縁部外面 ロクロナデ 体~底部 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部 1/3、底部 1/2 残存	床上約 4m	D区 SI-14 No.65	磁子産
50	2	土銅器 環	口径 (10.2) 底径 (6.4) 器高 3.5	外面 5YR5/4 に赤い濁 内面 7.5YR3/1 黒濁	砂粒少量	良好	内面 黒色地埋	外面 ロクロ目織裏 体部下端 回転ヘラケズリ 底部 ヘウツリ	口縁~体 部 1/6 残 存	床上約 20cm	D区 SI-14 No.10	磁子産
50	3	黄赤土器 環	口径 13.4 底径 6.5 器高 4.3	2.5Y3/1 黒濁	砂粒・礫 少量	良好	黒色物付着	口クロ目織裏 体部下端 回転ヘラケズリ 底部 切り難し不明後一方向 ヘラケズリ	完形	覆土中	D区 SI-14	磁子産
50	4	黄赤土器 環	口径 (13.2) 底径 6.3 器高 4.6	5Y4/1 灰	砂粒・礫 少量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後一方向ヘラ ケズリ	口縁部 1/3 残存、 底部 底部迄	覆土中	D区 SI-14	磁子産
50	5	黄赤土器 環	口径 13.3 底径 6.4 器高 3.8	5Y4/1 灰	砂粒・礫 多量	良好	割傷あり「一」	ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ヘラケズリ	ほぼ完形	覆土中	D区 SI-14	磁子産
50	6	黄赤土器 環	口径 (11.2-13.2) 底径 7.4 器高 4.2~4.6	外面 5Y4/1 灰 内面 10YR4/1 濁灰	砂粒多量、 礫少量	良好	全体的に赤み あり	ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ後ナデ	1/2 残存	床上約 18cm	D区 SI-14 No.28	磁子産
50	7	黄赤土器 環	口径 (13.4) 底径 7.2 器高 4.3	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/1 濁灰	砂粒多量、 礫少量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁~体 部 5/16、 底部 5/8 残存	覆土中	D区 SI-14 C-1号	磁子産
50	8	黄赤土器 環	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 4.1	外面 5Y5/2 に赤い濁 内面 2.5Y5/3 濁灰	砂粒・礫 少量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部 1/12、底 部 2/3 残 存	覆土中	D区 SI-14	磁子産
50	9	黄赤土器 環	口径 (12.2) 底径 (6.8) 器高 4.1	外面 2.5Y4/1 濁灰 内面 7.5YR4/3 濁	砂粒・礫 少量	やや 不良		ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ	1/2 残存	覆土中	D区 SI-14	磁子産
50	10	黄赤土器 環	口径 (13.1) 底径 6.8 器高 3.9	外面 2.5Y4/1 濁灰 内面 10YR5/2 灰濁	砂粒・礫 少量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部 1/6、底部 1/2 残存	覆土中	D区 SI-14 北東柱穴	磁子産
50	11	黄赤土器 環	口径 (13.2) 底径 6.4 器高 4.1	外面 2.5Y4/1 濁灰 内面 7.5YR4/1 濁灰	砂粒・礫 少量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 回転ヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部 1/3 残存、 底部 底部迄	床上約 16cm	D区 SI-14 No.30	磁子産
50	12	黄赤土器 環	口径 (13.2) 底径 7.0 器高 4.2	外面 2.5Y5/1 濁灰 内面 7.5YR4/2 濁灰	砂粒・礫 微量	良好		ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後手持ちヘラ ケズリ	口縁部 1/5 残存、 底部 底部迄	床上約 15cm	D区 SI-14 No.60・62	磁子産
51	13	黄赤土器 環	口径 13.3 底径 6.8 器高 4.7	外面 5YR4/3 に赤い濁 内面 7.5YR4/3 濁	砂粒多量	不良	割傷あり「市」 全周欠文字「天」	ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ヘラケズリ	3/4 残存	床上約 16cm	D区 SI-14 No.52	磁子産
51	14	黄赤土器 環	口径 13.1 底径 6.3 器高 4.3	外面 10YR5/3 に赤い濁 内面 7.5YR5/3 に赤い濁	砂粒・礫 微量	良好	割傷あり「一」	ロクロ目織裏 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	1/3 残存	覆土中	D区 SI-14	磁子産
51	15	黄赤土器 環	口径 14.1 底径 6.3 器高 4.7	外面 10YR7/2 に赤い濁 内面 2.5Y7/2 灰濁	砂粒少量	良好		ロクロ目織裏	一部欠損	床上約 5cm	D区 SI-14 No.66	磁子産
51	16	黄赤土器 環	口径 (13.6) 底径 6.6 器高 4.0	外面 2.5Y6/4 に赤い濁 内面 7.5YR6/4 に赤い濁	砂粒微量	やや 不良		ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ後ナデ	1/3 残存	覆土中	D区 SI-14	磁子産
51	17	黄赤土器 環	口径 (13.7) 底径 6.8 器高 4.3	外面 10YR4/2 に赤い濁 内面 10YR6/4 に赤い濁	砂粒・礫 少量	やや 不良		ロクロ目織裏 底部 一方向ヘウツリ後ナデ	口縁部 1/3、底部 1/2 残存	床上約 18cm	D区 SI-14 No.58	磁子産
51	18	黄赤土器 環	口径 (12.7) 底径 6.6 器高 3.4	7.5YR4/3 濁	砂粒少量	不良		ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部一 部残存、 底部 底部迄	床上約 12cm	D区 SI-14	磁子産
51	19	黄赤土器 環	口径 (13.1) 底径 (7.1) 器高 4.2	外面 10YR5/1 濁灰 内面 2.5Y6/1 濁灰	砂粒多量	良好		ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部一 部、底部 1/3 残存	床上約 4cm	D区 SI-14 No.68	磁子産
51	20	黄赤土器 環	口径 (12.6) 底径 (7.4) 器高 3.4	外面 7.5YR5/4 に赤い濁 内面 5YR4/4 に赤い濁	砂粒・礫 微量	不良		ロクロ目織裏 底部 ヘウツリ後ナデ	3/8 残存	覆土中	D区 SI-14	磁子産
51	21	黄赤土器 環	口径 (13.7) 底径 (6.8) 器高 4.6	外面 2.5Y6/2 灰濁 内面 10YR5/2 灰濁	砂粒多量、 礫若干	やや 不良		ロクロ目織裏 体部下端 回転ヘラケズリ 底部 ヘウツリ後ナデ	口縁部一 部、体~ 底部 1/3 残存	床上約 15cm	D区 SI-14 No.46	磁子産
51	22	黄赤土器 環	口径 (12.2) 底径 (6.3) 器高 3.9	2.5Y4/1 灰	砂粒・礫 少量	良好		ロクロ目織裏 底部 切り難し不明後ナデ	3/8 残存	床上約 12cm	D区 SI-14 No.55	磁子産

第3章 小泉分校裏遺跡

51	23	裏池環	口径 (12.0) 底径 (6.0) 高さ 4.5	外面 2.5Y4/2 硝灰質 内面 5Y4/2 灰ナール	砂粒多量 中々 不良		ロクロ目跡著 底部 車切り	口縁部 1/8、体へ 底部 1/4 残存	床土約 16 cm	D区 SI-14 No.74	磁子産
51	24	裏池環	口径 (11.2) 底径 (6.9) 高さ 5.0	外面 5Y6/1 灰 内面 10YR6/2 灰黄緑	砂粒・礫 少量 良好		底部 ヘラ切り後ナデ		1/2 残存 床土約 16 cm	D区 SI-14 No.4	磁子産
51	25	裏池環	口径 (12.6) 底径 (6.9) 高さ 4.2	外面 2.5Y5/2 硝灰質 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒多量、 礫微量 良好		ロクロ目跡著 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ヘラ切り後ナデ	口縁部 残存	甌土中	D区 SI-14	甌ノ内産 か
51	26	裏池環	口径 (12.7) 底径 (7.0) 高さ 3.4	外面 10YR5/3 にふい黄緑 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒微量・ 黒雲母石 干 中々 不良		口縁へ体 底部 ヘラケズリか	口縁一部 体部 1/4、 底部一部 残存	甌土中	D区 SI-14 C一拵	甌ノ内産
51	27	裏池環	口径 - 底径 (6.8) 高さ 3.8	外面 2.5Y6/3 にふい黄 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒微量、 白雲母石 干 良好		ロクロ目跡著 体部下端 ヘラケズリ 底部 ヘラ切り後ナデ	底部は正 定存	甌土中	D区 SI-14 No.43	甌ノ内産
51	28	裏池環	口径 - 底径 (7.2) 高さ 3.3	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量、 礫若干 良好		ロクロ目跡著 体部下端 ヘラケズリ 底部 ヘラナデ	体へ底部 1/4 残存	甌土中	D区 SI-14 No.72	甌ノ内産
51	29	裏池環	口径 - 底径 (6.8) 高さ 3.4	2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量、 礫若干 良好		体部下端 ヘラケズリ 底部 回転ヘラ切り後ナデ	体部一部、 底部 1/2 残存	甌土中	D区 SI-14 B一拵	甌ノ内産
51	30	裏池環	口径 - 底径 (7.0) 高さ 2.9	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 7.5Y6/2 灰黄	砂粒微量 良好		体部下端 ヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	体部 1/2、 底部 2/3 残存	甌土中	D区 SI-14 B一拵・C 一拵	甌ノ内産
51	31	裏池環	口径 - 底径 (7.0) 高さ 2.4	2.5YR5/2 灰赤	砂粒微量、 礫若干 良好		底部 回転ヘラ切り後ナデ	体部一部、 底部 1/3 残存	甌土中	D区 SI-14 C一拵	甌ノ内産
51	32	裏池環	口径 - 底径 (7.0) 高さ 1.6	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量、 礫若干 良好		体部下端 ヘラケズリ 底部 回転ヘラ切り後ナデ	体部一部、 底部 1/4 残存	甌土中	D区 SI-14 D一拵	甌ノ内産
51	33	土製 高台付鉢	口径 (11.6) 底径 (5.8) 高さ 3.7	外面 10YR7/4 にふい黄緑 内面 2.5Y3/1 黄赤	砂粒少量 良好	内面 黑色処理 外面 磨滅・黄 赤	外面・内面 ヘラミナ 高台附付	口縁部 2/4、底部 1/6 残存	床土約 22 cm	D区 SI-4 No.5	
51	34	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 10.0 高さ 5.0	2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量 良好		ロクロ目跡著 底部 回転ヘラケズリ 高台附付	口縁部欠 損	甌土中	D区 SI-14 北西柱穴	磁子産
51	35	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 (9.3) 高さ 2.3	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫 少量 良好		ロクロ目跡著 底部 回転ヘラケズリ 高台附付	甌土中	床土約 23 cm	D区 SI-14 No.8	磁子産
51	36	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 6.8 高さ 2.0	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫 少量 良好	初春あり(月)	底部 回転ナデ 高台附付	底部定存	甌土中	D区 SI-14	磁子産
51	37	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 (8.8) 高さ 2.4	2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量、 黒雲母・ 白雲母微量 良好		底部 ナデ 高台附付	甌土中	甌土中	D区 SI-14	甌ノ内産 か
51	38	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 (8.2) 高さ 2.9	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 硝灰質	砂粒・礫 微量 良好	外底部内面一部 前縁付着	底部 回転ヘラ切り後ナデ 高台附付	体部一部、 外底部 定存、 高台 1/2 残存	甌土中	D区 SI-14	甌ノ内産
51	39	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 (7.2) 高さ 1.7	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y5/2 硝灰質	砂粒微量、 黒色粒子・ 赤色粒子 若干 良好		底部 回転ヘラ切り後ナデ 高台附付	外底部定 存	甌土中	D区 SI-14	甌ノ内産 高台内側 たれも使 用か
51	40	裏池環 高台付鉢	口径 - 底径 (6.4) 高さ 1.6	2.5Y5/2 硝灰質	砂粒微量 良好		底部 ナデ 高台附付	体へ底部 一部残存	甌土中	D区 SI-14 C一拵	甌ノ内産
52	41	裏池環 型	口径 (19.6) 底径 (15.2) 高さ 4.0	外面 5Y4/1 灰 7.5YR4/2 灰赤 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫 少量 良好	底部外面 漆塗 付着 内面磨耗	ロクロ目跡著 底部 回転ヘラケズリ 高台附付	口縁部 1/4、体へ 底部 1/2 残存	床土約 12 cm	D区 SI-14 No.64	磁子産 転用版
52	42	裏池環 型	口径 - 底径 (9.2) 高さ 3.6	2.5Y5/2 硝灰質	砂粒・礫 少量 良好		ロクロ目跡著 底部 回転ナデ 高台附付	体へ底部 1/2 残存	床土約 15 cm	D区 SI-14 No.63	甌ノ内産
52	43	裏池環 型	口径 (12.4) 底径 (11.9) 高さ 1.9	外面 2.5Y5/1 灰 内面 10YR5/1 黄灰	砂粒微量 良好	底部内面 濡ら か 赤色物付着	高台附付	体へ高台 一部残存	床土約 23 cm	D区 SI-14 No.71	転用版か
52	44	裏池環 型鉢か	口径 - 底径 8.0 高さ 2.3	外面 7.5YR4/2 灰赤 内面 7.5YR6/2 灰赤	砂粒微量 良好		内外面 ナデ	底部定存	甌土中	D区 SI-14	磁子産
52	45	土製 鉢	口径 - 底径 - 高さ 3.3	外面 10YR6/4 にふい黄緑 内面 N2/ 黒	砂粒微量 良好	内面 黑色処理	製部外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミナ	体部一部 残存	甌土中	D区 SI-14	鉄鉢形
52	46	裏池環 型	口径 13.6 底径 3.0 高さ 3.0	外面 5Y6/2 灰ナール 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒少量、 礫若干 良好		内面 ロクロ目跡著	口縁部一 部欠損	床土約 15 cm	D区 SI-14 No.57・A 一拵	磁子産

52	47	築地築 敷	口径 (17.2) 底径 3.0	2.5Y6/3 に-い-黄	砂粒・礫 少量	やや 不良		天井部 回転ヘラケズリ	口縁部～ 天井部 1/2 残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
52	48	築地築 敷	口径 (12.4) 底径 3.4	外面 2.5Y6/2 灰青 内面 2.5Y5/2 灰黄	砂粒・礫 多量	良好		口縁部 天井部 回転ヘラケズリ	口縁部～ 天井部 1/3 残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
52	49	築地築 敷	口径 (15.5) 底径 2.8	外面 7.5Y5/1 灰 内面 7.5Y5/1 灰 N4/0 灰	砂粒・礫 多量	良好		口縁部 天井部 回転ヘラケズリ	口縁部～ 天井部 1/4 残存	覆土中	D区-SI-14 C-一括	葦子産	
52	50	築地築 敷	口径 18.0 底径 3.3	外面 10YR5/3 に-い-黄 内面 10YR5/3 黄褐	砂粒・礫 微量	やや 不良	遺書あり(「市 分例」大文字 「天」)	口縁部 天井部 回転ヘラケズリ	口縁部 1/2 欠損	床上約 8 cm	D区-SI-14 No.20	葦子産	
52	51	築地築 敷	口径 (14.2) 底径 2.9	外面 2.5Y7/4 灰黄 内面 10YR7/4 に-い-黄橙	砂粒少量	不良	スズ付着	口縁部 天井部 回転ヘラケズリ	口縁部～ 天井部 1/4 残存	床上約 16 cm	D区-SI-14 No.41	葦子産	
52	52	築地築 敷	口径 - 底径 [1.9]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・礫 少量	良好			天井部 1/2 残存	床上約 12 cm	D区-SI-14 No.69	葦子産	
52	53	築地築 敷	口径 - 底径 [2.6]	外面 7.5YR7/4 に-い-橙 内面 7.5YR6/4 に-い-橙	砂粒・礫 少量、黒 色粒子若 干	不良		天井部 回転ヘラケズリ	天井部 5/8 残存	覆土中	D区-SI-14 B-一括	葦子産	
52	54	築地築 敷	口径 - 底径 [3.5]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒少量	良好		口縁部 天井部 回転ヘラケズリ	天井部 1/4 残存	覆土中	D区-SI-14 一括	葦子産	
52	55	築地築 敷	口径 - 底径 [1.7]	外面 5Y5/1 灰 内面 7.5Y5/1 灰	砂粒少量	良好				つまみ残 存	覆土中	D区-SI-14	葦子産
52	56	築地築 敷	口径 (13.0) 底径 - 底径 [1.9]	2.5Y6/2 灰黄	微石粉若 干	良好				8/1 残存 つまみ欠 損	覆土中	D区-SI-14	東産産
52	57	築地築 敷	口径 31.8 底径 [17.5]	外面 2.5Y3/1 黒褐 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・礫 少量	良好		口縁部外面 ロクロナデ 体部外面 ナデ 体部内面 黒粒	底部欠損 1/2 欠損	ほね灰 12 cm 面直上	D区-SI-14 No.15・54・ D-一括	葦子産	
52	58	築地築 敷	口径 (27.2) 底径 [10.7]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫 少量	良好		口縁部 ロクロナデ 体部外面 平行タタキ 体部内面 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
52	59	築地築 敷	口径 (21.6) 底径 [5.2]	外面 5Y5/2 灰 内面 2.5Y5/2 黄灰	砂粒・礫 少量	良好		口縁部内外面 ロクロナデ 体部外面 平行タタキ	口縁～体 部上端 1/12 残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
52	60	築地築 敷	口径 - 底径 (15.2) 底径 [7.3]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y3/1 黒褐	砂粒・礫 少量	良好		体部 ナデ	体部 1/5 残存	床上約 18 cm	D区-SI-14 No.2・3	葦子産	
53	61	築地築 敷	口径 - 底径 (15.2) 底径 [8.3]	外面 2.5Y2/1 灰白 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒多量、 微黄、 白雲母、 黒色粒子 少量	良好		胴部内面 ナデ 胴部外面 ヘラケズリ 胴部内面 ナデ	胴～底部 一部残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
53	62	土師 器	口径 (20.4) 底径 - 底径 [8.6]	外面 7.5YR4/3 灰 内面 7.5YR4/2 灰	砂粒微量	良好		口縁部内外面 ヲコナデ 胴部内面 ヘラナデ	口縁～胴 部 1/4 残 存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
53	63	土師 器	口径 (18.2) 底径 - 底径 [6.8]	外面 7.5YR5/4 に-い-黄 内面 5YR5/6 明赤	砂粒微量	良好		口縁部 ヲコナデ 胴部 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	D区-SI-14 東西柱六	葦子産	
53	64	土師 器	口径 (21.2) 底径 - 底径 [6.3]	外面 5YR5/6 明赤 内面 10YR4/2 灰黄	砂粒・礫 多量、白 雲母少量	良好	内外面 黒化	口縁部内外面 ヲコナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/6 残存	床上約 14 cm	D区-SI-14 No.49	葦子産	
53	65	土師 器	口径 (19.5) 底径 - 底径 [8.4]	外面 10YR4/3 に-い-黄 内面 7.5YR4/4 黄	砂粒多量	良好		口縁部内外面 ヲコナデ 胴 部 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	D区-SI-14 一括	葦子産	
53	66	土師 器	口径 (12.8) 底径 - 底径 [4.4]	外面 7.5YR4/2 灰 内面 10YR4/2 灰黄	砂粒・礫 微量	良好		口縁部 ヲコナデ 胴部内面 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	D区-SI-14 C-一括	葦子産	
53	67	土師 器	口径 (17.1) 底径 - 底径 [2.5]	7.5YR5/4 に-い-黄	砂粒・礫 多量、白 雲母少量	良好		口縁部 ヲコナデ	口縁部一 部残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	
53	68	築地築 敷	口径 - 底径 - 底径 [9.3]	外面 5Y5/2 灰ナリーブ 2.5Y5/2 暗灰 内面 7.5YR5/2 灰	砂粒少量	良好	自然熱付着	胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一 部残存	覆土中	D区-SI-14	葦子産	

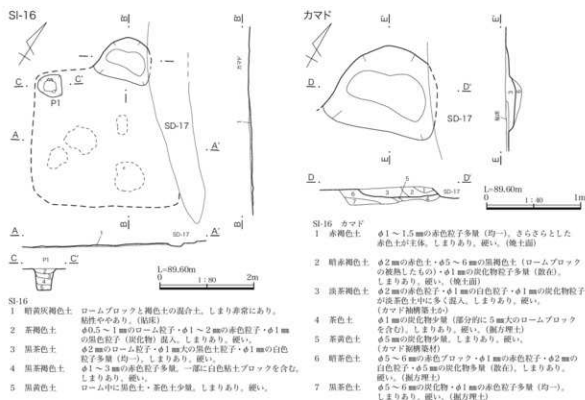
第3章 小泉分校裏遺跡

53	69	調査調査 裏	口径 - 底径 - 高さ [8.5]	外面 5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y6/2 黄灰	砂粒・礫 少量	良好	内面 自然粘 付着	ロクロナデ 縞縞状瓦文	口縁部一 部残存	床土約 18 cm	D区 SI-14 No.75	磁子産
53	70	調査調査 裏	口径 - 底径 - 高さ [4.5]	7.5YR4/2 灰褐色	砂粒・白 雲母少量、 赤色粘土 若干	やや 不良		製部外面 ロクロナデ 製部内面 ヘラナデ	製部一部 残存	床面直 上	D区 SI-14 No.24	新治産
53	71	調査調査 裏	口径 - 底径 - 高さ [5.5]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒少量、 白雲母極 少量	やや 不良	内面 剥離	製部外面 格子タタキ	製部一部 残存	床土約 15 cm	D区 SI-14 No.53	新治産
53	72	土製支脚	最大径 7.2 最大幅 4.6 厚 1.4	外面 5YR4/4 にふい赤褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒・礫 少量、黒 色粘土若干	良好		ヘラナデ	一部残存	床土約 20 cm	D区 SI-14 No.32	
53	73	男瓦	厚 1.7 重 227.21	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫 多量	良好		凸面 コロヘラケズリ 凹面 布目縞・ナデ 舞臺 ヘラケズリ・面取 括弧面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	D区 SI-14	
53	74	女瓦	厚 2.2 重 142.01	外面 5Y4/1 灰 内面 5Y5/2 灰ナリ	砂粒多量、 礫少量	良好		凸面 網タタキ 凹面 布目縞 舞臺 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	D区 SI-14	
53	75	女瓦	厚 2.3 重 173.98	外面 7.5Y6/6 褐色 内面 7.5Y6/6 褐色	砂粒・礫 少量	良好	被熱	凸面 格子タタキ 凹面 布目縞・ケズリ 舞臺 ナデ	一部残存	覆土中	D区 SI-14	
53	76	面戸瓦	厚 1.8 重 299.66	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒多量	やや 不良	被熱	凸面 網タタキ 凹面 布目縞・ナデ 舞臺 ケズリ 端部 ナデ	一部残存	床土約 16 cm	D区 SI-14 No.44	
54	77	女瓦	厚 2.8 重 467.78	外面 7.5Y5/1 灰 内面 7.5Y5/1 灰	砂粒・礫 多量	良好		凸面 格子タタキ 凹面 糸切縞・ヘラケズリ 舞臺 ヘラケズリ	一部残存	床土約 8 cm	D区 SI-14 No.70	
54	78	女瓦	厚 1.9 重 234.01	外面 7.5YR5/1 褐色 内面 10YR5/2 灰黄褐色	砂粒・礫 多量	良好		凸面 格子タタキ 凹面 布目縞・糸切縞・ ヘラケズリ 舞臺 ヘラケズリ・面取 括弧面 ヘラケズリ・面取	一部残存	床面直 上	D区 SI-14 No.59	
54	79	女瓦	厚 1.8 重 492.91	外面 7.5YR7/6 褐色 内面 7.5YR6/6 褐色	砂粒・礫 多量	良好	被熱	凸面 格子タタキ・ナデ 凹面 糸切縞 舞臺 ヘラケズリ・面取 括弧面 ヘラケズリ	一部残存	床土約 15 cm	D区 SI-14 No.47	
54	80	女瓦	厚 1.7 重 882.37	外面 7.5Y4/1 灰 内面 N4/0	砂粒・礫 多量	良好		凸面 格子タタキ後一部ナデ 凹面 布目縞・糸切縞 舞臺 ヘラケズリ・面取 端部 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	D区 SI-14	
55	81	女瓦	厚 2.7 重 3076.20	外面 7.5YR6/6 褐色 内面 7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒多量	やや 不良		凸面 格子タタキ後ナデ 凹面 布目縞・糸切縞・ 糸とじ縞・ナデ 舞臺 ヘラケズリ・面取 括弧面 ヘラケズリ・面取	一部残存	床面直 上	D区 SI-14 No.78	
55	82	カマド 構築材か	長 14.1 幅 11.4 厚 7.5 重 1155.6		砂岩		黒色物付着 (タール状)		一部残存	床面直 上	D区 SI-14 No.76	
55	83	土製 紡錘車	径 5.0 厚 2.1 孔径 0.7 重 50.96	5YR5/6 明赤褐色	砂粒少量	良好		ナデ	ほぼ完形	床土約 4 cm	D区 SI-14 No.26	
55	84	鉄製品 紡錘車	長 [4.46] 幅 0.42 厚 0.39 重 1.79						一部残存	床土約 10 cm	D区 SI-14 No.35	
55	85	鉄製品 刀子	長 [7.23] 幅 0.91 厚 0.36 重 11.89						本質部 残存	覆土中	D区 SI-14	
55	86	鉄製品 刀子	長 [5.07] 幅 0.78 厚 0.33 重 5.41						一部残存	覆土中	D区 SI-14 一試	
55	87	鉄製品 鏝	長 21.80 幅 3.99 厚 0.47 重 107.36						ほぼ完形	床面直 上	D区 SI-14 No.77	

D区 SI-16 (第56図、第24表、図版一〇二)

位置 調査区南部AJ・AK-47グリッドに位置する。重複関係 SD-17と重複し、本遺構が古い。平面形状・規模 東壁の大部分が失われているが、痕跡から東西方向にわずかに長い方形で、東西3.1m、南北2.8m、面積は62.4㎡である。遺存状況が悪く壁はほとんど残されていない。主軸方向 N・25° - W 床面 1

層で、貼床構築土の残骸とみられる。床面は凹凸が目立つ。部分的に硬化した範囲が認められる。柱穴等北西隅に位置しており、平面形は不整な円形である。直径50cm、深さ48cm、底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は黒色系の土を主体として構成される。カマド 北壁に位置しているが、遺存状況が極めて悪くわずかな焼土面と掘方のみが遺存していた。掘方は不整な楕円形で長軸1.1m、短軸0.9mである。覆土は1・2層が燃焼部焼土面の一部、3層が袖構築土の一部、その他は掘方埋土とみられるが判然としない。出土遺物 図示できる遺物はないが、須恵器環2点33.57g、蓋1点4.93g、瓦1点84.1gが出土している。時期 不明。

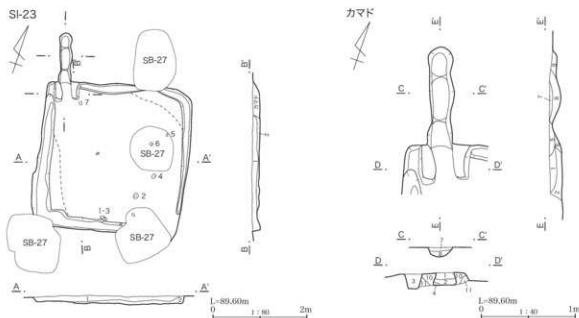


第56図 D区SI-16遺構実測図

D区SI-23 (第57図、第24・31表、図版一二・一三・一一五)

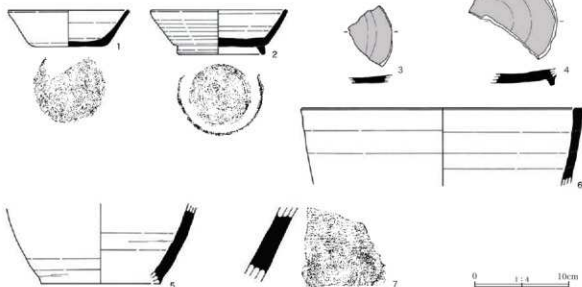
位置 調査区東部にあたるAJ・AK45グリッドに位置する。重複関係 SB-27と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 南北方向にわずかに長い方形で、東西3.1m、南北3.2m、面積は9.92㎡である。壁は遺存状況の良い部分で15cmである。主軸方向 N-15°-W 覆土 ローム粒子を多く含む暗褐色土が2層認められる。床面 貼床等は認められず、ローム層を床面としており、部分的に凹凸が認められる。全体的に踏み締まりによるとみられる硬化面が形成されている。また壁に沿って幅20~40cm、深さ10cmほどの壁溝が巡る。柱穴等 確認できなかった。カマド 北西隅付近に位置しており、灰赤褐色および黒褐色の粘質土を積んで構築した袖と竪穴壁から細長く伸びる煙道を確認した。袖は幅25cm、竪穴壁からの長さ40cm、高さ10cm、両袖間の長さ20cmである。煙道は25cmほどの幅で、竪穴外に1mほど延びている。覆土は11層確認され、カマドの構築土および崩落土と機能停止後に流入した土で構成される。出土遺物

覆土中からの出土（高さ不明）である。須惠器環1点、高台付環3点（内2点は転用碗）、壺1点、甕1点を図示した。3と4は転用碗で、内面が平滑になっている。このほかに須惠器環35点182.19g、蓋1点3.52g、高台付環1点32.63g、甕8点247.2gが出土している。時期 8世紀第4四半期。



- SI-23
 1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量、しまりや欠ける。粘性やや欠ける。
 2 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、焼土粒子微量、しまり欠ける。粘性ややあり。

- SI-23 カマド
 1 灰褐色粘質土 焼土粒子・灰色粘土粒子多量、しまりあり、粘性やや欠ける。(天井崩落土)
 2 暗褐色土 焼土粒子・灰色粘土粒子やや多量、ローム粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(泥入土)
 3 黒褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、焼土粒子・灰色粘土粒子微量、しまり欠ける。粘性ややあり。
 4 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(泥入土)
 5 赤褐色粘質土 粘土主体、焼土粒子少量、炭化物粒子微量、しまりあり、粘性ややあり。(煙道天井崩落土)
 6 暗褐色土 ロームブロック多量、褐色土粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。
 7 暗褐色粘質土 粘土多量、焼土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(煙道天井)
 8 褐色土 粘土粒子・粘土ブロックやや多量、しまりあり、粘性欠ける。(泥入土)
 9 暗赤褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・褐色土粒子少量、しまりあり、粘性欠ける。(泥入土)
 10 灰赤褐色粘質土 粘土粒子・灰色粘土多量、しまりややあり、粘性ややあり。(楕)
 11 黒褐色土 焼土粒子やや多量、ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性あり。(楕)



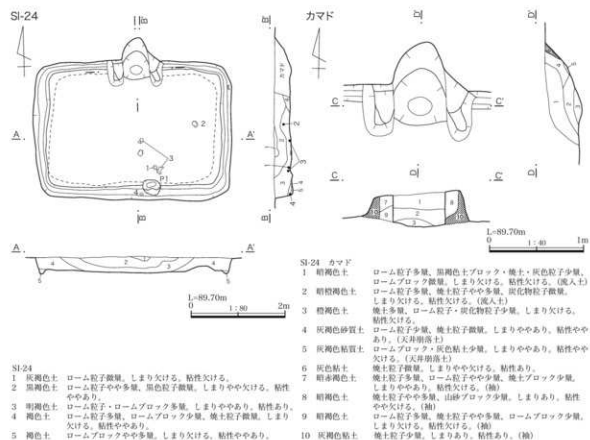
第57図 D区SI-23遺構・出土遺物実測図

第31表 D区SI-23 出土遺物観察表

図記 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
57	1 須恵系 杯	口径 12.5 底径 7.8 器高 3.9	5Y4/2 灰キリーブ		砂粒多量、礫 中間	やや 良好	底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、底部 3/4 残存	覆土中	D区SI-23 No.7	磁子産
57	2 須恵系 高台付杯	口径 14.2 底径 8.7 器高 4.8	外面 5Y5/2 灰キリーブ 内面 10Y8/4/2 灰黄褐色		砂粒・白色粒 子少量	良好	内面 滑らか 口縁部白濁著 底部 器底ヘラツクリ 高台粘付	口縁部一 部欠損	覆土中	D区SI-23 No.4	磁子産
57	3 須恵系 高台付杯	口径 - 底径 - 器高 [0.8]	外面 2.5Y3/1 灰 内面 5Y4/1 灰		砂粒・礫少量	良好	内面 滑らか 底部 ナデ	底部 1/4 残存	覆土中	D区SI-23 No.7	曜ノ内面か 礎として転用か
57	4 須恵系 高台付杯	口径 - 底径 - 器高 [1.8]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10Y4/1 灰		砂粒・礫少量	良好	内面 滑らか 底部外面ヘラ先の刺突が みられる 高台粘付	底部 1/4 残存	覆土中	D区SI-23 No.3	磁子産 礎として転用か
57	5 須恵系 壺	口径 - 底径 [12.4] 器高 [8.6]	外面 2.5Y3/1 黄褐色 内面 2.5Y4/1 黄灰		砂粒・礫少量	良好	口縁部白濁著 胴部下端 手持チナデナ	胴下部～ 底部一部 残存	覆土中	D区SI-23 No.1	磁子産
57	6 須恵系 瓶	口径 [30.0] 底径 [12.4] 器高 [8.3]	2.5Y5/1 灰		砂粒多量	良好	口縁部白濁著 細粒面著	口縁部 1/5 残存	覆土中	D区SI-23 No.2	磁子産
57	7 須恵系 壺	口径 - 底径 [8.6] 器高 [8.6]	外面 10Y8/4/1 黄灰 内面 5Y4/1 灰		砂粒・礫多量	やや 不良	胴部外面 平行タタキ	胴部残存	覆土中	D区SI-23 No.9	磁子産

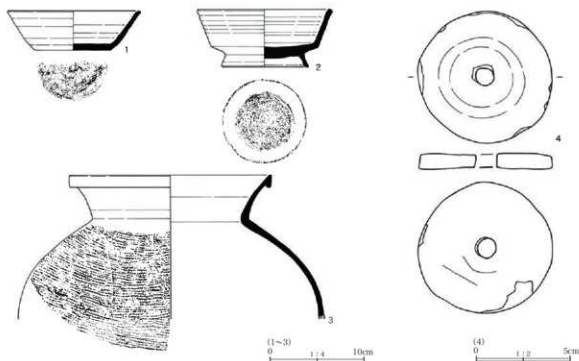
D区SI-24 (第58-59図、第24-32表、図版一三・一一五)

位置 調査区東部にあたるAK-45グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西方向に長い長方形で、東西4.2m、南北2.9m、面積は12.18㎡である。壁は遺存状況の良い部分で20～30cmほどである。主軸方向 N-0° 覆土 黒褐色土または褐色土がレンズ状に堆積しており自然堆積とみられ



第58図 D区SI-24 遺構実測図

る。床面 全体的に踏み締まりとみられる硬化面が認められる。また壁に沿って幅20～30cm、深さ10cmの壁溝が巡っている。柱穴等 南壁中央に位置しており、楕円形で直径30cmほどで深さは30cmである。柱痕跡は確認されていないが、位置的に入口施設の可能性が考えられる。カマド 北壁中央に位置しており、暗褐色土および灰褐色粘土を積んで構築した袖と燃焼部が遺存していた。袖は幅30cm、竪穴壁からの長さ50cm、高さ35cm、両袖間の長さ55cmである。燃焼部を底面および袖の内側がわずかに焼土化していた。覆土は10層に分層され、大別するとカマドの構築土および崩落土、カマドの機能停止後に流入した自然堆積土からなる。出土遺物 須恵器環1点、高台付環1点、裏1点、紡錘車1点を図示した。4の紡錘車は須恵器の環の底部を再利用したもので、底部のみ残し、周囲を磨いており、底部外面から穿孔している。このほかに、須恵器環7点46.99g、蓋2点8.63gが出土している。時期 9世紀第1四半期。



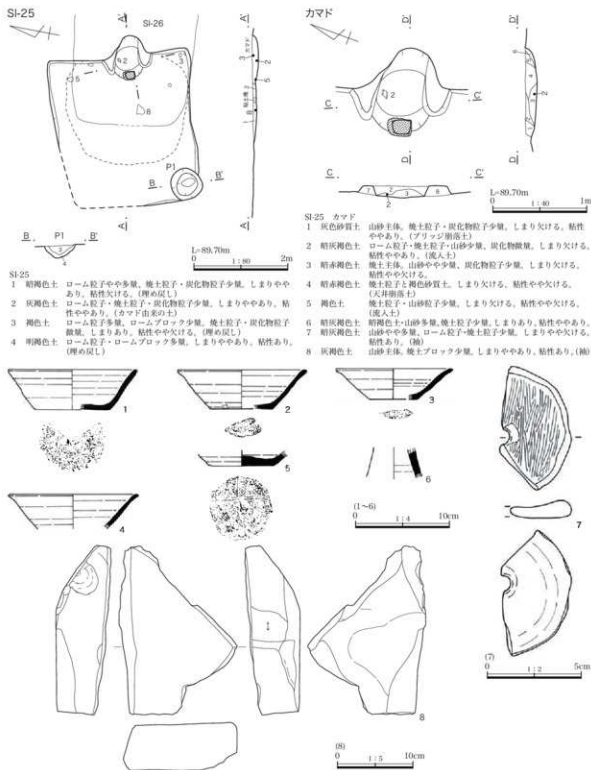
第59図 D区SI-24出土遺物実測図

第32表 D区SI-24出土遺物観察表

探出 地	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石 質	構成	断面の状況	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
59-1	須恵器 環	口径 (13.8) 底径 (7.6) 高さ 4.2	外面 7.5Y4/1 灰 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒・微 塵少量	良好	割漕あり 1件/か	ロクロ目陶器 底部へラ切り後ナデ	1/2 残存	床面直上	D区SI-24 No4	葦子産
59-2	須恵器 高台付 弁	口径 14.0 底径 9.0 高さ 6.1	外面 7.5Y5/1 灰 内面 2.5Y4/1 裏灰	砂粒多量、 彩色粘土 少量	良好		ロクロ目陶器 底部 回転へラケズ目 高台貼付	口縁～体部 1/2 残 存、底部～高台完存	床土約 15cm	D区SI-24 No2	葦子産
59-3	須恵器 環	口径 (21.4) 底径 (15.2)	外面 2.5Y6/1 灰 内面 2.5Y4/1 裏灰	砂粒多量、 彩色粘土 少量	良好	自然軸付着	割部外面 平行タタキ	口縁部 1/4、頸～割 上半部 1/2 残存	床土約 1～4cm	D区SI-24 No3・7・ AL47周辺	産地不明
59-4	須恵器 (転用) 紡錘車	径 6.9～7.0 厚 0.6～0.8 丸径 1.9～1.1 重 51.3	外面 7.5Y5/1 灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒少量、 微石子	良好		底部へラ切り後ナデ	ほぼ完存	床面直上	D区SI-24 No5	須恵器環を 転用

D区 SI-25 (第60図、第24・33表、図版一三・一四・一一五・一一六)

位置 調査区南東部にあたるAK-46グリッドに位置する。重複関係 SI-26と重複しており、本遺構が新しい。平面形状・規模 方形で、東西3.1m、南北3.0m、面積は9.3㎡である。壁は西側コーナー以外が残っている。主軸方向 N・70° - E 覆土 カマド周辺において確認され、人為的な埋め戻しとみられ



第60図 D区 SI-25 遺構・出土遺物実測図

る暗褐色土とカマドからの流入土とみられる灰褐色土で構成される。**床面** 貼床等は認められず、ローム層を床面としている。全体的に平坦であるがカマド前面付近がやや低くなっている。竪穴中央部では踏み締まりとみられる硬化面が形成されている。**柱穴等** 西側に P1 が位置する。楕円形で直径 70 cm、深さ 20 cm、壁は底面から比較的緩やかに立ち上がっている。**カマド** 東壁中央に位置しており、山砂主体の灰褐色土を積んで構築した袖と燃焼部が遺存している。袖は幅 30 cm、竪穴壁からの長さ 35 cm、高さ 10 cm、両袖間の長さ 50 cm である。燃焼部はさほど焼けておらず、顕著な焼土化範囲は認められなかった。ブリッジ構築材とみられる灰色砂質土は燃焼部の前面で確認され、大きさは一辺 20 cm ほどである。**出土遺物** 須恵器環 5 点、高環 1 点、紡錘車 1 点、砥石 1 点を図示した。5 の底部には「十」がへら書きされている。6 は高環の脚部で、2 孔以上の透かしとみられる。7 は土師器の環の底部を再利用した紡錘車である。内外面とも黒色処理が施される。8 は砥石として使用された。このほかに土師器環 6 点 12.87 g、鉢 1 点 16.45g、甕 59 点 545.84 g、甕 1 点 23.6g、須恵器環 49 点 308.94 g、鉢 3 点 69.57 g、甕 6 点 15.45 g、壺 1 点 11.74 g、陶器 1 点 34.9g、瓦 1 点 63.43g が出土している。**時期** 9 世紀後葉。

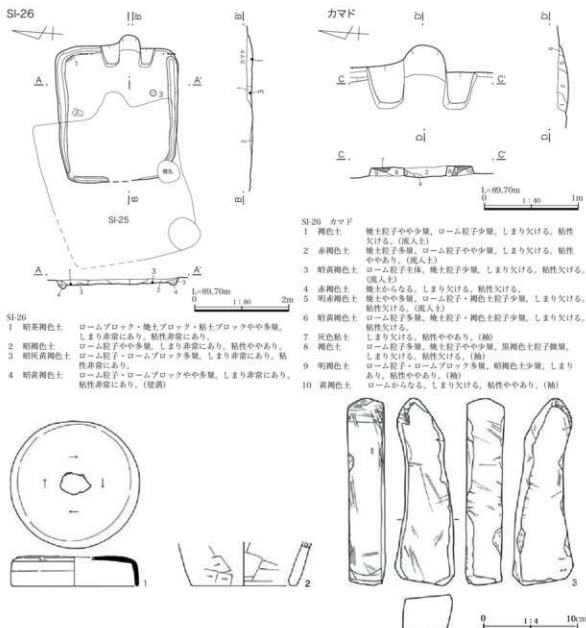
第 33 表 D 区 SI-25 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 図柄	計測値 (mm・g)	色調	粘土・石質	焼成	表面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考	
60	1	須恵器 環	口径 (13.3) 底径 (7.7) 器高 4.3	外面 7.5Y4/1 内面 10YR4/1 焼成	砂粒・微量	良好		ロクロ目器 底部へ切り残ナデ	口縁-体部 1/4、底部 3/4 残存	カマド内 カマド	D 区 SI-25 カマド	鉢子産か	
60	2	須恵器 環	口径 (13.3) 底径 (6.5) 器高 4.2	外面 2.5Y5/2 内面 2.5Y4/1 焼成	砂粒・微量	良好	外面 スス付着	ロクロ目器 体部下縁回転へウケズリ	3/8 残存	カマド内	D 区 SI-25 No.7	鉢子産	
60	3	須恵器 環	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 3.2	外面 10YR5/2 内面 7.5YR4/2 焼成	砂粒・微量	良好		ロクロ目器	口縁-体部 1/4 残存	カマド内	D 区 SI-25 No.3	鉢子産	
60	4	須恵器 環	口径 (13.3) 底径 (7.7) 器高 [3.2]	外面 2.5Y5/1 内面 2.5Y5/2 焼成	砂粒・微量	良好	外面一部スス 付着	ロクロ目器	3/8 残存	覆土中	D 区 SI-25	鉢子産	
60	5	須恵器 環	口径 - 底径 6.8 器高 [1.7]	外面 5Y7/2 内面 5Y7/1 焼成	砂粒少量	やや 不良		割漕あり「十」	ロクロ目器	底部残存	床面直上	D 区 SI-25 No.1	鉢子産
60	6	須恵器 高環	口径 - 底径 [3.1]	外面 2.5Y5/2 内面 7.5Y5/1 焼成	砂粒微量、白 色粒子若干	良好		ロクロ目器 透かしあり	脚部一部残 存	覆土中	D 区 SI-25	鉢子産	
60	7	土師器 (転用) 紡錘車	径 厚 5.8 19.95	N2/O 黒	砂粒少量	良好	内外面 黒色処理	内面ヘラミガキ	1/3 残存	覆土中	D 区 SI-25	土師器環を 転用	
60	8	石製品 砥石	径 幅 厚 22.5 15.8 8.4 260.19		砂刃	焼熟	研面 4 面		一部残存	床面直上	D 区 SI-25 No.6		

D 区 SI-26 (第 61 図、第 24-3 表、図版一四・一一一六)

位置 調査区南東部にあたる AK-46 グリッドに位置する。**重複関係** SI-25 と重複しており、本遺跡が古い。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い方形であり、東西 2.9m、南北 2.6m、面積は 7.54 m² である。壁は遺存状況の良い部分で 10 cm ほど遺存している。**主軸方向** N-86° - E **覆土** 1～3 層が床面を覆い、4 層は壁溝に堆積している。**床面** 貼床等は認められず、ローム層床面としている。また壁に沿って幅 20 cm、深さ 10 cm ほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 確認できなかった。**カマド** 東壁中央に位置しており、灰褐色粘土や褐色系の土を積んで構築された袖と燃焼部が遺存していた。袖は幅 40 cm、竪穴壁からの長さ 45 cm、高さ 10 cm、両袖間の長さ 45 cm である。燃焼部はあまり焼けておらず、左袖側にわずかな焼土化範囲がみられる程度である。**出土遺物** 須恵器蓋 1 点、土師器甕 1 点、砥石 1 点を図示した。1 の蓋はつまみを取り除いた後、右方向に磨きを加えている。2 の甕は単孔と推測される。3 は砥石で、刃を研いだ痕跡が顕著に

残っている。このほかに土師器環1点23.39g、襷5点305.22g、須恵器環3点10.61g、蓋2点42.54g、襷15点152.01gが出土している。時期不明。



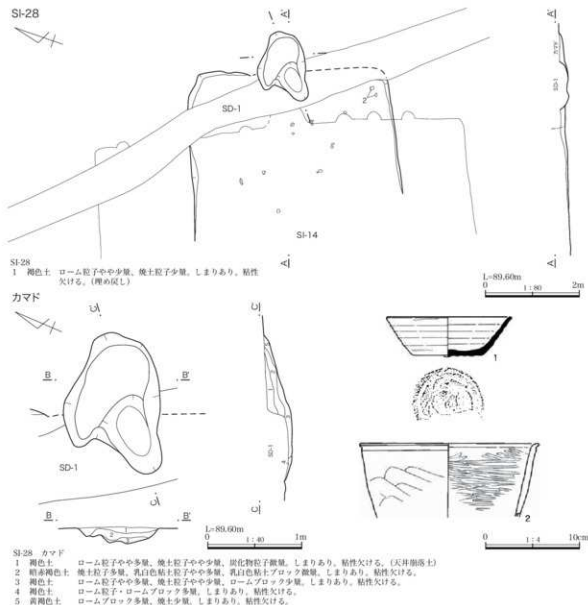
第61図 D区SI-26遺構・出土遺物実測図

第34表 D区SI-26出土遺物観察表

種別No.	No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考	
61	1	須恵器 蓋	口径 13.4 底径 10.8 厚さ 3.1 大径部 12.0	外面 N4/0 底 灰 内面 10YR4/1 底灰	砂粒多量、黒 色粒子微量	良好		口ケロ口面裏 大径部 回転ヘラケズリ	つまみ欠 損	北面直上 No.3	D区 SI-26	磁子産	
61	2	土師器 蓋	口径 11.0 底径 8.4 厚さ 1.47	外面 7.5YR5/4 底 灰 内面 10YR4/2 底灰	砂粒・白雲母 多量	良好		外面 ケズリ 内面 ヘラケズリ	底面一部 欠損	カマド内 No.4	D区 SI-26 カマド		
61	3	石質品 灰石	長さ 19.6 幅 5.0 厚さ 3.7 重さ 725.03		片岩			おを研いだ縦 横割製	断面面 4面	ほぼ完好	北面直上 No.2	D区 SI-26	

D区 SI-28 (第62図、第24・35表、図版一四・一一六)

位置 調査区南部にあたるAJ-46グリッドに位置する。**重複関係** SI-14、SD-1と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** SI-14により西壁側が遺存していないが、方形の竪穴建物跡であり、東西3.5m以上、南北4.4mである。壁は遺存状況が悪くほとんど遺存していない。**主軸方向** N-70°-E **覆土** ローム粒子を多く含む褐色土が堆積している。**床面** 掘方底面にあたるローム層をそのまま床面としており、平坦につくられている。貼床や壁溝は認められない。**柱穴等** 確認できなかった。**カマド** 北東壁中央に位置する。遺存状況が悪く掘方のみ遺存していた。掘方は長軸1.5m、短軸1.1mの不整形形をしている。なお煙道側とみられる部分では、地山が熱によって焼土化した範囲が認められた。**出土遺物** 須恵器坏1点、土師器鉢1点を図示した。このほかに土師器坏17点108.27g、甕85点1073.37g、甕1点6.59g、須恵器坏69点452.54g、高台付坏69点452.54g、鉢1点11.86g、蓋1点3.39g、盤1点10.13g、甕22点365.72g、瓦1点87.321g、陶器1点2.45gが出土している。**時期** 9世紀中葉か。



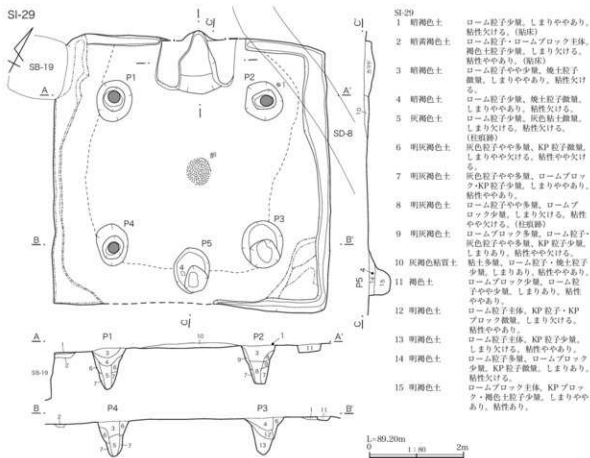
第62図 D区 SI-28 遺構・出土遺物実測図

第35表 D区SI-28 出土遺物観察表

種別 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
62	1 須恵器 環	口径 (13.2) 底径 7.4 器高 4.2	外面 5YR6/6 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒多量	不良		口縁口内面 底部へつ切り機ナデ	口縁部 1/3、底部 1/2残存	カマド 内	D区SI28 カマド	磁子産
62	2 土師器 鉢	口径 (19.0) 底径 11.5 器高 (7.8)	外面 10YR5/4 に濃い黄褐色 内面 7.5YR3/1 黒色	砂粒少量	良好	内面 黒色染付	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ケズノ 口縁一体部内面 ヘラミガキ	口縁部 1/4残存	覆土中	D区SI28 No.7・8	

D区SI-29 (第63-64図、第24・36表、図版一四・一五・一六)

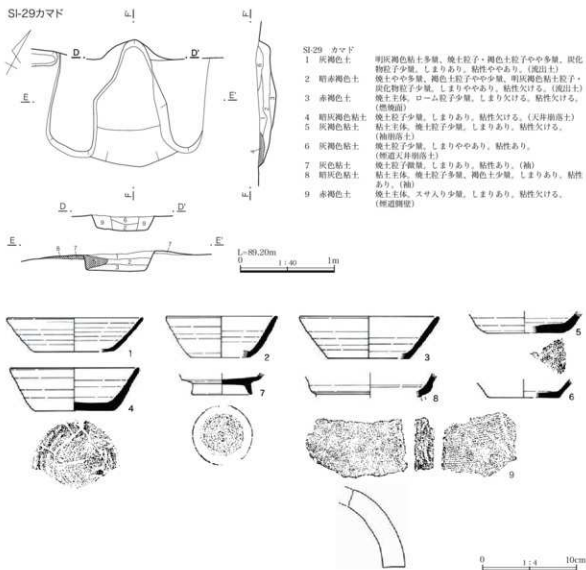
位置 AH-45、AI-45・46 グリッドに位置する。重複関係 SB-49、SD-8 と重複しており、本遺構が古い。
平面形状・規模 方形で、東西 5.8m、南北 5.7m、面積は 33.06 m²である。壁は遺存状況が極めて悪く、ほとんど遺存していない。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 床面中央に堆積する灰褐色粘質土 (10層)、壁溝に堆積する褐色土 (11層)、貼床構築土である暗褐色 (1層)・暗黄褐色土 (2層) を確認した。**床面** 主柱穴より内側は地山であるローム層を床面としており、踏み締まりとみられる硬化面が形成されている。壁に沿って幅 50～100 cm の範囲には暗褐色系の土を使用した貼床が構築されている。また、幅 20～50 cm、深さ 10～20 cm の壁溝が巡っている。**柱穴等** 主柱穴とみられるもの (P1～4)、入口施設または貯蔵穴とみられるもの (P5) が認められた。主柱穴とみられるものはいずれも平面形は楕円形である。P1 が長軸 90 cm、短軸 76 cm、深さ 80 cm、P2 が長軸 90 cm、短軸 74 cm、深さ 70 cm、P3 が長軸 100 cm、短軸 90 cm、深さ 80 cm、P4 が長軸 80 cm、短軸 64 cm、深さ 80 cm となっている。また P1・2・4 からは直径 20 cm ほど



第63図 D区SI-29 遺構実測図

の柱痕跡が確認されている。入口施設または貯蔵穴とみられる P5 は南壁中央近くに接して位置している。楕円形で長軸 100 cm、短軸 75 cm、深さ 45 cm ほどである。ロームブロックを多く含む明褐色土が堆積している。

カマド カマドは北壁中央に位置しており、ロームを掘り残し、灰色粘土および暗灰色粘土を積んで構築した袖と、燃焼部・煙道の一部が遺存していた。袖は幅 60 cm、壁からの長さ 105 cm、高さ 5 cm、両袖間の幅 70 cm で遺存状況はあまり良くない。燃焼部は良く焼けており、底面は厚さ 7 cm ほどの焼土層が形成されている。また袖の内側や煙道側のローム層にも焼土化が及んでいる。煙道にはスサ入り粘土を用いた側壁が設けられている。**炉** カマドの前面、床面中央にあたる位置において、直径 60 cm ほどの範囲が焼土化しており、地床炉であると思われる。しかし焼土化の程度は強くない。**出土遺物** 須恵器環 6 点、高台付環 2 点、瓦 1 点を図示した。9 は焼成不良の丸瓦である。このほかに土師器環 5 点 20.3 g、高台付環 1 点 7.46 g、甕 13 点 174.98 g、甕 1 点 1.51 g、須恵器環 41 点 118.70 g、高台付環 1 点 34.31 g、蓋 2 点 6.87 g、甕 5 点 99.94 g が出土している。**時期** 8 世紀後葉。

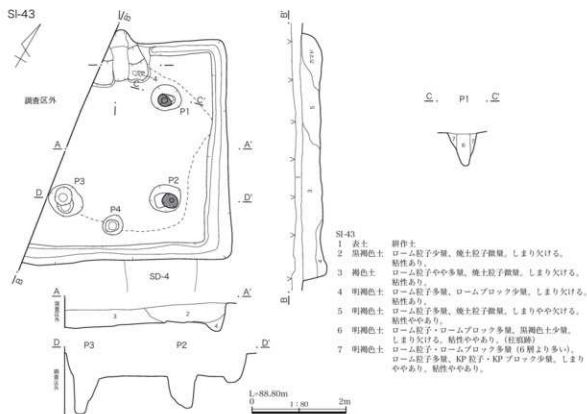


第36表 D区SI-29 出土遺物観察表

種別 No.	種類 器種	非線維 (cm・g.)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
64	1	葉志器 坏	口径 (14.4) 底径 (8.2) 高さ 3.6	5Y4/1 灰	砂粒・礫多量	良好	口縁へ少切り後ナデ	口縁へ底 部1/3残 存	床面直 上	D区 SI-29 No.1	磁子産
64	2	葉志器 坏	口径 (11.6) 底径 (5.2) 高さ 4.4	5Y4/1 灰	砂粒多量、礫 若干	良好	口縁へ少切り後ナデ	口縁へ底 部一部残 存	覆土中	D区 SI-29	磁子産
64	3	葉志器 坏	口径 (14.6) 底径 (8.6) 高さ 4.4	10YR6/3 に赤い黄褐色	砂粒若干	やや 不良		口縁へ底 部1/8残 存	覆土中	D区 SI-29	磁子産
64	4	葉志器 坏	口径 (13.5) 底径 (8.4) 高さ 4.5	2.5Y4/1 黄灰	砂粒少量、礫 微量	良好	底部赤切り	1/3残存	覆土中	D区 SI-29 AI-16一括	磁子産
64	5	葉志器 坏	口径 (8.2) 底径 2.2	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒微量	良好	底部へ少切り後ナデ	体部一 部、底部 1/4残存	覆土中	D区 SI-29 AI-16一括	磁子産
64	6	葉志器 坏	口径 (7.6) 底径 (1.9)	外底 5Y5/2 灰ナリ 内底 5Y5/1 灰	砂粒微量、礫 若干	良好	底部へ少切り後ナデ	体部一 部、底部 1/3残存	覆土中	D区 SI-29 AI-16一括	磁子産
64	7	葉志器 高台付付	口径 - 底径 6.4 高さ (2.3)	外底 10YR4/1 灰 内底 5Y4/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好	口縁へ少切り後ナデ	高台部は ほぼ完 成	覆土中	D区 SI-29 南西柱六	磁子産
64	8	葉志器 高台付付	口径 - 底径 (12.0) 高さ (2.5)	外底 2.5Y4/1 黄灰 内底 10YR5/1 灰	砂粒・白色粘 子微量	良好		体部一部 2/3残存	P2 覆 土中	D区 SI-29	磁子産
64	9	男瓦	厚 2.2 重 224.68	外底 10YR7/2 に赤い黄褐色 内底 10YR6/2 灰黄褐色	砂粒・礫少量	やや 不良	全面ナデ	一部残存	P5 覆 土中	D区 SI-29 No.2	

D区SI-43 (第65-67図、第24-37表、図版一五・一一六)

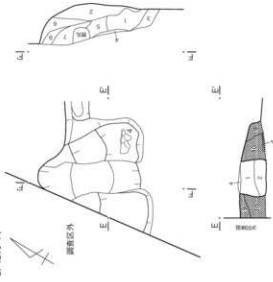
位置 調査区北東部にあたる AF-41・42 グリッドに位置する。重複関係 SD-4と重複しており、本遺構が新しい。平面形状・規模 北壁の半分と西壁が調査区外であるが、方形基調とみられ、東西で4.4m以



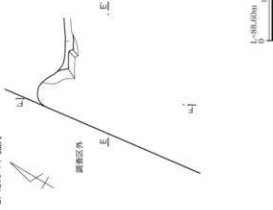
第65図 D区SI-43 遺構実測図

上、南北で4.7m、壁は遺存状況の良い部分で40cmほどである。主軸方向 N-30°-W 覆土 黒褐色または褐色系の土を主体としており、ローム粒子や焼土粒子を多く含む含んでいるが、おおむねレンズ状の堆積を示していることから自然堆積とみられる。床面 胎床等は認められず、ローム層を床面としており、やや凹点のみられる。床面中央部分には踏み締まりとみられる硬化面が形成される。柱穴等 主柱穴とみられるもの(P1~3)と、入口施設とみられるもの(P4)を確認した。主柱穴はいずれも楕円形であり、P1が長軸70cm、短軸56cm、深さ80cm、P2が長軸65cm、短軸60cm、深さ70cm、P3が長軸65cm、短軸60cm、深さ70cmである。P3からは直径30cmほどの柱痕跡が確認されている。入口施設とみられるP4は、南壁中央に近接して位置している。平面形は楕円形で規模は直径40cm、深さ70cmである。カマド 北壁中央に位置しており、明褐色粘土および灰褐色粘土を糊んで構築した袖が遺存していた。袖は幅40cm、壁幅からの長さ90cm、高さ27cm、両袖間の長さ30cmである。また右袖底面直上には着れた土師器裏(4)が人為的に埋められていた。出土遺物 土師器鉢3点、裏3点、甕1点、須恵器鉢1点を図示した。1と2は漆仕上げの杯で、2は底部内面に「×」がみられる。3から5は埴輪の裏である。6は底部を穿孔しており、甕として使用した可能性が考えられる。7は鉢か、口唇部に沈線が施されている。このほかに土師器環1点5.06g、鉢1点62.43g、裏4点108.95g、甕1点54.03g、須恵器環2点24.31g、裏2点75.88gが出土している。時期 7世紀中葉か。

S1-43カマド



S1-43カマド部方

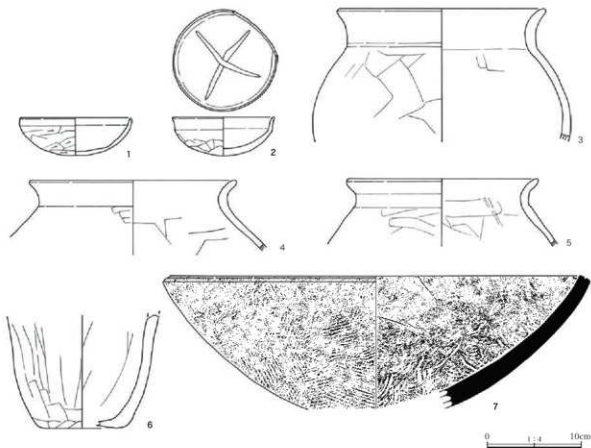


S1-43カマド

- 1 須恵器鉢
- 2 須恵器鉢
- 3 須恵器鉢
- 4 須恵器鉢
- 5 須恵器鉢
- 6 須恵器鉢
- 7 須恵器鉢
- 8 須恵器鉢
- 9 須恵器鉢
- 10 須恵器鉢

- 1 須恵器鉢
- 2 須恵器鉢
- 3 須恵器鉢
- 4 須恵器鉢
- 5 須恵器鉢
- 6 須恵器鉢
- 7 須恵器鉢
- 8 須恵器鉢
- 9 須恵器鉢
- 10 須恵器鉢

第66図 D区 S1-43遺構実測図



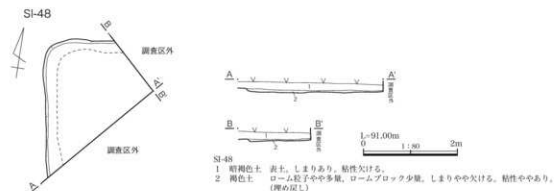
第 67 図 D区 SI-43 出土遺物実測図

第 37 表 D区 SI-43 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
67	1	土師器 杯	口径 (11.8) 底径 - 器高 4.0	外面 7.5YR6/4 に赤い帯 内面 2.5YR2/1 赤黒	砂粒微量、赤 色粘土若干	良好	口縁部外面～内 面 透仕上げ	口縁部 ヨコナデ 体～底部外面 ナデ・ケズ リ	口縁～底 部 1/2 残 存	覆土中	D区 SI-43 カマド跡ア ケ土	
67	2	土師器 杯	口径 10.8 底径 - 器高 4.1	外面 10YR6/4 に赤い帯埋 内面 5YR3/2 黒	砂粒・赤色粘 土微量	良好	口縁部外面～内 面 透仕上げ 割替あり「X」	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部一 部欠損	覆土中	D区 SI-43	
67	3	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 [14.0]	7.5YR5/6 橙	砂粒・微量 黒	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/4、胴部 1/3 残存	地内	D区 SI-43 カマド No.1	
67	4	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 [7.5]	外面 5YR6/6 に赤い帯 内面 5YR5/6 明赤色	砂粒・微量 赤色粘土微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁～底 部 1/6 残 存	カマド 内	D区 SI-43 カマド一括	
67	5	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 (9.2) 器高 [7.2]	7.5YR5/4 に赤い帯	砂粒多量、白 雲母微量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラナデ	口縁～底 部 1/6 残 存	覆土中	D区 SI-43	
67	6	土師器 甕	口径 (19.2) 底径 (9.2) 器高 [11.9]	外面 7.5YR6/6 橙 内面 5YR5/6 明赤色	砂粒・微量 赤色粘土微量	良好	外面 荒れてい る	胴部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	胴～底部 1/3 残存	覆土中	D区 SI-43	底面穿孔し 転用
67	7	須恵器 鉢か	口径 (43.4) 底径 (9.2) 器高 [14.0]	外面 5Y7/2 灰白 内面 2.5YR2/2 灰黒	砂粒・黒色粘 土少量	良好		口縁部 ロケコナデ 口内面 透 体部外面 平行タタキ 内面 同心円文当り	口縁～体 部 1/4 残 存	覆土中	D区 SI-43	用途不明 裏の底部全 再利用か

D区 SI-48 (第68図, 第24表)

位置 調査区東端にあたるAL-46グリッドに位置する。重複関係なし。平面形状・規模 遺構の大半が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡の北西隅部分とみられる。東西2.2m以上、南北3.0m以上、壁は遺存状況が悪くほとんど遺存していない。主軸方向 N-10°-W 覆土 ローム粒子を多く含む褐色土が堆積しており、人為的な埋め戻しとみられる。床面 部分的に貼床の残骸と踏み締まりとみられる硬化面が認められた。柱穴等・カマド 調査した範囲では確認されなかった。出土遺物 出土していない。時期 不明。



第68図 D区 SI-48 遺構実測図

2 掘立柱建物跡

調査区の中央にまとまって15棟が確認された。東西棟6棟、南北棟9棟である。一部、建て替えも確認されている。

第38表 D区 掘立柱建物跡計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	ピット	出土遺物	重複関係
SB-10	AG-AH-44	N-15°-W	南北棟	5.50	5.30	0.15~0.40	12	有	SD-18より新
SB-19	AH-44+45	N-15°-W	南北棟	9.60	6.30	0.50~0.80	10	有	SI-7より古 SB-34+42より新
SB-21	AJ-44	N-10°-W	南北棟	[7.50]	[6.10]	0.40~0.60	7	有	
SB-27	AJ-AK-44+45	N-15°-W	南北棟	7.00	6.00	0.30~0.40	10	有	SI-23より古
SB-30	AG-AH-42+43	N-20°-W	南北棟	6.20	5.90	0.30~0.50	8	有	SD-1より古 SI-6より新
SB-31	AG-42+43	N-71°-E	東西棟	6.60	5.10	0.50~0.90	10	有	SI-6、SD-1+3+4+18より古
SB-32	AF-42+43 AG-43	N-45°-E	東西棟か	[4.70]	5.30	0.30~0.60	7	有	SD-4+5より新
SB-34	AG-45 AH-44+45	N-75°-E	東西棟	6.20	5.10	0.20	10	無	SB-19より古 SB-42と重複
SB-35	AH-AJ-43+44	N-73°-E	東西棟	5.40	5.30	0.10~0.30	8	有	SD-1、SB-36+39より古 SB-37より新
SB-36	AH-43+44	N-65°-E	東西棟	5.20	5.10	0.10~0.60	12	有	SB-39+SD-1より古 SB-35+37より新
SB-37	AH-43+44 AJ-44	N-20°-W	南北棟	6.00	4.00	0.10~0.40	10	有	SB-35+39より古 SD-1より新
SB-39	AH-AJ-44	N-10°-W	南北棟	9.20	6.00	0.10~0.50	10	有	SB-36+SD-1より古 SB-35+36+37より新
SB-41	AK-46+47	N-18°-W	南北棟	5.80	4.90	0.60~0.90	10	有	SD-1+SK-46より古
SB-42	AH-44+45	N-83°-E	東西棟	7.60	5.10	0.50~0.80	10	有	SB-19、SD-3+8より古 SI-7より新
SB-49	AI-44+45	N-18°-W	南北棟	6.90	5.20	0.30~0.60	10	無	SD-1より古 SI-13より新 SB-39と重複

D区 SB-10 (第69図、第38-39表、図版一五・一六)

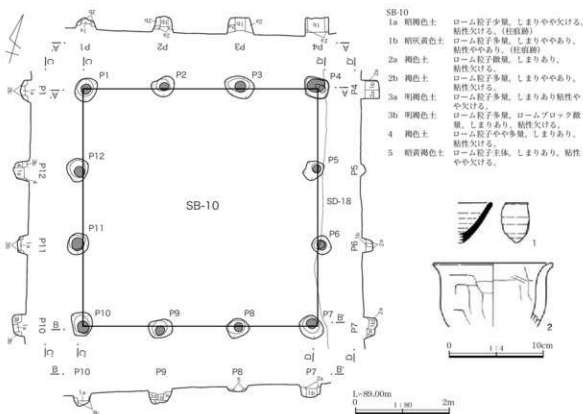
位置 調査区西側の中央にあたるAG・AH-44グリッドに位置する。**重複関係** SD-18と重複しており、本遺構が新しい。

平面形状・規模 桁行3間、梁行3間、12基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡で、

桁行5.3m、梁行3.5m、平面積29.15㎡である。柱間距離は桁行、梁行ともに1.6m～1.7mである。

主軸方向 桁行の示す軸方向はN-15°-W **柱穴** 柱穴掘方の形状は楕円形のものと同丸方形のものがある。長軸40～60cm、深さ15～40cmほどである。すべての柱穴から柱痕跡が確認されており、平面形は円形で直径20～30cmほどである。

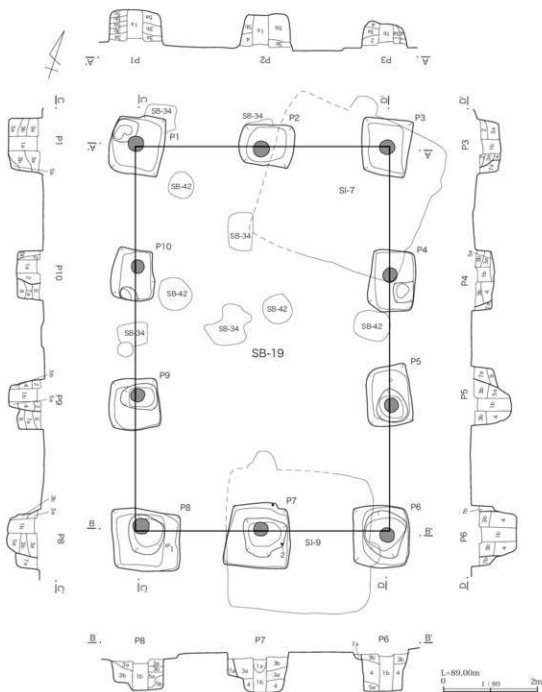
出土遺物 土師器甕1点、須恵器環1点を図示した。このほかに土師器環1点14.26g、甕5点26.47g、須恵器環4点36.44gが出土している。**時期** 8世紀後葉。



第69図 D区SB-10遺構・出土遺物実測図

第39表 D区SB-10出土遺物観察表

図版No.	No.	種類 図柄	寸法 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
69	1	須恵器 環片	口径 - 底径 - 器高 [4.2]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 7.5YR4/2 灰泥	砂粘微量	良好			口縁一部残 存	P2 覆土中	D区SB-10	鉢子産
69	2	土師器 甕	口径 (12.8) 底径 - 器高 (6.7)	外面 5YR4/4 に赤い赤泥 内面 7.5YR4/3 赤	砂粘多量、泥 少量	良好	内面 炭化物付着	口縁部内外面 ココナ子 製部内外面 ナテ	口縁部 1/4残存	P2 覆土中	D区SB-10	



SB-19

(新)

- 1a 暗褐色土 ロームブロック多量, KP 粒子少量, しまりあり, 粘性欠ける。(柱頭跡)
- 1b 暗褐色土 ローム粒子・KP 粒子少量, しまりあり, 粘性欠ける。(柱頭跡)
- 2 灰褐色土 ロームブロック少量, ローム粒子微量, しまりあり, 粘性欠ける。
- 3a 褐色土 ローム粒子多量, ロームブロック少量, KP 粒子微量, しまりあり, 粘性あり。
- 3b 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量, KP 粒子微量, しまりあり, 粘性欠ける。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量, KP 粒子少量, しまり欠ける, 粘性あり。
- 5a 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体, しまりややあり, 粘性ややあり。

- 5b 明褐色土 ローム粒子少量, KP 粒子微量, しまりややあり, 粘性ややあり。
- 5c 明褐色土 ロームブロック主体, KP 粒子・灰褐色土少量, しまりあり, 粘性ややあり。

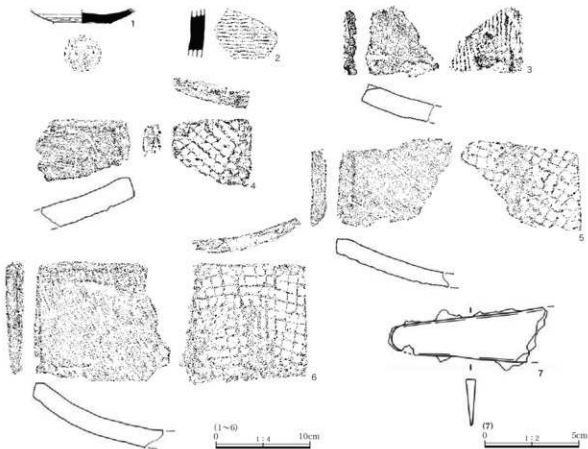
(旧)

- 6 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量, しまりあり, 粘性ややあり。
- 7a 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量, しまりややあり, 粘性欠ける。
- 7b 明褐色土 ロームブロック・黒褐色土少量, しまりややあり, 粘性ややあり。
- 8 褐色土 ローム粒子多量, ロームブロック・KP 粒子少量, しまりややあり, 粘性やや欠ける。
- 9 暗黄褐色土 KP ブロック主体, 灰褐色土ブロック少量, しまりややあり, 粘性欠ける。

第70図 D区SB-19遺構実測図

D区 SB-19 (第70-71図、第38-40表、図版一六・一一六・一一七・一四八)

位置 調査区西側中央にあたるAH-44・45グリッドに位置する。重複関係 SI-7・9より古く、SB-34・42より新しい。また本遺構自体も同一地点において一度建て替えを行っている。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡で、桁行9.6m、梁行6.3m、平面積60.48㎡である。柱間距離は桁行、梁行ともに2.6～2.7mである。 **主軸方向** 桁行の示す軸方向はN-15°-W 柱穴掘方の形状は方形で、長軸110～140cm、深さ50～80cmほどである。すべての柱穴から柱痕が確認されている。 **覆土** 大別すると①新段階の建物の柱痕跡(1a・b層)、②新段階の建物の柱穴掘方埋土、(2～5c層)③旧段階の建物の柱穴掘方埋土(6～9層)で構成される。新段階の方が深い。 **出土遺物** 須恵器高台付坏1点、甕1点、瓦4点、鉄製品1点を図示した。2以外は焼成不良である。7は鎌の破片である。このほかに土師器甕5点86.61g、須恵器坏10点40.23g、蓋2点7.66g、高台付坏1点6.4g、甕1点46.32g、瓦6点546.48gが出土している。 **時期** 9世紀中葉。

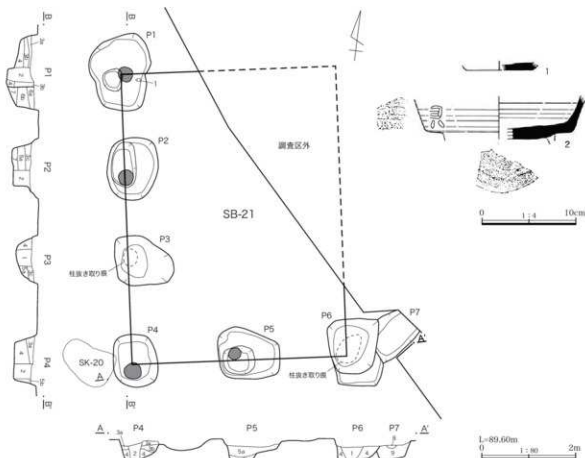


第71図 D区 SB-19 出土遺物実測図

第40表 D区 SB-19 出土遺物観察表

種別 No.	種類	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
71-1	須恵器高台付坏	口径 底径 (6.1) 器高 (1.9)	2.5Y6/3 にぶい調	砂粒少量	やや不良		体部下面 回転へラケズリ 底部へ少切り後ナデ 裏面貼付	底部残存	P8 掘方埋土中	D区 SB-19 P8 掘方	磁子産
71-2	須恵器甕	口径 底径 器高 (5.0)	外面 2.5Y3/1 底面 5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タタキ	胴部一部 残存	P7 覆土中	D区 SB-19 P7	産地不明

71	3	女瓦	厚 2.1 重 14033	外面 2.5Y6/3 に赤い斑 内面 2.5Y6/3 に赤い斑	砂粒少量	やや 不良	凸面 羅タタキ 凹面 布目織・ナデ 側面 ヘラケズリ	一部残存	P4 覆土中	D区 SB-19 P4
71	4	女瓦	厚 2.5 重 20669	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒多量、赤 色粒子少量	やや 不良	凸面 格子タタキ 凹面 布目織・布切取 側面 ヘラケズリ・面取 端面 ヘラケズリ・面取	一部残存	P5 新掘方 埋土中	D区 SB-19 P5 新掘方
71	5	女瓦	厚 1.8 重 25304	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒多量、赤 色粒子少量	やや 不良	凸面 格子タタキ 凹面 布目織・布切取 側面 ヘラケズリ	一部残存	P5 新掘方 埋土中	D区 SB-19 P5 新掘方
71	6	女瓦	厚 2.0 重 49271	外面 10YR7/4 に赤い黄褐色 内面 10YR8/2 灰白	砂粒多量、礫 少量	やや 不良	凸面 格子タタキ 凹面 布目織・布切取 側面 ヘラケズリ・面取 端面 ヘラケズリ・面取	一部残存	P5 新掘方 埋土中	D区 SB-19 P5 新掘方
71	7	鉄器品 鏝	長 [8.22] 幅 2.85 厚 0.47 重 33.74						一部残存	P9 覆土中 西側柱列南 第2柱



SB-21

(新)

- 1 褐色土 ローム粒子やや少量、ロームブロック微量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱礎採取の痕)
- 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱礎跡)
- 3a 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまりやや欠ける。粘性ややあり。
- 3b 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりやや欠ける。粘性ややあり。
- 3c 褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや少量、しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりやや欠ける。粘性あり。
- 5a 明褐色土 ローム粒子少量、しまりやや欠ける。粘性ややあり。
- 5b 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。粘性あり。

(旧)

- 6a 褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや少量、しまりあり。粘性ややあり。
- 6b 褐色土 ローム粒子やや少量、ロームブロックやや多量、しまりあり。粘性ややあり。
- 7 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。粘性あり。
- 8 明褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり。粘性欠ける。
- 9 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体、しまりやや欠ける。粘性あり。

第72図 D区SB-21遺構・出土遺物実測図

D区SB-21 (第72図、第38-41表、図版一一七)

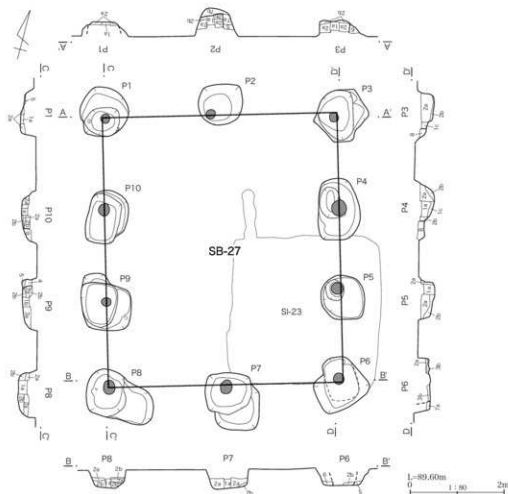
位置 調査区東側中央にあたるAJ-44グリッドに位置する。**重複関係** SK-20と重複しているが、新旧関係は不明である。柱穴の形状や土層からほぼ同一地点において一度建て替えを行っている。**平面形状・規模** 確認できた範囲で7基の柱穴を確認した。ただしP7については調査区外に位置する別の建物の柱穴と考えられる。北東側が調査区外のため全体の規模は不明であるが、南北棟の桁行3間、梁行2間以上の側柱建物跡とみられる。桁行とみられる南北柱列(P1～4)で7.5m以上、梁行とみられる東西柱列(P4～7)で6.1m以上である。柱間距離はP1-P2、P3-P4、P4-P5が2.2m、P2-P3が1.8m、P5-P6が2.4mとややばらつきがある。**主軸方向** 桁行の示す方向はN-10°-W **柱穴** 柱穴掘方底面の状況や覆土の様相から、一度柱を建て替えており、2時期の柱穴が重複していると考えられる。柱穴掘方の形状は不整形または不整形である。規模は長軸110～160cm、深さ40～60cmほどである。P1は西から東へ柱を建て替えた痕跡が確認され、P6では柱を抜き取った痕跡が確認された。**覆土** 大別すると、①新段階の柱抜き取り痕(1層)、②新段階の柱痕跡(2層)、③新段階の柱穴掘方埋土(3a～5b層)、④旧段階の柱穴掘方埋土(6a～7層)、⑤P7堆積土(8・9層)で構成される。**出土遺物** 須恵器の環1点、高台付環1点を図示した。2には「京」が刻書されている。このほかに土師器甕18点295.12g、甌1点7.8g、須恵器環23点113.89g、高台付環1点17.98g、蓋2点25.42g、甕10点109.16gが出土している。**時期** 8世紀第4四半期。

第41表 D区SB-21出土遺物観察表

探検 No	No	種類 名称	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
72	1	須恵器 環か	口徑 - 底徑 (7.0) 器高 [0.8]	外面 10YR5/3 内面 2.5Y0/2 灰黄	砂粒少量	良好		底面 ナデ	底面 1/5 残存	P1 新柱穴 埋土中	D区SB-21 P1 新柱穴埋 土中	磁子産
72	2	須恵器 高台付環	口徑 - 底徑 器高 [4.6]	外面 2.5Y3/1 内面 7.5YR4/2 灰黄	砂粒多量。礫 混雜	良好	刻書あり「京」	口縁目蓋蓋 高台貼付	体～底面 1/6 残存	P1 埋土中	D区SB-21 P1No1	磁子産

D区SB-27 (第73図、第38-42表、図版一六・一一七)

位置 調査区東側中央部にあたるAJ-44・45、AK-44・45グリッドに位置する。**重複関係** SI-23と重複しており、本遺構が古い。またほぼ同一地点において一度建て替えを行っている。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡で、桁行南北7m、梁行東西6m、平面積42㎡である。柱間距離は桁行では1.9mで揃っているが、梁行ではP1-P2で2.2m、P2-P3で2.6m、P7-P8で2.5m、P6-P7で2.3mとばらつきがある。**主軸方向** 桁行が示す方位はN-15°-W **柱穴** 柱穴掘方の平面形は不整形または楕円形である。規模は長軸60～100cm、深さ30～40cmほどである。新段階の全ての柱穴において柱痕跡が確認されており、直径20～30cmである。**覆土** 大別すると①新段階の柱痕跡(1a～1c層)②新段階の柱穴掘方埋土(2a～3b層)、旧段階の柱穴掘方埋土(4～9層)で構成される。埋土の様相などから同一地点において建て替えを行ったものとみられる。**出土遺物** 須恵器環2点、甌1点、製塩土器1点を図示した。4の製塩土器は白色針状物質を含んでいる。このほかに土師器環15点52.23g、甕18点153.17g、須恵器環35点213.98g、高台付環2点22.59g、蓋3点46.62g、甕17点325.23g、瓦1点36.04gが出土している。**時期** 9世紀後葉。



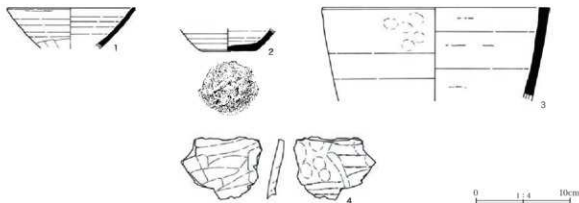
SB-27

(前)

- 1a 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりややあり。粘性あり。
(柱頭跡)
1b 灰褐色土 ローム粒子やや少量、ロームブロック微量。しまり欠ける。粘性
ややあり。(柱頭跡)
1c 明褐色土 ロームブロックやや多量。しまりややあり。粘性欠ける。(柱頭跡)
2a 明褐色土 ロームブロック多量、ローム粒子やや多量。しまりややあり。粘性
あり。
2b 明褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック多量。しまりあり。粘性ややあり。
3a 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック微量。しまりあり。粘性やや
欠ける。
3b 褐色土 ロームブロック主体、しまりあり。粘性欠ける。

(中)

- 4 明褐色土 ロームブロック多量、ローム粒子やや多量。しまりやや
あり。粘性ややあり。
5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。粘性やや
あり。
6 明褐色土 ローム粒子少量。粘性やや欠ける。しまりなし。
7a 褐色土 ローム粒子やや多量。しまり欠ける。粘性ややあり。
7b 褐色土 ローム粒子やや多量。しまり欠ける。粘性ややあり。
8 明褐色土 ローム粒子・褐色土粒子多量。しまりややあり。粘性やや
あり。
9 灰褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック微量。しまり欠ける。
粘性ややあり。



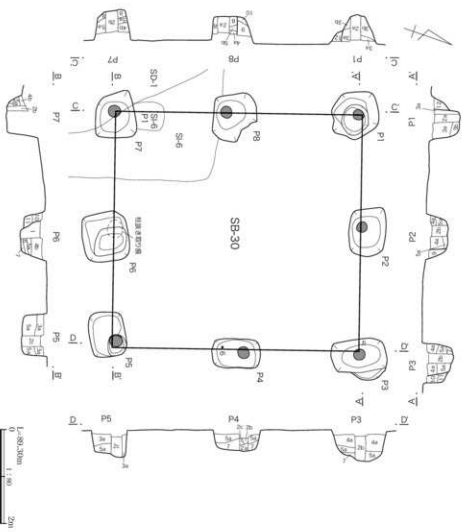
第73図 D区SB-27遺構・出土遺物実測図

第42表 D区SB-27 出土遺物調査表

発掘 層位	種類 品名	出土位置	位置	出土・石目 形状	形状・彫刻の特徴	重量 長さ	注記	産地・備 考
73 1	遺物群 片	口内(13.6) 2.5V/2 内層(1.3)	内層	円形多葉	口内口縁部 体部上縁部刻 線ハナナリ	口内一 部14 mm	D区SB-27 群集行	粘土質
73 2	群集 片	口内 内層(2.4)	2.5V/4.1 内層	円形・多葉 良好	口内一 部11 mm	D区SB-27 群集行	粘土質	
73 3	遺物群 群集	口内(12.6) 内層 2.5V/2 内層(0.8)	内層 2.5V/2 内層	円形多葉 良好	口内一 部10 mm	D区SB-27 群集行	粘土質	
73 4	製土器 片	口内 内層(6.9)	内層 2.5V/2.4 内層 2.5V/2.5 内層	長方形 良好	口内一 部13 mm	D区SB-27 群集行	粘土質	

D区SB-30 (第74-75図、第38-43表、図版一七・一七・一四/V)

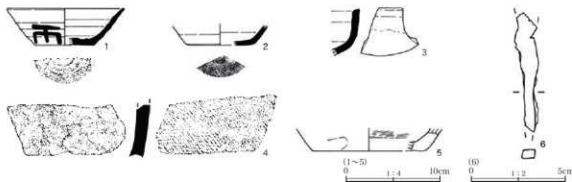
位置 調査区北部にあたるAC・42・43、AH・42・43グリッドに位置する。遺構関係 SD1より古く
SI6より新しい。また本遺構自体も柱の形状や土層から一度建て替えが認められる。平面形状・規模



- 53.30
1 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 50 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
クハ行、(柱石あり)
- 2a 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 5 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2b 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 7 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2c 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 8 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2d 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 9 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2e 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 10 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2f 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 11 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)
- 2g 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜 12 階段土 口一ムアズ子中多葉、口一ムアゾワ多葉、L.3.0あり、傾斜
傾斜付、(柱石あり)

第74図 D区SB-30遺構実測図

桁行2間、梁行2間、8基の柱穴で構成される南北棟とみられる側柱建物跡で、桁行6.2m、梁行5.9m、平面積36.58㎡である。柱間距離は桁行・梁行ともに、2.4mまたは2.7mとなっている。**主軸方向** 桁行が示す方位はN-20°-W **柱穴** 柱穴掘方の形状は方形または不整な円形となっている。長軸80～120cm、深さ30～50cmである。**覆土** 大別すると①新段階の柱抜き取り痕(1層)、②新段階の柱痕跡(2a～2c層)、③新段階の柱穴掘方埋土(3a～8層)、④旧段階の柱穴掘方埋土(9～12層)で構成される。柱穴掘方底面の状況や、土層の様相から、同一地点において一度建て替えを行っているものと考えられる。柱穴は隅丸長方形を基調とし、長軸100cmほど、深さ30～50cmほどである。P6を除いて直径20cmほどの円形の柱痕跡が確認され、P6では底面の痕跡から柱を抜き取ったと考えられる。**出土遺物** 土師器の鉢1点、須恵器杯2点、甕1点、器種不明1点、鉄製品1点を図示した。1は側面に墨書が確認された。6は鉄鏝と考えられ、柱穴の埋土中より出土した。このほかに土師器甕29点158.31g、須恵器杯30点155.57g、高台付杯1点15.5g、蓋7点96.73g、瓦2点121.6gが出土している。**時期** 9世紀後葉。



第75図 D区SB-30出土遺物実測図

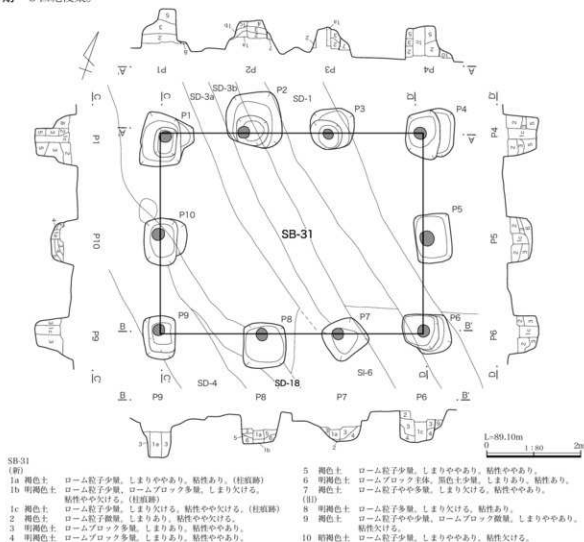
第43表 D区SB-30出土遺物観察表

図番	品名	種類	非羨額 (cm・g)	色調	胎土・石質	構成	器面の状態	器形・彫刻の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・産者
75	1	須恵器 鉢	口径 (12.4) 底径 (6.2) 器高 3.9	外面 2.5Y7/3 浅黄 内面 10YR6/3 に赤い表粉	砂粒少量、白 雲母若干	中々 不良	墨書あり 「市」か別天 文字「天」	口縁部 残部へウ切り後ナデ	口縁部 1/4、底面 1/3 残存	新築方埋 土中	D区SB-30 新築方	益子産
75	2	須恵器 杯	口径 - 底径 (7.4) 器高 (2.1)	10YR4/1 黄	砂粒・黒色粘 土少量	良好		底面 ナデ	底面 1/4 残存	P5 覆土中	D区SB-30 P5	産地不明
75	3	須恵器 不明	口径 - 底径 - 器高 (5.0)	外面 2.5Y7/4 浅黄 内面 10YR5/2 灰黄	砂粒・黒色粘 土少量	良好	自然釉付着		口縁一部 一部残存	P2 掘方埋 土中	D区SB-30 P2 掘方	安中か森崎産
75	4	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (5.5)	外面 10YR5/1 黄 内面 2.5YR/2 灰黄	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 当瓦肌	胴部一部 残存	P1 覆土中	D区SB-30 P1	益子産
75	5	土師器 鉢か	口径 (12.0) 器高 (2.3)	外面 10YR7/4 に赤い表粉 内面 N3/ 黄	砂粒・黒色粘 土少量、白色 針状物質若干	良好	内面 黒色	外面 ヘラケズリか 内面 ヘラミガキ	体一部 一部残存	P3 覆土中	D区SB-30 P3	那須地方産
75	6	鉄製品 鉄鏝か	長 [6.34] 幅 1.27 厚 0.45 重 6.38						一部残存	P4 覆土中	D区SB-30 東側柱列 南第2柱	

D区SB-31 (第76図、第38-44表、図版一七)

位置 調査区北部にあたるAG-42・43グリッドに位置する。**重複関係** SI-6、SD-1・3・4・18より古い。また同一地点において一度建て替えを行っている。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される東西棟の側柱建物跡である。桁行6.6m、梁行5.1m、平面積33.66㎡である。柱間距離は梁行

ではおおよそ2mで描えられているが、桁行では1.6～2.2mとばらつきがある。 **主軸方向** 桁行の示す方位はN-71°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は、方形基調のものがほとんどである。なお確認状況や、土層の様相から同一地点において一度建て替えを行っているものと判断した。P1・4・6・9などの状況から当初の柱穴より、若干西側に柱穴をずらして建て替えを行ったと考えられる。規模は長軸90～110cm、深さは50～90cmである。すべての柱穴から直径20～30cmほどの円形の柱痕跡が土層断面で確認されている。 **覆土** 大別すると①新段階の柱痕跡(1a～1c層)、②新段階の柱穴掘方埋土(2～7層)、③旧段階の柱穴掘方埋土(8～10層)に大別される。 **出土遺物** P10から出土した須恵器の坏1点を図示した。そのほか土師器甕3点89.23g、須恵器坏8点50.59g、蓋1点28.43g、甕6点58.84gが出土している。 **時期** 8世紀後葉。



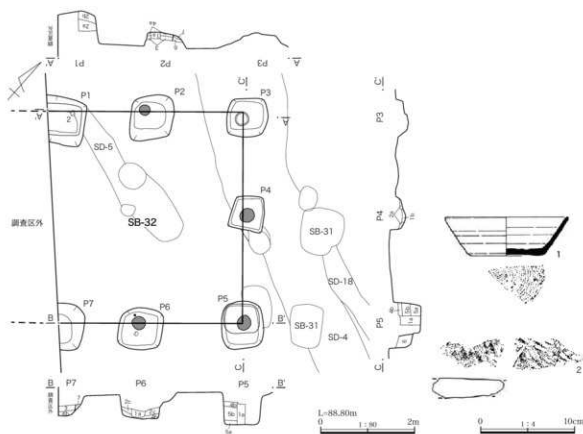
第76図 D区SB-31遺構・出土遺物実測図

第44表 D区SB-31出土遺物観察表

群別 No.	種類 品類	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状況	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
76	須恵器 坏	口径 底径 (7.4) 高さ (1.4)	外面 10YR5/1 内面 7.5YR5/2 灰黒	鉄灰微量・黒色 粒子若干	良好		底部へ少切り残ナシ	体一部現存	P10 掘方 埋土中	D区SB-31 P10 掘方	磁子産

D区 SB-32 (第77図、第38・45表、図版一八)

位置 調査区北西部にあたるAF-42・43、AG-43グリッドに位置する。**重複関係** SD-4・5と重複しており、本遺構が新しい。また同一地点において一度建て替えを行っている。**平面形状・規模** 東側が調査区外に延びており全体を確認できていないが、桁行2間以上、梁行2間、7基以上の柱穴で構成される東西棟の側柱建物跡とみられる。桁行4.7m以上、梁行5.3mである。柱間距離は確認された範囲では2.1mほどで揃えられている。**主軸方向** 桁行の示す方位はN-45°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は方形基調である。掘方底面の状況やP2・5・7の覆土の様相から同一地点において一度建て替えを行っているものと考えられる。規模は長さ90cm、深さ30～60cmほどである。またP2・4・5・6では、直径20～30cmほどの柱痕跡が確認されている。**覆土** 大別すると、①新段階の柱痕跡(1a・b層)、②新段階の柱穴掘方埋土(2a～5b)、③旧段階の掘方埋土(6・7層)に分類される。**出土遺物** 須恵器環1点と瓦1点を図示した。このほか土師器甕1点8.55g、須恵器環1点、高台付環1点3.07g、甕4点54.64gが出土している。**時期** 9世紀第1四半期。



SB-32

(新)

- 1a 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱痕跡)
 1b 褐色土 ローム粒子やや多量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱痕跡)
 2a 暗褐色土 暗褐色土とロームブロックの混合土。しまりあり、粘性あり。
 2b 暗褐色土 ローム粒子多量、しまりややあり。粘性あり。
 2c 暗褐色土 ローム粒子やや少量、しまりやや欠ける。粘性やや欠ける。
 3 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性やや欠ける。
 4a 明褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒子やや少量、しまりあり。粘性欠ける。

- 4b 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりややあり。粘性欠ける。
 5a 褐色土 ロームブロックやや多量、しまりややあり。粘性ややあり。
 5b 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性あり。
 (旧)
 6 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
 7 明褐色土 ロームブロック多量、しまりややあり。粘性欠ける。

第77図 D区SB-32遺構・出土遺物実測図

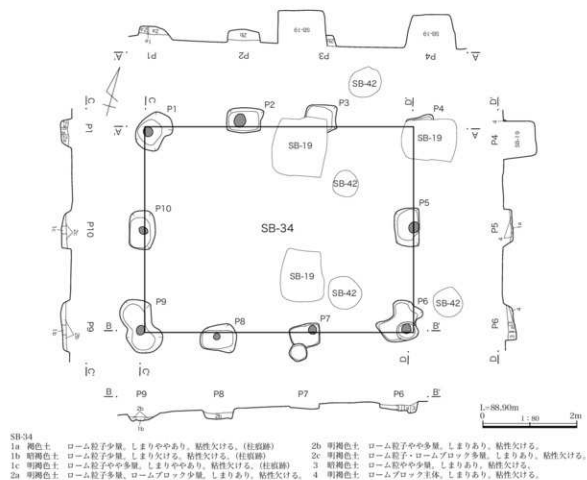
第45表 D区SB-32出土遺物観察表

種別 No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状況	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
77 1	須恵器 環	口径 (13.0) 底径 (7.6) 器高 4.1	外面 5Y4/1 底面 5Y4/1	砂粒多量、微・ 黒色粘土少量	良好		底部糸切り	口縁部一 部、体一 底部1/6 残存	P2 掘方 理土中	D区SB-32 P2 掘方	益子産
77 2	瓦瓦	厚 2.1 重 67.05	外面 5YR5/6 頂面 5YR4/4 内面 5YR4/4	砂粒・塵少量	不良		外面 格子タタキ 内面 ナデ	一部残存	P1 掘方 理土中	D区SB-32 P1 掘方理土	

D区SB-34 (第78図、第38表、図版一八)

位置 調査区の中央西側にあたるAG-45、AH-44・45グリッドに位置する。 **重複関係** SB-19・42と重複しており、SB-19が新しく、SB-42との新旧関係は不明である。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される東西棟の側柱建物跡である。桁行6.2m、梁行5.1m、平面積31.62㎡である。柱間距離は2mほどとなっている。柱穴掘方の形状は方形または不整形のものが確認される。規模は長さ70～90cm、深さ20cmである。P3・4以外の柱穴からは直径10～20cmほどの円形の柱痕跡が確認されている。

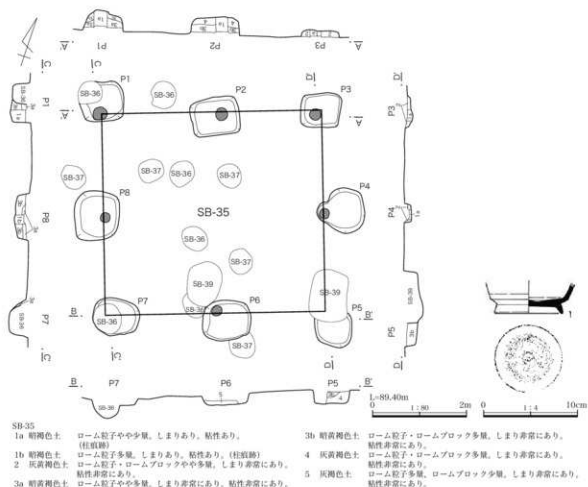
主軸方向 桁行の示す方位はN-75°-E **覆土** 大別すると柱痕跡(1a～c層)と、柱穴掘方埋土(2a～4層)で構成される。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。



第78図 D区SB-34遺構実測図

D区SB-35 (第79図、第38・46表、図版一八・一九・一一七)

位置 調査区中央部にあたる、AH-43・44、AI-43・44グリッドに位置する。 **重複関係** SB-36・39、SD-1より古く、SB-37より新しい。 **平面形状・規模** 桁行2軒、梁行2軒、8基の柱穴で構成される側柱建物跡である。正方形であるが、東西方向にわずかに長いことから東西棟とみられる。桁行5.4m、梁行5.3m、平面積28.62㎡である。柱間距離はP1-P2間を除いて2.0～2.1mほどである。 **主軸方向** N-73°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は方形または楕円形である。規模は長さ100cm、深さ10～30cmである。P5・7以外の柱穴からは直径20cmほどの円形の柱痕跡が確認されている。 **覆土** 大別すると柱痕跡(1a・b層)と柱穴埋方埋土(2～5層)で構成される。 **出土遺物** 須恵器高台付坏1点を図示した。このほかに須恵器坏3点10.83g、高台付坏1点9.86g、甕3点35.84gが出土している。 **時期** 8世紀後葉か。



第79図 D区SB-35遺構・出土遺物実測図

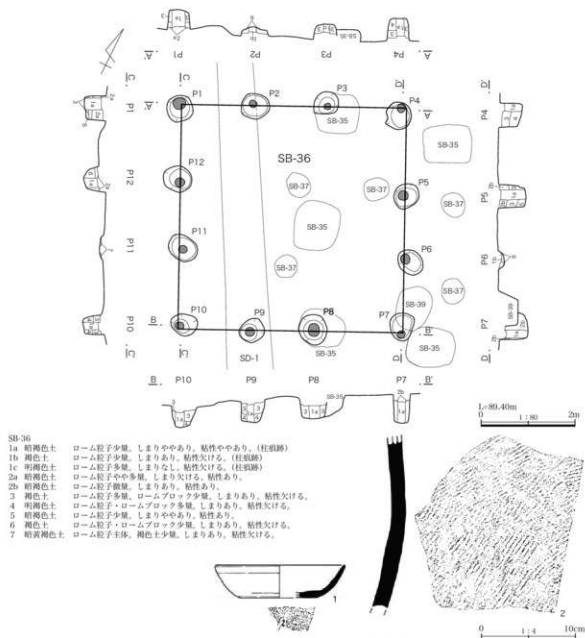
第46表 D区SB-35出土遺物観察表

押出 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・彫刻の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	所在地・備考
79	須恵器 高台付坏	口径 - 底径 7.2 高さ [3.3]	外面 5Y4/1 底 10YR4/2 内面 10YR4/2 灰黄褐色	砂粒多量、靨・ 黒色粒子微量	良好		底部 回転ヘラケズリ 高台付坏	底～高台 部存在	P5 埋土中	D区SB-35	磁子産

D区SB-36 (第80図、第38・47表、図版一八・一九)

位置 調査区中央部にあたるAH-43・44グリッドに位置する。**重複関係** SB-39・SD-1より古く、SB-35・37より新しい。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行3間、12基の柱穴で構成される側柱建物跡である。正方形であるが、東西方向がわずかに長いことから東西棟とみられる。規模は桁行5.2m、梁行5.1m、平面積26.52㎡である。柱間距離はP11-P12・P5-P6が1.4m、P4-P5・P7-P8が1.8m、それ以外は1.6mとなっている。**主軸方向** 桁行の示す方位はN-65°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は円形基調である。規模は長軸60cm、深さ10～60cmほどである。すべての柱穴からは、直径10～20cmの円形の柱痕跡が確認されている。

覆土 大別すると柱痕跡(1a～c層)と、柱穴掘方埋土(2a～7層)で構成される。**出土遺物** 須恵器環1点、甕1点を図示した。このほかに土師器甕5点28.32g、須恵器環4点27.53g、蓋2点14.63g、甕1点3.69gが出土している。**時期** 8世紀第4四半期。



SB-36

- 1a 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり。(柱痕跡)
 1b 褐色土 ローム粒子少量。しまりあり、粘性欠ける。(柱痕跡)
 1c 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりなし、粘性欠ける。(柱痕跡)
 2a 暗褐色土 ローム粒子やや多量。しまり欠ける。粘性あり。
 2b 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりあり、粘性あり。
 3 褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりあり、粘性欠ける。
 4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり、粘性欠ける。
 5 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり、粘性あり。
 6 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりあり、粘性欠ける。
 7 暗褐色土 ローム粒子主体。褐色土少量。しまりあり、粘性欠ける。

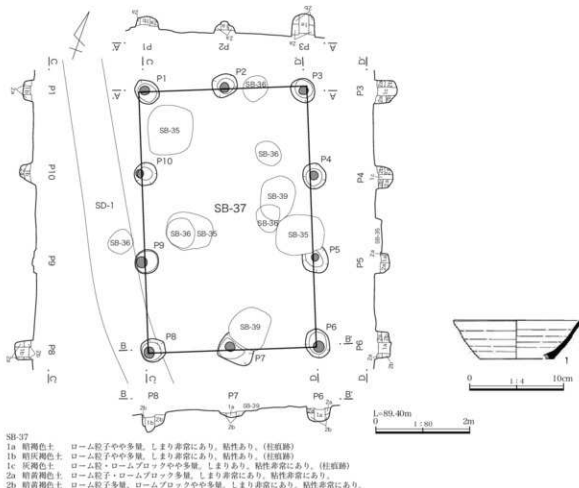
第80図 D区SB-36遺構・出土遺物実測図

第47表 D区 SB-36 出土遺物観察表

調査 No.	種類 名称	計量値 (cm・g)	色調	粘土・石質 成分	造形	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・産期
80	1	須恵器 環	口径(13.8) 底径(8.0) 器高 3.5	2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量、黒 色粒子微量	良好	底面へつ切り後ナデ	口縁一部残 存	P9 覆土中	D区 SB-36 P9	磁子産
80	2	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高(16.2)	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量、確 模量	良好	口縁部内面 ナデ 胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一部 残存	P5 掘方 埋土中	D区 SB-36 P5 掘方	産地不明

D区 SB-37 (第81図、第38-48表、図版一八・一九)

位置 調査区中央部にあたるAH-43・44、AI-44グリッドに位置する。**重複関係** SB-35・36・39、SD-1より古い。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡である。桁行6m、梁行4m、平面積24㎡である。柱間距離はP1-P2が1.7m、P5-P6・P6-P7・P8-P9が1.9m、それ以外は1.8mとなっている。**軸方向** 桁行の示す方位はN・20°・W **柱穴** 柱穴掘方の形状は楕円形である。規模は直径50cm、深さ10～40cmである。P6以外の柱穴からは直径20cmほどの円形の柱痕跡が確認されている。また、柱痕跡が確認できなかったP9も掘方底面が1段窪む部分があり、これが柱痕跡であった可能性がある。**覆土** 大別すると柱痕跡(1a～c層)と、柱穴掘方埋土(2a・b層)で構成される。**出土遺物** 須恵器環1点を図示した。このほかに土師器壺1点22.93g、須恵器環3点5.05g、甕2点36.26gが出土している。**時期** 土器の時期は9世紀第一四半と考えられるが、他の遺構との新旧関係から、8世紀後葉以前か。



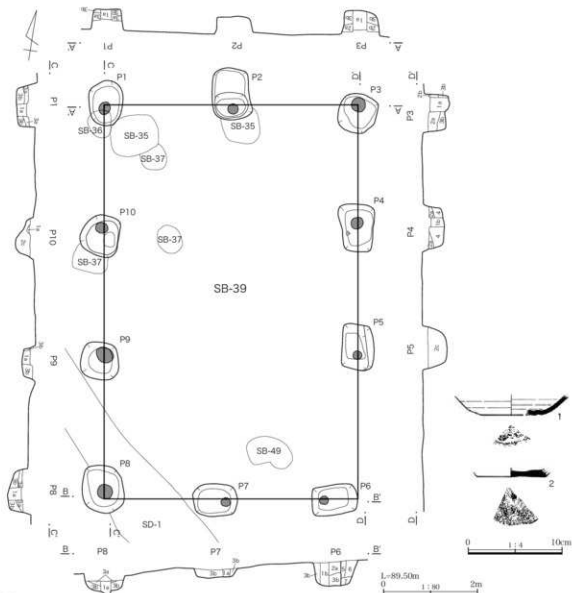
第81図 D区 SB-37遺構・出土遺物実測図

第48表 D区SB-37 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 名称	計量値 (m・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
81	1	須恵器 杯	口径 13.5 底径 7.8 器高 4.1	2.5Y6/3 にふい黄	砂粘質土、黒 雲母若干	良好		口縁・底面 底面へハ切り後ヘラケズリ	口縁・底面 一部残存	覆土中 P8	D区SB-37 鉢子産	

D区SB-39 (第82図、第38-49表、図版一九)

位置 調査区中央にあたるAH・AI-44グリッドに位置する。重複関係 SD-1より古く、SB-35・36・37より新しい。SB-49との新旧関係は不明である。P10のように古い柱痕がみられるため、ほぼ同一地点にお



SB-39

(新)

- 1a 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱頭跡)
 1b 明褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。(柱頭跡)
 2a 褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量、しまりややあり。粘性欠ける。
 2b 褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
 2c 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、黒褐色土少量、しまりややあり。粘性ややあり。
 3a 明褐色土 ロームブロック少量、ローム粒子やや少量、しまりややあり。粘性ややあり。

- 3b 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり。粘性欠ける。
 4 明褐色土 ローム粒やや多量、しまりややあり。粘性ややあり。(II)
 5 褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量、しまり欠ける。粘性欠ける。(柱頭跡)
 6 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまりあり。粘性欠ける。
 7 明褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりややあり。粘性やや欠ける。

第82図 D区SB-39 遺構・出土遺物実測図

いて一度建て替えを行ったとみられる。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される、南北棟の側柱建物跡である。桁行9.2m、梁行6m、平面積55.2㎡である。柱間距離はP1-P10・P3-P4・P7-P8・P9-P10が2.5m、P8-P9・P4-P5が2.8m、P1-P2・P2-P3が2.7m、P6-P7が2.1mとなっている。

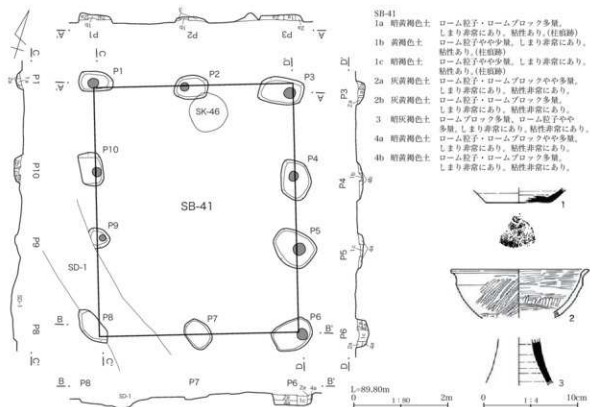
主軸方向 桁行が示す方位はN-10°-W **柱穴** 柱穴掘方の形状は方形または不整形円形である。規模は長軸80～100cm、深さ10～50cmほどである。底面の痕跡や土層からすべての柱穴で直径10～30cmの柱痕跡が確認されている。 **覆土** 大別すると、①新段階の柱痕跡(1a・b層)、②新段階の柱穴掘方埋土(2a～4層)、③旧段階の柱痕跡(5層)、④旧段階の柱穴掘方埋土(6・7層)で構成される。 **出土遺物** 須恵器環2点を図示した。このほかに土師器甕10点91.01g、甕1点5.54g、須恵器環18点67.19g、蓋1点8.54g、甕5点52.9g、壺1点13.55gが出土している。 **時期** 8世紀後葉か。

第49表 D区SB-39 出土遺物観察表

検出 地	種別 品類	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
82	1	須恵器 環 口径 底径 高さ (7.4) (2.1)	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒少量	良好		底部へつ切り後ナデ	体～底部 一部現存	P1 覆土中	D区SB-39 P1	磁子産
82	2	須恵器 環 口径 底径 高さ (7.4) (0.9)	外面5Y4/2 灰オリーブ 内面5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		底部へつ切り後ナデ	底部1/4 現存	P6 覆土中	D区SB-39 P6	磁子産

D区SB-41 (第83図、第38-50表、図版一九・一一七)

位置 AK-46・47グリッドに位置する。 **重複関係** SD-1、SK-46と重複しており、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡である。桁行5.8m、梁



第83図 D区SB-41 遺構・出土遺物実測図

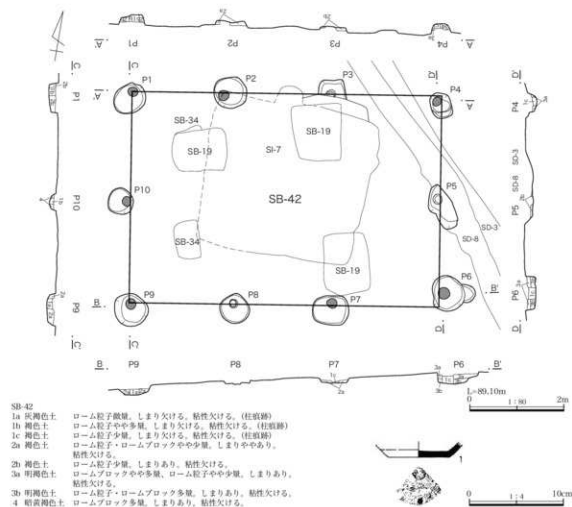
行 4.9 m、平面積 28.4 m²である。柱間距離は P2-P3・P6-P7 が 2.2 m で、それ以外はおおよそ 1.9 m で揃っている。**主軸方向** 桁行が示す方位は N-18°-W **柱穴** 柱穴掘方の形状は不整な方形または楕円形となっている。規模は長さ 60～90 cm、深さ 20～30 cm である。P7・8 以外の柱穴からは直径 20 cm ほどの円形の柱痕跡が確認されている。**覆土** 大別すると、柱痕跡 (1a～c 層)、と柱穴掘方埋土 (2a～4 b 層) で構成される。**出土遺物** 土師器埴 1 点、須恵器埴 1 点、高環 1 点を図示した。このほかに須恵器埴 11 点 51.74 g、蓋 3 点 11.31 g、裏 2 点 14.43 g が出土している。**時期** 9 世紀後葉。

第 50 表 D 区 SB-41 出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石 質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 部位	出土 状態	注記	産地・備考
83	1	須恵器 埴	口径 - 底径 (7.0) 器高 (1.5)	5Y7/2 灰白	砂粒少量	良好		底面 ヘタ切り幾ナデ	埴部一 部、底部 1/4 残存	P9 覆土中	D 区 SB-41 P9	磁子産
83	2	土師器 埴	口径 (14.4) 底径 - 器高 (5.1)	内面 10YR5/3 にふい黄褐色 内面 10YR3/1 黄褐色	砂粒微量	良好	内面 黒色硝埋	口縁外面 ロウロナデ 埴部外面 ヘラミガキ・ケウク 内面 ヘラミガキ	口縁～埴 部 1/6 残 存	一括 一括	D 区 SB-41	
83	3	須恵器 高環	口径 - 底径 - 器高 (5.0)	2.5Y6/1 黄灰	砂粒少量	良好		3 造し	埴部一部 残存	P2 覆土中	D 区 SB-41 P2	産地不明

D 区 SB-42 (第 84 図、第 38-51 表、図版一九)

位置 調査区中央部にあたる AH-44・45 グリッドに位置する。**重複関係** SB-19、SD-3・8 より古く、



第 84 図 D 区 SB-42 遺構・出土遺物実測図

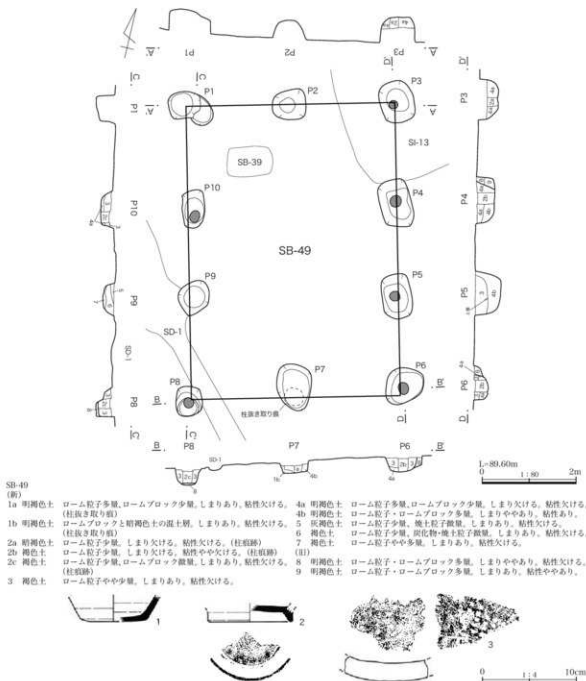
SI-7より新しい。SB-34との新旧関係は不明である。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される東西棟の側柱建物跡である。桁行7.6m、梁行5.1m、平面積38.76㎡である。柱間距離はP1-P2・P4-P5・P5-P6・P7-P8が2m、それ以外が2.2mで揃っている。 **主軸方向** 桁行が示す方位はN-83°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は楕円形または方形である。規模は長さ50～80cm、深さ20cmである。P1・2・4・6・7・9・10からは直径10～20cmほどの円形の柱痕跡が確認されている。P3・5・8については底面付近がわずかに窪んでおり、この部分が柱痕跡の可能性もある。 **覆土** 大別すると、柱痕跡(1a～c層)、柱穴掘方埋土(2a～4層)で構成される。 **出土遺物** 須恵器環1点を図示した。このほかに須恵器裏1点13.91g、蓋1点3.91gが出土している。 **時期** 9世紀中葉か。

第51表 D区SB-42出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
84	1	須恵器 環	口径 11.5 底径 7.8 器高 4.1	2.5V0/3 に濃い黄	砂粒微細、黒 雲母若干	良好		ロタロ目画書 底部ヘラ切り後ヘラケズ リ	口縁～底 部一部残 存	P9 覆土中	D区SB-37 P8	葦子産

D区SB-49 (第85図、第38-52表)

位置 調査区中央部にあたるAI-44・45グリッドに位置する。 **重複関係** SD-1より古く、SI-13より新しい。SB-39との新旧関係は不明である。また、同一地点で建て替えを行っている。 **平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡である。規模は桁行6.9m、梁行5.2m、平面積35.88㎡である。柱間距離はP3-P4・P4-P5・P5-P6が2m、P1-P2・P2-P3・P6-P7・P7-P8、P1-P10が2.4m、P9-P10が1.7mとなっている。 **主軸方向** 桁行が示す方位はN-18°-W **柱穴** 柱穴掘方の形状は隅丸方形または不整な楕円形である。長軸60～100cm、深さ30～60cmである。P3～6・8・10からは直径20cmほどの円形の柱痕跡が確認された。またP7からは柱を抜き取った痕跡が確認されている。 **覆土** 大別すると、新段階の抜き取り痕(1a・1b)、柱痕跡(2a～2c層)、新段階の柱穴掘方埋土(3～7層)、旧段階の柱穴掘方埋土(8・9層)で構成される。 **出土遺物** 須恵器環1点、高台付環1点、瓦1点を図示した。このほかに土師器裏3点21.53g、須恵器環22点135.27g、高台付環1点35.23g、蓋1点6.23g、裏7点129.93gが出土している。 **時期** 不明。



第85図 D区SB-49遺構・出土遺物実測図

第52表 D区SB-49出土遺物観察表

探検 No.	種類 No.	種類 図柄	非律儀 (cm・g)	色調	粘土・石質 焼成	断面の状況	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	所在地・層号
85	1	黒色陶 杯	口径 7.0 底径 (2.7)	外面 7.5V4/2 灰オリーブ 内面 5V3/2 オリーブ黒	砂粒少量、礫・良好 赤色粘土微量	良好	底部 ヘラウズリ	体部一 部、底部 1/4 残存	覆土中	D区SB-49 P4	磁子産
85	2	黒色陶 高台付杯	口径 (8.6) 底径 (1.7)	外面 5V4/1 灰 内面 7.5V5/1 灰	砂粒少量、礫 若干	良好	底部 糸切り 高台付	底部 1/3 残存	覆土中	D区SB-49 P4	磁子産
85	3	灰瓦	厚 2.6 長 151.63	外面 2.5V5/2 黒色 内面 5V4/2 灰オリーブ	良好	良好	外面 格子タタキ 内面 アラ、布目織	一部残存	覆土中	D区SB-46 P6	

3 溝

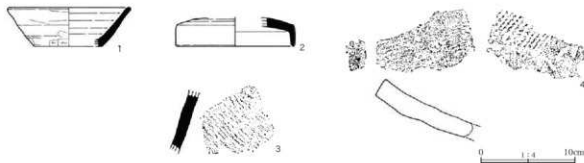
調査区を南北に湾曲しながら縦断している。SD-1 と 3 は平行する。

第53表 D区溝計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-1	SD-70	AG-41～43 AH-43-44 AI-44-45 AJ-45～47 AK-46-47	N-40°-W	S字状	(75.00)	0.60～ 1.20	0.10～ 0.20	逆台形	有	SI-6・14・28, SB-30・31・36・37 39・41・49, SD-8より新
SD-2	-	AF-41-42	N-30°-E	直線状	3.10	0.50～ 0.60	0.10～ 0.20	逆台形	有	
SD-3	SD-71	AF-42 AG-42-43 AH-43～45 AI-45	N-30°-W	S字状	42.00	0.50～ 1.10	0.10	逆台形	有	SI-6, SB-31・42, SD-1・8より 新
SD-4	-	AF-42-43 AG-42-43	N-10～40°-W	弧状	22.00	1.50～ 1.90	0.10～ 0.20	逆台形	有	SI-6・43, SB-31・32, SD-18よ り古
SD-5	-	AF-43	N-45°-W	直線状	3.00		0.10未満	逆台形	無	SB-32より古
SD-8	-	AH-44-45 AI-45 AJ-45-46 AK-AL-46	N-68°-W	S字状	44.00	1.00	0.10	逆台形	有	SI-29, SB-42, SD-1より新 SD-3とは同時期か
SD-17	-	AJ-AK-47	N-35°-W	直線状	5.10	0.90	0.10未満	逆台形	有	SI-16より新
SD-18	-	AG-43-44 AH-44	N-10°-W	S字状	10.00	0.90	0.10未満	逆台形	無	SB-10より古 SB-31より新 SD-4とは同時期か

D区SD-1 (第86-87図、第53-54表、図版一九・一一七)

位置 調査区を南北に縦断するかたちで、AG-41～43、AH-43・44、AI-44・45、AJ-45～47、AK-46・47グリッドに位置する。**重複関係** SI-6・14・28、SB-30・31・36・37・39・41・49、SD-8と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 調査区北部から、南端まで約75mを南北に延びている。幅は地点によって異なり最小で60cm、最大で120cmほどとなっている。溝の幅が長い部分は中央付近であり、この部分では掘り返しの痕跡(1・2層)が明瞭に認められる。深さは10～20cmほどと浅い。**主軸方向** N-40°-W **覆土** 北側の3か所で土層観察を行った。覆土は2層で、掘り返し部分の様相から1層が新しい段階の堆積土、2層が古い段階の堆積土とみられる。**底面** ローム層中に作られており比較的丸みを帯びている。壁は非常に緩やかな立ち上がりである。**出土遺物** 須恵器環1点、蓋1点、甕1点、瓦1点を図示した。2は短頸壺の蓋である。このほかに土師器環5点15.95g、甕26点277.81g、須恵器環26点171.72g、蓋7点172.03g、捏ね鉢1点54.48g、甕24点511.62g、瓦5点404.36g、陶器3点11.8gが出土している。**時期** 9世紀以降で、現在の道跡と平行する。



第86図 D区SD-1 出土遺物実測図

第54表 D区SD-1出土遺物観察表

探検 No.	種類 別号	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
86	1	黒土器 環	口径 (13.0) 底径 (7.0) 器高 [4.1]	外面 2.5YR5/2 灰オリーブ 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒・塵埃質	良好	ロケロ口内面磨 体部下端 手持ちヘラケズ リ	口縁一 部 1/8 残 存	覆土中	D区 SD-70 SI-28 付近	磁子産
86	2	黒土器 蓋	口径 (12.2) 底径 - 器高 [3.4]	外面 2.5Y6/3 に濃い紫 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量	良好		口縁部一 部、体部 1/3 残存	覆土中	D区 SD-70 SI-29 付近	磁子産
86	3	黒土器 甕	口径 - 底径 - 器高 [6.9]	外面 2.5Y5/2 紫灰黄 内面 10YR5/1 黄灰	砂粒多量	良好	胴部外面 平行タキ	一部残存	覆土中	D区 SD-70 SI-28 付近	磁子産か
86	4	灰瓦	厚 2.1 重 155.21	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/3 に濃い紫	砂粒多量。塵 少量	良好	凸面 縦タキ 凹面 糸切痕・ナデ 側面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	D区 SD-70 D区南端	

D区SD-2 (第87図、第53表)

位置 調査区北部にあたるAF-41・42グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に3.1mほど延びている。幅は50～60cm、深さは10～20cmほどと浅い。**主軸方向** N-30°-E **覆土** 粘性の強い暗褐色土・灰暗褐色土の2層を確認した。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つがおおむね平坦に作られている。壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕10.89g、須恵器環1点1.84g、甕2点10.54gが出土している。**時期** 不明。

D区SD-3 (第87図、第53表・図版十九)

位置 調査区中央を南北に延びるかたちで、AF-42、AG-42・43、AH-43・44・45、AI-45グリッドに位置している。**重複関係** SI-6、SB-31・42、SD-1・8と重複しており、本遺構が新しい。SD-1・4と平行する。

平面形状・規模 北西-南東方向に42mほど延びている。幅は地点によって異なり50～110cmほどとなっている。掘り返しが行われており、北側では2条の溝(3a・3b)が並行して延びている。深さは最大で10cmほどである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 北側を中心に4か所で土層観察を行い、3層に分層した。このうち1層が新しい段階(3a)の覆土、2・3層が古い段階(3b)の溝の覆土である。**底面** 底面は新田ともにローム層中に作られており、壁は底面より緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕7点63.44g、須恵器環5点11.81g、高台付環1点2.81g、甕2点65.94g、陶器1点2.07gが出土している。**時期** 9世紀以降か。

D区SD-4 (第87図、第53表)

位置 AF-42・43、AG-42・43グリッドに位置する。**重複関係** SI-6・43、SB-31・32、SD-18と重複しており、本遺構が最も古い。4aはSD-18と同じ溝の可能性が高い。SD-3との距離は約2mほどで平行する。

平面形状・規模 北西-南東方向に22mほど延びている。幅は地点によって異なり150～190cmほどとなっている。深さは10～20cmほどである。**主軸方向** N-10°～40°-W **覆土** 3か所で土層観察を行い、5層に分層した。このうち1～2層は新しい段階(4a)のもの、3～5層は古い段階(4b)の覆土である。**底面** ローム層中に作られている。掘り返しの影響でやや凹凸がみられる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器甕17点124.39g、須恵器環5点32.81g、蓋3点27.6g、高台付環1点8.06g、甕2点17.68g、蓋1点13.12g、が出土している。**時期** 7世紀以前か。

D区SD-5 (第87図、第53表)

位置 調査区東側にあたるAF-43グリッドに位置する。**重複関係** SB-32と重複しており、本遺構が古い。
平面形状・規模 北西-南東方向に3mほど延びている。遺存状況が極めて悪く深さは10cmにも満たない。
主軸方向 N-45°-W **覆土** ほとんど残っておらず詳細不明。**底面** ローム層中に作られており、比較的平坦に作られている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

D区SD-8 (第87図、第53表)

位置 調査区中央部から南東部にあたるAH-44・45、AI-45、AJ-45・46、AK-46、AL-46グリッドにわたって位置している。**重複関係** SI-29、SB-42、SD-1より新しく、SD-3と合流する。**平面形状・規模** 北西-南東方向にやや湾曲しながら44mほど延びている。最大幅は100cm、深さは地点によって差があるがおおよそ10cmほどとなっている。AH-44・45、AI-45グリッドではSD-3と重複しつつ、ほぼ同じ方向に延びている。南東側に行くほど徐々に浅くなりAK-46グリッドでは溝が途切れる箇所がある。**主軸方向** N-68°-W **覆土** 2か所で土層観察を行い、2層に分層した。基本的には2層とした暗褐色土が全体を覆っている。1層はロームブロックを主体とした黄褐色土である。**底面** 丸みを帯びており、壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環1点6.58g、甕2点70.81g、須恵器環27点169.02g、高台付環1点27.33g、蓋2点12.4g、瓦4点325.82g、陶器1点3.19gが出土している。**時期** 不明。

D区SD-17 (第87図、第53表)

位置 調査区南部にあたるAJ・AK-47グリッドに位置する。**重複関係** SI-16と重複しており、本遺構が新しい。SD-1と平行する。**平面形状・規模** 北西-南東方向に5.1mほど延びている。最大幅は90cm、遺存状況が悪く深さは10cm未満である。**主軸方向** N-35°-W **覆土** ローム粒子を多く含む灰黄褐色土が堆積している。本遺構が破壊しているSI-16の貼床土に近似している。**底面** 丸みを帯びるが、やや凹凸が認められる。**出土遺物** 土師器1点1.91g、甕1点14.56g、須恵器環1点4.61g、蓋1点4.79g、陶器1点1.76gが出土している。**時期** 不明。

D区SD-18 (第87図、第53表)

位置 調査区中央西側にあたるAG-43・44、AH-44グリッドに位置する。**重複関係** SI-6・SB-10より古く、SB-31より新しい。SD-4とは同じ溝になる可能性が高い。**平面形状・規模** 南北方向に10mほど延びている。最大幅は90cmほどで、深さは10cm未満である。**主軸方向** N-10°-W **覆土** しまりのある褐色土が堆積している。SB-10を作る時に埋め、整地していると考えられる。**底面** 丸みを帯びており、壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 8世紀後葉以前。

4 土坑

台地の平坦面～傾斜面に7基が確認されている。

第55表 D区土坑計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-20	AJ-44	N-60° -W	楕円形	1.15	0.85	0.20	逆台形	有	SB-21と重複
SK-33	AJ-45	N-20° -E	長方形	2.20	0.95	0.60	箱形	無	陥し穴か
SK-38	AK-46	-	円形	1.20	1.20	0.06	皿状	無	
SK-44	AI-AJ-48	N-40° -W	楕円形	0.75	0.60	0.10	皿状	有	
SK-45	AJ-47	N-80° -E	楕円形	0.70	0.65	0.25	顕底状	有	
SK-46	AK-46	-	円形	0.80	0.80	0.24	逆台形	有	SB-41より新
SK-47	AJ-47	N-80° -W	隅丸方形	0.62	0.50	0.50	U字状	無	

D区SK-20(第88図、第55表、図版一九)

位置 調査区東部にあたるAJ-44グリッドに位置する。**重複関係** SB-21と重複しているが新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 北西-南東方向に長い楕円形で、長軸115cm、短軸85cm、深さ20cmである。

主軸方向 N-60° -W **覆土** 3層に分層した。1層は黒褐色土、2・3層は底面を覆う暗褐色土である。

底面 ローム層中に作られており平坦になっている。壁は比較的急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、須恵器環1点32.06g、蓋1点7.36g、甕2点38.26g、瓦1点157.86gが出土している。**時期** 不明。

D区SK-33(第88図、第55表、図版二〇)

位置 調査区中央部付近にあたるAJ-45グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い長方形で、長軸220cm、短軸95cm、深さ60cmである。**主軸方向** N-20° -E **覆土** 7層に分層した。固く締まっている。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は底面から急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 形状や覆土の状況から、縄文時代の陥し穴の可能性が高い。

D区SK-38(第88図、第55表)

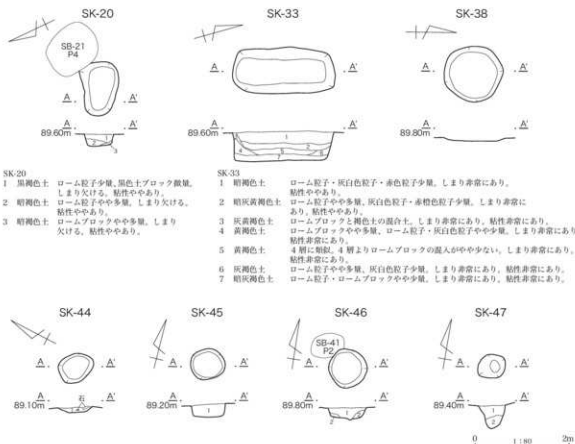
位置 調査区南東部にあたるAK-46グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 直径120cmほどの円形で深さは6cmほどである。**覆土** 不明。**底面** 平坦に作られている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

D区SK-44(第88図、第55表、図版二〇)

位置 調査区南部にあたるAI-AJ-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 楕円形で、長軸75cm、短軸60cm、深さ10cmである。**主軸方向** N-40° -W **覆土** 石や焼土粒子・炭化物を含む褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 覆土中から石が出土している。図示できる遺物はないが、土師器甕1点30.55g、須恵器環7点27.09g、高台付環2点34.45g、甕5点15.37gが出土している。**時期** 不明。

D区 SK-45 (第88図、第55表、図版二〇)

位置 調査区南部にあたるAI-47グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 楕円形で、長軸70cm、短軸65cm、深さ25cmである。主軸方向 N・80° - E 覆土 灰色粘土ブロックやローム粒子を含む暗褐色土が堆積している。底面 ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器婁3点80.6g、須臾器杯7点28.55g、婁1点8.46gが出土している。時期 不明。



SK-20

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量、灰色土ブロック散見。しまり欠ける。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子やや多量。しまり欠ける。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロックやや多量。しまり欠ける。粘性ややあり。

SK-33

- 1 暗褐色土 ローム粒子・灰白色粒子・赤色粒子少量。しまり非常にあり。粘性ややあり。
- 2 暗灰黄褐色土 ローム粒子やや多量。灰白色粒子・赤褐色粒子少量。しまり非常にあり。粘性ややあり。
- 3 灰黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 4 黄褐色土 ロームブロックやや多量。ローム粒子・灰白色粒子やや少量。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 5 黄褐色土 土層に散見。4層よりロームブロックの混入がやや少ない。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 6 灰褐色土 ローム粒子やや多量。灰白色粒子少量。しまり非常にあり。粘性非常にあり。
- 7 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや少量。しまり非常にあり。粘性非常にあり。

SK-44

- 1 褐色土 粘土粒子・灰化物粒子少量。しまりややあり。粘性欠ける。

SK-45

- 1 暗褐色土 ローム粒子・灰色粘土粒子・灰色粘土ブロック少量。しまりややあり。粘性欠ける。(埋め戻しか)

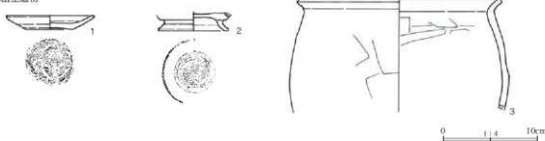
SK-46

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性欠ける。
- 2 暗褐色土 ローム粒子やや多量。しまり欠ける。粘性欠ける。

SK-47

- 1 褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック散見。しまりやや欠ける。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量。しまりややあり。粘性あり。(埋め戻しか)

SK-46出土遺物



第88図 D区 SK-20・33・38・44～47遺構・SK-46出土遺物実測図

D区 SK-46 (第88図、第55-56表、図版二〇・一一七)

位置 調査区南部にあたるAK-46グリッドに位置する。**重複関係** SB-41P2と重複しており本遺構が新しい。**平面形状・規模** 直径80cmほどの円形で、深さは24cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 自然堆積土とみられる暗褐色土と明褐色土の2層である。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が認められる。壁は比較的急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 土師器高台付環1点、甕1点、土師質土器皿1点を図示した。このほかに土師器環3点18.51g、甕9点302.38g、須惠器環15点119.16g、高台付環3点85.88g、甕4点67.1gが出土している。**時期** 10世紀以降か。

第56表 D区SK-46出土遺物観察表

図版 No.	種類 図柄	非濠積 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状況	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	備考
88 1	土師器 皿	口径 (9.2) 底径 5.0 器高 1.5	外面 7.5YR7/4 に5%増 内面 5YR7/6 増	砂粒微量、黒 雲母・赤色粒 子若干	良好		底部 糸切り	口縁部 1/4 残存、底部 ほぼ完全	覆土中	D区 SK-46 一拵	
88 2	土師器 高台付環	口径 - 底径 (7.4) 器高 (1.9)	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 5YR5/6 明褐色	砂粒微量	良好		底部 糸切り 高台付環	高台部 1/2 残存	覆土中	D区 SK-46 一拵	
88 3	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 - 器高 (11.8)	外面 7.5YR4/2 内面 7.5YR5/4 に5%増		良好		口縁部 ココナデ 胴部 ヘラナデ	口縁部 1/6 残存	覆土中	D区 SK-46 一拵	

D区 SK-47 (第88図、第55表)

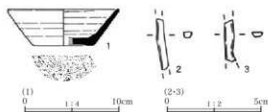
位置 調査区南部にあたるAJ-47グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ50cmである。**主軸方向** N-80°-W **覆土** 上部に堆積する褐色土と底面を覆う明褐色土の2層を確認した。このうち底面を覆う明褐色土はロームブロックを多く含み締まりがある。**底面** 丸みを帯び、壁は底面から急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

5 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

D区遺構外の遺物 (第89図、第57表)

須惠器の環1点と鉄製品2点を図示した。1の環は底部が糸切り離しである。2と3は釘と考えられる。他に遺構外の遺物は縄文・弥生土器が出土しているが、第3章第3節に示した。



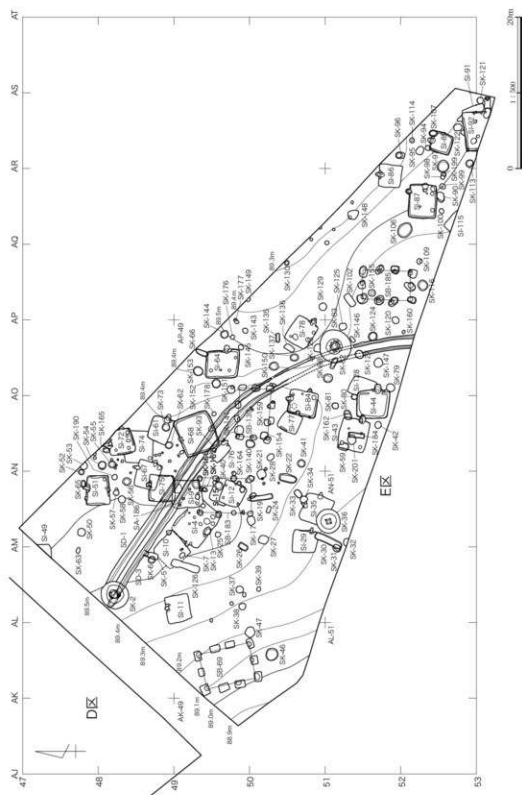
第89図 D区 遺構外出土遺物実測図

第57表 D区遺構外出土遺物観察表

図版 No.	種類 図柄	非濠積 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状況	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	備考
89 1	須惠器 環	口径 (11.6) 底径 (6.2) 器高 3.9	5Y4/1 灰	砂粒多量、黒 色色粒子微量	良好		底部 糸切り	口縁~底部 1/4 残存	表採	D区 P・J43 リットド一拵	磁子産
89 2	鉄製品 釘か	長 [2.70] 幅 0.42 厚 0.32 重 0.94						一部残存	表採	D区 AL47 周辺	
89 3	鉄製品 釘か	長 [2.23] 幅 0.48 厚 0.26 重 0.96						一部残存	表採	D区表 表土一拵	

第8節 E区

E区は、台地上に、道路を挟んでD区と隣接する。整穴建物跡30軒、掘立柱建物跡4棟、櫛列1列、溝2条、円形有段遺構3基、土坑102基、ピット34基、焼上遺構1基が確認された。



第90図 E区全体図 (ピットは別図あり)

1 竪穴建物跡

台地上に立地し、D区に近い北西部に24軒と南東部に6軒の2ヶ所に集中している。

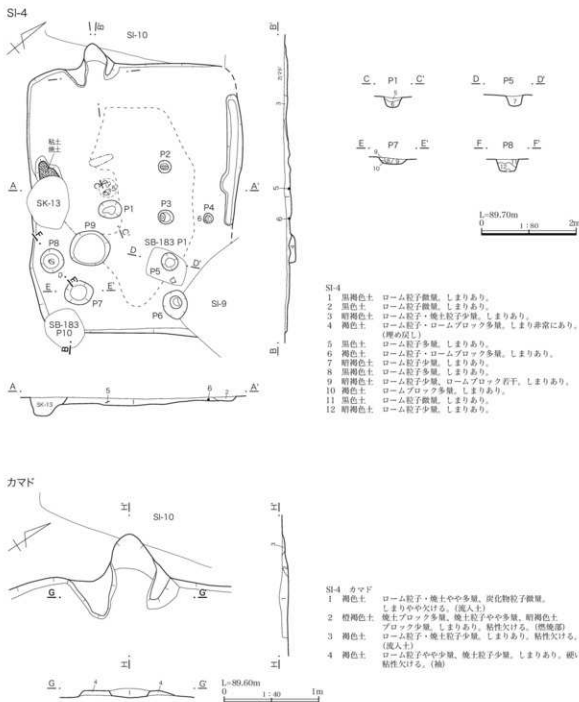
第58表 E区竪穴建物跡計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	炉	カマド	貯蔵穴	壁溝	間仕 切溝	出土 遺物	重複関係
SI-4	SI-4	AM-49	N-51°-W	長方形	5.72	4.44	0.16	9	無	有	無	有	無	有	SI-9, SB-183, SK-13より古 SI-10より新
SI-9	SX-9	AM-49	N-2°-E	不整形	3.56	3.96	0.16	1	無	有	有	無	無	有	SI-75, SA-186, SD-1・3, SK-166より古 SI-4, SB-183より新
SI-10	SI-10	AL-48+49 AM-48+49	N-48°-E	方形か	(3.84)	3.86	0.03	1	無	有	無	無	無	無	SI-15, SB-183より新
SI-11	SI-11	AL-48+49	N-10°-W	方形か	3.56	3.20	0.06	無	無	有	無	無	無	有	SI-112・SK-40より古 SB-183より新
SI-12	SI-12	AM-49	N-112°-E	方形	3.08	2.96	0.10	4	無	有	有	無	無	有	SI-15, SB-183より新
SI-15	SI-15	AM-49	N-30°-E	長方形	[2.48]	2.36	0.04	1	無	有	無	無	無	有	SI-112・SK-40より古 SB-183より新
SI-29	SI-29	AL-50 AM-50	N-93°-E	方形	2.90	3.24	0.04	無	無	有	無	無	無	有	SK-30より古
SI-35	SI-35	AM-50・51	N-110°-E	方形	3.80	3.80	0.04	無	無	2	無	無	無	有	SK-34より古
SI-43	SI-43	AN-51	N-110°-E	長方形	4.20	3.76	0.20	4	無	有	有	無	無	有	SI-43・128, SK-79・80より古
SI-44	SI-43	AN・AO-51	N-95°-E	方形	3.92	4.24	0.20	2	無	有	無	有	無	有	SI-43・128, SK-79・80より古
SI-49	SI-49	AL・AM-47	N-4°-W	不明	[0.84]	[0.92]	0.14	無	無	無	無	無	無	有	SK-99・201より古 SI-44, SK-162・184より古
SI-51	SI-51	AM-47・48	N-0°	長方形	3.86	3.08	0.42	2	無	有	無	無	無	有	SK-65より古
SI-61	SI-61	AN-48	N-110°-E	長方形	3.26	2.82	0.18	無	無	有	無	無	無	有	SK-73より古 SI-68・74より新
SI-64	SI-64	AO-49	N-95°-E	長方形	3.66	4.38	0.24	7	無	有	無	有	無	有	SK-62と重複
SI-67	SI-67	AM・AN-48	N-18°-E	長方形	3.54	3.12	0.32	無	無	2	有	無	無	有	SK-66より古 SI-74・75より新
SI-68	SI-68	AN-49	N-22°-W	長方形	5.24	4.86	0.40	1	無	有	無	有	無	有	SI-61・74, SD-1・3より古
SI-72	SI-72	AN-48	N-12°-W	方形	3.48	3.48	0.38	5	無	2	無	有	無	有	SI-74, SK-165より新
SI-74	SI-74	AN-48	N-0°	長方形	4.20	3.78	0.24	1	無	無	無	無	無	有	SI-61・67・72より古
SI-75	SI-75	AM-48	N-4°-E	方形	3.44	3.52	0.36	無	無	有	無	有	無	有	SI-67, SD-1・3より古 SI-9より新
SI-76	SI-76	AN-49	N-145°-E	長方形か	[1.52]	3.08	0.14	無	無	有	無	無	無	有	SD-1・3より古 SI-68より新 SK-93と重複
SI-77	SI-77	AN-50	N-120°-E	方形	2.66	2.68	0.16	6	無	有	無	有	無	有	SI-84より新
SI-78	SI-78	AO・AP-50	N-125°-E	長方形	3.26	3.78	0.16	4	無	有	無	無	無	有	SI-77, P-200より古
SI-84	SI-84	AN・AO-50	N-12°-E	隅丸長方形	3.28	3.80	0.20	3	無	2	無	有	無	有	SI-77, P-200より古
SI-86	SI-86	AO-51・52 AR-51・52	N-5°-E	長方形	2.96	3.00	0.12	1	無	有	無	無	無	有	
SI-87	SI-87	AO-52	N-0°	長方形	4.52	3.74	0.20	6	無	2	無	有	無	有	
SI-89	SI-89	AR-52	N-18°-E	方形	2.72	2.78	0.28	無	無	有	無	有	無	有	SK-107より古 SK-94より新
SI-91	SI-91	AR-52・53	N-20°-E	長方形か	3.00	[0.74]	0.34	無	無	1	無	無	無	有	SI-92と重複
SI-92	SI-92	AR-52・53	N-90°-E	長方形か	5.18	[3.52]	0.48	5	無	2	無	有	無	有	SI-91と重複
SI-115	SI-115	AO-52	N-40°-E	方形か	[2.40]	[1.14]	0.22	無	無	無	無	無	無	有	
SI-128	SI-128	AO-51	N-21°-E	長方形	2.46	[3.03]	0.16	無	無	無	無	無	無	有	SI-44, SK-80より古

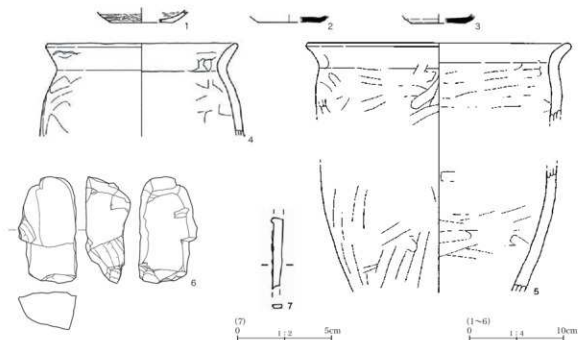
E区SI-4 (第91-92図、第58-59表、図版二一)

位置 調査区北部にあたるAM-49グリッドに位置する。重複関係 SI-9、SB-183、SK-13より古く、SI-10より新しい。
平面形状・規模 長軸方向が長い長方形である。東西5.72m、南北4.44m、面積は25.40㎡である。壁は遺存状況の良い部分で16cmである。
主軸方向 N-51°-W **覆土** 4層である。2層は壁溝か。4層は床下土坑の覆土と考えられる。
床面 中央部、カマドの前とP5の周囲に踏み締まりとみられる硬化面が確認された。東壁際には幅10～30cm、深さ5cmほどの壁溝が巡る。
柱穴等 P1～9が確認された。竪穴建物に付随する柱穴は不明である。柱穴はP1・6・7・9が楕円形、P2～5・8が円形である。P1が長軸50cm、短軸38cm、深さ26cm、P2が直径27cm、深さ19cm、P3が直径30cm、深さ12cm、P4が直径20cm、深さ6cm、P5が長軸37cm、短軸34cm、深さ22cm、P6が長軸61cm、短軸51cm、深さ45cm、P7が長軸56cm、短軸50cm、深さ12cm、P8が直径48cm、深さ20cm、P9が長軸85cm、短

軸 74 cm、深さ 15 cm である。カマド 北壁西寄りに位置している。軸の一部が遺存し、煙道は壁穴壁から短く張り出している。出土遺物 土師器の甕 (5) が中央部で出土している。土師器環 1 点、甕 2 点、須恵器環 2 点、石 1 点、鉄製品 1 点を図示した。4・5とも土師器の甕で、内面が黒化する。7は鉄鍍である。そのほかに土師器甕 67 点 1459.94 g、須恵器環 41 点 200.39 g、高台付環 7 点 73.01 g、蓋 1 点 2.77g、甕 12 点 124.2 g が出土している。時期 9 世紀後葉。



第91図 E区SI-4遺構実測図



第92図 E区SI-4出土遺物実測図

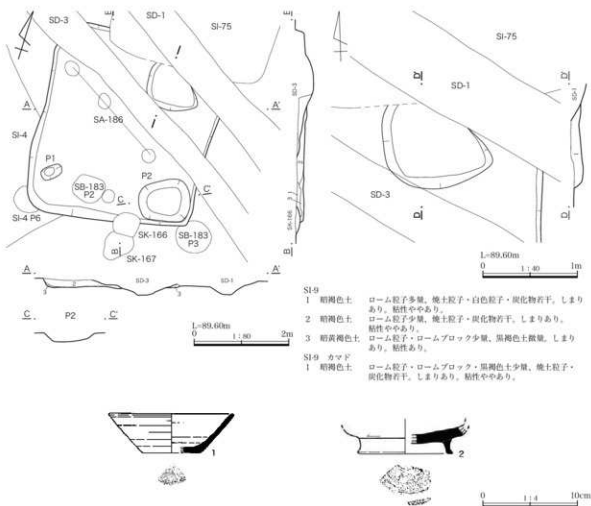
第59表 E区SI-4出土遺物観察表

群別 No.	種類 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
92-1	土師器 杯	口径 - 底径 (6.4)	-	高さ (1.3)	外面 N3/ 内面 N2/ 黒	澁・透明粒子 少量	良好	内外面 黒色処理	口縁部ナデ無き厚弁	底部 1/6 残存	覆土中	E区SI-4 北西区	
92-2	土師器 杯	口径 - 底径 (6.6)	-	高さ (0.7)	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/2 黒灰漬	澁・砂粒微量	良好		底部外面ヘラケスリ	底部 1/6 残存	床土約 2cm	E区SI-4 北東区	磁子産
92-3	土師器 杯	口径 - 底径 (6.0)	-	高さ (0.9)	外面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・黒色粒 子微量	良好		底部外面ヘラケズリ	底部 1/6 残存	床面直 上	E区SI-4 南西区	磁子産
92-4	土師器 壺	口径 (20.0)	底径 - 高さ (9.8)		外面 10YR3/2 黒褐 内面 7.5YR4/2 灰濁	澁・透明粒子 多量	やや 不良	内面 黒化	口縁部 鞘いナデ 胴部外面 鞘いナデ 胴部内面 ナデ	口縁部 一部残 存	覆土中 一部残 存	E区SI-4 北東区	
92-5	土師器 壺	口径 (28.0)	底径 - 高さ -		外面 10YR4/1 黄灰 内面 10YR3/1 黒褐	澁・白色粒子 多量	やや 不良	内面 黒化	口縁部 ヨコナデ 胴部 内外面ナデ	口縁部 1/2、胴部 一部残 存	床土約 8cm	E区SI-4 No.4	
92-6	石 (用途不明)	長 12.2 幅 6.7 厚 5.1 重 453.52				チャート				一部欠損	床面直 上	E区SI-4 No.5	
92-7	鉄製品 鉄鏝	長 [6.34] 幅 1.27 厚 0.45 重 6.38								一部残存	覆土中	E区SI-4 北西区	

E区SI-9 (第93図、第58-60表、図版二一)

位置 調査区北部にあたるAM-49グリッドに位置する。重複関係 SI-75、SA-186、SD-1・3、SK-166より古く、SI-4、SB-183より新しい。 **平面形状・規模** 長軸がやや長い不整形とみられる。東西3.56m、南北3.96m、面積は14.10㎡である。壁は遺存状況の良い部分で16cmである。 **主軸方向** N-2°-E **覆土** 3層で、1層には火山灰と考えられる白色粒子を含んでいた。自然堆積である。 **床面** SD-1・3により攪乱されている。床面は若干の凹凸がみられる。 **柱穴等** 1基が確認されている。隅丸長方形で、

長軸 46 cm、短軸 26 cm、壁は遺存状況の良い部分で 20 cm である。貯蔵穴 P2 は不整長方形で、長軸 110 cm、短軸 90 cm、深さ 20 cm、貯蔵穴の可能性が推測される。カマド 北壁やや東寄りに位置しており、堀方の痕跡のみが残存する。出土遺物 須恵器の坏 1 点、高台付坏 1 点を図示した。このほかに、土師器坏 3 点 12.24 g、甕 27 点 296.74 g、須恵器坏 39 点 259.56 g、高台付坏 3 点 20.34 g、蓋 5 点 17.73g、鉢 1 点 16.31 g、甕 8 点 153.4 g が出土している。時期 9 世紀中葉。



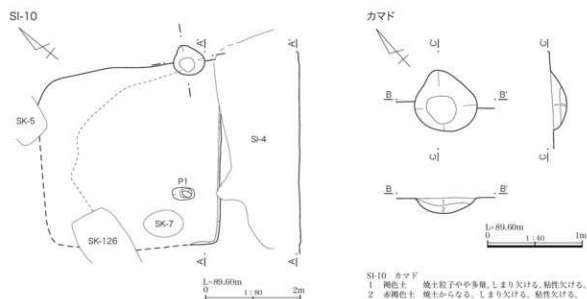
第 93 図 E区 SI-9 遺構・出土遺物実測図

第 60 表 E区 SI-9 出土遺物観察表

図号	No.	種類 名称	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	構成	表面の状態	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
93	1	須恵器 坏	口径 (13.0) 底径 (6.0) 高さ 4.2	5Y5/1 灰	硬・白色粒子 微量	良好		口縁目縁著	口縁~底 部 1/8 残 存	覆土中	E区 SI-9 南東アーク土 -15	菓子産
93	2	須恵器 高台付坏	口径 -- 底径 (10.0) 高さ [3.1]	2.5Y6/1 黄灰	砂粒多量、骨・貝 石灰母微量	良好		底部下縁 回転ヘラケズリ 高台取付	底部 1/6、高 台部一 部 残存	覆土中	E区 SX-9	新治産

E区 SI-10 (第94図、第58表、図版二一)

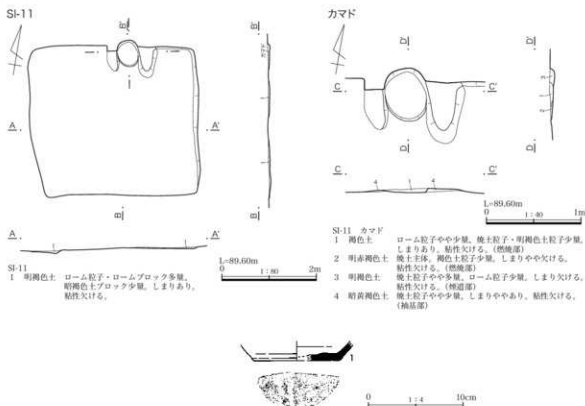
位置 調査区北部にあたるAL-48・49、AM-48・49グリッドに位置する。**重複関係** SI-4、SK-5・7・126より古い。**平面形状・規模** 南北方向がわずかに長い方形とみられる。東西推定3.84m、南北3.86m、面積は14.82㎡である。壁は遺存状況の良い部分で3cmである。**主軸方向** N-48°-E **覆土** ほぼ確認できなかった。**床面** 貼床は認められずローム層を床面としている。**柱穴等** 1基が確認された。隅丸長方形で、長軸48cm、短軸26cm、深さ7cmである。**カマド** ほぼ壊され、燃烧部のみ確認された。よく焼けている。I層中から環の破片が出土。**出土遺物** 図示できる遺物は出土していないが、土師器甕1点20.43g、須恵器環4点14.13gが出土している。**時期** 不明。



第94図 E区 SI-10 遺構実測図

E区 SI-11 (第95図、第58-61表、図版二一)

位置 調査区北部のAL-48・49グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い方形である。東西3.56m、南北3.20m、面積は11.39㎡である。壁は遺存状況の良い部分で6cmほどである。**主軸方向** N-10°-W **床面** 床面まで削平され、掘方のみ確認された。ほぼ平坦である。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 北壁中央やや東寄りに位置しており、袖の基部はロームを掘り残しており、燃烧部と煙道の一部が遺存していた。煙道は竪穴壁から短く張り出している。燃烧部底面は非常に良く焼けている。**出土遺物** 須恵器環1点を図示した。ヘラ切り後、ナデが施される。このほかに土師器環1点3.52gが出土している。**時期** 8世紀第4四半期。



第95図 E区 SI-11 遺構・出土遺物実測図

第61表 E区 SI-11 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	成型	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
95	1	須恵器 坏	口径— 底径 (9.0) 器高 [2.1]	7.5YR6/6 暗	砂粘質土	良好		ロクロ目面滑 底部へつ切り残ナデ	底部1/3 残存	床面直 上	E区 SI-11 カマド内・ カマドワキ 体面	胎子産

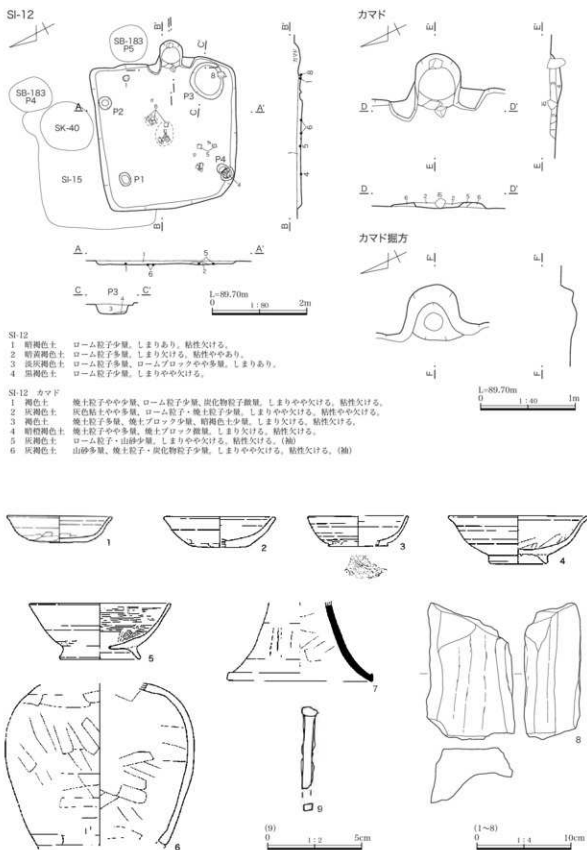
E区 SI-12 (第96図、第58-62表、図版二一・二二・一一七・一一八)

位置 調査区中央やや西寄りのAM-49グリッドに位置する。**重複関係** SI-15、SB-183より新しい。

平面形状・規模 方形で、東西3.08m、南北2.96m、面積は9.12㎡である。壁は遺存状況の良い部分で10cmほどである。**主軸方向** N-112°-E **覆土** 自然堆積とみられる。**床面** ローム面を床面としている。**柱穴等** P1・2・4が確認された。P1は隅丸長方形で、長軸28cm、短軸22cm、深さ16cm、P2は直径26cm、深さ70cmの円形、P4はひょうたん形で、長軸40cm、短軸24cm、深さは不明である。P1はSI-15の柱穴の可能性も考えられる。

貯蔵穴 P3は楕円形で、長軸84cm、短軸71cm、深さ20cmである。

カマド カマドは東壁やや南寄りに位置している。ブリッジの補強に砂岩を使用している(DD)。**出土遺物** 土師器坏3点、高台付埴2点、壺1点、須恵器高坏1点、石1点、鉄製品1点を図示した。1から6はロクロ整形。3は底部系切り。4と5は内面黒色処理が施された高台付埴で、4は被熱している。6は土師器の壺で、内面に黒色処理が施されている可能性が高い。8は赤色物が付着する。9は釘である。このほかに土師器坏1点3.64g、土師器甕18点161.83g、土師器壺1点23.91g、須恵器坏30点217.55g、蓋1点7.21g、甕4点33.43gが出土している。**時期** 10世紀後半。



第96図 E区SI-12遺構・出土遺物実測図

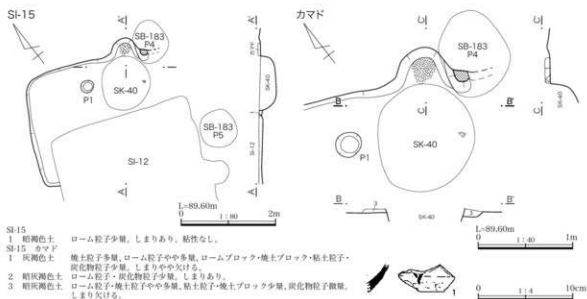
第62表 E区SI-12 出土物観察表

種別 No.	種類 図様	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	切痕	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
96 1	土師器 坏	口径 (10.8) 底径 (5.7) 器高 2.9	外面 10YR7/4 にぶい黄褐色 内面 7.5YR6/4 にぶい黄	砂粒微量	良好	又十字着 底面湾曲	口縁~体部 ロクロナデ 底部内面 ナデ 底部へラ切り残ナデ	3/4 残存	床面直上	E区SI-12 No.11	
96 2	土師器 坏	口径 (11.4) 底径 (6.2) 器高 3.3	外面 2.5YR/4 浅黄 内面 10YR8/3 浅黄褐色	砂粒少量	良好		口縁~体部内面 ロクロ ナデ 底部ケズリ 内面 ロクロナデ	1/4 残存	壇土中	E区SI-12 南東一括	
96 3	土師器 坏	口径 (10.4) 底径 (6.4) 器高 3.2	外面 2.5Y6/3 にぶい黄 内面 10YR7/4 にぶい黄褐色	砂粒微量	良好		口縁~体部内面 ロクロ ナデ 底部糸切り 内面 ロクロナデ	口縁~体 部上位 1/8、体部 下位~底 部 1/4 残 存	壇土中	E区SI-12 カマド・カ マド西方	
96 4	土師器 高台付甕	口径 (14.6) 底径 (5.8) 器高 5.1	外面 10YR8/2 灰白 内面 10YR7/3 にぶい黄褐色	砂粒微量	良好	被熱 内面 黑色処理 か	口縁~体部 ロクロナデ 底部内面 ナデ 底部へラ切り残ナデ 高台貼付	口縁部 1/2、高台 部 1/5 残 存、体~底 部完全	床面直上	E区SI-12 No.6	
96 5	土師器 高台付甕	口径 (14.6) 底径 (5.8) 器高 6.0	外面 7.5YR6/5 浅黄 内面 N2/0 黒	砂粒少量	良好	内面 黑色処理	外面 ロクロナデ 内面へつミガキ 高台貼付	口縁部 1/2、高台 部 1/2 残 存、底部完 全	床面直上	E区SI-12 No.3・南西 一括・フク 土一括・北 西フク土一 括	
96 6	土師器 甕	口径 - 底径 (17.2) 器高 (15.4) 最大径 20.0	外面 10YR8/3 浅黄褐色 内面 2.5Y3/1 黒黒	砂粒少量	良好	内面 黑色処理 の可能性	外面 ロクロナデ残底部 ~下端へラケズリ 内面 ナデ	胴上半部 3/4 残存、 胴下半部 1/5 残存、 ほぼ完全	床面直上	E区SI-12 No.7・8・ 9・フク土 一括・南東 一括~北西 フク土一括	
96 7	黄褐色土 高坏	口径 - 底径 (15.4) 器高 (8.4)	10YR8/3 浅黄褐色	砂粒少量	中良 不良		外面へラ傷がみられる ロクロナデ 内面 ナデ	胴部一部 残存	床面付近	E区SI-12 カマド・フ ク土一括・ 南東一括	産地不明
96 8	(用途不明) 石 用	長 15.7 幅 10.1 厚 6.5 重 1163.7		チャート		赤色物付着		一部欠損	床面直上	E区SI-12 No.1	
96 9	鉄製品 釘	長 [4.32] 幅 [0.79] 厚 0.34 重 3.08						一部欠損	床面直上	E区SI-12 南東床面	

E区SI-15 (第97図、第58-63表、図版二二・一一七)

位置 調査区北部AM-49グリッドに位置する。重複関係 SI-12、SK-40より古く、SB-183より新しい。

平面形状・規模 南東部はSI-12により破壊されているが、東西方向に長い長方形と推測される。東西2.48m



第97図 E区SI-15 遺構・出土物実測図

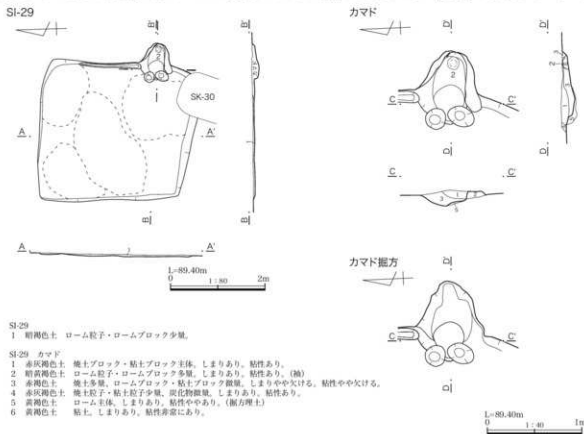
以上、南北 2.36m で、面積は 5.85 m² である。遺存状況が悪く壁はほとんど残されていない。深いところで 4cm ほどである。主軸方向 N-30° - E 覆土 1層である。床面 床面は残存部で若干の凹凸が認められた。柱穴等 カマド付近に位置しており、直径 28cm、深さ 32cm、やや不整な円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。カマド 北壁に位置し、右袖が遺存していた。左袖は SK-40 により破壊され、不明である。覆土は 1・2層が火床上面に堆積した流入土とみられるが判然としていない。火床面はよく焼土化している。出土遺物 須恵器環 1点を図示した。墨書が確認された。このほかに土師器の甕 6点 104.98g、須恵器環 3点 11.18g、蓋 1点 4.23g、甕 1点 12.34g が出土している。時期 不明。

第 63 表 E 区 SI-15 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状況	形状・整形の特徴	遺存 状況	出土 状況	注記	産地・備考
97	1	須恵器 環	口径 - 底径 - 器高 [2.9]	外面 5Y6/2 底オリーブ 内面 2.5Y6/3 に赤い裏	砂粒微量	良好	墨書あり	口ケロ目跡著 体部下端手持ちヘラケス 目	体~底部 一部残存	覆土中	E 区 SI-15 フタ土一語	産地不明

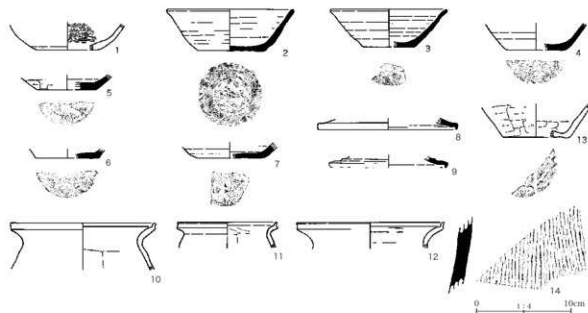
E 区 SI-29 (第 98-99 図、第 58-64 表、図版二二・二三・一一七)

位置 調査区北西部にあたる AL・AM-50 グリッドに位置する。重複関係 SK-30 より古い。平面形状・規模 東辺がやや長い台形状で、東西 2.90m、南北 3.24m、面積は 9.40 m² である。壁は遺存状況の良い部分で 4cm である。主軸方向 N-93° - E 覆土 ほとんど残っていない。ローム粒子を含む暗褐色土が 1層認められる。床面 貼床は南西隅以外の四隅に認められ中央部には踏み締まりによるとみられる硬化面が形成されている。また東壁際にも幅 10～22cm、深さ 6cm ほどの壁溝が確認された。柱穴等 確認されていない。



第 98 図 E 区 SI-29 遺構実測図

カマド 東壁南寄りに位置しており、袖は暗黄褐色の粘質土(2層)で構築したと考えられ、煙道の底面は焼土化している。煙出し付近には伏せた須恵器の坏(2)の中から粘土が出土している。覆土は6層確認され、3層は内壁の崩落土、5層は掘方埋め戻した層である。直径約20cm、深さ約20cmのピット2基が焚口付近に確認されている。出土遺物 1・3～5・11～14は貼床中からの出土である。土師器坏1点、裏4点、須恵器坏6点、蓋2点、裏1点を図示した。2は「井」、6・7は「十」の刻書が確認された。このほかに土師器裏7点514.6g、須恵器坏40点245.16g、須恵器蓋1点2.3gが出土している。時期 9世紀後半。



第99図 E区 S1-29 出土遺物実測図

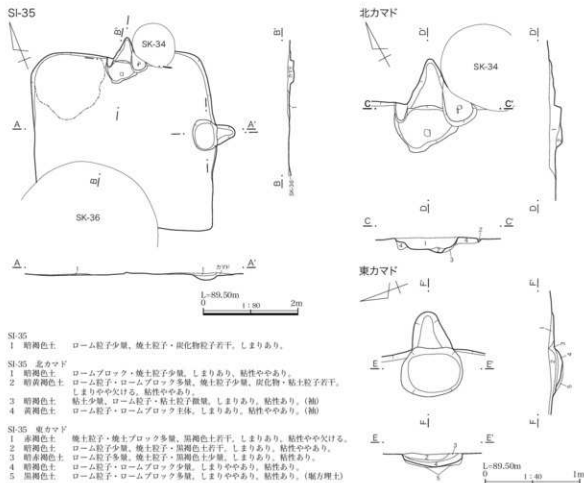
第64表 E区 S1-29 出土遺物観察表

探出 No.	種類 器種	非遺物 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	表面の状態	器形・彫刻の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
99 1	土師器 坏	口径 - 底径 (6.4) 器高 [2.7]	外面 10YR4/2 灰黄褐色 内面 5Y2/1 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色彫刻	体～底部外面 ロクロナデ 体部下縁 凹輪へラケズリ 内面へラミ方平	体～底部 一部残存	貼床中	E区 S1-29 貼床中南東	
99 2	須恵器 坏	口径 13.4 底径 7.0 器高 4.4	外面 7.5YR4/2 灰黄褐色 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・微少量	良好	刻書あり「井」	ロクロ目面書 底部へラ切り後ナデ	ほぼ完全 残存	煙道内	E区 S1-29 カマド No.1	磁子産
99 3	須恵器 坏	口径 (12.4) 底径 (5.4) 器高 4.0	7.5Y5/1 灰	砂粒少量	良好		ロクロ目面書	口縁～底 部一部残 存	貼床中	E区 S1-29 貼床中北東	磁子産
99 4	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.4) 器高 [2.7]	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 5Y6/4 オリーブ黄	砂粒・白色粒 子少量	良好		ロクロ目面書 底部ナデ	口縁1/3 残存	貼床中	E区 S1-29 貼床中北東	磁子産
99 5	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.4) 器高 [1.6]	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 10YR5/2 灰黄褐色	砂粒少量	良好		ロクロ目面書 体部下縁 手持ちへラケズ リ 底部へラ切り後ナデ	底部1/3 残存	貼床中	E区 S1-29 貼床中北東	磁子産
99 6	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.8) 器高 [1.0]	外面 5Y4/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・微少量	良好	刻書あり「十」	底部へラ切り後ナデ	底部1/3 残存	覆土中	E区 S1-29 南西一括	磁子産
99 7	須恵器 坏	口径 - 底径 (7.0) 器高 [1.6]	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・微少量	良好	刻書あり「十」		底部1/4 残存	覆土中	E区 S1-29 フタ土一括	磁子産
99 8	須恵器 蓋	口径 (14.5) 底径 - 器高 [1.5]	2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量	良好			口縁部一 部残存	覆土中	E区 S1-29 南西一括	産地不明
99 9	須恵器 蓋	口径 (12.2) 底径 - 器高 [1.2]	7.5Y5/1 灰	砂粒多量	良好		ロクロ目面書	口縁部一 部残存	覆土中	E区 S1-29 フタ土一括	産地不明

99	10	土師器 甕	口径 (15.4) 底径 - 器高 [5.0]	5YR4/4 に赤い赤銅	砂粒多量	良好		口縁部 ヨコナデ・ナデ	口縁部一部残	覆土中	E区 SI-29 北西一拵
99	11	土師器 甕	口径 (10.4) 底径 - 器高 [2.7]	外面 10YR4/2 灰黄期 内面 7.5YR4/1 黄灰	砂粒少量	良好		口縁部 側部 ヨコナデ 器内面 ナデ	口縁部一部残	跡床中	E区 SI-29 跡床中北東
99	12	土師器 甕	口径 (15.6) 底径 - 器高 [2.7]	外面 5YR5/6 明赤期 内面 5YR5/6 橙	砂粒・白雲母 少量	良好		口縁部 ヨコナデ	口縁部一部残	跡床中	E区 SI-29 跡床中北東
99	13	土師器 甕	口径 - 底径 (7.0) 器高 [3.5]	外面 7.5YR5/4 に赤い 内面 7.5YR6/4 に赤い 橙	砂粒・白雲母 多量	良好		外面 ケズリ 内面 ナデ 底部 木葉痕	器面 1/3 残存	跡床中	E区 SI-29 跡床中北東
99	14	黄土器 甕	口径 - 底径 - 器高 [8.0]	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒・礫微量	良好		胴部外面 平行タタキ	胴部一部残	跡床中	E区 SI-29 跡床中北東

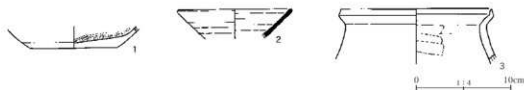
E区 SI-35 (第100-101図, 表 58-65 表、図版二三)

位置 調査区南西部にあたる AM-50・51 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-34 と円形有段遺構である SK-36 より古い。 **平面形状・規模** 方形で、一辺 3.80m、面積は 14.44 m² である。壁は遺存状況の良い部分で 4cm ほどである。 **主軸方向** N-110° - E **覆土** 一部にわずかに残存する。 **床面** ローム面を床面とし、掘方は北西隅がやや深く掘り込まれている。 **柱穴等** 確認されていない。 **カマド** 北壁中央と東壁中央に位置しており、遺存状況から東カマドから北カマドに作り替えたと考えられる。北カマドは



第100図 E区 SI-35 遺構実測図

SK-34に壊されているが、カマドの袖は3・4層にみられるように若干残存する。焼焼部の底面および袖の内側がわずかに焼土化していた。遺物は袖内より出土している。東カマドは破壊され、埋め戻されたと考えられる。**出土遺物** 土師器の環1点、甕1点、須恵器環1点を図示した。1はロクロ整形後、内面を磨いている。黒色処理が施されていた可能性が高い。このほかに土師器環20点107.83g、高台付環3点21.92g、甕84点745.02g、須恵器環13点66.82g、須恵器甕3点40.39gが出土している。**時期** 8世紀後半。



第101図 E区SI-35出土遺物実測図

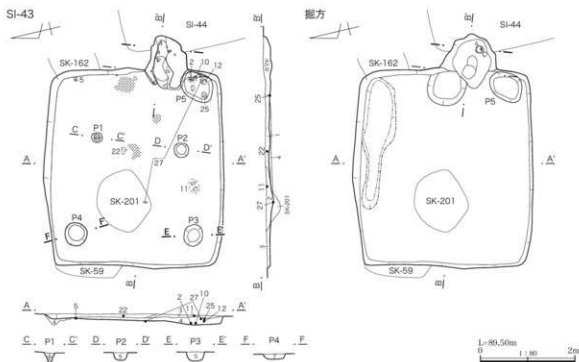
第65表 E区SI-35出土遺物観察表

種別No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
101	1	土師器 環	口径 底径 器高 [2.3]	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 2.5YR4/6 赤褐色	砂粒微量、白 色粒子若干	良好	内面黒色処理 か	胴～底部外面 ロクロナデ か 内面ヘラミガキ	底部2/3 残存	陥床中	E区SI-35 陥床中一拵	
101	2	須恵器 環	口径 (12.2) 底径 器高 [3.2]	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 5Y7/1 灰白	砂粒・赤色粒 子微量	良好		ロクロ目顯著	口縁～袖 部1/8残存	陥床中	E区SI-35 陥床中一拵	磁子産
101	3	土師器 甕	口径 (16.0) 底径 器高 [5.9]	外面 7.5YR7/6 暗 内面 7.5YR7/4 に近い暗	砂粒少量	良好		口縁～胴部外面 ココナデ 内面 ココナデ・ナデ	口縁～袖 部一部残存	覆土中	E区SI-35 一拵	

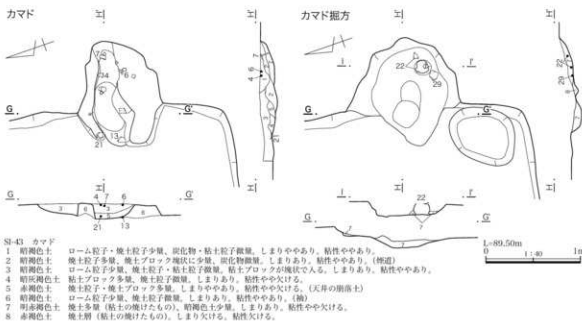
E区SI-43 (第102-103図、第58-66表、図版二三・二四・一一七・一一八・一四八・一五〇)

位置 調査区南部にあたるAN-51グリッドに位置する。**重複関係** SK-59・201より古く、SI-44、SK-162・184より新しい。**平面形状・規模** 平面形は東西に長い長方形で、東西4.20m、南北3.76m、面積は15.79㎡である。壁は約20cmである。**主軸方向** N-110°-E **覆土** 自然堆積で、レンズ状の堆積を示す。**床面** ローム層を床面とし、凹凸がみられる。**柱穴等** 4基確認されている。P1・2・4は円形、P3は楕円形である。P1は直径24cm、深さ21cm、P2は直径30cm、深さ12cm、P3は楕円形で、長軸46cm、短軸39cm、深さ16cm、P4は直径50cm、深さは12cmである。P1～4はSI-43の柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東隅に床下土坑とみられるP5が位置する。隅丸長方形で、長軸70cm、短軸50cm、深さ14cm、壁は底面から比較的緩やかに立ち上がっている。**カマド** 東壁南寄りに位置しており、天井の一部が残存している。6層が袖、7・8層は焼土化している。掘方内より土師器の小型甕(22)が出土している。構築材とみられる粘土がカマドの左袖前面や中央部に塊状に流出している。**出土遺物** 土師器の環14点、塊1点、高台付環1点、甕3点、須恵器環3点、甕1点、焼粘土塊1点、石製品1点、石1点、鉄製品1点を図示した。1・14・15は墨書土器である。1は「企」か。14・15は「大」。土師器の環はロクロ整形で、1・9～13は内面にミガキ、黒色処理が施されている。このほかに土師器環142点12.87g、鉢2点13.65g、甕327点2495.76g、須恵器環53点225.72g、高台付環1点5.82g、甕7点52.7g、陶磁器碗6点16.25g、陶器1点31.74g、瓦1点4.19gが出土している。**時期** 9世紀後半。

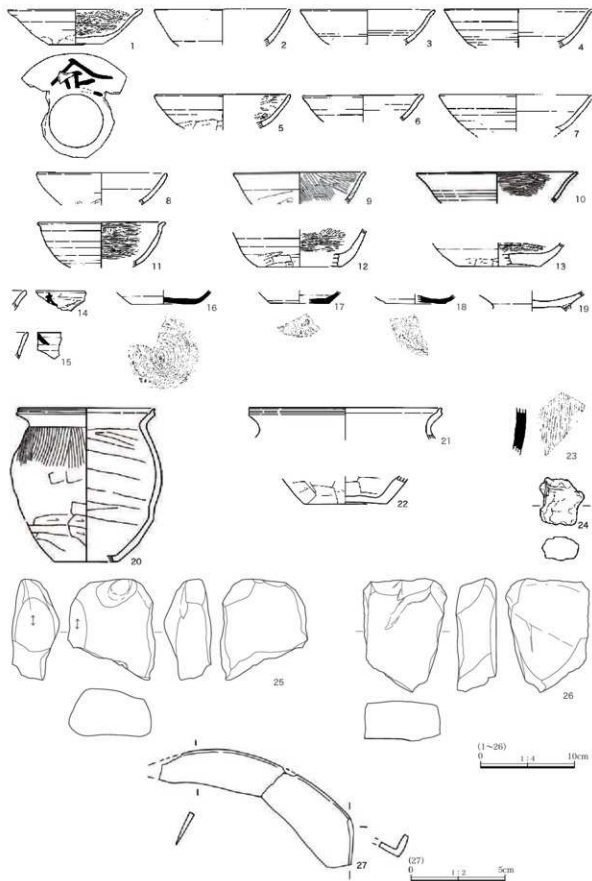


- SI-43
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。(カマド3割に相当)
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量。ロームブロック微量。しまりややあり。粘性あり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりあり。粘性あり。
 - 4 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、焼土粒微量。しまり非常にあり。
 - 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量。しまりあり。粘性ややあり。
 - 6 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 7 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量。しまりやや欠ける。粘性やや欠ける。



- SI-43 カマド
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 焼土粒子多量、焼土ブロック塊状に少量、炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。(煙道)
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量。粘土ブロックが塊状で入る。しまりあり。粘性ややあり。
 - 4 暗褐色土 粘土ブロック多量、焼土粒子微量。しまりあり。粘性やや欠ける。
 - 5 赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多量。しまりややあり。粘性やや欠ける。(天井の崩落土)
 - 6 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量。しまりあり。粘性ややあり。(土)
 - 7 明赤褐色土 焼土多量(粘土の塊けたもの)、暗褐色土少量。しまりあり。粘性やや欠ける。
 - 8 赤褐色土 焼土割(粘土の塊けたもの)。しまり欠ける。粘性欠ける。

第102図 E区 SI-43 遺構実測図



第103图 E区SI-43出土遗物实测图

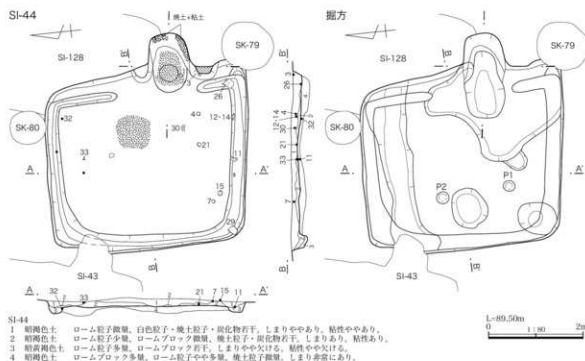
第66表 E区 SI-43 出土文物観察表

種別 No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	質感	表面の状況	形状・彫形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
103 1	土師器 杯	口径 (14.4) 底径 5.6 器高 3.7	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒多量、 赤色粒子微 量	良好	内面 黒色色染 筆書あり「企 か	口縁～体部外面 ロクロナデ 底部 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/4 残存、 底部 完好	覆土中	E区 SI-43 カマド付、 南東一括	
103 2	土師器 杯	口径 (14.4) 底径 - 器高 [3.9]	外面 2.5Y3/1 黒褐色 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒微量	良好		内外面 ロクロナデ	口縁部一 部残存	灰土約 2cm	E区 SI-43 No.7	
103 3	土師器 杯	口径 (14.2) 底径 - 器高 [3.7]	7.5YR6/3 にふい褐色	砂粒少量	良好		口縁部外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 体部外面 回転ヘラケズリ	口縁部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-43 北西一括	
103 4	土師器 杯	口径 (15.6) 底径 - 器高 [4.1]	外面 7.5YR5/4 にふい褐色 内面 7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒少量	良好		口縁部 ロクロナデ 体部 回転ヘラケズリ	口縁部一 部残存	埋土内	E区 SI-43 カマド No.4	
103 5	土師器 杯	口径 (14.4) 底径 - 器高 [3.6]	外面 10YR5/3 にふい褐色 内面 5YR5/4 にふい赤褐色	砂粒少量	良好		口縁部外面 ロクロナデ 体部下端 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/6 残存	灰土面 上	E区 SI-43 No.6	
103 6	土師器 杯	口径 (12.8) 底径 - 器高 [2.8]	10YR4/1 褐色	砂粒少量、 赤色粒子微 量	良好	内外面 黒色色 染	内外面 ロクロナデ	口縁部一 部残存	埋土内	E区 SI-43 カマド No.1	
103 7	土師器 杯	口径 (16.2) 底径 - 器高 [3.9]	外面 10YR5/4 にふい褐色 内面 7.5YR6/6 褐色	砂粒多量	良好	輪刻	口縁部 ロクロナデ 体部外面 回転ヘラケズリ	口縁部 1/3 残存	埋土内	E区 SI-43 カマド No.3、 カマド取付中、 南東ベルト内	
103 8	土師器 杯	口径 (13.8) 底径 - 器高 [3.4]	7.5YR7/6 褐色	砂粒・塵少 量	良好		口縁部～内面 ロクロナデ 体部下端 手持ちヘラケズリ	口縁部一 部残存	南方中	E区 SI-43 床下	
103 9	土師器 杯	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.4]	7.5YR7/6 褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒微量、 赤色粒子若 干	良好	内面 黒色色染	口縁部外面 ロクロナデ 体部下端 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SI-43 北西～ベルト 内	
103 10	土師器 杯	口径 (17.0) 底径 - 器高 [3.2]	外面 10YR6/6 明黄褐色 内面 10YR1.7/1 黒褐色	砂粒微量	良好	内面 黒色色染	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	灰土約 2cm	E区 SI-43 No.7	
103 11	土師器 碗	口径 (13.6) 底径 - 器高 [3.8]	外面 10YR6/3 にふい黄褐色 内面 10YR1.7/1 黒褐色	砂粒微量	良好	内面 黒色色染	口縁部外面 ロクロナデ 底部 回転ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SI-43 北西一括	
103 12	土師器 杯	口径 (8.8) 底径 (4.0)	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 2.5Y3/1 オーリーブ 黒褐色	砂粒少量	良好	内面 黒色色染	体部外面 ロクロナデ 底部下端 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	体部 1/6、底 部一部 残存	灰土約 20cm	E区 SI-43 No.12	
103 13	土師器 杯	口径 (8.8) 底径 (2.5)	外面 10YR5/4 にふい黄褐色 内面 10YR2/1 黒褐色	砂粒少量	良好	内面 黒色色染	口縁部外面 ロクロナデ 底部 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	底部 1/6 残存	灰土約 2cm	E区 SI-43 No.10	
103 14	土師器 杯	口径 - 底径 - 器高 [2.1]	外面 10YR6/2 灰黄褐色 内面 2.5Y3/1 黒褐色	砂粒・白色 粒子微量	良好	筆書あり「大」	口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SI-43 南東一括	
103 15	土師器 杯	口径 - 底径 - 器高 [2.8]	10YR6/3 にふい黄褐色	砂粒微量、 赤色粒子若 干	良好	筆書あり「大」 か	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SI-43 南西～ベルト 内	
103 16	葉土器 杯	口径 - 底径 7.0 器高 [1.5]	外面 5YR7/6 褐色 内面 7.5YR7/4 にふい褐色	砂粒微量	不良		底部 糸切り	底部 3/4 残存	灰土・ 覆土中	E区 SI-44 床下・南西 ベルト内	菓子産
103 17	葉土器 杯	口径 (6.2) 底径 (1.3)	2.5Y7/2 灰黄褐色	砂粒少量	良好		底部 ナデ	底部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-43 北西一括	菓子産
103 18	葉土器 杯	口径 (6.2) 底径 (1.0)	外面 7.5YR6/3 にふい褐色 内面 7.5YR5/3 にふい褐色	砂粒少量	良好		底部 糸切り	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SI-44 北西一括	菓子産
103 19	土師器 高台付杯	口径 - 底径 - 器高 [2.1]	外面 7.5YR5/4 にふい褐色 内面 10YR4/3 にふい黄褐色	砂粒少量	良好		底部ヘラケズリ機ナデ 高台付	埴輪部 2/3、高 台部一部 残存	カマド 内	E区 SI-43 カマド No.8	
103 20	土師器 甕	口径 14.5 底径 (6.8) 器高 16.3	外面 5YR4/4 にふい赤褐色 内面 7.5YR4/3 にふい褐色	砂粒少量、 塵・赤色粒 子微量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 上半ハケ 下半ケズリナ 胴部内面 ナデ	底部欠損	カマド 内	E区 SI-43 カマド No.1・2・カ マド内陪出 止	
103 21	土師器 甕	口径 (20.4) 底径 - 器高 [3.3]	外面 10YR7/4 にふい黄褐色 内面 7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒多量	良好		口縁部 ココナデ	口縁部一 部残存	カマド付 付定	E区 SI-43 カマド付定	
103 22	土師器 甕	口径 (8.8) 底径 (2.9)	外面 7.5YR5/4 にふい褐色 内面 5YR4/4 にふい赤褐色	砂粒少量	良好		外面ヘラケズリ 内面 ナデ	底部 1/4 残存	灰土約 8cm	E区 SI-43 No.5	

103	23	瓦葺器 裏	口徑 底径 高さ [5D]	7.5Y3/1 オリーブ黒	印粒数群 黒色粒子数 群	良好		外面 平行タタキ 内面 ナテ	胴部一部 残存	P4内	E区 SI-43 南西部P4内	産地不明
103	24	焼粘土塊	長 幅 厚 重 3.6 3.2 3.8 17.34	7.5YR5/4 にぶい焼			スリ痕あり		ほぼ完存	覆土中	E区 SI-43 南西一括	
103	25	石製品 磁石	長 幅 厚 重 11.5 10.0 5.4 669.1		砂岩			研面2面	一部残存	床土約 2cm	E区 SI-43 No.11	
103	26	石 (用途不明)	長 幅 厚 重 13.0 9.6 4.7 872.9		チャート				一部欠損	埋道内	E区 SI-43 カマド No.3	
103	27	鉄製品 鎌	長 幅 厚 重 [11.29] 2.69 0.32 23.19						一部欠損	床面直上	E区 SI-43 No.4-9	

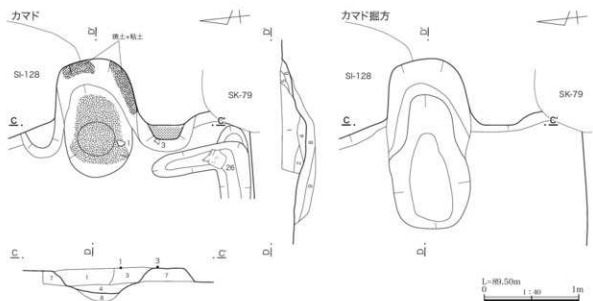
E区 SI-44 (第104・105・106図、第58・67表、図版二三・二四・一一八・一四八)

位置 調査区中央にあたるAN-51・AO-51グリッドに位置する。**重複関係** SI-43・128、SK-79・80と重複し、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い長方形であり、東西3.92m、南北4.24m、面積は16.62㎡である。壁は遺存状況の良い部分で20cmほど遺存している。壁溝は、カマド付近を除き、全周する。壁溝の位置から、東壁を拡張していることが判明した。**主軸方向** N-95°-E **覆土** 焼土粒子や炭化物のほか、火山灰と考えられる白色粒子も含んでいる。自然堆積である。**床面** 床面は凹凸がみられ、掘り方は中央部を掘り残す。また壁に沿って幅20～35cm、深さ12cmほどの壁溝が巡っている。中央付近の床下には焼土が確認されている **柱穴等** 2基が確認された。円形で、P1は直径24cm、深さ15cm、P2は直径26cm、深さ12cmである。**カマド** 東壁南寄りに位置しており、灰褐色粘土を積んで構築された袖が一部残存する。燃焼部・煙道部ともよく焼けている。8・9層は掘方埋土である。旧カマドの掘方の可能性がある。**出土遺物** 遺物は床面付近と床下からも多く出土している。土師器環9点、高台付杯3点、甕3点、須恵器環10点、高台付杯1点、鉢1点、甕2点、かわらけ1点、編物石1点、鉄製品2点を図示した。11



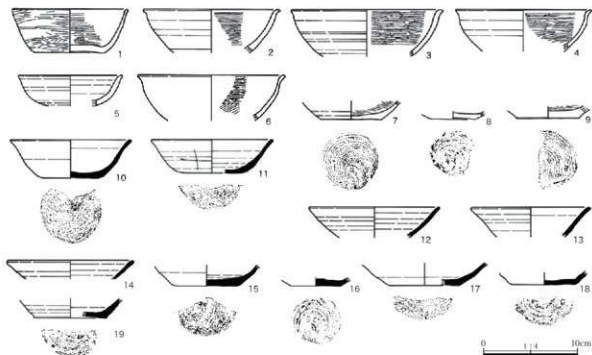
第104図 E区SI-44遺構実測図

の体部には「十」の刻書がある。30のかわらけは流れ込みか。33は釘である。このほかに土師器杯82点474.27g、高台付杯4点58.4g、皿4点41.67g、鉢7点47.79g、壺2点31.56g、甕253点2755.28g、須恵器杯75点379.44g、蓋1点5.78g、鉢2点16.03g、壺1点4.73g、甕18点242.01g、瓦3点281gが出土している。 時期 9世紀中葉。

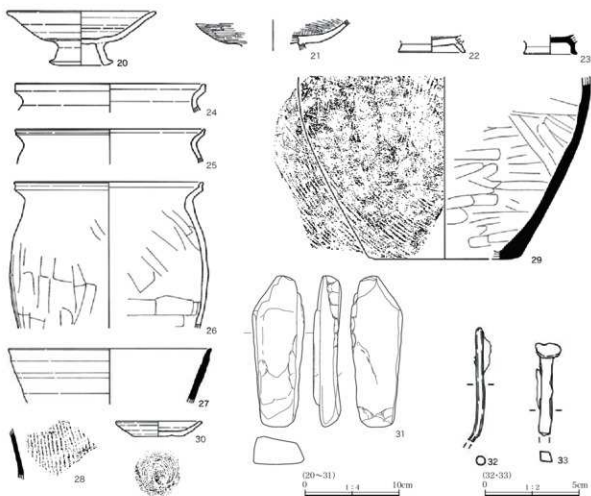


SI-44 カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子多量、ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、炭化物粒子微量、しまりあり。(カマド内側の土)
- 2 黒褐色土 ローム粒子少量、炭化物粒子微量、しまりやや欠ける。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化物粒子やや多量、焼土ブロック少量、しまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックやや多量、粘土ブロック少量、炭化物粒子微量、しまり非常にあり。
- 5 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量、焼土ブロックやや多量、ロームブロック・炭化物粒子少量、しまり非常にあり。(竈・天井の附れ)
- 6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量、焼土粒子微量、しまりやや非常にあり。(煙道付近の附れ)
- 7 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土ブロックやや多量、焼土粒子微量、しまり非常にあり。
- 8 赤褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック多量、しまりあり。
- 9 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック少量、しまりやや欠ける。(側面方土)



第105図 E区SI-44遺構(2)・出土遺物実測図(1)



第106図 E区 SI-44 出土遺物実測図(2)

第67表 E区 SI-44 出土遺物観察表

発見 No.	品名 品類	寸法値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
105 1	土器器 杯	口径 12.0 底径 7.2 器高 4.7	外面 2.SY3/1 内面 1.082/1 赤黒	砂粒微量	良好	内外面 黒色処理 口縁部 厚焼	内外面へラミガキ 底部へラ切り後ナデ	口縁部 1/2、体部 3/4 残存。 底部完好	カマド 上	E区 SI-44 No.1	
105 2	土器器 杯	口径 (14.1) 底径 - 器高 [4.6]	外面 7.SYR6/4 にぶい黄褐色 内面 7.SYR3/1 赤黒	砂粒微量	良好	口縁部 厚焼	口縁部外面 ロクロナデ 内面へラミガキ 体部下縁外面へラケズリ	口縁部 1/8 残存	甕土中	E区 SI-44 北東部	
105 3	土器器 杯	口径 (15.6) 底径 - 器高 [5.0]	外面 7.SYR6/6 磨 内面 1.082/1 赤黒	砂粒少量、 砂若干	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面へラミガキ	口縁部 1/5 残存	床上約 20cm	E区 SI-44 No.2・確認 能アク土一 柱	
105 4	土器器 杯	口径 (14.4) 底径 - 器高 [4.5]	外面 1.0YR6/4 にぶい黄褐色 内面 7.SYR3/1 赤黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面へラミガキ	口縁部 1/8 残存	カマド 上・床 上約 16cm	E区 SI-44 No.10	
105 5	土器器 杯	口径 (10.8) 底径 - 器高 [3.3]	外面 1.0YR5/2 灰黄褐色 内面 7.SYR4/2 灰黒	砂粒微量	良好		内外面 ロクロナデ	口縁部 1/8 残存	甕土中	E区 SI-44 南東部	
105 6	土器器 杯	口径 (15.3) 底径 - 器高 [4.8]	外面 7.SYR5/3 にぶい黄褐色 内面 7.SYR3/1 赤黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	外面 ナデ 内面へラミガキ	口縁部 3/8、体部 1/4 残存	カマド 上	E区 SI-44 No.1 E区 SI-43 フク土一 柱	
105 7	土器器 杯	口径 - 底径 6.4 器高 [2.0]	7.SYR7/4 にぶい黄褐色	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	体部外面 ロクロナデ、 ケズリ 底部 糸切り 内面へラミガキ	底部完好	床上約 8cm	E区 SI-44 No.15	

第3章 小泉分校裏遺跡

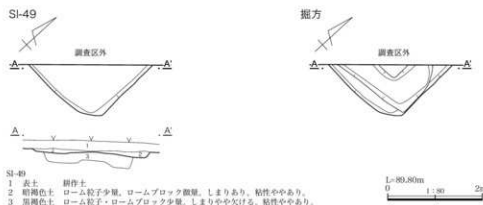
105	8	土師器 坏	口径 - 底径 4.6 高さ 0.9	10YR8/3 浅黄褐色	砂粒微量	良好		底部糸切り	底部完存	覆土中	E区 SI-44 南東部	
105	9	土師器 坏	口径 - 底径 6.4 高さ 1.3	10YR8/3 浅黄褐色	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面 ヘウミガキ 底部 糸切り	底部 1/2 残存	覆土中 南東部	E区 SI-44	
105	10	葉志器 坏	口径 (1.26) 底径 0.6 高さ 4.1	外面 5Y4/1 黄褐色 内面 2.5Y4/1 黄褐色	砂粒少量、 礫若干	良好		底部 ナデ	1/8、底部 1/3、底部 3/4 残存	覆土中 南西部	E区 SI-44 南西部	菓子産
105	11	葉志器 坏	口径 (1.26) 底径 (7.2) 高さ 3.6	外面 2.5Y5/2 黄褐色 内面 2.5Y4/1 黄褐色	砂粒・礫多 量	良好	体部外面 削書あり「十」	底部 ナデ	1/3 残存	研道上	E区 SI-44 No.5	菓子産
105	12	葉志器 坏	口径 (1.36) 底径 - 高さ (3.3)	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/2 黄褐色	砂粒・礫少 量	良好		ロクロ目圓蓋	口縁部 1/4 残存	床1約 10cm	E区 SI-44 No.4	菓子産
105	13	葉志器 坏	口径 (1.23) 底径 - 高さ (3.2)	外面 2.5Y5/2 黄褐色 内面 2.5Y6/1 黄褐色	砂粒多量	良好		ロクロ目圓蓋	口縁部 1/8 残存	床下	E区 SI-44 床下	菓子産
105	14	葉志器 坏	口径 (1.31) 底径 - 高さ (2.0)	2.5Y4/1 黄褐色	砂粒少量	良好		ロクロ目圓蓋	口縁部 1/10 残存	床1約 10cm	E区 SI-44 No.4	菓子産
105	15	葉志器 坏	口径 - 底径 (6.4) 高さ (2.3)	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄褐色	砂粒多量	良好		底部 ヘウ切り後ナデ	底部 1/4 残存	床下	E区 SI-44 床下	菓子産
105	16	葉志器 坏	口径 - 底径 5.2 高さ (1.0)	外面 7.5Y6/4 にじい色 内面 10YR3/3 暗褐色	砂粒微量	良好		底部 糸切り	底部完存	覆土中	E区 SI-44 南東部	菓子産
105	17	葉志器 坏	口径 - 底径 (7.4) 高さ (2.4)	外面 7.5Y7/1 灰口 内面 2.5Y4/1 黄褐色	砂粒・礫少 量	良好		底部 ナデ	体部下部 →一部 1/4 残存	床下	E区 SI-44 床下	菓子産
105	18	葉志器 坏	口径 - 底径 (6.3) 高さ (1.4)	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少 量	良好		底部 ヘウ切り後ナデ	底部 1/2 残存	覆土中	E区 SI-44 ブク土一話	菓子産
105	19	葉志器 坏	口径 (7.4) 底径 (7.4) 高さ (2.1)	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 5Y6/1 灰	砂粒微量	良好		ロクロ目圓蓋 底部 ヘウ切り後ナデ	体→底部 1/4 残存	覆土中 北西部	E区 SI-44 北西部	菓子産
106	20	土師器 高台付坏	口径 (15.6) 底径 (6.8) 高さ 5.8	7.5YR7/6 橙	砂粒・礫少 量	良好		口縁部外面→内面 ロク ロナデ 体→底部外面 回転ヘラ ケズリ 高台貼付	口縁部 1/4、体部 1/2、高台 部 3/4 残 存、外底部 はほぼ完 存	覆土中 南東部	E区 SI-44 南東部	
106	21	土師器 高台付坏	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	外面 7.5YR7/6 橙 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	外面 ヘウケズリ後ヘウ ミガキ 内面 ヘウミガキ 高台貼付	体部 1/5、 高台下部 欠損	床面上	E区 SI-44 No.8	
106	22	土師器 高台付坏	口径 (6.8) 底径 (1.7) 高さ (1.7)	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 2.5C3/1 暗オリーブ灰	砂粒・小色 粒少量	良好	外部内面 黒色処理	体部外面 ロクロナデ 底部 回転ナデ 底部内面 ヘウミガキ 高台貼付	外底→高 台部 1/4 残存	覆土中 北東部	E区 SI-44 北東部	
106	23	葉志器 高台付坏	口径 - 底径 5.4 高さ (2.1)	外面 5Y7/2 灰口 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒・礫微 量	良好		高台貼付	外底→高 台部 3/4 残存	床下	E区 SI-44 床下	
106	24	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 高さ (2.8)	2.5YR5/6 明赤褐色	砂粒・金雲 母少量	良好		内外面 ココナデ	口縁部一 部残存	床下	E区 SI-44 床下	
106	25	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 高さ (3.6)	2.5YR4/6 赤褐色	砂粒・礫少 量	良好		内外面 ナデ	口縁部一 部残存	床下	E区 SI-44 床下	
106	26	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 (15.7) 高さ (21.2)	外面 7.5YR5/4 にじい色 内面 7.5YR4/3 暗褐色	砂粒・白雲 母微量	良好		口縁部 ココナデ 底部 ナデ	口縁→側 面 1/4 残 存	研道上	E区 SI-44 No.3・南東 部	
106	27	葉志器 鉢	口径 (21.2) 底径 - 高さ (5.8)	外面 2.5Y4/1 黄褐色 内面 2.5Y5/2 黄褐色	砂粒・礫微 量	良好		ロクロ目圓蓋	口縁部 1/12 残存	覆土中 南西部	E区 SI-44 南西部	産地不明
106	28	葉志器 甕	口径 - 底径 (16.0) 高さ (19.3) 最大径 (31.2)	外面 7.5YR6/4 にじい色 内面 5Y6/1 灰	砂粒・白雲 母少量	良好		胴部外面 平行タタキ	胴部一部 残存	床下	E区 SI-44 床下	新出産
106	29	葉志器 甕	口径 - 底径 (16.0) 高さ (19.3) 最大径 (31.2)	2.5Y5/1 黄褐色	砂粒多量、 礫微量	良好		胴部外面 平行タタキ 下半 夕タキ色一部ナデ 消す 内面 ナデ	胴下半 1/4、底部 一部残存	床1約 20cm	E区 SI-44 No.10	菓子産
106	30	かわらけ	口径 8.8 底径 5.0 高さ 1.7	10YR8/3 浅黄褐色	砂粒微量	良好		口縁→体部外面 ロクロ ナデ 底部 糸切り	口縁部 3/4 残存、 8cm	床1約 8cm	E区 SI-44 No.9	虎右込みナ デ

106	31	編物石か	長 16.1 幅 5.5 厚 3.0 重 328.73		砂岩				ほぼ完存	埋土中	E区 SI-44	
106	32	鉄製品 不明	長 [6.04] 幅 0.44 厚 0.44 重 2.83						一部残存	床土約 3 cm	E区 SI-44 No.11	
106	33	鉄製品 釘	長 [4.88] 幅 1.35 厚 0.51 重 6.88						一部欠損	床土約 13 cm	E区 SI-44 No.12	

E区 SI-49 (第107図、第58表、図版二四)

位置 調査区北部にあたる AL・AM-47 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南東部が確認されている。残存部の東西0.84m以上、南北0.92m以上、面積0.77㎡である。壁は確認されていない。

主軸方向 N-4°-W **覆土** 2層の暗褐色土が確認されている。**床面** 中央部がやや高くなる。掘方も中央部が掘り残され、高い。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 図示できる遺物は出土していない。須恵器環3点 48.19 gが出土している。**時期** 不明。

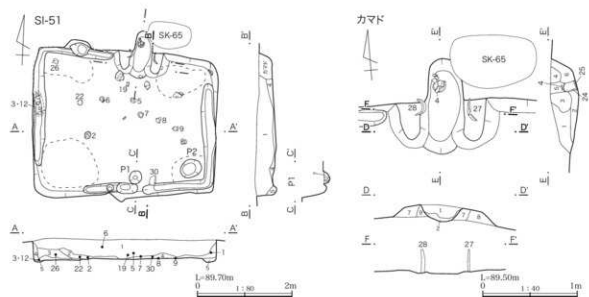


第107図 E区 SI-49 遺構実測図

E区 SI-51 (第108-109-110図、第58-68表、図版二四・二五・一一八～一二〇・一四八)

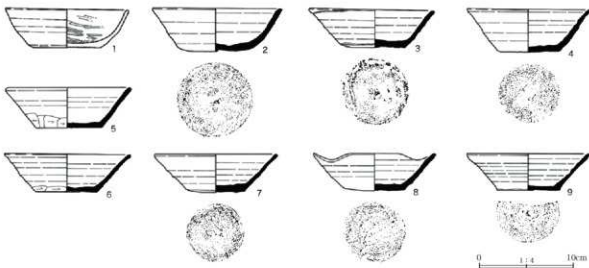
位置 調査区北部にあたる AM-47・48 グリッドに位置する。**重複関係** SK-65より古い。**平面形状・規模** 東西3.86m、南北3.08mの長方形で、面積は11.89㎡である。壁は遺存状況の良い部分で42cm残存する。**主軸方向** N-0° **覆土** 1～4層はレンズ状の堆積を示し、自然埋没である。**床面** 四隅が硬く締まっている。掘方は図示していないが四隅を掘り込む。また、幅20～30cm、深さ5～8cmの壁溝が北西部と南東部で確認された。**柱穴等** 2基確認されている。P1は円形で、直径25cm、深さ80cm、P2は楕円形で、長軸44cm、短軸38cm、深さ20cmである。P1からは直径14cmほどの柱痕跡が確認されている。入口施設とみられ、南壁際に確認されている。**カマド** カマドは北壁中央に位置しており、暗黄褐色砂質土とロームを積んで構築した袖と天井の一部がつぶれた状態で遺存していた。掛け口付近には土師器の裏(24)を半分にしたものの上に、須恵器の環(4)を伏せている。**出土遺物** 西壁際と中央部に多く出土している。土師器の環1点、裏1点、須恵器環20点、高台付環2点、瓦4点、砥石1点、石1点、鉄製品1点を図示した。4は底面に2本の線が刻書され、8の底部は焼成時に亀裂が入っている。14は焼成時の歪みが著しい。23は底部の両面に朱や墨の痕跡が残る。25～28の瓦は被熱している。袖の内側の芯材に使用された。25

は文字互か。27・28は狭端面に棒状の圧痕があり、分割あるいは側面調整時に地面に置いた際、枝などが圧痕として残ったもの。29は砥石で、4面が研磨されている。30は砂岩で、カマド構築材の可能性もあり、一部被熱する。このほかに土師器環22点110.46g、高台付環3点29.35g、壺1点7.16g、鉢2点21.32g、甕255点3603.96g、須恵器環257点2008.07g、高台付環3点8.19g、蓋13点99.54g、壺3点、45.67g、甕17点377.62g、陶器1点2.48g、瓦3点224.79gが出土している。時期 9世紀中葉。

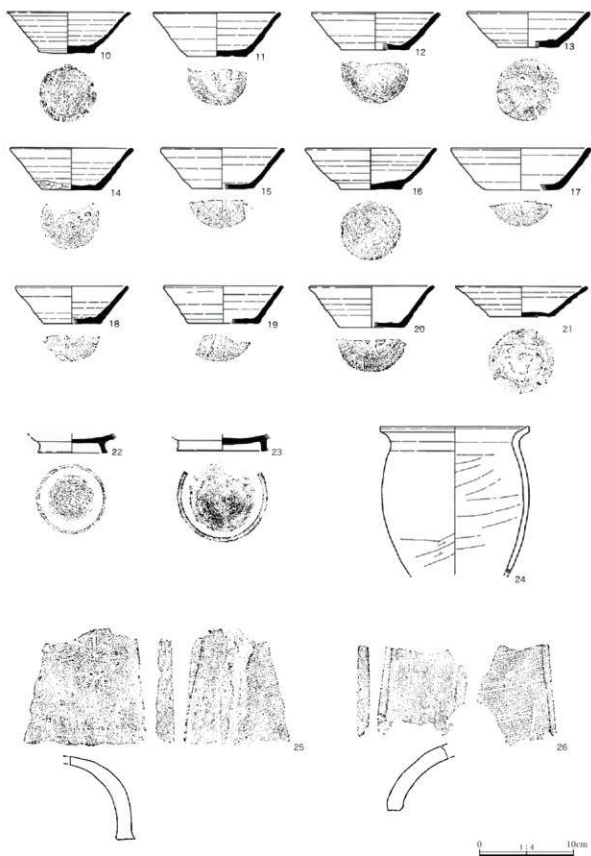


- SI-51
- 1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微細。しきりあり。
 - 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しきりあり。
 - 3 黒褐色土 ローム粒子微細。焼土粒子・炭化物粒子若干。しきりあり。
 - 4 暗褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック微細。しきりあり。
 - 5 暗褐色土 ローム粒子多量。ローム粒子少量。しきりあり。
 - 6 暗褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子微細。しきり欠ける。粘性ややあり。(柱脚)
 - 7 褐色土 ローム粒子やや多量。ロームブロック少量。しきりやや欠ける。粘性ややあり。(副方曜土)

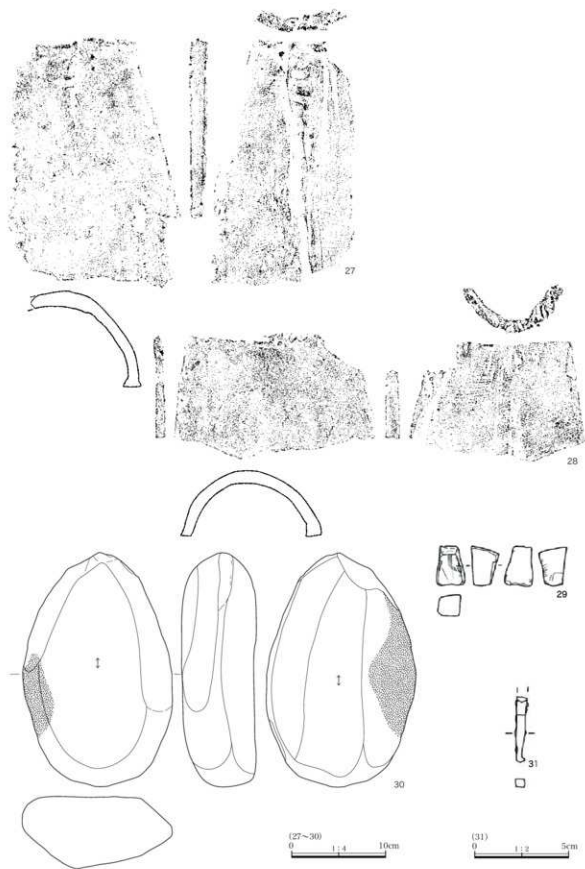
- SI-51 カマド
- 1 明褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子微細。しきり欠ける。粘性欠ける。
 - 2 明褐色土 ローム粒子やや多量。焼土粒子少量。しきりややあり。粘性欠ける。
 - 3 暗褐色土 山砂主体。ローム粒子やや少。焼土粒子少量。しきりあり。粘性欠ける。(天井崩落土)
 - 4 暗褐色土 山砂主体。ローム粒子・焼土粒子少量。しきりややあり。粘性欠ける。(煙道天井か)
 - 5 明褐色土 山砂多量。褐色土少量。しきりあり。粘性欠ける。(流入土)
 - 6 明褐色土 山砂やや多量。焼土やや少。褐色土ブロック少量。しきり欠ける。粘性欠ける。(流入土)
 - 7 明褐色土 ローム粒子多量。焼土粒子やや多量。黒褐色土粒子やや少。しきりややあり。粘性あり。(袖)
 - 8 暗褐色土 ローム主体。褐色土・焼土粒子少量。しきりあり。粘性欠ける。(袖)
 - 9 暗褐色土 焼土主体。ローム粒子・褐色土粒子少量。しきりあり。粘性やや欠ける。(袖)



第108図 E区 SI-51 遺構・出土遺物実測図(1)



第109圖 E区SI-51出土遺物実測圖(2)



第110图 E区SI-51出土遗物实测图(3)

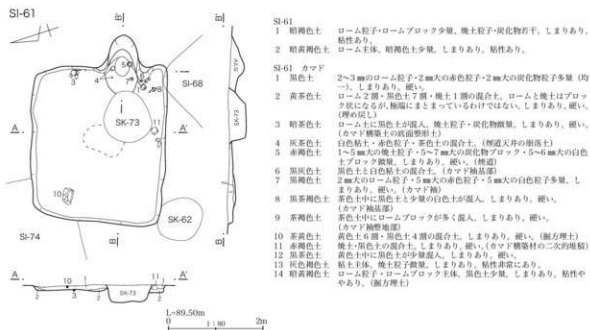
第68表 E区 SI-51 出土物観察表

種別 No.	No.	追加 図録	位置 (m・g)	色調	素材・石質	状況	路面の状況	器形・器形の特徴	保存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
108	1	土師器 環	口径 13.0 底径 [7.0] 器高 4.2	10YR5/3 に黄褐色 内面 N2/0 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色地埋 外面 一部割破	外面 ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	ほぼ完好	床上約 12cm	E区 SI-51 No.8	磁子産
108	2	葉土器 環	口径 13.7 底径 7.4 器高 4.6	10YR5/2 黄灰	砂粒多量、礫 若干	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	完好	床面直上	E区 SI-51 No.14	磁子産
108	3	葉土器 環	口径 13.2 底径 6.0 器高 4.2	外面 10YR4/1 黄灰 内面 7.5YR4/2 黄灰	砂粒・礫多量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	完好	床面直上	E区 SI-51 No.17	磁子産
108	4	葉土器 環	口径 13.0 底径 6.4 器高 4.7	外面 N3/0 黄灰 内面 2.5Y3/1 黄褐色	砂粒・礫多量	良好	割傷あり(斜 線2本)	口クロ目圓著 底部ヘラケズリ後ナデ	口縁一底 部3/4残 存	支脚上	E区 SI-51 カマド No.19	磁子産
108	5	葉土器 環	口径 13.0 底径 6.8 器高 4.3	外面 2.5Y6/4 黄褐色 内面 10YR6/3 に黄褐色	砂粒・礫多量	良好		口クロ目圓著 体部下端ヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁一底 部3/4残 存	床面直上	E区 SI-51 No.4	磁子産
108	6	葉土器 環	口径 13.2 底径 6.4 器高 4.1	外面 10YR5/4 に黄褐色 内面 10YR4/1 黄灰	砂粒多量	良好		口クロ目圓著 体部下端 回転ヘラケズリ 底部ヘラ切り後ナデ	口縁一底 部1/2残 存	床上約 24cm	E区 SI-51 No.1	磁子産
108	7	葉土器 環	口径 (13.0) 底径 (6.0) 器高 4.1	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫多量	良好	割傷あり「一」	口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁一底 部1/2残 存	床上約 6cm	E区 SI-51 No.12	磁子産
108	8	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (6.4) 器高 4.0	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒少量	良好	底部 亀裂あり	口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁一底 部1/4残 存	床面直上	E区 SI-51 No.11	磁子産
108	9	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (6.6) 器高 (3.9)	外面 N4/0 灰 内面 7.5Y4/1 灰	砂粒・礫多量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り	口縁部 1/4、底 部1/2残 存	床面直上	E区 SI-51 No.10	磁子産
109	10	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (5.8) 器高 4.4	外面 5Y5/1 オリーブ灰 内面 10Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ	口縁一底 部1/12 残存	カマド 内	E区 SI-51 カマド一底	磁子産
109	11	葉土器 環	口径 (13.4) 底径 (6.2) 器高 4.7	外面 10Y5/1 灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒・礫多量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、底 部1/2残 存	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一底・南西 一底	磁子産
109	12	葉土器 環	口径 (12.4) 底径 (7.1) 器高 4.0	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫少量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラケズリ後ナデ	口縁一底 部1/2残 存、底部 ほぼ完好	床面直上	E区 SI-51 南西一底・北 西一底	磁子産
109	13	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (6.6) 器高 3.8	2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8残 存、底部 ほぼ完好	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一底・南西 フク土一底	磁子産
109	14	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (6.0) 器高 4.5	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量	良好	赤みあり	体部下端 手持ちヘラケズリ 底部ヘラ切り後ヘラケズリ	口縁部 1/8、底 部3/4残 存	覆土中	E区 SI-51 南西一底	磁子産
109	15	葉土器 環	口径 (12.8) 底径 (6.5) 器高 4.4	外面 10Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量	良好	割傷あり「一」	口クロ目圓著	口縁部 1/4、底 部1/2残 存	覆土中	E区 SI-51 北東フク土 一底	磁子産
109	16	葉土器 環	口径 (13.5) 底径 (6.1) 器高 4.5	2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量、礫 若干	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8残 存、底部 完好	覆土中	E区 SI-51 南西一底・ 南西フク土 一底	磁子産
109	17	葉土器 環	口径 (14.6) 底径 (7.4) 器高 (4.5)	外面 N4/0 灰 内面 N6/0 灰	砂粒・礫多量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/12、底 部1/4残 存	覆土中	E区 SI-51 南東フク土 一底	磁子産
109	18	葉土器 環	口径 (11.8) 底径 (6.0) 器高 4.0	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、礫 若干	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁一底 部1/2残 存	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一底	磁子産
109	19	葉土器 環	口径 (12.6) 底径 (7.4) 器高 4.0	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 5YR4/2 黄灰	砂粒少量、礫 少量	良好	割傷か	口クロ目圓著	口縁部 1/12、底 部1/4残 存	床、 6cm	E区 SI-51 No.3	磁子産
109	20	葉土器 環	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 4.5	外面 7.5Y4/1 灰 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒・礫少量	良好		口クロ目圓著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部欠 損、底部 1/2残存	カマド 内	E区 SI-51 カマド一底	磁子産
109	21	葉土器 環	口径 (14.0) 底径 (6.8) 器高 3.3	10YR5/2 黄褐色	砂粒多量	良好		底部ヘラ切り	口縁部 1/3、底 部2/3残 存	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一底・南西 フク土	磁子産
109	22	葉土器 高台付環	口径 - 底径 (7.4) 器高 (2.1)	2.5Y6/2 黄灰	砂粒少量、礫 若干	良好	高台付付		E区 SI-51 底部完好	床面直上	E区 SI-51 No.15	磁子産

109	23	築造部 高台付付	口徑 15.7 底径 9.0 深高 [1.8]	SY5/1 灰	砂粒微量	良好	実・面層 両面露出		底面3/4 残存	覆土中	E区 SI-51 北西一拵	碇子産か 転用履
109	24	土師器 小形甕	口徑 15.7 底径 9.0 深高 [1.8]	外面 SYR5/8 甲糸周 内面 SYR6/8 棧	砂粒少量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部内面ヘラケズリ 胴内面ナデ	口縁部 3/4、胴 部1/2残 存	カマド 内	E区 SI-51 カマド一拵	
109	25	丸瓦	厚 1.6 重 296.84	外面 2.5Y6/4 に黄 内面 2.5Y5/1 紫灰	砂粒・礫多量	良好	焼熟	凸面ヨコヘラケズリ 凹面 布目粗、赤切り痕 側面ヘラケズリ、面取	一部 (10 ～20%) 残存	埋没 面	E区 SI-51 カマド No.22	文字瓦か
109	26	丸瓦	厚 1.6 重 196.08	外面 SY5/2 灰オリーブ 内面 SY6/2 灰オリーブ	砂粒多量、礫 少量	良好	焼熟	凸面ヘラケズリ後ヨコナ デ 凹面 布目粗、赤切り痕 側面ヘラケズリ、面取	一部 (5 ～10%) 残存	灰上約 8cm	E区 SI-51 No.16	
110	27	丸瓦	厚 1.7 重 831.70	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・礫多量	やや 不良	焼熟	凸面ヘラケズリ後ナ デ 凹面 布目粗、赤切り痕 側面ヘラケズリ	40～ 50%残 存	堀内	E区 SI-51 No.21・カ マド一拵	文字瓦か
110	28	丸瓦	厚 1.4 重 486.57	外面 SY5/2 灰オリーブ 内面 N5/0 灰	砂粒・礫多量	良好	焼熟	凸面 タテヘラケズリ後ナ デ 凹面 布目粗、赤切り痕 側面ヘラケズリ、面取	一部 (20 ～30%) 残存	堀内	E区 SI-51 カマド No.20	
110	29	石造品 礎石	長 4.2 幅 3.0 重 2.3 重 35.92				流紋岩	4面研削	一部欠損	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一拵	
110	30	石 (用途不明)	長 25.0 幅 16.0 厚 8.0 重 4127.5				硬質じり砂岩	一部焼熟	ほぼ完 存	灰上約 3cm	E区 SI-51 No.18	カマド構築 材か
110	31	筑造部 礎石か	長 [3.46] 幅 0.60 厚 0.43 重 1.45						一部残 存	覆土中	E区 SI-51 南西フク土 一拵	

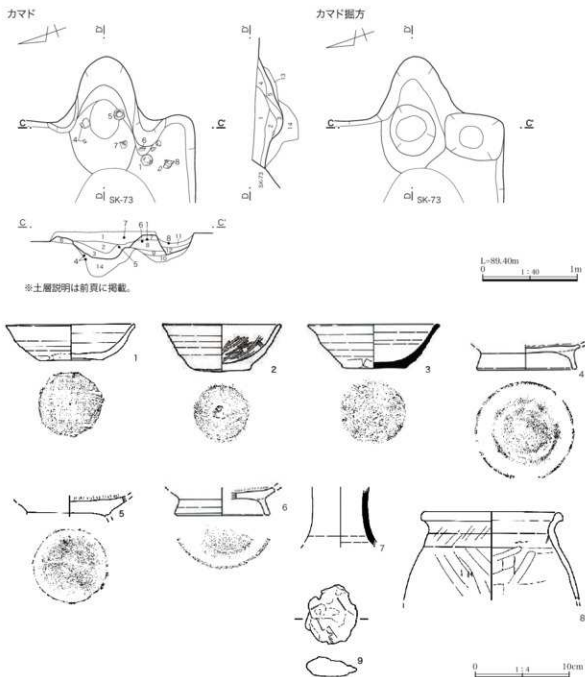
E区 SI-61 (第111・112・113 図, 第58・69 表, 図版二五・一一九・一二〇・一四八)

位置 調査区北東部にあたる AN-48 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-73 より古く、SI-68・74 より新しい。SK-62 との新旧関係は不明である。 **平面形状・規模** 長方形で、東西 3.26m、南北 2.82 m、面積は 9.19 m² である。壁は遺存状況の良い部分で 18 cm ほどである。 **主軸方向** N-110° - E **覆土** ローム粒子を多く含む。自然堆積とみられる。 **床面** 貼床等は認められず、ローム層を床面としており、やや凹凸がみられる。床面中央部分には踏み締まりとみられる硬化面が形成される。 **柱穴等** 確認されていない

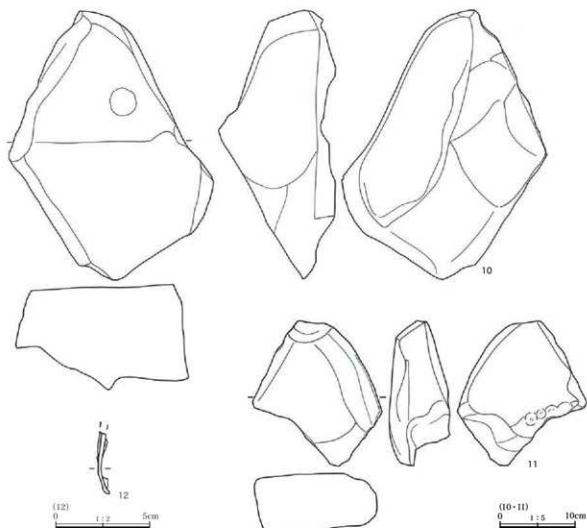


第111 図 E区 SI-61 遺構実測図(1)

い。カマド 東壁南寄りに位置しており、6層は白色粘土と黒色土で、7～9層は白色粘土とロームを積んで構築した袖が遺存していた。カマド内や周辺より、遺物が多く出土している。出土遺物 土師器環2点、高台付環3点、甕1点、須恵器環1点、壺1点、焼粘土塊1点、石2点、鉄製品1点を図示した。11はカマドの芯材として使われた可能性が高い。11は凹石を転用している。このほかに土師器環25点 102.26g、高台付環2点 9.47g、甕71点 852.12g、須恵器環53点 276.20g、高台付環5点 60.11g、蓋1点 4.79g、甕6点 60.04gが出土している。時期 9世紀中葉。



第112図 E区 SI-61 遺構(2)・出土遺物実測図(1)



第113図 E区SI-61出土物実測図(2)

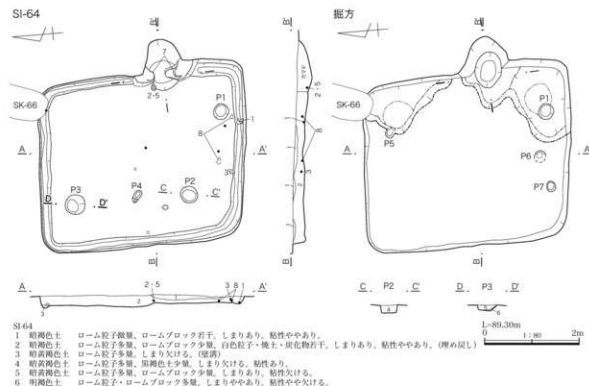
第69表 E区SI-61出土物観察表

探穴 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	地成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
112	1	土師器 杯	口径 13.6 底径 6.6 器高 3.7	5YR4/4 にぶい赤褐色	砂粒少量、礫 多量	良好		口縁部～内面 ロクロナデ 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 静止ヘラケズリ	ほぼ完全 保存	カマド 付足	E区SI-61 No.4・カマ ド内	
112	2	土師器 杯	口径 12.6 底径 6.0 器高 5.1	外面 10YR7/2 にぶい黄褐色 内面 10R3/1 暗赤灰	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	口縁～体部外面 ロクロナ デ 底部ヘラ切り後ナデ 内面ヘラミガキ	口縁部 2/3 残存、 底部完好	厨方中	E区SI-61 カマド跡床 中	
112	3	須恵器 杯	口径 13.8 底径 6.7 器高 4.7	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・礫微量	良好	スズ付着	ロクロナ面著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/2 残存、 底部完好	床面直 上	E区SI-61 No.9・北東 一區	磁子産
112	4	土師器 高台付杯	口径 - 底径 10.5 器高 [2.7]	外面 2.5YR4/6 赤褐色 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒・礫微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部ヘラケズリ後ナデ 高台取付	底部完全	カマド 厨方中	E区SI-61 No.9・10・ カマド	
112	5	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (8.8) 器高 [2.2]	外面 10YR5/4 にぶい黄褐色 内面 7.5YR5/6 明褐色	砂粒少量、赤 色粘土微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデか 内面ヘラミガキ 底部ヘラケズリ後ナデ	底部完全、 高台部欠 損	カマド 内	E区SI-61 No.1 カマ ド内	
112	6	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (9.6) 器高 [3.0]	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒・礫少量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部ヘラケズリ後ナデ 高台取付	底部1/2 残存	カマド 内	E区SI-61 No.3 カマ ド内	

112	7	須石路遺	口径 - 底径 6.4 高さ [6.4]	外面 10YR4/1 内面 5Y4/1 灰	砂粒・黒色粒 子・塵多量	良好		ロクロナデ	一部現存	カマド 内	E区 SI-61 No.2 カマ ド内	碁子産
112	8	土師路遺	口径 (14.2) 底径 - 高さ [9.3]	7.5YR6/6 橙	砂粒少量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/4、胴部 1/6 現存	カマド 内	E区 SI-61 No.8 カマ ド内	
112	9	焼粘土塊	長 4.6 幅 4.0 厚 1.5 重 21.94				スズ痕			掘方中	E区 SI-61 カマド跡床 中	
113	10	石 (用途不明)	長 35.6 幅 27.1 厚 15.5 重 12450.0		砂岩	視熟			一部欠損	床上約 5 cm	E区 SI-61 No.10	
113	11	石 (用途不明)	長 19.2 幅 17.1 厚 8.0 重 2603.3		砂岩	視熟			一部現存	床上約 10 cm	E区 SI-61 No.13	凹石を転用 No.13
113	12	瓦製品 釘	長 [3.28] 幅 0.36 厚 0.30 重 1.12						一部欠損	覆土中	E区 SI-61 北西一筋	

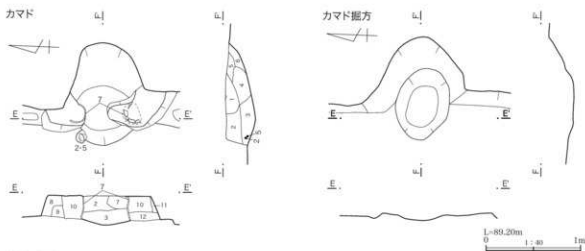
E区 SI-64 (第114・115・116図、第58・70表、図版二六・一一〇)

位置 調査区はぼ中央北寄り、AO-49 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-66 より古い。 **平面形状・規模** 長方形で、東西 3.66m、南北 4.38m、面積は 16.03 m²である。壁は遺存状況の良い部分で 24 cm ほどである。 **主軸方向** N-95° - E **覆土** ロームを多く含む。1層は自然埋没、2層は人為的な埋め戻しとみられる。3層は壁溝の覆土である。 **床面** 南東隅と北東隅に貼床が確認された。ロームを多く含む。壁溝は全周し、幅 20 ~ 28 cm、深さ 4 ~ 8 cm である。 **柱穴等** 4基と床下より3基、合計7基が確認されている。P1・2・3・6・7は円形、P4・5は楕円形。P1は直径 41 cm、深さ 21 cm、P2は直径 44 cm、深さ 13 cm、



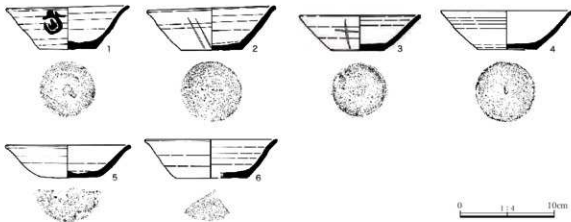
第114図 E区 SI-64 遺構実測図

P3は直径50cm、深さ23cm、P4は長軸36cm、短軸18cm、深さ7cm、P5は長軸30cm、短軸24cm、深さ7cm、P6は直径20cm、深さ15cm、P7は長軸28cm、短軸25cm、深さ18cm、P2・3はSI-64の柱穴と考えられる。**カマド** 東壁やや南寄りに位置しており、袖の一部が残存している。1・4・5・9層は天井崩落土、8～12層は袖で、いずれも土師器の裏(7)と灰褐色砂質土等で構築されている。**出土遺物** 壁際に多く出土している。土師器の裏1点、須恵器環6点、裏1点を図示した。1は側面に墨書が確認された。「物」か。2と3は側面、4は底面に刻書がみられる。2は2本の平行した斜線、3は「十」である。このほかに土師器環26点195.44g、高台付環1点7.46g、裏89点1320.13g、須恵器環67点328.17g、高台付環3点40.95g、蓋4点31.49g、裏8点591.49gが出土している。**時期** 9世紀後葉。

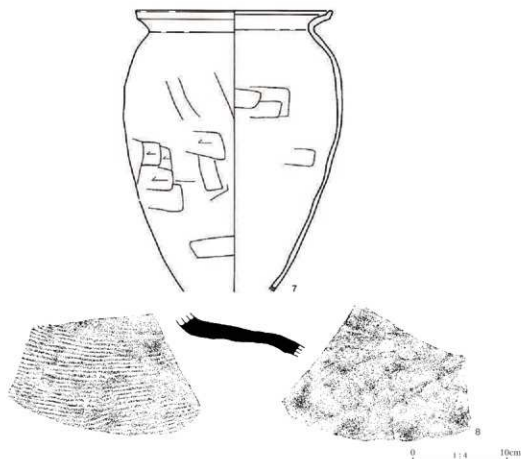


SI-64 カマド

- 1 黒褐色土 山砂中や多量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまり欠ける、粘性欠ける。(天井部)
- 2 黒褐色土 ローム粒子・山砂粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(底面)
- 3 暗赤褐色土 焼土粒子多量、ローム粒子や中量、しまり欠ける、粘性欠ける。(燃焼面)
- 4 明褐色粘土 乳白色粘土が少し残っている、しまり欠ける、粘性あり。(煙道天幕)
- 5 暗赤褐色土 焼土粒子多量、ローム粒子・暗褐色土粒子・焼土ブロック少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(天井)
- 6 暗褐色土 ローム粒子・焼土少量、しまり欠ける、粘性や中欠ける。(底土)
- 7 灰褐色砂質土 山砂主体、褐色土少量、しまりややあり、粘性少しあり。(天井)
- 8 褐色土 山砂少量、焼土粒子微量、しまり欠ける、粘性ややあり。(袖)
- 9 暗赤褐色土 山砂少量、焼土粒子少量、しまり欠ける、粘性ややあり。(袖)
- 10 高褐色土 ローム粒子主体、焼土粒子微量、しまり欠ける、粘性ややあり。(袖)
- 11 暗褐色土 ローム粒子微量、しまり少中欠ける、粘性ややあり。(袖)
- 12 暗赤褐色土 焼土粒子やや多量、ローム粒子少量、しまり欠ける、粘性ややあり。(袖)



第115図 E区SI-64遺構(2)・出土遺物実測図(1)



第116図 E区 SI-64 出土物実測図(2)

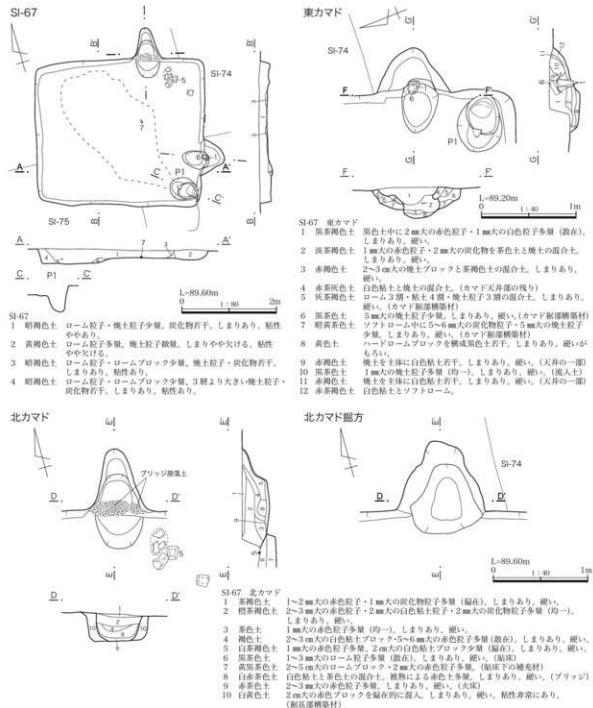
第70表 E区 SI-64 出土物観察表

検出 No.	No.	種類 分類	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
115	1	葉巻器 環	口径 13.0 底径 6.0 器高 4.7	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好	筆書あり「物」 か	ロクロ目面著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8欠損 底面完存	壁溝直 上	E区 SI-64 No.1	葎子産
115	2	葉巻器 環	口径 13.6 底径 6.4 器高 4.7	2.5Y4/2 黄黄灰	砂粒・礫少量	良好	削書(斜線2 本)あり	ロクロ目面著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/2残存 底面完存	床1約 5cm	E区 SI-64 カマド No.1	葎子産
115	3	葉巻器 環	口径 12.8 底径 5.4 器高 3.8	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好	削書あり「+」	ロクロ目面著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 3/4残存 底面完存	床1約 8cm	E区 SI-64 No.6・一括	葎子産
115	4	葉巻器 環	口径 (14.0) 底径 6.2 器高 4.1	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好	削書か	底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8残存 底面完存	カマド 内	E区 SI-64 カマド一括	葎子産
115	5	葉巻器 環	口径 (13.0) 底径 (6.2) 器高 3.5	外面 5Y6/2 灰オリーブ 内面 5Y8/4/3 紅土・黄陶	砂粒・礫少量	良好	筆書か	底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/2残 存	床1約 5cm	E区 SI-64 カマド No.1・カマ ド一括	葎子産
115	6	葉巻器 環	口径 (14.0) 底径 (7.5) 器高 4.1	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好	7.5Y5/1	ロクロ目面著	口縁部 1/8、底部 1/5残存	壁道上	E区 SI-64 カマド様造	葎子産
110	7	土師器 甕	口径 20.8 底径 - 器高 (29.8)	外面 10Y8/4 に5:1黄陶 内面 10Y8/4/4 紅	砂粒少量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部ヘララズリ、一部 ナデ	底部欠損	地内	E区 SI-64 カマド No.2・3	
110	8	葉巻器 甕	口径 - 底径 - 器高 (4.6)	外面 2.5Y7/6 明黄陶 内面 2.5Y6/1 黄陶	砂粒多量、礫 微量	良好		胴部外面 平行タキ 内面 ナデ 無文陶具類	一部残存	床1約 4cm	E区 SI-64 No.2・5・カ マド	産地不明

E区 SI-67 (第117-118図、第58-71表、図版二六・二七・一〇・一四八)

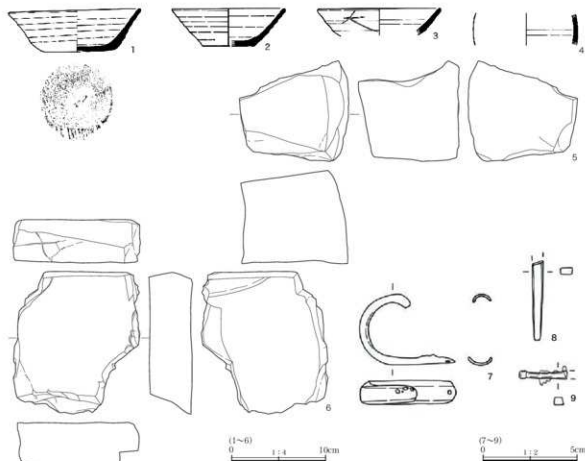
位置 調査区北東部にあたる AM・AN-48 グリッドに位置する。重複関係 SI-74・75 より新しい。

平面形状・規模 東西3.54m、南北3.12m、面積は11.04㎡の長方形で、壁は遺存状況の良い部分で32cmほどである。**主軸方向** N-18°-E **覆土** ローム粒子を含む暗褐色土がレンズ状に堆積しており自然堆積とみられる。**床面** 踏み締まりとみられる硬化面が中央部に認められた。SI-75と重なる部分はSI-67構築時に床を固めた(貼床)が凹んでしまっている。**柱穴等** 確認されなかった。**貯蔵穴** P1は東カマドの脇に確認された。段を持ち、底面上で石が出土している。**カマド** 北壁東寄り(北カマド)と東壁南寄り(東カマド)に確認された。北カマドが新しい。東カマドは支脚(棒状の石)に須恵器の環(1)を被せ、その上に石を置いた終了行為を行っている。北カマドは壊され、埋め戻された状態と推測されるが、袖のブリッジ



第117図 E区SI-67遺構実測図

は落とされた状態で確認されている。出土遺物 須恵器の坏3点、壺1点、石2点、銅製品1点、鉄製品2点を図示した。1は完形の坏で、東カマド内より出土した。歪みがあり、被熱している。3は「大」が側面に刻書されている。5と6は被熱を受けており、7は柄頭の覆輪と考えられる。このほかに土師器坏40点310.49g、高台付坏2点24.35g、甕180点2789.05g、瓦7点811.25g、須恵器坏96点758.26g、高台付坏3点68.73g、埴1点11.91g、蓋5点55.02g、鉢1点8.92g、長頸壺1点10.50g、甕15点392.14gが出土している。時期 9世紀第1四半期。



第118図 E区SI-67出土遺物実測図

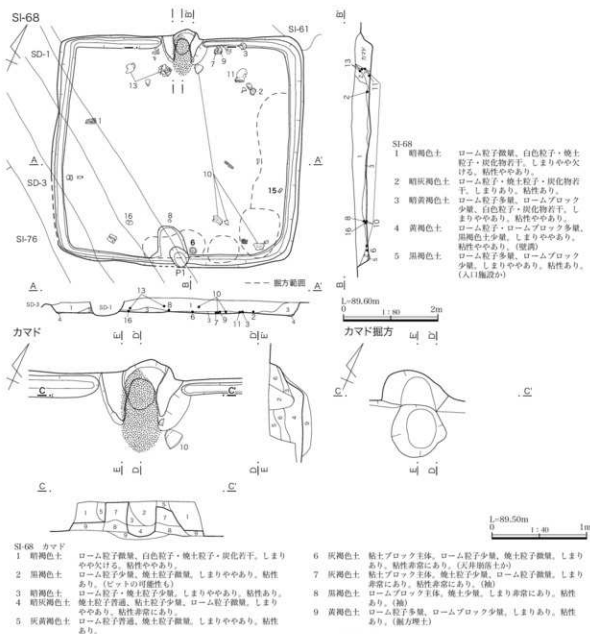
第71表 E区SI-67出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	表面の状況	器形・整形の特徴	遺存 状況	出土 状況	注記	産地・備考
118	1	須恵器 坏	口径 14.0 底径 7.6 胎高 4.6	外面 2.5Y6/3 にふい黄 内面 10YR5/2 灰黄褐色	砂粒少量	良好	歪みあり 被熱	口クロ目顯著 底部へつ切り残ナデ	完形	カマド 内	E区SI-67 No.2カマ ド	磁子産
118	2	須恵器 坏	口径 (12.0) 底径 (5.6) 胎高 4.0	10YR7/3 にふい黄褐色	砂粒・硬塊量	不良		口クロ目顯著 底部へつ切り残ナデ	口縁部 1/12, 底部 1/4残存	甕土中	E区SI-67 東ベルト内 一部	磁子産
118	3	須恵器 坏	口径 (13.0) 底径 - 胎高 [2.8]	5Y4/2 灰オリーブ	砂粒・硬塊量	良好	割痕あり「大」	口クロ目顯著	口縁部一 部残存	甕土中	E区SI-67 北東部	磁子産
118	4	須恵器 壺	口径 - 底径 [3.3] 胎高 [3.3] 肩大径 12.0	外面 5Y7/1 灰白 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒少量、黒 色粘土痕量	良好	自然輪付着	口クロ目顯著	一部残存	甕土中	E区SI-67 北西部	産地不明
118	5	カマド 構築材か	径 10.7 厚 10.7 重 1096.3		砂岩		被熱		一部残存	カマド 付着	E区SI-67 No.3	

118	6	カマド 構築材か	長 15.0 幅 13.5 厚 4.6 重 1552.77		チャート	視触	鉄分付着か	ほぼ完存 か	カマド 内	E区 SI-67 No.1	
118	7	鉄製品 刀痕具	長 [5.09] 幅 3.73 厚 1.22 重 5.14					一部欠損 か	床面約 2m	E区 SI-67 No.6	柄頭の覆 輪か
118	8	鉄製品 鉄鏝	長 [4.19] 幅 0.60 厚 0.34 重 2.15					一部欠損	覆土中	E区 SI-67 西ベルト内 一括	
118	9	鉄製品 不明	長 [2.53] 幅 0.45 厚 0.40 重 1.04					一部残存	覆土中	E区 SI-67	

E区 SI-68 (第119-120図、第58-72表、図版二七・一一〇・一一二)

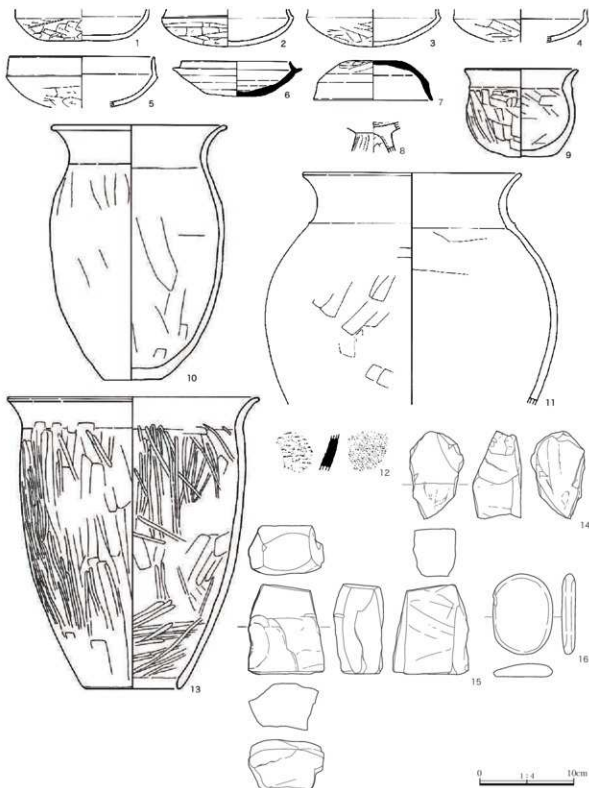
位置 調査区北東部にあたるAN-49グリッドに位置する。重複関係 SI-61・76、SD-1・3と重複し、本遺構が古い。平面形状・規模 東西5.24m、南北4.86m、面積は25.47㎡の長方形で、壁は遺存状況の



第119図 E区 SI-68 遺構実測図

良い部分で40cmほどである。壁溝がカマドの部分以外全周し、幅24～30cm、深さ3～11cmである。

主軸方向 N-22° -W **覆土** ローム粒子や火山灰と考えられる白色粒子を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積である。炭化物も確認されている。**床面** 南・東壁際に硬化面が認められた。**柱穴等** 1基確認された。P1は入口施設と考えられる。抜き取りの痕跡が確認されている。**カマド** 北カマドである。袖



第120図 E区 SI-68 出土遺物実測図

の一部が残存する。ロームブロックで芯を作り、その上を灰褐色粘土で構築している。2層はピットの可能性も考えられる。出土遺物 床面近くからの出土がほとんどで、土師器の坏5点、高坏1点、甗1点、甗3点、須恵器の坏1点、蓋1点、甗1点、石3点を図示した。9は小形の甗である。10は南東部とカマドの袖前からも出土している。14は流れ込みと考えられる磨石である。このほかに土師器坏33点 380.93 g、甗1点 40.75 g、甗106点 1016.96 g、須恵器坏12点 43.97 g、甗1点 2.86 gが出土している。時期 7世紀前葉。

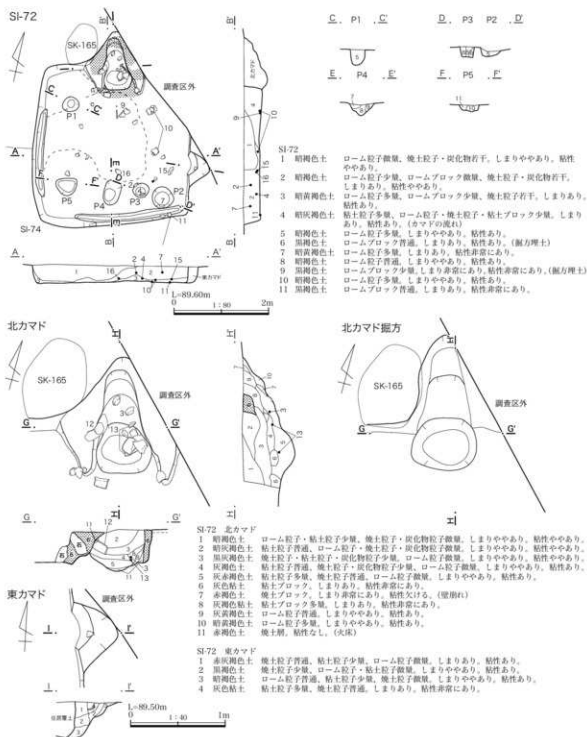
第72表 E区 SI-68 出土遺物観察表

探検 号	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質 構成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
120	1 土師器 坏	口径 14.2 底径 - 器高 3.6	外面 10YR5/3 に5%黄褐 内面 10YR7/6 明黄褐	砂粒少量	良好	内面 漆仕上げ 口縁部～内面 ココナ 子 体部外面～底部ヘラ ケズリ	口縁部 1/2残存、 底部ほぼ 完存	覆土中	E区 SI-68 北西部	
120	2 土師器 坏	口径 12.8 底径 - 器高 4.1	外面 10YR5/3 に5%黄褐 内面 10YR17/1	砂粒・白雲母 少量	良好	口縁部～内面 漆仕上げ	口縁部 ココナ 子 体部ナデ 底部ケズリ	口縁部 1/4残存	床面直上 No.16	
120	3 土師器 坏	口径 13.8 底径 - 器高 4.2	5YR5/6 明赤褐	砂粒・礫少量	良好	口縁部 ココナ 子 体～底部ヘラケズリ 内面ナデ	口縁～体 部 1/6欠 損	床面直上	E区 SI-68 No.20	
120	4 土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.6]	外面 5YR6/6 橙 内面 5YR6/8 橙	砂粒微量	良好	口縁部 ココナ 子 体部ヘラケズリ	口縁～体 部 1/4残 存	覆土中	E区 SI-68 南東部・北 西部・ベル ト内	
120	5 土師器 坏	口径 (15.4) 底径 - 器高 [5.4]	7.5YR3/1 黒褐	砂粒微量	良好	口縁部～内面 漆仕上げ	口縁部 ココナ 子 体部外面ヘラケズリ	口縁～体 部 1/4残 存	覆土中 E区 SI-68 北西部	
120	6 須恵器 坏	口径 11.6 底径 - 器高 3.8	外面 7.5YR5/3 に5%黄 内面 7.5YR6/6 赤	砂粒・礫少量	不良	底部 ヲビ割れ	ロクロ目銀著 底部ケズリ	完形	床上的約 3cm	E区 SI-68 No.8 産地不明
120	7 須恵器 甗	口径 12.6 底径 - 器高 4.2	外面 N4/0 灰 内面 N5/0 灰	砂粒・礫少量	良好		ロクロ目銀著 天井部 手持ちヘラケ ズリ	口縁～底 部 1/2残 存	床上的約 3cm	E区 SI-68 No.22 産地不明
120	8 土師器 高坏	口径 - 底径 - 器高 [3.3]	外面 2.5YR6/6 橙 内面 7.5YR3/1 黒褐	砂粒多量	良好	内面 黒色処理 外面 灰れてい る	体～底部外面 ナデ (ケ ズリか) 内面ヘラミガキ	坏底～部 部一部残 存	床面直上	E区 SI-68 No.7 産地不明
120	9 土師器 小形甗	口径 (12.0) 底径 (4.5) 器高 9.4	外面 10YR4/1 明灰 内面 7.5YR3/1 黒褐	砂粒多量、白 雲母少量	良好		口縁部 ココナ 子 製部外面ヘラケズリ 製部内面ナデ	口縁～製 部 1/4、 底部 1/2 残存	床上的約 3cm	E区 SI-68 No.22・カ マド内・カ マド南西
120	10 土師器 甗	口径 (23.2) 底径 - 器高 [24.5]	外面 10YR5/4 に5%黄褐 内面 7.5YR6/6 赤	砂粒・礫多量	良好	外面 スス付着	口縁部 ココナ 子 製部ナデ	口縁部 1/4、製部 1/2残存	床上的約 3cm	E区 SI-68 No.9・10・ 11・カマド No.1・北東 部
120	11 土師器 甗	口径 (18.4) 底径 6.0 器高 27.1	外面 10YR3/2 黒褐 内面 2.5YR4/6 赤褐	砂粒・礫少量	やや 不良		口縁部 ココナ 子 製部ナデ	口縁部 1/3、製部 2/3残存、 底部完存	床面直上	E区 SI-68 No.19
120	12 須恵器 甗	口径 - 底径 - 器高 [3.3]	5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		製部外面 平行タタキ、 カマド 製部内面 同心円道具	製部一部 残存	覆土中	E区 SI-68 一帖
120	13 土師器 甗	口径 (26.6) 底径 (10.2) 器高 31.0	外面 10YR6/3 黄橙 内面 7.5YR6/4 に5%黄	砂粒・礫微量	良好	外面 黒斑あり	口縁部 ココナ 子 製部ヘラミガキ	口縁～製 部 1/3、 底部 1/5 残存	床上的約 20cm	E区 SI-68 No.1・23・ 南西部 E区 SI-68 一帖
120	14 石 (用途不明)	長 8.4 幅 5.7 厚 5.1 重 32.304		チャート				完存か	床面直上	E区 SI-68 No.6
120	15 石 (用途不明)	長 9.6 幅 8.19 厚 5.32 重 630.19		チャート		ターム状付着 物あり		完存	覆土中	E区 SI-68 No.13
120	16 石 (用途不明)	長 8.61 幅 6.38 厚 1.45 重 126.88		安山岩				ほぼ完存	カマド 付近	E区 SI-68 カマド周辺 磨石 流れ込みか

E区 SI-72 (第121-122図、第58-73表、図版二八・二九・一一一)

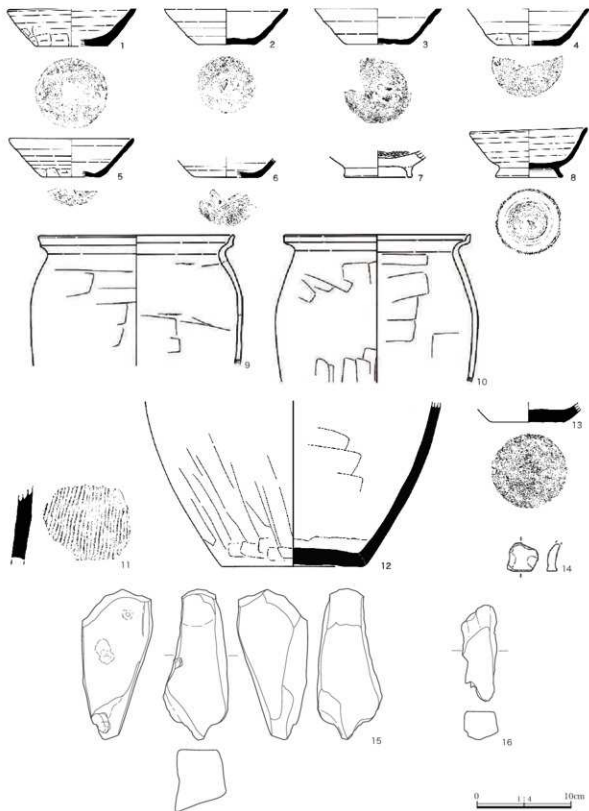
位置 調査区北東部にあたるAN-48グリッドに位置する。重複関係 SI-74、SK-165と重複し、本遺構

が新しい。平面形状・規模 東西3.48m、南北3.48m、面積は12.11㎡の方形で、壁は遺存状況の良い部分で38cmほどである。主軸方向 N-12°-W 覆土 2・3層はローム粒子を多く含む暗褐色土で、自然堆積と考えられる。P1の上には焼土が確認されている。床面 中央部とP1周辺に踏み締まりとみられる硬化面が認められた。柱穴等 5基確認された。P1・2・5が主柱穴、P4が入口施設と考えられる。P1・2は円形、P3～4は楕円形、P5は不整形。P1は直径32cm、深さ35cm、P2は直径45cm、深さ12cm、P3は長軸36cm、短軸30cm、深さ20cm、P4は長軸54cm、短軸30cm、深さ22cm、P5は長軸44cm、短



第121図 E区SI-72遺構実測図

軸 36 cm、深さ 14 cmである。カマド 北壁中央と東壁南寄りに確認された。東カマドが古く、壊されている。北カマドは灰褐色粘土で構築され、袖の芯材として石を使用している。出土遺物 カマドの周辺や壁際に多く出土している。土師器の高台付環1点、甕2点、不明1点、須恵器の坏6点、高台付環1点、甕3



第122図 E区 SI-72 出土遺物実測図

点、石2点を図示した。1は内面に摩擦した部分と墨痕がみられる。2と6は焼きの悪い須恵器。4は被熱の痕跡がみられる。このほかに土師器杯24点213.55g、高台付杯1点2.70g、鉢2点39.80g、甕167点2448.11g、瓦1点22.55g、須恵器杯135点918.23g、蓋10点92.54g、高台付杯1点2.58g、鉢2点58.58g、甕17点313.96gが出土している。時期 9世紀中葉。

第73表 E区SI-72出土遺物観察表

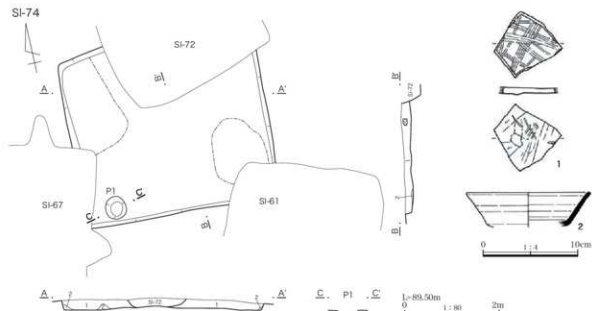
検出 No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
122	1	須恵器 杯	口径 13.6 底径 7.6 器高 4.1	2.5Y5/2 黄灰	砂粒少量、確 若干	良好	内面 墨痕あり 内面 磨滅 底部 中央打ち 欠き	口クロ目蓋着 体部 下端 手持ちヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁部 1/3 残 存、底部 一部欠損	覆土中	E区 SI-72 南西フク土 一括、南西 フク土一括	磁子産 地用磁
122	2	須恵器 杯	口径 (13.0) 底径 6.0 器高 4.0	外面 10YR7/6 明黄褐 内面 10YR6/2 灰黄褐	砂粒少量、やや 小良			口クロ目蓋着 底部 ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/3 残 存	床1約 15cm	E区 SI-72 No.8	磁子産
122	3	須恵器 杯	口径 (13.4) 底径 6.8 器高 3.9	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、確 少量	良好		口クロ目蓋着 底部 ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/3、底 部 1/2 残 存	カマド 内	E区 SI-72 カマド No.9・ 北方中層 遺・カマド 2層・カマド 地内	磁子産
122	4	須恵器 杯	口径 (13.0) 底径 (6.4) 器高 4.1	外面 10YR6/4 に赤い黄褐 内面 7.5YR6/6 橙	砂粒少量	良好	被熱か	口クロ目蓋着 底部 手持ちヘラケズリ	口縁部 1/3、底 部 1/2 残 存	床1約 5cm	E区 SI-72 No.9・南 西フク土一括	磁子産
122	5	須恵器 杯	口径 (13.2) 底径 (6.0) 器高 4.1	5Y5/1 灰	砂粒少量、確 微量	良好	割唐あり	口クロ目蓋着 底部 手持ちヘラケズリ	口縁部 1/3 残 存	覆土中	E区 SI-72 北西フク土 一括	磁子産
122	6	須恵器 杯	口径 - 底径 (7.0) 器高 [2.1]	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 7.5YR4/1 橙灰	砂粒少量	不良	割唐あり「×」	口クロ目蓋着 底部 ナデ	体-底部 1/4 残存	覆土中	E区 SI-72 北西フク土 一括	磁子産
122	7	土師器 高台付杯	口径 - 底径 7.2 器高 [2.6]	外面 5YR6/6 橙 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色焼色	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 高台附付	底部完 存、高台 部 1/2 残 存	床1約 20cm	E区 SI-72 No.10	
122	8	須恵器 高台付杯	口径 12.4 底径 7.0 器高 5.4	外面 2.5Y7/1 灰 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒・確少量	良好		体部 下端 割唐ヘラケズリ 底部 ナデ 高台附付	口縁部 1/2 残 存、高台 部はほぼ完 存	覆土中	E区 SI-72 北西フク土 一括	磁子産
122	9	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 - 器高 [13.6]	外面 5YR6/6 橙 内面 7.5YR5/4 に赤い橙	砂粒・白雲母 多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁-胴 部 1/3 残 存	床面直 上	E区 SI-72 No.18・北 ベル ト	
122	10	土師器 甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 [15.6]	外面 10YR8/4 灰黄褐 内面 10YR4/1 橙灰	砂粒・白雲母 多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁-胴 部 1/6 残 存	床面直 上-5 cm	E区 SI-72 No.16・19	
122	11	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [7.8]	外面 10YR6/2 灰黄褐 内面 10Y5/1 灰	砂粒・確微量	良好		胴部 外面 平行タキ 内面 当具痕	胴部- 底面直 上	床面直 上	E区 SI-72 No.20	産地不明
122	12	須恵器 甕	口径 - 底径 15.0 器高 [17.5]	10YR7/4 に赤い黄褐	砂粒・確少量 やや 小良			外面 ナデ・下縁ケズリ 内面 ナデ	胴部 1/3 残存、 底部はほぼ 完存	カマド 内	E区 SI-72 No.11	産地不明
122	13	須恵器 甕	口径 - 底径 7.8 器高 [1.9]	10YR5/3 に赤い黄褐	砂粒・確少量、 透明珪子微量	良好	内面 朱染付着	底部 ナデ	底部完 存	カマド 内	E区 SI-72 No.10・No.7 北カマド	磁子産
122	14	土師器 不明	径 3.0 厚 3.1 重 12.93	5YR5/4 に赤い赤褐	砂粒少量、黒 色粒若干			内外面 ナデ	一部残存	覆土中	E区 SI-72 南西フク土 一括	
122	15	石 (用途不明)	径 16.0 幅 6.9 厚 7.5 重 812.27		砂岩		表面 赤化		一部欠損	床面直 上	E区 SI-72 No.14	
122	16	石 (用途不明)	径 9.3 幅 3.7 厚 3.1 重 138.12		チャート		被熱か		一部残存	床1約 6cm	E区 SI-72 No.7	

E区SI-74 (第123図、第58-74表、図版二九)

位置 調査区北東部にあたるAN-48グリッドに位置する。重複関係 SI-61・67・72と重複し、本遺構

が古い。 **平面形状・規模** 東西4.20m、南北3.78m、面積は15.88㎡の長方形で、壁は遺存状況の良い部分で24cmほどである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。 **床面** 北西と南東部に掘方が認められた。 **柱穴等** 1基が確認された。 P1は長軸48cm、短軸42cm、深さ13cmの楕円形である。 **カマド** 確認できた範囲では確認されなかった。

出土遺物 土師器環1点、須恵器環1点を図示した。このほかに土師器環1点7.18g、甕7点170.21g、須恵器環6点47.18g、蓋1点12.85g、甕2点49.66gが出土している。 **時期** 8世紀後葉。



SI-74

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、KP粒子・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりあり、粘性ややあり。
2 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土・焼土粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。

第123図 E区SI-74遺構・出土遺物実測図

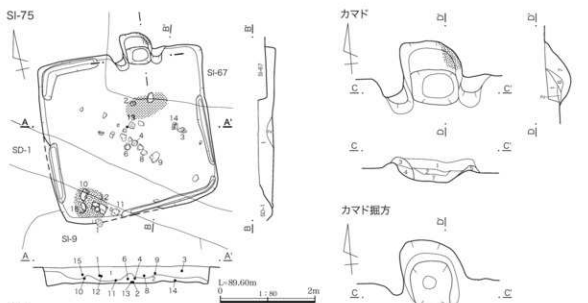
第74表 E区SI-74出土遺物観察表

探検 No.	種類 図号	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
123	1	土師器 環 口径 - 底径 - 高さ [0.7]	外面 10YR5/3 に濃い黄褐色 内面 5YR4/4 に濃い赤褐色	砂粒若干	良好		外面 ケズリ後ミガキ 内面 ナメ後ミガキ	底部一部 残存	甕土中	E区SI-74 南ベルト	
123	2	須恵器 環 口径 (13.0) 底径 (8.6) 高さ [3.5]	2.5Y6/2 灰黄	砂粒微量	良好			口縁一部 残存	甕土中	E区SI-74 南東部	胎子産か

E区SI-75 (第124・125図、第58-75表、図版二九・三〇・一一一・一一二)

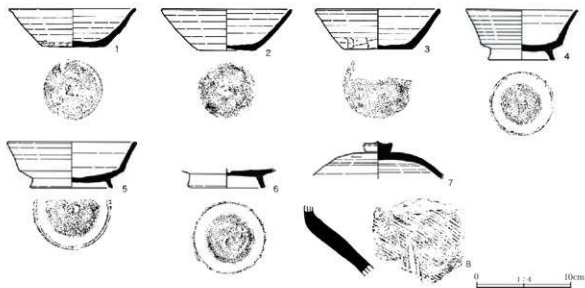
位置 調査区北東部にあたるAM-48グリッドに位置する。**重複関係** SI-67、SD-1・3より古く、SI-9より新しい。 **平面形状・規模** 東西3.44m、南北3.52m、面積は12.11㎡の方形で、壁は遺存状況の良い部分で36cmほどである。 **主軸方向** N-4°-E **覆土** 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む黄褐色土となっている。覆土に粘土や焼土の塊が混入している。南西隅で確認された焼土の周辺には土器(1・10～12・15)が廃棄されている。 **床面** SI-67により一部壊されている。また、幅10～20cm、深さ1～10cmの壁溝が一部で確認された。 **柱穴等** 確認されていない。 **カマド** 煙道の北東隅は地山が焼けている。ロームを掘り残し、袖の芯にする。袖は灰褐色粘土を主体とした土(5層)で構築している。 **出土遺物** 遺物は中央

部と壁際で出土している。土師器の甕3点、須恵器の坏3点、高台付坏3点、蓋1点、甕2点、瓦3点、石1点を図示した。2は焼きの悪い須恵器。4は矢印のような刻書が確認された。6は内面が摩耗する。甕に転用か。12の甕は丸底となっている。13～15の瓦は女瓦である。いずれも凸面に木口状工具によるナデがある。16は安山岩で、石皿を転用したものと考えられる。全体的に掘りこまれているため図示していない掘方の中から出土した。このほか、土師器坏2点139.63g、須恵器坏58点617.43g、蓋6点96.58g、高台付坏4点124.99g、甕7点439.29g、瓦6点852.52gが出土している。 時期 9世紀中葉。

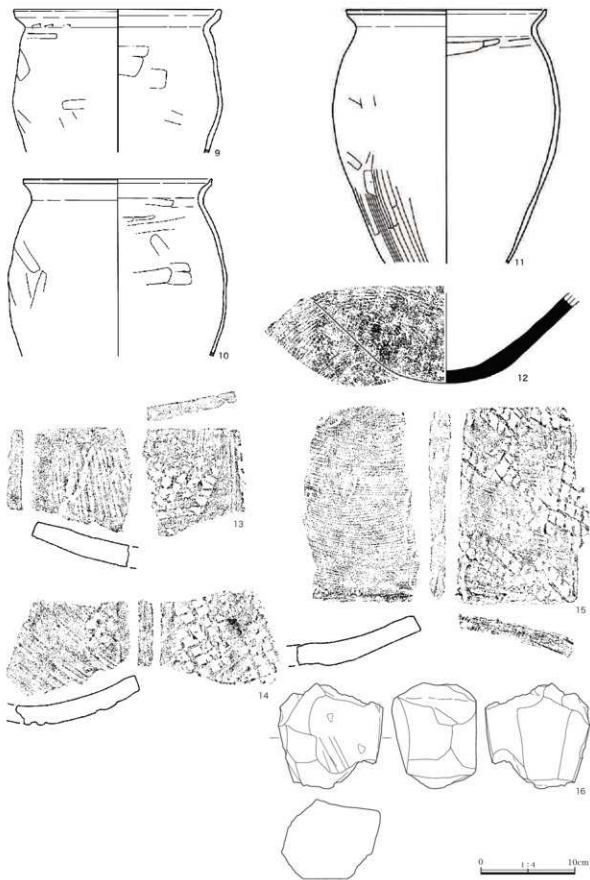


SI-75
1 黒褐色土 ローム主体、黒褐色土・焼土粒子微量、白色粒子・炭化物若干、しまりあり、粘性中やあり。
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土ブロック少量、白色粒子若干、しまりややあり、粘性中やあり。

SI-75 カマド
1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子やや少量、ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物粒子微量、しまりあり。
2 黒色土 焼土粒子・焼土ブロック多量、粘土粒子・炭化物粒子やや多量、ロームブロックの少量、ローム粒子少量、しまり欠ける。
3 暗灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロック多量、ロームブロック・粘土粒子やや多量、炭化物粒子少量、しまり非常にあり。
4 暗灰褐色土 粘土ブロック多量。
5 灰褐色土 ローム粒子・粘土粒子多量、焼土粒子やや少量、ロームブロック・炭化物粒子少量、しまり非常にあり。
6 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量。(天井崩壊)
7 赤褐色土 ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック・粘土粒子・炭化物多量、しまり欠ける。



第124図 E区 SI-75 遺構・出土遺物実測図(1)



第125图 E区SI-75出土遗物实测图(2)

第75表 E区 SI-75 出土物観察表

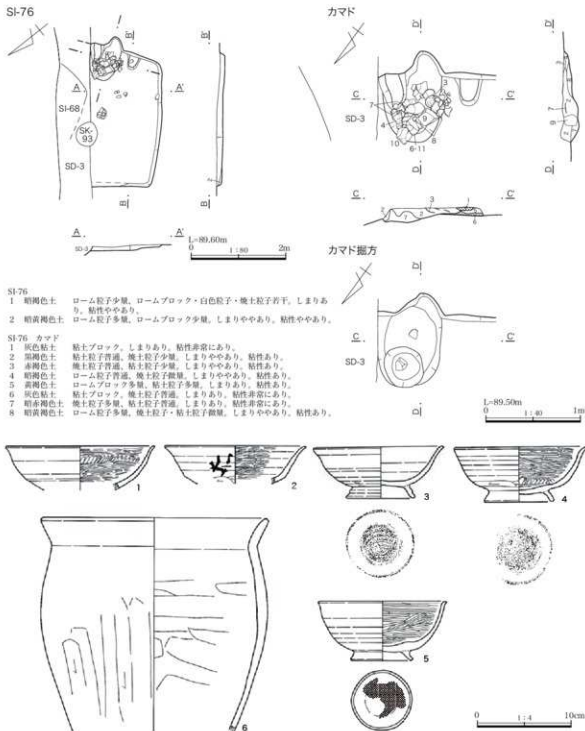
図版 No.	No.	施組 図様	計測値 (m・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・器型の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
124	1	葉志器 環	口径 13.1 底径 6.5 器高 4.1	2.5GY3/1 暗灰	砂粒多量、礫 少量	良好		内外面 ロクロナデ 体部下端 手持ちヘラケ ズリ 底部ヘラ切り後手持 ちヘラケズリ	口縁～体 部上位 1/2、体 部低位～ 底部迄存	床土約 15cm	E区 SI-75 No.28	笠子産
124	2	葉志器 環	口径 (13.7) 底径 (6.3) 器高 4.4	外面 5YR3/4 暗赤褐 内面 5YR4/1 暗灰	砂粒多量	やや 不良		口縁～体 部上位 1/6、体 部1/2残 存、底部 迄存	床面直上		E区 SI-75 No.9	笠子産
124	3	葉志器 環	口径 (13.2) 底径 (7.2) 器高 4.3	2.5Y6/1 黄灰	砂粒多量、礫 少量	良好		口縁～体 部上位 手持ちヘラケ ズリ 底部 静止ヘラケズリ	1/4 残存	床土約 22cm	E区 SI-75 No.6・北西 部	新治産
124	4	葉志器 高台付環	口径 11.8 底径 7.0 器高 5.4	外面 7.5Y4/1 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好	割書あり (文字 か)	口縁～体 部上位 高台付	口縁～体 部3/4残 存、杯底 部～高台 部迄存	床土約 10cm	E区 SI-75 No.19	笠子産
124	5	葉志器 高台付環	口径 (13.4) 底径 (8.6) 器高 4.9	外面 N4/0 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、礫 少量	良好	割書か	底部ヘラ切り後ナデ 高台付	口縁～体 部1/4、 底部～高 台1/2残 存	床土約 10cm	E区 SI-75 No.17	笠子産
124	6	葉志器 高台付環	口径 - 底径 8.2 器高 [2.1]	N5/0 灰	砂粒少量	良好	内面磨耗	口縁～高 台付迄存	底部～高 台付迄存	床土約 10cm	E区 SI-75 No.17	笠子産 転用説
124	7	葉志器 環	口径 - 底径 - 器高 [4.0] 最大径 (13.8)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y4/2 暗黄灰	砂粒多量、礫 少量	良好		丸耳部 銅線ヘラケズリ	つまみ完 存、丸耳 部上位 1/4 残存	床土約 16cm	E区 SI-75 西へ6・上内	笠子産
124	8	葉志器 環	口径 - 底径 - 器高 [6.7]	外面 2.5Y6/3 に赤い黄 内面 2.5Y5/2 暗黄灰	砂粒少量	やや不 良	内面 所れてい る	外面 平行タタキ	胴部一部 残存	床土約 16cm	E区 SI-75 No.21	笠子産
125	9	土師器 環	口径 (21.6) 底径 - 器高 [15.2]	10YR6/6 黄	砂粒・白雲母 多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁～胴 部1/2残 存	床土約 10cm	E区 SI-75 No.27	
125	10	土師器 環	口径 (19.8) 底径 - 器高 [18.8]	外面 7.5YR6/6 黄 内面 7.5YR5/4 に赤い黄	砂粒・白雲母 多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/6、胴 部1/6残 存	床土約 10cm	E区 SI-75 No.24	
125	11	土師器 環	口径 (21.2) 底径 - 器高 [27.0]	外面 7.5YR6/6 黄 内面 7.5YR4/6 黄	砂粒・白雲母 多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ・ケズリ 後へみ字平 胴部内面 ナデ	口縁～胴 部1/4残 存	床土約 15cm	E区 SI-75 No.25	
125	12	葉志器 環	口径 - 底径 - 器高 [9.6]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10Y6/1 灰	砂粒多量	良好		口縁部 胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴下部～ 底部 1/4 残存	床土約 20cm	E区 SI-75 No.22	産地不明
125	13	女瓦	厚 2.3 重 377.02	10YR2/4 に赤い黄	砂粒多量、礫 少量	良好	焼熟	凸面 格子タタキ・ナデ 凹面 赤白磁、赤切縁、 決縁部ヘラケズリ 側面 ヘラケズリ	一部 (5%) 残 存	床面直上	E区 SI-75 No.11	5類
125	14	女瓦	厚 2.1 重 377.29	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 10YR7/4 に赤い黄	砂粒多量、礫 少量	やや不 良		凸面 格子タタキ後ナデ 凹面 赤白磁、赤切縁、 側縁ヘラケズリ 側面 ヘラケズリ	一部 (10 ～20%) 残存	床面直上	E区 SI-75 No.7	4・1類
125	15	女瓦	厚 2.2 重 1058.0	2.5Y7/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好	焼熟	凸面 格子タタキ後ナデ 凹面 赤白磁、赤切縁、 決縁部ヘラケズリ 側面 ヘラケズリ	一部 (30 ～40%) 残存	床土約 15cm	E区 SI-75 No.26	3類
125	16	石 (用途不明)	長 12.1 幅 12.0 厚 9.7 重 936.23		安山岩		鉄付着 (赤色物) 付着		一部残存	掘方中 掘方内	E区 SI-75	石を転用 掘方内

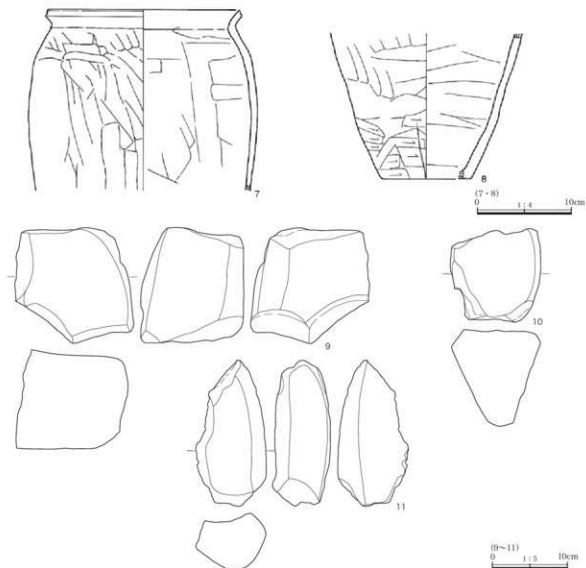
E区 SI-76 (第126-127図、第58-76表、図版三〇・一一二)

位置 調査区北東部にあたる AN-49 グリッドに位置する。 **重複関係** SD・1・3より古く、SI-68より新しい。SK-93との新旧関係は不明である。 **平面形状・規模** 東西1.52m以上、南北3.08mの方形基調になると推測される。壁は遺存状況の良い部分で14cmほどである。 **主軸方向** N-145°-E **覆土** 白色粒子・焼土粒子を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。 **床面** 凹凸がみられる。カマドの手前に若干の貼床が認められた。 **柱穴等** 確認されていない。 **カマド** 袖は5～7層で、灰色粘土を主体とし

た土で構築している。カマド掛け口付近から高台付環や裏が潰れた状態で、石も出土している。出土遺物土師器の坏2点、高台付坏3点、裏3点、石3点を図示した。1～5の坏・高台付坏はロクロ整形である。2は側面に墨書が確認された。「大領」か。5は底部外面に墨痕か。石3点は石皿等を転用したカマド構築材と考えられる。このほかに土師器坏9点63.21g、高台付坏1点3.76g、裏59点2178.64gが出土している。

時期 10世紀後半。





第127図 E区 SI-76 出土遺物実測図(2)

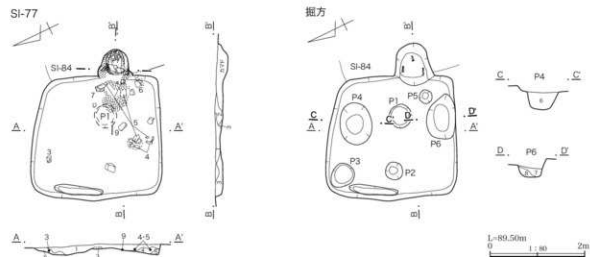
第76表 E区 SI-76 出土遺物観察表

排戻 No	品 No	種類 図柄	非遺物 (cm・g)	色調	粘土・石質	状態	断面の状態	器形・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
126	1	土師器 杯	口径 (13.8) 底径 - 器高 [4.7]	外面 5YR5/6 明灰層 内面 7.5YR5/1 明灰	砂粒少量	良好		ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁~体 部 1/4 残 存	覆土中	E区 SI-76 一括	
126	2	土師器 杯	口径 (15.0) 底径 - 器高 [4.0]	外面 7.5YR6/6 明灰 内面 N2-0 黒	砂粒微量	良好	器蓋あり「大須 か」 内面 黒色処理	ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁~体 部一部残	覆土中	E区 SI-76 東方マドフ 土一括	
126	3	土師器 高台付杯	口径 13.7 底径 7.3 器高 5.6	外面 10YR7/2 に赤い黄褐色 内面 7.5YR5/4 に赤い黄	砂粒微量	良好	内縁 部仕上げか スス付着	ロクロナデ 底部 ヘラケズリ 高台付付	口縁部 部欠損	カマド 内	E区 SI-76 カマド No.8	
126	4	土師器 高台付杯	口径 14.0 底径 7.4 器高 5.9	外面 10YR7/6 明灰層 内面 5YR2/1 黒	砂粒微量, 礫若干	良好	内面 黒色処理	内面 ヘラミガキ 口縁部 ロクロナデ 体部 外面ヘラケズリ 底部 糸切り後ナデ 高台付付	高台部 部欠損	カマド 内	E区 SI-76 カマド No.14	
126	5	土師器 高台付杯	口径 (13.5) 底径 6.9 器高 6.3	外面 10YR5/4 に赤い黄褐色 内面 10YR3/1 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理 底部外面に器蓋 か	ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 回転ヘラケズリ 高台付付	口縁~体 部 1/3 残 存、高台 部完存	カマド 付近	E区 SI-76 南方マドフ 土一括・ 一括	
126	6	土師器 甕	口径 (24.0) 底径 - 器高 [22.6]	外面 10YR3/3 明灰 内面 10YR4/3 に赤い黄褐色	砂粒・礫多 量	良好	スス付着	口縁部 ココナデ 胴部 外面 ナデ・ケズリ 胴部 内面 ナデ	口縁~胴 部 1/3 残 存	カマド 内	E区 SI-76 カマド No.3 東方マドフ 土一括	

127	7	土師器 甕	口径 (20.4) 底径 器高 (19.0)	外面 10YR6/4 に赤い黄褐色 内面 10YR4/4 に赤い黄褐色	砂粒・塵少 量	良好	外面 スス付着	口縁部 ココナデ 製部外面 ナデ・ケズリ 製部内面 ナデ	口縁部 1/4、製 部 1/6 残 存	カマド 内	E 区 SI-76 カマド No.11・13	
127	8	土師器 甕	口径 底径 (9.4) 器高 (115.3)	外面 10YR5/3 に赤い黄褐色 内面 10YR6/4 に赤い黄褐色	砂粒・塵少 量	良好		内外面 ナデ 製ト平～底部外面ヘラ ケズリ	製部 1/4 残存、底 部欠損	カマド 内	E 区 SI-76 No.6・カマド・ カマド No.2・ カマドフク土 一括	
127	9	カマド 構築材	長 幅 厚 重 16.5 17.0 14.7 5947.0		砂岩	焼熟			一部残存	カマド 内	E 区 SI-76 カマド No.4	
127	10	カマド 構築材	長 幅 厚 重 13.4 13.0 13.8 2727.5		安山岩	焼熟			一部残存	カマド 内	E 区 SI-76 カマド No.1	
127	11	カマド 構築材	長 幅 厚 重 21.0 10.1 8.3 1652.2		安山岩	焼熟			一部欠損 か	カマド 内	E 区 SI-76 カマド No.3	石皿を転用

E 区 SI-77 (第 128-129 図、第 58-77 表、図版三〇・三一・一二二・一二三)

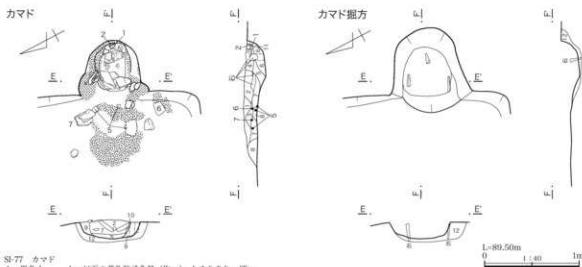
位置 調査区中央部にあたる AN-50 グリッドに位置する。**重複関係** SI-84 より新しい。**平面形状・規模** 東西 2.66m、南北 2.68m、面積は 7.13 m² の方形で、壁は遺存状況の良い部分で 16 cm ほどである。**主軸方向** N-120° - E **覆土** 焼土粒子・炭化物・鹿沼軽石粒子を含む暗褐色土やロームを多く含む黄褐色土で、カマド付近には粘土や焼土を含む層がみられる。**床面** 凹凸が著しい。西壁の一部に幅約 20 cm、深さ 3 cm の壁溝が確認されている。**柱穴等** 6 基が確認された。P1 は床下土坑で、直径 50 cm、深さ 40 cm の円形である。P2 は直径 36 cm、深さ 30 cm の円形で、入口施設の可能性がある。P3 は長軸 56 cm、短軸 46 cm、深さ 8 cm の楕円形、P4 は長軸 88 cm、短軸 68 cm、深さ 36 cm の楕円形で、埋め戻されている。P5 は直径 28 cm、深さ 16 cm の円形、P6 は長軸 86 cm、短軸 60 cm、深さ 24 cm の楕円形である。**カマド** 東壁南寄りに確認された。カマドは灰色粘土とロームを主体とした土で、構築材や支脚に礫 A～C (チャート) を使用している。南側には焼土がブロック状に確認されている。**出土遺物** 多くはやや壁寄りに出土して



SI-77

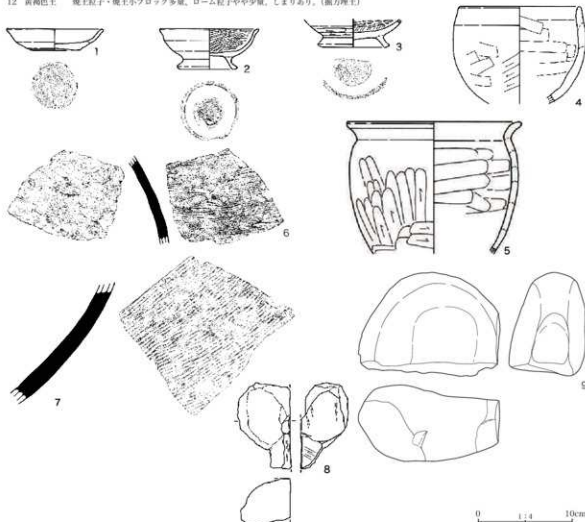
- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物・KP 粒子に細砂若干、しまりあり、粘性ややあり。
- 2 褐色土 ローム粒子多量、KP ブロック・焼土粒子・粘土ブロック多量、しまりあり、粘性あり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土少量、KP 粒子・炭化物微量、しまりやや欠ける、粘性やや欠ける。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりあり、粘性あり。
- 5 暗褐色土 ローム粒子多量 (主体)、しまりあり、粘性あり。
- 6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、上層に焼土粒子・炭化物入る、しまりあり、粘性ややあり。(埋しの戻し)
- 7 暗褐色土 ローム粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。
- 8 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり、粘性あり。

第 128 図 E 区 SI-77 遺構実測図 (1)



SI-77 カマド

- 1 1mm以下の黄色粒子多量 (均一)、しまりあり、硬い。
- 2 黒色土 5mm大のローム粒子・1~5mm大の赤色粒子多量 (散在)、しまりあり、硬い。
- 3 赤褐色土 2cm大のロームブロック・5mm大の赤色粒子多量、しまりあり、硬い。
- 4 赤褐色土 1mm大のローム粒子・2mm大の赤色粒子多量 (散在)、しまりあり、硬い。
- 5 黒色土 2mm大の黄色粒子多量 (偏在)、しまりあり、硬い。(廃止時に埋められた土)
- 6 細粒黒色土 1mm大の黄色粒子と赤色粒子・5mm大の赤色ブロック多量、しまりあり、硬い。(カマド構築土)
- 7 黒赤灰色土 黒土とソフトロームの混合土。1~2mm大の赤色粒子・炭化物多量、しまりあり、硬い。(廃絶後の自然成土)
- 8 赤黄灰色土 焼土の赤色ブロック・焼熟したロームブロック・灰色粘土の混合土、しまりあり、硬い。(カマド周囲で投げられた土)
- 9 黄褐色土 ソフトロームと灰色粘土主体。1~2mm大のローム粒子・5mm大の炭化物が混入、しまりあり、硬い。(カマド天井の石材を立てるための構築材)
- 10 赤褐色土 焼土混、しまりあり、硬い。
- 11 黄褐色土 灰色粘土・黄色土ブロックの混合土、しまりあり、硬い。(カマド構築材)
- 12 黄褐色土 焼土粒子・焼土小ブロック多量、ローム粒子や少量、しまりあり。(掘方埋土)



第129図 E区 SI-77 遺構(2)・出土遺物実測図

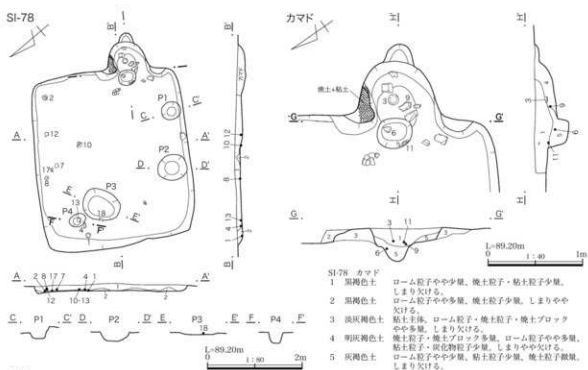
いる。土師器の坏1点、高台付坏2点、鉢1点、甕1点、須恵器の甕2点、石2点を図示した。2・3の高台付坏はロクロ整形で、内面にミガキを施す。6は焼きが悪い。8は流紋岩製の砥石で、表面が黒くなっている。9は被熱しており、石皿を転用したカマド構築材と考えられる。このほか、土師器坏24点166.02g、高台付坏2点28.90g、須恵器坏1点3.60gが出土している。時期 11世紀前半。

第77表 E区SI-77 出土遺物観察表

種別No.	No.	種類 器種	計量値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
129	1	土師器 皿	口径 10.3 底径 5.3 器高 2.3	外面 2.5Y6/4 にふい黄 内面 10YR5/3 にふい黄	砂粒少量	良好		底部 糸切り	口縁～ 体部 1/3 欠損	埋藏内 No.16	E区SI-77 カマド	
129	2	土師器 高台付坏	口径 10.5 底径 6.4 器高 4.3	外面 10YR6/4 にふい黄 内面 7.5YR5/3 にふい黄	砂粒少量	良好	内面 黒色処理か	ロクロ整形 内面ヘラミガキ 底部糸切り 高台付	口縁～ 体部 1/2 欠損	埋藏内	E区SI-77 カマドNo.5	
129	3	土師器 高台付坏	口径 - 底径 (7.6) 器高 3.0	外面 10YR5/4 にふい黄 内面 7.0YR5/4 にふい黄	砂粒少量	良好		ロクロ整形 内面ヘラミガキ 体部下平ヘラケズリ 底部糸切り 高台付	底部1/2 残存	床上的 5cm	E区SI-77 No.8	
129	4	土師器 鉢	口径 (13.0) 底径 - 器高 (10.4)	7.5YR4/3 黄	砂粒少量	良好	底部外面 スス付 面	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズ リ 体部内面 ナデ	底部1/3 残存	床上的 3～8 cm	E区SI-77 No.2P4内・ No.3・南西 部	
129	5	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 - 器高 (14.0)	外面 5YR5/6 明赤 内面 7.5YR5/4 にふい黄	白色粒子少 量、透明粒子・ 黒雲母微量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面上平 タテ方向の ヘラケズリ後ココ方向の ヘラケズリ 内面 ココ方向のヘラケズ リ	口縁～ 胴部 1/8 付近 欠損	E区SI-77 付近 No.2・3・カ マドNo.11・ 12・15・南 西部		
129	6	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (9.4)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10YR4/2 灰黒	白色粒子多量	やや 不良		胴部外面 平行タタキ 内面 当具痕	胴部一 部残存	カマド 付近	E区SI-77 カマドNo.9	磁子産
129	7	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (13.0)	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 7.5YR5/3 にふい黄	白色粒子多量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一 部残存	カマド 付近	E区SI-77 カマド No.14	磁子産
129	8	石製品 砥石	長 9.2 幅 5.8 厚 4.9 重 240.90		高紋岩		表面黒い		一部残 存	床下埋 土中	E区SI-77 床下S8	
129	9	カマド 構築材	長 16.2 幅 11.8 厚 3.8 重 1326.3		安山岩	被熱			ほぼ完 存	床面直 上	E区SI-77 No.5	石皿を転用

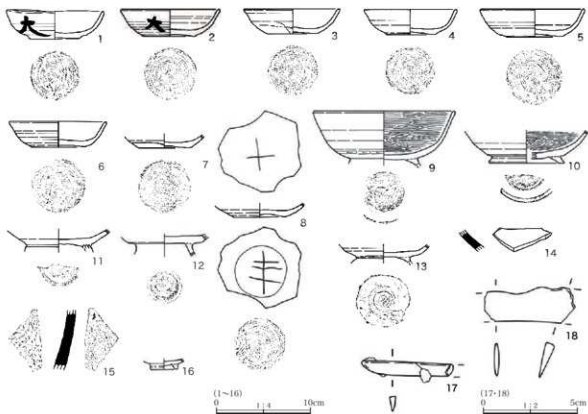
E区SI-78 (第130図、第58-78表、図版三一・一三三・一四八)

位置 調査区中央部にあたるAO・AP-50グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西3.26m、南北3.78m、面積は12.32㎡の長方形で、壁は遺存状況の良い部分で16cmほどである。主軸方向 N-125°・E 覆土 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土とロームを含む暗黄褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。床面 中央部に若干凹凸が認められた。柱穴等 4基が確認された。P1は直径40cm、深さ15cmの円形、P2は長軸60cm、短軸53cm、深さ18cmの楕円形、P3は長軸82cm、短軸62cm、深さ4cmの楕円形、P4は長軸36cm、短軸26cm、深さ25cmの楕円形である。掘方で確認されたため、住居に伴うかどうかは不明である。カマド 東壁南寄りに確認された。軸は灰褐色粘土で構築され、一部がよく焼けている。煙道は段になっている。焚口付近はビット状に掘り込まれている。出土遺物 多くは壁際の床面近くより出土している。土師器の皿8点、高台付坏5点、須恵器の甕1点、甕1点、陶器の血類1点、鉄製品2点を図示した。1と2は側面に「大」の墨書が確認されている。9と10は内面をミガキ、黒色処理が施される。16の陶器も出土するが、流れ込みと考えられる。このほか、土師器坏2点7.67g、甕83点1100.43g瓦2点162.55g、須恵器坏52点321.62g、高台付坏8点89.50g、蓋5点30.42g、甕2点112.20g、甕20点366.60gが出土している。時期 10世紀後半。



SI-78

- 1 明褐色土 ローム粒子・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりやや欠ける、粘性欠ける。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり、粘性あり。



第130図 E区 SI-78 遺構・出土遺物実測図

第78表 E区 SI-78 出土遺物観察表

探検地	No.	種類 土器類	品名 (cm・g)	色調	胎土・石質	完成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
130	1	土師器 皿	口径 10.3 底径 5.2 高さ 3.1	2.5Y7/3 浅黄			良好	器蓋「大」あり 若干歪む	口ロナデ 底部糸切り	完整	床直面上	E区 SI-78 No.11
130	2	土師器 皿	口径 10.6 底径 5.5 高さ 2.9	外底 10YR8/3 浅黄褐色 内底 10YR8/4 浅黄褐色			良好	器蓋「大」あり	口ロナデ 底部糸切り	口縁部一 部欠損	床上約 3cm	E区 SI-78 No.3
130	3	土師器 皿	口径 10.2 底径 5.4 高さ 2.6	外底 2.5Y8/3 淡黄 内底 10YR8/3 浅黄褐色			良好	油煙付着か	口ロナデ 底部糸切り	完整	埋土内 上層	E区 SI-78 No.2
130	4	土師器 皿	口径 9.8 底径 5.2 高さ 2.8	10YR8/3 浅黄褐色			良好		口ロナデ 底部糸切り	ほぼ完整	床直面上	E区 SI-78 No.10・カ マド
130	5	土師器 皿	口径 (11.0) 底径 5.8 高さ 2.9	10YR7/3 にふい黄褐色			良好	内面 油煙付着	口ロナデ 底部糸切り	口縁～体 部1/3残 存、底部 完整	東方覆 土中	E区 SI-78 No.7
130	6	土師器 皿	口径 (10.4) 底径 5.8 高さ 2.6	外底 10YR7/2 にふい黄褐色 内底 5YR7/4 にふい黄褐色			良好		口ロナデ 底部糸切り	口縁部一 部残存、 底部ほぼ 完整	カマド 内	E区 SI-78 No.5
130	7	土師器 皿	口径 - 底径 5.6 高さ (1.4)	外底 7.5YR7/4 にふい黄褐色 内底 5YR6/4 にふい黄褐色			良好		口ロナデ 底部糸切り	底部完整	床上約 2cm	E区 SI-78 No.6
130	8	土師器 皿	口径 - 底径 5.4 高さ (1.5)	外底 10YR7/3 にふい黄褐色 内底 10YR6/3 にふい黄褐色			良好	内面 刻書「十」 あり 外面 刻書「井」 あり	口ロナデ 底部糸切り	底部ほぼ 完整	床直面上	E区 SI-78 No.8
130	9	土師器 高台付杯	口径 (14.8) 底径 (5.8) 高さ (5.8)	外底 10YR6/3 にふい黄褐色 内底 10YR4/1 褐色			良好	内面 黒色処理	口縁～体部 外底 口ロナデ 体部ト端 同軸へラケズリ 内底へラケズリ 底部 糸切り後十字溝し 高台附付	口縁部一 部、底部 3/4残存	カマド 内	E区 SI-78 No.3・カマ ド
130	10	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (8.0) 高さ (3.5)	外底 10YR6/3 にふい黄褐色 内底 7.5YR3/1 黒褐色			良好	内面 黒色処理	体部外底 口ロナデ 内底へラケズリ 底部 同軸へラケズリ 高台附付	底部 1/2、蓋 台部 1/3 残存	床直上 内	E区 SI-78 No.5
130	11	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (2.0)	外底 10YR7/3 にふい黄褐色 内底 10YR7/4 にふい黄褐色			良好		口ロナデ 高台附付	底部 1/2 残存、高 台部部欠 損	カマド 内	E区 SI-78 No.8
130	12	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (2.5)	7.5YR6/4 にふい黄褐色			良好	砂粒・礫少 量	口ロナデ 高台附付	底部 2/3 残存、高 台部部欠 損	床上約 3cm	E区 SI-78 No.4
130	13	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (2.0)	外底 10YR8/3 浅黄褐色 内底 5YR8/3 淡黄褐色			良好	底部に竹筒状の 筋跡 複数	口ロナデ 高台附付	底部ほぼ 完整、高 台部部欠 損	床上約 3cm	E区 SI-78 No.9
130	14	実器器 壺	口径 - 底径 (2.4)	外底 5Y5/3 灰オリーブ 内底 2.5Y6/3 にふい黄褐色			良好	自然釉付着	ナデ	底部一部 残存	覆土中	E区 SI-78 No.10
130	15	実器器 壺	口径 - 底径 (6.4)	外底 2.5Y6/1 黄灰 内底 2.5Y6/2 黄灰			良好	砂粒多量、 黒色粒子少 量	胴部外面 水平タタキ 内面 格子タタキ	底部一部 残存	覆土中 北西部	E区 SI-78 No.11
130	16	陶製 血瓶	口径 - 底径 (1.2)	外底 2.5Y6/2 黄灰 内底 5Y6/3 オリーブ黄			良好	細砂粒微量		底部 (高 力部) 完 存	覆土中	E区 SI-78 No.12
130	17	鉄製品 刀子	長 [4.87] 幅 0.89 厚 0.38 重 0.34							一部残存	P3 床直上	E区 SI-78 No.7
130	18	鉄製品 小鍬	長 [4.78] 幅 1.90 厚 0.50 重 0.85							一部残存	床直上	E区 SI-78 No.12

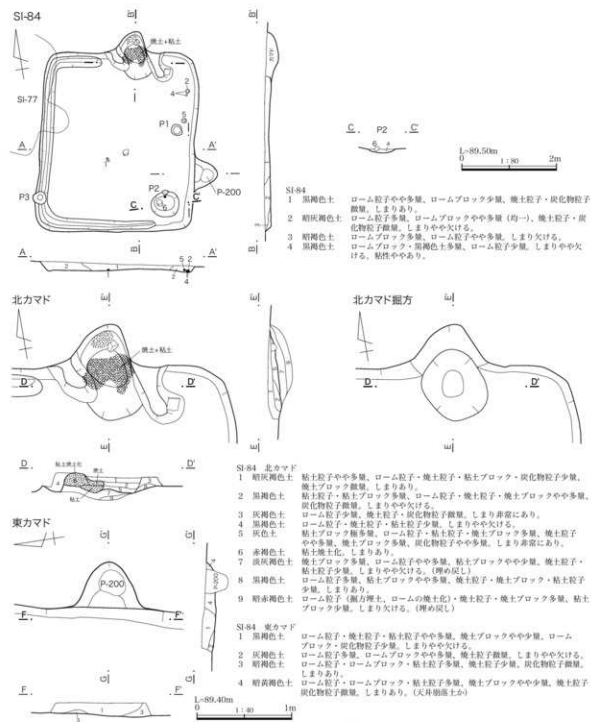
E区 SI-84 (第131-132図、第58-79表、図版三一・三二・一一二三)

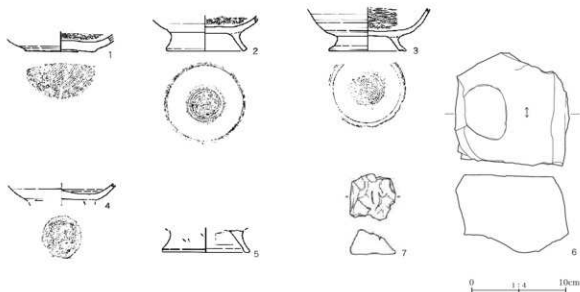
位置 調査区中央部にあたるAN・AO-50グリッドに位置する。重複関係 SI-77・P-200より古い。

平面形状・規模 東西3.28m、南北3.80m、面積は12.46㎡の隅丸長方形で、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。主軸方向 N-12°-E 覆土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土とローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗灰褐色土、ロームを多く含んだ暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。床面 ローム面を床面としている。壁溝は北・西・南壁で確認され、幅16～28cm、深さ2～7cmである。柱穴等 3基が確認された。P1は直径24cm、深さ32cmの円形、P2は長軸65cm、短軸60cm、

深さ9cmの楕円形で、段を持つ。土器や石が出土している。P3は直径26cm、深さ27cmの円形である。

カマド 北壁と東壁に2基確認された。東カマドが壊され、北カマドが作られたと考えられる。北カマドは袖の一部が確認できる。煙道底面はよく焼けている。7・9層は掘方の埋め戻しである。 **出土遺物** P2周辺と壁際の底面近くで確認されている。土師器の坏1点、高台付坏4点、焼粘土塊1点、石1点を図示した。1〜3はヘラミガキ後、内面黒色処理が施される。このほか、土師器坏35点234.80g、高台付坏1点3.14g、鉢1点45.55g、甕48点544.69g、須恵器坏19点166.61g、蓋4点39.62g、甕4点80.47gが出土している。 **時期** 9世紀中葉。





第132図 E区SI-84出土遺物実測図

第79表 E区SI-84出土遺物観察表

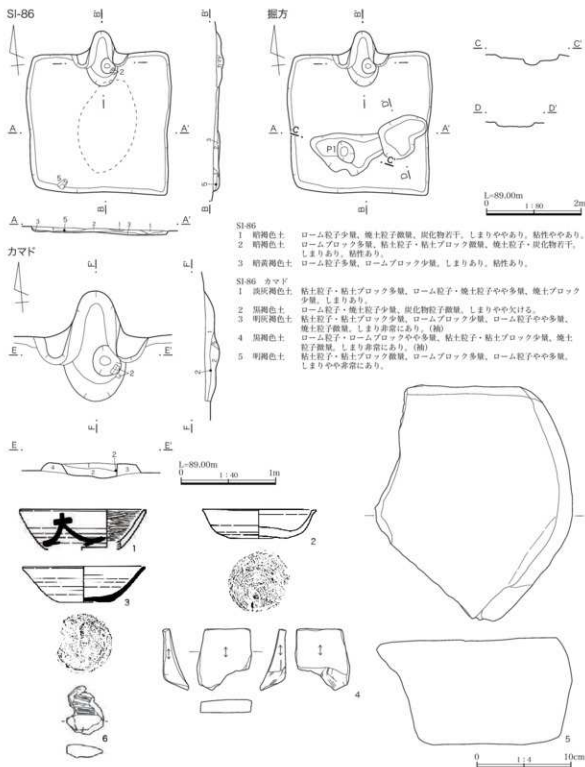
調査 No.	No.	種類 図種	寸法 計測値 (m・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
132	1	土師器 環	口径 - 底径 (7.4) 断面高 (1.9)	外面 10YR6/4 に灰・黄褐色 内面 2.5GY3/1 暗オリーブ灰	砂粒・黄褐色 若干	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部 糸切り 高台貼付	底部 1/2 残存	床土約 3cm	E区SI-84 No.4	
132	2	土師器 高台付環	口径 - 底径 8.5 断面高 (3.8)	外面 7.5YR7/6 褐色 内面 2.5GY3/1 暗オリーブ灰	砂粒・黄褐色 黄褐色	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部 糸切り 高台貼付	高台部完 存	床土約 3cm	E区SI-84 No.8	
132	3	土師器 高台付環	口径 - 底径 8.2 断面高 (4.6)	外面 7.5YR6/4 に灰・黄褐色 内面 2.5GY3/1 黒褐色	砂粒・白雲母 黄褐色	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底部 糸切り 高台貼付	体部一 部、高台 部2/3残 存	覆土中 3cm	E区SI-84 フク土南東	
132	4	土師器 高台付環	口径 - 底径 - 断面高 (1.9)	7.5YR5/4 に灰・黄褐色	砂粒・黄褐色 黄褐色	良好		ロクロナデ 体部下端 回転ヘラケズ リ 底部 糸切り後ナデ酒し 高台貼付	体部 1/4 残存、高 台部欠損	床土約 3cm	E区SI-84 No.7・8	
132	5	土師器 高台付環	口径 - 底径 9.2 断面高 (2.4)	10YR6/3 に灰・黄褐色	砂粒・黄褐色	良好		ロクロナデ 高台貼付	高台部完 存	床土約 6cm	E区SI-84 No.6	
132	6	灰石か	長 13.0 幅 8.9 厚 2326.9		砂岩		焼熟		一部残存	22内 覆土中	E区SI-84 No.1	
132	7	焼粘土塊	長 4.9 幅 4.8 厚 2.7 重 45.64							覆土中	E区SI-84 フク土北面	

E区SI-86 (第133図、第58-80表、図版三二・三三・一三三)

位置 調査区南東部にあたるAQ・AR-51・52グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 東西2.96m、南北3.00m、面積は8.88㎡の長方形で、壁は遺存状況の良い部分で12cmほどである。

主軸方向 N-5°-E 覆土 焼土粒子・炭化物・粘土・ロームを含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。床面 中央部は踏み締まった硬化面がみられる。南部に掘方が認められた。柱穴等 1基が床下で確認された。P1は長軸65cm、短軸44cm、深さ10cmの不整形円形である。カマド 北壁中央で確認された。袖は明灰褐色土と黒褐色土で構築され、壁の一部が煙道付近で残存している。焚口付近には深さ5cmほどの浅い落ち込みが存在する。出土遺物 環(2)がカマドの覆土中から出土している。土師器の

坏2点、須恵器の坏1点、焼粘土塊1点、石製品1点、石1点を図示した。1は「大」の墨書が側面に確認されている。4は泥質凝灰岩の砥石で、4面を使用している。6の焼粘土塊はササの痕跡が顕著である。このほかに土師器坏9点82.53g、甕54点770.14g、須恵器坏35点267.18g、甕4点51.69gが出土している。時期 9世紀後葉。



SI-86

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物若干。しまりややあり、粘性ややあり。
 2 暗褐色土 ロームブロック多量、粘土粒子・粘土ブロック微量、焼土粒子・炭化物若干、しまりあり、粘性あり。
 3 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりあり、粘性あり。

SI-86 カマド

- 1 淡灰褐色土 粘土粒子・粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子やや多量、焼土ブロック少量、しまりあり。
 2 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物粒子微量、しまりやや欠ける。
 3 明灰褐色土 粘土粒子・粘土ブロック少量、ロームブロック少量、ローム粒子やや多量、焼土粒子微量、しまり非常にあり。(油)
 4 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量、粘土粒子・粘土ブロック少量、焼土粒子微量、しまり非常にあり。(油)
 5 明褐色土 粘土粒子・粘土ブロック微量、ロームブロック多量、ローム粒子やや多量、しまりやや非常にあり。

第133図 E区 SI-86 遺構・出土遺物実測図

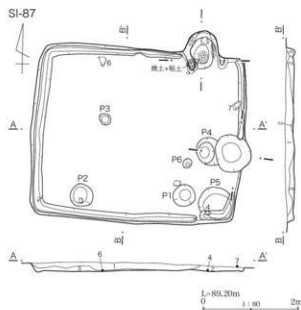
第80表 E区 SI-86 出土遺物観察表

調査 No.	No.	施設 名称	計測値 (m・cm)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
133	1	土師器 坏	口径 (13.4) 底径 - 器高 [3.2]	外面 10YR6/4 に濃い黄褐色 内面 N2/O 系	砂粒微量	良好	内面 黒色処理 筆書あり「大」 か	ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁一休 部 1/2 残 存	覆土中	E区 SI-86 南西部	
133	2	土師器 坏	口径 (12.1) 底径 6.0 器高 3.0	5YR5.6 明赤褐色	砂粒・塵埃量	良好		ロクロナデ 底部糸切り	口縁一休 部 1/4 残 存。底部 完存	カマド 内	E区 SI-86 カマド No.1	
133	3	重直器 坏	口径 (13.0) 底径 6.0 器高 3.7	5Y6/1 灰	砂粒多量、塵 少量	良好	割書あり「ハ」	ロクロ目録裡 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部一 部残存。土中	南方覆 土中	E区 SI-86	益子産
133	4	石製品 砥石	長 7.1 幅 6.2 厚 3.0 重 92.24			肥貫凝灰岩		研磨痕 4 面	一部残存	覆土中	E区 SI-86	
133	5	石 (用途不明 か)	長 27.0 幅 22.5 厚 11.3 重 102500			砂岩		焼熱	一部残存	床上前 4 cm	E区 SI-86 No.1	
133	6	焼粘土塊	長 5.2 幅 3.8 厚 1.6 重 17.28				スサの痕跡あり			カマド 付近	E区 SI-86 カマド	

E区 SI-87 (第134・135図、第58-81表、図版三三・三四・一・二三)

位置 調査区南東部にあたるAQ-52グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西4.52m、南北3.74m、面積は16.90㎡の長方形で、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N・0° **覆土** 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。

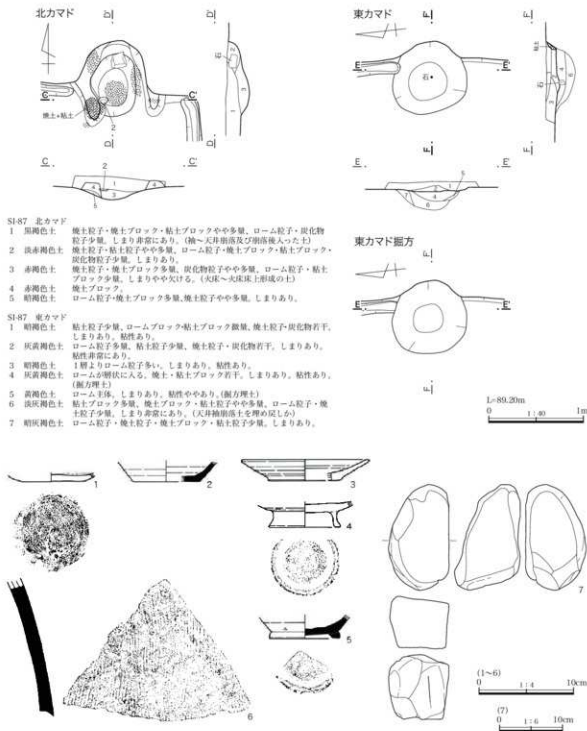
床面 若干の凹凸が認められた。カマド付近以外を全周する壁溝が確認されている。幅18～28cm、深さ2～6cmである。**柱穴等** 6基が確認された。P1は直径48cm、深さ22cmの円形、P2は直径48cm、深さ12cmの円形、P3は長軸26cm、短軸23cm、深さ9cmのほぼ円形、P4は長軸56cm、短軸残存値40cm、深さ22cmの楕円形、P5は長軸82cm、短軸74cm、深さ30cmの楕円形、P6は長軸20cm、短軸16cm、深



- SI-87
- 1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子微量。焼土粒子・炭化物若干。しまりや中穴ける。粘性やや欠ける。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック・粘土ブロック少量。ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりやや欠ける。粘性やや欠ける。

第134図 E区 SI-87 遺構実測図(1)

さ 15 cm のほぼ楕円形である。P4 と 5 は床下土坑である。カマド 北壁東隅と東壁やや南寄りの 2 基が確認された。東カマドが古く、埋め戻されている。支脚と考えられる石が竈方中央より出土した。北カマドは底面がよく焼けている。東カマドの 4 層上面が火床面である。出土遺物 土師器の環 1 点、皿 1 点、高台付付環 1 点、須恵器の環 1 点、高台付環 1 点、甕 1 点、石 1 点を図示した。7 は被熱し、一部が黒くなっている。このほかに土師器環 49 点 293.72 g、高台付環 7 点 84.56 g、蓋 3 点 38.81 g、鉢 1 点 34.77 g、甕 81 点



第 135 図 E区 SI-87 遺構(2)・出土遺物実測図

844.53 g、須臾器環30点 196.56 g、蓋3点 9.93 g、甕11点 98.35 gが出土している。時期 9世紀中葉。

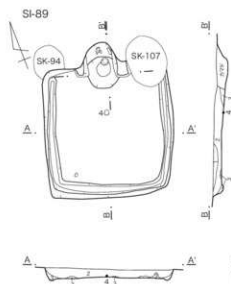
第81表 E区 SI-87 出土遺物観察表

調査No.	No.	種類 図録	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
135	1	土師器 環	口径 - 底径 7.0 器高 [0.8]	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 N2/ 黒	砂粒・金部母 若干	良好	内面 黒色処理	外面底部 回転ヘラケズ り	底部欠存	P5 内	E区 SI-87 P5	
135	2	須臾器 環	口径 - 底径 (7.2) 器高 [2.1]	外面 2.5Y5/3 黄褐 内面 7.5YR4/3 黒	砂粒微量、微・やや 黒色粒子若干	不良			体~底部 1/6 残存	P4 内	E区 SI-87 P4	磁石産
135	3	土師器 皿	口径 (13.2) 底径 (7.7) 器高 2.2	外面 7.5YR4/3 黒 内面 10YR3/1 黒	砂粒微量、金 部母若干	良好		口クロナデ	口縁~底 部 1/6 残 存	覆土中	E区 SI-87 南西区	
135	4	土師器 高台付杯	口径 - 底径 7.6 器高 [2.7]	外面 7.5YR7/6 に赤い黄褐色 内面 N2/0 黒	砂粒少量、黒 色粒子若干	良好	内面 黒色処理	口クロナデ 体部下端 回転ヘラケズ り 内面 ヘラミゴキ 底部 糸切り後ナデ消し 高台貼付	高台部一 部欠損	P5 上層	E区 SI-87 No.6	
135	5	須臾器 高台付杯	口径 - 底径 (7.4) 器高 [2.5]	2.5Y7/1 灰白	砂粒微量	良好		高台貼付	底~高台 部 1/4 残 存	覆土中	E区 SI-87 フク土一括	大雑産か
135	6	須臾器 甕	口径 - 底径 - 器高 [14.6]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 7.5YR4/2 灰褐	砂粒多量、礫 少量	良好		胴部外面 平行タタキ	胴部一部 残存	床面直 上	E区 SI-87 No.2	産地不明
135	7	石 (用途不明)	長 18.1 幅 10.4 厚 11.3 重 2678.6		安山岩		焼熟 一部黒くなる		一部欠損	床1約 10 cm	E区 SI-87 No.1	

E区 SI-89 (第136-137図、第58-82表、図版三四・一一四)

位置 調査区南東部にあたるAR-52グリッドに位置する。重複関係 SK-107より古く、SK-94より新しい。

平面形状・規模 東西2.72m、南北2.78m、面積は7.56㎡の方形で、壁は遺存状況の良い部分で28cmほどである。軸方向 N-18°-E 覆土 焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。床面 若干の凹凸が認められた。壁溝は北壁以外に確認され、幅16~24cm、深さ2~4cmである。

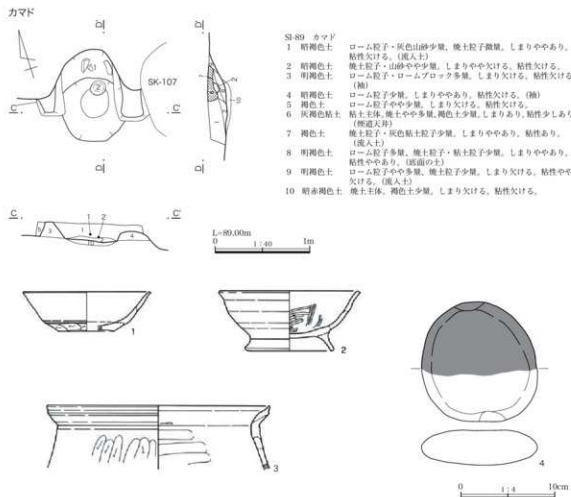


SI-89

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・焼土ブロック・粘土粒子・粘土ブロック少量、炭化物若干、しまりや中欠ける。粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物若干、しまりあり、粘性ややあり。
- 3 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりややあり、粘性あり。

第136図 E区 SI-89 遺構実測図(1)

柱穴等 確認されていない。カマド 北壁中央に確認された。3・4層は袖、6層は煙道の天井部であり、煙道には石が確認されている。出土遺物 土師器の坏1点、高台付坏1点、甕1点、石1点を図示した。4は半分が被熱し、半分に割れていた。このほかに土師器坏6点42.23g、甕30点679.57g、須恵器坏7点31.92g、高台付坏1点42.42g、甕2点34.96gが出土している。時期 9世紀後葉。



第137図 E区 SI-89 遺構(2)・出土遺物実測図

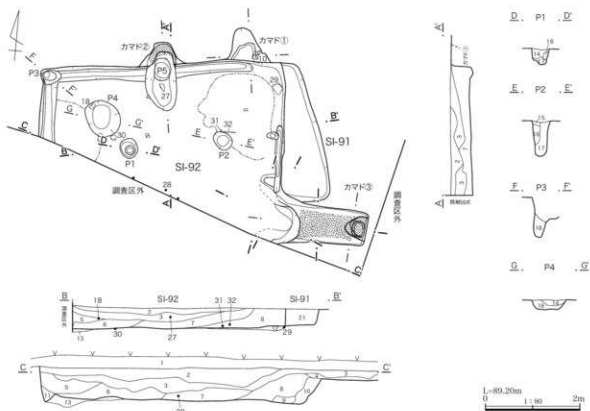
第82表 E区 SI-89 出土遺物観察表

調査 No.	No.	追加 図録	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	産成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
137	1	土師器 坏	口径(13.5) 底径(5.8) 器高 4.2	外面 7.5YR6/6 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒・白雲母 少量	良好		ロウロナデ 体部下端ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	口縁部一 内 底部1/4 残存	カマド 内	E区 SI-89 カマド No.3	
137	2	土師器 高台付坏	口径 14.9 底径 9.4 器高 6.4	10YR5/3 にふい黄褐色	砂粒・雜少量	良好	内面 黑色透視	ロウロナデ 内面ヘラミ母 体部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	口縁部一 部欠損	カマド 内	E区 SI-89 カマド No.1	
137	3	土師器 甕	口径(23.6) 底径 器高(6.8)	外面 10YR4/3 にふい黄褐色 内面 7.5YR5/4 にふい赤褐色	砂粒少量	良好		口縁部 口ロナデ 胴部内面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁部一 部1/6残 存	カマド 内	E区 SI-89 カマド	
137	4	石 (用途不明)	長 13.7 幅 13.3 厚 4.0 重 1064.2		安山岩		被熱		完存	灰面直 上	E区 SI-89 No.2	磨石転用 か

E区 SI-91・92 (第138-143図, 第58-83表, 図版三四～三七・一二四・一四九)

位置 調査区南東部にあたる AR-52・53 グリッドに位置する。重複関係 SI-91 と 92 の新旧は確認できなかった。SI-91 は7層と21層は同質の土であり、SI-91 と 92 の立ち上りのラインは不明瞭であることから、92 の棚状遺構の可能性も考えられる。 **平面形状・規模** 長方形を基調とした竪穴建物跡の一部とみられる。SI-91 とした部分は長軸3.00m、短軸0.74m以上で、壁は遺存状況の良い部分で34cmほどである。SI-92 は長軸5.18m、残存部短軸3.52mで、壁は他の建物跡と比べて深く、遺存状況の良い部分で48cmほどである。

主軸方向 91 は N-20°-W、SI-92 は N-90°-E **覆土** 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。 **床面** ローム面を床面にしている。北東隅以外に幅12～28cm、深さ4～16cmの壁溝が確認されている。北東部と南西部に掘方が認められた。 **柱穴等** 5基が確認された。P1と2が住居に伴う柱穴と考えられる。P1は長軸41cm、短軸36cm、深さ37cm、P2は長軸40cm、短軸34cm、深さ76cm、P3は長軸40cm、短軸30cm、深さ38cm、P4は長軸75cm、短軸65cm、深さ18cm、P5は長軸82cm、短軸32cm、深さ31cmである。P3とP5は壁柱穴、P4は床下土坑の可能性も考えら



SI-91・92

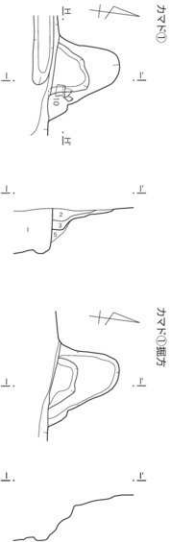
- | | | | |
|----------|---|----------|---|
| 1 表土 | 耕作土 | 12 黄褐色土 | ローム主体、しまり非常にあり、粘性非常にあり。(掘方) |
| 2 暗褐色土 | ローム粒子少量、白色粒子・焼土粒子・炭質、炭化物若干、しまりあり、粘性ややあり。 | 13 暗茶褐色土 | ローム粒子・ロームブロック主体、黒褐色土少量、焼土粒子若干、しまりあり、粘性あり。(掘方埋土) |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子少量(1層より多い)、しまりあり、粘性ややあり。 | 14 暗褐色土 | ローム粒子少量、焼土粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりやや欠ける、粘性ややあり。 |
| 4 暗褐色土 | 1層に黒褐色土が少量入る、しまりやや欠ける、粘性ややあり。 | 15 暗褐色土 | 2層よりしまりあり、粘性ややあり。 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、焼土・炭化物偏集、しまりやや欠ける、粘性ややあり。 | 16 暗褐色土 | ローム粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。 |
| 6 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量(4層より少ない)、しまりあり、粘性あり。 | 17 黄褐色土 | ローム主体、しまりに欠ける、粘性ややあり。 |
| 7 暗褐色土 | 2層に粘土粒子少量入る、しまりあり、粘性あり。 | 18 暗褐色土 | ローム・黒褐色土主体、しまりあり、粘性ややあり。 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、焼土粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。 | 19 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量、焼土粒子若干、しまりやや欠ける、粘性ややあり。 |
| 9 黄褐色土 | カマド③の4層に対応。(カマド跡) | 20 暗黄褐色土 | ロームブロック多量、焼土ブロック若干、しまりややあり、粘性やや非常にあり。 |
| 10 黄茶褐色土 | カマド③の5層に対応。(カマド跡) | 21 暗褐色土 | 7層とほぼ同じ。 |
| 11 黄褐色土 | ロームブロック多量、ローム粒子偏集、しまりやや欠ける、粘性やや欠ける。(壁溝) | | |

第138図 E区 SI-91・92 遺構実測図(1)

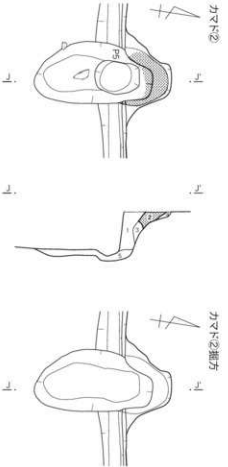
れる。カマド 北壁中央(カマド①)と東寄り(カマド②)に2基、東壁(カマド③)に1基が確認されている。東カマドが廃築時まで使用されていたと判断される。カマド①は煙道のみ遺存する。カマド②は天井・袖の構架材が一部遺存する。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。カマド③はよく焼けている石積みカマドである。長方形に掘方を掘削した後、10～50cmのチャートを利用して石積みし、隙間等を粘土で充填している。煙道先端部は垂直に立ち上がり、土山状になっていたと推測され、この部分は細かいチャートを利用している。

出土遺物 土師器の坏2点、甕9点、須恵器の坏4点、高台付甕1点、甕1点、甕8点、瓦2点、石2点、鉄製品2点を図示した。このほか、SI-91で図示できる遺物はないが、土師器甕4点17.37g、須恵器坏2点16.46g、甕1点46.36gが、SI-91から土師器坏4点25.06g、高台付坏1点3.06g、鉢1点10.13g、甕4点145.63g、甕482点6297.16g、須恵器坏99点692.51g、高台付坏2点1.46g、蓋7点52.26g、甕1点40.87g、甕1点68.77g、甕23点575.48g、瓦1点20.63gが出土している。

時期 9世紀前半。



SI02 カマド①
 1 須恵器土 瓦片多量、土山状あり、焼物や灰あり。(須恵器)
 2 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 3 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 4 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 5 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。

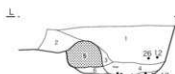
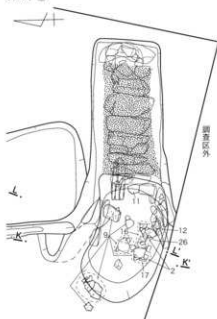


SI02 カマド②
 1 須恵器土 瓦片多量、土山状あり、焼物や灰あり。(須恵器)
 2 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 3 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 4 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。
 5 須恵器土 焼土・高台瓦片多量、灰付物多量、土山状あり、焼物や灰付。

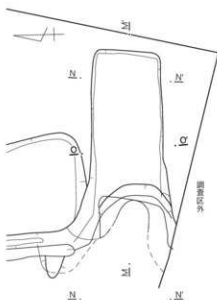


第139図 E区SI-91・92遺構実測図(2)

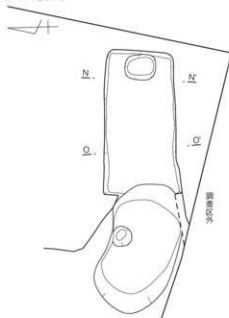
カマド③



- SI-92 カマド③ K-K'・L-L'
- | | |
|---------|---|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒子少量、粘土粒子微量、炭化物若干、しまりあり、粘性あり、ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物若干、しまりあり、粘性ややあり。 |
| 2 黄褐色土 | 1層より粘土が多い、しまりあり、粘性非常にあり。 |
| 3 明茶褐色土 | 粘土ブロック多量、焼土微量、しまりややあり、粘性あり。 |
| 4 黒褐色土 | 粘土ブロック多量、焼土微量、しまりややあり、粘性あり。 |
| 5 黄茶褐色土 | 粘土層。 |
| 6 黒褐色土 | 粘土ブロック多量、焼土微量、しまりややあり、粘性あり、(4層より黒褐色土多い)。 |
| 7 赤褐色土 | 焼土層、粘土少量、しまりあり、粘性欠ける。(火床) |



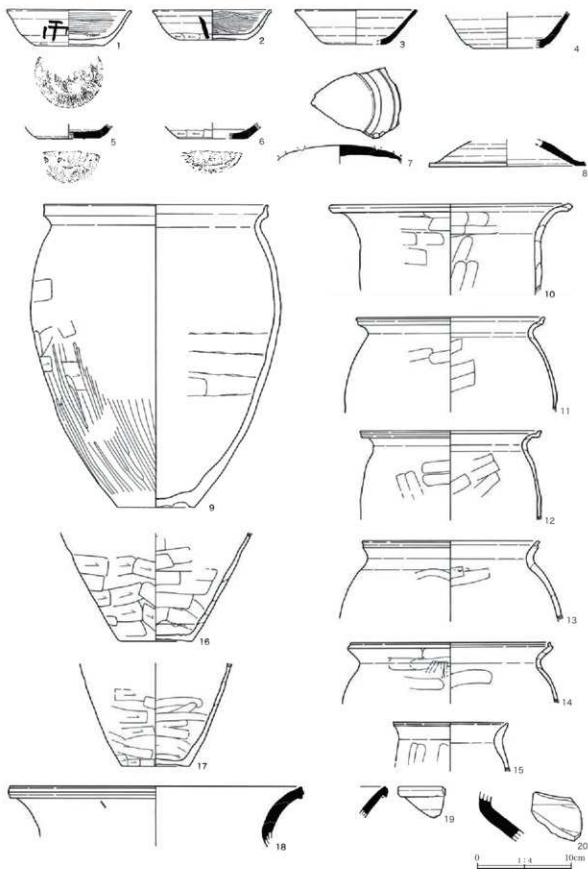
カマド③掘方



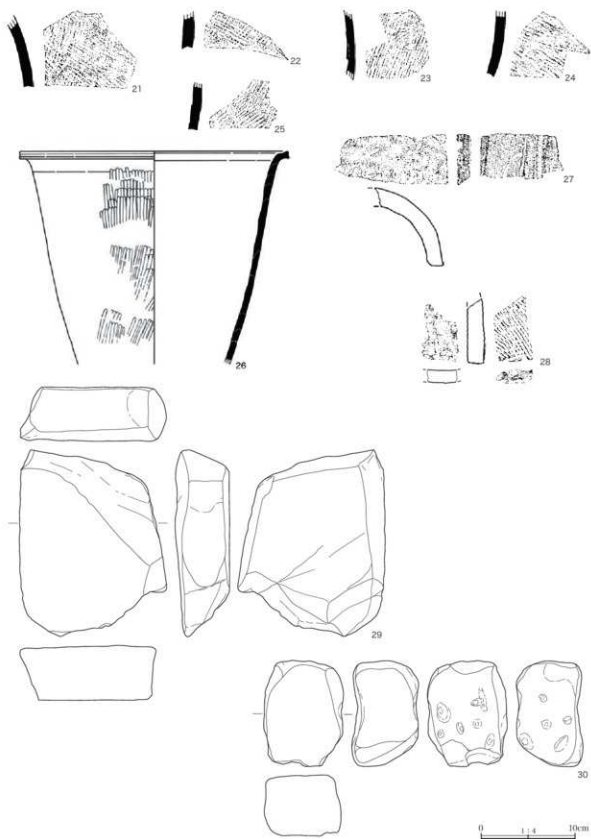
L=89.20m
0 1:40 1m

- SI-92 カマド③ N-N'
- | | |
|---------------------------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子少量、しまり欠ける、粘性やや欠ける。(流入土) |
| SI-92 カマド③ 掘道部分 O-O'・P-P' | |
| 1 暗褐色土 | ローム粒子少量、白色粒子・焼土粒子・微量、炭化物若干、しまりあり、粘性ややあり。(掘方埋土) |
| 2 赤褐色土 | 白色粘土の焼けたもの、しまりあり、粘性非常にあり。(掘方埋土) |

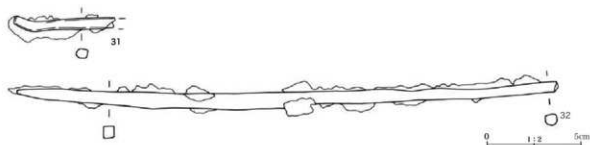
第140図 E区SI-91・92遺構(カマド)実測図(3)



第141图 E区SI-92出土文物实测图(1)



第142图 E区SI-92出土遗物实测图(2)



第143図 E区 SI-92 出土遺物実測図(3)

第83表 E区 SI-92 出土遺物観察表

探検 缶	No.	植物 図柄	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の形態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
141	1	土師器 環	口径 13.2 底径 7.1 器高 3.8	外面 2.5YR5/8 明赤褐色 内面 N2/O 黒	砂粒多量	良好	内面 黒色地埋 遺物あり「市」 か個人文字「入」	ロクロナデ 内面ヘラミガキ 体部下端 回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	1/6欠損	カマド ②内	E区 SI-92 カマド 2・ 北西部	
141	2	土師器 環	口径 (12.5) 底径 (7.0) 器高 (3.2)	外面 7.5YR6/6 暗赤褐色 内面 2.5Y3/1 黒褐色	砂粒多量	良好	内面 黒色地埋 遺物あり	ロクロナデ 内面ヘラミガキ 体部下端 回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	口縁部 1/4 残存	カマド ②内	E区 SI-92 No.6 カマド 3・No.7 カ マド 3	
141	3	赤土器 環	口径 (12.9) 底径 (6.1) 器高 (3.7)	外面 2.5Y5/2 暗赤褐色 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒多量	良好		ロクロナデ 内面ヘラミガキ 体部下端 回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	口縁部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-92 北東部	磁子産
141	4	赤土器 環	口径 - 底径 (7.3) 器高 (3.8)	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/2 暗赤褐色	砂粒・礫少量	良好		ロクロナデ	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SI-92 北西部	磁子産
141	5	赤土器 環	口径 - 底径 (6.7) 器高 (1.5)	5Y6/1 灰	砂粒少量・礫 微量	良好		底部ヘラ切り趣ナデ	底部 1/2 残存	覆土中	E区 SI-92 南へ5ト申	磁子産
141	6	赤土器 環	口径 - 底径 (7.4) 器高 (1.7)	5Y5/1 灰	砂粒多量・礫 微量	良好		体部下端 手持ヘラケ ズリ 底部ヘラ切り趣ナデ	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SI-92 北西部	磁子産
141	7	赤土器 高台付環	口径 - 底径 (9.1) 器高 (2.0)	2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量	良好	内面 黒痕あり		底部 1/4 残存	覆土中	E区 SI-92 南東部	産地不明 転用環
141	8	赤土器 蓋	口径 (16.6) 底径 - 器高 (2.7)	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 5Y5/2 灰オリーブ	砂粒多量・礫 少量	良好		ロクロナデ	口縁部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-92 南へ5ト申・ 南東部	磁子産
141	9	土師器 蓋	口径 (23.7) 底径 8.1 器高 32.2	7.5YR7/6 暗赤褐色	砂粒・白少量 多量・礫少量	良好		口縁部ヨコナデ 製部外面上下ナデ 下半ヘラケズリ 蓋~底部内面ナデ 底部外面ヘラミガキ 組織痕あり	口縁部 ③内 残存・割 壊 破片 遺存	カマド ③内	E区 SI-92 No.7 カマド 3・ No.8 カマド 3・ No.10 カマド 3・ No.11 カマド 3・ No.12 カマド 3・ No.13 カマド 3・ カマド 3	
141	10	土師器 蓋	口径 (25.9) 底径 - 器高 (9.7)	外面 7.5YR5/4 に赤・赤褐色 内面 5YR4/6 赤褐色	砂粒・礫多量	良好		口縁部ヨコナデ 製部ナデ	口縁部 1/12 残 存	カマド ③内	E区 SI-92 No.1 カマド 1	
141	11	土師器 蓋	口径 (20.0) 底径 - 器高 (10.1)	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・礫多量	良好		口縁部ヨコナデ 製部外面ナデ 内面ヘラナデ	口縁部 1/4 残存	カマド ③内	E区 SI-92 No.1 カマド 1 No.2 カマド 1 No.3 カマド 1	
141	12	土師器 蓋	口径 (19.2) 底径 - 器高 (9.5)	外面 7.5YR7/6 暗赤褐色 内面 7.5YR5/4 に赤・暗	砂粒・礫少量 透明粒子微量	良好		口縁部ヨコナデ 製部ナデ	口縁部 1/6 残存	カマド ③内	E区 SI-92 No.4 カマド 3	
141	13	土師器 蓋	口径 (18.8) 底径 - 器高 (8.6)	2.5YR6/8 暗赤褐色	砂粒・礫多量 白少量微量	良好		口縁部ヨコナデ 製部外面ナデ 内面ナデ	口縁部 1/6 残存	結床中	E区 SI-92 床下一括	
141	14	土師器 蓋	口径 (21.0) 底径 - 器高 (6.4)	10YR4/2 灰黄褐色	砂粒・礫・白 少量多量	良好		口縁部ヨコナデ 製部ナデ	口縁部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-92 南東部	
141	15	土師器 蓋	口径 (12.2) 底径 - 器高 (5.2)	7.5YR5/4 に赤・暗	砂粒少量・白 少量微量	良好		口縁部ヨコナデ 製部ナデ	口縁部 1/6 残存	覆土中	E区 SI-92 床下一括・ 北東部・東 へ5ト申・ カマド 2 内・ a 裏	

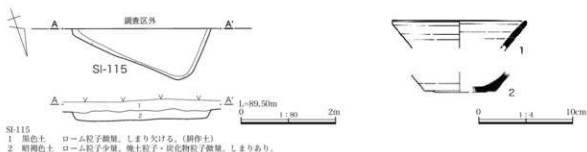
141	16	土師器 裏	口径 - 底径 7.8 器高 [11.5]	10YR6/4 にふい・黄褐色	砂粒・礫多量	良好	外面ヘラケズリ 内面ナデ	胴下半部 残存	カマド 3内	E区 SI-92 No.6 カマド 3・カマド3 煙道中	
141	17	土師器 裏	口径 - 底径 7.2 器高 [11.0]	外面 7.5YR5/4 にふい・暗 褐色 内面 10YR3/2 暗褐色	砂粒・礫多量 透明胎子微量	良好	外面ヘラケズリ 内面ナデ	胴下部 1/4 残 存、底部 充存	カマド 3内	E区 SI-92 No.7 カマド 3	
141	18	東夷器 裏	口径 (31.2) 底径 - 器高 [6.4]	5Y6/1 灰	砂粒・礫少量	良好	ロクロナデ	口縁部 1/4 残存	灰土約 20cm	E区 SI-92 No.10	磁子産
141	19	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [3.3]	外面 5Y4/1 内面 2.5Y6/4 にふい・黄	砂粒・礫少量	良好	自然脱臼器	ロクロナデ	口縁部 一部残存	E区 SI-92 No.4上	産地不明
141	20	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [5.3]	外面 2.5YR5/1 赤灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒少量、礫 若干	良好		ナデか	胴部一部 残存	E区 SI-92 C集	磁子産
142	21	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [7.7]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒多量	良好	胴部外面 平行タタキ 内面 当貝敷か	胴部一部 残存	貼床中	E区 SI-92 貼床中一拵	磁子産
142	22	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [3.8]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 7.5Y6/1 灰	砂粒多量	良好	胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一部 残存	E区 SI-92 北西部		磁子産
142	23	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [7.3]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 10YR6/3 にふい・黄褐色	砂粒少量、黒 色胎子微量	やや 不良	胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一部 残存	E区 SI-92 北西部		磁子産
142	24	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [6.8]	外面 10YR6/2 灰黄 内面 2.5Y5/2 暗褐色	砂粒多量、礫・ 黒色胎子少量	良好	胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	胴部一部 残存	E区 SI-92 南東部		磁子産
142	25	東夷器 裏	口径 - 底径 - 器高 [5.1]	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 10YR7/4 にふい・黄褐色	砂粒微量	良好	胴部外面 平行タタキ 内面 当貝敷	胴部一部 残存	E区 SI-92 北西部		産地不明
142	26	東夷器 裏	口径 (28.6) 底径 [22.6]	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒・礫少量 白雲母多量	やや 不良	胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ	口縁部 1/3、胴 部 1/8 残 存	カマド 3内	E区 SI-92 No.5 カマド 3・南東部・ 煙道内	新治産
142	27	明瓦	厚 1.9 重 160.67	外面 7.5YR5/4 にふい・暗 褐色 内面 7.5YR6/6 暗褐色	砂粒多量、礫 微量	良好	凸面 タテヘラケズリ 凹面 布目織、磁子デ 胴面 ヘラケズリ、面取	一部残存	灰土約 32cm	E区 SI-92 No.5	
142	28	瓦丸か	厚 1.8 重 66.73	2.5Y5/2 暗黄灰	砂粒微量	良好	凸面 平行タタキ 凹面 ナデ 胴面 ヘラケズリ、面取	一部残存	灰土約 9cm	E区 SI-92 No.12	
142	29	石 (用途不明)	径 21.6 幅 16.8 厚 6.2 重 3478.2		砂岩			ほぼ完存	灰面直上	E区 SI-92 No.4	
142	30	カマド 構築材か	径 12.1 幅 9.1 厚 7.7 重 860.59		安山岩	粗熟か		一部残存	灰面直上	E区 SI-92 No.8	石皿兼凹石 転用
143	31	鉄製品 不明	径 [5.36] 幅 0.61 厚 0.60 重 6.55					一部残存	灰土約 3cm	E区 SI-92 No.1	
143	32	鉄製品 不明	径 [28.60] 幅 0.91 厚 0.61 重 59.39					一部欠損 か	灰土約 6cm	E区 SI-92 No.1	

E区 SI-115 (第144図、第58-84表、図版三八)

位置 調査区南東部にあたる AQ-52 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 遺構の大半が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡の北西隅部分とみられる。東西 2.40m 以上、南北 1.14m 以上。壁は遺存状況の良い部分で 22cm ほどである。 **主軸方向** N-40° - E

覆土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。 **床面** 平坦ではなく、凹凸が認められるが、貼床や硬化面は確認されていない。 **柱穴等・カマド** 確認されなかった。

出土遺物 須恵器の環 2 点を図示した。焼きの悪い須恵器である。このほか、須恵器環 7 点 18.01g、甕 8 点 52.72g が出土している。 **時期** 9 世紀前半。



第144図 E区 SI-115 遺構・出土遺物実測図

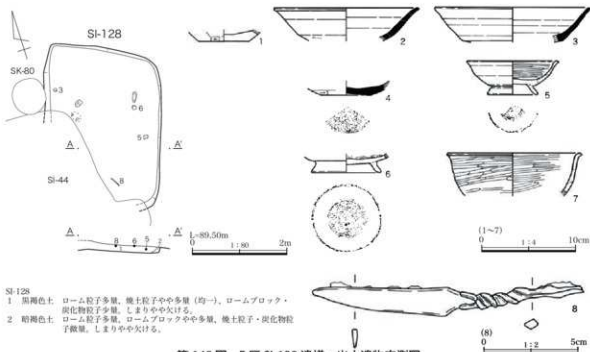
第84表 E区 SI-115 出土遺物観察表

探検 No.	種別 器物	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	完成	器面の状態	器形・器形の特徵	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
144 1	須恵器 杯	口径 (14.2) 底径 器高 [2.9]	10YR7/3 にぶ・黄褐色	砂粒少量	不良		口テラ目縁著	口縁部 1/6 現存	覆土中	E区 SI-115	磁子産
144 2	須恵器 杯	口径 底径 (7.6) 器高 [2.0]	2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量	良好			体一底部 1/8 現存	覆土中	E区 SI-115	磁子産

E区 SI-128 (第145図、58・85表、図版二四・三八・一四九)

位置 調査区中央部にあたる AO-51 グリッドに位置する。重複関係 SI-44、SK-80 と重複し、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 東西 2.46m、南北 3.0m 以上の長方形で、壁は残存状況の良い部分で 16cm ほどである。 **主軸方向** N-21° - E **覆土** ローム粒子や焼土粒子を多く含む黒褐色土とロームを多く含む暗褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。 **床面** 凹凸が認められた。貼床や硬化面は確認されていない。

柱穴等・カマド 確認できなかった。 **出土遺物** 土師器の杯 1 点、高台付杯 2 点、碗 1 点、須恵器の杯 3 点、鉄製品 1 点を図示した。このほか、土師器杯 3 点 5.52g、糞 17 点 166.01g、須恵器杯 16 点 128.98 g が出土している。 **時期** 9 世紀前半葉。



第145図 E区 SI-128 遺構・出土遺物実測図

SI-128
1 黒褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子やや多量 (均一)、ロームブロック・炭化物粒子少量、しまりやや欠ける。
2 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、焼土粒子・炭化物粒子少量、しまりやや欠ける。

第85表 E区 SI-128 出土遺物観察表

探穴No.	No.	地層 図層	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
145	1	土師器 環	口径 底径 器高 [1.2]	外面 7.5YR5/4 にふいぬ 内面 7.5YR4/2 灰黄	砂粒少量、赤 色粒子若干	良好		底部下縁ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	底面 1/2 残存	覆土中	E区 SI-128 北側	
145	2	須恵器 環	口径 (15.3) 底径 器高 [3.5]	外面 7.5YR6/4 にふいぬ 内面 10YR5/2 灰黄	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 底部 回転ヘラケズリ	口縁部 1/12 残 存	覆土中	E区 SI-128 南側	産地不明
145	3	須恵器 環	口径 (16.5) 底径 器高 [3.7]	2.5Y7/2 灰黄	砂粒少量、赤 色粒子若干	やや 不良		ロクロナデ	口縁部 1/6 残存	床土約 7cm	E区 SI-128 No.7	葦子産
145	4	須恵器 環	口径 底径 (5.4) 器高 [1.5]	2.5Y5/2 暗黄灰	砂粒少量	良好		底部下縁 回転ヘラケズ リ	底面 1/4 残存	覆土中	E区 SI-128 北側	葦子産
145	5	土師器 高台付環	口径 (9.7) 底径 (5.4) 器高 3.6	外面 7.5YR5/4 にふいぬ 内面 5GY3/2 暗オリーブ 灰	砂粒少量、白 雲母少量	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 糸切り 高台付	1/2 残存	床土約 8cm	E区 SI-128 No.2	
145	6	土師器 高台付環	口径 底径 7.4 器高 2.0	外面 10YR7/3 にふいぬ 内面 2.5GY2/1 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	ロクロナデ 底部 糸切り後ナデ消 し	底部完存	床土約 12cm	E区 SI-128 No.3	
145	7	土師器 環	口径 (14.3) 底径 器高 [4.5]	外面 10YR7/3 にふいぬ 内面 10YR3/1 黒	砂粒少量、黒 色粒子若干	良好	内面 黒色処理	ヘラミガキ	口縁部 1/12 残 存	覆土中	E区 SI-128 北側	
145	8	鉄製品 刀子	長 [14.24] 幅 1.45 厚 0.52 重 18.45					革はぬじられている	ほぼ完存 か	床土約 10cm	E区 SI-128 No.1	

2 掘立柱建物跡

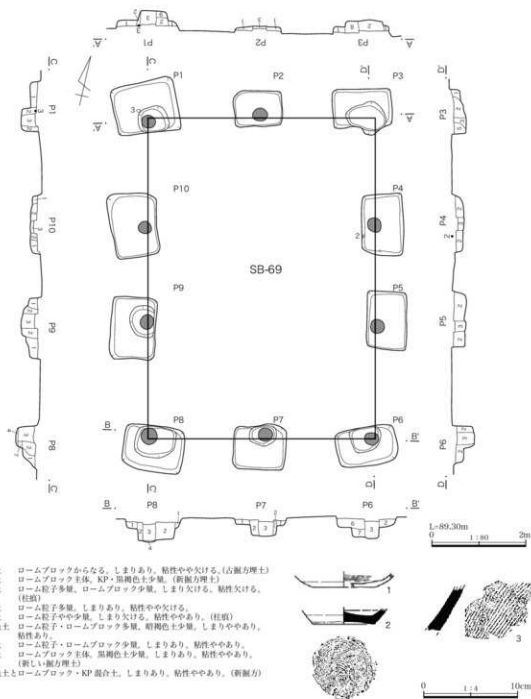
台地上に東西棟1棟、南北棟3棟が確認されている。遺構確認時、掘立柱建物と認識できず、調査段階で判明したものもあり、土層断面等の記録が不十分なものもある。

第86表 E区 掘立柱建物跡計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	ビット	出土 遺物	重複関係
SB-69	SB-69	AK-49・50	N-13°-W	南北棟	6.80	4.80	0.15～0.5	10	有	
SB-139	-	AN-49・49・50	N-5°-E	東西棟	6.40	4.00	0.4～0.6	10	有	SD-1・3、SK-141・154より 古 SK-159より新 P.70・71と重複
SB-183	-	AM-49・50	N-2°-E	南北棟	7.10	4.60	0.2～0.6	10	有	SK-19より古 SI-4・9・12・15、SK-19・ 40・166・167、P.23と重複
SB-185	-	AP-51・52	N-2°-E	南北棟	6.30	3.80	0.36～0.85	10	有	SK-155と重複

E区 SB-69 (第146図、第86-87表、図版三八・三九)

位置 調査区南西部にあたるAK-49・50グリッドに位置する。**重複関係** なし。本遺構自体は同一地点において一度建て替えを行っている。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の側柱建物跡である。桁行6.8m、梁行4.8m、平面積32.64㎡である。柱間距離は桁行、梁行ともに2.0m～2.3mである。**主軸方向** 桁行の示す軸方向はN-13°-W **覆土** 柱痕跡(3・5層)と新掘方埋土(2・6・8・9層)・古掘方埋土(1・4・7層)に分別される。**柱穴** 柱穴掘方の形状は長方形である。長さ100～130cm、深さ15～50cmほどである。P3以外の柱穴から柱痕跡が確認されており、平面形は円形で直径24～36cmほどである。**出土遺物** 土師器環1点と須恵器の環1点、甕1点を図示した。このほかに土師器環1点2.73g、須恵器蓋1点21.77gが出土している。**時期** 9世紀中葉。



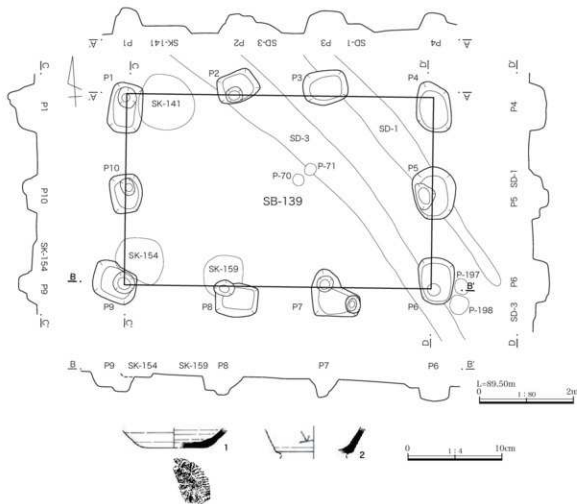
第146図 E区SB-69遺構・出土遺物実測図

第87表 E区SB-69出土遺物観察表

探検 No	No	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
146	1	土師器 坏	口径 - 底径 (7.0) 器高 [1.4]	外面 5YR4/4 内面 5YR4/3 底	金雲母少量、 赤色粘土若干	良好		口クロナ字 内面ナ字 底部ヘラケズリ	底部1/4 残存	覆土中 No.1	E区SB-69	茨城産
146	2	黒土器 坏	口径 - 底径 6.8 器高 [1.7]	外面 7.5YR6/6 内面 7.5YR7/6 底	砂粒・礫少量	良好		口クロナ字 底部糸切り	底部完全 残存	覆土上 No.2	E区SB-69	磁子産
146	3	黒土器 甕	口径 - 底径 - 器高 [5.0]	5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好		胴部外面 平行タタキ	胴部一部 残存	覆土上 No.3	E区SB-69	産地不明

E区 SB-139 (第147図、第86-88表、図版三九・四〇・一二四)

位置 調査区中央にあたる AN・AO-49・50 グリッドに位置する。**重複関係** SD-1・3、SK-141・154 より古く、SK-159 より新しい。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される。東西棟の側柱建物跡で、桁行6.4m、梁行4.0m、平面積26.4㎡である。柱間距離は桁行、梁行ともに2.1～2.3mである。**主軸方向** 桁行の示す軸方向はN-5°-E **柱穴** 柱穴掘方の形状は隅丸長方形基調である。一辺0.8～1.1m、深さ40～60cmほどである。**覆土** 断面図の記録を示せないが、柱痕跡(黒褐色土)と柱穴掘方埋土(灰褐色土)に分別される。**出土遺物** 須恵器環1点、高台付環1点を図示した。このほかに土師器環8点63.50g、高台付環2点21.30g、甗1点21.70g、甗2点132.57g、須恵器環13点57.38g、蓋2点7.88g、甗3点39.22gが出土している。**時期** 9世紀前葉か。



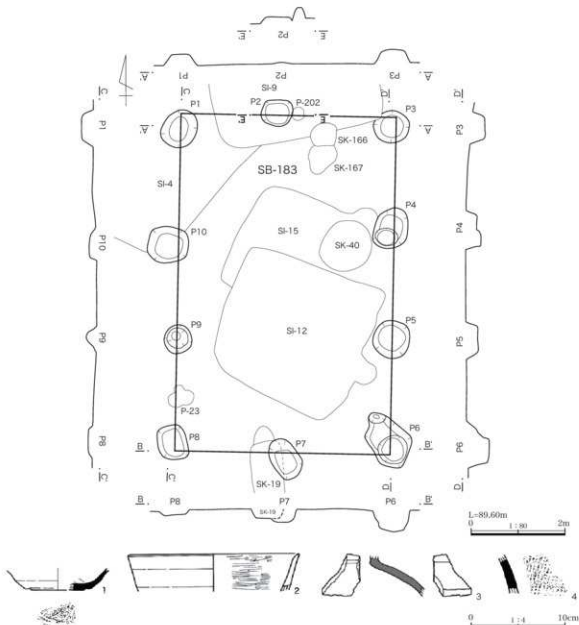
第147図 E区 SB-139 遺構・出土遺物実測図

第88表 E区 SB-139 出土遺物観察表

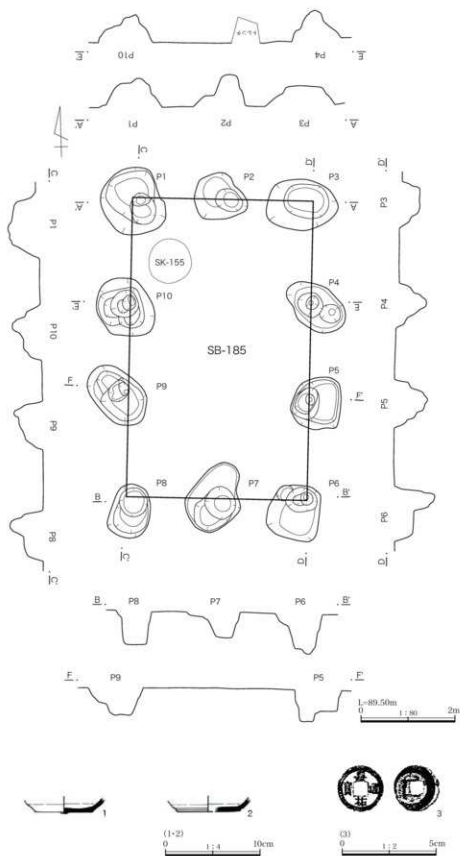
状況 No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
147	1	須恵器 環	口径 - 底径 (7.5) 高さ (1.9)	外面 10YR3/1 黒地 内面 10YR4/1 暗灰	砂粒少量、礫 石子	良好	割唐あり「-」 へらの木目が顯著	底部 1/4 残存	P4内	E区 SB-139 P4	菓子産
147	2	須恵器 高台付環	口径 - 底径 (8.2) 高さ (2.2)	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒少量、黒 色粘土少量	良好	割唐あり「大」 か	底部一部 残存、高 台部分欠損	P2内	E区 SB-139 P2	菓子産

E区 SB-183 (第148図、第86-89表、図版四〇・四一)

位置 調査区中央にあたるAM-49・50グリッドに位置する。**重複関係** SI-4・9・12・15、SK-19・40・166・167、P-23と重複しており、SK-19より古く、他との新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される。南北棟の側柱建物跡で、桁行7.1m、梁行4.6m、平面積32.66㎡である。柱間距離は桁行、梁行ともに2.0～2.5mで、ややばらつきがある。**主軸方向** 桁行の示す方向はN-2°-E **覆土** 断面図の記録を示せないが、柱痕跡(黒褐色土)、柱穴掘方埋土(暗灰褐色土・暗褐色土)に分別される。**柱穴** 柱穴掘方の形状は不整形長方形または楕円形である。長軸0.6～1.2m、深さ20～60cmほどである。**出土遺物** 土師器の鉢1点、須恵器の環1点、甕1点、陶器壺1点を図示した。このほかに土師器環3点21.28g、甕14点93.98g、須恵器環7点40.63g、甕1点18.97gが出土している。**時期** 9世紀後半～10世紀後半の間。



第148図 E区SB-183遺構・出土遺物実測図



第149図 E区SB-185遺構・出土遺物実測図

第89表 E区 SB-183 出土遺物観察表

図号	No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
148	1	須恵器 坏	口径 - 底径 (7.0) 器高 (2.3)	7.5Y4/1 灰	砂粒・礫多量	良好		ロクロ目圓筒 底部へつ切り残ナデ	体へ底部 一部残存	覆土中	E区 SK-14 一括	
148	2	土師器 鉢	口径 (18.0) 底径 器高 [4.4]	外面 7.5YR5/4 に少し 内面 N2/O 黒	砂粒・礫・白 色粒子微量	良好	内面 黑色 塗	外面 ロクロナデ 内面へつミガキ	口縁部 1/2 残 存	覆土中	E区 SK-20 フタ土一括	
148	3	陶器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [4.5]	内面 10YR7/1 灰白 輪 5Y6/2 灰オリーブ	礫微量、黒色 粒子若干	良好	灰輪		頸へ体部 一部残存	覆土中	E区 SK-8	編入産か
148	4	須恵器 蓋か	口径 - 底径 - 器高 [4.1]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 7.5YR5/2 灰黒	砂粒・礫少量	良好		胴部外面 平行タタキか	胴部一部 残存	覆土中	E区 SK-20 一括	産地不明

E区 SB-185 (第149図、第86-90表、図版四〇・一四九)

位置 調査区南東部にあたる AP-51・52 グリッドに位置する。**重複関係** SK-155 と重複しているが、新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 桁行3間、梁行2間、10基の柱穴で構成される南北棟の副柱建物跡で、桁行6.3m、梁行3.8m、平面積23.94㎡である。柱間距離は桁行では1.8～2.2mとばらつきがある。**主軸方向** 桁行が示す方位はN-2°-E **覆土** 断面図の記録を示せないが、抜き取り痕跡(暗褐色土・暗茶褐色土)と柱穴掘方埋土(黄褐色土・暗褐色土)に分別される。**柱穴** 柱穴掘方の形状は不整な楕円形となっている。長軸1.1～1.5m、深さ56～85cmほどである。柱痕のあたりや柱穴掘方の様相などから同一地点において建て替えを行ったものとみられる。柱痕跡はP3で確認され、直径25cmほどである。

出土遺物 須恵器坏2点、銅銭1点を図示した。このほかに土師器坏10点37.57g、高台付坏1点12.34g、甕14点132.53g、須恵器坏9点56.21g、蓋2点10.36g、鉢1点20.21g、帯2点91.76g、甕7点212.70g、瓦1点23.59gが出土している。**時期** 9世紀後葉か。

第90表 E区 SB-185 出土遺物観察表

図号	No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
149	1	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.1) 器高 (1.5)	2.5Y5/1 灰黄	砂粒・黒色粒 子微量、礫石	良好		底部へつ切り残ナデ	底部 1/6 残存	覆土中	E区 SB-185 フタ土一括	磁子産
149	2	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.8) 器高 (1.5)	10YR4/1 灰黄	砂粒少量、礫 微量	良好		底部へつ切り残ナデ	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SB-185 フタ土一括	磁子産
149	3	銅製品 断片	径 0.78 厚 0.10 重 2.79						ほぼ完存	P7 内	E区 SB-185 P7	元来遺宝

3 柵列

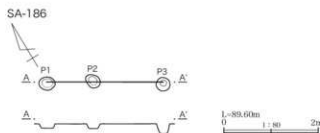
台地上に1列が確認されている。

第91表 E区 SA-186計測表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SA-186 P1	AM-49	N-59°-W	楕円形	0.32	0.28	0.09	逆台形	無	SI-9より新
SA-186 P2	AM-49	N-59°-W	楕円形	0.32	0.26	0.10	逆台形	無	SI-9より新
SA-186 P3	AM-49	N-59°-W	円形	0.28	0.27	0.21	逆台形	無	SI-9より新

E区 SA-186 (第150図、第91表)

位置 調査区北西部にあたるAM-49グリッドに位置する。**重複関係** SI-9より新しい。SD-3と並行する。**平面形状・規模** 3基の柱穴が約2.4mの長さで、東西方向に直線的に並んでいる。P1・P2は楕円形、P3は円形で、長軸28～32cmほどで、深さは9～21cm、柱間距離はP1-P2間で約1.0m、P2-P3間で約1.5mとなっている。**主軸方向** N-59°-W。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



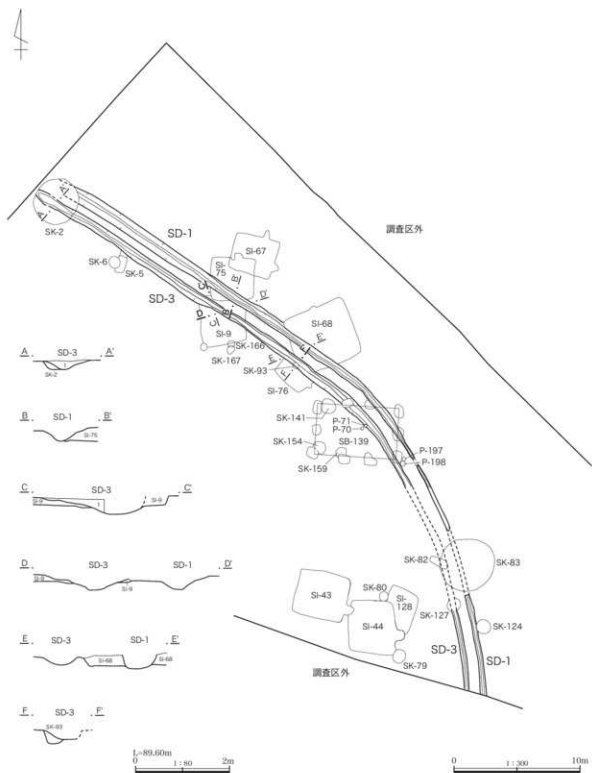
第150図 E区 SA-186遺構実測図

4 溝

台地上を弧を描きながら南東から北西に延びる2条の溝が確認された。

第92表 E区溝計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-1	SD-70	AL-48, AM-48-49, AN-49, AO-49～52	N-45°-W	弧状	55前後	0.22～1.17	0.16～0.3	U字・逆台形	有	SI-9-68-75-76, SB-139, SK-2-83-124より新
SD-3	SD-71	AL-48, AM-48-49, AN-49-50, AO-50～52	N-45°-W	弧状	55前後	0.4～1.02	0.04～0.3	U字・逆台形	有	SI-9-68-76, SB-139, SK-2-5-82-83-93-127, P71より新



SD-3
 1 相灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量。しまり欠ける。
 粘性欠ける。

第 151 図 E区 SD-1・SD-3 遺構実測図

E区SD-1 (第151-152図、第92-93表、図版一・二四)

位置 調査区をSD-3と並行し、南北に弧状に縦断するかたちで、AL-48 AM-48・49、AN-49・AO-49～52グリッドに位置する。**重複関係** SI-9・68・75・76、SB-139、SK-2・5・83・124・127、P-161と重複しており、いずれの遺構より新しい。SD-3とは同時期と考えられる。SD-3との内法は約60～100cmである。現在の道路下、ほぼ同じ位置にあり、道路の側溝と判断される。**平面形状・規模** 調査区北部のAL-48グリッドから、南端のAO-52グリッドまで約55mを南北に延びている。幅は地点によって異なり最小で0.22m、最大で1.17mほどとなっている。溝の幅が長い部分はAL-48付近である。深さは16～30cmほどと浅い。**主軸方向** おおむねN-45°-W **覆土** 1層である。ロームや焼土粒子を含んだ暗灰褐色土で、自然堆積と考えられる。**底面** 底面は若干の凹凸がみられる。壁は浅いU字状に、底面より緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 須恵器環1点とかわらけ1点を図示した。このほかに土師器環2点145.68g、高台付環1点16.13g、甕80点698.48g、須恵器環50点347.95g、蓋7点60.43g、壺5点128.14g、甕36点991.20g、陶器1点2.67g、瓦12点1058.37gが出土している。**時期** 不明。

E区SD-3 (第151-152図、第92-93表、図版四二)

位置 調査区をSD-1と並行し、南北に弧状に縦断するかたちで、AL-48 AM-48・49、AN-49・AO-50～52グリッドに位置する。**重複関係** SI-9・68・76、SB-139、SK-2・5・82・83・93・127、P-70・71・161・197・198と重複しており、いずれの遺構より新しい。SD-1とは同時期と考えられる。**平面形状・規模** 調査区北部のAL-48グリッドから、南端のAO-52グリッドまで約55mを南北に延びている。幅は地点によって異なり最小で0.4m、最大で1.02mほどとなっている。溝の幅が長い部分はAO-50付近である。深さは4～30cmほどと浅い。**主軸方向** おおむねN-45°-W **覆土** 1層である。ロームや焼土粒子を含んだ暗灰褐色土で、自然堆積と考えられる。**底面** 若干の凹凸がみられる。壁は浅いU字状に、底面より緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 土師器環1点を図示した。1はロクロ整形で、内面に黒色処理が施され、側面に墨書が確認される。このほかに土師器環11点45.31g、高台付環6点67.84g、甕40点420.79g、須恵器環12点72.91g、鉢1点13.45g、甕5点149.33g、陶器1点5.33g、瓦2点120.95gが出土している。**時期** 不明。

SD-1



SD-3



0 1:4 10cm

第152図 E区SD-1・SD-3 出土遺物実測図

第93表 E区SD-1・3 出土遺物観察表

探検 No.	発見 品類	非崩壊 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
152	1	かわらけ 口径 (9.2) 底径 (6.2) 断面 1.3	7.5YR6/6 橙	砂粒少量、黒 雲母微量	良好		ロクロナデ 底部 系切り	口縁一部 1/4 残存	覆土中	E区SD-1	
152	2	須恵器 環 口径 (12.0) 底径 6.2 断面 4.1	2.5Y7/2 灰黄	砂粒・律少量	良好	体～底部内 面 黒曜	ロクロ自動車 体部下端 手持ちヘラケズリ 後部 手持ちヘラケズリ	口縁部 1/8 残存。底部 現存	覆土中	E区SD-1	磁子産
152	3	土師器 環 口径 - 底径 - 断面 [3.5]	外面 10YR6/4 に濃い黄橙 内面 2.5Y2/1 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処 理 帯書あり	ロクロナデ 体部内面 ヘラミガキ 底部下端 ヘラケズリ	体部一部残 存	覆土中	E区SD-3 フケ土一括	

5 円形有段遺構

調査区のD区寄りに、3基の円形有段遺構がほぼ等間隔でL字状に配置されている。

第94表 E区円形有段遺構計測表

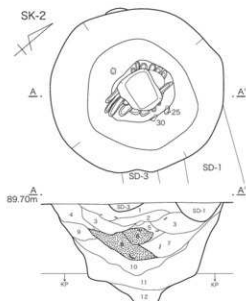
遺構番号	位置	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-2	AL-48	円形	3.64	3.60	2.16	乳房状	有	SD-1・3より古
SK-36	AM-50・51	円形	3.20	3.16	1.60	乳房状	有	SI-35より新
SK-83	AO-50・51	円形	4.42	4.20	2.62	乳房状	有	SD-1・3より古 SK-83・123より新

E区SK-2 (第153-156図、第94-95表、図版四二・四三・一二四～一二六)

位置 調査区北部にあたるAL-48グリッドに位置する。**重複関係** SD-1・3より古い。**平面形状・規模** 円形で、直径約3.6m、深さ2.16mである。**覆土** 12層に分層した。10・11層は埋め戻しである。11層はロームが多く含まれる。6層は炭化物と焼土がブロック状、8層は焼土(焼けたローム)が主体で、遺物が多く含まれる。12層は黒褐色土で埋まっている。**底面** 鹿沼軽石層中に作られている。中央部に長軸88cm、短軸77cmの長方形のピットを持つ。その周辺には材木を渡したと考えられる長さ6～46cm、幅8～16cm、深さ5～20cmほどの掘り込みが両側に確認された。掘り込みは重複したものもあり、作り替えの可能性が高い。**出土遺物** 覆土の上から中層かけて遺物が多量に出土した。土師器の坏1点、小形甕1点、甕2点、須恵器の坏13点、高台付坏4点、高台付盤3点、蓋2点、香炉1点、甕1点、鉢か甕2点、甕2点、壺4点、甕1点、粗製土器1点、瓦3点、石1点を図示した。1は内面をミガキと黒色処理が施され、側面に墨書が逆位で確認された。8の底面には「Z」状の刻書がある。12の坏は割れ口と内面にスガが付着し、燈明具として利用された可能性も指摘できる。14は側面に墨書が確認されている。18は底部に「一」と推定される刻書が確認されている。22は内面に黒色物が付着する粗製土器で、底部に木炭痕が残る。25の香炉は獣脚である。26は円面甕で墨堂の一部に窪み(墨池)が確認された。一部に墨痕が確認されている。29は5孔の甕、30の甕は口縁部を欠き、再利用している痕跡がみられる。31は四耳甕、39はナデにより全体を平滑にして仕上げる。3ヶ所に直径5センチ、深さ1.0～1.5cmのくぼみがあり、うち1ヶ所には詰めた粘土が欠けた痕跡がある。全体的にヘラケズリし、側縁には幅1.3～1.7cm、高さ3mmほどの凸帯をめぐらせる。一部半円状の剥離痕がみられる。瓦の一部と考えられる。40・41の瓦は被熱している。42は砂岩で、用途不明の石である。このほか土師器坏15点80.01g、甕2009.35g、須恵器坏189点1722.73g、高台付坏12点432.42g、蓋26点334.33g、高坏1点6.03g、鉢1点7.74g、壺9点548.50g、甕43点2233.46g、陶器2点4.00g、瓦35点5977.64gが出土している。**時期** 9世紀中葉以前。

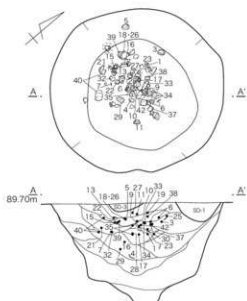
E区SK-36 (第151-155図、第92-94表、図版四三・四四・一二六)

位置 調査区南部にあたるAM-50・51グリッドに位置する。**重複関係** SI-35より新しい。**平面形状・規模** 円形で、直径約3.2m、深さ1.6mである。**覆土** 9層に分層した。2～6層は埋め戻し、1・7・8層は自然堆積である。9層は壁のロームが剥がれて埋没した層である。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、中央部に直径70cmのピットを持つ。その周辺には材木を渡したと考えられる長さ10～20cm、幅8～18cm、深さ10cmほどの掘り込みが4か所確認された。壁は底面から丸みを帯びて立ち上がる。**出土遺物** 土師器の坏2点、須恵器の高台付坏1点、高坏1点、蓋1点を図示した。1と2は墨書が確認され、1は底部内面、2は側面である。このほか、土師器坏11点73.75g、甕27点378.63g、須恵器坏8点

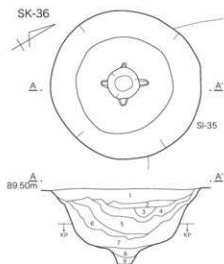


SK-2

- 1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子・焼土粒子微量、炭化物若干、しまりややあり、粘性普通。(自然埋没)
- 2 暗褐色土 1層より粒子少ない、しまりやや欠ける、粘性欠ける。(自然埋没)
- 3 暗褐色土 1層より焼土粒子・炭化物が多い、KP粒子微量、しまりあり、粘性ややあり。(自然埋没)
- 4 暗褐色土 1層より粒子多い、しまりやや欠ける、粘性普通。(自然埋没)
- 5 暗褐色土 3層よりローム・焼土・炭化物が若干多い、しまりややあり、粘性やや欠ける。
- 6 赤褐色土 ローム粒子・炭化物微量、焼土がブロック状に入る、しまりやや欠ける、粘性やや欠ける。
- 7 暗褐色土 2層よりKP粒子が多い、しまりややあり、粘性普通。(自然埋没)

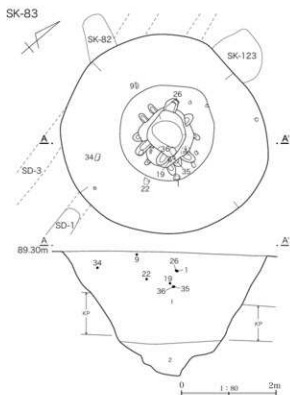


- 8 赤褐色土 焼土(ロームが焼けたもの)主体、遺物多く含む、しまりあり、粘性ややあり。
- 9 暗褐色土 4層にKP粒子が微量入る、しまりややあり、粘性やや欠ける。(自然埋没)
- 10 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック少量、KP粒子微量、炭化物若干、しまりややあり、粘性ややあり。(埋め戻し)
- 11 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土の層と層状になっている、しまりあり、粘性非常にあり。(埋め戻し)
- 12 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干、しまり欠ける、粘性欠ける。



SK-36

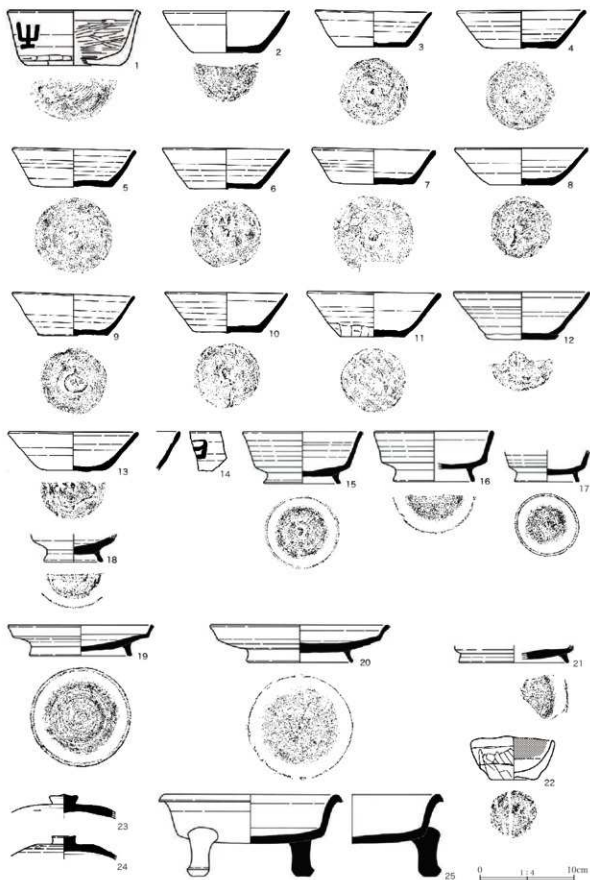
- 1 暗褐色土 ローム粒子・KP粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量、しまりあり、粘性ややあり。(自然埋没)
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・KP粒子微量、炭化物若干、しまりややあり、粘性あり。(埋め戻し)
- 3 暗褐色土 ローム粒子・KP粒子・焼土粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。(埋め戻し)
- 4 黒褐色土 ローム粒子・KP粒子・黒色土少量、ロームブロック若干。(埋め戻し)
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量、KPがブロック状に散入、しまりややあり、粘性あり。(埋め戻し土とほぼ同じ)
- 6 暗褐色土 ローム粒子・KP粒子・焼土粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。(埋め戻し、3層とほぼ同じ)
- 7 暗黄褐色土 ローム主体、KP粒子微量、炭化物若干、しまりやや欠ける、粘性あり。(自然埋没)
- 8 暗黄褐色土 ローム主体、KP粒子少量、炭化物微量、しまり欠ける、粘性ややあり。(自然埋没)
- 9 暗黄褐色土 ローム主体、ロームブロック多量、KP少量、しまりややあり、粘性あり。(自然埋没)



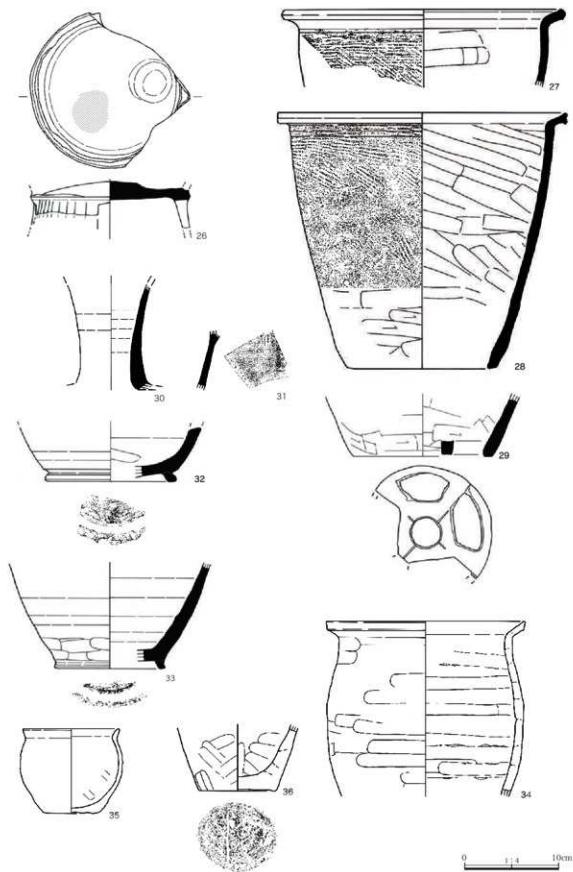
SK-83

- 1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子・炭化物・白色粒子微量、壁際にロームがブロック状に入る、しまりあり、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒子若干、しまりややあり、粘性非常にあり。

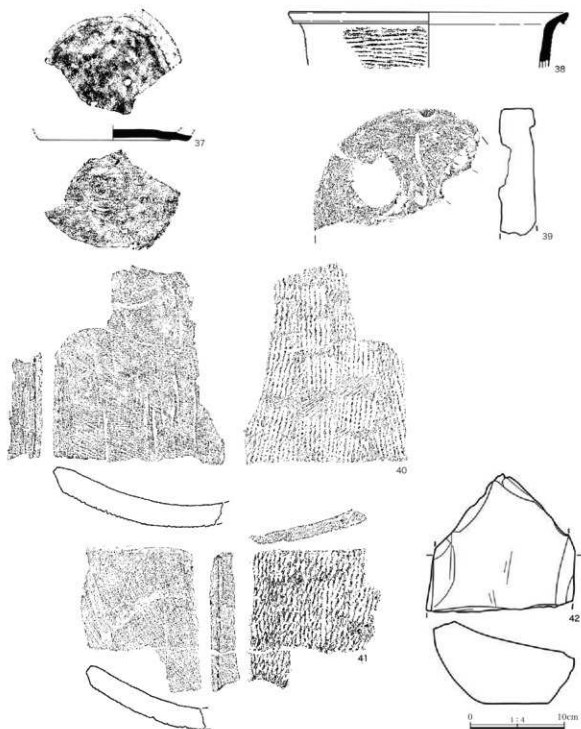
第153図 E区SK-2・36・83遺構実測図



第154图 E区 SK-2 出土物实测图(1)



第155图 E区SK-2出土物实测图(2)



第156図 E区SK-2出土遺物実測図(3)

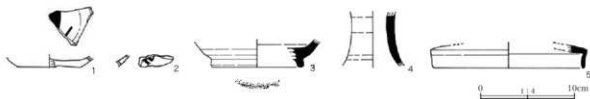
第95表 E区SK-2出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	器形・装飾の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
154	1	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 (9.8) 器高 5.9	外面 10YR5/4 にふい黄褐色 内面 5Y2/1 オリーブ黒	砂粒少量、赤 色粘土微加	良好	内面 黒色点線 筋書あり「市」 か明大文字「人」	口タロナデ 内面 ヘラミ母土 体部下縁 回転ヘラケズリ 底部 糸切り後ヘラケズリ	口縁部一 部、体へ 底部 1/3 残存	魔土中 層	E区SK-2 No37	

第3章 小泉分校裏遺跡

154	2	裏遺跡 環	口径 (13.4) 底径 (7.0) 高さ 4.4	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂粒・微少量 少	やや 不良		底部系切り	口縁～体 部1/8、 底部1/2 残存	甌土上 層	E区 SK-2 I区	磁子産
154	3	裏遺跡 環	口径 12.2 底径 7.4 高さ 3.9	7.5Y4/1 灰	砂粒多量、微 少量	良好		底部へラ切り残ナデ	完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.22	磁子産
154	4	裏遺跡 環	口径 13.6 底径 7.7 高さ 4.0	7.5Y5/1 灰	砂粒多量、微 微量	良好		ロクロ目顯著 底部へラ切り残ナデ	口縁～体 部1/3残 存、底部 完全	甌土中 層	E区 SK-2 No.50	磁子産
154	5	裏遺跡 環	口径 13.0 底径 8.3 高さ 4.1	外面 5Y5/1 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒多量、微 少量、黒色粘 子若干	良好		底部へラ切り残ナデ	口縁部 5/8、体部 3/4残存、 底部完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.23	磁子産
154	6	裏遺跡 環	口径 13.4 底径 7.5 高さ 4.4	外面 10YR5/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒多量、微 少量	やや 不良		ロクロ目顯著 底部へラ切り残ナデ	口縁～体 部1/2残 存、底部 ほぼ完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.5・7・ 1層	磁子産
154	7	裏遺跡 環	口径 (13.0) 底径 8.7 高さ 3.8	2.5Y6/2 黄灰	砂粒多量	やや 不良		底部へラ切り残ナデ	1/2残存	甌土上 層	E区 SK-2 No.62・南 区・フク土 一區	磁子産
154	8	裏遺跡 環	口径 (14.1) 底径 6.7 高さ 4.0	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・微少量	良好	割差あり「Z」 か	ロクロ目顯著 底部へラ切り残ナデ	口縁部 11/16、体部 下位 1/4残存、 底部完全	甌土上 層	E区 SK-2 南区1層	磁子産
154	9	裏遺跡 環	口径 12.8 底径 7.4 高さ 4.4	外面 5Y5/1 灰 内面 5Y6/1 灰	砂粒・微少量	良好	外面 スス付着	底部へラ切り残ナデ	口縁部 1/4欠損、 体～底部 完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.33	磁子産
154	10	裏遺跡 環	口径 12.7 底径 7.3 高さ 4.3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒多量、微 少量、黒色粘 子微量	良好	外面 スス付着	底部へラ切り残ナデ	完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.34	磁子産か
154	11	裏遺跡 環	口径 14.0 底径 6.7 高さ 4.7	外面 5Y6/1 灰 内面 2.5Y6/3 にぶい黄	砂粒・微少量	良好		ロクロ目顯著 体部下端 手持ちへラケ ズリ 底部へラ切り後手持ち へラケズリ	完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.1	甌ノ内産
154	12	裏遺跡 環	口径 (14.4) 底径 7.0 高さ 5.1	外面 5Y4/1 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒多量	良好	割口と内面に スス付着	ロクロ目顯著 底部へラ切り残ナデ	口縁～体 部1/3、底 部1/2 残存	甌土上 層	E区 SK-2 D	磁子産
154	13	裏遺跡 環	口径 (13.7) 底径 6.8 高さ 4.2	外面 5YR5/8 暗赤褐 内面 5YR5/6 暗赤褐	砂粒・微少量	やや 不良		底部へラ切り残ナデ	口縁～体 部1/6、体部 下位～底 部1/2残 存	甌土上 層	E区 SK-2 No.12	磁子産
154	14	裏遺跡 環	口径 - 底径 - 高さ [4.2]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量	良好	割差あり「山」 か	ロクロ目顯著	口縁部一 部残存	甌土上 層	E区 SK-2 南区1層	磁子産
154	15	裏遺跡 高台付環	口径 (12.4) 底径 8.0 高さ 5.6	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量、微 少量	良好		底部 回転へラケズリ 高台付	口縁～体 部1/6、底 部3/4残存、 高台部完 全	甌土上 層	E区 SK-2 No.42	磁子産
154	16	裏遺跡 高台付環	口径 (12.2) 底径 (8.6) 高さ 5.4	外面 NS/0 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒多量、黒 色粘子少量、 微量	良好		底部 回転へラケズリ 高台付	口縁～体 部1/3、底 部高台部 3/8残存	甌土中 層	E区 SK-2 No.59	磁子産
154	17	裏遺跡 高台付環	口径 - 底径 6.8 高さ [3.4]	2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、微 微量	良好		ロクロ目顯著 高台付	体部下位 1/4残存、 底～高台 部完全	甌土中 層	E区 SK-2 No.58	磁子産
154	18	裏遺跡 高台付環	口径 - 底径 (6.2) 高さ (3.0)	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒・微少量	良好	割差あり「一」 か	底部へラケズリ 高台付	1/4残存	甌土上 層	E区 SK-2 No.15	磁子産
154	19	裏遺跡 盤	口径 18.8 底径 11.3 高さ 4.0	5Y4/1 灰	砂粒多量、微 少量、黒色粘 子微量	良好	凸凹割れあり	底部へラケズリ 高台付	口縁部 1/3残存、 底～高台 部完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.11	磁子産
154	20	裏遺跡 盤	口径 (15.0) 底径 10.6 高さ 3.3	外面 5Y4/1 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒多量、黒 色粘子少量、 微量	良好		底部へラケズリ 高台付	口縁部一 部、底部 3/4残存、 高台部完全	甌土中 層	E区 SK-2	磁子産
154	21	裏遺跡 盤	口径 - 底径 (11.6) 高さ (1.9)	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 7.5Y4/1 灰	砂粒・微少量	良好	割差あり「葉」 か	底部へラケズリ 高台付	体部部一 部残存	甌土上 層	E区 SK-2	磁子産
154	22	粗製土器 環	口径 8.4 底径 5.3 高さ 4.6	外面 10YR4/4 暗赤褐 内面 10YR2/1 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理 炭化物付着	口縁部外面～内面ヨコ ナデ 体部外面ナデ・指オサ エ 底部 木炭着	完全	甌土上 層	E区 SK-2 No.21	

154	23	栗志路 道	口徑 - 底径 - 路高 [2.5] 最大径 [11.0]	外面 5Y4/1 内面 2.5Y5/1 裏灰	砂粒・礫少量	良好		上端 回転ヘラケズリ	つまり完 存。大丹 部 1/4 残 存	覆土上 層	E区 SK-2 No.24	様子産
154	24	栗志路 道	口徑 - 底径 - 路高 [2.5] 最大径 [11.2]	2.5Y5/1 裏灰	砂粒多量。礫 少量	良好		上端 回転ヘラケズリ	つまり完 存。大丹 部 1/4 残 存	覆土上 層	E区 SK-2	様子産
154	25	栗志路 西沢	口徑 (18.1) 底径 - 路高 8.7	外面 5Y4/1 内面 10YR4/1 裏灰	砂粒少量。礫 若干	良好		製煉 底面ヘラ切り後ナデ 脚部ナデ	口脚部一 部。体一底 部 1/3 残 存。脚部 一部完 存。一部欠 損	覆土上 層	E区 SK-2 No.20	様子産
155	26	栗志路 門前段	口徑 - 底径 - 路高 [5.2]	外面 5Y5/1 内面 5Y3/1 オリーブ肌	砂粒多量	良好	自然胎付若 内外面 硬面 帯痕あり	染濁あり	硬面 3/4 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.15	様子産
155	27	栗志路 森か敷	口徑 (30.0) 底径 - 路高 [8.2]	外面 7.5Y7/1 内面 2.5Y7/3 成肌	砂粒・礫微量	良好		製部外面 平行タタキ 内面 ナデ	口脚部 1/6 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.17	産地不明
155	28	栗志路 道	口徑 (30.6) 底径 (16.0) 路高 27.2	外面 5Y6/1 内面 5Y6/2 オリーブ	砂粒多量。礫 少量	良好		口脚部 ヨコナデ 製部外面 平行タタキ 内面 ナデ 下端 手持ヘラケズリ	口脚一製 部 1/4 残 存	覆土上 層	E区 SK-2 No.35	様子産
155	29	栗志路 道	口徑 - 底径 (14.8) 路高 (6.8)	2.5Y6/2 成肌	砂粒・礫少量	良好		製部 ナデ・ケズリ 5孔	底面 1/2 残存	覆土中 層	E区 SK-2 No.51	様子産か
155	30	栗志路 道	口徑 - 底径 - 路高 [11.2]	外面 5Y6/1 内面 2.5Y5/1 裏灰	砂粒多量。礫 微量	良好		内面 ロクロ目肌書	製部ほぼ 完存 (口 脚部欠損)	覆土中 層	E区 SK-2 No.27	様子産 再利用
155	31	栗志路 西沢	口徑 - 底径 6.1	外面 2.5Y5/1 内面 2.5Y6/1 裏灰	砂粒・白色粒 子・透り粒子 少量	良好		ロクロ目肌書 体部外面 平行タタキ 内面 ナデ 一部胎付	体部一部 残存	覆土上 層	E区 SK-2	県外産
155	32	栗志路 道	口徑 - 底径 (14.0) 路高 [5.7] 最大径 [19.2]	外面 N5/0 内面 7.5Y5/1 成肌	砂粒・礫少量	良好		製部 下端 回転ヘラケズリ	底面 1/6 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.61	様子産
155	33	栗志路 道	口徑 - 底径 (11.7) 路高 [11.3] 最大径 [21.2]	外面 N6/0 内面 2.5YR5/1 裏灰	砂粒・礫・黒 色粒子少量	良好		製部 下端 手持ヘラケ ズリ 底面 ヘラケズリ	製部 下平 底面 1/4 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.32	産地不明
155	34	土師路 土	口徑 (21.1) 底径 - 路高 [18.6]	7.5YR7/4 に赤い帯	砂粒・礫微量 赤色粒子若干	良好		口脚部 ヨコナデ 製部外面 ナデ 内面 ナデ 紐結痕あり	1/2 残存	覆土中 層	E区 SK-2 No.4・30・ 33・上層・ 一帯	
155	35	土師路 小形	口徑 (10.0) 底径 5.8 路高 9.0	外面 7.5YR4/2 内面 2.5Y3/2 裏灰	砂粒・礫・金 雲母多量	やや 不良	黒化し荒れてい る	外面 不明 内面 ナデ分	口脚部 1/6。体部 1.5倍 1/4。 体部下位 3/4 残存。 底面完存	覆土中 層	E区 SK-2 No.48・ 49・上層	
155	36	土師路 土	口徑 - 底径 8.0 路高 (7.1)	外面 7.5YR5/4 に赤い帯 内面 7.5YR6/4 に赤い帯	砂粒・礫・金 雲母多量	良好		製部外面 ナデ 内面 ナデ 底面 木炭痕	製部 下平 1/2。底面 2/3 残存	覆土中 層	E区 SK-2	
156	37	栗志路 道	口徑 - 底径 (16.0) 路高 (1.2)	外面 2.5Y5/2 明灰黄 内面 10YR5/1 成肌	砂粒少量。白 雲母微量	良好		底面 外面 ヘラケズリ 内面 指頭痕あり	底面 1/3 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.6	新治産
156	38	栗志路 森か敷	口徑 (29.4) 底径 - 路高 [5.9]	外面 2.5Y6/2 成肌 内面 10YR5/3 に赤い帯	砂粒多量	良好		製部外面 平行タタキ	口脚部 1/12 残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.19	様子産
156	39	鬼瓦か	厚 3.8 径 972.47	2.5YR2 成肌	砂粒・礫少量	やや 不良		表面ナデ 円形のくぼ み 3ヶ所残存 裏面ヘラケズリ 製部 に凸帯あり 裏面ヘラケズリ	一部残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.6	
156	40	女瓦	厚 2.5 径 1168.04	7.5Y5/1 成肌	砂粒多量。礫 少量	良好		凸面 縄タタキ (加 厚) 凹面 布目肌・糸切 痕 裏面 ヘラケズリ・並 面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中 層	E区 SK-2 No.10・55	
156	41	女瓦	厚 2.3 径 620.50	5YR5-6 明赤肌	砂粒多量。礫 少量	良好	焼熟	凸面 縄タタキ 凹面 布目肌・糸切 痕 裏面 ヘラケズリ 並面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中 層	E区 SK-2 上層・下層 一帯	
156	42	石 (用途不明)	長 14.6 幅 15.8 厚 8.8 重 2223.4		砂岩			焼熟	一部残存	覆土上 層	E区 SK-2 No.56	



第157図 E区SK-36 出土遺物実測図

第96表 E区SK-36 出土遺物観察表

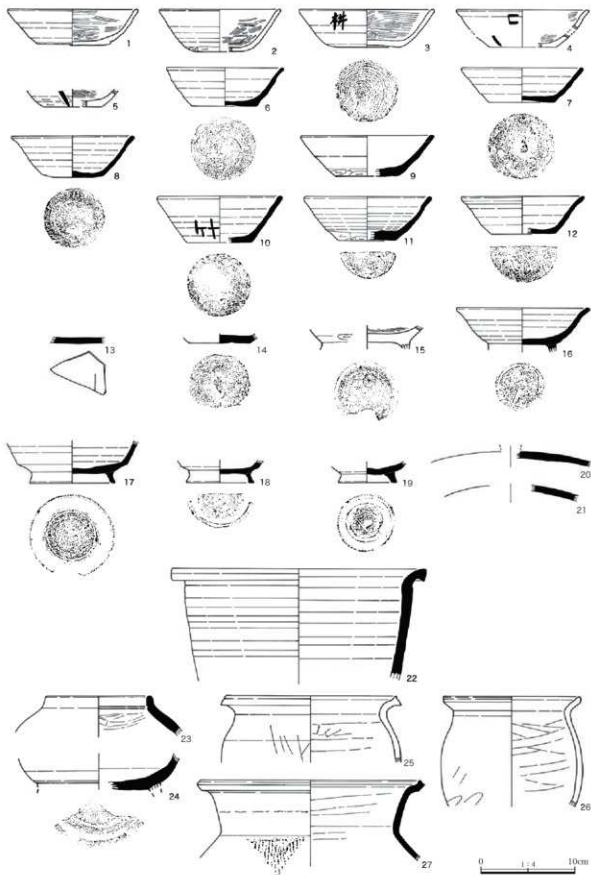
探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
157	1	土師器 環	口径 - 底径 (6.6) 器高 [1.2]	10YR5/4 淡黄橙	砂粒少量	良好	底部内面 筆書か	底部外面 ヘタケズリ 底部内面 ナマ	底部1/4 残存	覆土下 層	E区SK-36 東区下層フ ク土一括	
157	2	土師器 環	口径 - 底径 - 器高 [1.2]	10YR7/4 にぶ・黄橙	砂粒微量	良好	外面 筆書あり		体部一部 残存	覆土中	E区SK-36 東区一括	
157	3	須恵器 高台付環	口径 - 底径 9.8 器高 [3.0]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰 輪 10Y2/1 黒	砂粒多量	良好	高台内側に輪か		一部残存	覆土中	E区SK-36 西区一括	鉢子産
157	4	須恵器 高環	口径 - 底径 - 器高 [5.7]	外面 10YR5/1 黄灰 内面 2.5Y6/2 黄灰 輪 5Y4/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好			器部一部 残存	覆土中	E区SK-36 一括	産地不明
157	5	須恵器 蓋	口径 (15.8) 底径 - 器高 [2.4]	内外面 N5/0 灰 輪 10GY2/1 緑黒	白色砂子・黒 色砂子少量	良好			一部残存	覆土下 層	E区SK-36 西区下層フ ク土一括	鉢子産

28.24 g、蓋1点 11.47g、甕2点 20.25 g、が出土している。 時期 9世紀中葉。

E区SK-83 (第156-158図、第94-97表、図版四四・一・二六・一二七)

位置 調査区中央部にあたるAO・50・51グリッドに位置する。重複関係 SD-1・3より古く、SK-82・123より新しい。平面形状・規模 やや歪な円形で、長軸4.42m、短軸4.20m、深さ2.62mと深い。

覆土 2層に分層した。1層は白色粒子や焼土・炭化物を含み、遺物が多く含まれる。上層は固く締まっている。2層はローム粒子が若干混入する黒褐色土で、一気に埋め戻したと考えられる。底面 鹿沼軽石層下のロームまで掘削されている。中央部に長軸86cm、78cmの不整な長方形のピットを持つ。ピットの周辺には材木を渡したと考えられる長さ10～36cm、幅9～24cm、深さ8～28cmほどの溝状の掘り込みがピットの周囲に確認された。掘り込みは重複したものもあり、作り替えの可能性が高い。出土遺物 覆土の上層～中層に多く出土している。土師器の環5点、高台付環1点、甕2点、須恵器の環9点、高台付環4点、蓋2点、鉢1点、甕2点、甕1点、器種不明1点、瓦5点、石3点、焼粘土塊1点を図示した。3～5・10は墨書、8・13・14・19は刻書が確認された。31～33は男瓦、34・35は女瓦で、33は道具瓦かもしれない。36～38は砂岩で、36・37は被熱している。39は焼粘土塊で、スサの痕跡が顕著である。このほか、土師器環127点890.06g、高台付環7点274.55g、鉢7点236.49g、甕301点5080.81g、須恵器環202点1319.87g、高台付環8点261.62g、蓋2点239.04g、鉢6点600.94g、甕5点74.24g、甕63点3164.79g、瓦19点1961.57gが出土している。 時期 9世紀中葉。



第158圖 E区SK-83出土遺物実測図(1)



第159图 E区SK-83出土遗物实测图(2)

第97表 E区SK-83出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 名称	計測値	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	備考・備考
158	1	土師器 杯	口径 (13.6) 底径 7.7 器高 3.8	外面 7.5YR6/6 釉 内面 7.5YR1.7/1 黒	砂粒・白雲母 少量	良好	内面 黒色処理	口縁～体部外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8、底部 残存	甌土中 層	E区 SK-83 No.3	
158	2	土師器 杯	口径 (12.8) 底径 (5.0) 器高 4.5	外面 10YR6/3 にぶい黄緑 内面 7.5GY3/1 暗緑灰	砂粒・少量	良好	内面 黒色処理	口縁～体部外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部下端～底部 手持ち ヘラケズリ	口縁部 1/8、底部 1/4残存	甌土中	E区 SK-83 フク土・上 層高瀬	
158	3	土師器 杯	口径 14.2 底径 6.7 器高 [4.0]	外面 7.5YR6/3 にぶい黄 内面 5Y2/1 黒	砂粒・黒雲母 少量	良好	内面 黒色処理 黒書あり「研」	口縁～体部外面 ロクロナデ 内面 ミガキ 底部 糸切り	ほぼ完形	甌土中	E区 SK-83	
158	4	土師器 杯	口径 (14.0) 底径 (7.0) 器高 [4.0]	外面 10YR5/4 にぶい黄緑 内面 N2/0 黒	砂粒少量	良好	黒書あり	口縁～体部外面 ロクロナデ	口縁部一 部、底部 1/4残存	甌土中 層	E区 SK-83 フク土・上 層高瀬	
158	5	土師器 杯	口径 - 底径 (6.2) 器高 [1.8]	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 N2/0 黒	砂粒少量	良好	黒書あり	外面 ロクロナデ 底部外面 回転ヘラケズリ	底部一部 残存	甌土中	E区 SK-83 一括	
158	6	葉土器 杯	口径 (12.4) 底径 (6.8) 器高 4.1	10YR6/3 にぶい黄緑	砂粒少量、礫 多量	中々 不良		口クロ目蓋着 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、底部 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	7	葉土器 杯	口径 (12.6) 底径 (7.0) 器高 3.7	2.5Y7/2 黄灰	砂粒・少量	良好		口クロ目蓋着 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/2、底部 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	8	葉土器 杯	口径 (12.8) 底径 (6.2) 器高 [4.5]	外面 10YR7/2 にぶい黄緑 内面 2.5Y7/1 灰白	砂粒・少量	良好	底部 割書か	口クロ目蓋着 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 2/3、底部 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	9	葉土器 杯	口径 (14.0) 底径 (6.7) 器高 4.3	10YR6/4 にぶい黄緑	砂粒・少量	不良		体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁～底 部 1/2残存	甌土上 層	E区 SK-83 No.18	菓子産
158	10	葉土器 杯	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 5.0	5Y4/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好	黒書あり 体部 内面スス 付着か	口クロ目蓋着 底部 静止糸切り後ヘラケズリ	口縁部 1/4、底部 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	11	葉土器 杯	口径 (13.2) 底径 (6.0) 器高 4.7	2.5Y5/1 黄灰	砂粒・少量	良好		口クロ目蓋着 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 ナデ	口縁部 1/4、底部 1/2残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	12	葉土器 杯	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 4.0	7.5Y5/1 灰	砂粒・少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、底部 1/2残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	13	葉土器 杯分	口径 - 底径 - 器高 [0.6]	2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量	良好	底部外面 割書 あり「一」	内外面 ナデ	底部一部 残存	甌土中	E区 SK-83	甌ノ内産
158	14	葉土器 杯	口径 - 底径 (6.4) 器高 [1.0]	外面 10YR5/3 にぶい黄緑 内面 7.5YR4/3 黒	砂粒少量、赤 色粒子若干	良好	底部 割書あり 「半」	底部ヘラ切り後ナデ	底部 3/4 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	15	土師器 高台付杯	口径 - 底径 - 器高 [2.7]	外面 10YR5/4 黄緑 内面 N2/0 黒	砂粒少量、黒 雲母微量	良好	内面 黒色処理 底部内面 靑土 痕	内面 ヘラミガキ 底部ヘラ切り後ナデ 高台貼付	底部残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	16	葉土器 高台付杯	口径 (14.0) 底径 - 器高 [4.7]	2.5Y6/1 黄灰	砂粒・少量	良好		口クロ目蓋着 底部ヘラ切り後ナデ 高台貼付	口縁部 1/8残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	17	葉土器 高台付杯	口径 - 底径 (9.0) 器高 [4.5]	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 5Y6/1 灰	砂粒・少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ 高台貼付	底部ほぼ 完形	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	18	葉土器 高台付杯	口径 - 底径 (7.0) 器高 [2.3]	5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ 高台貼付	底部 1/2 残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産
158	19	葉土器 高台付杯	口径 (6.2) 底径 [2.2]	外面 N4/0 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量	良好	底部 割書あり 「一」	底部 ナデ 高台貼付	底部完形	甌土上 層	E区 SK-83 No.4	菓子産
158	20	葉土器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [1.4]	2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量、礫・ 白雲母、白色 針状物質若干	良好			天井部一 部残存	甌土中	E区 SK-83	甌ノ内産
158	21	葉土器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [1.7]	5Y5/1 灰	砂粒微量、礫・ 白雲母、白色 針状物質若干	良好			天井部一 部残存	甌土中	E区 SK-83	甌ノ内産
158	22	葉土器 鉢	口径 (26.8) 底径 - 器高 [11.8]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/3 にぶい黄	砂粒・少量	良好		口クロ目蓋着	口縁部 1/8残存	甌土上 層	E区 SK-83 No.7	菓子産
158	23	葉土器 壺	口径 (11.0) 底径 - 器高 [4.3]	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 7.5YR5/1 黄灰	砂粒・少量	良好	自然釉付着		口縁部 1/5残存	甌土中	E区 SK-83	菓子産

158	24	栗虫跡 遺	口徑 - 底径 - 高さ [4.1]	2.5Y6/1 黄灰	砂粒多量、礫 少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SK-83	磁子産
158	25	土師器 遺	口徑 (18.0) 底径 - 高さ (7.0)	7.5YR6/6 橙	砂粒微量	良好		口縁部 ナデ 内面 ナデ 胴部外面 ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	E区 SK-83	
158	26	土師器 遺	口徑 (14.4) 底径 - 高さ (11.7)	外面 7.5YR6/4 にぶい黄 内面 7.5YR5/4 にぶい黄	砂粒・礫微量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/4、底部 一部残存	覆土上 層	E区 SK-83 No.14	
158	27	栗虫跡 遺	口徑 (23.8) 底径 (14.4) 高さ [8.6]	外面 10YR4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量、白 雲母多量	良好		口縁部 ナデ 胴部外面 平行タタキ 内面 ナデ 底面 ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	E区 SK-83	新治産
159	28	栗虫跡 横断	口徑 - 底径 - 高さ (7.5)	外面 7.5Y5/1 黄灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒多量、礫 少量、黒色胎 子微量	良好		胴部外面 縦格子タタキ 後カキ目 内面 ナデ 底面 ナデ	胴部一部 残存	覆土中	E区 SK-83	産地不明
159	29	栗虫跡 遺	口徑 - 底径 - 高さ [13.5]	2.5Y5/1 黄灰	砂粒・礫少量、 白色胎状物質 若干	良好		内面 当具痕	底部 1/8 残存	覆土中	E区 SK-83	南比奈産
159	30	栗虫跡 縦断	口徑 - 底径 - 高さ [6.0] 厚 0.7	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量、礫 若干	良好		外面 ナデ 内面 ナデ	底部一部 残存	覆土上 層	E区 SK-83 フタ土上位 産地	産地不明
159	31	瓦瓦 有段式	厚 3.1 重 322.09	外面 2.5Y6/3 にぶい黄 内面 2.5Y7/3 黄灰	砂粒少量	やや 不良		凸面 タテヘラケズリ 凹面 布目痕、糸切痕 側面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	E区 SK-83	
159	32	瓦瓦 無段式	厚 1.5 重 208.29	外面 5Y4/1 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒・礫多量	良好		凸面 タテヘラナデ 凹面 布目痕、糸切痕 側面 ヘラケズリ、面取	一部残存	覆土中	E区 SK-83	
159	33	瓦瓦	厚 1.9 重 211.82	外面 5Y6/8 橙 内面 5Y6/6 橙	砂粒少量	良好		凸面 ヘラケズリ 凹面 布目痕 端面 法端面ヘラケズリ	一部残存	覆土中	E区 SK-83	
159	34	瓦瓦	厚 1.5 重 57.61	外面 7.5YR4/3 黄 内面 2.5Y5/2 黄灰	砂粒・礫少量	やや 不良		凸面 縦格子タタキ 凹面 ケズリ	一部残存	覆土中	E区 SK-83	
159	35	瓦瓦	厚 1.8 重 161.07	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 黄灰	砂粒・礫微量	良好		凸面 縦格子タタキ 凹面 布目痕、ケズリ 側面 ケズリ 端面 ケズリ	一部残存	覆土中	E区 SK-83	
159	36	石 (用途不明)	長 16.0 幅 12.8 厚 7.7 重 1669.9		砂岩か		被熱か		一部残存	覆土上 層	E区 SK-83 No.11	
159	37	石 (用途不明)	長 9.3 幅 5.8 厚 2.6 重 179.76		砂岩		被熱か		一部残存	覆土上 層	E区 SK-83 No.5	南れ込み か磨石
159	38	石 (用途不明)	長 13.4 幅 10.0 厚 2.8 重 557.8		砂岩				完存	覆土上 層	E区 SK-83 No.6	南れ込み か磨石
159	39	焼粘土塊	長 7.9 幅 4.2 厚 3.4 重 87.02	10YR5/4 にぶい黄	砂粒・礫少量	良好	スサ痕あり		良好	覆土中	E区 SK-83	

6 土坑

台地上に 102 基の土坑が確認されている。70 基から遺物が出土している。遺構数が多いため、事実記載はすべての土坑ではなく、遺物が出土している等の特記事項のある土坑のみとし、他は計測表にした。

第 98 表 E 区土坑計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	備考
SK-5	SK-5	AL-48	N-17° -E	長方形	1.36	0.80	0.08	箱形	無	SK-3より古 SK-6より新
SK-6	SK-6	AL-48	-	円形	0.94	0.94	0.16	逆台形	有	SK-5より古
SK-7	SK-7	AL-49	N-42° -W	楕円形	0.84	0.56	0.36	逆台形	有	SK-10より新
SK-13	SK-13	AM-49	N-49° -W	不整形円形	1.12	0.88	0.40	逆台形	有	SK-4より新

SK-17	SK-17	AM-49-50	N32° -W	不整形方形	1.16	1.02	0.06	遊台形	無	
SK-19	SK-19	AM-49-50	N9° -W	長方形	3.34	0.60	0.22	箱形	有	SB-183より新
SK-21	SK-21	AM-50 AN-50	N65° -E	方形	1.16	1.12	0.10	遊台形	有	
SK-22	SK-22	AM-50	N12° -E	楕円形	2.34	1.12	0.70	U字状	無	陥し穴か
SK-24	SK-24	AM-50	N73° -W	長方形	0.92	0.48	0.04	箱形		
SK-25	SK-25	AM-49	-	不整形円形	0.72	0.72	0.36	遊台形	有	
SK-26	SK-26	AL・AM-49	N30° -E	長方形	1.32	0.78	0.10	遊台形	有	
SK-27	SK-27	AM-50	N12° -E	楕丸長方形	1.28	1.08	0.16	遊台形	有	
SK-28	SK-28	AN-50	N45° -W	楕円形	1.04	0.76	0.10	遊台形	有	
SK-30	SK-30	AL-51 AM-50-51	N24° -E	楕丸長方形	3.80	0.92	0.22	顕底状	有	SK-29、SK-31より新
SK-31	SK-31	AL・AM-51	N51° -E	楕円形	1.08	0.92	0.36	顕底状	有	SK-30より古
SK-32	SK-32	AM-51	不明	円形か	1.04	0.56	0.24	遊台形	有	
SK-33	SK-33	AM-50	N51° -W	楕丸長方形	1.12	0.78	0.12	箱形	有	
SK-34	SK-34	AM-50	N13° -W	楕円形	0.98	0.86	0.24	遊台形	有	
SK-37	SK-37	AL-49	-	円形	0.96	0.94	0.06	皿状	有	
SK-38	SK-38	AL-49	-	円形	0.88	0.86	0.20	遊台形	有	
SK-39	SK-39	AL-50	N60° -W	楕円形	0.60	0.50	0.08	皿状	有	
SK-40	SK-40	AM-49	N45° -E	不整形円形	1.12	1.06	0.16	顕底状	有	SI-15より新
SK-41	SK-41	AN-50	-	円形	1.04	0.98	0.36	遊台形	有	
SK-42	SK-42	AN-51	N80° -W	楕円形	0.94	0.84	0.10	皿状	無	
SK-46	SK-46	AK-50	N43° -W	楕円形	1.68	1.58	0.16	皿状	有	
SK-47	SK-47	AK-49-50	N60° -W	不整形楕円形	1.36	1.24	0.08	皿状	無	
SK-50	SK-50	AM-47	-	円形	1.06	1.06	0.30	遊台形	有	
SK-52	SK-52	AM・AN-47	-	円形	0.76	0.72	0.38	顕底状	有	
SK-53	SK-53	AN-47	-	円形	0.96	0.74	0.16	皿状	有	
SK-54	SK-54	AN-48	-	円形	1.08	1.04	0.16	皿状	有	
SK-55	SK-55	AN-48	-	円形	0.92	0.88	0.28	顕底状	有	
SK-56	SK-56	AM-48	N13° -W	楕円形	1.12	1.02	0.50	遊台形	有	
SK-57	SK-57	AM-48	N20° -W	楕円形	0.76	0.72	0.16	遊台形	有	P-180と重複
SK-58	SK-58	AM-48	N0°	円形	0.96	0.96	0.06	皿状	有	
SK-59	SK-59	AN-51	-	不整形楕円形	1.48	1.00	0.08	皿状	有	SI-43より古
SK-62	SK-62	AN-48	N18° -W	楕円形	1.00	0.90	0.16	遊台形	有	SI-61と重複
SK-65	SK-65	AM-47	N90° -E	楕丸長方形	0.92	0.56	0.20	有段	無	SI-51より新
SK-66	SK-66	AO-49	N20° -E	楕円形	1.68	0.66	0.10	遊台形	有	SI-64より新
SK-73	SK-73	AN-48	N80° -E	不整形楕円形	1.10	0.96	0.38	遊台形	有	SI-61より新
SK-79	SK-79	AO-51	-	円形	1.10	1.00	0.20	皿状	有	底面凹凸あり SI-44より新
SK-80	SK-80	AN・AO-51	-	円形	0.76	0.70	0.14	皿状	無	底面凹凸あり SI-44・128より新
SK-81	SK-81	AN-51	-	円形	0.88	0.80	0.12	皿状	有	底面凹凸あり
SK-82	SK-82	AO-51	N65° -W	楕丸長方形	1.56	0.64	0.60	遊台形	有	
SK-88	SK-88	AO-50-51	-	円形	1.20	1.12	0.28	遊台形	有	SD-3より古 SK-83より新

第3章 小泉分校裏遺跡

SK-90	SK-90	AQ-52	N-65° -E	横円形	1.36	0.96	0.44	遊台形	有	
SK-93	SK-93	AN-49	N-32° -W	横円形	0.52	0.44	0.20	遊台形	有	SD-3より古
SK-94	SK-94	AR-52	N-0°	横円形	0.66	[0.54]	0.18	遊台形	無	SK-89より古
SK-95	SK-95	AR-52	N-33° -E	不整横円形	1.16	0.90	0.12	皿状	無	
SK-96	SK-96	AR-51-52	N-0°	横円形	1.16	0.88	0.44	有段	有	
SK-97	SK-97	AQ-52 AR-52	-	円形	1.56	1.48	0.26	遊台形	無	
SK-98	SK-98	AQ-52	-	円形	0.56	0.52	0.14	遊台形	無	SK-199より新
SK-99	SK-99	AQ-52	N-30° -E	不整横円形	0.76	0.64	0.32	遊台形	有	
SK-100	SK-100	AQ-52	-	円形	0.68	0.60	0.22	有段	有	
SK-102	SK-102	AP-51	N-55° -E	長方形	1.84	0.90	0.08	靴形	無	
SK-106	SK-106	AQ-51-52	N-55° -W	横円形	2.12	1.72	0.68	遊台形	有	
SK-107	SK-107	AR-52	N-0°	横円形	1.10	0.82	0.16	皿状	有	SK-89より新
SK-109	SK-109	AP-52	N-79° -E	不整横円形	0.74	0.74	0.40	有段	無	
SK-113	SK-113	AR-52	-	円形	1.00	0.94	0.16	皿状	有	
SK-114	SK-114	AR-52	-	円形	0.68	0.64	0.36	U字状	無	
SK-116	SK-116	AP-52	-	円形	1.38	1.30	0.42	遊台形	有	
SK-120	SK-120	AO-51 AP-51	N-34° -W	横円形	0.98	0.86	0.24	遊台形	有	
SK-121	SK-121	AR-53	-	円形	0.88	0.80	0.16	皿状	無	
SK-122	SK-122	AR-52	N-0°	横円形	1.08	0.90	0.16	皿状	有	
SK-123	SK-123	AO-50	N-75° -W	不整方形弁	1.06	[0.80]	0.20	遊台形	有	SK-83より古
SK-124	SK-124	AO-51	-	円形	1.16	1.12	0.24	遊台形	有	SD-1より古
SK-125	SK-125	AO-51	N-68° -E	不整方形	1.00	0.88	0.08	皿状	無	
SK-126	SK-3	AL-48-49	N-17° -E	長方形	3.80	0.80	0.08	靴形	有	SI-10より新
SK-127	SK-127	AO-51	-	円形	1.08	1.04	0.16	皿状	有	SD-3より古
SK-129	SK-129	AP-50-51	-	円形	0.98	0.98	0.62	扇底状	有	底面凹凸あり
SK-130	P-130	AP-50	N-65° -W	横円形	0.68	0.56	0.24	遊台形	有	
SK-135	SK-135	AO-50	N-80° -E	長方形	1.20	0.52	0.20	遊台形	無	
SK-136	SK-136	AO-50	N-32° -E	長方形	1.40	0.70	0.16	遊台形	有	
SK-137	SK-137	AO-50	N-4° -W	横円形	1.10	0.94	0.56	遊台形	有	
SK-140	SK-140	AN-49-50	N-7° -E	不整横円形	1.18	1.04	0.16	皿状	有	
SK-141	SK-141	AN-49	-	円形	1.20	1.16	0.10	皿状	有	SB-139より新
SK-143	SK-143	AO-49	-	円形	0.70	0.68	0.32	遊台形	有	
SK-144	SK-144	AO-49	-	円形	1.08	1.00	0.26	遊台形	無	
SK-145	SK-145	AO-49	-	円形	0.72	0.64	0.10	皿状	有	
SK-146	SK-146	AO-51	N-40° -W	横円形	0.88	0.44	0.08	靴形	無	
SK-147	SK-147	AO-51	-	円形	1.22	1.16	0.20	遊台形	有	
SK-148	SK-148	AQ-51	N-41° -W	不整形	1.56	1.16	0.44	有段	有	
SK-149	SK-149	AP-49-50	-	円形弁	0.60	[0.36]	0.48	遊台形	無	
SK-150	SK-150	AO-50	N-12° -E	横円形	1.24	1.08	0.40	遊台形	有	
SK-151	SK-151	AO-49	-	円形	1.04	1.00	0.16	有段	有	

SK-152	SK-152	AO-49	-	円形	1.12	1.08	0.18	皿状	有	
SK-153	SK-153	AO-49	N-6° -E	楕円形	1.28	1.18	0.18	皿状	有	
SK-154	SK-154	AN-50	N-43° -W	楕円方形	1.08	0.94	0.10	逆台形	有	SB-139より新
SK-155	SK-155	AP-51	-	円形	0.94	0.92	0.56	逆台形	有	
SK-159	SK-159	AN-50	-	円形	0.94	0.86	0.31	U字状	無	SB-139より古
SK-160	SK-160	AO-52	N-44° -W	長方形	0.46	0.34	0.08	皿状	無	
SK-162	SK-162	AN-51	N-56° -E	楕円形	1.32	0.92	0.34	有段	有	SI-43より古
SK-164	SK-164	AM-49	N-60° -E	楕円形	0.56	0.52	0.18	有段	無	
SK-165	SK-165	AN-48	N-0°	楕円形	0.94	0.64	0.26	顕産状	無	
SK-166	SK-166	AM-49	-	円形	0.56	0.50	0.46	U字状	有	SK-167と重複
SK-167	SK-167	AM-49	N-28° -E	不整形	0.64	0.56	0.56	逆台形	無	SK-166と重複
SK-176	SK-176	AO-49	N-39° -W	楕円方形	0.56	0.52	0.16	逆台形	無	
SK-177	SK-177	AO-49 AP-49	N-42° -E	楕円長方形	0.76	0.48	0.20	有段	無	
SK-178	SK-178	AN-49	-	円形	0.58	0.50	0.36	逆台形	無	
SK-184	SK-184	AN-51	N-6° -E	長方形	2.10	0.66	0.76	皿形	無	SI-43より古
SK-190	SK-190	AM-48	-	円形	1.44	1.38	0.04	皿状	無	
SK-199	SK-199	AQ-52	-	円形か	0.68	0.48	0.32	逆台形	無	SK-98より古
SK-201	-	AN-51	N-75° -W	不整形	1.15	1.05	0.10	逆台形	無	SI-43より新

E区 SK-6 (第160図、第98表、図版四四)

位置 調査区北部にあたるAL-48グリッドに位置する。**重複関係** SK-5・SD-3と重複し、本遺構が古い。**平面形状・規模** 円形で、直径94cm、深さ16cmである。**覆土** ロームを多く含む褐色土で埋め戻されている。**底面** ローム層中に作られており、凹凸が著しい。壁は斜めに立ち上がる。**出土遺物** 土師器高台付杯1点2.35g、甕5点22.39g、須恵器の甕5点25.47gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-7 (第160-168図、第98-99表)

位置 調査区北部にあたるAL-49グリッドに位置する。**重複関係** SI-10と重複し、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 楕円形で、長軸84cm、短軸56cm、深さ36cmである。**主軸方向** N-42° -W **覆土** ロームを含む。自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中に作られており、凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器の高台付杯1点、かわらけ1点を図示した。1・2ともロクロ整形である。このほか、土師器杯3点4.93g、甕4点52.22gが出土している。**時期** 13世紀前半以前か。

E区 SK-13 (第160-168図、第98-99表、図版四五・一二七)

位置 調査区北部にあたるAM-49グリッドに位置する。**重複関係** SI-4と重複し、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 不整形円形で、長軸112cm、短軸88cm、深さ40cmである。**主軸方向** N-49° -W **覆土** 粘土・ロームを含む。自然堆積と考えられる。粘土は固まって出土している。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は斜めに立ち上がる。**出土遺物** 土師器の杯1点、かわらけ1点を図示した。このほかに土師器甕5点67.05gが出土している。**時期** 13世紀後半以前か。

E区 SK-19 (第160-168図、第98-99表、図版四五)

位置 調査区中央部にあたるAM-49・50グリッドに位置する。**重複関係** SB-183と重複し、本遺構が新しい。北側にビット状の掘り込みがあり、別遺構の可能性も考えられる。**平面形状・規模** 長方形で、長軸334cm、短軸60cm、深さ22cmである。**主軸方向** N-9°-W **覆土** ロームを含む。埋め戻しと考えられる。**底面** ローム層中に作られており、凹凸がみられる。壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器環1点、須恵器環1点を図示した。6は覆土の上層で出土している。このほかに土師器環8点46.86g、高台付環1点7.13g、甕12点99.81g、須恵器環2点13.71gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-22 (第160図、第98表、図版四五)

位置 調査区南西部にあたるAM-50グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 長軸234cm、短軸112cmの楕円形で深さは70cmほどである。**主軸方向** N-12°-E **覆土** ロームを多く含む。非常に硬く締まっている。**底面** 凹凸がみられる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 形状や覆土の特徴から縄文時代の陥し穴と考えられる。

E区 SK-25 (第160-168図、第98-99表、図版一二七)

位置 調査区北西部にあたるAM-49グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 不整形円で、直径72cm、深さ36cmである。**主軸方向** N-53°-E **覆土** ロームを多く含む。人為的な埋め戻しである。**底面** ローム層中に作られており、凹凸が著しい。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** かわらけ1点を図示した。覆土上層の遺構確認面で出土している。このほかに土師器環1点14.42g、甕3点41.43gが出土している。**時期** 13世紀前半か。

E区 SK-27 (第160-168図、第98-99表)

位置 調査区南西部にあたるAM-50グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 隅丸長方形で、長軸128cm、短軸108cm、深さ16cmである。**主軸方向** N-12°-E **覆土** ロームを含む暗褐色土が堆積しており、人為的な埋め戻しの可能性がある。**底面** ローム層中に作られており、凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 須恵器の高台付環1点を図示した。このほかに土師器環1点3.27g、高台付環1点5.95g、甕3点73.20gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-30 (第161-169図、第98-99表、図版四五・一二七)

位置 調査区南西部にあたるAL-51・AM-50・51グリッドに位置する。**重複関係** SI-29・SK-31と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 隅丸長方形で、長軸380cm、短軸92cm、深さは22cmほどである。**主軸方向** N-24°-E **覆土** ロームと炭化物を含む黒褐色土で、人為的な埋め戻しと考えられる。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が認められる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 須恵器の環1点、瓦1点を図示した。10は女瓦で、叩き具の3B類が出土している。このほか、土師器環7点29.37g、甕19点40.66g、須恵器環8点30.58g、高環1点11.64g、甕2点115.34gが出土している。**時期** 9世紀中葉か。

E区 SK-31 (第161-169図、第98-99表、図版四五・一二七)

位置 調査区南西部にあたるAL・AM-51グリッドに位置する。**重複関係** SK-30と重複し、木遣構が古い。**平面形状・規模** 楕円形で、長軸108cm、短軸92cm、深さ36cmである。**主軸方向** N-51°-E
覆土 3層を確認した。最上層ロームを多量に含み、固く締まり、中層はロームと炭化物を含む。人為的な埋め戻しの可能性がある。**底面** 凹凸がみられる。壁は段を持ち、急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 土師器の坏1点、三足土器1点を図示した。三足土器は脚部が欠けている。このほかに土師器坏26点87.05g、高台付坏4点59.48g、甕23点163.45g、須恵器坏7点18.60gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-32 (第161-169図、第98-99表、図版四五)

位置 調査区南部にあたるAM-51グリッドに位置する。南側は調査区外である。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 円形か。直径約104cm、深さ24cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** ロームを含む。自然堆積と考えられる。中層から灰の塊が確認された。**底面** ローム層中に作られており、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器の高台付坏1点を図示した。覆土の中層から出土し、高台部のみ残存する。このほかに土師器坏4点23.04g、甕8点56.72g、須恵器坏1点3.71g、甕1点7.15gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-33 (第161-169図、第98-99表、図版四六)

位置 調査区南西部にあたるAM-50グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 隅丸長方形で、長軸112cm、短軸78cm、深さ12cmである。**主軸方向** N-51°-W **覆土** ロームを含む。自然堆積である。**底面** ローム層中に作られており、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器坏1点、かわらけ1点を図示した。このほかに土師器坏3点15.67g、甕6点38.77g、須恵器坏6点41.32gが出土している。**時期** 13世紀後半か。

E区 SK-40 (第161図、第98-99表、図版四六・一四九)

位置 調査区北部にあたるAM-49グリッドに位置している。**重複関係** SI-15より新しい。**平面形状・規模** 形状は不整形で、長軸112cm、短軸106cm、深さ16cmである。**主軸方向** N-45°-E **覆土** 1層で、自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中に作られており鍋底状である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 鉄製品1点を図示した。覆土の上層より、刀子の刃部が出土している。このほかに土師器の坏13点48.99g、甕が11点158.03g、須恵器坏4点15.91gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-53 (第162-169図、第98-99表、図版四六・一四九)

位置 調査区北部にあたるAN-47グリッドに位置している。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 形状は円形で、直径約96cm、深さ16cmである。**覆土** 1層で、自然堆積と考えられる。ロームがブロック状に入る。**底面** ローム層中に作られておりほぼ平坦である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 覆土中より鉄製品が1点出土し、図示した。このほかに土師器の坏1点2.17g、甕が3点15.2g、須恵器坏1点2.85gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-59 (第162-169図、第98-99表、図版二三・四七・一四九)

位置 調査区中央にあたるAN-51グリッドに位置している。**重複関係** SI-43より古い。**平面形状・規模** 形状は不整形円形で、長軸148cm、短軸100cm、深さ8cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** 3層で、自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中に作られておりほぼ平坦である。壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 覆土の上層よりして出土している土師器の高台付環1点、須恵器の環1点、甕1点を図示した。このほかに土師器の環5点12.5g、甕13点129.69g、須恵器甕2点11.15gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-73 (第162-169図、第98-99表、図版四七・一一七)

位置 調査区北東部にあたるAN-48グリッドに位置する。**重複関係** SI-61と重複し、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 不整形円形で、長軸110cm、短軸96cm、深さ38cmである。**主軸方向** N-80° -E **覆土** 2層に分層され、焼土粒子・炭化物・ロームを含む。埋め戻しである。**底面** ローム層中に作られており、若干の凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。工具痕が残る。**出土遺物** 土師器の高台付環1点を図示した。ロクロ整形で、内面ヘラミガキ、黒色処理が施される。**時期** 9世紀中葉以降。

E区 SK-79 (第163図、第98表)

位置 調査区南部にあたるAO-51グリッドに位置している。**重複関係** SI-44より新しい。**平面形状・規模** 形状は円形で、直径約110cm、深さ20cmである。**覆土** 1層で、自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中に作られており凹凸がみられる。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器の環5点12.5g、甕13点129.69g、須恵器甕2点、11.15gが出土しているが、図示できなかった。**時期** 不明。

E区 SK-88 (第163-169図、第98-99表)

位置 調査区南部にあたるAO-50・51グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 円形で、直径約120cm、深さ28cmである。**覆土** 4層に分層され、1・2層は粘土粒子とローム粒子を含む層、3層は粘土粒子を含む層、4層は粘土である。1・2層は自然堆積、3・4層は人為的である。**底面** ローム層中に作られており、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 焼粘土塊1点を図示した。このほかに土師器環2点7.41g、甕20点340.39gが出土している。**時期** 不明。

E区 SK-93 (第163図、第98表、図版四八)

位置 調査区中央にあたるAN-49グリッドに位置している。**重複関係** SD-3より古い。**平面形状・規模** 形状は楕円形で、長軸52cm、短軸44cm、深さ20cmである。**主軸方向** N-32° -W **覆土** 2層で、自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中に作られており丸みを帯びる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 覆土の上層より、土師器の甕が11点、234.63g出土しているが、図示できなかった。**時期** 不明。

E区 SK-106 (第164-169図、第98-99表、図版四八)

位置 調査区南東部にあたるAQ-51・52グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 楕円

形で、長軸 212 cm、短軸 172 cm、深さ 68 cm である。 **主軸方向** N-55°-W **覆土** ローム主体で、人為的な埋め戻しと考えられる。 **底面** ローム層中に作られており、若干の凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の坏 1 点を図示した。ロクロ整形形である。このほかに土師器坏 10 点 84.97 g、高台付坏 1 点 24.12 g、鉢 1 点 9.81 g、甕 14 点 372.19 g、須恵器坏 10 点 31.17g、甕 3 点 21.43 g が出土している。 **時期** 10 世紀中頃か。

E区 SK-124 (第 165-169 図、第 98-99 表、図版四九・一二八)

位置 調査区中央にあたる AO-51 グリッドに位置する。 **重複関係** SD-1 と重複し、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 円形で、直径約 116 cm、深さ 24 cm である。 **覆土** 焼土粒子・炭化物を含む。自然堆積である。

底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の坏 1 点、高台付坏 1 点を図示した。22 は覆土中、23 は底面より 5 cm ほどから出土している。ロクロ整形形である。22 は「大」の墨書が側面に確認されている。このほかに土師器坏 1 点 2.24 g、甕 1 点 21.07 g、須恵器坏 1 点 2.41 g が出土している。 **時期** 10 世紀中頃か。

E区 SK-126 (第 165-169 図、第 98-99 表、図版四九)

位置 調査区北西部にあたる AL-48・49 グリッドに位置する。 **重複関係** SI-10 と重複し、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 長方形で、長軸 380 cm、短軸 80 cm、深さ 8 cm である。 **主軸方向** N-17°-E **覆土** ロームを多く含む暗褐色土が堆積している。人為的な埋め戻しである。 **底面** ローム層中に作られており、若干の凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の高台付坏 1 点を図示した。ロクロ整形形で、内面はヘラミガキ、黒色処理が施される。 **時期** 不明。

E区 SK-129 (第 165-169 図、第 98-99 表、図版四九・一二八)

位置 調査区中央にあたる AP-50・51 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 円形で、直径 98 cm、深さ 62 cm である。 **覆土** ロームを多く含む暗黄褐色土で埋め戻されている。 **底面** ローム層中に作られており、凹凸が著しい。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の高台付坏と考えられる 1 点を図示した。ロクロ整形形で、内面はヘラミガキ、黒色処理が施されている。このほかに土師器坏 1 点 8.80g、甕 4 点 17.13 g、須恵器坏 1 点 4.82g、甕 1 点 2.10 g が出土している。 **時期** 不明。

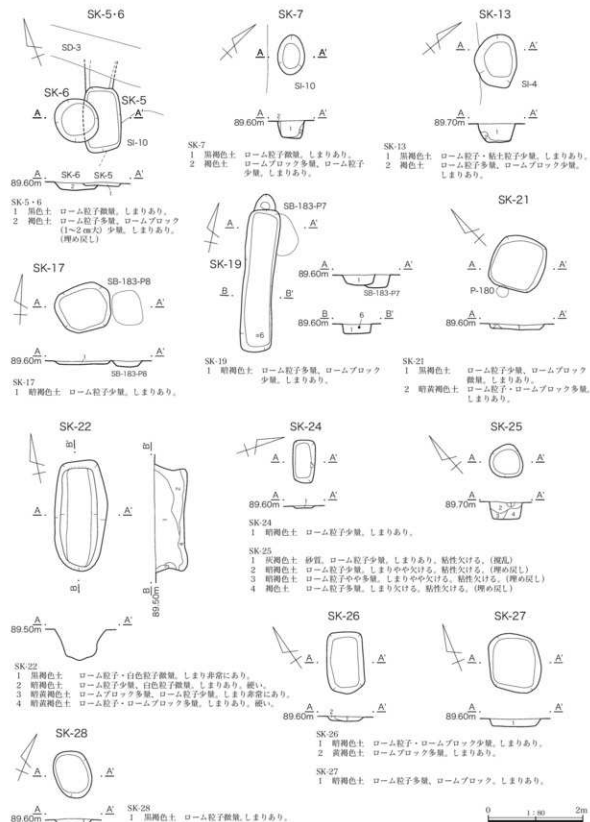
E区 SK-154 (第 165-169 図、第 98-99 表、図版一二八)

位置 調査区南部にあたる AN-50 グリッドに位置する。 **重複関係** SB-139 P9 と重複し、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 隅丸方形で、長軸 108 cm、短軸 94 cm、深さ 10 cm である。 **主軸方向** N-43°-W **覆土** ロームを含む。自然堆積と考えられる。 **底面** ローム層中に作られており、ほぼ平坦である。壁は斜めに立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の坏の破片 1 点を図示した。墨書が書かれている。ほかの遺物は出土していない。 **時期** 不明。

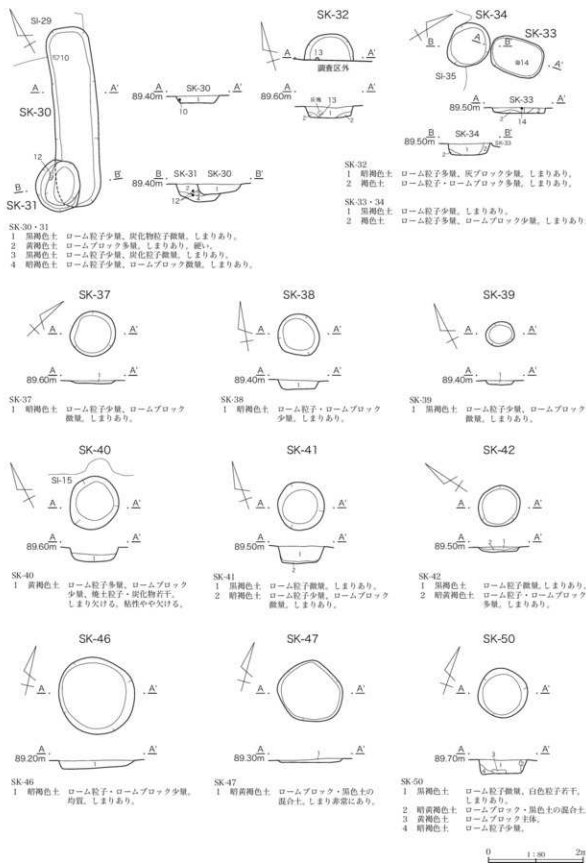
E区 SK-184 (第 167 図、第 98 表、図版五〇・五一)

位置 調査区中央にあたる AN-51 グリッドに位置する。 **重複関係** SI-43 より古い。 **平面形状・規模** 長方形で、長軸 210 cm、短軸 66 cm、深さ 76 cm である。 **主軸方向** N-6°-E **覆土** 1・2 層は堅く

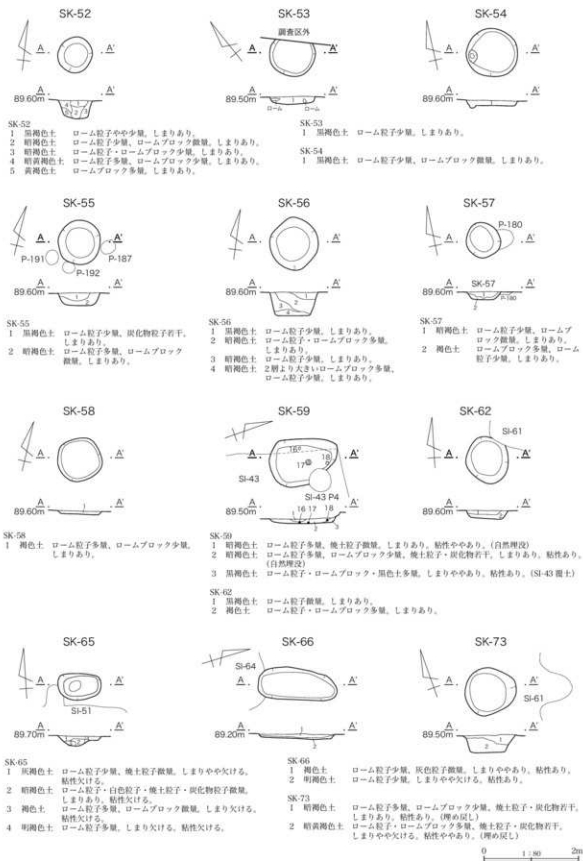
締まっている。3・4層は古い土坑か掘り返しの可能性もある。底面 ローム層中に作られており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。SI-43の床下土坑か。



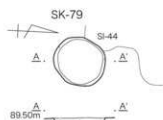
第160図 E区SK-5-7・13・17・19・21・22・24-28遺構実測図



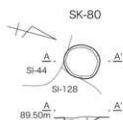
第161図 E区SK-30~34・37~42・46・47・50遺構実測図



第 162 図 E 区 SK-52・59・62・65・66・73 遺構実測図



SK-79
1 暗褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりやや欠ける。粘性ややあり。



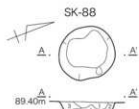
SK-80
1 暗褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりやや欠ける。粘性ややあり。



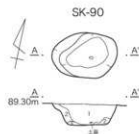
SK-81
1 暗褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック・白色粒子・焼土粒子・炭化物若干、しまりやや欠ける。粘性ややあり。



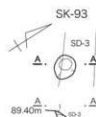
SK-82
1 暗褐色土 ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(埋め戻し)



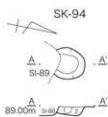
SK-88
1 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子微量、しまりあり。
2 明黒褐色土 粘土粒子少量、しまりあり。
3 褐色土 ローム粒子多量、粘土少量、しまりあり。
4 灰褐色土 粘土。



SK-90
1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物若干、しまりややあり。粘性ややあり。
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり。粘性あり。
3 暗褐色土 ロームブロック多量、しまりあり。粘性あり。



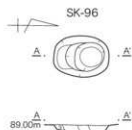
SK-93
1 暗褐色土 ロームブロック少量、焼土粒子微量、しまりあり。粘性ややあり。
2 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物若干、しまりあり。粘性あり。



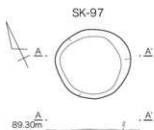
SK-94
1 黒色土 ローム粒子微量、しまりあり。
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり。



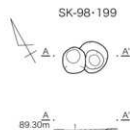
SK-95
1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり。



SK-96
1 灰色土 ローム粒子微量。
2 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりあり。
3 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり。



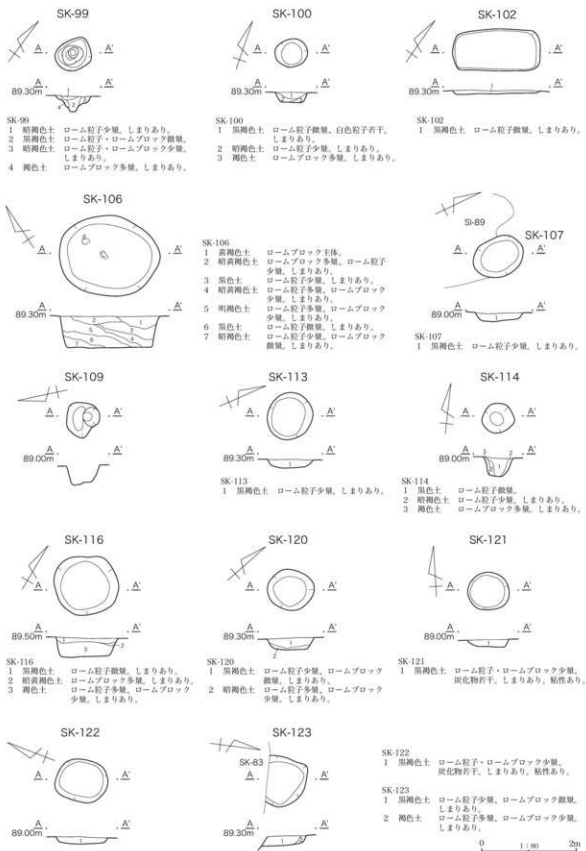
SK-97
1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり。



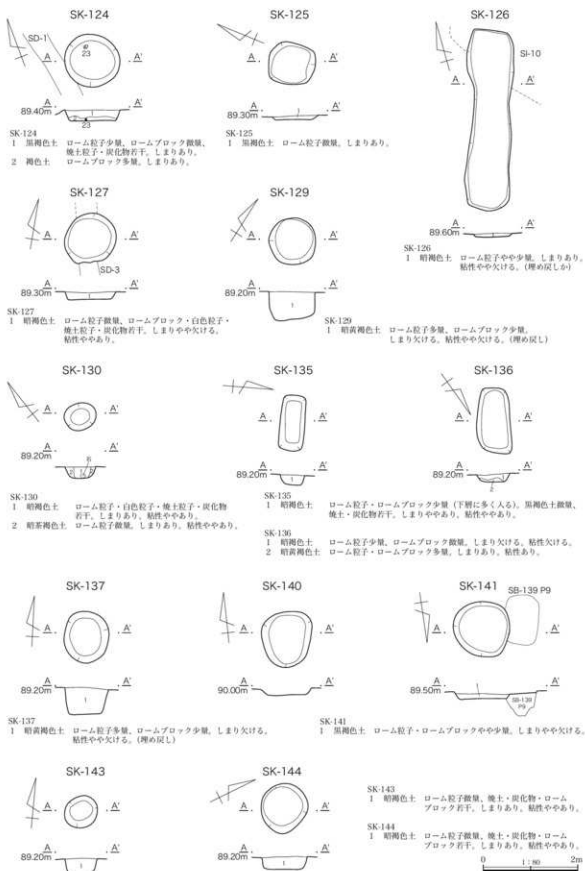
SK-98・199
1 暗褐色土 ローム粒子少量。
2 褐色土 ローム粒子多量。
3 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量。
4 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。



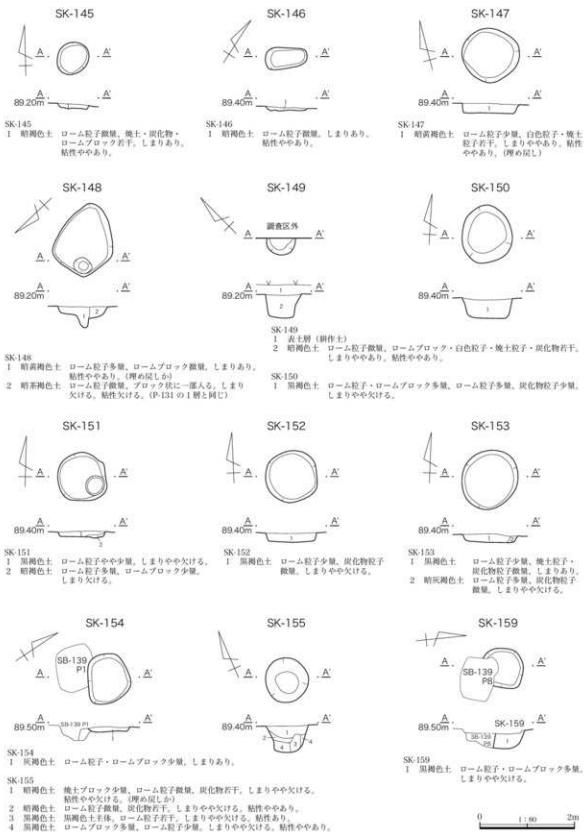
第163図 E区 SK-79-82・88・90・93-98・199 遺構実測図



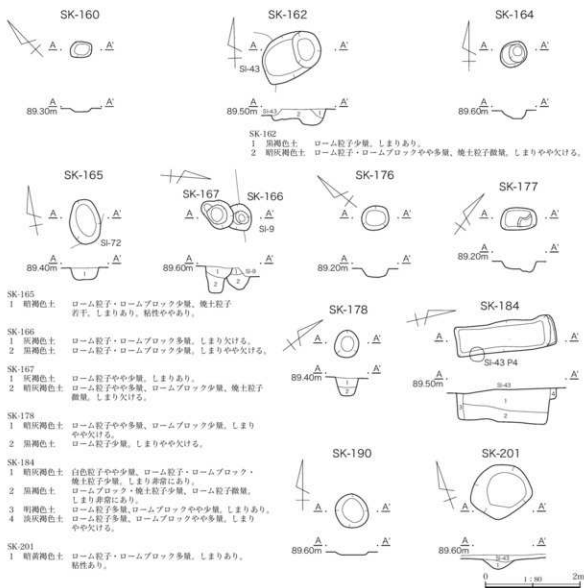
第164図 E区SK-99・100・102・106・107・109・113・114・116・120-123遺構実測図



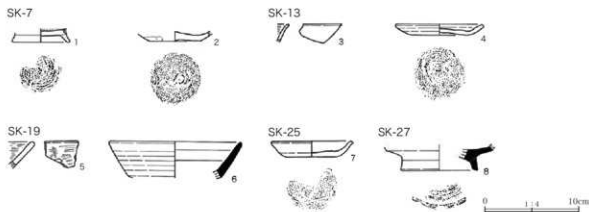
第165図 E区SK-124~127・129・130・135~137・140・141・143・144遺構実測図



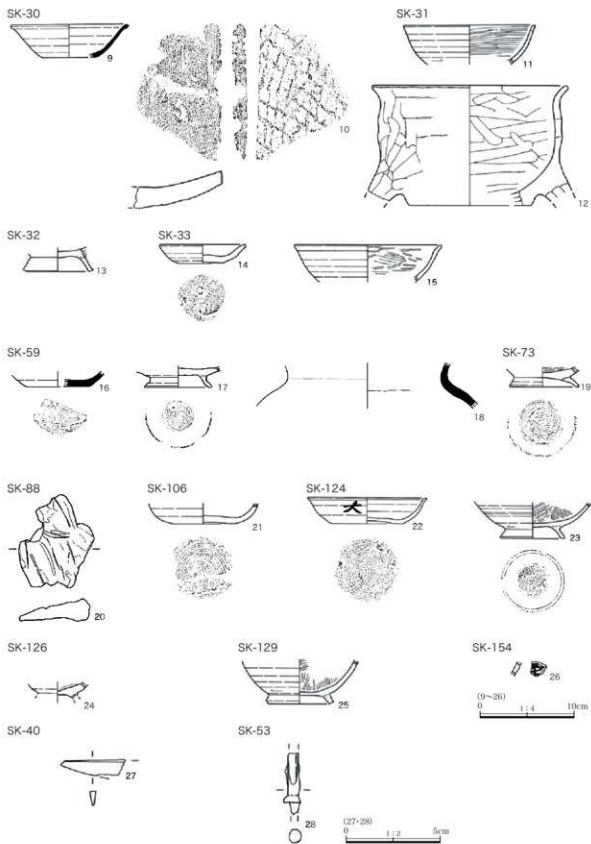
第166図 E区SK-145~155・159遺構実測図



第167図 E区 SK-160・162・164~167・176~178・184・190・201 遺構実測図



第168図 E区 SK-7・13・19・25・27 出土遺物実測図



第169図 E区SK-30・33・40・53・59・73・88・106・124・126・129・154出土遺物実測図

第99表 E区 SK-7-13-19-25-27-30-33-40-53-59-73-88-106-124-126-129-154 出土遺物観察表

探検 No.	種類 No.	種類 名称	計量値 (m・g)	色調	胎土・石質	状況	断面の状況	器形・胎形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	所在地・備考
168	1	土師器 高台付杯	口径 - 底径 6.1 器高 [1.4]	外面 10YR7/3 にふい黄褐色 内面 2.5C7/1 暗オリーブ灰	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	体外外面 ロクロナデ 内外面 ロクロナデ 底部 糸切り後ナデ 底部内面 ヘラミガキ 高台貼付	底部 4/5 残存	覆土中	E区 SK-7	
168	2	かわらけ	口径 - 底径 5.4 器高 [1.2]	10YR5/3 にふい黄褐色	砂粒・赤色粒 子微量	良好		体外外面 ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底面 糸切り	体一部 残存	覆土中	E区 SK-7	
168	3	土師器 杯	口径 - 底径 - 器高 [2.0]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 N2/0 黒	砂粒・白色粒 子微量	良好	内面 黒色処理	体外外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-13 一括	
168	4	かわらけ	口径 (9.2) 底径 6.0 器高 1.1	7.5YR7/4 にふい黄褐色	砂粒・微量	良好		口縁部 ロクロナデ 底部 糸切り	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-13 一括	
168	5	土師器 杯	口径 - 底径 - 器高 [2.9]	外面 7.5YR5/6 明褐色 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	内外面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-19 一括	
168	6	葉巻器 杯	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.9]	外面 2.5Y3/1 黒褐色 内面 2.5Y4/1 灰	砂粒・黒色粒 子多量	良好	外面 自然釉付 着		口縁部一 部残存	覆土上	E区 SK-19 No.1	産地不明
168	7	かわらけ	口径 (8.6) 底径 (5.3) 器高 1.7	7.5YR7/4 にふい黄褐色	砂粒・黒色粒 子少量	良好		口縁部 残存	2/3 残存	覆土中	E区 SK-25 確認品	
168	8	葉巻器 高台付杯	口径 - 底径 (8.2) 器高 [2.8]	外面 7.5Y4/1 灰 内面 5Y4/1 灰	砂粒・微量	良好		底部 ヘラケズリ 高台貼付	底部 1/4 残存	覆土中	E区 SK-27 一括	磁子産
169	9	葉巻器 杯	口径 (12.5) 底径 (5.7) 器高 3.5	10YR5/1 明灰	砂粒・微量	良好			口縁部 1/5、底 部一部残 存	覆土中	E区 SK-30 フタ上一括	磁子産
169	10	瓦葺	厚 2.3 重量 309.12	外面 10YR7/3 にふい黄褐色 内面 7.5YR6/6 橙	砂粒少量	良好	被熱	凸面 格子タタキ 凹面 布目織 側面 ヘラケズリ、指ナ デ	一部残存	底面よ り 8 cm	E区 SK-30 No.1	
169	11	土師器 土師	口径 (14.0) 底径 10.0 器高 [4.2]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	口縁部 体外外面 ロク ロナデ 体部下平 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-31 フタ上一括	
169	12	土師器 三足土器	口径 (20.8) 底径 (13.0) 器高 [12.7]	外面 7.5YR3/1 黒褐色 内面 7.5YR4/3 灰	砂粒・微量多量、 白雲母微量	やや 不良		口縁部 胴部外面 ヘラナ デ 胴部 底部外面 ヘラケズ リ 内面 ナデ	口縁部・ 胴部一 部、胴部 1/4 残存	底面よ り 15 - 20 cm	E区 SK-31 No.1、フタ 上一括	
169	13	土師器 高台付杯	口径 - 底径 7.4 器高 [2.4]	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 10Y2/1 黒	砂粒微量	良好	黒部あり 内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 底部内面 ヘラミガキ	高台全 周、底部 残存	底面よ り 5 cm	E区 SK-32 No.1	
169	14	かわらけ	口径 9.2 底径 4.7 器高 2.0	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・微・白 色粒子微量	良好		内外面 ロクロナデ 底部 糸切り	口縁部一 部残存	覆土上	E区 SK-33 No.1	
169	15	土師器 杯	口径 (15.6) 底径 - 器高 [4.0]	7.5YR6/4 にふい黄褐色	微・白色粒 子微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-33 一括	
169	16	葉巻器 杯	口径 - 底径 (6.6) 器高 [1.6]	5Y7/2 黄褐色	砂粒少量	良好		底部 ナデ	底部 1/3 残存	底面直 上	E区 SK-59 No.1	磁子産
169	17	土師器 高台付杯	口径 - 底径 7.2 器高 [2.3]	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 7.5YR4/3 灰	砂粒微量	良好		底部 糸切り	口縁部完 全、高台 1/2 残存	底面よ り 2 cm	E区 SK-59 No.2	
169	18	葉巻器 罎	口径 - 底径 - 器高 [5.0]	外面 7.5Y3/1 オリーブ灰 内面 10Y4/1 灰	砂粒多量、黒 色粒子微量	良好		ヨコナデ	胴部一 部残存	底面よ り 約 7 cm	E区 SK-59 No.3	産地不明
169	19	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (7.4) 器高 [2.1]	外面 10YR6/4 明黄褐色 内面 10YR5/3 にふい黄褐色	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	体外外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 糸切り後ナデ 高台貼付	高台部 1/3 欠損	覆土中	E区 SK-73 No.3	
169	20	焼粘土塊	長 7.0 幅 5.7 厚 1.7 重 39.01	7.5YR6/4 にふい黄褐色			スラ痕あり			覆土中	E区 SK-88 フタ上一括	
169	21	土師器 杯	口径 (6.7) 底径 (6.7) 器高 [2.2]	10YR6/4 成黄褐色	砂粒微量	良好		内外面 ロクロナデ 底部 糸切り	体部下平 1/4、底 部 3/4 残 存	覆土中	E区 SK-106 一括	
169	22	土師器 杯	口径 (12.6) 底径 (7.4) 器高 2.7	7.5YR7/8 黄褐色	砂粒・微量少 量、赤色粒子若干	良好	黒雲「大」あ り	内外面 ロクロナデ 底部 糸切り	口縁部一 部残存	覆土中	E区 SK-124 フタ上一括	

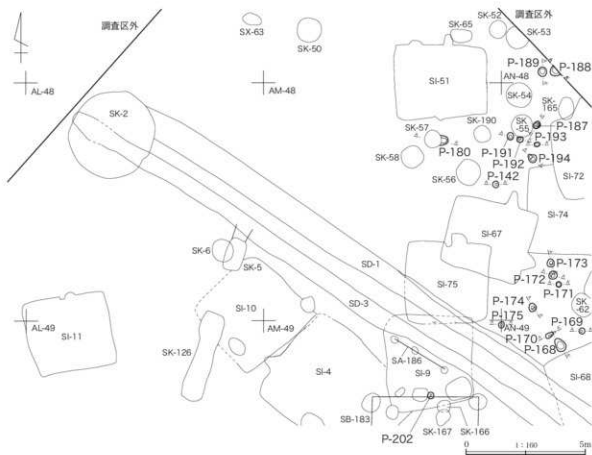
169	23	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (6.8) 器高 [3.8]	外面 10YR5/4 に赤い斑 内面 N2/O 黒	砂粒少量、赤 色粘土微量	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 体部下端 回転ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ 底部 赤守り 高台取付	坏体部 1/4、高 台部全周 残存	底面よ り 3 cm	E 区 SK-124 No.1	
169	24	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (1.9)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 N3/O 黒灰	砂粒少量、澁 灰	良好	内面 黒色処理	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 高台取付	一部残存	覆土中	E 区 SK-126	
169	25	土師器 高台付杯	口径 - 底径 (7.2) 器高 [4.7]	外面 7.5YR6/4 に赤い斑 内面 10YR3/1 黒濁	砂粒・白雲母 微量	良好	内面 黒色処理	体部外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 底部 回転ヘラケズリ機 ナデ 高台取付	体部一 部、高台 部全周残 存	覆土中	E 区 SK-129	
169	26	土師器 坏	口径 - 底径 - 器高 [1.7]	外面 5YR4/4 に赤い赤濁 内面 5YR5/3 に赤い赤濁	砂粒微量	良好	黒雲あり		体部一部 残存	覆土中	E 区 SK-154	
169	27	鉄製品 刀子	長 [3.41] 幅 0.87 厚 0.34 重 1.84							刃部残存	覆土上 層	E 区 SK-40 上層
169	28	鉄製品 不明	長 [3.32] 幅 0.93 厚 0.74 重 4.43					断面 円形		一部残存	覆土上 層	E 区 SK-53

7 ビット

E区では調査区の北部などの台地上に34基のビットが確認されている。遺物はほとんど出土しない。P-198では柱痕状の土層が確認されており、掘立柱建物と係わる可能性がある。ほかにも竪穴建物や掘立柱建物の柱穴と推定されるものもある。計測表にまとめる。

第100表 E区ビット計測表

遺構番号	照番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	参照関係
P-23	SK-23	AM-49	-	円形	0.56	0.40	0.54	U字状	無	SB-183と重複
P-45	P-199	AL-49	N-16° W	楕円形	0.48	0.36	-	-	-	-
P-48	P-48	AL-49	-	円形	0.46	0.44	0.12	逆台形	無	-
P-70	P-195	AN-50	-	円形	0.26	0.24	0.18	U字状	無	SB-139と重複
P-71	P-196	AN-50	-	円形	0.26	0.24	0.13	U字状	無	SB-139と重複
P-85	P-201	AL-49	N-4° W	楕円長方形	0.60	0.44	0.04	皿状	無	SD-3より古
P-131	P-131	AQ-50	-	円形	0.40	0.36	0.36	U字状	無	-
P-132	P-132	AQ-50-51	-	円形	0.56	0.52	0.46	U字状	有	-
P-133	P-133	AQ-51	-	円形	0.36	0.30	0.14	U字状	無	-
P-134	P-134	AQ-51	-	円形	0.38	0.32	0.36	U字状	無	-
P-138	P-138	AQ-50	-	円形か	0.40	[0.26]	0.24	逆台形	有	-
P-142	P-203	AM-48	-	円形	0.28	0.26	0.36	U字状	無	-
P-168	P-168	AN-49	N-35° W	本輪楕円形	0.60	0.42	0.28	逆台形	有	-
P-169	P-169	AN-49	-	円形	0.36	0.26	0.16	U字状	有	-
P-170	P-170	AN-49	N-52° E	楕円方形	0.36	0.20	0.16	U字状	無	-
P-171	P-171	AN-48	-	円形	0.24	0.22	0.34	U字状	有	-
P-172	P-172	AN-48	-	円形	0.36	0.34	0.24	U字状	有	-
P-173	P-173	AN-48	-	円形	0.34	0.30	0.22	逆台形	無	-
P-174	P-174	AN-48	-	円形	0.36	0.32	0.22	有段	無	-
P-175	P-175	AM-AN-49	-	円形	0.28	0.24	0.22	U字状	無	-
P-179	P-179	AM-50	-	円形	0.32	0.30	0.14	U字状	無	-
P-180	P-180	AM-48	N-0°	楕円形か	0.40	[0.26]	0.06	皿状	有	SK-57より古
P-181	P-181	AN-50	N-7° E	楕円形か	0.40	0.36	0.28	U字状	無	-
P-182	P-182	AM-50	-	円形	0.24	0.24	0.24	U字状	有	SK-21より古
P-187	P-187	AN-48	N-28° E	楕円形	0.34	0.28	0.21	有段	無	-
P-188	P-188	AN-47	-	円形か	0.48	[0.32]	0.18	逆台形	無	-
P-189	P-189	AN-47	-	円形	0.40	0.36	0.04	逆台形	無	-
P-191	P-191	AN-48	-	円形	0.32	0.28	0.26	U字状	無	-
P-192	P-192	AN-48	-	円形	0.26	0.24	0.24	U字状	無	-
P-193	P-193	AN-48	-	円形	0.24	0.18	0.12	逆台形	無	-
P-194	P-194	AN-48	N-46° W	不整形	0.42	0.36	0.18	逆台形	無	-
P-197	P-197	AO-50	-	円形	0.36	0.30	0.27	U字状	無	-
P-198	P-198	AO-50	-	円形	0.42	0.38	0.28	U字状	無	-
P-200	-	AO-50	N-45° E	楕円形	0.54	0.48	0.44	U字状	無	SK-84より新
P-202	-	AM-49	-	円形	0.28	0.28	0.26	U字状	無	-



P-168
1 黒褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、しまりややあり。



P-173
1 黒褐色土 ロームブロック多量。



P-188・189・191～194

- 1 暗褐色土 ローム粒子観察、しまりあり、粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子少量、しまりややあり、粘性普通。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子少量、焼土粒子若干、しまりあり、粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子若干、しまりややあり、粘性普通。

P-169～172・174・175

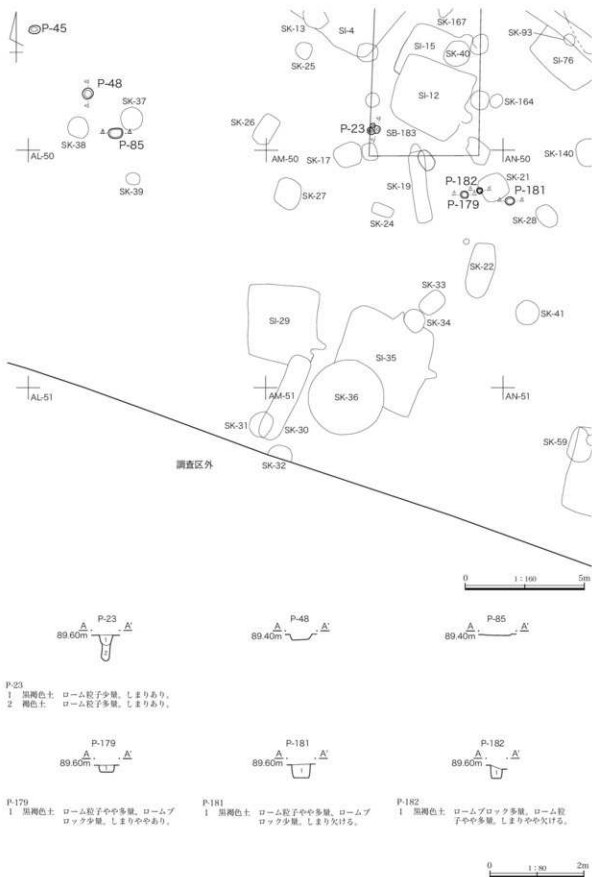
- 1 灰褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり。

P-190

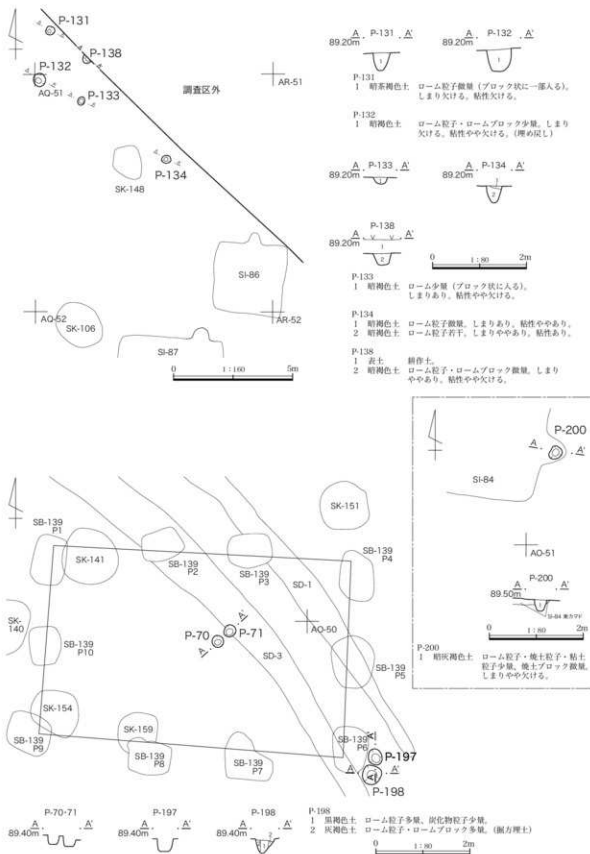
- 1 黒褐色土 ローム粒子観察、しまりあり。



第170図 E区ピット実測図(1)



第171図 E区ビット実測図(2)



第172図 E区ビット実測図(3)

8 その他

E区 SX-63 (第173図、第101表、図版五一)

位置 調査区北部にあたるAL-47グリッドに位置する。

重複関係 なし。平面形状・規模 楕円形で、長軸80cm、短軸48cm、深さ6cmである。主軸方向 N-11°-E

覆土 2層で焼土が確認されている。3層は火床面と考えられる。底面 ローム層中に作られており、ほぼ平坦である。壁は斜めに立ち上がる。出土遺物 図示できる遺物は出土していないが、土師器甕4点8.80g、須恵器杯1点8.26gが出土している。時期 不明。焼土遺構と考えられる。



第173図 E区焼土遺構実測図

第101表 E区焼土遺構計測表

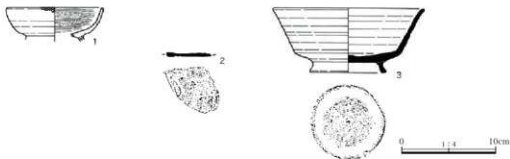
遺構番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土遺物	重複関係
SX-63	AL-47	N-11°-E	楕円形	0.80	0.48	0.06	皿状	有	

9 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

E区遺構外の遺物 (第174図、第102表、図版一二八)

土師器の高台付杯1点、須恵器の杯1点、高台付杯1点を図示した。1は口縁部に油煙と考えられる黒色物が付着する。ロクロ整形で、内面はヘラミガキ、黒色処理が施される。2は底面に刻書が確認されている。



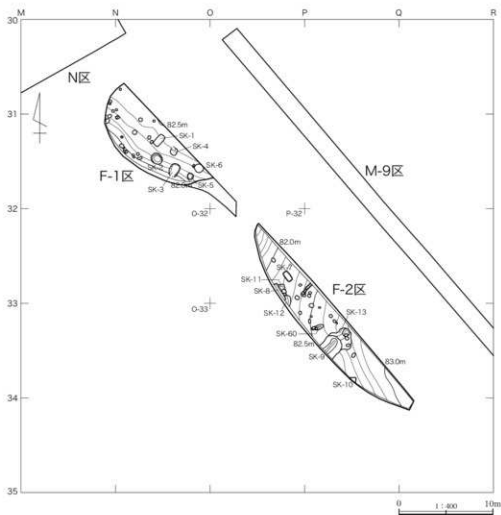
第174図 E区遺構外出土遺物実測図

第102表 E区遺構外出土遺物観察表

図版 No.	種別・器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	胎形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
174 1	土師器 高台付杯	口径 (10.2) 底径 - 器高 (3.6)	外面 7.5YR7/6 内面 2.5GY3/1 嘴オリーブ灰	砂粒少量	良好	内面 黒色処理 外面 油煙付着	外面 ロクロナデ 内面 ヘラミガキ 高台無付	口縁～体部 1/4 残存、高台部欠損	表土中	表土一括	
174 2	須恵器 杯	口径 - 底径 - 器高 (0.4)	外面 2.5Y5/2 噴火灰 内面 10YR6/3 にぶい濃褐色	砂粒・白色粉子微量	やや良好	割痕あり		底面一部残存	表土中	表土一括	磁子産
174 3	須恵器 高台付杯	口径 (16.0) 底径 8.0 器高 6.8	5Y4/1 灰	砂粒・塵多量	良好	内面 黒色処理	ロクロ目録著 底面ヘラ切り後ナデ 高台無付	口縁～体部 1/4 残存、底面欠損	表土中	E区 AN-49 一括	磁子産

第9節 F区

F区は、N区の南東、M区の南西の台地斜面上に位置する。西側の水田との比高差は5mである。土坑14基、ピット47基が確認された。



第175図 F区全体図 (ピットは別図あり)

I 土坑

台地の落ち際に集中して14基が確認されている。

第103表 F区土坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-1	1	N-31	N-40°-E	長方形	1.33	0.70	0.25	箱形	有	
SK-2	1	N-31	N-50°-W	楕円形	1.25	1.10	0.32	逆台形	有	
SK-3	1	N-31	N-15°-E	隅丸方形	1.30	1.00	0.25	逆台形	有	
SK-4	1	N-31	N-30°-E	楕円形	0.76	0.70	0.10	逆台形	無	
SK-5	1	N-31	N-0°	楕円形	0.70	0.61	0.15	逆台形	無	
SK-6	1	N-31	N-0°	楕円形	0.90	0.88	0.30	逆台形	有	
SK-7	2	O-32	N-35°-W	長方形	1.15	0.60	0.20	逆台形	無	
SK-8	2	O-32	N-30°-W	長方形	2.02	0.30	0.38	逆台形	無	SK-12、P-61より古 SK-11より新
SK-9	2	P-33	N-43°-E	楕円形	1.97	2.00	0.40	U字状	有	SK-13より新
SK-10	2	P-33	不明	方形か	0.75	0.38	0.30	竪柱状	無	
SK-11	2	O-32	N-30°-W	長方形か	1.30	0.55	0.15	U字状か	無	SK-8、P-61より古 SK-12より新
SK-12	2	O-32-33	不明	不整形	1.10	0.68	0.24	竪状	無	SK-8・11、P-61より古
SK-13	2	P-33	N-54°-E	楕円形か	2.50	1.70	0.18	U字状	無	SK-9、P-56～58より古
SK-60	2	P-33	N-80°-E	楕円形	1.31	0.48	0.26	U字状	無	P-51・52より古

F区SK-1(第176図、第103表、図版五一)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に長い長方形で、長軸133cm、短軸70cm、深さ25cmである。**主軸方向** N-40°-E **覆土** しまりのある暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点18.95g、須恵器環2点13.38gが出土している。**時期** 不明。

F区SK-2(第176-178図、第103-105表、図版五一)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北西-南東方向にわずかに長い楕円形で、長軸125cm、短軸110cm、深さ32cmである。**主軸方向** N-50°-W **覆土** 締まりのある黒褐色土と暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びる。壁は比較的緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 須恵器環1点を図示した。このほかに土師器甕2点14.72g、須恵器環4点33.33g、高台付環1点14.61gが出土している。**時期** 不明。

F区SK-3(第176図、第103表、図版五一)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南東方向に長い隅丸方形である。長軸130cm以上、短軸100cm、深さ25cmである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** しまりのある黒褐色土と暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや傾斜があるが平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点

30.48 g、須恵器環1点3.76 gが出土している。 時期 不明。

F区SK-4 (第176図、第103表、図版五一)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。 **重複関係** なし。**平面形状・規模** 一部が攪乱によって破壊されているが、南北方向にわずかに長い楕円形である。長軸76 cm、短軸70 cm、深さ10 cmである。 **主軸方向** N-30° - E **覆土** 上面中央に堆積する黒色土と大部分を覆う褐色土の2層である。 **底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つが平坦となっている。壁は比較的緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 時期 不明。

F区SK-5 (第176図、第103表)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形で、長軸70 cm、短軸61 cm、深さ15 cmである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 地山由来のローム粒子を少量含む黒色土と褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られている。西側に向かってやや傾斜するが、おおむね平坦となっている。壁は底面から急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 時期 不明。

F区SK-6 (第176図、第103表、図版五一)

位置 1区中央部にあたるN-31グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形で、長軸90 cm、短軸88 cm、深さ30 cmである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 上面を覆う暗褐色土と底面を覆う褐色土の2層を確認した。いずれも良く締まっている。 **底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環1点11.83 g、甕1点32.35 gが出土している。 時期 不明。

F区SK-7 (第176図、第103表、図版五二)

位置 2区北西部にあたるO-32グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い長方形である。長軸115 cm、短軸60 cm、深さ20 cmである。 **主軸方向** N-35° - W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含む暗褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 時期 不明。

F区SK-8 (第176図、第103表)

位置 2区北西部にあたるO-32グリッドに位置する。 **重複関係** SK-12、P-61より古く、SK-11より新しい。 **平面形状・規模** 大半の部分が調査区外のため詳細は不明であるが、南北方向に長い長方形とみられる。長軸202 cm、短軸30 cm以上、深さ38 cmである。 **主軸方向** N-30° - W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含み、締まりの良い褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 時期 不明。

F区SK-9・13 (第176-178図、第103-105表、図版一四九)

位置 2区中央部にあたるP-33グリッドに位置する。 **重複関係** SK-13と重複し、SK-9が新しい。ま

たSK-13とP-56・57・58が重複しており、SK-13がいずれよりも古い。**平面形状・規模** SK-9は北東―南西方向に長い楕円形とみられる。確認できた範囲で長軸197cm以上、短軸200cm、深さ40cmである。SK-13はSK-9によって破壊されており、上端のラインが不定形であるが、SK-9と同様に北東―南西方向に主軸を持つ平面形とみられる。確認できた範囲で長軸250cm、短軸170cm以上、深さ18cmである。**主軸方向** SK-9がN-43°-E、SK-13がN-54°-E **覆土** SK-9・13合わせて7層確認した。SK-9の覆土は、1～3層で流入土とみられる黒褐色土・暗褐色土と、壁の崩落土とみられる褐色土で構成される。SK-13の覆土は4～7層でSK-9と同様に流入土と壁の崩落土で構成される。**底面** いずれもローム層中に作られている。底面中央は丸みを帯び、そこから非常に緩やかに立ち上がる。**出土遺物** SK-9で鉄製品1点が覆土中より出土し、図示した。鏝で箱金具の可能性がある。このほかに土師器甕5点78.81g、須恵器環2点10.98g、甕3点43.85gが出土している。**時期** 不明。墓域か。

F区SK-10 (第176図、第103表)

位置 2区南東部にあたるP-33グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 大半が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした土坑の隅部分とみられる。確認できた範囲で、長軸75cm以上、短軸38cm以上、深さ30cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 2層確認し、いずれも自然堆積土とみられる。**底面** 中央部分がわずかに窪む。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

F区SK-11 (第176図、第103表)

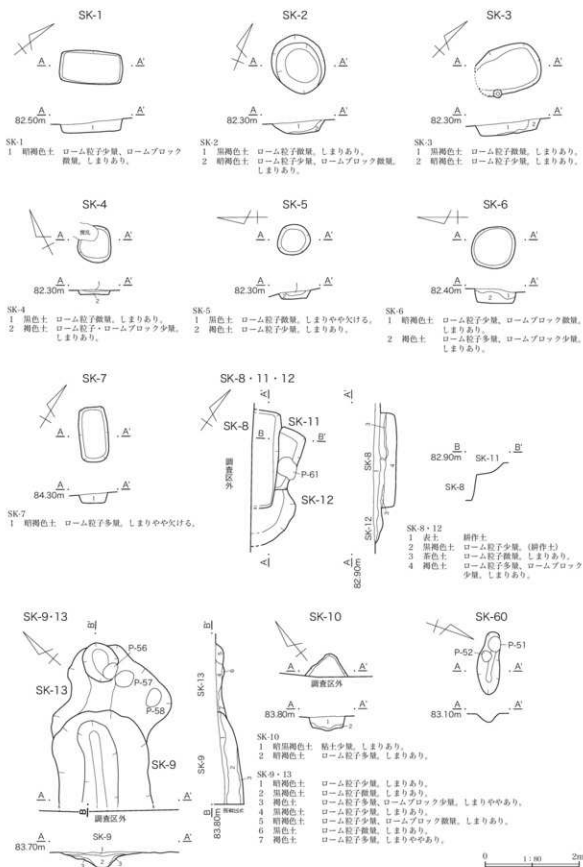
位置 2区中央部にあたるO-32グリッドに位置している。**重複関係** SK-8・12、P-61と重複しており、SK-8とP-61より古く、SK-12より新しい。**平面形状・規模** 重複によって大部分が破壊されているが、南北方向に長い長方形とみられる。確認できた範囲で、長軸130cm以上、短軸55cm以上、深さ15cmである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 不明。**底面** 平坦となっており、壁は比較的緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

F区SK-12 (第176図、第103表)

位置 2区中央部にあたるO-32・33グリッドに位置する。**重複関係** SK-8・11、P-61と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 重複によって大部分が破壊されており、詳細は不明であるが、円形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で長軸110cm以上、短軸68cm以上、深さ24cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 流入土とみられる黒褐色土が認められた。**底面** 比較的平坦となっており、壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

F区SK-60 (第176図、第103表)

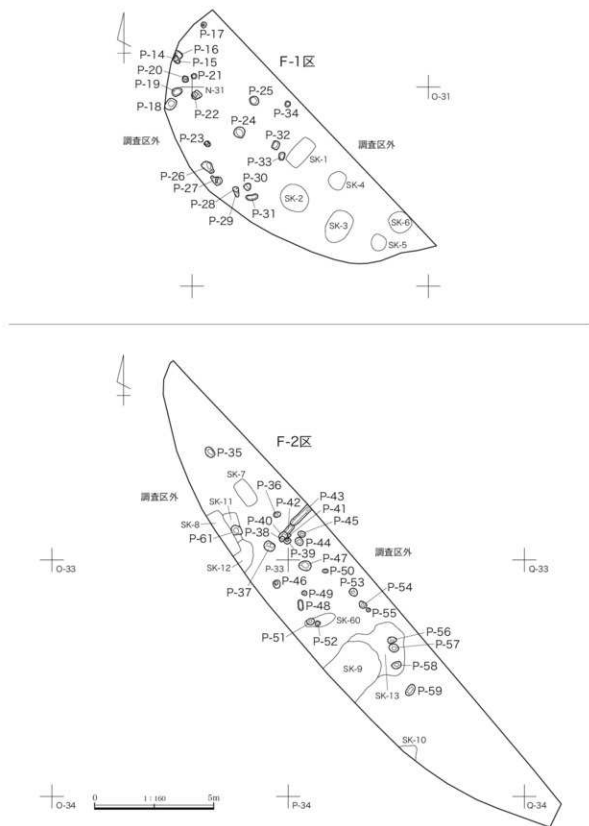
位置 2区中央部にあたるP-33グリッドに位置する。**重複関係** P-51・52と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 東西方向に細長く伸びる楕円形である。長軸131cm、短軸48cm、深さ26cmである。**主軸方向** N-80°-E **覆土** 不明。**底面** 幅狭く、壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第176図 F区SK-1～13・60遺構実測図

2 ビット

F区では47基のビットが、1区の北東と2区の中央にまよって確認されている。計測表にまとめる。



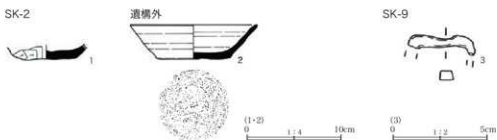
第177図 F区ビット遺構実測図

第104表 F区ビット計測表

道標番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土 遺物	重層関係
P-14	1	M-30	N-0°	横円形	0.24	0.20	0.34	無	P-15・16と重覆
P-15	1	M-30	N-56° -W	横円形	0.30	0.20	0.09	無	P-14・16と重覆
P-16	1	M-30	N-56° -W	横円形	[0.35]	[0.20]	0.14	無	P-14・15と重覆
P-17	1	N-30	N-0°	横円形	0.25	0.21	0.14	無	
P-18	1	M-31	N-40° -E	横円形	[0.40]	[0.32]	0.09	無	
P-19	1	M-31	N-61° -E	横円形	0.45	0.34	0.14	無	
P-20	1	M-30	N-0°	横円形	0.27	0.24	0.12	無	
P-21	1	N-30	-	円形	0.22	0.22	0.11	無	
P-22	1	N-31	-	不整円形	0.37	0.35	0.22	無	
P-23	1	N-31	N-0°	横円形	0.25	0.22	0.23	無	
P-24	1	N-31	N-0°	横円形	0.46	0.45	0.24	無	
P-25	1	N-31	-	円形	0.36	0.35	0.29	無	
P-26	1	N-31	N-38° -W	横円形	0.60	[0.38]	0.17	無	
P-27	1	N-31	-	不整円形	[0.40]	0.35	0.15	無	
P-28	1	N-31	N-0°	横円形	0.25	0.20	0.25	無	P-29と重覆
P-29	1	N-31	N-0°	横円形	0.22	0.17	0.13	無	P-28と重覆
P-30	1	N-31	-	不整円形	0.30	0.30	0.18	無	
P-31	1	N-31	-	不整円形	0.52	0.23	0.12	無	
P-32	1	N-31	-	方形	0.35	0.29	0.18	無	
P-33	1	N-31	-	方形	0.34	0.25	0.09	無	
P-34	1	N-31	-	円形	0.25	0.23	0.26	無	
P-35	2	O-32	N-35° -W	横円形	0.50	0.35	0.22	無	
P-36	2	O-32	N-0°	横円形	0.30	0.22	0.24	無	
P-37	2	O-32	N-50° -W	横円形	0.45	0.37	0.27	無	
P-38	2	O-32	-	円形	0.25	0.25	0.19	無	P-39・40と重覆
P-39	2	O-32-P-32	-	円形	0.28	0.27	0.22	無	P-38・40・41と重覆
P-40	2	O-32-P-32	N-0°	横円形	0.38	0.30	0.21	無	P-38・39・41・42と重覆
P-41	2	O-32 P-32	N-0°	横円形か	[0.17]	[0.13]	[0.10]	無	P-39・40・42と重覆
P-42	2	O-32 P-32	N-42° -E	楕円長方形	[0.44]	0.25	0.14	無	P-40・41・43と重覆
P-43	2	P-32	N-46° -E	楕円長方形	[0.50]	0.28	0.09	無	P-42と重覆
P-44	2	P-32	N-0°	横円形	0.36	0.30	0.15	無	
P-45	2	P-32	N-0°	横円形	0.32	0.26	0.12	無	
P-46	2	O-33	N-0°	横円形	0.34	0.29	0.20	無	
P-47	2	P-33	N-0°	横円形	0.52	0.42	0.21	無	
P-48	2	P-33	N-5° -W	長方形	0.43	0.21	0.08	無	
P-49	2	P-33	-	円形	0.23	0.23	0.02	無	
P-50	2	P-33	N-0°	横円形	0.23	0.15	0.10	無	
P-51	2	P-33	N-0°	横円形	0.32	0.26	0.08	無	SK-60より新
P-52	2	P-33	N-0°	横円形	0.24	0.21	0.15	無	SK-60より新
P-53	2	P-33	N-0°	横円形	0.35	0.30	0.12	無	
P-54	2	P-33	N-48° -W	横円形	0.34	0.25	0.14	無	
P-55	2	P-33	-	円形	0.18	0.18	0.12	無	
P-56	2	P-33	N-77° -E	横円形	0.38	0.25	0.18	無	SK-13より新

第3章 確認された遺構と遺物

P-57	2	P-33	N-0'	楕円形	0.38	0.35	0.18	無	SK-13より新
P-58	2	P-33	N-16' -W	楕円形	0.41	0.27	0.12	無	SK-13より新
P-59	2	P-33	N-32' -E	楕円形	0.51	0.31	0.12	無	
P-61	2	O-32	-	不整形円形	0.50	0.44	0.12	無	SK-8・11・12より新



第178図 F区SK-2・9・遺構外出土遺物実測図

第105表 F区SK-2・9・遺構外出土遺物観察表

探検 No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
178	1	口径 底径 高さ 6.6 [1.6]	外面 7.5Y9b/4 にぶい層 内面 5Y7/1 灰白	砂粒少量、赤 色粒若干	不良		体部ト端 手持ちヘラケズリ 底部ヘラ切り後ヘラケズリ	底部 1/3 残存	覆土中	F区SK-2 No.1	益子産
178	2	口径 13.4 底径 7.8 高さ 3.7	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・礫少量	良好		ロケロ目面著 底部ヘラ切り後ヘラケズリ	口縁部 1/4欠損	表土中	F区 北フク土	益子産
178	3	長 [3.57] 幅 0.76 厚 0.50 形 2.68						一部残存	覆土中	F区SK-9	

3 遺構外の遺物

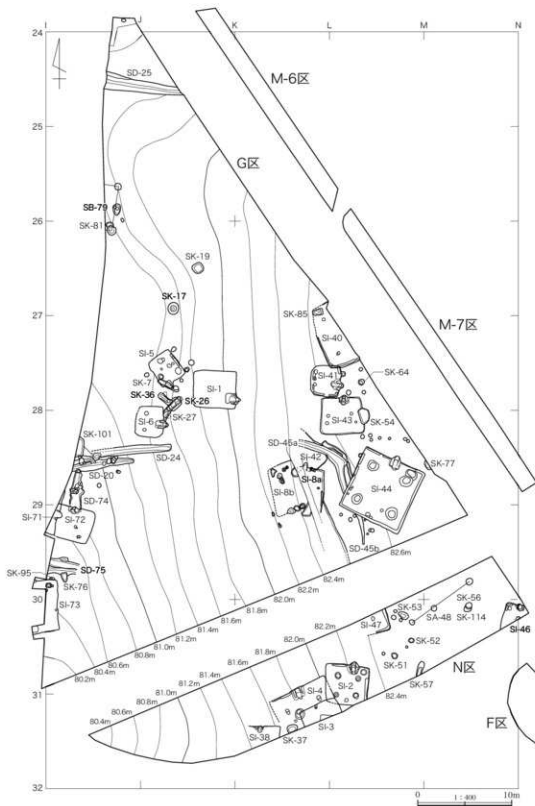
表土中から出土したものを掲載する。

F区遺構外の遺物（第178図、第105表）

須恵器の環が表土中から出土している。

第10節 G・N区

G区とN区を同時に調査したため、遺構番号はG区からの通し番号で付されているため、まとめて報告する。



G・N区は台地の西側斜面に立地する。82.4mラインで段差が作られており、削平されている。両区併せて、竪穴建物跡19軒、掘立柱建物跡1棟、櫛列1列、溝6条、土坑21基、ピット48基が確認されている。

1 竪穴建物跡

竪穴建物跡は台地の緩斜面上と台地の落ち際にも造られている。

第106表 G区竪穴建物跡計測表

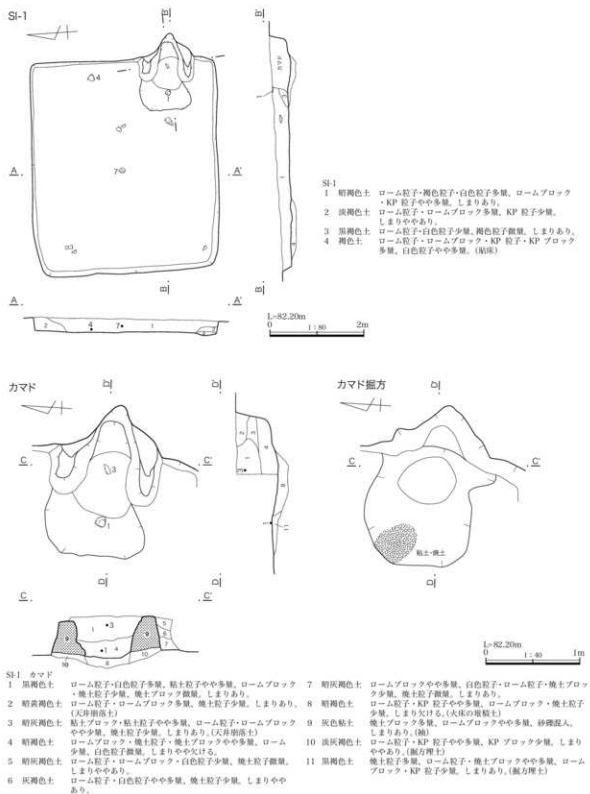
遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	ピット	竪	カマド	貯蔵穴	竪溝	間仕切溝	出土遺物	重複関係
SI-1	SI-1	J-27 K-27	N-90° - E	長方形	4.50	3.95	0.30	無	無	有	無	無	無	有	
SI-2	SI-2	K-30*31 L-30*31	N-10° - E	方形	4.50	4.30	0.23	6	無	有	有	有	無	有	SI-3より古 SI-4より新
SI-3	SI-3	K-31・L-31	N-24° - W	方形か	4.20	[1.70]	0.23	2	無	無	無	無	無	有	SI-2・4より新
SI-4	SI-4	K-30*31 L-30*31	N-24° - W	方形か	[5.80]	[3.90]	0.23	4	無	有	無	有	無	有	SI-2・3、SK-37より古
SI-5	SI-5	J-27	N-143° - E	方形	2.80	3.20	0.20	8	無	有	無	有	無	有	SK-7より古
SI-6	SI-6	I-27*28 J-27*28	N-95° - E	方形	3.30	2.90	0.50	2	無	有	無	無	無	有	SK-27より新
SI-8a	S-8	K-28*29	N-6° - E	長方形	[3.60]	[5.00]	0.40	1	無	有	無	有	無	有	SI-42より新 P-94・113と重複
SI-8b	S-9	K-28*29	N-20° - W	長方形か	[4.60]	[5.00]	-	5	無	有	無	無	無	無	
SI-38	SI-38	K-31	N-10° - E	方形か	[1.30]	[3.50]	0.20	無	無	有	無	無	無	有	
SI-40	SI-40	K-27・L-27	N-20° - W	方形か	[3.00]	7.0	0.50	2	無	無	無	有	無	有	SI-41より古SK-85より新
SI-41	SI-41	K-27・L-27	N-90° - E	正方形	3.20	3.20	0.30	3	無	有	無	有	無	有	SI-40より新 P-60と重複
SI-42	SI-42	K-28	N-45° - W	方形か	[2.20]	[3.80]	0.10 未満	無	無	無	無	無	無	有	SI-8・SD-45aより古 P-94・113と重複
SI-43	SI-43	K-27*28 L-27*28	N-10° - E	長方形	4.60	3.90	0.20	4	無	2	無	無	無	有	SK-54より古
SI-44	SI-44	L-28*29 M-28	N-25° - E	方形	7.40	7.00	0.25	10	無	有	有	有	無	有	SD-45aより古 P-70と重複
SI-46	SI-46	M-30・N-30	N-17° - E	方形か	[2.50]	[3.00]	0.20	2	無	有	無	有	無	有	
SI-47	SI-47	L-30	不明	方形か	[2.60]	[2.00]	0.35	1	無	無	無	有	無	有	
SI-71	SI-71	H-28*29 I-28*29	N-102° - E	方形か	[5.00]	[5.00]	0.05	無	無	有	無	無	無	有	SI-72より新
SI-72	SI-72	I-28*29	N-15° - E	長方形か	[3.50]	3.50	0.40	3	無	有	無	無	無	有	SI-71より古 SD-74より新
SI-73	SI-73	H-29*30 I-29*30	N-0°	方形か	[2.80]	5.30	0.45	2	無	有	有	無	無	有	SK-95と重複

G区SI-1 (第180図、第106-107表、図版五二・一〇二八・一〇四九)

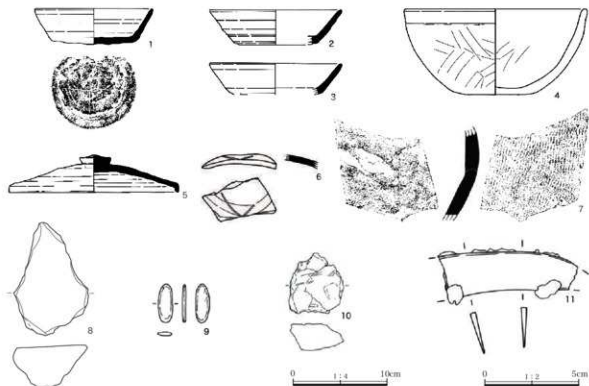
位置 調査区中央部にあたるJ・K-27グリッドに位置する。重複なし。平面形状・規模 東西方向に長い長方形で、東西4.5m、南北3.95m、面積は17.78㎡、壁は遺存状況の良い部分で30cmほどである。

主軸方向 N-90° - E **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む土が堆積している。 **カマド** 東壁南東隅寄りに位置しており、砂礫を含む灰色粘土を積んで構築した袖と、両袖に挟まれた燃焼部、そして竪穴壁より短く延びて立ち上がる煙道で構成される。袖は幅40cm、高さ34cm、竪穴壁からの長さ50cm、両袖間の幅45cmである。カマドの掘方は深さ10cmほどで、暗褐色土を使用して埋戻されている。 **床面** わずかな凹凸があるが平坦となっている。踏み締まりによるとみられる硬化が認められる。大半は地山であるローム層を床面としているが、部分的に貼床が認められる。 **柱穴** 確認されていない。 **出土遺物** 土師器鉢1点、須恵器環3点、蓋2点、糞1点、石製品1点、石1点、焼粘土塊1点、鉄製品1点を図示した。6は蓋の天井部で、「大」と推測される刻書が確認された。8は砥石か。9はカマドの周辺から出土した小さ

な石が、薄く、研磨されている。カマドの袖の前に出土する。10は焼粘土塊で、ササの痕跡がみられる。このほかに土師器杯26点194g、甕92点1311g、須恵器杯17点141g、高台付杯1点2g、蓋4点69g、甕9点476gが出土している。時期 8世紀後半。



第180図 G区SI-1 遺構実測図



第181図 G区 SI-1 出土遺物実測図

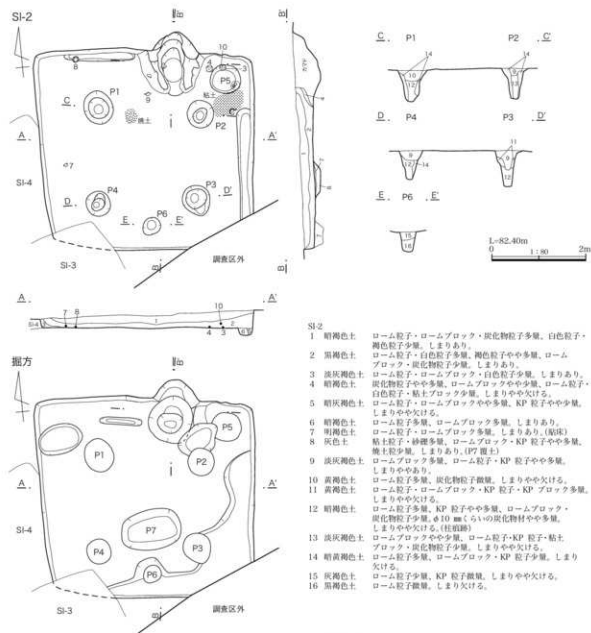
第107表 G区 SI-1 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	状況	器面の状態	器形・器形の特徵	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
181	1	葉巻器 坏	口径 (12.6) 底径 [8.8] 器高 3.8	外面 2.5Y7/2 内面 2.5Y7/3 浅黄	砂粒・砂少量	良好	底部 刻痕あり「十」か	底部へラ切り後ナデ	口縁部 1/4 残 存、底部 完好	カマド 内	G区 SI-1 カマド 1	磁子産
181	2	葉巻器 坏	口径 (14.0) 底径 (7.5) 器高 [3.8]	2.5Y7/2 灰黄	砂粒・砂微量	良好		ロクロ目肌裏	口縁一体 部 1/5、 底部一部 残存	覆土中	G区 SI-1 NE	磁子産
181	3	葉巻器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.3]	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 10YR6/2 灰黄陶	砂粒微量	良好		鉢部下端 回転へラケズリ	口縁部 1/3 残存	カマド 付近	G区 SI-2 カマド 1・ カマド 2	産地不明
181	4	土師器 鉢	口径 (19.2) 底径 (6.0) 器高 9.1	外面 5YR5/6 明赤陶 内面 5YR4/2 灰黄	砂粒・砂多量、 白雲母微量	良好	内面 一部黒化	口縁部 ココナデ 体へ底部 ナデ	口縁部 1/4 残 存	覆土中	G区 SI-1 No.1	
181	5	葉巻器 蓋	口径 (18.0) 底径 - 器高 4.0	2.5Y6/3 にぶい、黄	砂粒・砂・白 雲母若干	良好		ロクロ目肌裏 天井部 回転へラケズリ	つまみ み、口縁 部 1/5 残 存	覆土中	G区 SI-1 NE	磁子産
181	6	葉巻器 蓋	口径 - 器高 [1.5]	外面 5Y4/2 灰オリーブ 内面 5Y5/1 灰	砂粒少量	良好	刻痕あり「大」 か		一部残存	覆土中	G区 SI-1 SE	磁子産
181	7	葉巻器 甕	口径 - 器高 [10.0]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 10YR4/4 黄	砂粒少量	良好		製部外面 平行タタキ 内面 当具肌	製部一部 残存	床上約 12cm	G区 SI-1 No.4	磁子産
181	8	石製品 砥石か	長 12.0 幅 8.0 厚 4.5 重 412.83		砂岩		焼熟	研削面 1 面	一部残存	覆土中	G区 SI-1 SE	
181	9	石 (用途不明)	長 4.05 幅 1.46 厚 0.39 重 3.77		砂岩		焼熟か		完好	カマド 付近	G区 SI-1 カマド F	

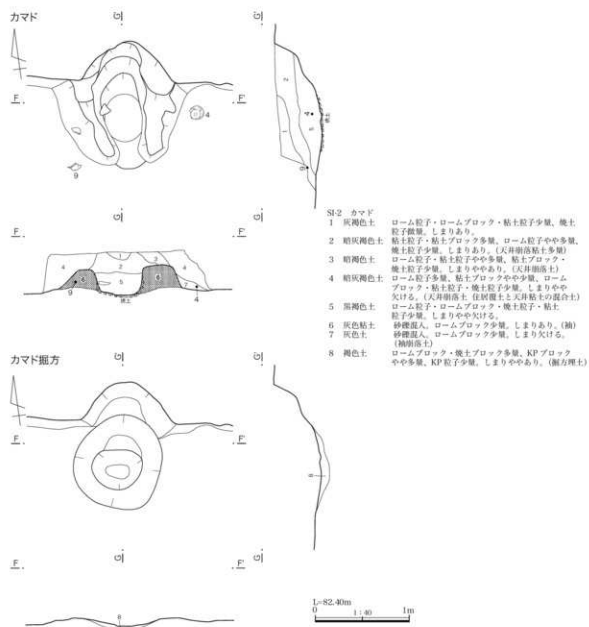
181	10	焼粘土塊	長 6.4 幅 5.7 厚 3.3 重 77.57	スサの痕跡				完存	カマド付託	G区SI-1 カマド
181	11	鉄製品 鏝	長 [7.26] 幅 2.35 厚 0.29 重 14.96					一部残存	覆土中	G区SI-1 SE

G区SI-2 (第182-184図, 第106-108表, 図版五三・一二八)

位置 調査区南部にあたるK・L-30・31グリッドに位置する。**重複** SI-3より古く、SI-4より新しい。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い長方形で、東西4.5m、南北4.3m、面積は19.35㎡、壁は遺存状況の良い部分で23cmほどである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 竪穴の大部分は地山由来のローム粒子を多く含み、しまりの強い明褐色土または黒褐色土で覆われている。**床面** 東→南壁際では貼床が



第182図 G区SI-2遺構実測図(1)

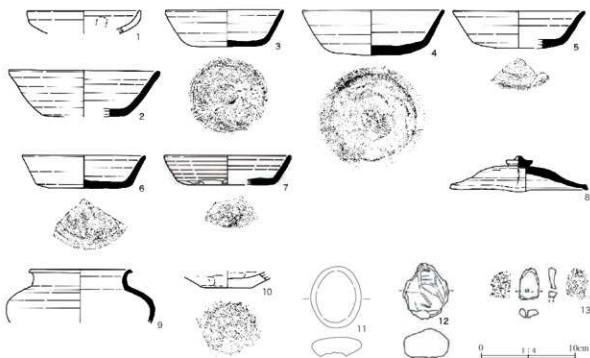


第183図 G区SI-2遺構実測図(2)

施されており、全体的に平坦となっている。東壁および北壁カマド左脇には幅20～30cm、深さ15cmほどの壁溝が掘られている。柱穴等 7基確認した。このうちP1～4が主柱穴、P5が貯蔵穴、P6が入口施設、P7が床下土坑である。主柱穴としたP1～4はいずれも平面形は円形を基調としており、P1が長軸70cm、短軸60cm、深さ65cm、P2が長軸55cm、短軸53cm、深さ60cm、P3が長軸67cm、短軸60cm、深さ80cm、P4が長軸60cm、短軸56cm、深さ65cmである。またいずれも直径15～20cmほどの柱痕跡が確認されている。入口施設とみられるP6は南壁中央手前に位置しており、平面形は円形で長軸40cm、短軸35cm、深さ40cmである。床下土坑であるP7は、壁中央南寄りに位置しており、掘方埋土(貼床)と堆積する土(8層)が異なることから、独立した床下土坑とした。平面形は東西方向に長い隅丸長方形で、長軸125cm、短軸85cm、深さ27cm、底面や壁は凹凸が認められ、砂礫や粘土粒子・焼土粒子を含む灰色土で埋められていた。貯蔵

穴 貯蔵穴とみられるP5はカマド右脇にあたる竪穴北東隅に位置し、平面形は楕円形で、長軸65cm、短軸60cm、深さ10cmほどの浅い掘り込みである。カマド 北壁中央部に位置しており、砂礫が混ざる灰色粘土で構築した袖と燃焼部と煙道が遺存していた。袖は幅40cm、高さ25cm、竪穴壁からの長さ85cm、両袖間の幅45cmである。燃焼部は底面および袖の内側が熱変化しており、表面は固くなるほど強く焼土化している。覆土の観察から天井の崩落土が厚く堆積しており、カマドの機能停止後も天井がそのまま遺存していた可能性がある。掘方は深さ17cmほどであり、褐色土で埋められていた。出土遺物 土師器環1点、甕1点、須恵器環6点、蓋1点、壺1点、石1点、焼粘土塊2点を図示した。8は蓋で、刻書なのか縦線が確認された。11は流れ込みの可能性も考えられる。12・13の焼粘土塊は指頭痕が確認できる。このほかに土師器環43点244g、皿1点14g、甕174点2248g、環42点292g、蓋6点77g、甕7点157gが出土している。

時期 8世紀前半。



第184図 G区SI-2出土遺物実測図

第108表 G区SI-2出土遺物観察表

探検 号	品名	植物 図柄	寸法 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
184	1	土師器 環	口径 (11.9) 底径 - 高さ [2.4]	外面 10YR4/1 地肌 内面 7.5YR3/1 黒黒	砂粒若干	良好	内外面 黒色処理	内外面 ナデ	口縁部 1/5 残存	覆土中	G区SI-2	
184	2	須恵器 環	口径 (15.8) 底径 (8.8) 高さ 4.9	2.5YR5/8 明赤地	砂粒少量	不良		内外面 ロクロナデ 底部 ヘラ切り後ナデ	1/4 残存	カマド 内	G区SI-2 カマド袖・ 横方	磁子産
184	3	須恵器 環	口径 12.6 底径 8.0 高さ 3.9	外面 7.5Y5/1 地肌 内面 2.5Y5/1 黒黒	砂粒・砂少量	良好	割罫あり	底部 ヘラ切り後ナデ	完形	床面直 上	G区SI-2 No.3	磁子産
184	4	須恵器 環	口径 15.0 底径 5.0 高さ 4.7	外面 5Y5/2 地肌 内面 2.5Y7/3 浅黄	砂粒・砂少量	やや 不良		ロクロ目割罫 底部 ヘラ切り後ナデ	ほぼ完形	床土約 10cm	G区SI-2 カマドNo.1	磁子産

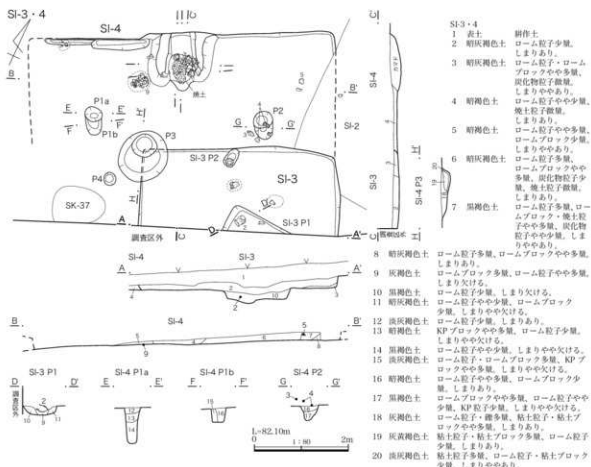
184	5	須恵器 環	口径 (14.0) 底径 (9.4) 器高 4.0	SY6/2 灰ヤリブ	砂粒微量	良好		底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/8 底 部 1/5 残 存	覆土中	G区 SI-2 NW・SW	磁子産
184	6	須恵器 環	口径 (13.0) 底径 (10.0) 器高 3.5	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 10YR6/3 に赤い裏層	砂粒少量	良好		底部ヘラ切り後ナデ	1/4 残存	覆土中	G区 SI-2 NE	三歳産か
184	7	須恵器 環	口径 (13.4) 底径 (9.0) 器高 3.2	2.5Y8/1 灰白	砂粒少量	良好		体部下端 手持ちヘラ ケズリ 底部 手持ちヘラケズ リ	1/4 残存	床面直 上	G区 SI-2 No.5	三歳産か
184	8	須恵器 環	口径 (14.6) 底径 - 器高 3.8	2.5Y6/2 灰黄	砂粒少量	良好		大丹部 回転ヘラケズ リ	完全	床面直 上	G区 SI-2 No.1	磁子産
184	9	須恵器 環	口径 (10.4) 底径 - 器高 [5.7]	5YR4/4 に赤い赤層	砂粒多量	不良			口縁～体 部 1/4 残 存	カマド 付近	G区 SI-2 カマド No.2	磁子産
184	10	土師器 甕	口径 - 底径 (5.0) 器高 [1.7]	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 5YR6/8 橙	砂粒・礫多量	良好	割書か 木葉痕残る	外面 ケズリ 内面 ナデ	底部は証 完全	床面約 10 cm	G区 SI-2 No.2	
184	11	石 (用途不明)	長 6.5 幅 5.4 厚 2.0 重 96.4			安山岩			一部欠損	覆土中	G区 SI-2 NE	磨石か 濡れ込みか
184	12	焼粘土塊	長 5.9 幅 4.8 厚 3.4 重 63.95						完存	覆土中	G区 SI-2 NE	
184	13	焼粘土塊	長 3.3 幅 2.0 厚 1.0 重 5.31				指頭痕残る		完存	覆土中	G区 SI-2 NW	

G区 SI-3 (第185-186図、第106-109表、図版五三・五四・一二八)

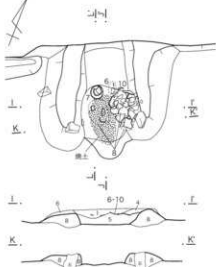
位置 調査区南部にあたるK・L-31グリッドに位置する。**重複関係** SI-2・4と重複しており、本遺構が最も新しい。**平面形状・規模** 南側の大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡と考えられる。確認できた範囲で、東西4.2m、南北1.7m以上、壁は遺存状況の良い部分で23cmである。**主軸方向** N-24°-W **覆土** 明灰褐色土が堆積しており、含まれるローム粒子の量や土のしまりの強弱で2層に分層した。**床面** 確認された範囲においては、貼床は認められず、地山であるローム層を床面としている。凹凸は少なく平坦となっている。**柱穴等** 床面中央にあたると思われる部分(P1)と北壁中央(P2)で確認した。P1は床下土坑で大半が調査区外であるが、おそらく東西方向に主軸をもつ長方形とみられる。長軸130cm、短軸55cm、深さ24cmである。P2は南北方向に長い楕円形で南側が1段深く掘り込まれている。長軸42cm、短軸24cm、深さ20cmである。**カマド** 確認された範囲では確認できなかった。**出土遺物** 土師器環1点、甕1点を図示した。1は被熱しているのか、内面が荒れている。2は底部がよく焼けて赤化している。このほかに土師器環44点266g、塊1点3g、甕103点1202g、須恵器甕23点158gが出土している。**時期** 6世紀。

G区 SI-4 (第185-186図、第106-109表、図版五四・五五・一二九)

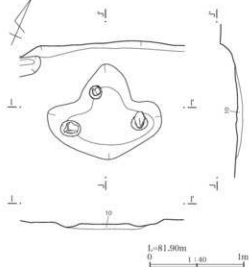
位置 調査区南部にあたるK・L-30・31グリッドに位置する。**重複関係** SI-2・3、SK-37と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 南側が重複および調査区外のため詳細不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡とみられる。確認できた範囲で東西5.8m以上、南北3.9m以上、壁は遺存状況の良い部分で23cmほどである。**主軸方向** 推定ラインでN-24°-W **覆土** 重複によって遺存状況が良くないが5層確認した。地山由来のローム粒子が全体的に多く含まれている。**床面** 貼床などは確認されず、地山であるローム層を床面としており、平坦となっている。北壁西側では幅25cm、深さ15cmの壁溝が認められ



SI-4カマド



SI-4カマド跡方



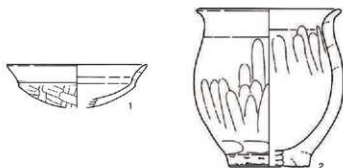
SI-4 カマド

- 1 淡灰褐色土
ローム粒子中や多量、ロームブロック・焼土粒子中や少量、粘土粒子少量、しまりやあり。
2 淡赤褐色土
ローム粒子・焼土粒子中や多量、しまりあり。
3 淡灰褐色土
焼土粒子・粘土粒子多量、ロームブロック・粘土ブロック中や多量、ローム粒子中や少量、しまりあり。
4 淡灰褐色土
ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子・粘土ブロック少量、砂礫多量、しまりあり。
5 淡灰褐色土
粘土粒子中や少量、ローム粒子・焼土粒子・砂礫少量、しまりあり。

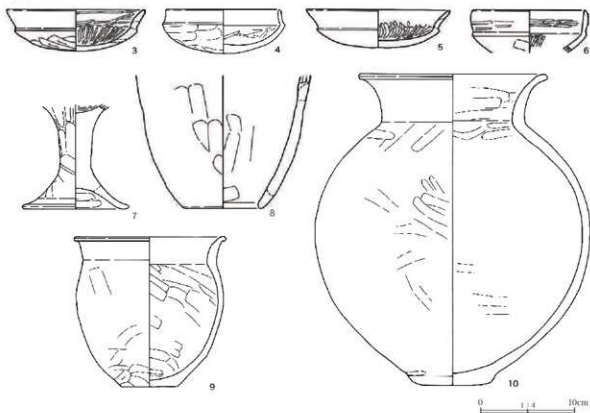
- 6 赤褐色土
焼土粒子・粘土ブロック・粘土粒子多量、ローム粒子・砂礫中や多量、しまりあり。
7 淡灰褐色土
ローム粒子中や少量、粘土粒子少量、焼土粒子微量、しまりやあり。
8 灰褐色土
ロームブロック・粘土粒子・粘土ブロック・砂礫多量、ローム粒子中や多量、しまりあり。(狭)
9 灰褐色土
ローム粒子・ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・粘土ブロック・砂礫多量、しまりあり。
10 暗赤褐色土
畑山ロームまたは飯方土が焼土化したもの。

第185図 G区 SI-3・4 遺構実測図

SI-3



SI-4



第186図 G区 SI-3・4 出土遺物実測図

る。柱穴等 4基礎確認した。P1・2は主柱穴とみられる。南北方向に長い楕円形で建て替えによって2時期の柱穴が重複しているものと思われる。覆土等の様相から南から北へ建て替えたものとみられる。P1が長軸60cm、短軸35cm、深さは北側が75cm、南側が35cmである。P2が長軸60cm、短軸40cm、深さ30cmである。P3はP1の南東側に位置しており、平面形は楕円形で長軸110cm、短軸100cm、深さは20cmである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がっている。内部にはカマドに使用される粘土が堆積しており、カマドに使用する粘土貯蔵のための穴の可能性が考えられる。P4はP3に隣接しており、直径25cmほどの円形で深さ17cmほどである。カマド 北壁中央に位置しており、砂礫を多く含む灰色土を積んで構築した袖と両袖に挟まれた燃焼部が遺存していた。袖は幅45cm、高さ20cm、竪穴壁からの長さ110cm、両袖間の幅50cmである。袖の先端部には芯材とみられる角礫が立てられた状態で埋め込まれていた(K-K)。7の高環

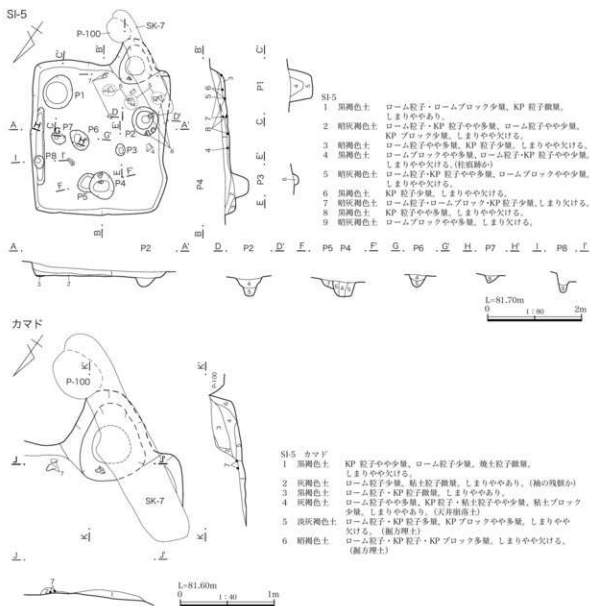
が支脚として使用され、ほぼ原位置で確認されている。燃焼部は底面および袖の内側が焼土化している。煙道は外に延びない。掘方は深さ5cm前後の浅い掘り込みだが、袖先端部の角礫が埋め込まれる部分のみ、さらに15cmほど掘り下げられている。覆土の観察では、天井の崩落土(1・3・4・5層)が燃焼部を覆っており、カマドの機能停止直後に天井が崩落したものとみられる。出土遺物 土師器環4点、高環1点、甑1点、甕2点を図示した。3は器面があばた状になり、荒れている。5は内外面漆仕上げが施される。7は脚部が棒状になっている。9は外面が特に荒れ、10も荒れて内面があばた状になっている。このほかに土師器環14点103g、甕136点1192g、須恵器環3点22gが出土している。時期 6世紀。

第109表 G区SI-3・4出土遺物観察表

図号	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存状態	出土状況	注記	産地・備考
180	1	土師器 環	口径(14.8) 底径 - 器高 4.6	7.5YR6/6 粗	砂粒・赤色粒 子少量	良好	スズ付着 程度あり 底面内面 荒れてい る被熱か	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面ナデナ	口縁部 5/12残 存。体一 部底面 欠損	覆土中	G区SI-3 C1中央1・ フタ上一括	
180	2	土師器 甕	口径 15.3 底径 (8.6) 器高 10.8	外面 10YR6/4 に赤い黄砂 内面 7.5YR4/3	砂粒・礫多量	やや 不良	口縁一側部内面 一部黒化	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部1/4 欠損	P1底 面付近	G区SI-3 P1-1	
180	3	土師器 環	口径(14.6) 底径 - 器高 4.4	外面 5YR6/6 粗 内面 5YR5/6 明赤陶	砂粒多量	良好	内外面 荒れている 被熱か	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ヘラケズリ、 一部ナデ 内面 ヘラミガキ	1/2 残存	床1約 18cm	G区SI-4 No.3 G区SI-3 C1中央1	
180	4	土師器 環	口径(12.0) 底径 - 器高 4.7 最大径 (13.0)	外面 5YR5/6 明赤陶 内面 7.5YR5/4 に赤い陶	砂粒少量、礫 若干 割れ口に織 羅?あり	良好	口縁部内面 スズ 付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ 内面 ヘラケズリ	口縁部 3/4 欠損	床面へ 床1約 10cm	G区SI-4 No.4・5	
180	5	土師器 環	口径(15.2) 底径 - 器高 4.0	外面 7.5YR4/2 灰陶 内面 2.5Y3/1 黒陶	砂粒多量	良好	内外面 漆仕上げ か スズ付着	口縁部 ココナデ 体部内面 ヘラミガキ	底面1/4 残存	床1約 15cm	G区SI-4 No.8	
180	6	土師器 環	口径(12.0) 底径 - 器高 [4.2]	2.5YR5/6 明赤陶	砂粒微量	良好		口縁部外面 ココナデ焼 ヘラミガキか 体部外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/2 残存	カマド 上層	G区SI-4 カマド5・ カマド・SE	
180	7	土師器 高坪	口径 - 底径 (11.3) 器高 [11.1]	外面 7.5YR7/4 に赤い陶 内面 5YR5/6	砂粒微量	良好	内面ヘラの当たり が鋭	内面 ナデ 耳部内面 ヘラミガキ 胴部 ココナデ	脚部残存	床面直 上	G区SI-4 カマド9	
180	8	土師器 甕	口径 - 底径 (8.3) 器高 [14.2]	外面 5YR5/6 明赤陶 内面 5YR4/4 粗	砂粒・礫微量	良好	外面 荒れている	内外面 ミガキに近いフ タ	胴一底部 1/3 残存	カマド 付近	G区SI-4 カマド4・ カマド7・ カマド	
180	9	土師器 甕	口径(16.0) 底径 6.0 器高 (15.9)	外面 7.5YR4/4 粗 内面 10YR4/2 灰黄陶	砂粒・礫少量	やや 不良	紫い・割痕あり 内面口縁部付近 黒化	口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ 底部付近 ケズリ 内面 ヘラケズリ	口縁部 5/6、体 部1/3、 底部2/3 残存	床面直 上	G区SI-4 No.2	同上復元
180	10	土師器 甕	口径(20.0) 底径 (9.0) 器高 33.0 最大径 (28.8)	外面 7.5YR5/4 に赤い黄砂 内面 7.5YR4/2 灰黄陶	砂粒・礫少量	良好	内外面 荒れている	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ、一部ミガキ	口縁一底 部1/3残 存	カマド 上層	G区SI-4 カマド No.6・カマ ド	

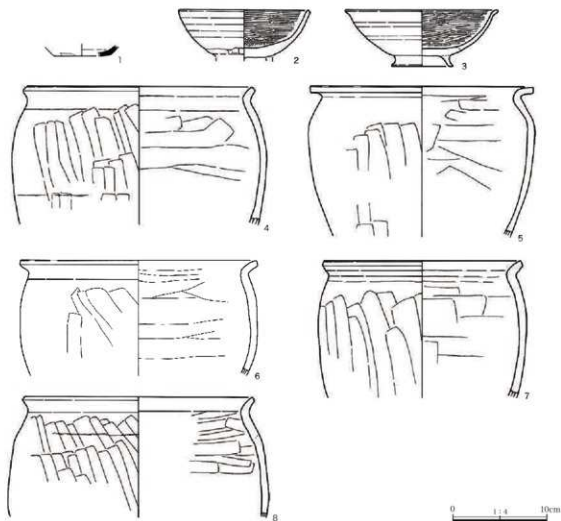
G区SI-5 (第187-188図、第106-110表、図版五五・一二九)

位置 調査区中央部にあたるJ-27グリッドに位置する。重複関係 SK-7と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 南北方向にわずかに長い方形で、東西2.8m、南北3.2m、面積は8.96㎡、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。主軸方向 N-143°-E 覆土 黒色系の土を中心にレンズ状の堆積を示しており、自然堆積とみられる。床面 貼床などは認められず、地山であるローム層を床面としている。やや凹凸があり、南北方向に緩く傾斜している。東壁に沿って幅13cm、深さ4cmの壁溝が掘られている。柱穴等 8基確認した。重複するP4・5は北西壁中央に隣接している。P1はP2より古く、平面形は円形で、直径40cm、深さ22cmである。P4は楕円形で、長軸58cm、短軸50cm、深さ35cmである。覆



第187図 G区SI-5遺構実測図

土の観察において直径20cmほどの柱痕跡が確認されており、柱穴と考えられる。P6は竪穴中央付近に位置し、長軸50cm、短軸35cmの楕円形で、深さは25cmである。P2は南西壁中央に接して位置している。長軸60cm、短軸55cmの楕円形で、深さは35cmである。P1は東隅に位置しており、長軸80cm、短軸67cm、の楕円形で、深さは45cmである。P8は北東壁に沿って掘られている壁溝内に位置しており、長軸25cm、短軸15cmの楕円形で、深さは15cmである。壁溝と関連する施設とみられる。P7はP6と壁溝に挟まれて位置している。長軸32cm、短軸25cmの楕円形で、深さは18cmである。P3は竪穴中央付近に位置しており、長軸24cm、短軸20cmの楕円形で、深さは13cmである。 **カマド** 南東壁中央に位置していたとみられるが遺存状況が極めて悪く、掘方の残骸を確認したに過ぎない。覆土の観察では袖の残骸とみられる土層が確認されており、灰褐色土を使用して構築したカマドであったとみられる。 **出土遺物** 土師器高台付坏2点、甕5点、須恵器坏1点を図示した。2と3は内面に黒色処理が施され、2の内面には刷の痕跡も確認できた。このほかに



第188図 G区SI-5出土遺物実測図

土師器杯25点127g、甕82点1225g、須恵器杯27点116.38g、高台付杯3点29g、鉢2点32g、甕8点162gが出土している。時期 9世紀後葉。

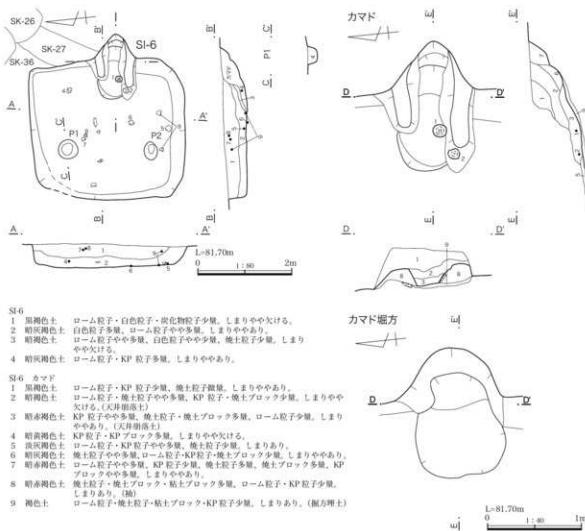
第110表 G区SI-5出土遺物観察表

発掘 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	造成	表面の状況	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考	
188	1	須恵器 杯	口径 - 底径 (6.0) 器高 [1.2]	2.5Y5/2 褐色黄	砂粒微量、赤 色粒若干	良好	底面ナデ	体一部残存	覆土中	G区SI-5 南東区	磁子産	
188	2	土師器 高台付杯	口径 (13.8) 底径 - 器高 [5.2]	外面 7.5YR6/4 にこい地 内面 2.5GY3/1 オリーブ灰	砂粒少量	良好	内面 黒色処理 粉痕あり	口縁一部外面 ロクロ ナデ 体一部外面 回転ヘラ ケズリ 内面 ヘウミガキ	口縁部 1/4 残 存、高台 部欠損	覆土中	G区SI-5 NW・P12	
188	3	土師器 高台付杯	口径 (16.2) 底径 (6.6) 器高 6.0	外面 7.5YR6/4 にこい地 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色処理	口縁部外面 ロクロナデ 体部下端 回転ヘラケ ズリ 内面 ヘウミガキ 高台貼付	口縁部 1/6、体 部 1/3、 高台部 1/6 残存	覆土中	G区SI-5 NE・NW G区SK 7-SI-5	
188	4	土師器 甕	口径 (23.8) 底径 - 器高 [14.7]	外面 10YR4/2 灰黄褐色 内面 7.5YR4/3 地	砂粒少量、礫 多量	良好	外面 炭化物付着 内面 スス付着	口縁部 ココナデ 胴部ナデ	口縁部 1/3 残 存	床1約 5cm	G区SI-5 No.4・カマ ド	

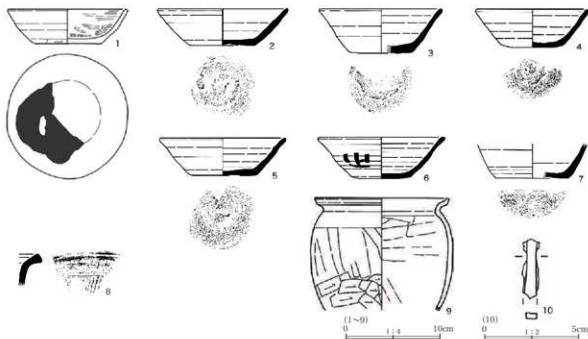
188	5	土師器 甕 口径 (23.6) 底径 - 器高 (16.0)	外面 7.5YR5/4 にぶい 内面 7.5YR4/2 灰濁	砂粒・礫多量	良好	胴下半黒化	口縁部 ココナデ 製部 ナデ	口縁部 - 胴部 1/8 残 存	床面直 上	G 区 SI-5 No.9・10・ SW
188	6	土師器 甕 口径 (25.0) 底径 - 器高 (12.3)	外面 10YR5/3 にぶい 内面 7.5YR3/2 黒濁	砂粒・礫多量	良好	内面黒化	口縁部 ココナデ 製部外面 ナデ 内面 ナデ	口縁部 - 胴部 1/4 残 存	床上的 約 5cm	G 区 SI-5 No.10・12・ P1 G 区 SK-7- SI-5
188	7	土師器 甕 口径 (21.0) 底径 - 器高 (14.5)	外面 7.5YR4/2 灰濁 内面 10YR6/4 明灰濁	砂粒・礫少量	良好		口縁部 ココナデ 製部 ナデ	口縁部 - 胴部 1/3 残 存	カマド 底面上	G 区 SI-5 No.2・13・ カマド No.1・2
188	8	土師器 甕 口径 (24.6) 底径 - 器高 (12.7)	外面 5YR5/6 明赤濁 内面 10YR6/4 にぶい 黒濁	砂粒少量、礫 多量	良好		口縁部 ココナデ 製部 ナデ 総柄面一部残る	口縁部 1/3 残存	床上的 約 3~10 cm	G 区 SI-5 No.6・8・9・ P4・SW・ NW

G区 SI-6 (第189-190図、第106-111表、図版五六・一一九・一四九)

位置 調査区中央部にあたる1・J・27・28グリッドに位置する。**重複関係** SK-27と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い長方形で、東西2.9m、南北3.3m、面積は9.57㎡、壁は遺存状況の良い部分で50cmほどである。**主軸方向** N-95°-E **覆土** 床面を覆う暗褐色土は地山由来のロームブロックや白色粒子が多く含まれ、しまりが強いので、廃絶後一定の深さまで人為的に埋められた可能性がある。**床面** 貼床などは認められず、地山であるローム層を床面としている。凹凸は少



第189図 G区SI-6遺構実測図



第190図 G区SI-6出土遺物実測図

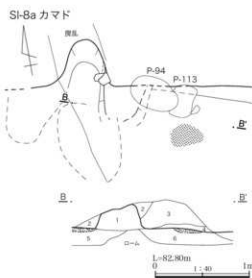
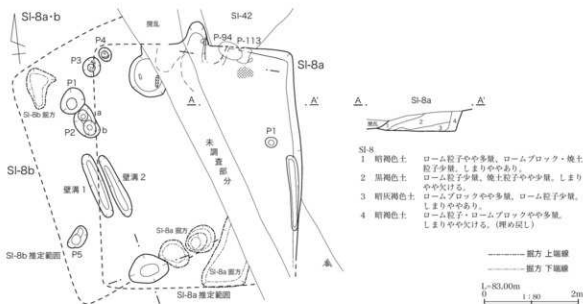
第111表 G区SI-6出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
190	1	土師器 杯	口径 12.8 底径 7.0 器高 3.7	外面 7.5YR5/4 にぶい黄 内面 N2/0 黒	砂粒・透明 子少量	良好	内面 黄色器 底部穿孔	口縁～体部外面 ロクロナ デ 体～底部外面 回転ヘラ タズリ 内面 ヘラミガキ	口縁全周、体 ～底部 2/3 残存	大井瀬 赤土中	G区SI-6 No.1 ガマド	
190	2	葉志器 杯	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 3.8	外面 10YR5/3 にぶい黄褐色 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒・礫多量	やや 不良	割減・剥離あり 艶い 荒れている	底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/6、 体部 1/2、底 部 11/12 残存	大井瀬 赤土中	G区SI-6 No.2 ガマド	磁子産
190	3	葉志器 杯	口径 (13.0) 底径 (6.8) 器高 4.7	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒 子少量、礫若 干	やや 不良		底部ヘラ切り後ナデ	2/3 残存	覆土中	G区SI-6 NW	磁子産
190	4	葉志器 杯	口径 (11.8) 底径 (6.6) 器高 4.1	外面 5Y4/1 灰 内面 7.5YR4/2 灰黒 輪 2.5Y3/1 黒濁	砂粒・礫少量	良好		口縁口縁著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、 体～底部 1/3 残存	床土約 10cm	G区SI-6 No.1	磁子産
190	5	葉志器 杯	口径 (13.4) 底径 7.0 器高 4.0	5YR5/6 明赤濁	砂粒・礫少量	不良		口縁口縁著 底部ヘラ切り後ナデか	口縁部 1/3、 体部 2/3、底 部 11/12 残存	床面直 上	G区SI-6 No.9	磁子産
190	6	葉志器 杯	口径 (13.4) 底径 6.4 器高 4.4	外面 10YR6/4 にぶい黄褐色 内面 10YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒・礫・白 色粒子多量	やや 不良	割減あり「市 か明天文字」	口縁口縁著 底部ヘラ切り後ナデ	口縁部 1/4、 体部 1/2 残 存、底部完存	床面直 上	G区SI-6 No.11・ SE・SW	磁子産
190	7	葉志器 鉢	口径 - 底径 (7.7) 器高 (3.6)	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	良好		口縁口縁著 底部未切	体部 1/6、底 部 1/3 残存	床土約 40cm	G区SI-6 No.2	磁子産
190	8	葉志器 盃か鉢	口径 - 底径 - 器高 [3.4]	外面 5Y4/2 灰オリーブ 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量、白 言母多量	良好		口縁～内面 ロクロナデ 胴部外面 平行タタキ	口縁部一部残 存	床土約 30cm	G区SI-6 No.3	新治産
190	9	土師器 甕	口径 (14.0) 底径 - 器高 (11.9)	外面 5YR6/4 にぶい黄褐色 内面 10YR6/3 にぶい黄褐色	砂粒・白言母 多量、礫少量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部下半外面ヘラタキ 胴部内面ヘラナデ	口縁部 1/3、 体部 1/6 残存	底面～ 床土約 12・SW	G区SI-6 No.10・ 12・SW	
190	10	鉄製品 釘か	長 [3.20] 幅 0.80 厚 0.24 重 1.81						一部残存	覆土中	G区SI-6 NW	

なく平坦ではあるが、東西方向に緩やかに傾斜する。**柱穴等** 2基確認した。P1は北西隅付近に位置しており、直径40cmほどの円形である。深さは20cmである。P2は南西隅付近に位置する。東西方向に長い不整形な長方形で、長軸105cm、短軸55cm、深さ55cmである。**カマド** 東壁中央に位置している。両袖と燃焼部と掘方が遺存していた。袖は両袖ともに遺存しているが、右袖の方が良く遺存している。袖規模は、幅42cm、高さ21cm、竪穴壁からの長さ90cm、両袖間の長さ30cmである。右袖は掘方埋土上に暗赤褐色土を積んで構築している。一方左袖は地山であるローム層を土手状に掘り残している様子が確認された。本来はこの上に粘土等を積んで袖を構築していたものと思われる。燃焼部は底面付近の袖内面の一部が焼土化していた。掘方は深さ3～5cmほどと非常に浅い掘り込みで、地山由来のローム粒子を多く含む暗褐色土で埋められていた。**出土遺物** 土師器環1点、甕1点、須恵器環5点、鉢1点、甗1点、鉄製品1点を図示した。1は内面に黒色処理が施され、底部外面から穿孔している。2は摩滅が著しく、被熱し、剥落する。1・2はカマド内の出土である。6は側面に黒書が確認されている。8は須恵器の甗か鉢で、胎土に白雲母が含まれる。このほかに土師器環12点59g、甗1点46g、甕133点1502gが出土している。**時期** 9世紀後半。

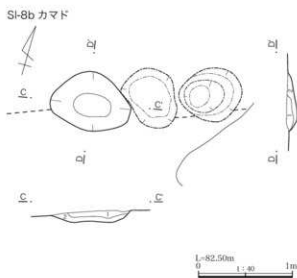
G区 SI-8a・b (第191-192図、第106-112表、図版五六・五七・一〇九)

位置 調査区中央部にあたるK・28・29グリッドに位置する。**重複関係** SI-42より新しく、P-93・113との新旧関係は不明である。**確認状況** 調査の工程の都合上、東西を2分する形で調査した。なお中央部分の幅60cmほどの範囲は未調査(調査区外)となっている。西側はすでに大きく削平されており、壁等は遺存していなかった。反対に東側は比較的良好な状態で遺存していた。なお西側の竪穴壁が存在していたと思われる範囲では、不整形なピットや土坑・小溝が位置しているが、これらは竪穴の掘方の一部である可能性が考えられる。建て替えを行ったのか、別の竪穴建物跡なのか判断できない。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物跡で、SI-8aは東西3.6m以上、南北5m以上、SI-8bは東西4.6m前後、南北5m以上とみられる。壁は遺存状況の良い東壁で40cmほどである。**主軸方向** SI-8aはN-6°-E、SI-8bはN-20°-W **覆土** 東側で観察をして、4層確認した。このうち壁際に堆積する4層とした暗褐色土の存在から、竪穴の作り替え(縮小)が行われたと考えられる。**床面** 遺存状況の良好な東側では貼床などは認められず、地山であるローム層を床面としている。カマド東側の掘方が住居の掘方に連なる可能性がある。床面にはやや凹凸がみられる。東壁には幅20cm、深さ15cmの壁溝が掘られている。**柱穴等** P1は東壁中央付近に位置する。長軸25cm、短軸20cmの楕円形で、深さは12.4cmほどである。**北カマド** 確認時にSI-8aのカマドとした北カマドは、北壁中央に位置しており、灰色粘土を積んで構築された東側の袖と燃焼部の一部、そして掘方の一部が遺存していた。袖は幅60cm、高さ28cm、竪穴壁からの長さ45cmである。燃焼部には焼土粒子が集中していたが、袖の内側に焼土化した様子は認められなかった。**南カマド** 確認時にSI-8bのカマドと認識した南カマドは、遺存状況が極めて悪く、掘方のみを確認した。平面形は東西に長い不整形で、南北62cm、東西85cm、深さ12cmである。覆土は掘方上面にみられる赤褐色土と、底面を覆う灰褐色土であり、赤褐色土は燃焼部底面の残骸とみられる。このカマドを北カマドと考えると、南に広がる別の1軒が想定できる。この場合、8bの掘方や掘方のピットがSI-8aに伴う可能性がある。**出土遺物** 土師器環1点、台付甕1点、須恵器環1点、甗1点、石製品1点、石1点を図示した。このほかに土師器環4点126g、甕100点1482.26g、須恵器環58点384g、高台付環2点55g、蓋5点38g、甕7点214g、陶器1点1gが出土している。**時期** 9世紀後半。



SI-8a カマド

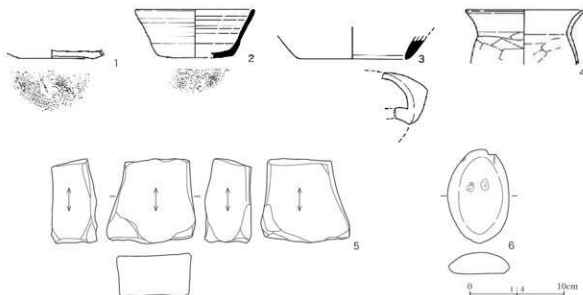
- 1 灰色粘土 粘土粒子・粘土ブロック多量、砂礫やや多量、焼土粒子少量、しまりあり。(埋)
- 2 灰灰褐色土 粘土粒子・粘土ブロック多量、ローム粒子少量、しまりややあり。
- 3 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子やや多量、粘土粒子・粘土ブロック少量、ローム粒子やや少量、しまりやや欠ける。
- 4 淡灰褐色土 焼土粒子やや多量、ローム粒子・炭化物粒子少量、焼土ブロックやや少量、粘土粒子微量、しまりやや欠ける。
- 5 灰褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多量、ローム粒子・粘土ブロック・炭化物粒子やや多量、粘土粒子やや少量、しまりあり。
- 6 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック多量、粘土粒子・粘土ブロック少量、しまりやや欠ける。



SI-8b カマド

- 1 赤褐色土 焼土粒子多量、焼土ブロックやや多量、ローム粒子・粘土粒子少量、しまりあり。
- 2 灰褐色土 ローム粒子やや多量、焼土粒子・粘土粒子少量、しまりややあり。

第191図 G区 SI-8a・b遺構実測図



第192図 G区 SI-8 出土遺物実測図

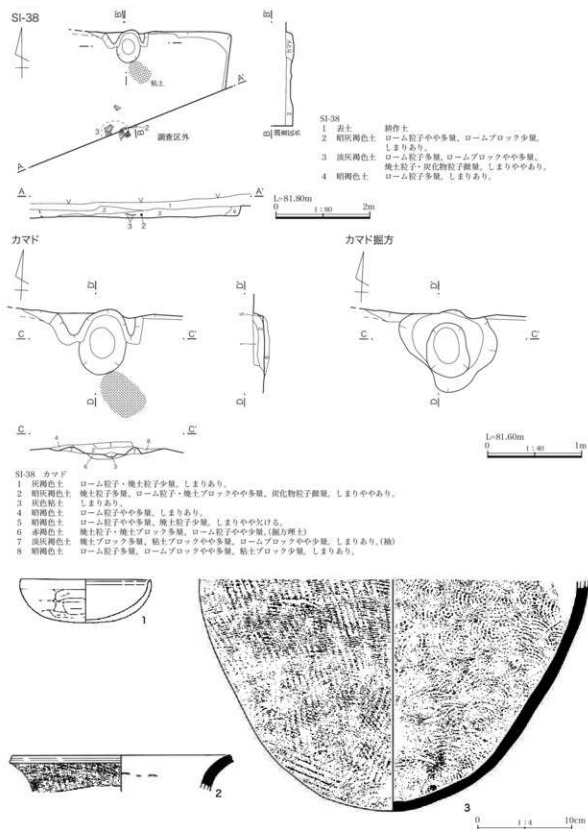
第112表 G区 SI-8a・b 出土遺物観察表

調査 No.	種別 品類	計測値 (m・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状況	器形・整形の特徴	遺存 状況	出土 状況	注記	産地・備考
192 1	土師器 杯	口径 底径 (8.0) 器高 (0.9)	7.5YR4/3 褐色	砂粒少量、礫 微量	良好		底部 糸切り 内面 ヘラミダケ	底部 1/2 残存	カマド 付近	G区 SI-8b カマド	
192 2	須恵器 杯	口径 (12.6) 底径 (8.0) 器高 5.1	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒多量、礫 少量、黑色粒 子若干	良好		口縁目跡	口縁一部 底面 1/5、 底面 1/4 残存	甕土中	G区 SI-8b 5	磁子産
192 3	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 [2.2]	2.5Y7/2 灰黄	砂粒微量	やや 不良		底部 ナデ	底部一部 残存	甕土中	G区 SI-8b	産地不明
192 4	土師器 土付鏝	口径 (12.4) 底径 - 器高 [5.0]	外面 2.5Y4/4 に濃い赤褐色 内面 5YR4/4 に濃い赤褐色	砂粒微量、平 透明黑色粒 子・赤色粒子 若干	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/6、体 部一部残 存	甕土中	G区 SI-8 北	
192 5	石製品 砥石	長 9.0 幅 9.3 厚 4.8 重 640.46		砂岩			研磨面 4 面	一部残存	甕土中	G区 SI-8b	
192 6	石 (用途不明)	長 9.9 幅 6.4 厚 2.3 重 192.07		火山岩				完存	カマド 付近	G区 SI-8b カマド	磨石か 炭れ込みか

G区 SI-38 (第193図、第106-113表、図版五七・一三〇)

位置 調査区南端にあたる K-31 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南側は調査区外、西側は既に削平されており、北壁および西壁の一部を確認したに過ぎないが、方形を基調とした竪穴建物跡とみられる。東西 1.3 m 以上、南北 3.5 m 以上、壁は西壁で 20 cm ほど遺存している。 **主軸方向** N-10° - E **覆土** 確認された 3 層とも地山由来のロームブロックを多く含んでいる。 **床面** 地山であるローム層を床面としており、貼床などは認められない。 **カマド** 北壁中央に位置しており灰褐色土を積んで構築された袖の一部と燃焼部と掘方が遺存していた。袖は幅 60 ~ 90 cm、高さ 15 cm、竪穴壁からの長さ 60 cm、両袖間の長さ 80 cm である。燃焼部は袖に挟まれた 80 × 60 cm ほどの範囲が焼土化していた。焼土化範囲は掘方埋土から直下の地山にまで及んでおり、使用頻度が高かったものと思われる。前面の床面に天井前

落土の粘土がブロック状に確認されている。 **出土遺物** 土師器杯1点、須恵器裏2点を図示した。このほかに土師器裏9点142g、須恵器蓋1点17gが出土している。 **時期** 6世紀。



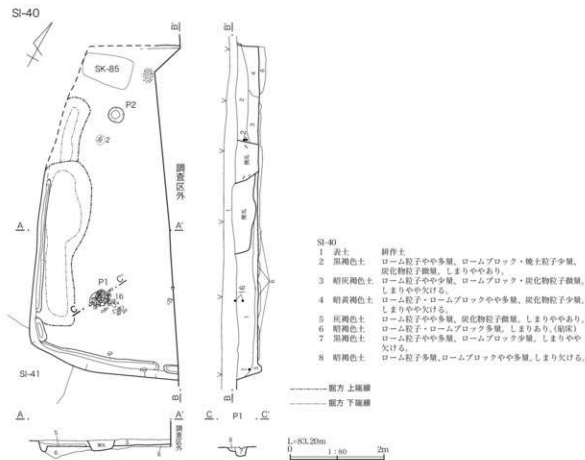
第193図 G区SI-38遺構・出土遺物実測図

第113表 G区 SI-38 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 図様	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
193	1	土師器 杯	口径 (13.6) 底径 - 器高 4.6	外面 10YR3/1 黒黒 内面 7.5YR3/1 黒黒	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ケズリ 内面 ナデ	1希 残存	覆土中	G区 SI-38	
193	2	甕系器 甕	口径 (23.0) 底径 - 器高 [3.8]	外面 5Y5/2 灰チロープ 内面 5Y5/1 灰	滑・白色粒子 少量	良好		腹縁子タタキ縁口コ ナデ	口縁部一 部残存	土床 約 6 cm	G区 SI-38 No.1	産地不明 3と同一個 体か
193	3	甕系器 甕	口径 - 底径 - 器高 [24.7]	外面 5Y5/2 灰チロープ 内面 5Y5/1 灰	滑・白色粒子 少量	良好		外面 腹縁子縁部転力ナ 目 内面 同心円状具肩	胴部一部 残存	土床 約 10 cm	G区 SI-38 No.2	産地不明 2と同一個 体か

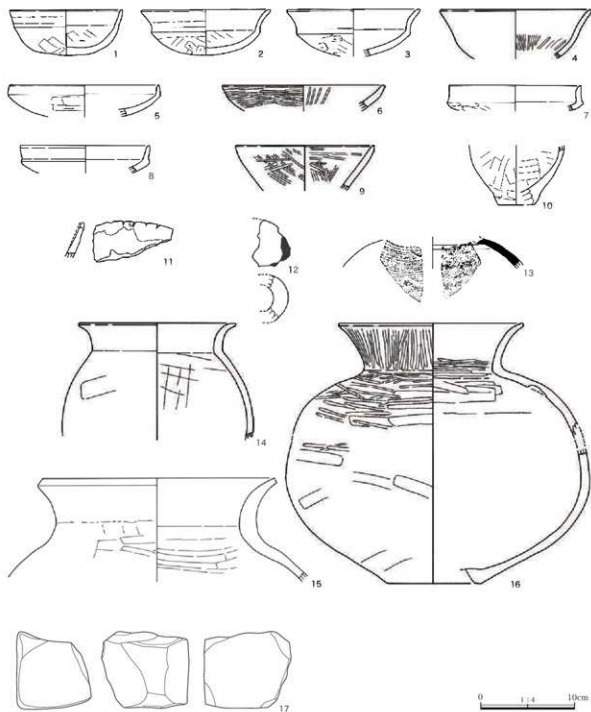
G区 SI-40 (第194-195図、第106-114表、図版五七・五八・六二・一三〇)

位置 調査区中央東部にあたるK・L-27グリッドに位置している。**重複関係** SI-41、SK-85と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北東側の大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡と思われる。東西3m以上、南北7m、壁の高さは遺存状況の良い部分で50cmほどである。**主軸方向** N-20°-W **覆土** 貼床を除いて4層確認した。2層とした黒褐色土が竪穴上面を覆い、3～5層にあたる灰褐色系の土が床面を覆っている。**床面** 全面に貼床が施されている。貼床は地山由来のロームブロックなどを多く含む暗褐色土を使って構築されており、上面は平坦となっている。厚さは5cmほどで、西壁沿いではやや厚く25cmほどとなっている。また壁に沿って幅30cm、深さ10cmほどの壁溝が



第194図 G区 SI-40 遺構実測図

掘られている。柱穴等 2基確認した。P1は長軸40cm、短軸30cmの楕円形で、深さ17cmである。P2は直径30cmの円形で、深さ34cmである。位置関係からいずれも主柱穴の可能性はある。カマド 調査区内では確認されなかった。出土遺物 土師器環8点、埴1点、甕4点、壺1点、羽口1点、須恵器瓶1点、砥石1点を図示した。9と16は流れ込みと考えられる。このほかに土師器環23点127g、鉢2点12g、甕118点1603g、甕1点26g、須恵器環1点6g、甕2点36gが出土している。時期 7世紀前葉。



第195図 G区SI-40 出土遺物実測図

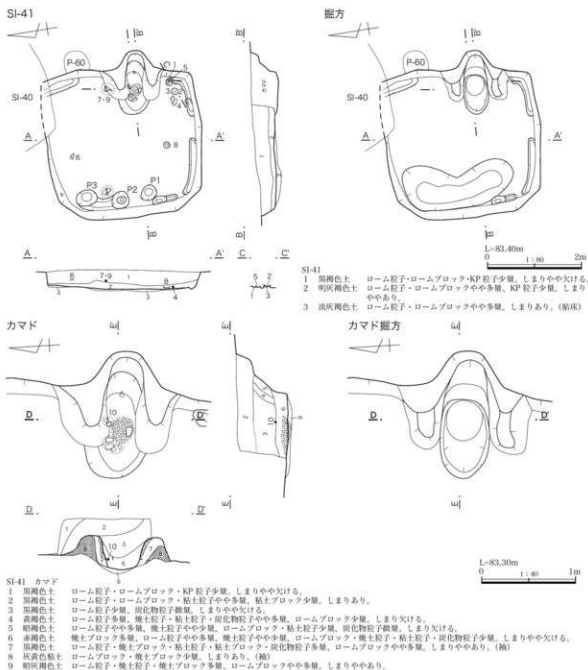
第114表 G区 SI-40 出土遺物観察表

調査 No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質 構成	断面の状態	器形・形状の特徴	遺存状態	出土 状態	注記	産地・備考	
195 1	土師器 坏	口径 12.0 底径 - 器高 4.8	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 2.5Y4/6 赤褐色	砂粒・塵埃量	良好	口縁部 ココナデ 体部外面ナデ 底部付近ケズリ 内面ナデ	口縁部 4/5 残 存	床 1.約 20 cm	G区 SI-40 No.3		
195 2	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 - 器高 (4.8)	2.5YR5/6 明赤褐色	砂粒・塵埃少量 黒雲母微量	良好	口縁部 ココナデ 体部外面ナデ 底部付近ケズリ 内面ナデ	口縁～体部 1/2 残存	床 1.約 14～ 18 cm	G区 SI-40 No.1・P1		
195 3	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 (5.0)	外面 5YR5/4 にふい黄褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒微量	良好	口縁部 ココナデ 体部外面ナデ 底部付近ケズリ 内面ナデ	口縁部 1/8 残 存	覆土中	G区 SI-40 N		
195 4	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 - 器高 (5.2)	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 10R5/6	砂粒微量	良好	内外面 赤彩 外面 剥れている	口縁～体部 1/12 残存	覆土中	G区 SI-40 N		
195 5	土師器 坏	口径 (15.7) 底径 - 器高 (3.4)	外面 2.5Y3/1 黒褐色 内面 5YR4/2 灰褐色	砂粒少量	良好	内外面 塗土 上げ	口縁部 ココナデ 体部ナデ 底部付近ケズリ	口縁部 1/5 残 存	覆土中 No.8	G区 SI-40 No.8	
195 6	土師器 坏	口径 (17.0) 底径 - 器高 (2.7)	外面 7.5YR6/6 褐色 内面 7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒微量、金 箔多量	良好	内外面 ヘラミガキ	口縁部 1/3 残 存	貼床中	G区 SI-40 床下		
195 7	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 (2.6)	外面 2.5Y5/3 黄褐色 内面 7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒少量	良好	口縁部 ココナデ 体部ケズリ	口縁～体部 1/7 残存	覆土中	G区 SI-40 S		
195 8	土師器 坏	口径 (13.5) 底径 - 器高 (2.9)	外面 7.5YR6/4 にふい褐色 内面 5YR6/6 褐色	砂粒微量	良好	口縁部 ココナデ 体部ナデ	口縁部 1/5 残 存	覆土中	G区 SI-40 N		
195 9	土師器 用	口径 (14.6) 底径 - 器高 (4.8)	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒・黒雲母 微量	良好	内外面 ヘラミガキ	口縁部 1/8 残 存	覆土中	G区 SI-40 S	炭灰込みか	
195 10	土師器 小形鉢か	口径 - 底径 (3.8) 器高 (6.4)	外面 10YR3/2 黒褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒・塵・黒 雲母少量	良好	内外面 ナデ への当たり痕	体～底部 1/4 残存	覆土中	G区 SI-40 S		
195 11	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 (4.4)	外面 7.5YR5/6 明褐色 内面 5Y7/2 灰白色	砂粒少量	良好	内面 剥取著 しい	一部残存	覆土中	G区 SI-40 No.8・S	接合部内底口 縁	
195 12	邪口	口径 - 底径 - 器高 (3.5)	外面 5Y6/1 灰白色 内面 10YR7/4 にふい褐色	砂粒・塵少量	良好		一部残存	覆土中	G区 SI-40 S		
195 13	黒土器 飯か	口径 - 底径 - 器高 (2.9)	外面 5Y7/1 灰白色 内面 10YR5/1 褐色	砂粒微量	良好	弁目	胴部一部残存	覆土中	G区 SI-40 S	産地不明	
195 14	土師器 甕	口径 (16.6) 底径 - 器高 (12.0)	外面 5YR6/6 褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒多量	良好	胴部穿孔の可 能性あり	口縁部 ココナデ 胴部ナデ	胴部 1/2 残存	覆土中	G区 SI-40 N	
195 15	土師器 甕	口径 (24.6) 底径 - 器高 (10.8)	外面 10YR6/4 にふい黄褐色 内面 10YR7/4 にふい黄褐色	砂粒・塵少量	良好	口縁部 ココナデ 胴部ナデ	口縁部完全	覆土中	G区 SI-40		
195 16	土師器 壺	口径 19.5 底径 (10.0) 器高 (27.6)	外面 5YR6/6 褐色 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒・塵少量	良好	内面 黒色斑 理か 底部穿孔か	口縁部外面ヘラミガキ 胴部外面ナデかヘラミ ガキ 内面ヘラミナデ	口縁～胴部上 半はば完全。 胴部下半2/3、 底部1/3残存	床 1.約 24～ 36 cm	G区 SI-40 No.2・8	炭灰込みか
195 17	石製品 灰石	長 8.3 幅 7.3 厚 7.2 重 532.60		礫石	被熱	3面使用	一部残存	覆土中	G区 SI-40 S		

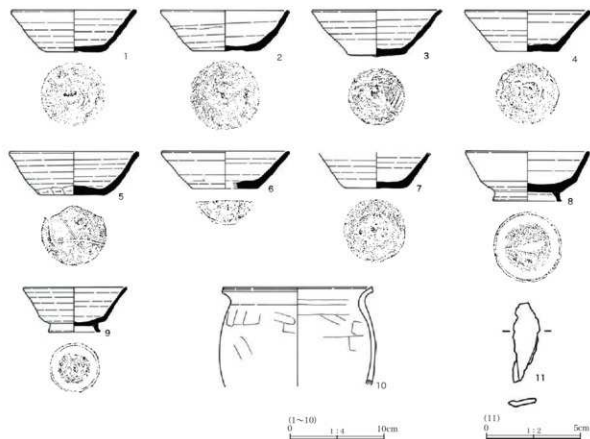
G区 SI-41 (第196-197図、第106-115表、図版五七～五九・六二・一三〇～一四九)

位置 調査区中央東部にあたるK・L-27グリッドに位置している。**重複関係** SI-40、P-60と重複しており、SI-40より新しい。P-60との新旧は不明である。**平面形状・規模** 一边が3.2mの正方形で、面積は10.24㎡、壁は遺存状況の良い部分で30cmほどである。**主軸方向** N-90°-E **覆土** 貼床を除いて2層確認した。混入物の状況から1層は自然堆積、2層は人為堆積の可能性が考えられる。**床面** 惣穴西側を中心に貼床が施されている。貼床は地山由来のロームブロックなどを多量に含み、しまりが強い土で構

築されている。最も深いところで厚さ10cmほどである。また南壁や北隅などでは幅15cm、深さ5cmほどの壁溝が掘られている。**柱穴等** 3基礎確認され、いずれも西壁に沿って位置している。P1は長軸35cm、短軸30cmの楕円形で、深さ18cmである。P2は直径35cmの円形で、深さ14cm、P3は長軸45cm、短軸35cm、深さ9.5cmである。**カマド** 東壁の南寄りに位置している。灰黄色粘土を積んで構築した袖と、両袖に挟まれた燃焼部、掘方が遺存している。袖は幅40～50cm、高さ25cm、壁穴からの長さ70cm、両袖間の長さ30cmである。燃焼部は非常に良く焼けており、底面中央の40×25cmの範囲と、袖の内側が焼土化していた。掘方は10cmほどの浅い掘り込みで、淡灰褐色土で埋められていた。**出土遺物** 土師器甕1点、須恵器環7点、高台付環2点、鉄製品1点を図示した。このほかに、土師器環17点136g、甕78点1404g、須恵器環26点118g、蓋2点13g、甕3点290gが出土している。**時期** 9世紀中葉。



第196図 G区SI-41 遺構実測図



第197図 G区SI-41出土遺物実測図

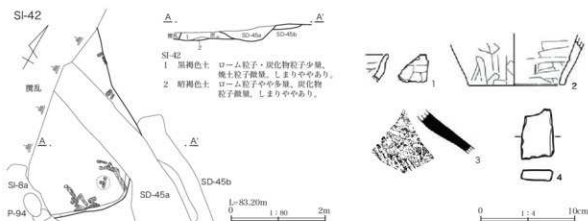
第115表 G区SI-41出土遺物観察表

検出 No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状況	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
197	1	葉巻器 環	口径 13.2 底径 8.7 器高 4.5	外面 2.5Y5/1 裏面 2.5Y4/1 裏灰	砂粒多量、礫 少量	良好	割書あり「一」	ロクロ目圓蓋 底部へつ切り機ナデ	口縁部一 部欠損	床面直 上	G区SI-41 No.10	磁子産
197	2	葉巻器 環	口径 13.6 底径 7.4 器高 4.3	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒少量、礫 多量	良好		ロクロ目圓蓋 底部へつ切り機ナデ	完形	床面直 上	G区SI-41 No.7	磁子産
197	3	葉巻器 環	口径 13.7 底径 6.3 器高 4.9	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/2 暗黄灰	砂粒・白色粒 子微量	良好		ロクロ目圓蓋 底部へつ切り機ナデ	ほぼ完形	床面直 上	G区SI-41 No.8	磁子産
197	4	葉巻器 環	口径 13.3 底径 8.4 器高 4.3	外面 5Y6/2 灰オリーブ 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒少量、白 色粘土微量	良好		底部へつ切り機ナデ	口縁一 部一 部欠	床の上 約 4cm	G区SI-41 No.6	磁子産
197	5	葉巻器 環	口径 13.7 底径 7.0 器高 4.6	2.5Y5/3 黄褐色	砂粒少量、礫・ 透明粘土微量	良好	割書あり「×」 黒色物附着	ロクロ目圓蓋 体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁一底 部2/3残	床面直 上	G区SI-41 No.9	磁子産
197	6	葉巻器 環	口径 (13.5) 底径 (6.6) 器高 4.0	外面 7.5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒少量	良好	口縁部に徳成時の 割れ	体部下端 回転ヘラケズリ 底部 回転ヘラケズリ	口縁一底 部1/3残 存	床の上 約 12cm	G区SI-41 No.2	磁子産
197	7	葉巻器 環	口径 - 底径 6.6 器高 [3.9]	外面 2.5Y8/1 灰白 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒多量	やや 不良		ロクロ目圓蓋 底部へつ切り機ナデ	底部完形	床の上 約 15cm	G区SI-41 No.1	磁子産
197	8	葉巻器 高台付環	口径 13.1 底径 7.2 器高 5.3	5Y4/1 灰	砂粒多量	良好	底面に徳成時の 割れ		ほぼ完形	床の上 約 5cm	G区SI-41 No.5	磁子産
197	9	葉巻器 高台付環	口径 11.0 底径 5.4 器高 4.9	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/3 に灰・黄	砂粒少量、礫 微量	良好	内面 部仕上りか	ロクロ目圓蓋	口縁部 1/2欠損	床の上 約 15cm	G区SI-41 No.1	磁子産

197	10	土師器 甕	口径(15.8) 底径 器高 10.5	外面 7.5YR4/4 器内面 7.5YR4/3 地	砂粒少量、透 明粒子微量	良好			口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁一部 底径残 存	カマド 内	G区 SI-41 少ナデNo.5・ カマド
197	11	鉄製品 不明	長 4.20 幅 1.41 厚 0.36 重 2.89							一部残存 か	覆土中	G区 SI-41 NW

G区 SI-42 (第198図、第106-116表、図版五九・六〇・一三〇)

位置 調査区中央部にあたるK-28グリッドに位置する。**重複関係** SI-8、SD-45より古く、P-94・113とは新旧関係は不明である。本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 重複および削平によって遺存状況が極めて悪い。確認された部分は方形基調の堅穴の南東隅付近とみられる。東西2.2m以上、南北3.8m以上、壁は10cm未満である。**軸方向** N-45°-W **覆土** 2層確認した。このうち1層とした黒褐色土内に炭化材が多く認められ、焼土粒子も含まれている。**床面** 確認した範囲では貼床は認められず、地山であるローム層を床面としている。床面にはやや凹凸があり、西側に向かって緩やかに下がっている。**柱穴・カマド** 確認されていない。**遺物の出土状況** 壁際の覆土を中心に炭化材が確認されている。焼失住居跡の可能性も考えられるが、壁や床面に焼けた痕跡は認められない。**出土遺物** 土師器鉢1点、甕1点、須恵器甕1点、砥石1点を図示した。4は安山岩である。このほかに土師器環9点63g、甕124点1228.53g、須恵器環7点28g、甕3点32.71gが出土している。**時期** 7世紀中葉以前。



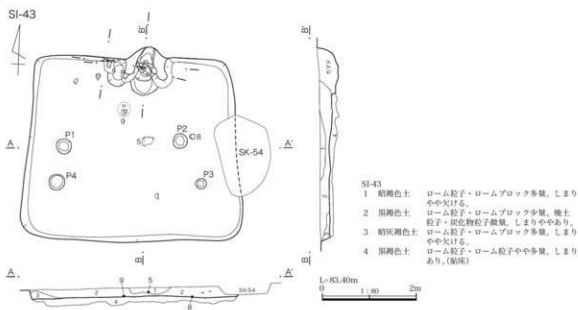
第198図 G区 SI-42 遺構・出土物実測図

第116表 G区 SI-42 出土遺物観察表

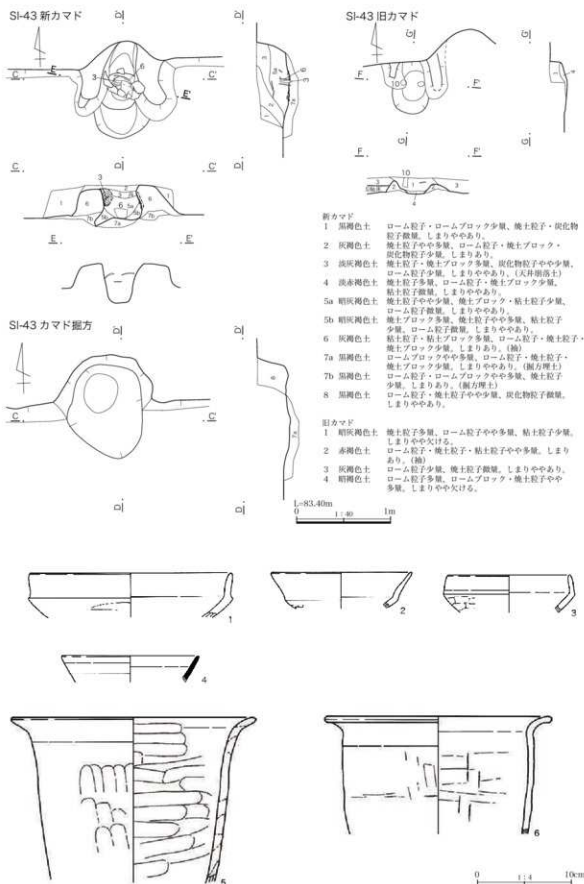
図録 No.	No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
198	1	土師器 鉢	口径 - 底径 - 器高 [3.0] 厚 0.7	5YR5/0 明赤褐	砂粒微量、硬 石干	良好		口縁部に段がある 口縁部 ココナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	G区 SI-42	
198	2	土師器 甕	口径 - 底径 (10.1) 器高 [5.3]	外面 N2/ 黒 内面 7.5YR4/3 地	砂粒微量、平 滑透明黒色粒 子干	良好		外面 ミヤキに近いケズリ 内面 ヘラナデ	胴一部 一部残存	覆土中	G区 SI-42 床下	
198	3	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [6.2] 厚 0.9	外面 7.5YR4/2 灰褐 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量、黒 色粒子若干	良好	外面 自然輪付若	内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆土中	G区 SI-42	産地不明
198	4	石製品 砥石	長 5.3 幅 3.4 厚 1.2 重 35.0		安山岩			研磨面1面	一部残存	覆土中	G区 SI-42・ SD-45 フケ土一拵	

G区 SI-43 (第199-201図、第106-117表、図版六〇・六二・一三〇)

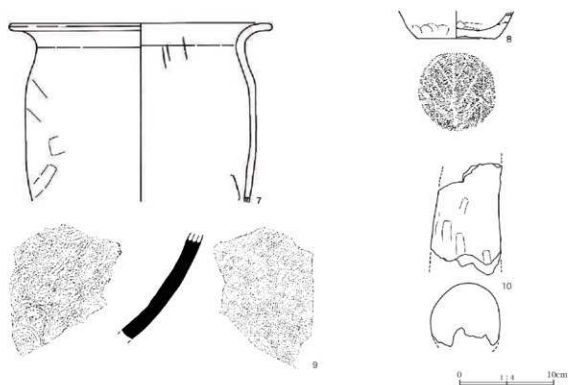
位置 調査区中央東部にあたるK・L-27・28グリッドに位置する。**重複関係** SK-54と重複しており、SK-54より古い。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形である。東西4.6m、南北3.9m、面積は17.94㎡、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 貼床を除いて3層確認した。自然堆積土とみられる。**床面** ほぼ全面に貼床が施されている。貼床は地山由来のロームブロックなどを多量に含んだ黒褐色土を使用して構築されており、厚さは5～15cmほどである。上面は平坦となっている。**柱穴等** 4基確認した。P1は西壁中央付近に位置しており、直径30cmほどの円形で、深さは15cmである。P2は竪穴中央からやや北東寄りに位置し、直径30cmほどの円形で、深さ11cmである。P3は東隅付近に位置しており、長軸25cm、短軸20cmの楕円形で、深さは18cmである。P4は南隅付近に位置しており、直径35cmほどの円形で、深さは7cmである。**カマド** 北壁中央において2基並んで確認した。遺存状態などから東側のカマドが新しく、西側のカマドが古いと判断した。新カマドは淡灰褐色土を積んで構築した袖と、両袖に挟まれた燃焼部、掘方が遺存していた。袖は幅45cm、高さ30cm、竪穴壁からの長さ65cm、両袖間の長さ30cmである。焚口とみられる両袖先端部では横倒しの状態で裏が出土しており、焚口天井の構築材が崩落したものとみられる。燃焼部は非常に良く焼けており、燃焼部底面および袖の内側が焼土化していた。また燃焼部中央には礫と裏の口縁部片を立てた状態で設置しており、支脚に用いられたものと思われる。掘方は最大10cmほどの深さまで掘られており、しまりのある黒褐色土で埋められていた。旧カマドは赤褐色土を積んで構築した袖と、両袖に挟まれた燃焼部、掘方が遺存していた。袖は幅25cm、高さ12cm、竪穴壁からの長さ45cm、両袖間の長さ20cmである。燃焼部はあまり焼けておらず、明確な焼土化範囲は認められなかった。燃焼部からは土製支脚が出土しており、このカマドに用いられていた可能性もあるが、底面から浮いて出土していることから、カマドの機能停止後に廃棄したものとみられる。掘方は燃焼部下にのみ認められ、深さ5cmほどの深さで、焼土粒子を多く含む暗褐色土で埋められていた。**出土遺物** 土師器環3点、甕4点、須恵器環1点、甕1点、土製支脚1点を図示した。1・3は漆仕上げ、2は黒色処理が施されている。このほかに土師器環12点82g、土師器甕84点1111g、須恵器甕3点79gが出土している。**時期** 7世紀前葉。



第199図 G区 SI-43 遺構実測図(1)



第200図 G区SI-43遺構(2)・出土遺物実測図(1)



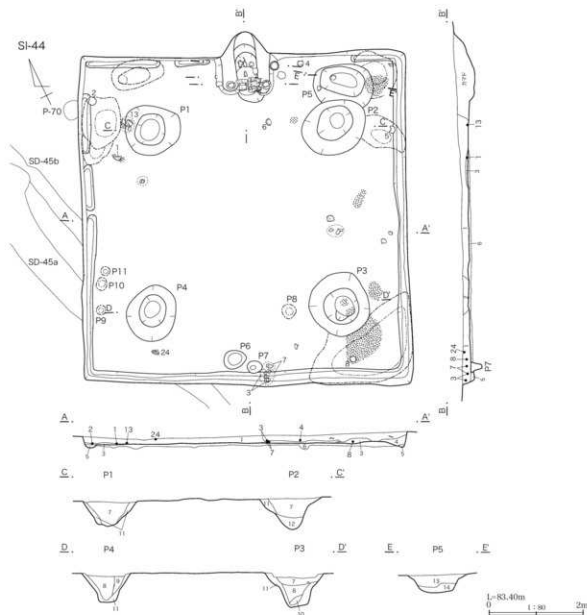
第201図 G区SI-43出土遺物実測図(2)

第117表 G区SI-43出土遺物観察表

排次 No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	器形・器形の特徴	遺存 部位	出土 状態	注記	産地・備考
200	1	土師器 坏	口径 (21.4) 底径 - 器高 [4.7]	外面 10YR2/1 黒黒 内面 7.5YR5/3 にふい・暗	砂粒微量	良好	口縁部 漆仕上げ	口縁部 ヨコナデ 体部 ナデ	口縁部 1/6 残存	覆土中	G区 SI-43 NW	
200	2	土師器 坏	口径 (14.8) 底径 - 器高 [3.8]	外面 2.5Y3/1 黒黒 内面 2.5Y4/2 暗灰黄	砂粒少量	良好	内外面 黒色処理	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ケズリ	口縁部 1/8 残存	カマド 底面上	G区 SI-43 カマド No.6	
200	3	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 - 器高 [4.0]	外面 10YR5/3 にふい・黄黒 内面 10YR4/2 灰黄緑	砂粒少量	良好	口縁部付迄 漆仕 上げか	口縁部 ヨコナデ 下端 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/8 残存	カマド 底面上	G区 SI-43 カマド No.6	
200	4	須恵器 坏	口径 (14.6) 底径 - 器高 [2.8]	外面 10Y4/1 灰 内面 7.5Y4/1 灰	砂粒少量・礫 微量	良好		ロクロ口面蓋	口縁部一 部残存	覆土中	G区 SI-43 NE	磁子産
200	5	土師器 甕小瓶	口径 (26.0) 底径 - 器高 [17.5]	7.5YR4/2 灰黒	砂粒・礫少量	良好	口縁～胴部外面 欠欠付着 内面 黒化	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部一 部 1/6 残 存	灰土割 10cm	G区 SI-43 No.3	
200	6	土師器 甕	口径 (24.0) 底径 - 器高 [12.5]	外面 7.5YR5/6 明暗 内面 7.5YR4/4 暗	砂粒・礫少量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部外面 ナデ 内面 ヘラナデ	口縁部 1/8 残存	カマド 底面上	G区 SI-43 カマド No.5	
201	7	土師器 甕	口径 (27.9) 底径 - 器高 [19.0]	外面 7.5YR4/4 暗 内面 7.5YR4/6 暗	砂粒・礫少量 透明配子黄黒	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部外面 ナデ 内面 ヘラナデ	口縁～胴 部 1/5 残 存	カマド 内	G区 SI-43 カマド No.2・ カマド内一 括	
201	8	土師器 甕	口径 - 底径 8.4 器高 [2.9]	外面 7.5YR5/4 にふい・暗 内面 7.5YR3/1 黒黒	砂粒・礫多量	良好	底部外面 未装飾	ナデ	底部残存	体面直上	G区 SI-43 No.2	
201	9	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [11.0]	外面 2.5Y6/2 灰黒 内面 10YR5/2 灰黄緑	砂粒・黒色配 子少量・礫微 量	良好		胴部外面 幾格子かタ タキ 内面 同心円タタキ	胴部一部 残存	体面直上	G区 SI-43 No.5	産地不明
201	10	土製支脚	径 [11.7] 幅 [7.4] 厚 [0.6]	10YR5/4 にふい・黄黒	砂粒・礫・植 物繊維多量	やや 不良		ケズリ	一部残存	カマド 内	G区 SI-43 旧カマド No.2	

G区 SI-44 (第202-204図、第106-118表、図版六一・六二・一三〇・一三一)

位置 調査区東部にあたるL-28・29、M-28グリッドに位置している。重複関係 SD-45a・bより古く、P-70との新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 平面形は東西方向にわずかに長い方形で、東西7.4m、南北7.0m、面積は51.8㎡、壁は遺存状況の良い部分で25cmほどである。**主軸方向** N-25°-E
覆土 貼床を除いて4層確認した。**床面** ほぼ全面に貼床が施されている。掘方はコーナー周辺が少し

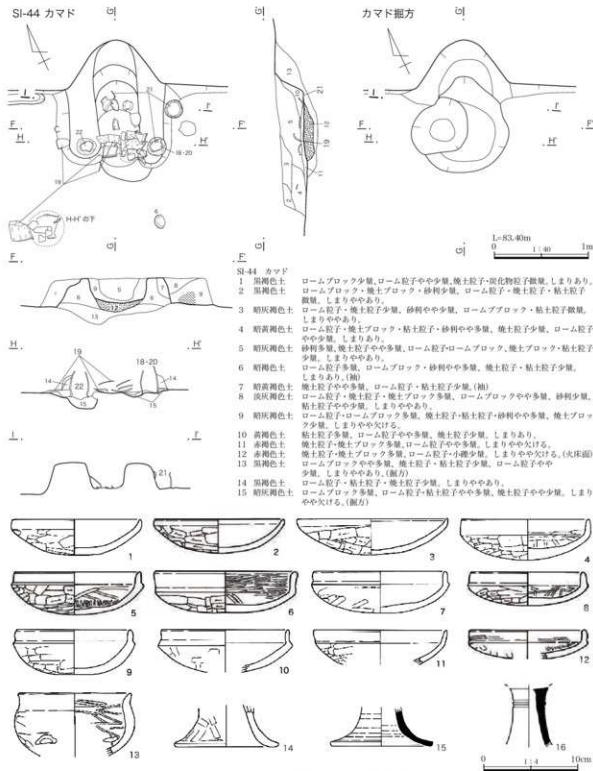


SI-44

- | | |
|----------|---|
| 1 黒褐色土 | ロームブロック少量、ローム粒子やや多量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、しまりややあり。 |
| 3 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、しまりややあり。 |
| 4 暗灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量、しまりあり。 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子やや多量、ロームブロックやや多量、しまりやや欠ける。(周溝覆土) |
| 6 暗黄褐色土 | ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、しまりあり。(貼床) |
| 7 暗灰褐色土 | ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、炭化物粒子微量、しまりやや欠ける。 |
| 8 富褐色土 | 焼土粒子少量、ローム粒子やや少量、ロームブロック・炭化物粒子微量、しまり欠ける |
| 9 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。 |
| 10 暗灰褐色土 | ローム粒子・ロームブロックやや多量、しまりやや欠ける。 |
| 11 赤褐色土 | ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロック多量、ローム粒子やや多量、しまり欠ける。 |
| 12 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量、しまりややあり。 |
| 13 富褐色土 | ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりややあり。 |
| 14 黄褐色土 | ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、しまり欠ける。 |

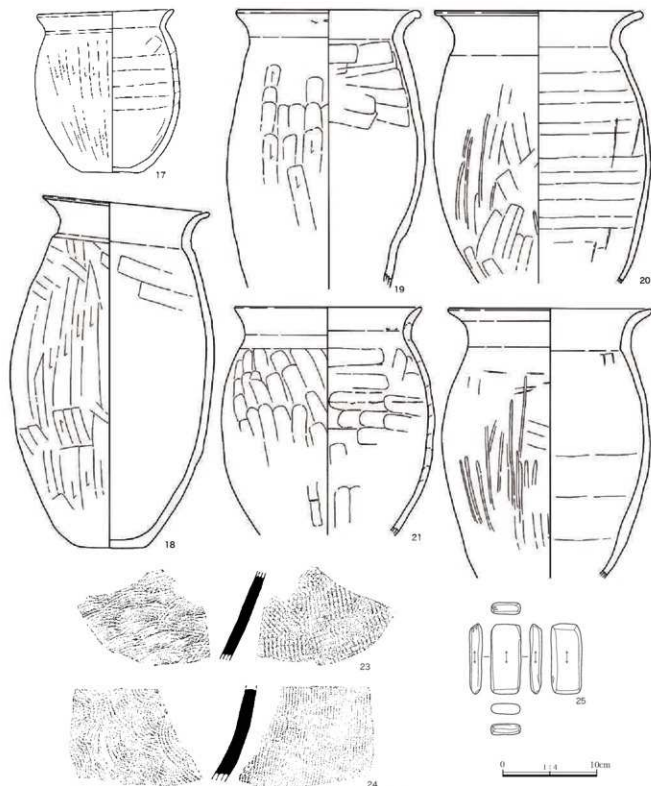
第202図 G区 SI-44 遺構実測図(1)

掘り下げられている。貼床は地山由来のロームブロックを多量に含んだ暗黄褐色土（6層）で構築されており、厚さは5cmほどである。また壁に沿って幅30cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。柱穴等ピットは11基確認した。このうちP1～4が主柱穴、P6～11が床下確認の小穴である。主柱穴であるP1～4いずれも平面形は楕円形である、P1が長軸120cm、短軸100cm、深さ62cm、P2が長軸130cm、短軸115cm、深さ65cm、P3が長軸130cm、短軸120cm、深さ73cm、P4が長軸110cm、短軸100cm、深さ64cmとなつ



第203図 G区SI-44遺構(2)・出土遺物実測図(1)

ている。断面が逆台形状～すり鉢状の大きな掘り下げで、明確な柱痕跡は確認できず、いずれも竪穴廃絶時に柱を抜き取ったものと思われる。但し、12層は掘方埋土の一部か。床下で確認したP6～8は南壁付近に近接して位置している。平面形はいずれも楕円形で、P6が長軸50cm、短軸35cm、深さ20cm、P7が長軸30cm、短軸25cm、深さ18cm、P8が長軸30cm、短軸25cm、深さ14cmである。P9～11は西壁付近に近



第204図 G区SI-44出土遺物実測図(2)

接して位置している。P9が直径20cm、深さ20cmの円形、P10が長軸26cm、短軸20cm、深さ23cmの楕円形、P11が直径18cm、深さ23cmの円形である。貯蔵穴 P5はカマドに向かって右脇にあたる北東隅に位置している。東西方向に長い楕円形で、長軸120cm、短軸90cm以上、深さ38cmほどで下部に段差がある。カマド 北壁中央に位置している。砂利や粘土を含む暗褐色土を積んで構築された袖と両袖に挟まれた燃焼部と掘方と遺存している。袖は幅50cm、高さ30cm、堅穴壁からの長さ85cm、両袖間の幅35cmである。焚口にあたとみられる両袖先端内部には、倒立した甕が芯材として埋め込まれている。(18・20・22) 焚口の天井部にあたとみられる部分では、甕2個を横方向に連結させたような状態で出土しており、これも芯材としてブリッジ状に架けられていたが崩落したものとみられる。燃焼部は非常に良く焼けており、底面の埋土はかなりの深さまで焼土化していた。掘方は最大で20cmほどの深さがあり、しまりのある黒褐色土で埋められていた。出土遺物 土師器環12点、鉢1点、高坏1点、甕6点、須恵器高坏2点、甕2点、砥石1点を図示した。このほかに土師器環103点1060g、蓋7点70g、鉢6点315g、甕1点42g、甕410点6971g、須恵器環3点39g、蓋2点16gが出土した。時期 7世紀前葉。

第118表 G区SI-44出土遺物観察表

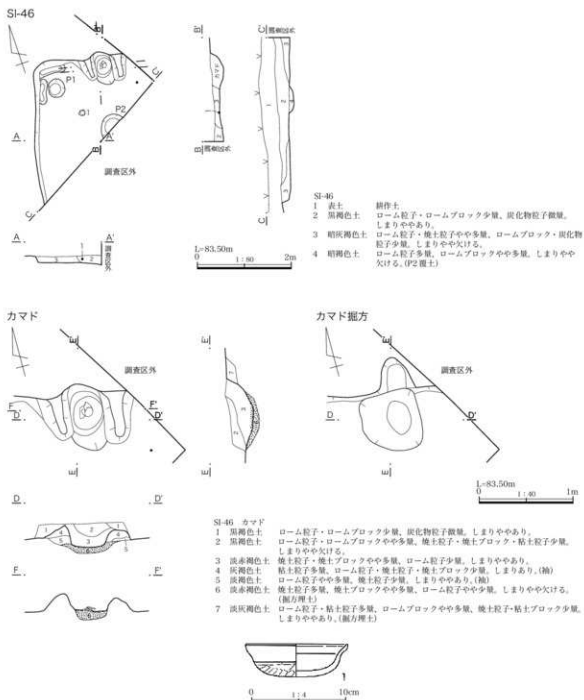
調査 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
203	1	土師器 環	口径 13.5 底径 - 器高 3.7	7.5YR3/1 黒褐色	砂粒少量、礫・ 黒色粘土質	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 ケズリ 内面 ナデ	完整	床上的 10cm	G区 SI-44 No.17・NE	
203	2	土師器 環	口径 13.6 底径 3.6 器高 3.6	外面 7.5YR3/1 黒褐色 内面 10YR3/2 黄褐色	砂粒少量、黒色 粘土質	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部 7/8 残 存、体 底面 完全	床上的 5cm	G区 SI-44 No.16	
203	3	土師器 環	口径 15.8 底径 3.8 器高 3.8	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR2/1 黒	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部 7/8 残 存、体 底面 完全	床上的 5cm	G区 SI-44 No.13・14・ SW	
203	4	土師器 鉢	口径 13.4 底径 - 器高 4.4	外面 2.5Y3/1 に深い 内面 7.5YR5/4 に深い	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁 へ 体部上 半 3/4 残 存、体部 下半 部完全	床上的 5cm	G区 SI-44 No.1	
203	5	土師器 環	口径 13.3 底径 - 器高 4.6	7.5YR6/6 橙	砂粒多量、礫 若干	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	3/4 残 存	床面直 上	G区 SI-44 No.5	
203	6	土師器 環	口径 (14.7) 底径 - 器高 4.4	外面 10YR5/4 に深い 内面 10YR4/1 黒	砂粒少量、赤 色粘土	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/2、 体部 1/2、 底面 3/4 残存	甕土中	G区 SI-44 カマド1	
203	7	土師器 鉢	口径 14.0 底径 - 器高 3.4	外面 7.5YR5/4 に深い 内面 7.5YR6/6 橙	砂粒少量	良好	内面・外面に口縁 部付近 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/3、体 部 1/2、 底面 3/4 残存	床上的 5~10 cm	G区 SI-44 No.12・13	
203	8	土師器 鉢	口径 (11.8) 底径 - 器高 3.6	外面 7.5YR4/2 赤褐色 内面 5YR3/4 暗褐色	砂粒多量、赤 色粘土若干	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	1/2 残 存	床上的 15cm	G区 SI-44 No.10	
203	9	土師器 環	口径 (11.8) 底径 - 器高 4.7	7.5YR8/6 浅黄褐色	砂粒多量、黒色 粘土質	良好		口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4、体 部 1/2、 底面 3/4 残存	カマ ド内	G区 SI-44 カマド21	
203	10	土師器 環	口径 (13.4) 底径 - 器高 (4.6)	外面 10YR3/2 黒褐色 内面 10YR4/2 黒褐色	砂粒微量	良好	内面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁部・ 体部 下半 1/8、体 部 上半 1/4 残 存	甕土中	G区 SI-44 SE・SW	
203	11	土師器 環	口径 (14.0) 底径 - 器高 (3.7)	外面 7.5YR7/6 橙 内面 10YR7/4 に深い	砂粒少量、礫 微量	良好		口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1/6 残 存	甕土中	G区 SI-44 P4	
203	12	土師器 環	口径 (12.0) 底径 - 器高 (3.0)	7.5YR5/4 に深い	砂粒・礫微量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/6、体 部 1/5 残 存	甕土中	G区 SI-44 NE	
203	13	土師器 鉢	口径 (11.7) 底径 - 器高 (6.8)	外面 5Y3/1 赤褐色 内面 2.5Y3/1 黒褐色	砂粒少量	良好		口縁部 ココナデ 体部 外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	口縁部 1/5、体 部 1/6 残 存	床上的 10cm	G区 SI-44 No.15	脚部付近打 ち欠

203	14	土師器 高杯	口径 - 底径 (10.5) 器高 [4.0]	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 7.5YR6/6 橙	砂粒・塵少量	良好		内外面ナデ	腹部1/4 残存	覆土中	G区 SI-44 NW		
203	15	須恵器 高杯	口径 - 底径 (10.4) 器高 [4.2]	7.5YR6/6 橙	砂粒・塵少量	良好		ロクロ目顯著	腹部1/4 付近	カマド	G区 SI-44 カマド一筋	磁子産	
203	16	須恵器 高杯	口径 - 底径 (6.0) 器高 [5.4]	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒多量	中々 不良		2本の沈線	腹部一部 残存	覆土中	G区 SI-44	磁子産	
204	17	土師器 小形壺	口径 14.3 底径 6.0 器高 (17.4)	7.5Y5/8 明褐	砂粒多量、塵 少量	良好	外面 荒れている	口縁部 ココナデ 蓋～底部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 磨粉痕	口縁部完 存、底部 2/3 残存	カマド 付近	G区 SI-44 カマド		
204	18	土師器 壺	口径 17.5 底径 7.2 器高 37.4	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 5YR4/4 にぶい赤褐	砂粒・塵・赤 色粒子多量 黒炭母少量	良好	胴部下半～底部 荒れている	口縁部 ココナデ 胴部外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	口縁部完 存、底部 2/3 残存	袖内	G区 SI-44 No.24 カマド		
204	19	土師器 壺	口径 19.4 底径 - [27.6] 最大径 20.9	5YR5/6 明赤褐	砂粒・塵・赤 明粒子多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	底部欠損	カマド 付近	G区 SI-44 カマド No.11・ カマド No.14・ カマド No.15・ カマド No.18 カマド		
204	20	土師器 壺	口径 (22.0) 底径 - 器高 (29.0)	外面 7.5YR6/6 橙 内面 7.5YR5/4 にぶい赤褐	砂粒・塵多量	良好	内面 黒炭あり	口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ後ヘラミ ガキ 内面 ヘラナデ	底部欠損	袖内	G区 SI-44 カマド No.24		
204	21	土師器 壺	口径 (19.8) 底径 (24.2) 最大径 (22.6)	5YR6/6 橙	砂粒多量、塵・ 赤色粒子少量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ 内面 ヘラナデ	胴部1/3 欠損、底 部欠損	カマド 周辺	G区 SI-44 20 カマド・ 24 カマド・ カマド F・ カマド JE		
204	22	土師器 壺	口径 21.6 底径 - 器高 (28.6)	外面 5YR4/4 にぶい赤褐 内面 2.5YR4/6 赤褐	砂粒・塵多量	良好	内面 底部付近荒 れている	口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ後ヘラミ ガキ 内面 ヘラナデ	底部欠損	袖内	G区 SI-44 カマド No.23		
204	23	須恵器 壺	口径 - 底径 (9.7) 器高 [9.7]	10YR8/4 浅黄褐	砂粒・塵少量	中々 不良		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 付近	カマド	G区 SI-44 カマド F	産地不明	
204	24	須恵器 壺	口径 - 底径 (9.8) 器高 [9.8]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y5/2 暗黄灰	砂粒・塵少量	良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	床土約 20 cm	G区 SI-44 No.20	産地不明	
204	25	石製品 灰石	長 7.4 幅 3.2 厚 1.2 重 54.43					貼板石	全面使用	ほぼ完存	覆土中	G区 SI-44 SW	

G区 SI-46 (第205図、第106-119表、図版六二・一三一)

位置 調査区南東隅にあたるM・N-30グリッドに位置している。重複関係なし。**平面形状・規模** 大半が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡の北西隅付近であるとみられる。確認できた範囲で、東西2.5m以上、南北3.0m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-17°-E **覆土** 竪穴中央部を中心に堆積する黒褐色土(2層)と、壁際を中心に堆積する暗灰褐色土(3層)を確認した。前者は自然流入土、後者は壁などの崩落土と考えている。**床面** 確認した範囲では貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としていた。床面の硬化はあまり認められなかった。また北東隅付近では幅25cm、深さ10cmほどの壁溝が掘られている。**柱穴等** 2基確認した。P1は北西隅に近接して位置しており、長軸40cm、短軸35cmの楕円形で、深さは11cmほどと浅い。P2は竪穴中央に位置しており、南東側が調査区外であるが、直径60cmほどの円形とみられる。深さは10cmほどと浅く、周壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。**カマド** 北壁に位置している。灰褐色土と淡赤褐色土を積んで構築した袖と燃焼部、下部の掘方および竪穴壁から短く伸びる煙道を確認した。袖は幅35cm、高さ10cm、竪穴壁からの長さ55cm、両袖間の幅30cmである。燃焼部はあまり焼けておらず、底面が焼土化している程度である。燃焼部中央からは土師器の破片が重ねられた状態で出土しており、支脚代わりに使用した可能性がある。煙道は幅30cm、竪穴壁から35cmほど外側に延びており、先端部はほぼ垂直に立ち上がっている。掘

方は深さ 14 cm ほどで、埋土は焼土化しており淡い赤褐色を呈する。 **出土遺物** 土師器環 1 点を図示した。このほかに土師器環 3 点 13 g、裏 20 点 500 g、須恵器裏 2 点 21 g が出土している。 **時期** 7 世紀中葉。



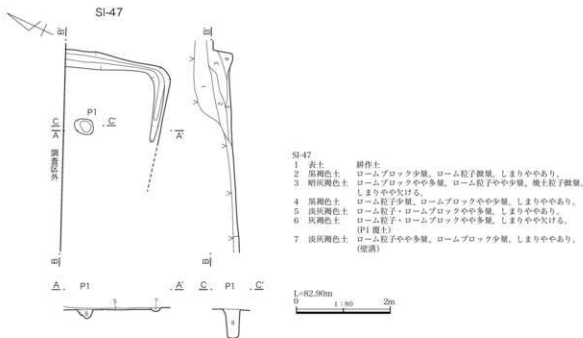
第 205 図 G 区 SI-46 遺構・出土遺物実測図

第 119 表 G 区 SI-46 出土遺物観察表

探検 No.	種類	材質	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存状態	出土状況	注記	産地・備考
205	1	土師器環	口径 10.7 底径 . 断面 3.5	10YR7/3 に近い黄褐色	砂粒微量	良好	口縁部 透任上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	ほぼ完形	床面直上	G 区 SI-46 No.1	

G区SI-47 (第206図、第106表、図版六二・六三)

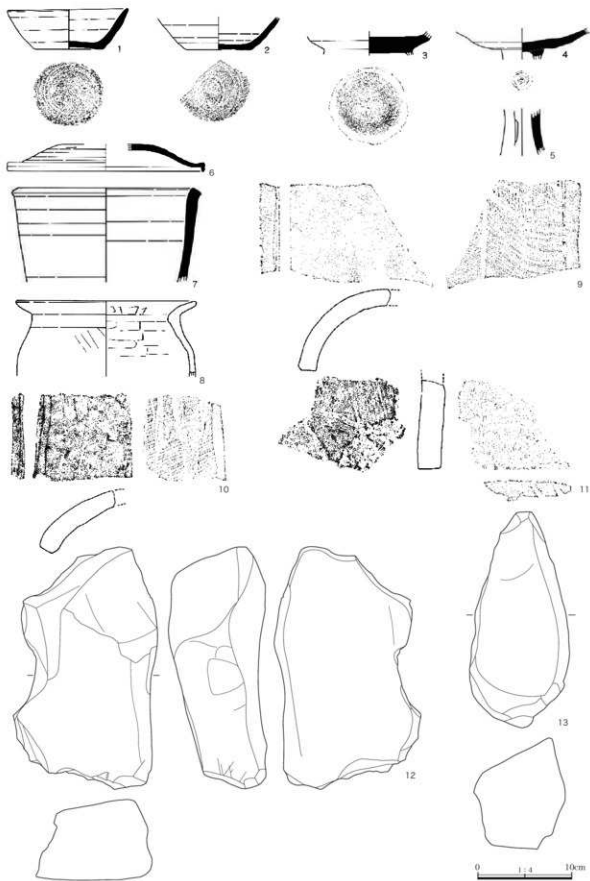
位置 調査区南部にあたるL-30グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北側の大半は調査区外で、西側は既に削平されており遺存せず、詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡の南東隅とみられる。確認できた範囲で、東西2.6m以上で、南北2m以上で、壁は遺存状況の良い部分で35cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 4層確認した。このうち床面を覆う淡灰褐色土は地山由来のロームブロックを多く含む。**床面** 確認できた範囲では貼床等は確認できず、地山であるローム層そのまま床面としている。また壁に沿って幅35cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 1基確認した。P1は南北方向に長い楕円形で、長軸40cm、短軸30cm、深さ59cmである。おそらく主柱穴とみられる。**カマド** 不明。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環4点16g、鉢1点15g、甕7点39gが出土している。**時期** 不明。



第206図 G区SI-47遺構実測図

G区SI-71 (第207図、第106表、図版六三)

位置 調査区南西部にあたるH-28・29、I-28・29グリッドに位置する。**重複関係** SI-72と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 大半が調査区外で、東壁及び南壁の一部を確認したに過ぎない。一辺5mほどの方形基調の竪穴建物跡と思われる。壁は遺存状況の良い部分で5cmほどである。**主軸方向** N-102°-E **覆土** ローム粒子を含んだ暗褐色土、鹿沼軽石を含んだ暗褐色土が堆積している。**床面** 地山である鹿沼軽石層を床面しているとみられる。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 東壁中央に位置しているが、遺存状況が極めて悪い。袖は基礎となる地山ローム層の掘り残し部分を確認した。本来はこの上に粘質土を積んで袖を構築していたと思われる。袖は幅25cm、高さ3cm、竪穴壁からの長さ35cm、両袖間の幅67cmである。明確に焼けた燃焼部の痕跡は認められず、炭化物なども確認できなかった。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環1点4g、甕3点50g、須恵器環3点24g、陶器1点2gが出土している。**時期** 9c中葉以降。



第208图 G区SI-72出土遗物实测图

G区 SI-72 (第207・208図、第106・120表、図版六三・六四・一三二・一三三)

位置 調査区南西部にあたる1-28・29グリッドに位置する。**重複関係** SI-71より古く、SD-74より新しい。**平面形状・規模** 西壁が重複によって失われているが、東西方向に長い方形とみられる。東西3.5m以上、南北3.5m、壁は遺存状況の良い部分で40cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 6層は自然流入土、8層は壁などの崩落土、8・9層はカマドの天井や袖の崩落土と考えている。**床面** 貼床は認められず、地山であるローム層を床面としており、上面は平坦となっている。図示していないが、東壁中央付近で硬化面が認められており、この付近に入口施設があった可能性がある。南壁付近には土坑状の浅い落ち込みがあり、12の砥石が出土している。**柱穴等** 3基確認した。このうちP2・3は壁を挟り込んで構築されている。P1は南東隅付近に位置しており、東西方向に長い楕円形で、長軸40cm、短軸25cm、深さ20cmほどである。P2は北壁のカマド右脇の壁を掘り込んでいる。開口部の平面形は蒲鉾形で最大幅35cm、床面からの高さ12cm、開口部から北西方向に30cmほど掘り込まれている。内部には鹿沼軽石粒子を多量に含んだ茶褐色土が堆積していた。P3は北壁を掘り込んでいる。開口部の平面形は半円形で、最大幅25cm、床面からの高さ10cm、開口部から北方向に9cmほど掘り込まれている。内部には鹿沼軽石を主体とした黄褐色土が堆積していた。**カマド** 北壁中央に位置しており、赤褐色土と灰赤褐色土を積んで構築した袖と、

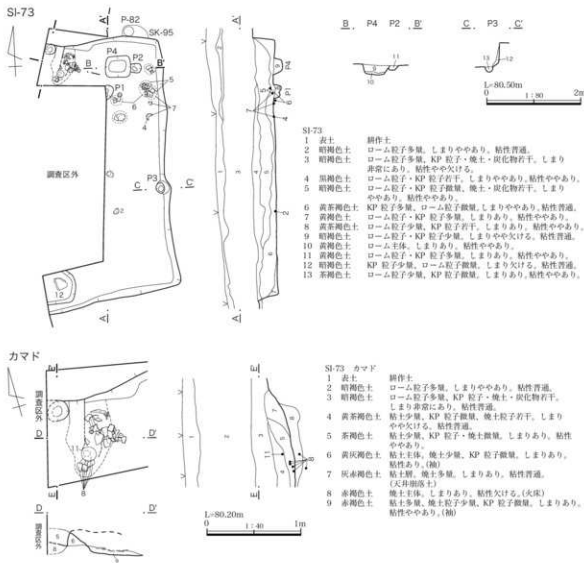
第120表 G区 SI-72 出土遺物観察表

図号	No.	種類	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石膏	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存状態	出土状況	注記	産地・備考
208	1	黒土器 環	口径 12.8 底径 7.2 器高 4.3	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/1 灰黄	砂粒多量、赤 色粘土多量	良好		底部 未切り	ほぼ完成	覆土中	G区 SI-72	磁子産
208	2	黒土器 環	口径 - 底径 (7.0) 器高 (3.4)	外面 5Y6/3 オリーブ黄 内面 5Y5/2 灰オリーブ	砂粒多量、礫 少量	良好		底部 未切り	底部 2/3 残存	カマド 内	G区 SI-72 カマド F1	磁子産
208	3	黒土器 高台付環	口径 - 底径 - 器高 (2.5)	外面 5Y6/1 灰 内面 2.5Y3/2 暗灰黄	砂粒多量、礫 少量	良好		底部 回転ヘラケズリ	底部残存	床面上	G区 SI-72 No.4	堀ノ内産か
208	4	黒土器 高杯	口径 - 底径 - 器高 (3.3)	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 7.5YR5/2 灰黄	砂粒多量	良好		クロコ目願着	坏底部 3/4 残存	床面上	G区 SI-72 No.3	磁子産
208	5	黒土器 高杯	口径 - 底径 - 器高 (4.7)	外面 2.5Y6/1 灰黄 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒少量	良好		3 通かし孔か	底部一部 残存	覆土中	G区 SI-72 南ベルト内	磁子産
208	6	黒土器 蓋	口径 (20.6) 底径 - 器高 (2.9)	外面 5Y5/1 灰 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒少量、礫 若干	良好		クロコ目願着 天井部 回転ヘラケズリ	天井部 1/4 残存	覆土中	G区 SI-72 南西部	磁子産
208	7	黒土器 甕	口径 (18.6) 底径 - 器高 (10.2)	外面 10YR7/3 に赤い黄褐色 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒微量	良好		クロコ目願着	口縁部 1/8 残存	床土約 5 cm	G区 SI-72 No.8	
208	8	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 (8.0) 厚 2.0	外面 7.5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒・礫・金 碧母多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/5 残存	床面上	G区 SI-72 No.7	
208	9	男瓦	厚 2.0 重 386.27	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒多量、礫 少量	良好		凸面 ナデ 凹面 赤白直 線面 ナデ	一部残存	床土約 10 cm	G区 SI-72 No.5	
208	10	女瓦	厚 2.2 重 306.24	外面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好		凸面 ナデ 凹面 赤白直 線面 ナデ	一部残存	床面上	G区 SI-72 No.9	
208	11	女瓦	厚 2.5 重 303.31	外面 10YR6/6 明黄褐色 内面 10YR6/3 に赤い黄褐色	砂粒・礫少量	やや 不良		凸面 縄文タタキ 凹面 赤切り・ナデ 線面 ナデ	一部残存	床土約 3 cm	G区 SI-72 No.13	
206	12	石製品 砥石	長 25.6 幅 15.4 厚 10.4 重 4420.6		砂岩		純熟	研磨面 2面	一部欠損	床面上	G区 SI-72 No.10	
208	13	石 (用途不明)	長 23.0 幅 10.7 厚 11.9 重 3338.9		砂岩		純熟		一部残存	床土約 3 cm	G区 SI-72 No.11	

袖に挟まれた燃焼部、下部の掘方が遺存していた。袖は幅 50 cm、高さ 20 cm、堅穴壁からの長さ 55 cm、両袖間の幅 40 cm である。地山である鹿沼軽石層を掘り残し、袖芯としていた。また左袖の内側には土器片 (2) が張り付けられていた。天井のアーチ構造が一部遺存しており、(A-A' 7 層部分) 燃焼部底面からの高さは 10 cm ほどであった。燃焼部は良く焼けており、底面や袖の内側が焼土化していた。掘方は燃焼部中央に深さ 5 cm 未満の浅い掘り込みを確認した。 **出土遺物** 土師器裏 1 点、須恵器環 2 点、高台付環 1 点、高環 2 点、蓋 1 点、甕 1 点、瓦 3 点、石製品 1 点、石 1 点を図示した。8 は胎土に金雲母が含まれる。このほかに土師器環 9 点 112 g、甕 63 点 934 g、甕 2 点 49 g、須恵器環 22 点 381 g、蓋 5 点 51 g、裏 13 点 391 g が出土している。 **時期** 9 世紀中葉。

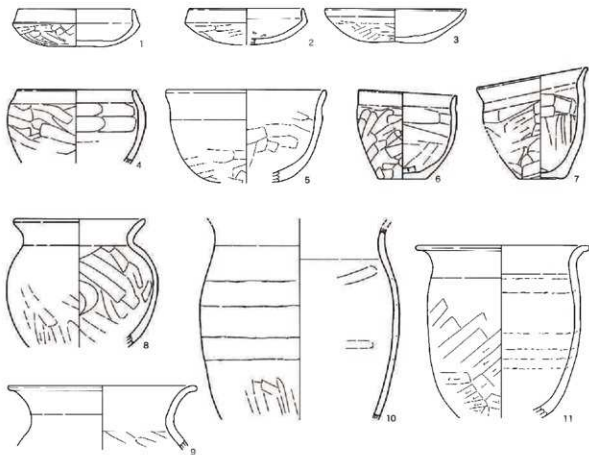
G区 SI-73 (第209-210 図、第106-121 表、図版六四・六五・一三二・一三三)

位置 調査区西部にあたる H・I・29・30 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-95 と重複するが、新旧



第209図 G区 SI-73 遺構実測図

関係は不明である。**平面形状・規模** 西側の大半が調査区外のため詳細は不明であるが、方形を基調とした竪穴建物跡と思われる。東西2.8 m以上、南北5.3 m、壁は遺存状況の良い部分で45 cmほどである。**主軸方向** N-0° **覆土** ローム粒子や鹿沼軽石粒子が多く含まれている。**床面** 確認された範囲では貼床等は認められず、地山である鹿沼軽石層を床面としている。**柱穴等** 3基確認した。P1は北壁側に位置している。長軸径30 cmほどの楕円形とみられ、深さは18 cmほどである。P2はP4より古い。長軸24 cm、短軸18 cm、深さ10 cmの隅丸長方形である。P3は東壁中央に位置しており、壁柱穴の可能性が高い。東西に長い楕円形で、長軸25 cm、短軸15 cm、深さ60 cmである。**貯蔵穴** P4は東隅に位置している。北カマドの右脇という位置関係から貯蔵穴とみられる。東西に長い長方形で、長軸55 cm、短軸45 cm、深さ20 cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。**カマド** 北壁に位置しており、東側半分を確認した。袖は左袖の半分を調査した。袖は地山を掘り残した上に黄灰褐色粘土を積んで構築していた。高さは15 cm、竪穴壁からの長さは80 cmほどである。袖の先端には倒立させた甕(8・11)が置かれており、袖口の芯材として用いられたものとみられる。燃烧部も一部確認し、底面は焼土化していた。**出土遺物** 土師器環3点、鉢2点、甕6点を図示した。このほかに土師器環1点37 g、甕129点1868.7 g、須恵器環1点6 g、蓋1点4 gが出土している。**時期** 7世紀前葉。



第210図 G区SI-73出土遺物実測図

第121表 G区 SI-73出土遺物観察表

探検 No.	掘 廻 尺	遺物 名	おおよ さ (cm・g)	色調	胎土・石 質	作成	表面の状態	器形・形状の特 徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
210	1	土師器 坏	口径(12.2) 底径 - 器高(4.0)	外面 5.YR7/6 内面 10YR6/4 に赤い黄斑	砂粒多量、赤 色粒子若干	良好	内外面 磨仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 2/3、体 -底部 1/3 残存	カマド 付近	G区 SI-73 一拵、カマ ド一拵	
210	2	土師器 坏	口径(12.0) 底径 - 器高(3.9)	10YR5/4 に赤い黄斑	砂粒微量	良好	内外面 磨仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ一部ミガ キか 内面 ナデ	1/2 残存	床直上	G区 SI-73 No.1	
210	3	土師器 坏	口径 14.9 底径 - 器高 3.7	5YR5/6 明赤褐	砂粒多量、赤 色粒子若干	良好	内外面 磨仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2、底 部 2/3 残 存	カマド 付近	G区 SI-73 カマド一拵	
210	4	土師器 鉢	口径(12.4) 底径 - 器高(7.8)	外面 7.5YR4/3 内面 7.5YR5/4 に赤い黄斑	砂粒・礫微量	良好	外面 スス付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ 内面 ナデ一部ケズリ	口縁部 3/4、体 部 1/4 残 存	床直上	G区 SI-73 No.10、一拵	
210	5	土師器 鉢	口径(17.0) 底径 - 器高(9.8)	外面 7.5YR6/4 内面 7.5YR4/2 に赤い黄斑	砂粒・礫多量、 金雲母少量	良好	内面 黒化 外面 スス付着 飛んでいる	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ 口縁部～体部内面 ナデ	口縁部 3/4、体 部 2/3 残 存	床上的 5～8 cm	G区 SI-73 No.7・8一 拵	
210	6	土師器 小形甕	口径 10.2 底径 2.5 器高 9.5 最大径 10.5	外面 7.5YR4/3 内面 7.5YR5/4 に赤い黄斑	砂粒多量、礫 少量	良好	内面 コゲ付着 外面 スス付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 底部外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ ヘラの当た方量	ほぼ完 全 床上的 10cm		G区 SI-73 No.4・7一 拵	
210	7	土師器 小形甕	口径 11.7 底径(4.6) 器高 11.8	外面 10YR5/3 に赤い黄斑 内面 7.5YR4/3 褐	砂粒・礫多量	良好	外面 スス付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	口縁部完 全、体 -床上的 底部 3/4 残存	床へ 床上的 10cm	G区 SI-73 No.8・9・ 10一拵	
210	8	土師器 甕	口径 13.6 底径 - 器高(13.6)	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 2.5YR4/4 に赤い赤斑	砂粒・礫多量、 黒色粒子微量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部完 全、胴部 1/2 残存	カマド 底面付 近	G区 SI-73 カマド1一 拵、カマド1一 拵	
210	9	土師器 甕	口径(20.0) 底径 - 器高(6.9)	外面 10YR3/2 栗 内面 10YR5/3 に赤い黄斑	砂粒多量、礫・ 透明粘土少量	良好		口縁部 ココナデ 内面 ナデ	口縁部 2/3 残存	カマド 付近	G区 SI-73 カマド一拵	
210	10	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高(20.5)	外面 10YR5/3 に赤い黄斑 内面 7.5YR6/4 に赤い黄斑	砂粒・礫・透 明粘土多量	良好	内面 黒化 外面 スス付着 飛んでいる	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	胴部 1/2 残存	カマド 付近	G区 SI-73 カマド一拵・ 一拵	
210	11	土師器 甕	口径 18.4 底径 - 器高(18.3)	外面 10YR5/4 に赤い黄斑 内面 10YR6/6 明赤褐	砂粒・礫多量	良好		口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデか 粗磨	口縁部 ほぼ完 全	カマド 上層	G区 SI-73 カマド No.6	

2 掘立柱建物跡

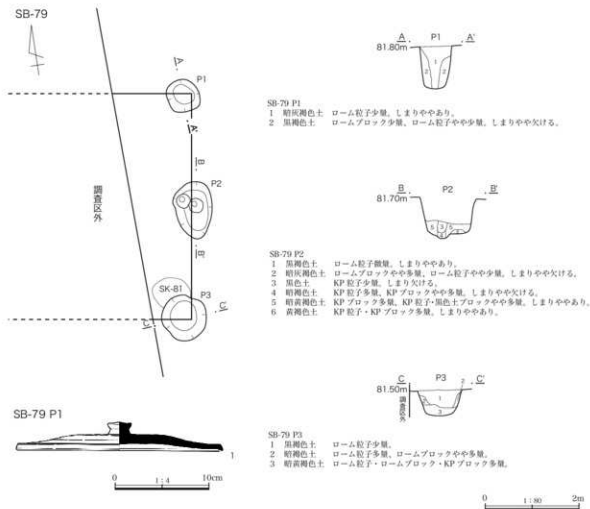
掘立柱建物跡は、西側に斜傾する台地の落ち際に1棟が確認されている。

第122表 G区 掘立柱建物跡計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	高さ (m)	ピット	断面形	出土 遺物	重複関係
SB-79	S79-80	125-26	N-10°-E	-	4.80	-	0.52～0.95	3	U字状	有	SK-81より新

G区 SB-79 (第211図、第122-123表、図版六五・一三三)

位置 調査区北部にあたる I-25・26 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-81と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 3基の柱穴が約4.8mの長さで南北方向に直線的に並んでいる。列は南北に延びないため、掘立柱建物跡の一部と推定される。梁桁は不明である。2間は確認されている。柱穴の平面形はいずれも楕円形で、長軸70～120cmほどで、深さは52～95cm、柱間距離はP1-P2で2.4m、P2-P3で2.4mである。P1・2からは直径20cmほどの柱痕跡が確認された。 **主軸方向** N-10°-E **出土遺物** 図示した遺物は須恵器の蓋1点である。このほかに土師器坏6点31g、甕29点157g、須恵器坏54点64g、高台付坏1点15g、長頸壺(壺Gか)1点6gが出土している。 **時期** 9世紀中～後葉。



第 211 図 G 区 SB-79 遺構・出土遺物実測図

第 123 表 G 区 SB-79 出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
211	1	瓦片器 蓋	口径 (21.8) 底径 器高 3.0	外面 NS/O 内面 SY4/I 灰	砂粒多量、礫 微量	良好	内面 自然釉付着		1/2 残存	陶土中	G 区 SB-79	磁子産

3 柵列

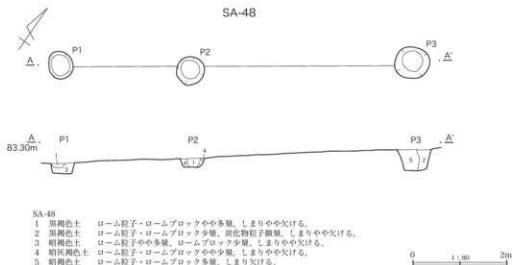
柵列は N 区の台地上に 1 列が確認されている。北側が調査区外のため、掘立柱建物跡の一部の可能性も否定できない。G 区の南東部でもピットが並び、柵列の可能性も考えられる。

第124表 G区 SA-48 計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SA-48 P1	548	L-30 M-29・30	N 60° -W	楕円形	0.49	0.46	0.21	逆台形	無	
SA-48 P2	548	L-30 M-29・30	-	円形	0.6	0.6	0.2	逆台形	無	
SA-48 P3	548	L-30 M-29・30	-	円形	0.68	0.66	0.43	逆台形	無	

G区 SA-48 (第212図, 第124表)

位置 調査区南東隅にあたる L-30、M-29・30 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 3基の柱穴が約8mの長さで、東西方向に直線的に並んでいる。楕円形で、長軸で49～68cm、深さは20～43cm、柱間距離はP1-P2間で約2.7m、P2-P3間で約4.7mとなっている。それぞれの柱穴からは直径20cmほどの柱痕跡が確認された。**主軸方向** N-50° -E **出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第212図 G区 SA-48 遺構実測図

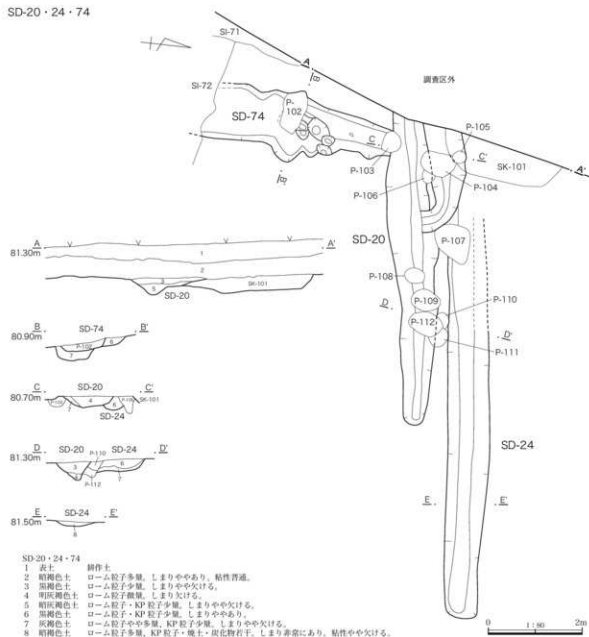
4 溝

溝は台地を横断するもの4条と並行するもの1条、L字に屈曲するもの1条が確認されている。

第125表 G区 溝計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-20	SD-20	1-28	N 85° -E	直線状	[6.50]	0.90	0.25	U字状	有	SD-24・74、P-110・112より新SK-101、P-103～105・106～109・111と重複
SD-24	SD-24	1-28・J-28	N 85° -E	直線状	[8.50]	0.90	0.19	逆台形	有	SD-20より古
SD-25	SD-25	1-24・J-24	N 82° -W	直線状	[8.50]	1.85	0.58	U字状	有	
SD-45	SD-45	K-28・ L-28・29	N-15° -W	L字状	[12.00]	0.60～ 0.80	約0.10	U字状	無	SI-42・44より古
SD-74	SD-74	1-28・29	N-10° -E	直線状	[4.00]	1.20	0.07～ 0.18	U字状	有	SI-72・SD-20より古 P-103・104と重複
SD-75	SD-75	1-29	N 82° -W	直線状	[2.90]	1.60	0.30	U字状	無	SK-76より古

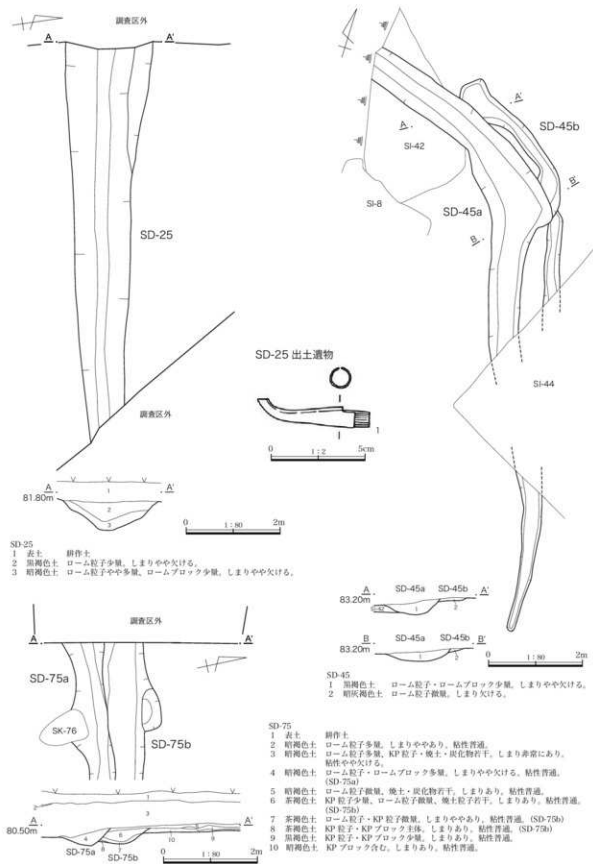
SD-20・24・74



第213図 G区SD-20・24・74遺構実測図

G区SD-20 (第213図、第125表、図版六五)

位置 調査区中央部にあたるI-28グリッドに位置する。 **重複関係** SD-24・74、P-110・112より新しく、SK-101、P-103～105・106～109・111との新旧関係は不明である。 **平面形状・規模** 東西方向に直線的に延びており、確認できた範囲で全長約6.5m以上、幅90cm、深さ25cmである。東側にむかって徐々に浅くなり、緩やかに立ち上がる。 **主軸方向** N-85°-E **覆土** 覆土は底面～壁面を覆う灰褐色土と、上面を覆う暗黒褐色土である。 **底面** 鹿沼軽石層中に作られており、やや凹凸が目立つ。断面形は逆台形状を基調としている。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点3g、裏9点57g、須恵器環7点46g、高台付環1点3gが出土している。 **時期** 不明。



第214図 G区SD-25・45・75遺構・SD-25出土遺物実測図

G区 SD-24 (第213図、第125表、図版六五)

位置 調査区中央部にあたるI・J-28グリッドに位置する。**重複関係** SD-20より古い。**平面形状・規模** SD-20と隣接し、並行するように東西方向に延びている。西側は削平されており消失していた。確認できた範囲で全長約8.5m以上、最大幅90cm、深さ19cmである。幅・深さともに東側に向かうほど規模を縮小しており、東端部で緩やかに立ち上がっている。**主軸方向** N-85°-E **覆土** ローム粒子をやや多く含む灰褐色系の土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は比較的緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点9g、裏9点43g須恵器環5点38g、裏3点68gが出土している。**時期** 不明。

G区 SD-25 (第214図、第125・126表、図版六五・一四九)

位置 調査区北部にあたるI・J-24グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に直線的に延びており、確認できた範囲で全長8.5m以上、幅185cm、深さ58cmである。幅・深さともに東側に向かうほど規模を縮小している。**主軸方向** N-82°-W **覆土** 底面～壁面を覆う地山由来とみられる暗褐色土と、上面を覆う黒褐色土の2層である。**底面** 地山である鹿沼軽石層上面に作られている。底面は幅狭く、丸みを帯びており、壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 銅製品のキセル1点を図示した。このほかに土師器環1点4g、裏2点6g、陶器1点3gが出土している。**時期** 不明。

第126表 G区 SD-25 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 図様	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質 構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	備考
214	1	銅製品 キセル	長 5.19 幅 1.07 厚 1.07 重 キセル407 本 0.54				樽首部分	本首部一部 埋存	覆土中	G区 SD-25	

G区 SD-45 (第214図、第125表、図版五九・六六)

位置 調査区東部にあたるK-28、L-28・29グリッドに位置する。**重複関係** SI-42・44と重複しており、本遺構が最も古いとみられる。**平面形状・規模** 重複や削平によって全てを確認できたわけではないが、北側は北西-南東方向に約4m延び、そこで30°ほど南に折れ曲がり、約8m延びて緩やかに立ち上がる。幅は60～80cm、深さは10cm前後で、南端に向かうほどに規模を縮小させている。なお、溝が折れ曲がる部分では掘り返しの痕跡が確認されている。**主軸方向** N-15°-W **覆土** 溝の大部分を覆う黒褐色土と、暗灰褐色土の2層である。**底面** ローム層中に作られており、比較的丸みを帯びている。壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SD-74 (第213図、第125表、図版六六)

位置 調査区西部にあたるI-28・29グリッドに位置する。**重複関係** SI-72、SD-20、その他多数のピットと重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 全体を確認できていないが、南北方向に直線的に延びている。確認できた範囲で長さ4.0m以上、幅1.2m、深さ7～18cmほどである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 上面に堆積する黒褐色土と、底面に堆積する灰褐色土の2層である。このうち黒褐色土は地山由来の土とみられ、壁の崩落土と考えられる。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。断面

形状はU字状となる。出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器環4点32g、甕19点161g、須恵器環5点19g、甕2点63gが出土している。時期 不明。

G区SD-75（第214図、第125表、図版六六）

位置 調査区西部にあたるI-29グリッドに位置する。重複関係 SK-76と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 西側は調査区外に延びており、東側は削平されて遺存しておらず、調査できたのは一部分のみである。東西方向に直線的に延びており、確認できた範囲で、長さ2.9m以上、幅1.6m、深さ30cmほどである。主軸方向 N-82°-W 覆土 確認できた部分では茶褐色土が堆積していた。aよりもbの方が古い。谷の埋土を掘り込んでいる。底面 鹿沼軽石層中に作られており平坦となっているが、部分的に段差が認められることから、掘り返しが行われたと考えられる。壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

5 土坑

土坑は竪穴建物跡の周囲に多く、台地の傾斜面に散在して確認されている。

第127表 G区土坑計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SK-7	SK-7	J-27	N-60°-W	長楕円形	1.75	0.50	0.20	逆台形	有	SI-5、P-100より新
SK-17	S17	J-26	N-30°-E	横円形	1.30	1.10	0.60	U字状	有	
SK-19	S19	J-26	N-30°-E	隅丸正方形	1.10	1.10	0.60	逆台形	無	
SK-26	S26	J-27・28	N-40°-E	横円形	1.56	1.04	0.80	U字状	有	SI-6・SK-36より古 SK-27より新
SK-27	S-27	J-27・28	N-40°-E	横円形か	[1.10]	[0.64]	0.53	逆台形	無	SI-6、SK-26・36より古 陥し穴か
SK-36	S36	J-27	N-40°-W	横円形	1.70	0.65	0.50	凸形	無	SK-26・27より新 陥し穴か
SK-37	S37	K-31	N-70°-E	横円形	1.10	0.75	0.45	逆台形	無	SI-4より新
SK-51	S51	L-30	-	不整形円形	0.63	0.62	0.17	逆台形	有	
SK-52	S52	L-30	N-78°-E	横円形	0.60	0.51	0.25	逆台形	有	
SK-53	S53	L-30	N-80°-W	不整形横円形	1.15	0.65	0.43	逆台形	無	
SK-54	S54	L-27・28	N-75°-W	横円形か	1.60	[0.70]	0.24	逆台形	無	SI-43より新
SK-56	S56	M-30	N-0°	不整形横円形	0.70	0.66	0.63	逆台形	無	SK-114より新
SK-57	S57	L-30	N-17°-E	長楕円形か	[1.70]	0.60	0.38	凸形	有	
SK-64	S64	L-27	-	不整形円形	0.62	0.60	0.16	逆台形	無	
SK-76	SK76	I-29	N-30°-W	不整形横円形	1.00	0.70	0.27	逆台形	無	SD-75より古
SK-77	SK77	M-28	不明	円形か	1.10	0.40	0.92	U字状	無	
SK-81	S81	I-26	N-67°-E	不整形横円形か	0.73	(0.45)	0.24	逆台形	有	SB-79P3より古
SK-85	SK85	K-26 L-27	N-76°-E	長方形	1.05	0.60	0.33	逆台形	有	SI-40より古
SK-95	S95	I-29	N-82°-W	横円形	0.53	[0.25]	0.13	皿状	無	SI-73より古 P-82より新
SK-101	SI01	I-28	N-12°-E	横円形	[2.60]	[0.78]	0.36	逆台形	無	SD-20より古 P-104と重複
SK-114	-	M-30	N-0°	不整形横円形	0.80	[0.27]	0.52	楕円形か	無	SK-56より古

G区 SK-7 (第215図、第127表、図版六六)

位置 調査区中央部にあたるJ-27グリッドに位置する。**重複関係** SI-5、P-100と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形で、長軸175cm、短軸50cm、深さ20cmである。

主軸方向 N-60° -W **覆土** 中央の大部分を黒褐色土が覆い、壁際付近に灰褐色系の土が堆積している。

底面 鹿沼軽石層中に作られており、やや凹凸が目立つ。壁は底面から急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 土師器環4点7.2g、高台付環2点12g、甕8点27.2g、須恵器環1点4.0gが出土している。**時期** 不明。

G区 SK-17 (第215図、第127表、図版六六)

位置 調査区中央部にあたるJ-26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い楕円形で、長軸130cm、短軸110cm、深さ60cmである。**主軸方向** N-30° -E **覆土** 上面に堆積する灰褐色土と、底面を含む大部分を覆う黒褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びる。壁は緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環6点7g、甕4点47gが出土している。**時期** 不明。

G区 SK-19 (第215図、第127表、図版六七)

位置 調査区中央部にあたるJ-26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 隅丸正方形で、一辺110cm、深さ60cmである。**主軸方向** N-30° -W **覆土** 上面を覆う黒褐色土と底面を覆う暗褐色土の2層である。2層は地山由来とみられるロームブロックや鹿沼軽石粒子を多量に含んでいる。

底面 鹿沼軽石層中に作られており平坦となっている。壁は底面から垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-26・27 (第215図、第127表、図版六七)

位置 調査区中央部のJ-27・28グリッドに位置している。**重複関係** SI-6、SK-36と重複しており、本遺構が古い。土坑の構築順序は27→26→36となっている。**平面形状・規模** SK-27が重複のため全体が不明であるが、後述するSK-36を含め同じ構造の土坑が3基重複しているものとみられる。全形が判明したSK-26は北東-南西方向に長い楕円形である。長軸156cm、短軸104cm、深さ最大80cmである。また下端が長軸方向に大きくオーバーハングしており、下端の長さは200cmほどとなる。SK-27は北東-南西方向に長い楕円形である。長軸110cm、短軸64cm、深さ53cmである。**主軸方向** N-40° -E **覆土** 地山由来のローム・鹿沼軽石のほか、白色粒子が含まれている。**底面** 北東隅部分が直径60cmほどの大きさに1段深く掘り込まれている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、SK-26から土師器環1点6g、甕4点134gが出土している。**時期** 不明。SK-27は形状から縄文時代の陥し穴の可能性もある。

G区 SK-36 (第215図、第127表、図版六七)

位置 調査区中央部のJ-27グリッドに位置している。**重複関係** SK-26・27と重複しており、本遺構が最も新しい。**平面形状・規模** 北西-南東方向に長細い楕円形で、長軸170cm、短軸65cm、深さ50cmである。**主軸方向** N-40° -W **覆土** 上半に堆積する暗灰褐色土(1層)と、下半に堆積する黒褐色土(2層)が確認され、このうち2層は人為的な埋め戻しとみられる。**底面** 鹿沼軽石中に作られており、幅

狭くやや凹凸がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。形態的に縄文時代の陥し穴の可能性もある。

G区SK-37 (第215図、第127表)

位置 調査区南端部にあたるK-31グリッドに位置する。 **重複関係** SI-4と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 南側が一部調査区外であるが、東西方向に長い楕円形で、長軸110cm、短軸75cm以上、深さ45cmである。 **主軸方向** N-70° - E **覆土** 地山由来のロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つ。壁は底面から垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

G区SK-51 (第215・216図、第127・128表、図版六七・一三三)

位置 調査区南東部にあたるL-30グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 不整形形で、長軸63cm、短軸62cm、深さ17cmである。 **N-0°** **覆土** 不明。 **底面** ローム層中につくられており、ほぼ平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 土師器の坏を1点図示した。そのほか土師器の裏1点10gが出土している。 **時期** 7世紀前葉か。

G区SK-52 (第215・216図、第127・128表、図版六七・一三三)

位置 調査区南東部にあたるL-30グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い不整形楕円形で、長軸60cm、短軸51cm、深さ25cmである。 **主軸方向** N-78° - E **覆土** 不明。 **底面** ローム層中につくられており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 完形に近い。須恵器の坏を1点図示した。 **時期** 8世紀後葉か。

G区SK-53 (第215図、第127表、図版六七)

位置 調査区南東部にあたるL-30グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東西方向に長い不整形楕円形で、長軸115cm、短軸65cm、深さ43cmである。 **主軸方向** N-80° - W **覆土** 地山に近似したしまりの強い暗褐色土が堆積しており、埋め戻された可能性が高い。 **底面** ローム層中につくられており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

G区SK-54 (第215図、第127表、図版六八)

位置 調査区東部にあたるL-27・28グリッドに位置する。 **重複関係** SI-43と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 楕円形を基調とした土坑とみられる。長軸160cm、短軸70cm以上、深さ24cmである。 **主軸方向** N-75° - W **覆土** 流入土とみられる黒褐色土と、崩落土とみられる淡灰褐色土の2層を確認した。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

G区SK-56 (第215図、第127表、図版六八)

位置 調査区南側にあたるM-30グリッドに位置する。 **重複関係** SK-114より新しい。 **平面形状・規模** 不整形楕円形になっており、長軸70cm、短軸66cm、深さ63cmである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 2層

確認した。このうち1層は柱痕跡、または柱の抜き取り痕の可能性があり、柱穴であった可能性が考えられる。

底面 ローム層中に作られており、北側が1段深くなっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-57 (第216図、第127・128表、図版六八・一三三・一四九)

位置 調査区南東部にあたるL-30グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南側が調査区外に延びており、全形は不明であるが、南北方向に長い楕円形または溝になる可能性も考えられる。長軸170cm以上、短軸60cm、深さ38cmである。**主軸方向** N-17°-E **覆土** 単層であった。**底面** ローム層中に作られており、段を有するが概ね平坦となっている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 須恵器環1点、鉄製刀子1点を図示した。刀子は副葬品の可能性も考えられる。このほかに土師器甕1点16g、須恵器環3点13gが出土している。**時期** 不明。

G区 SK-64 (第216図、第127表)

位置 調査区南東部にあたるL-27グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 不整形円形で、直径約62cm、深さ16cmである。**覆土** 不明。**底面** ローム層中につくられており、やや丸みを帯びている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 8世紀後葉か。

G区 SK-76 (第216図、第127表、図版六八)

位置 調査区南西部にあたるI-29グリッド。**重複関係** SD-75と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 南北方向に長い不整形楕円形である。長軸100cm、短軸70cm、深さ27cmである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 自然堆積とみられる暗褐色土が堆積している。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-77 (第216図、第127表、図版六八)

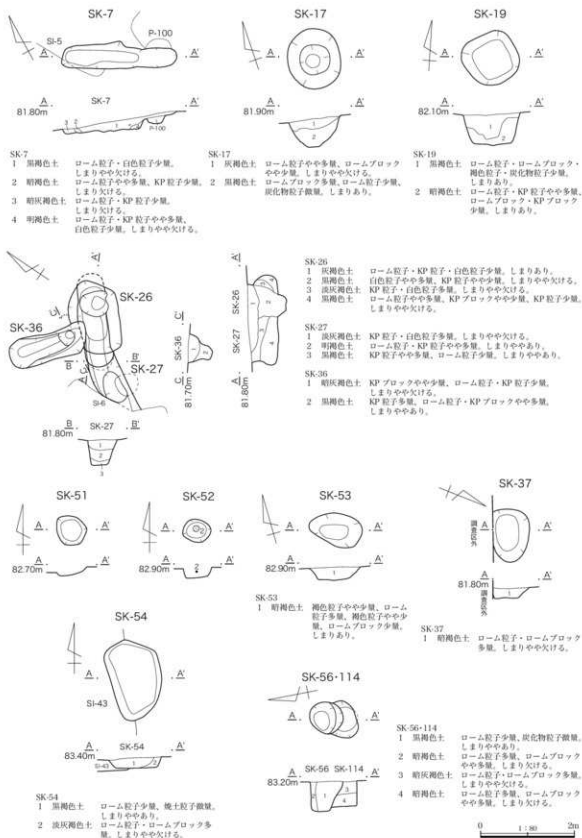
位置 調査区東部にあたるM-28グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東側が調査区外のため詳細は不明であるが、円形を基調とした土坑とみられる。長軸110cm、短軸40cm、深さ92cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 上半を覆う黒褐色土と下半を覆う暗褐色土の2層を確認した。地山由来の土塊が多く含まれ、しまりも強い事から人為的な埋戻しの可能性がある。**底面** 鹿沼軽石層中に作られ、やや丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-81 (第216図、第127表、図版六八)

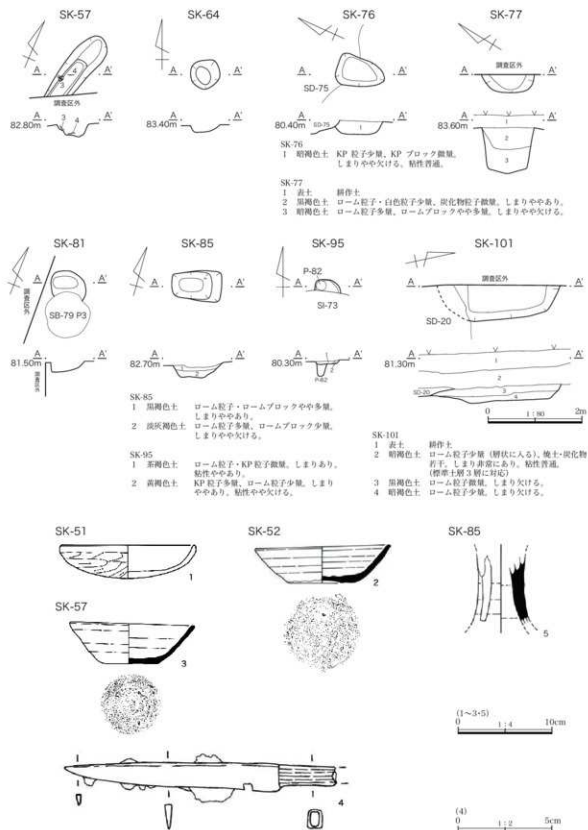
位置 調査区北部にあたるI-26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い不整形楕円形か。長軸73cm、短軸推定45cm、深さ24cmである。**主軸方向** N-67°-E **覆土** 不明。**底面** ローム層中につくられており、壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できなかったが、土師器甕7点44g、須恵器短頸壺1点70gが出土している。**時期** 不明。

G区 SK-85 (第216図、第127・128表、図版六九)

位置 中央東部にあたるK-26グリッドに位置する。**重複関係** SI-40と重複しており、本遺構が古い。



第215図 G区SK-7・17・19・26・27・36・37・51～54・56・114遺構実測図



第216図 G区SK-57・64・76・77・81・85・95・101遺構実測図、SK-51・52・57・85出土遺物実測図

平面形状・規模 東西方向に長い長方形で、長軸 105 cm、短軸 60 cm、深さ 33 cm である。**主軸方向** N-76° - E **覆土** 上面を覆う黒褐色土と、底面を覆う淡灰褐色土の 2 層である。**底面** ローム層中に作られており、凹凸が著しい。壁は斜めに立ち上がる。**出土遺物** 土師器坏 14 点 61 g、甕 7 点 263 g、須恵器坏 12 点 96 g、高台付坏 6 点 6 g が出土している。**時期** 不明。

G区 SK-95 (第 216 図、第 127 表)

位置 調査区西部にあたる I-29 グリッドに位置する。**重複関係** SI-73 より古く、P-82 より新しい。**平面形状・規模** 楕円形か。長軸 53 cm、短軸 25 cm、深さ 13 cm である。**主軸方向** N-82° - W **覆土** 2 層で、自然堆積と考えられる。**底面** ローム層中につくられており、壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-101 (第 216 図、第 126 表)

位置 調査区西部にあたる I-28 グリッドに位置する。**重複関係** SD-20 と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、方形基調の土坑とみられる。確認できた範囲で、長軸 260 cm ほど、短軸 78 cm 以上、深さ 36 cm である。**主軸方向** N-12° - E **覆土** しまりに欠ける黒褐色土と暗褐色土が堆積している。自然堆積土とみられる。**底面** ローム層中に作られており、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

G区 SK-114 (第 215 図、第 127 表)

位置 調査区南東部にあたる M-30 グリッドに位置する。**重複関係** SK-56 より古い。**平面形状・規模** 東西方向に長い不整形円形で、長軸 80 cm、短軸 27 cm、深さ 52 cm である。**主軸方向** N-0° **覆土** 2 層に分類できる。ロームを多く含む土が堆積しており、埋め戻された可能性が高い。柱穴の掘方の可能性がある。**底面** ローム層中につくられており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

第 128 表 G区 SK-51・52・57・85 出土遺物観察表

採出 No.	No.	種類 器種	首径 口径 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
216	1	土師器 坏	口径 14.1 底径 3.6 器高 3.6	外面 7.5YR4/3 黒 内面 10YR3/1 黒褐	砂粒少量	やや 不良	内外面 途任 1.1F	口縁部 ココナデ 体部 外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部一定 部 1/3 残 存	覆土中	G区 SK-51	
216	2	須恵器 坏	口径 14.3 底径 7.2 器高 4.1	外面 5Y6/1 灰 内面 2.5Y6/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好	自然軸付面 残っている	口縁部 目録著 底部 ヘツ切り後ナデ	口縁部 1/5 欠損	覆土中	G区 SK-52 No.1	菓子産
216	3	須恵器 坏	口径 13.3 底径 6.5 器高 4.4	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒・礫少量	良好		口縁部 目録著 底部 ヘツ切り後ナデ	口縁部一 部欠損	底面直 上	G区 SK-57 No.1	菓子産
216	4	須恵器 刀子	長 [14.32] 幅 1.42 厚 0.78 重 18.49						一部欠損 木質部一 部残存	底面直 上	G区 SK-57 No.2	
216	5	須恵器 高坏	口径 - 底径 - 器高 [7.6]	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒少量	良好		透かし孔か	1/5 残存	覆土中	G区 SK-85	菓子産か 一紙

6 ビット

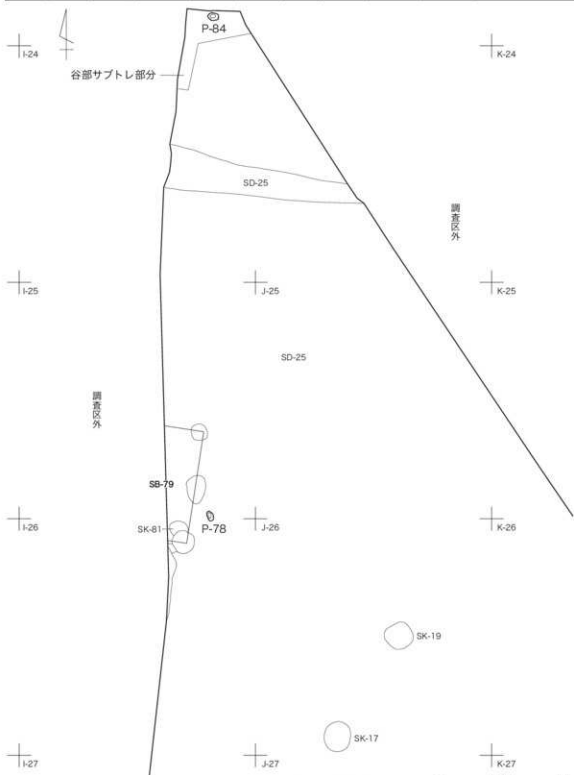
G区では48基のビットが台地の上に集中して確認されている。計測表にまとめる。

P.31では柱痕も確認された。SI-40～44付近にあるビットは規則的に並ぶため、櫛列あるいは掘立建物になる可能性も考えられる。

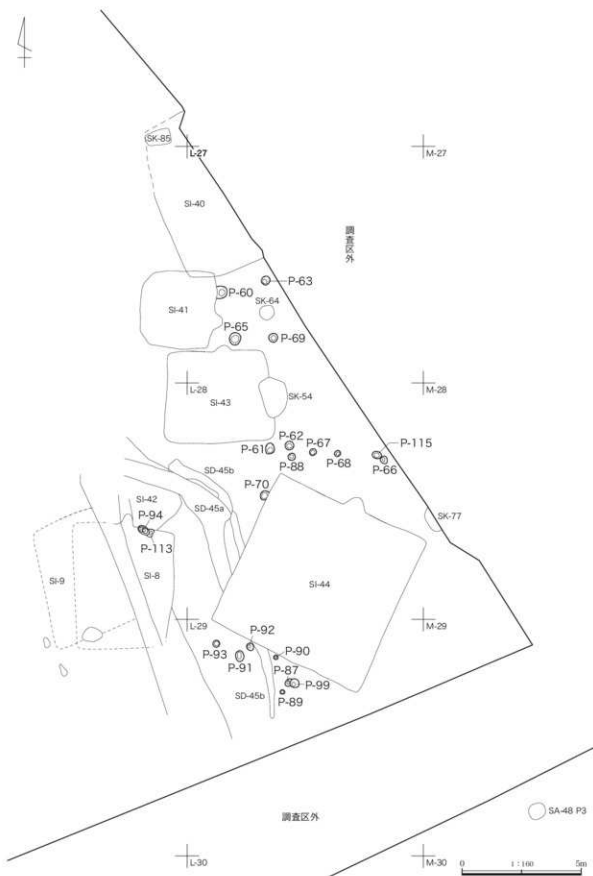
第129表 G区ビット遺構計測表

遺構番号	旧番号	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
P.28	S28	I-28	N67°-W	楕円形	0.45	0.32	0.14	遊台形	無	
P.29	S29	I-28	N0°	楕円形	0.45	0.40	0.07	-	有	
P.31	S31	J-27	N0°	楕円形	0.60	0.57	0.42	遊台形	無	
P.32	S32	J-27	N0°	楕円形	0.53	0.46	0.53	U字状	無	
P.33	S33	J-27	N0°	楕円形	0.37	0.35	0.44	U字状	無	
P.34	S34	J-27	N0°	楕円形	0.47	0.40	0.26	-	無	
P.35	S35	J-27	N47°-E	楕円形	0.59	0.38	0.33	-	無	
P.49	S49	L-30	N0°	楕円形	0.37	0.31	0.18	-	無	
P.50	S50	L-30	-	円形	0.32	0.32	0.28	遊台形	無	
P.55	S55	L-30	N0°	楕円形	0.35	0.30	0.17	-	無	
P.58	S58	L-30	-	円形	0.32	0.32	0.36	-	無	
P.59	S59	L-30	-	円形	0.21	0.21	0.14	-	無	
P.60	S60	L-27	N83°-E	楕円形	0.42	0.53	0.21	-	無	SI-41と重複
P.61	S61	L-28	N8°-W	楕円形	0.45	0.37	0.13	-	無	
P.62	S62	L-28	-	円形	0.37	0.37	0.15	-	無	
P.63	S63	L-27	N0°	楕円形	0.37	0.33	0.15	-	無	
P.65	S65	L-27	N0°	楕円形	0.52	0.45	0.17	-	無	
P.66	S66	L-28	-	円形	0.40	0.40	0.10	-	無	
P.67	S67	L-28	-	円形	0.30	0.30	0.12	-	無	
P.68	S68	L-28	-	円形	0.25	0.25	0.12	-	無	
P.69	S69	L-27	-	円形	0.37	0.37	0.23	-	無	
P.70	S70	L-28	-	円形	0.20	0.16	0.10	-	無	SI-44と重複
P.78	S78	I-25-26	N25°-W	楕円形	0.43	0.27	0.14	-	無	
P.82	S82	I-29	-	円形	0.22	0.22	0.50	U字状	無	SK-95より古
P.84	S84	I-23	N90°-E	楕円形	0.46	0.32	0.47	-	無	
P.87	S87	L-29	N32°-E	楕円形	0.35	0.21	0.39	-	無	P-99と重複
P.88	S88	L-28	-	円形	0.30	0.30	0.18	-	無	
P.89	S89	L-29	-	円形	0.20	0.20	0.36	-	無	
P.90	S90	L-29	-	円形	0.20	0.20	0.14	-	無	
P.91	S91	L-29	N0°	楕円形	0.47	0.35	0.32	-	無	
P.92	S92	L-29	N0°	楕円形	0.32	0.28	0.28	-	無	
P.93	S93	L-29	-	円形	0.40	0.40	0.20	-	無	
P.94	S94	K-28	N59°-W	楕円形	0.53	0.33	0.33	-	無	SI-8・42、P-113と重複
P.99	S99	L-29	-	不整形	0.39	0.37	0.38	-	無	P-87と重複
P.100	S100	J-27	N79°-W	楕円形	0.54	0.43	0.21	遊台形	無	SK-7より古
P.102	-	I-28	N77°-W	楕円形	0.90	0.44	0.26	-	無	SD-74と重複
P.103	-	I-28	-	円形	0.44	0.40	0.22	-	無	SD-20・74と重複
P.104	-	I-28	N12°-E	楕円形	0.74	0.48	0.10	-	無	SD-20、SK-101、P-105と重複
P.105	-	I-28	-	円形	0.30	0.28	0.16	-	無	SD-20、SK-101、P-104と重複
P.106	-	I-28	-	円形	0.22	0.28	0.20	-	無	SD-20、P-104と重複
P.107	-	I-28	N22°-E	楕円形	0.84	0.68	0.47	-	無	SD-20・24と重複
P.108	-	I-28	N11°-E	楕円形	0.44	0.32	0.11	-	無	SD-20と重複

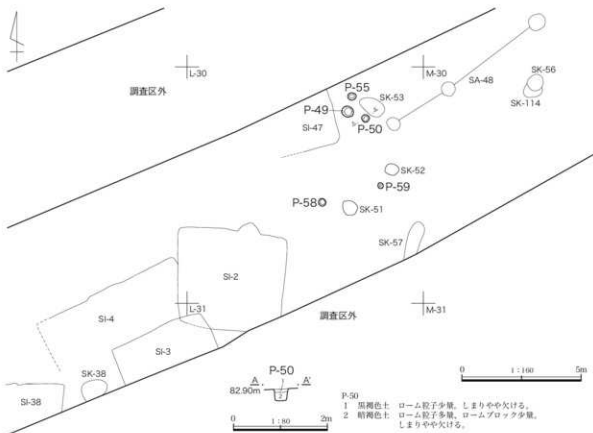
P-109	-	I-28	N-10°-E	楕円形	0.62	0.46	0.16	-	無	SD-20と重複
P-110	-	I-28	-	円形	0.20	0.30	0.25	-	無	SD-20、P-110・112と重複
P-111	-	I-28	N-70°-W	楕円形	0.44	0.28	0.16	-	無	SD-20、P-110・112と重複
P-112	-	I-28	N-10°-E	楕円形	0.74	0.50	0.31	-	無	SD-20、P-110・111と重複
P-113	S113	K-28	N-20°-E	不整形長方形	0.35	0.25	0.14	-	無	SI-8、P-94と重複
P-115	-	L-28	N-80°-E	楕円形	0.40	0.30	0.07	-	無	



第217図 G区ビット遺構実測図(1)



第219図 G区ビット遺構実測図(3)



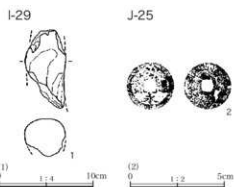
第220図 G区ビット遺構実測図(4)

7 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

G区遺構外の遺物 (第221図、第130表、図版一四九)

土製支脚の破片と銅銭が出土している。2は寛永通寶である。



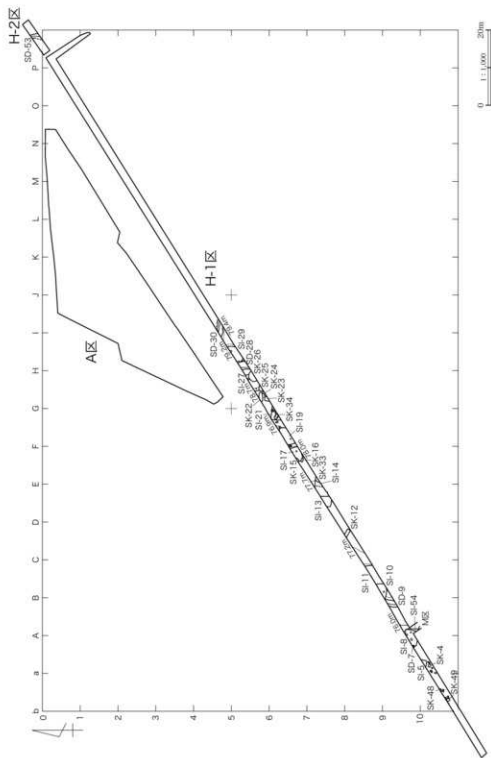
第221図 G区遺構外出土遺物実測図

第130表 G区遺構外出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	表面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
221	1	土製支脚	長 8.5 幅 4.2 厚 4.0	10YR7/3 にぶい黄橙		中や 不直		ナデ	一部残存	表様	G区I-29	
221	2	銅製品 銅銭	径 2.50 厚 0.11 重 1.73						ほぼ完存	表様	G区J-25	寛永通寶

第11節 H区

H区は水路部分のため、トレンチ状の調査区である。2つの区に分割される。台地は調査区の中央南西に向かって傾斜し、西端部には谷となっている。H-1区では竪穴建物跡12軒、溝4条、地下式坑1基、土坑12基、ピット22基、H-2区では溝1条が確認されている。



第222図 H区全体図 (ピットは別図あり)

1 竪穴建物跡

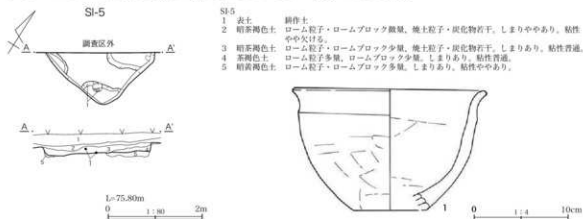
台地上と傾斜面に12軒が確認された。

第131表 H区竪穴建物跡計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	ピット	炉	カマド	新竪穴	貯溝	間仕切溝	出土遺物	重複関係	
SI-5	1	a-10	N-15°-E	方形か	11.60	11.70	0.20	無	無	無	無	無	無	有		
SI-8	1	a・A-9	N-15°-E	方形か	4.00	3.80	0.35	3	有	無	無	有	無	有	SI-54, SD7・M区 SD-17より新	
SI-10	1	A-9 B-8・9	N-90°-E	方形か	4.10	3.00	0.87	1	無	無	無	無	無	有	SI-11より古 SD-9と重複	
SI-11	1	B-8	不明	不明	5.30	11.70	0.54	無	無	無	無	無	無	有	SI-10より新	
SI-13	1	D-7	N-10°-E	方形か	5.00	2.24	0.70	無	無	無	無	無	無	有	SI-14より古	
SI-14	1	D-7-E-7	N-0°	長方形か	4.40	11.84	0.10未満	無	無	無	無	無	無	無	無	SI-13, SK-33より古
SI-17	1	E-6	N-10°-W	長方形か	3.90	2.40	0.20	1	無	無	無	無	無	有	SK-15-16より古	
SI-19	1	F-6	N-5°-E	長方形か	4.60	11.90	0.14	2	無	無	無	無	無	有		
SI-21	1	F-G-6	N-5°-E	方形か	3.50	2.70	0.18	無	無	有	無	無	無	有	SK-34より古	
SI-27	1	G-5	N-10°-W	方形か	4.80	2.16	0.16	2	無	無	無	無	無	有	SK-25・26より古	
SI-29	1	H-4-5	N-10°-W	長方形か	4.50	4.00	0.46	1	無	無	無	無	無	有	SD-28より古	
SI-54	1	a・A-9	N-2°-E	方形か	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	無	SI-8, M区SD-17より古	

H区 SI-5 (第223図、第131-132表、図版六九・七〇・一三三)

位置 1区南西部にあたるa-10グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の南東隅部分とみられる。確認できた範囲で東西1.6m以上、南北1.7m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 貼床構築土以外の3層はいずれも自然堆積土とみられる。**床面** 確認された範囲では貼床が確認された。壁に沿ってやや深く掘方が掘られ、中央部は浅くなっている。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 不明。**出土遺物** 土師器鉢1点を図示した。このほかに土師器甕2点81gが出土している。**時期** 9世紀後葉。



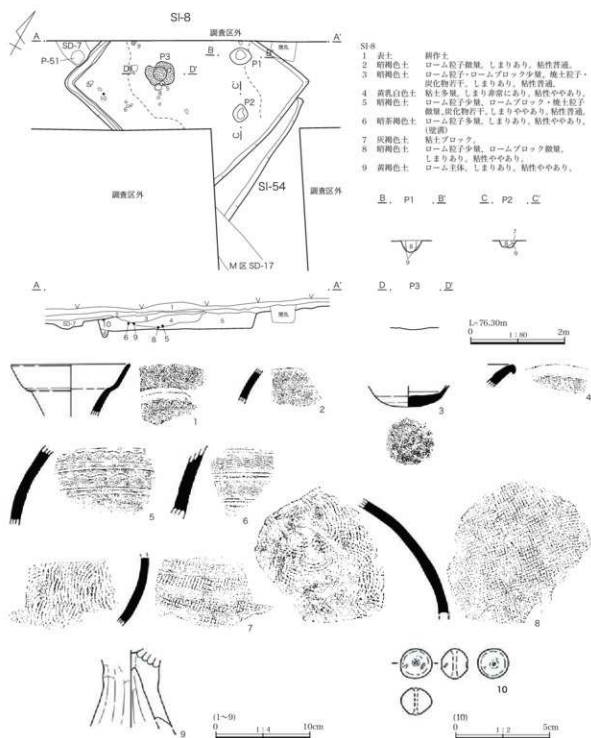
第223図 H区SI-5遺構・出土遺物実測図

第132表 H区SI-5出土遺物観察表

図号	種類	計測値 (cm・g)	色調	新土・石質	焼成	表面の状態	胴形・形状の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
223	土師器 鉢	口径 20.5 底径 (7.7) 器高 13.0	外面 7.5YR5/4 内面 5YR5/6 明赤褐	砂粒・礫多量	良好	崩れている 底部外面 荒焼	口縁部ヨコナデ 体部ナデ	口縁～体 部5/6残 存	体面直上 1～8 cm	H-1区SI-5 No.2・3	

H区 SI-8・54 (第224図、第131-133、図版七〇・一三三)

位置 1区南東部にあたるa・A-9グリッドに位置する。M-1区に一部かかっている。**重複関係** SI-54、SD-7・M区SD-17より新しい。SI-54はSI-8、M区SD-17より古い。**平面形状・規模** 一部、調査区外に延びる。SI-8はM-1区に一部かかっている。東西4m、南北3.8mの方角を基調とした竪穴建物跡とみられる。壁は遺存状況の良い部分で35cmほどである。SI-54は遺存部で南北3.0m以上、深さ23cmの方角基調と推測される。**主軸方向** SI-8はN-15°-E、SI-54はN-2°-E **覆土** 中層の黄乳白色土(4層)



第224図 H区 SI-8・54 遺構・出土遺物実測図

以外は自然堆積土とみられる。**床面** 貼床等は確認されず、地山であるローム層を床面としている。中央部には硬化面が確認された。南西隅付近では幅20cm、深さ12cmほどの壁溝が巡っているのが確認された。

柱穴等 2基礎確認した。P1は楕円形で長軸45cm、短軸35cm、深さ25cmである。P2は楕円形で長軸35cm、短軸30cm、深さ15cmである。これらのピットは柱穴の可能性が高い。**灰** 灰と考えられる浅い掘り込みがあり(P3)、長軸60cm、短軸52cmの不整形で床面が焼土化している。**カマド** 不明。**出土遺物** 覆土上層からの出土で、建物の廃棄後に遺棄された。土師器高環1点、須恵器甕3点、甕5点、土製品1点を図示した。1～3は甕の一部と考えられる。10は土玉である。このほかに土師器環27点193g、鉢5点56g、甕119点2735g、須恵器環5点51g、鉢1点43g、甕8点413gが出土している。**時期** 6世紀末～7世紀前葉。

第133表 H区 SI-8 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石目	焼成	表面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
224	1	須恵器 甕	口径(12.4) 底径 - 胴高 [5.5]	外面 5Y7/2 灰白 内面 2.5Y6/4 に ¹ に ¹ 焼	白色粒子・黒 色粒子	良好	自然釉付着	華縞波状文	口縁一部 残存	覆土中 西面一括	H-1区 SI-8	産地不明
224	2	須恵器 甕小	口径 - 底径 - 胴高 [3.8]	外面 7.5Y4/1 灰 内面 2.5Y7/6 明灰焼	砂粒・微塵量	良好	自然釉付着	華縞波状文	胴部一部 残存	覆土中	H-1区 SI-8 東面一括	産地不明
224	3	須恵器 甕	口径 - 底径 - 胴高 [2.3]	外面 5Y6/1 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量・微 塵量	良好	底面摩耗	底面へラケズリ後ナデ	底面現存	覆土中	H-1区 SI-8 西面一括	産地不明
224	4	須恵器 甕小	口径 - 底径 - 胴高 [2.9]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒・白色粒 子・黒色粒子 微量	良好	自然釉付着	華縞波状文	口縁一部 残存	覆土中	H-1区 SI-8 西面一括	産地不明
224	5	須恵器 甕	口径 - 底径 - 胴高 [8.4]	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 10YR5/2 灰黄焼	砂粒・微・白 色粒子少量	良好		外面 華縞波状文 内面 ナデと沈殿 2本を 2段	胴部一部 残存	床上約 10cm	H-1区 SI-8 No.10	産地不明
224	6	須恵器 甕小	口径 - 底径 - 胴高 [7.7]	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 明灰焼	砂粒少量	良好	自然釉付着	華縞波状文と沈殿 2本 を2段	胴部一部 残存	床上約 15cm	H-1区 SI-8 No.9	産地不明
224	7	須恵器 甕	口径 - 底径 - 胴高 [7.1]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆土中	H-1区 SI-8 東面一括	産地不明
224	8	須恵器 甕小	口径 - 底径 - 胴高 [12.2]	外面 2.5Y5/2 明灰黄 内面 2.5Y6/2 明灰黄	砂粒・微・白 色粒子少量	良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	床上約 5cm	H-1区 SI-8 No.11	産地不明
224	9	土師器 高環小	口径 - 底径 - 器高 [8.1]	7.5YR6/4 に ¹ に ¹ 焼 7.5YR6/4 に ¹ に ¹ 焼	砂粒・微少量	良好		外面 ケズリ 内面 ナデ	胴部 1/2 残存	床上約 15cm	H-1区 SI-8 No.5	産地不明
224	10	土玉	幅 16.23mm 厚 14.11mm 孔径 1.39mm 重 3.10	7.5YR4/3 明					完形	床上約 20cm	H-1区 SI-8 No.4	

H区 SI-10 (第225-226図、第131-134表、図版七〇・七一・一三三)

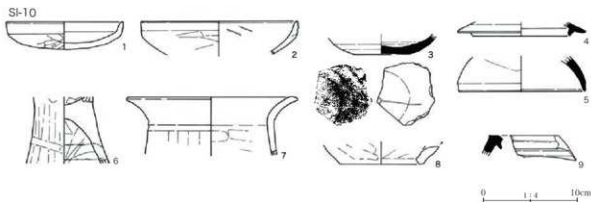
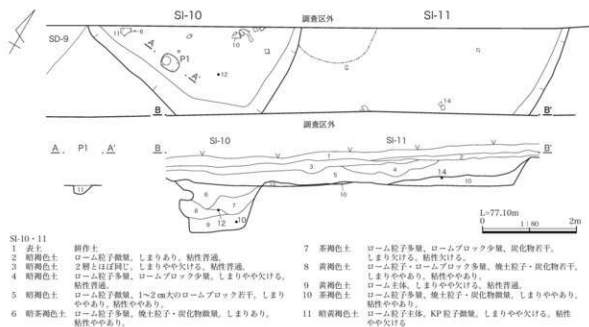
位置 1区南東部にあたるA・9、B・8・9グリッドに位置する。**重複関係** SI-11より新しく、SD-9との新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 大半が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物跡と思われる。確認された範囲で東西4.1m、南北3m以上である。壁は87cmほどと遺存状況が良い。**主軸方向** N-90° - E **覆土** 地山由来のロームブロックや粒子を多く含む層が認められる。床面から覆土中層にかけてはロームブロックを主体とした黄褐色系の土が多い。**床面** 薄く貼床が施されており、床面は平坦となっている。**柱穴等** P1は南壁付近に位置している。東西方向に長い楕円形で、長軸40cm、短軸30cm、深さ15cmである。**カマド** 不明。**出土遺物** 土師器環2点、高環1点、甕1点、甕1点、須恵器環1点、

蓋2点、裏3点、石製品2点を図示した。4はかえりのある坏蓋と考えられる。12は滑石の石製模造品である。13は粘板岩製の紡錘車である。このほかに土師器坏89点508.71g、裏496点6884g、鉢4点50g、須恵器坏4点29.44g、裏52点2640gが出土している。時期 7世紀前葉。

H区 SI-11 (第225-226図、第131-134表、図版七一・一三三)

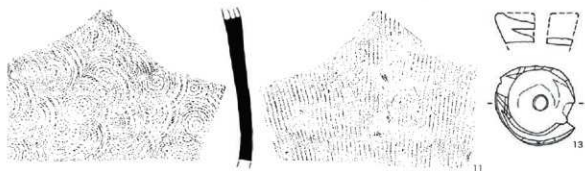
位置 1区南東部にあたるB-8グリッドに位置する。重複関係 SI-10と重複しており、本遺構が新しい。

平面形状・規模 東壁の一部のみの確認であるため平面形は不明。床面の範囲から東西5.3m以上、南北1.76m以上とみられる。壁は東壁で高さ54cmほど遺存していた。主軸方向 不明。覆土 地山由来のローム粒子や焼土粒子・炭化物が含まれる。耕作等により覆土の上層は攪乱されている。床面 ローム粒子を多量に含んだ暗茶褐色土で構築された貼床が認められた。壁隙ほど厚く、中央部ほど薄い。柱穴等 確認されていない。カマド 不明。出土遺物 土師器坏2点を図示した。14・15とも漆仕上げである。このほかに土師器坏63点408g、鉢7点283g、裏223点3491g、須恵器坏1点8g、裏5点23gが出土している。時期 7世紀前葉。



第225図 H区 SI-10・11 遺構・出土遺物実測図(1)

SI-10



SI-11



第226図 H区 SI-10・11 出土遺物実測図(2)

第134表 H区 SI-10・11 出土遺物観察表

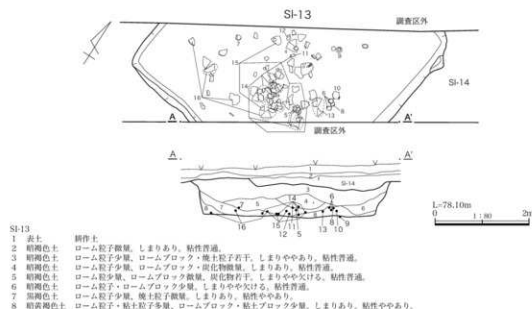
排戻 No	品	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石割	焼成	器面の状態	器形・器部の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
225	1	土師器 坏	口径 (12.2) 底径 器高 [2.9]	外面 7.5YR6/6 黄 内面 7.5YR6/4 にぶい焼	砂粒・礫少量	良好		口縁部 ヨコナデ 体~底部外面ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/6、体 1/4 残存	覆土中	H-1区 SI-10 北部	
225	2	土師器 坏	口径 (16.4) 底径 器高 [3.5]	外面 2.5YR5/6 明赤褐 内面 2.5YR4/6 赤褐	砂粒微量、礫 若干	良好		外面 ケズリ 内面 ヨコナデ	口縁部一 部残存	覆土中	H-1区 SI-10 北部	
225	3	黒土器 坏か	口径 - 底径 (6.0) 器高 [2.1]	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒微量	良好	底部外面 刻書あ り	体部下端 回転ヘラケ ズリ 底部 ヘラケズリ	体~底部 1/5 残存	覆土中	H-1区 SI-10 南西部	湖西産か
225	4	黒土器 蓋	口径 (10.2) 底径 器高 [1.7] 厚 [13.6]	外面 2.5Y6/2 黄 内面 2.5Y6/2 黄	砂粒微量	良好		かたまりあり	一部残存	覆土中	H-1区 SI-10 北部一括	産地不明
225	5	黒土器 蓋か	口径 (13.3) 底径 器高 [3.7]	5YR4/2 黄	砂粒・礫少量	良好		天井部外面 手持ちヘ ラケズリ	口縁~体 部 1/6 残 存	覆土中	H-1区 SI-10 北部	産地不明
225	6	土師器 高坏か	口径 - 底径 器高 [7.0]	外面 10YR7/3 にぶい黄褐 内面 7.5YR5/4 にぶい焼	砂粒・礫微量	良好		内外面ナデ	口縁部現存	表土約 20 cm	H-1区 SI-10 No.12	
225	7	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 器高 [6.0]	外面 5YR6/6 黄 内面 5Y5/6 明赤褐	砂粒・礫少量	良好		口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/2 残存	覆土中	H-1区 SI-10 西部・南西	
225	8	土師器 甕	口径 - 底径 (8.6) 孔 7.4	外面 10YR7/3 にぶい黄褐 内面 7.5YR4/3 黄	砂粒・黒色粒 子微量	良好		内外面ナデ	底部~孔 の一部残 存	覆土中	H-1区 SI-10 西部一括	
225	9	黒土器 甕	口径 底径 器高	外面 N6/0 灰 内外面輪 N3/0 暗灰	砂粒微量	良好	自然釉付着	ヨコナデ	口縁部一 部残存	覆土中	H-1区 SI-10 東部一括	産地不明

226	10	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [11.6]	外面 SY4/1 内面 10YS/1 灰	砂粒・礫少量	良好		胴部外面 格子タキ 内面 同心円状貝痕	体部一部 残存	灰上約 13cm	H-1区SI-10 No.8	産地不明
226	11	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [16.15]	外面 N4/0 内面 N5/0 灰 外面軸 7.5Y7/3 浅黄	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タキ 内面 同心円状貝痕	体部一部 残存	灰上約 6cm	H-1区SI-10 No.13	産地不明
226	12	石製 椀底土	長 2.76 幅 2.93 厚 0.58 孔径 0.2 重 7.09		滑石		片面穿孔	表面は横方向、側 面は斜め方向に筋 2孔	一部欠損	灰上約 43cm	H-1区SI-10 No.9	
226	13	石製 初瀬車	径 [4.62] 厚 4.26 孔径 1.59 重 7.49		粘板岩		使用著しい			覆土中	H-1区SI-10 西部一括	
226	14	土師器 環	口径 (13.1) 底径 - 器高 [3.6]	外面 7.5YR5/4 に2-4地 内面 10YR1.7/1 黒	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口径部 ココナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ヘラミラキ	1/6 残存	灰上約 16cm	H-1区SI-11 No.3	
226	15	土師器 環	口径 (13.8) 底径 - 器高 [3.2]	SYR0/6 埋	砂粒微量	良好	内面 漆仕上げ	口径部 ココナデ 体部 ナデ	口径部 1/5、体 部一部残 存	覆土中	H-1区SI-11 東部一括	

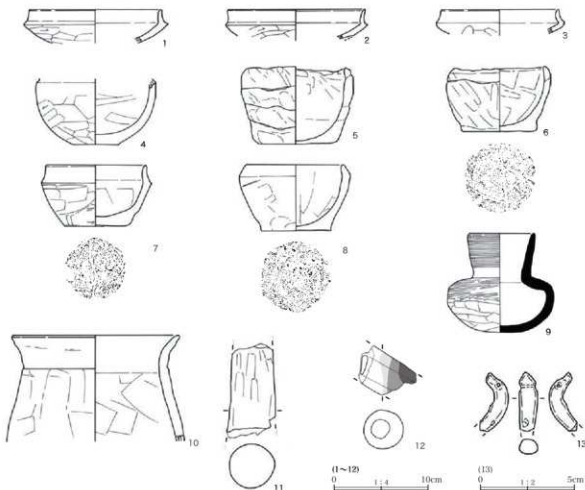
H区SI-13 (第227-229図、第131-135表、図版七一・一三三・一三四)

位置 1区中央部にあたるD-7グリッドに位置する。重複関係 SI-14と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 方形を基調とした竪穴建物跡とみられ、東西約5m、南北2.24m以上が遺存し、一辺5m前後と推定される。壁は遺存状況の良い部分で70cmである。主軸方向 N-10°-E 覆土 自然堆積土とみられる。床面 厚さ15~20cmほどの貼床が施されていた。柱穴等 確認されていない。カマド 不明。出土遺物 覆土中から非常に多量の遺物が出土している。竪穴廃絶後の窪地に廃棄場として利用されたものとみられる。土師器環3点、埴1点、粗製土器4点、甕1点、須恵器壺1点、甕1点、土製支脚1点、羽口1点、土製勾玉1点を図示した。5~8は粗製土器で、5と6は組積痕が残る、6・7の底部は木葉痕が残る。9はカキ目が施される。14~16は大甕で、歪みが著しい。同一個体と考えられる。このほかに、土師器環93点897g、鉢9点236g、甕199点3546g、須恵器環1点16g、蓋1点10g、甕66点7145g、灰軸陶器1点2g、陶器1点6gが出土している。時期 7世紀前葉。



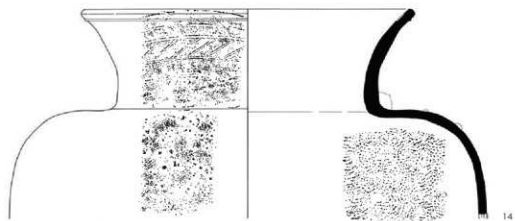
第227図 H区SI-13遺構実測図



第228図 H区SI-13出土遺物実測図(1)

第135表 H区SI-13出土遺物観察表

種別 No.	品名	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の形状	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
228	1	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.6]	外面 10YR5/3 に濃い黄褐色 内面 7.5YR6/3 に濃い褐色	砂粒少量、 白色粒子若干	良好	口縁部 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/0(口縁端部 1/12)、体部 1/8 残存	覆土中	H-1区SI-13 西部一拵	
228	2	土師器 坏	口径 (14.5) 底径 - 器高 [3.0]	外面 2.5Y4/1 黄褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒少量	良好	内面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部~体部 一部残存	覆土中	H-1区SI-13 西部一拵	
228	3	土師器 坏	口径 (14.4) 底径 - 器高 [2.5]	5YR6/6 明赤褐色	砂粒微量、 赤色粒子若干	良好		口縁部~体部内面 ココナデ 体部外面 ナデか	口縁部~体部 一部残存	覆土中	H-1区SI-13 西部一拵	
228	4	土師器 碗	口径 - 底径 - 器高 [6.8]	外面 10YR3/2 赤褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒・微量 赤褐色、 黒色粒子若干	良好	内外面 漆仕上げ	体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	体部 1/3 残存、 底部完存	覆土中	H-1区SI-13 西部一拵	
228	5	粗製土師器 坏	口径 10.5 底径 8.0 器高 8.0	7.5YR6/6 褐色	砂粒・微量 赤褐色、 白色粒子若干	良好		口縁部外面 ナデ 体部外面 指オサエ 内面 ヘラナデ・ナデ 底部 ナデ	完形	灰土約 16cm	H-1区SI-13 No.21・22・ 土一拵	
228	6	粗製土師器 坏	口径 9.7 底径 7.6 器高 6.9	外面 10YR7/4 に濃い黄褐色 内面 10YR7/3 に濃い黄褐色	砂粒微量	良好		口縁部~体部外面 ナデ 内面 ナデ 底部 木炭痕 粗織痕	口縁部 1/4 欠損	灰土約 20cm	H-1区SI-13 No.21・22・ 23	
228	7	粗製土師器 坏	口径 (10.6) 底径 6.6 器高 6.5	外面 5YR5/6 明赤褐色 内面 5YR4/4 に濃い赤褐色	砂粒・微量、 黒色粒子若干	良好		口縁部 ココナデ 体部 ナデ 底部 木炭痕	口縁部 1/2 残存、底部 完存	灰土約 15cm	H-1区SI-13 No.66	
228	8	粗製土師器 坏	口径 (10.2) 底径 7.4 器高 7.0	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 10YR7/4 に濃い黄褐色	砂粒微量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ・指オサエ 内面 ナデ 底部 ナデ	口縁部 1/6 残存、底部 完存	灰土約 15cm	H-1区SI-13 No.22	

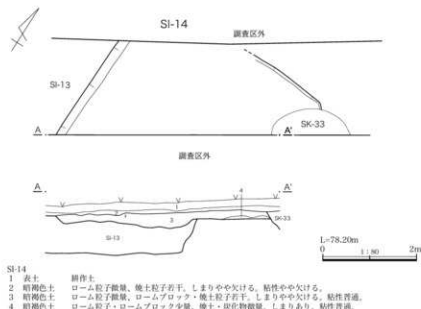


第 229 圖 H 区 SI-13 出土遺物實測圖 (2)

228	9	裏志洞窟	口径 (6.8) 底径 - 高さ 10.5	外面 10YR5/3 にぶい黄褐色 内面 7.5YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒少量、 礫若干	中心 不良	口縁部～胴部外面 カキ 目ノナデ 口縁部内面 ナデ 底面 ナデ	口縁部 1/4 欠損	床面直 上	H-1 区 SI-13 No.2・アテ 土一區	産地不明	
228	10	土師洞窟	口径 (17.6) 底径 - 高さ [11.3]	7.5YR5/4 にぶい黄褐色		良好	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	口縁～胴部 1/4 残存	床上的 15 cm	H-1 区 SI-13 No.20		
228	11	土製支那	径 [9.9] 幅 [4.8] 厚 [4.8]	外面 10YR6/4 にぶい黄褐色 内面 10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒少量	良好	一部黒化 外面 ケズリ	一部残存	床上的 20 cm	H-1 区 SI-13 No.13		
228	12	竈口	径 [6.4] 幅 [4.0] 厚 [4.1] 内径 (2.0)	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒多量	良好	外面 ケズリか 内面 ナデ	一部残存	床上的 5 cm	H-1 区 SI-13 No.11		
228	13	土製写玉	径 3.1 厚 0.7 重 2.94		砂粒微量		両側から穿孔	一部欠損	床上的 12 cm	H-1 区 SI-13 No.62		
229	14	裏志洞窟	口径 (54.4) 底径 - 高さ [33.7]	外面 5Y5/2 灰オリーブ 内面 10YR5/2 暗灰黄 釉面 7.5Y4/3 暗オリーブ	砂粒多量、 礫・黑色粒 子少量	良好	自然軸が多く 付着 全体の実に赤み あり	口縁部外面 濃緑斜線・ 縞縞状文 胴部外面 格子タタキ 内面 同心四当具痕	口縁～胴部 1/2 残存	床面直 上～ 25 cm	H-1 区 SI-13 No.13・26・ 28・47・49・ 一區	産地不明 15・16 と 同一個体
229	15	裏志洞窟	口径 - 底径 0.9 高さ [38.4]	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒多量、 礫・黑色粒 子少量	良好		胴部～腹位外面斜位沈 降、縞縞状文 胴部外面 格子タタキ 内面 同心四当具痕	胴部一部残 存	床面直 上～ 10 cm	H-1 区 SI-13 No.26・29・ 36・53・フク 土中一區・東 部一區	産地不明 14・15 と 同一個体
229	16	裏志洞窟	口径 - 底径 - 高さ [41.0]	外面 10Y4/1 灰 内面 10YR5/2 灰黄褐色	砂粒多量、 礫・黑色粒 子少量	良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心四当具痕	胴部一部残 存	床面直 上～ 10 cm	H-1 区 SI-13 No.53・57・ 63・67	産地不明 14・15 と 同一個体

H区 SI-14 (第230図、第131表、図版七一)

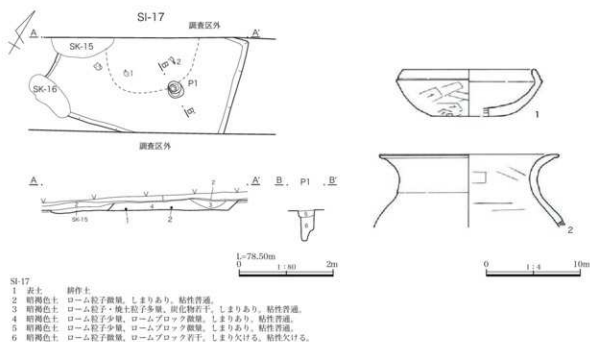
位置 Ⅰ区中央部にあたるD・E-7グリッドに位置する。重複関係 SI-13、SK-33と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 大半が調査区外および重複によって削平されており、壁と床面の一部を確認したに過ぎない。東西4.4m、南北3.6m前後の長方形と推定される。壁は10cm未満と遺存状況は良くない。**主軸方向** N-0° **覆土** 確認された範囲では自然堆積とみられる。**床面** わずかに貼床が施されており、床面は平坦となっている。**柱穴等・カマド** 不明。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第230図 H区 SI-14 遺構実測図

H区 SI-17 (第231図、第131-136表、図版七二・一三四)

位置 1区中央部にあたる、E-6グリッドに位置している。**重複関係** SK-15・16と重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 北西隅および南東隅が調査区外であるが、東西方向に長い長方形とみられる。東西3.9m、南北推定2.4m、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-10°-W **覆土** 流入土とみられる暗褐色土が認められ、いずれも自然堆積土とみられる。**床面** 全体に薄い貼床が構築されており、床面は平坦となっている。また中央部分には踏み締まりとみられる硬化面が形成されている。**柱穴等** 1基確認されている。P1は楕円形で、長軸35cm、短軸32cm、深さ65cmであり、柱穴の可能性が考えられる。**カマド** 不明。**出土遺物** 土師器杯1点、甕1点を図示した。このほかに土師器杯58点317g、甕35点405g、須恵器甕3点41gが出土している。**時期** 6世紀後葉か。



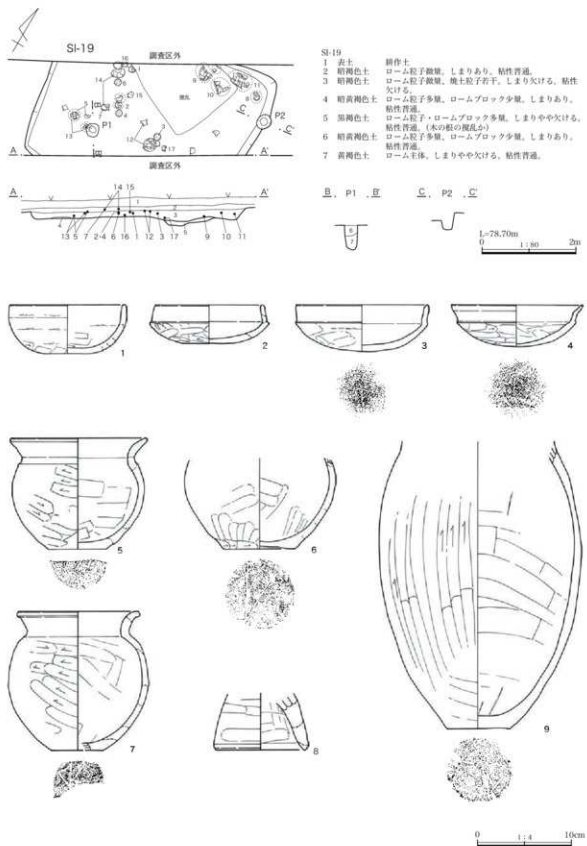
第231図 H区 SI-17 遺構・出土遺物実測図

第136表 H区 SI-17 出土遺物観察表

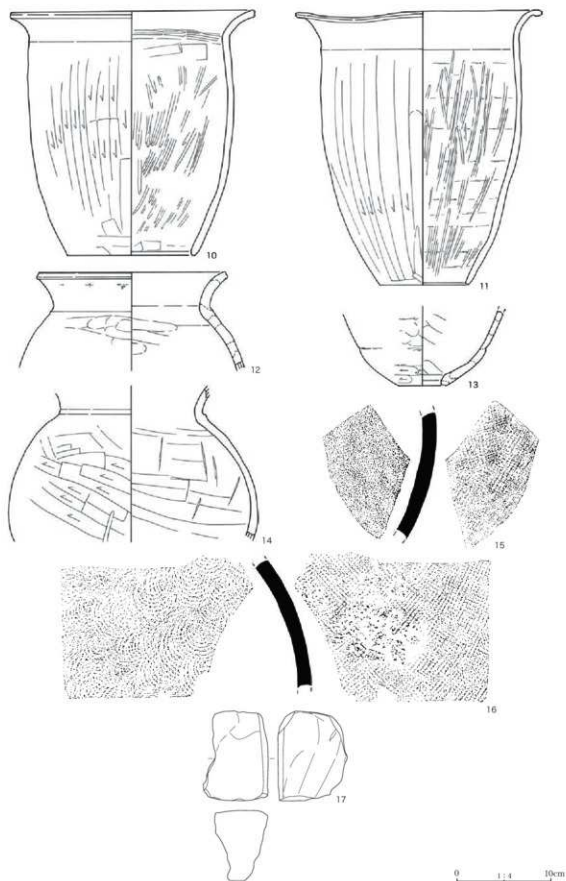
種別 No.	種類 図録	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	表面の状態	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
231	1 土師器 杯	口径 (14.0) 底径 (7.0) 器高 5.0	外面 10YR4/7 陶質 内面 5YR4/2 灰質	砂粒少量	良好	内外面 捺仕上り	口縁部 ココナデ 体・底部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 体 部 1/4 残 存	床1約 3cm	H-1区 SI-17 No.2・南側	
231	2 土師器 甕	口径 (19.0) 底径 器高 [7.7]	5YR5/6 明赤褐	砂粒多量、遺・ 白雲母少量	良好		口縁部外面 ココナデ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残存	床1約 5cm	H-1区 SI-17 No.3	

H区 SI-19 (第232-233図、第131-137表、図版七二・一三四・一三五)

位置 1区中央部にあたる F-6グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い長方形とみられる。確認できた範囲で東西4.6m、南北1.9m以上、壁は遺存状況の良い部分で14cmほどである。**主軸方向** N-5°-E **覆土** 暗褐色土が堆積している。**床面** 壁溝等は認められなかった。床下に木の根の攪乱が認められた。**柱穴等** 2基確認された。P1は床面南西側に位置しており、直径28cm、



第232図 H区 SI-19 遺構・出土遺物実測図(1)



第233圖 H区SI-19出土遺物実測圖(2)

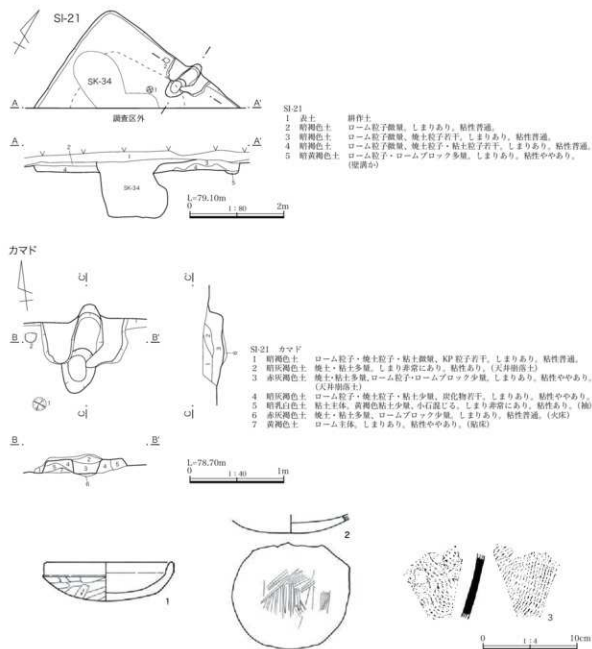
深さ 50 cmほどの楕円形である。P2は東壁に位置しており、直径 34 cm、深さ 30 cmほどの楕円形である。P1は主柱穴、P2は壁柱穴とみられる。カマド 不明。出土遺物 覆土層より多量の遺物が出土している。環類などは完形かつ正位の状態でも出土しており、意図的な廃棄であるとみられる。土師器環 4点、甕 3点、甕 6点、土製支脚と考えられるもの 1点、須恵器甕 2点、石 1点を図示した。10と 11 はやや長胴の甕である。16には窯床粘土が付着する。17は、若干被熱する。このほかに土師器環 13点 104 g、甕 186点 2471 g、須恵器環 2点 10 g、甕 6点 378 g、手捏ね土器 1点 19 g が出土している。時期 6世紀後葉か。

第137表 H区 S1-19出土遺物観察表

探検 No.	No.	追加 説明	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
232	1	土師器 環	口径 (12.2) 底径 - 器高 5.2	外面 10YR5/3 に赤い黄褐色 内面 7.5YR5/3 に赤い黄褐色	砂粒・糲多 量	良好	内外面 スス付着	口縁部 ココナデ 体～底部外面 ナデ・ケズリ 内面 ヘラナデ	1/2 残存	床土約 5cm	H-1区 S1-19 No.14	
232	2	土師器 環	口径 (11.3) 底径 4.1 器高 4.0	外面 7.5YR5/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR4/3 に赤い黄褐色	砂粒・糲多 量	良好	内外面 漆状土付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2 欠損	床土 約 8～ 10cm	H-1区 S1-19 No.7	
232	3	土師器 環	口径 14.0 底径 5.0 器高 5.0	外面 10YR4/2 灰黄褐色 内面 7.5YR5/3 に赤い黄褐色	砂粒・糲少 量	良好	黒炭あり 口縁部内外面 漆 状土付着	口縁部 ココナデ 体～底部 ナデ 底部 木炭痕	ほぼ完形	床土約 10cm	H-1区 S1-19 No.17	
232	4	土師器 環	口径 13.8 底径 6.1 器高 4.5	外面 7.5YR4/3 黒褐色 内面 7.5YR3/1 黒褐色	砂粒・糲多 量	良好	口縁部内外面 ス ス付着・摩耗	口縁部 ココナデ 体～底部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ 底部 木炭痕	ほぼ完形	床土約 8cm	H-1区 S1-19 No.6	
232	5	土師器 小形甕	口径 (14.4) 底径 (6.1) 器高 11.8	10YR6/3 に赤い黄褐色 10YR6/3 に赤い黄褐色	砂粒少量	良好	製部外面 黒炭 あり	口縁部 ココナデ 製～底部外面ヘラケズリ 内面 ナデ 底部 木炭痕	口縁部 1/6 残 存、底部 1/2 残存	床土 約 7～ 10cm	H-1区 S1-19 No.2・3	
232	6	土師器 小形甕	口径 - 底径 7.5 器高 (9.5)	外面 7.5YR5/3 に赤い黄褐色 内面 5YR5/4 に赤い赤褐色	砂粒・糲少 量	良好	体部外面 黒炭 底部内外面 スス 付着	製部外面 ナデ 底部付足ヘラケズリ 内面 ナデ 底部 木炭痕	底部残存	床土約 5cm	H-1区 S1-19 No.10	
232	7	土師器 小形甕	口径 13.0 底径 (5.4) 器高 14.7	外面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色	砂粒多量、 糲少量	良好	スス付着 底部付足残存 している	口縁部 ココナデ 製～底部外面 ケズリ 内面 ナデ 底部 木炭痕	1/2 欠損	床土約 5cm	H-1区 S1-19 No.5・西部	
232	8	土製 支脚か	口径 - 底径 9.5 器高 (5.9)	5YR5/6 明赤褐色	砂粒少量	良好	外面 スス付着	製部 ナデ 端部 ココナデ	一部残存	床土約 2cm	H-1区 S1-19 No.26・28	
232	9	土師器 甕	口径 - 底径 6.4 器高 (30.5)	外面 7.5YR4/2 灰褐色 内面 5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒・糲多 量	良好	外面 一部黒化	製部外面 ヘラケズリ・ナデ 内面 ヘラナデ 底部 木炭痕	底部完形	床土直 上	H-1区 S1-19 No.22	
233	10	土師器 甕	口径 (25.8) 底径 (13.4) 器高 26.0	7.5YR5/4 に赤い黄褐色 26.0	砂粒多量、 糲少量	良好	外面 一部黒化	口縁部外面 ココナデ 製～底部外面ヘラケズリ 口縁～底部内面 ナデ後へラ ケズリ	口縁部 4/5、底 部 1/5 残 存	床土約 10cm	H-1区 S1-19 No.23	
233	11	土師器 甕	口径 26.0 底径 9.3 器高 29.0	外面 10YR5/4 に赤い黄褐色 内面 7.5YR5/4 に赤い黄褐色	砂粒少量、 赤色粘土質	良好	外面 スス付着	口縁部 ココナデ 製～底部外面ヘラケズリ 内面 ナデ後ミガキ	口縁部 1/2 残 存、底部 完形	床土約 10cm	H-1区 S1-19 No.25・東部	
233	12	土師器 甕	口径 (19.6) 底径 - 器高 (10.4)	7.5YR5/4 に赤い黄褐色 10.4	砂粒・糲多 量	良好		口縁部 ココナデ 製～底部 ナデ	口縁部 1/4 残存	床土約 9cm	H-1区 S1-19 No.15・16	
233	13	土師器 甕	口径 - 底径 (5.0) 器高 (7.9)	外面 7.5YR6/4 に赤い黄褐色 内面 5YR5/6 明赤褐色	砂粒・糲少 量	良好		製部外面 ナデ 底部付足 ケズリ 内面 ナデ	底部 1/4 残存	床土約 5cm	H-1区 S1-19 No.2・4	
233	14	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 (16.4)	10YR7/4 に赤い黄褐色 16.4	砂粒多量、 糲少量	良好	外面 黒炭	口縁部 ココナデ 製部外面ヘラケズリ・ナデ 内面ヘラナデ	底部完形	床土約 16cm	H-1区 S1-19 No.5・11	
233	15	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (13.4)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒少量	良好	自然釉付着	製部外面 格子タタキ 内面ヘラナデ	一部残存	床土約 8cm	H-1区 S1-19 No.9	産地不明
233	16	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (20.2)	2.5Y4/1 灰 20.2	砂粒・糲僅 量	良好	窯床粘土付着	製部外面 格子タタキ 内面 同心円文当具痕	一部残存	床土約 2cm	H-1区 S1-19 No.13	産地不明
233	17	石か (用途不明)	径 9.5 幅 6.9 厚 7.4 重 623.1		砂岩	若干被熱			一部残存	床土約 3cm	H-1区 S1-19 No.19	

H区 SI-21 (第234図、第131・138表、図版七二・七三・一三五)

位置 1区中央部にあたるF・G・6グリッドに位置する。重複関係 SK-34と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物跡の北西隅部分を確認した。東西3.5m以上、南北2.7m以上、壁は遺存状況の良い部分で18cmほどである。**主軸方向** N-5°-E **覆土** 地山由来のロームに混じて、焼土などが含まれている。**床面** 床面は平坦となっている。また中央部には踏み締まりとみられる硬化面が形成されている。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 北壁中央に位置しており、暗色系の粘土で構築された両袖と燃焼部、下部の掘方が遺存していた。袖は幅35cm、高さ14cm、竪穴壁からの長さ50cm、両袖間の幅24cmである。燃焼部は非常に良く焼けており、燃焼部底面にあたる掘方埋土および



第234図 H区 SI-21 遺構・出土遺物実測図

その直下の地山に至るまで赤く変色して、硬く焼きしまっている。掘方は不整形で深さ10cm未満と浅い。

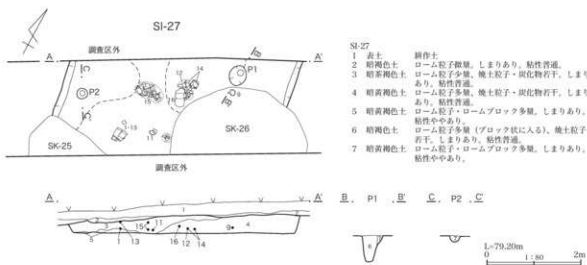
出土遺物 土師器環2点、須恵器甕1点を図示した。2は底面に刃物を研いだ痕跡が残り、砥石として再利用したものと考えられる。このほかに、土師器環24点217g、甕16点309g、須恵器壺1点13gが出土している。 **時期** 7世紀前葉。

第138表 H区SI-21 出土遺物観察表

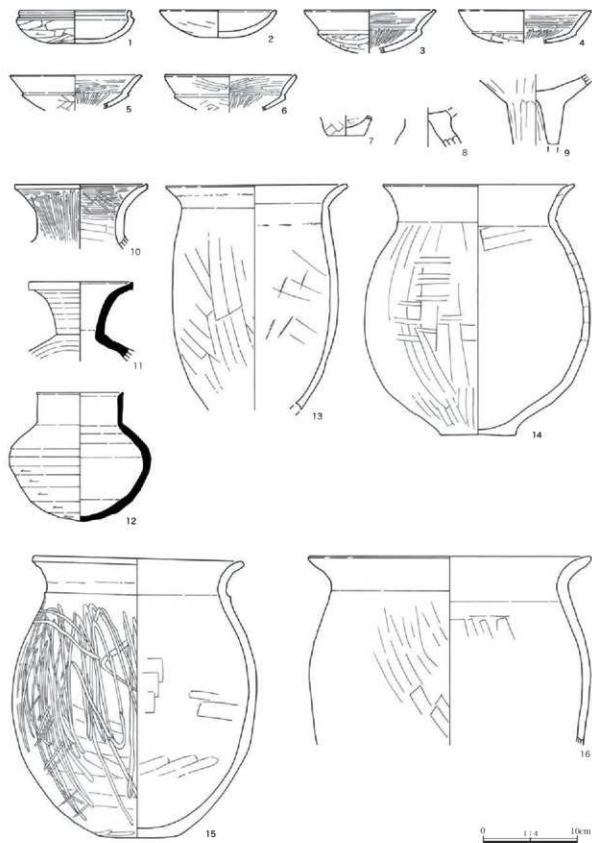
検出 No.	No.	種類 図柄	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	底成	器面の状態	器形・器の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
234	1	土師器 環	口径 13.3 底径 - 器高 4.1	外面 7.5YR6/4 にふい 内面 3.0YR3/1 黒褐色	砂粒多量、黒 色粒子微量	良好	外面 黒灰 内面 黒色処理	口縁部 ココナデ 体～底面外面 ナデ・ ケズリ 内面 ナデ	ほぼ完形	床上的 3cm	H-1区SI-21 No.2	
234	2	土師器 環	口径 - 底径 4.0 器高 [1.8]	外面 7.5YR5/3 にふい 内面 3.0YR3/1 黒褐色	砂粒微量	良好	内外面 漆仕上げ 研ぎ痕あり	内外面 ミガキ	底面ほぼ 完形	床面直 上	H-1区SI-21 No.1	底面外面を 砥石に転用
234	3	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 [6.9]	5Y5/1 灰	砂粒・煤少量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 同心円文当貝敷	胴部一部 残存	覆土中	H-1区SI-21 カクラン一 括	産地不明

H区SI-27 (第235・236図、第131-139表、図版七三・一三五・一三六)

位置 1区中央部にあたるC-5グリッドに位置する。 **重複関係** SK-25・26と重複しており、本遺構が最も古い。 **平面形状・規模** 重複および遺構の大部分が調査区外に延びており、東壁および西壁の一部と床面を確認したに過ぎない。東西で4.8m、南北2.16m以上、壁の高さは16cmである。 **主軸方向** N-10°-W **覆土** 自然堆積と考えられる。 **床面** 10cmほどの厚さで貼床が施されており、床面は平坦となっている。また壁沿いを中心に踏み締まりとみられる硬化面が形成されている。 **柱穴等** 2基確認した。P1は東壁側に位置しており、楕円形で、長軸40cm、短軸35cm、深さ55cmである。P2は西壁に近接しており、円形で、直径20cm、深さ15cmほどと小型で浅いピットである。 **カマド** 不明。 **出土遺物** 土師器環6点、高環2点、壺1点、甕4点、小形環1点、須恵器提瓶1点、壺1点を図示した。このほかに土師器環298点939g、高環1点7g、鉢26点414g、甕232点3513g、須恵器環1点19g、甕1点11gが出土している。 **時期** 7世紀前葉。



第235図 H区SI-27 遺構実測図



第 236 图 H 区 SI-27 出土物实测图

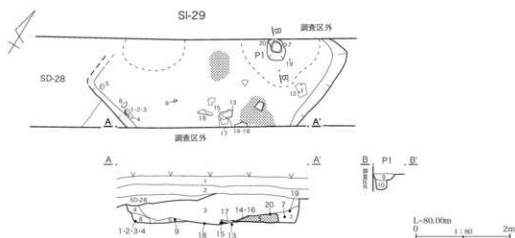
第139表 H区 SI-27 出土文物観察表

調査 No.	地層 層別	計測値 (m・g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	形状・断面の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
236 1	土師器 坏	口径 (11.6) 底径 - 器高 3.5	外面 10YR3/1 黒帯 内面 7.5YR3/1 黒帯	砂粒多量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ヘラケズ 内面 ナデ	口縁一部 1/4 残存	床 上約 10cm	H-1 区 SI-27 No.1	
236 2	土師器 坏	口径 (12.2) 底径 - 器高 -	外面 10YR6/3 に 5Y-R帯 内面 10YR5/3 に 5Y-R帯	砂粒・礫少量	良好	荒れている	口縁部内面 ココナデ 体部外面 ケズリ か 内面 ナデ	口縁部 1/12 残存、底部 完存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 3	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 [4.5]	外面 2.5YR5/8 明赤帯 内面 2.5YR5/8 明赤帯	砂粒微量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ヘラケズ 口縁部内面 ヘラ ミガキ	口縁部 1/4 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 4	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.5]	外面 2.5YR5/6 明赤帯 内面 2.5YR4/8 赤帯	砂粒微量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ヘラケズ 口縁部内面 ミガ キ	口縁一部 1/5 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 5	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 - 器高 [3.6]	外面 2.5YR4/8 赤帯 内面 2.5YR5/6 明赤帯	砂粒少量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ヘラケズ 口縁部内面 ミガ キ	口縁一部 1/5 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 6	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 3.8 器高 [3.8]	外面 7.5YR6/6 帯 内面 5YR6/8 帯	砂粒微量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部ミガキ 口縁部内面 ヘラ ミガキ 体部外面 ケズリ	口縁部 1/5 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 7	土師器 小形坏	口径 - 底径 3.8 器高 [2.2]	外面 5YR5/6 明赤帯 内面 7.5YR5/4 に 5Y-R帯	砂粒・礫微量	良好		内外面 ナデ	口縁部欠 損	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 8	土師器 高坏	口径 - 底径 - 器高 [3.5]	外面 7.5YR6/4 に 5Y-R帯 内面 7.5YR4/3 帯	砂粒少量	良好	内面 黒色器理 磨減	内外面 ナデか	平底一部 上部 3/4 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括	
236 9	土師器 高坏	口径 - 底径 - 器高 [7.4]	5YR6/8 帯 内面 ナデ	砂粒・赤色粒 子少量	良好		外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2 残存	床 上約 10cm	H-1 区 SI-27 No.8	
236 10	土師器 壺	口径 (14.0) 底径 - 器高 [6.9]	2.5YR4/8 赤帯	砂粒微量	良好		口縁部外面 ヘラミガ キ 口縁部内面 ヘラミ ガキ・ナデ	口縁部 1/5 残存	覆土中	H-1 区 SI-27 一括 H-1 区 SK- 26 一括	
236 11	須恵器 埴輪	口径 (11.0) 底径 [8.2] 器高 [8.2]	外面 7.5Y4/1 赤帯 内面 7.5YR3/1 黒帯	砂粒・礫少量	良好	自然釉付着	口縁部外面 コクロ目節裏	口縁部 1/2 残存	床 上約 6cm	H-1 区 SI-27 No.2	産地不明
236 12	須恵器 壺	口径 9.0 底径 - 器高 [13.6]	7.5YR7/4 に 5Y-R帯	砂粒多量、礫 少量	不良		口縁部外面 コクロ目節裏 口縁部裏上平部内外 面 コクロナデ 胴下部 底部 回転 ラケズリ	口縁部 1/3、底 4 ~ 15 cm 1/2 残 存	床 上約 10 ~ 22cm	H-1 区 SI-27 No.6・一括	産地不明
236 13	土師器 甕	口径 19.0 底径 - 器高 [28.8]	外面 7.5YR4/3 帯 内面 7.5YR5/4 に 5Y-R帯	砂粒・礫多量、 赤色粒子微量	良好	外面 黒帯あり 剥れてお離して いる	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	底部欠損	床 上約 10 ~ 22cm	H-1 区 SI-27 No.1・一括	
236 14	土師器 甕	口径 20.2 底径 8.0 器高 26.5	7.5YR5/4 に 5Y-R帯	砂粒・礫少量、 黒色粒子微量	良好	外面 黒帯あり	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ ナデ 研削痕	口縁部 2/3 残存	床 上約 10cm	H-1 区 SI-27 No.6・7・一 括	
236 15	土師器 甕	口径 22.4 底径 8.0 器高 29.9	外面 5YR6/6 帯 内面 5YR5/6 明赤帯	砂粒・礫少量	良好	外面 黒帯あり	口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ ヘラミガキ 内面 ナデ	一部欠損	床 上約 6 ~ 24 cm	H-1 区 SI-27 No.4・一括	
236 16	土師器 甕	口径 (30.0) 底径 - 器高 [19.9]	7.5YR4/2 灰帯	砂粒・礫多量、 金雲母少量	良好	外面 スス付着 内面 剥落	口縁部 ココナデ 胴部ヘラナデ	口縁一部 1/2 残 存	床 上約 16 ~ 24cm	H-1 区 SI-27 No.5	

H区 SI-29 (第237-240図、第131-140表、図版七三・七四・一三六・一三七・一四九)

位置 1区中央部にあたるH-4・5グリッドに位置する。重複関係 SD-28と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 北西隅および南東隅が調査区外であるが、南北が4.5m前後、東西が4m前後と推察され、東西方向に長い長方形とみられる。壁は遺存状況の良い部分で46cmである。主軸方向 N-10°-W 覆土 大部分を暗褐色土が覆っており、壁際を中心に地山由来のローム主体の土が堆積する。床面 貼床が全体に施されており、厚さは最大で20cmである。床面はやや凹凸が目立ち、P1周辺など部分的に硬化面が形成されている。柱穴等 柱穴とみられる方形のピット1基が確認された(P1)。長軸45cm、短軸35cm、深さ35cmで、底面には柱痕跡が認められた。このほかに粘土が充填されたピット状の浅い掘り込み

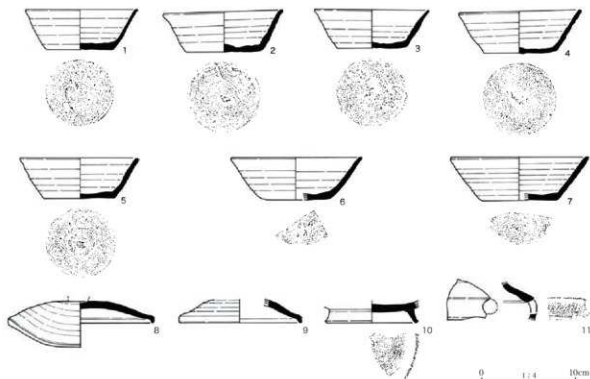
が2か所存在する。カマド 不明。出土遺物 須恵器杯7点、蓋2点、高台付杯1点、甕1点、焼き台1点、石1点、瓦5点、鉄製品2点を図示した。12は大甕を転用した焼台と推測され、直線的に粘土や破片が付着している。このほかに土師器杯20点126g、鉢2点19g、甕89点1276g、須恵器杯51点301g、蓋6点88g、甕4点99gが出土している。時期 9世紀前葉。



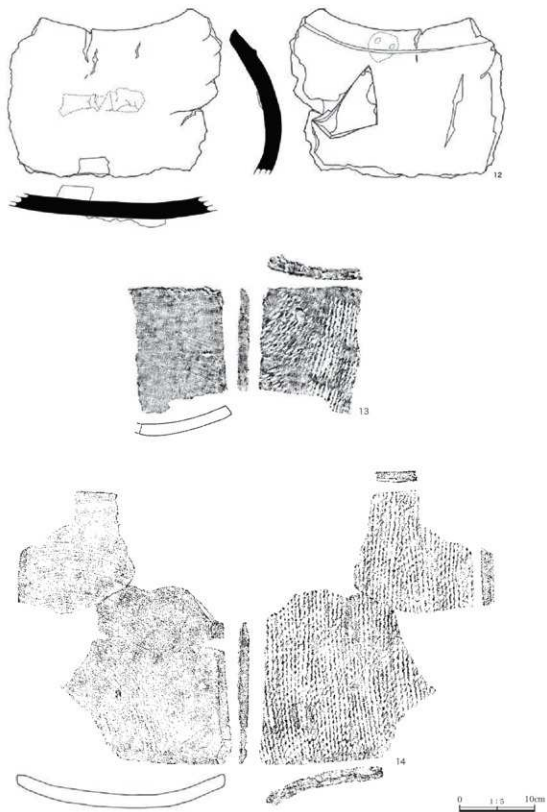
SI-29

- 1 表土 耕作土
2 暗褐色土 ローム粒子微細。しまりあり。粘性ややあり。
3 暗褐色土 ローム粒子少量。焼土粒子若干。しまりあり。粘性ややあり。
4 茶褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
5 黄乳白色土 粘土質。小石混じる。しまりあり。粘性非常にあり。
6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微細。しまりあり。粘性ややあり。

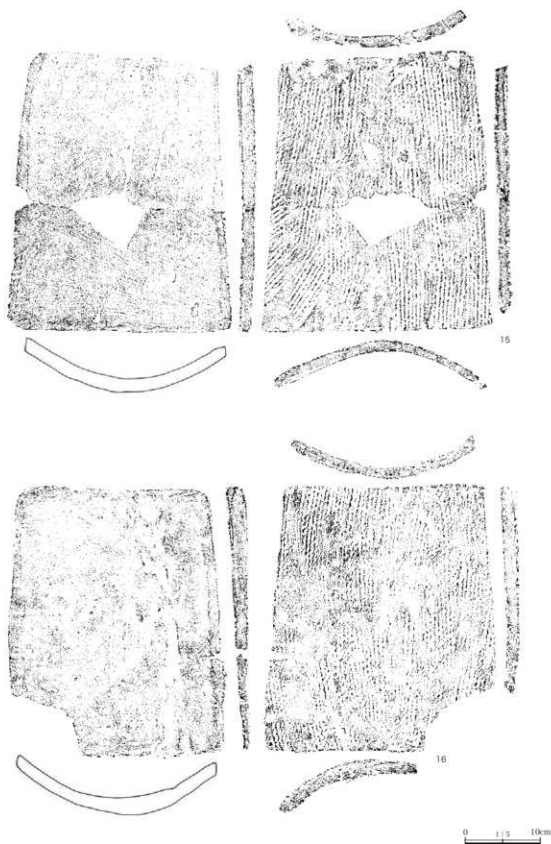
- 7 暗褐色土 ローム粒子微細。焼土粒子若干。しまりあり。粘性ややあり。
8 黄褐色土 ローム主体。しまりあり。粘性ややあり。
9 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりあり。粘性ややあり。
10 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微細。しまりやや欠ける。粘性ややあり。(断面に柱状あり)



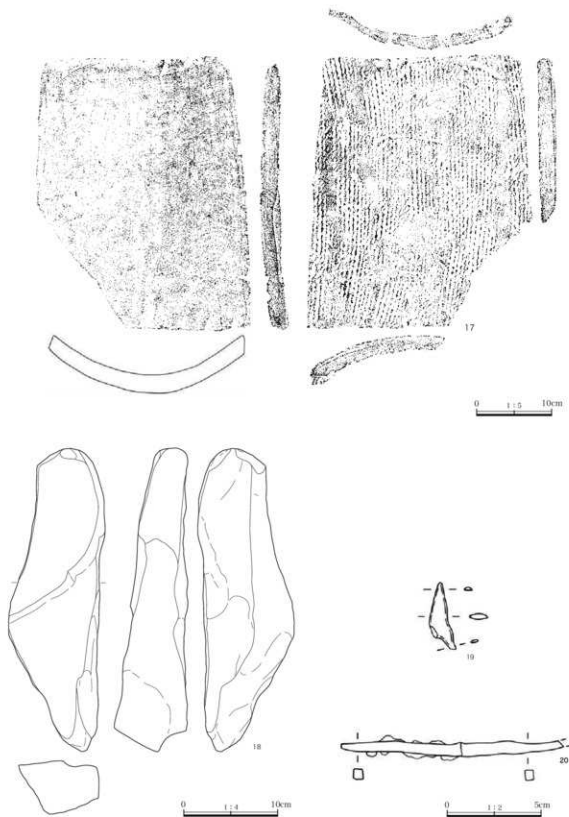
第237図 H区 SI-29 遺構・出土遺物実測図(1)



第238图 H区SI-29出土物实测图(2)



第239图 H区SI-29出土物实测图(3)



第240图 H区SI-29出土遗物实测图(4)

第140表 H区 SI-29 出土遺物観察表

種別 No.	種類 No.	発掘 詳細	計測値 (単位)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	断面・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
237	1	裏蓋器 坏	口径 11.8 底径 7.0 器高 4.3	2.5Y4/1 灰黄	砂粒多量、礫 少量	良好		ロクロ内面磨著 底部へラ切り後回転ナデ	完形	床面直上	H1区SI-29 No.3	磁子産
237	2	裏蓋器 坏	口径 12.4 底径 7.8 器高 4.5	2.5Y4/1 灰黄	砂粒多量、礫 少量	良好	底面に焼成 時の割れ	ロクロ目磨著 底部へラ切り後回転ナデ	完形	床面直上	H1区SI-29 No.3	磁子産
237	3	裏蓋器 坏	口径 12.1 底径 7.4 器高 4.1	外面 5Y4/1 内面 10YK5/2 灰黄	砂粒多量、礫 少量	良好	底面に焼成 時の割れ	底部へラ切り後回転ナデ	完形	床面直上	H1区SI-29 No.3	磁子産
237	4	裏蓋器 坏	口径 12.9 底径 7.7 器高 4.5	外面 5Y4/1 内面 2.5Y4/1 灰黄	砂粒少量、礫 微量	良好		底部へラ切り後回転ナデ	ほぼ完形	床面直上	H1区SI-29 No.4	磁子産
237	5	裏蓋器 坏	口径 12.4 底径 7.5 器高 4.3	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好	底面に焼成 時の割れ	ロクロ目磨著 底部へラ切り	ほぼ完形	床土約 5cm	H1区SI-29 No.1	磁子産
237	6	裏蓋器 坏	口径 (13.7) 底径 (7.4) 器高 4.5	外面 2.5Y6/3 内面 10YK5/3 にぶい・黄褐色	砂粒少量、礫 微量	良好		ロクロ内面磨著 底部へラ切り後回転ナデ	1/5 残存	覆土中	H1区SI-29 西部	磁子産
237	7	裏蓋器 坏	口径 (14.4) 底径 (7.8) 器高 4.6	外面 5Y6/2 灰オリーブ 内面 10YR7/2 にぶい・黄褐色	砂粒少量、礫 微量	良好		ロクロ目磨著 底部へラ切り後回転ナデ	口縁～体部 床土約 10cm 上位 1/12、 体部下位 1/6、底部 3/8 残存	H1区SI-29 No.17	磁子産	
237	8	裏蓋器 蓋	口径 - 底径 [4.8] 器高 [15.2]	外面 5Y4/1 灰 内面 10YR7/2 にぶい・黄褐色	砂粒・礫多量	良好		ロクロ目磨著 天月部 回転へラケズリ 変形している	1/12 欠損 つまみ欠損	床面直上	H1区SI-29 No.2・西部	磁子産
237	9	裏蓋器 蓋	口径 - 底径 [2.5] 器高 [12.9]	N4/0 灰	砂粒・礫・白 色粒子	良好	内面の一部 に摩耗+埋 着	ロクロ目磨著	口縁部～体 部土約 3cm	H1区SI-29 No.5	磁子産 転用磁	
237	10	裏蓋器 高台付坏	口径 9.8 底径 [2.4] 器高 [2.4]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 10YR5/1 褐色	砂粒・礫微量	良好		底部へラ切り後回転へラ ケズリ 裏白貼付	口～底部 1/4 残存	覆土中	H1区SI-29 西部	磁子産
237	11	裏蓋器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [4.1]	外面 N5/0 灰 内面 7.5YR3/1 褐色	砂粒・白色粒 子	良好	内面 漆付着 痕文 上下に 2本の沈線	カキ目後継継状工具による 傷文	体部一部残 存	覆土中	H1区SI-29 西部	産地不明
238	12	裏蓋器 焼き台付	口径 - 底径 - 器高 [20.0]	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒・礫	良好	自然釉がか かっている	外面 ヨコナデ 内面 ナデ	口～底部一 部残存	床面直上	H1区SI-29 No.19	磁子産 遺棄転用
238	13	女瓦	厚 1.5 重 529.78	外面 2.5Y5/1 灰黄 内面 2.5Y5/1 灰黄	砂粒・礫少量	良好		凸面 縄タタキ 凹面 糸切縁・糸切縁 側面 ヘラケズリ 排端 ヘラケズリ・布目縁	一部残存?	床面直上	H1区SI-29 No.11	
238	14	女瓦	厚 1.8 重 1888.1	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好		凸面 縄タタキ 凹面 糸切縁・糸切縁 側面 ヘラケズリ 排・正逆面 ヘラケズリ	一部残存?	床面直上	H1区SI-29 No.20	
239	15	女瓦	厚 2.0 重 3096.5	外面 2.5Y5/1 灰黄 内面 2.5Y5/1 灰黄	砂粒・礫多量	良好		凸面 縄タタキ後一部ナデ 凹面 布目縁・糸切縁・ 一部筋ナデ 側面 ヘラケズリ 排・正逆面 ヘラケズリ	ほぼ完形	床面直上	H1区SI-29 No.10	
239	16	女瓦	厚 2.4 重 3430.4	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/2 灰黄	砂粒・礫少量	良好		凸面 縄タタキ後ナデ 凹面 布目縁・糸切縁 側面 ヘラケズリ・面取 端面 ヘラケズリ	ほぼ完形	床面直上	H1区SI-29 No.20	
240	17	女瓦	厚 2.4 重 3585.8	外面 2.5Y5/1 灰黄 内面 2.5Y5/1 灰黄	砂粒・礫少量	良好		凸面 縄タタキ後ナデ 凹面 布目縁・糸切縁・ ヨコヘラケズリ・面取 端面 ヘラケズリ	ほぼ完形	床面直上	H1区SI-29 No.13	
240	18	石 (用途不明)	長 32.3 幅 10.3 厚 7.8 重 2143.3		砂岩				一部欠損	床面直上	H1区SI-29 No.7	
240	19	鉄製品 遺存か	長 3.52 幅 [1.42] 厚 0.20 重 1.79						一部欠損か	床面直上	H1区SI-29 No.18	
240	20	鉄製品 不明	長 [11.67] 幅 0.75 厚 0.49 重 0.02						一部欠損	床土約 20cm	H1区SI-29 No.16	

2 溝

台地上から落ち際に5条の溝が確認された。SD-7・9・28・53は南北方向に、SD-30は東西方向に延びる。

第141表 H区溝計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-7	1	a-9	N-64°-W	直線状	0.54	0.53	0.10	逆台形	無	SI-8より新 P-51より古
SD-9	1	A-9	N-10°-E	直線状	2.30	1.70	0.30	U字状	有	SI-10と重複
SD-28	1	H-5	N-0°	直線状	2.10	2.50	0.25	U字状	有	SI-29より新
SD-30	1	H-1-4	N-80°-W	直線状	3.00	1.90	0.30	逆台形	有	P-6より新
SD-53	2	P-0	N-15°-W	直線状	2.20	1.30	0.43	U字状	無	

H区SD-7 (第241図、第141表)

位置 1区南東部にあたるa-9グリッドに位置する。**重複関係** P-51より古く、SI-8より新しい。

平面形状・規模 重複および大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、東西方向に延びていると思われる。確認できた範囲で、長さ0.54m以上、幅50cm、深さ10cmである。**主軸方向** N-64°-W **覆土** 自然堆積土とみられる暗褐色土が堆積している。**底面** 部分的に平坦、または丸みを帯びており、壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

H区SD-9 (第241図、第141表、図版七四)

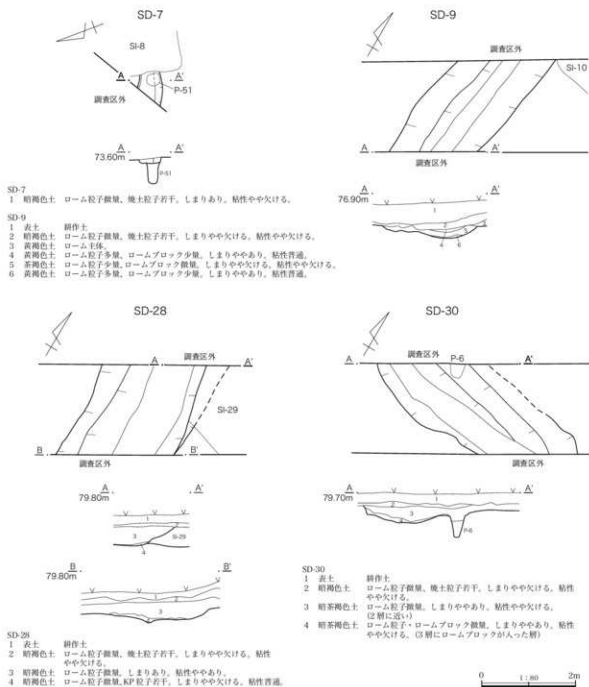
位置 1区南西部にあたるA-9グリッドに位置する。**重複関係** SI-10と重複しており、新旧関係は不明である。**平面形状・規模** 南北方向に直線的に延びており、確認できた範囲で長さ2.3m以上、幅1.7m、深さ最大30cmである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 層中には部分的に地山由来の黄褐色ローム層が認められるが、基本的には自然堆積とみられる。**底面** 底面は丸みを帯び、壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 土師器甕14点、230g、須恵器環3点40g、甕6点203g、陶器1点24g、弥生土器の破片も出土している。**時期** 不明。

H区SD-28 (第241図、第141表、図版七四)

位置 1区の中央部にあたる、H-5グリッドに位置する。**重複関係** SI-29と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南北方向に直線的に延びており、長さ2.10m以上、幅2.5m、深さ25cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** 地山由来のローム粒子や鹿沼軽石を含む暗褐色土が堆積している。**底面** やや凹凸が認められる。底面より非常に緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環4点11g、甕50点540g、須恵器環11点68g、蓋2点28g、甕2点100g、陶器1点10gが出土している。**時期** 不明。

H区SD-30 (第241図、第141表、図版七四)

位置 1区北東隅にあたるH-1-4グリッドに位置する。**重複関係** P-6より新しい。**平面形状・規模** 北西-南東方向に延びており、確認された範囲で長さ3m以上、幅1.9m以上、深さ30cmである。北東側の立ち上がり部分の遺存状況が悪く判然としませんが、床面の状況から幾度か掘り返された可能性がある。**主軸方向** N-80°-W **覆土** 自然堆積土とみられる暗褐色土が堆積している。**底面** わずかに傾斜がみられる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点32g、須恵器環4点52g、甕2点38gが出土している。**時期** 不明。



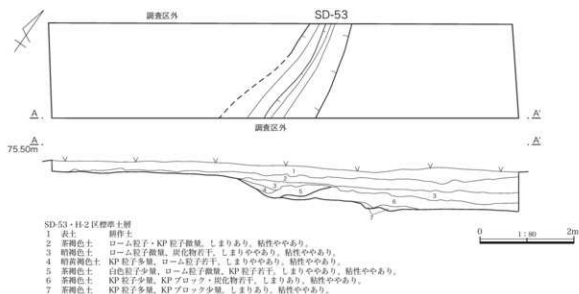
第241図 H区SD-7-9-28-30遺構実測図

H区SD-53 (第242図、第141表、図版七五)

位置 2区の中央部にあたるP-0グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に延びており、確認できた範囲で長さ2.2m以上、幅130cm、深さ43cmである。 **主軸方向** N-15°-W

覆土 一部地山由来の鹿沼軽石を多量に含む土が認められる。6・7層は溝を掘削する前の整地層か。

底面 やや凹凸が目立つ。壁は底面から緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。



第242図 H区SD-53・2区標準土層遺構実測図

3 地下式坑

H区の中央、台地上に1基が確認されている。

第142表 H区地下式坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	重複関係
SK-34	1	F-6	N-64°-W	主室 長方形 竪坑 長楕円形	主室 1.20 竪坑 1.25	主室 0.50 竪坑 0.90	主室 1.10	無	SI-21より新

HX SK-34

(第243図、第142表、図版七三・七四)

位置 1区中央部にあたる、F-6グリッドに位置する。**重複関係** SI-21と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 一部が調査区外に伸びているが、地下式坑とみられる。南北方向に長い長方形の主室の西壁中央に、東西方向に長い楕円形の竪坑が取り付けられている。主室は確認できた範囲で長軸120cm以上、短軸50cm以上、深さ110cmで、北壁が20～30cmほど挟れている。竪坑は長軸125cm、短軸90cmで、主室の底面に向かって低く傾斜する。**主軸方向** N-64°-W **覆土** 4層とした地山由来の黄褐色ローム塊主体の層は天井の崩落土である。

その他の暗褐色土は自然流入土とみられる。**底面** 主室の底面は平坦となっている。竪坑は主室に向かって低く傾斜し、階段状になっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 形状から中近世か。



第243図 H区SK-34遺構実測図

4 土坑

台地の上と西側に入り込む谷付近に集中して12基が確認されている。

第143表 H区土坑遺構計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-4	1	a-10	不明	不整楕円形	0.85	0.60	0.20	U字形	有	
SK-12	1	C-8	N-60°-W	長方形	[2.10]	0.80	0.50	箱形	有	
SK-15	1	E-6	N-60°-E	楕円形か	1.25	[0.40]	0.10	皿状	無	SI-17より新
SK-16	1	E-6	N-75°-W	楕円形	1.10	0.40	0.10	皿状	無	SI-17より新
SK-22	1	G-5	N-85°-W	隅丸長方形	2.50	0.95	0.30	逆丁形	有	
SK-23	1	G-5	N-15°-E	方形か	[1.10]	[1.10]	0.18	逆丁形	有	SK-24より古
SK-24	1	G-5	不明	不明	[1.50]	[0.45]	0.70	有段	無	SK-23より新
SK-25	1	G-5	N-20°-E	方形か	[1.50]	[1.00]	0.50	箱形	有	SI-27より新
SK-26	1	G-5	不明	円形か	3.00	[1.40]	[1.80]	箱形	有	SI-27より新
SK-33	1	E-7	不明	円形か	[1.70]	[0.56]	0.90	U字形	有	SI-14より新
SK-48	1	b-10	N-10°-E	楕円形	0.52	0.39	0.10	皿状	無	P-50より古
SK-49	1	b-10	N-10°-E	長方形	0.82	0.65	0.52	有段か	有	

H区SK-4 (第244図、第143表、図版七四)

位置 1区南東部にあたるa-10グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 不整楕円形で、長軸85cm、短軸60cm、深さ20cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 締まりのある暗褐色土とローム塊や礫を多量に含む茶褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、板状の石が敷かれている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点10g、鉢1点19g、甕12点113g、須恵器環2点10g、蓋1点4gが出土している。**時期** 不明。

H区SK-12 (第244図、第143表)

位置 1区南東部にあたるC-8グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側が調査区外に延びているが、東西方向に長い長方形で、長軸210cm以上、短軸80cm、深さ50cmである。**主軸方向** N-60°-W **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含んだ茶褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁は底面より垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環8点47g、甕9点56g、須恵器環1点9gが出土している。**時期** 不明。

H区SK-15 (第244図、第143表)

位置 1区中央部にあたるE-6グリッドに位置する。**重複関係** SI-17と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北西側が調査区外であるが、東西方向に長い楕円形とみられる。長軸125cm、短軸40cm以上、深さ10cmである。**主軸方向** N-60°-E **覆土** 自然堆積とみられる暗褐色土が堆積している。**底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

H区SK-16 (第244図、第143表)

位置 1区中央部にあたるE-6グリッドに位置する。**重複関係** SI-17と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形で、長軸110cm、短軸40cm、深さ10cmである。**主軸方向** N-75°-W **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む暗褐色土が堆積している。**底面** 鹿沼軽石層につくられ、凹凸が目立ち、壁は非常に緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

H区 SK-22 (第244図、第143表、図版七四)

位置 1区中央部にあたるG-5グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い隅丸長方形で、長軸250cm、短軸95cm、深さは30cmほどである。**主軸方向** N-85°-W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含んだ暗茶褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕3点26g、須恵器埴4点49gが出土している。**時期** 不明。

H区 SK-23 (第244図、第143表、図版七四)

位置 1区中央部にあたるG-5グリッドに位置する。**重複関係** SK-24と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大半の部分が調査区外に伸びているため、詳細は不明であるが、方形を基調とした土坑の北西隅部分とみられる。確認できた範囲で長軸110cm以上、短軸110cm以上、深さは18cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 地山由来のローム粒子やロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が認められる。壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点9gが出土している。**時期** 不明。

H区 SK-24 (第244図、第143表、図版七四)

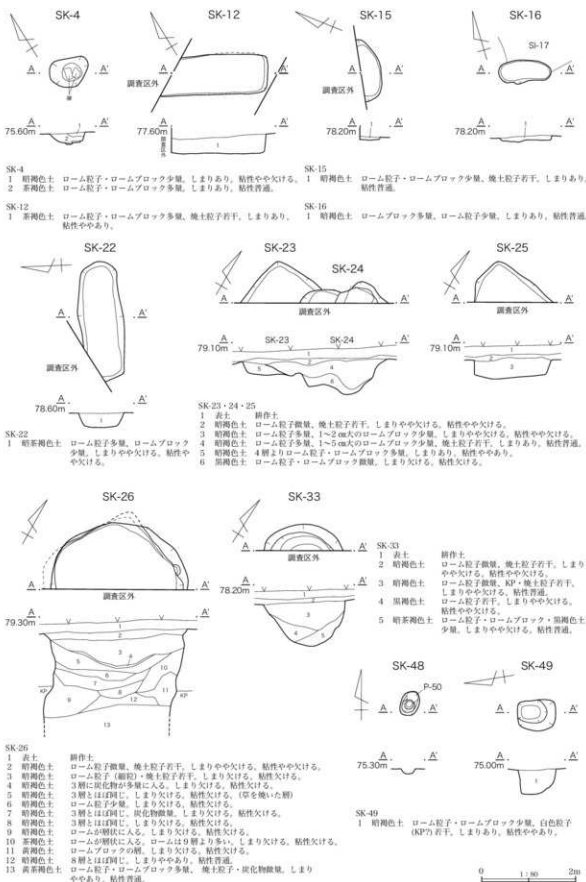
位置 1区中央部にあたるG-5グリッドに位置する。**重複関係** SK-23と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 大半が調査区外のため詳細は不明である。確認された範囲で長軸150cm以上、短軸45cm以上、深さ70cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 黒色系の土が堆積している。上面を覆う暗褐色土には地山由来のローム粒子が多く含まれる。**底面** ローム層中に作られており、凹凸が著しく、壁にも段が認められる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

H区 SK-25 (第244図、第143表、図版七四・七五)

位置 1区中央部にあたるG-5グリッドに位置する。**重複関係** SI-27と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 大半が調査区外に伸びているが、方形を基調とした土坑の北西隅付近とみられる。確認できた範囲で長軸150cm以上、短軸100cm以上、深さ50cmほどである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器埴4点15g、甕8点55g、須恵器蓋1点6g、甕1点11gが出土している。**時期** 不明。

H区 SK-26 (第244-245図、第143-144表、図版七五・一三七)

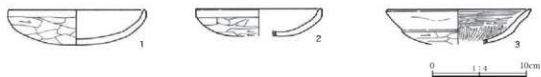
位置 1区中央部にあたるG-5グリッドに位置する。**重複関係** SI-27と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北側が調査区外に伸びているが、円形を基調とした大型の土坑とみられる。確認できた範囲で長軸300cm、短軸140cm以上、深さは180cmまで調査を行い、それより下部は安全のため掘り下げを中止した。ピンボールを刺した感触ではさらに1m以上の深さがあるものと推定される。井戸の可能性も考えられる。**主軸方向** 不明。**覆土** 確認できた範囲で13層に分層した。大部分は地山由来のローム粒子や炭・焼土を含む暗褐色土である。確認できた最下層付近では地山由来のロームブロックで構成される黄褐色系の土が認められる。4・5層は炭化物を多量に含む。6層以下は崩落土の流入か。人為的な埋め



第244圖 H区SK-4・12・15・16・22~26・33・48・49遺構実測図

戻しの可能性も考えられる。底面 確認できていない。壁は垂直に立ち上がっており、一部オーバーハン
グする部分が認められる。出土遺物 覆土の上層から出土した。土師器環3点を図示した。このほかに土
師器環44点370g、裏115点2366g、須恵器環4点27g、鉢2点98g、甕3点275gが出土している。

時期 不明。



第245図 H区SK-26 出土遺物実測図

第144表 H区SK-26 出土遺物観察表

図号	種別	寸法 (cm・g)	色調	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
245 1	土師器 環	口径 (14.4) 底径 - 器高 3.8	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 10YR4/2 灰黄褐色	砂粒少量、微 少量	良好	内外面 漣住上げ	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズウ 内面 ナデ	口縁部 1/6、体 部 1/2 残 存	覆土中	H-1区SK-26 一括
245 2	土師器 環	口径 (13.2) 底径 - 器高 2.9	7.5YR4/2 灰褐色	砂粒・微少量	良好	口縁部 漣住上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズウ 内面 ナデ	口縁部 1/4 残 存	覆土中	H-1区SK-26 一括
245 3	土師器 環	口径 (15.2) 底径 - 器高 [37]	2.5YR5/6 明赤褐色	砂粒少量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ケズウ 内面 ヘウミガサ	口縁部 1/8 残 存	覆土中	H-1区SK-26 一括

HIX SK-33 (第244図、第143表)

位置 1区中央部にあたるE-7グリッドに位置する。重複関係 SI-14と重複しており、本遺構が新し
い。平面形状・規模 大半が調査区外であるが、確認できた範囲では直径170cmの円形基調の大型土坑と
みられる。深さは90cmである。主軸方向 不明。覆土 黒色系の土を中心に堆積しており、地山由来の
ロームブロックもほとんど含まれないことから自然堆積土とみられる。底面 鹿沼軽石層中に作られており、
丸みを帯びる。壁は急斜度で立ち上がる。出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器環7点58g、甕9
点95g、須恵器環1点15gが出土している。時期 不明。

HIX SK-48 (第244図、第143表)

位置 1区南東部にあたるb-10グリッドに位置する。重複関係 P-50と重複しており、本遺構が古
い。平面形状・規模 南北方向に長い楕円形で、長軸52cm、短軸39cm、深さ10cmである。主軸方向
N-10°-E 覆土 不明。底面 ローム層中に作られており、丸みを帯びる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
出土遺物 出土していない。時期 不明。

HIX SK-49 (第244図、第143表)

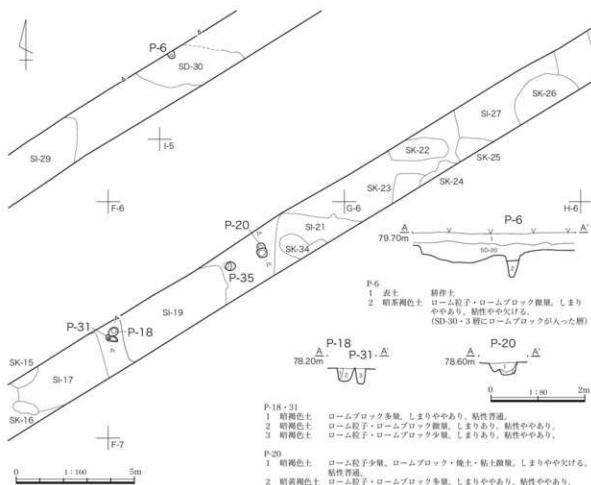
位置 1区南東部にあたるb-10グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 南北方向
に長い長方形で、長軸82cm、短軸65cm、深さ52cmである。主軸方向 N-10°-E 覆土 自然堆積と
みられる暗褐色土である。底面 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち
上がる。出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器甕2点19g、須恵器甕1点30gが出土している。
時期 不明。

5 ビット

H区では22基のビットが確認されている。計測表にまとめる。

第145表 H区ビット計測表

遺構番号	形番付	位置	方位	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土遺物	参照関係
P-1	P-1	a-10	N-6°-E	楕円形	0.52	0.30	0.28	逆台形	無	
P-2	P-2	a-10	-	円形	0.38	0.34	0.39	逆台形	無	P-36と重複
P-3	P-3	a-10	-	円形	0.32	0.30	0.42	U字状	無	
P-6	P-6	I-4	N-15°-W	楕円形か	[0.29]	0.31	0.45	-	無	SD-30より古
P-18	P-18	F-6	N-58°-E	楕円形	0.44	0.34	0.43	U字状	無	
P-20	P-20	F-6	N-18°-W	楕円形	0.60	0.42	0.28	段あり	無	
P-31	P-31	E-F-6	N-76°-W	楕円形	0.50	0.23	-	U字状	無	
P-35	P-35	F-6	N-0°	楕円形	0.44	0.36	0.72	-	無	
P-36	P-36	a-10	N-14°-W	長方形	0.48	0.31	0.90	U字状	無	P-2と重複
P-37	P-37	a-10	-	円形	0.28	0.28	0.26	U字状	無	
P-38	P-38	a-10	-	円形	0.36	0.30	0.48	U字状	無	
P-39	P-39	b-10	-	円形	0.27	0.25	0.10	U字状	無	
P-40	P-40	b-10	N-65°-E	楕円形か	0.32	0.21	-	U字状	無	
P-41	P-41	b-10	不明	楕円形か	[0.18]	0.25	0.25	U字状	無	
P-42	P-42	b-10	-	円形	0.20	0.20	0.16	U字状	無	
P-43	P-43	b-10	N-66°-E	楕円形	0.25	0.15	0.21	U字状	無	
P-44	P-44	b-10	N-80°-E	楕円形	0.30	0.25	0.69	U字状	無	
P-45	P-45	b-10	-	円形	0.36	0.33	0.63	U字状	無	P-46と重複
P-46	P-46	b-10	N-60°-E	楕円形	[0.32]	0.30	0.40	U字状	無	P-45と重複
P-47	P-47	b-10	N-47°-E	長方形	0.40	0.26	0.31	段あり	無	
P-50	P-50	b-10	-	円形	0.23	0.23	0.40	段あり	無	
P-51	P-51	a-9	N-5°-E	楕円形	0.27	0.25	0.43	-	無	SD-7より古



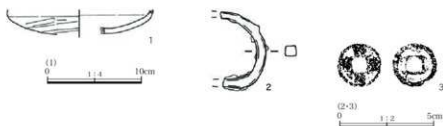
第246図 H区ビット遺構実測図(1)

5 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載した。

H区遺構外の遺物(第248図、第146表、図版一四九)

表土中から出土した遺物のうち、3点を図示した。土師器の環と不明鉄製品、銅銭が出土している。1は黒色処理が施されている。2は環状と推測される鉄製品である。3の銅銭は不明である。



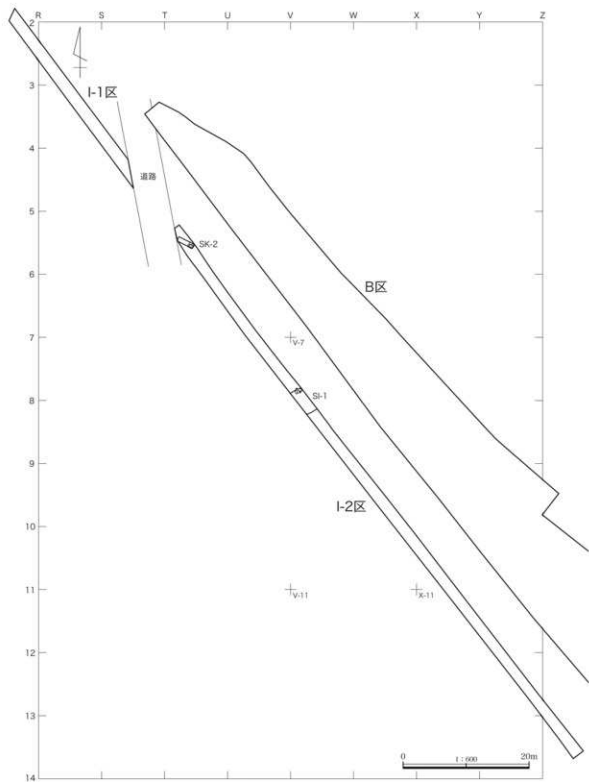
第248図 H区遺構外出土遺物実測図

第146表 H区遺構外出土遺物観察表

図版 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
248	1	土師器 環	口径 - 底径 - 器高 [2.5]	外面 10YR3/1 黒地 内面 5YR4/2 (灰濁)	砂粒質	良好	内外面 黒色処理 か	口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁部欠 損、底部 1/4 残存	表土中	H-1区 No.80・90・ 一括	
248	2	鉄製品 不明	長 [4.02] 幅 0.56 厚 0.50 重 3.22						一部残存	表土中	H-2区トレン チ一括	
248	3	銅製品 銅銭	長 2.31 厚 0.11 重 2.63						ほぼ完好	表土中	H-1区 海堀より 200m	不明

第12節 I区

I区は台地上B区の西に位置する。水路部分のため、トレンチ状の調査区であり、2つの区に分割される。I-1区では遺構は確認されなかった。I-2区では竪穴建物跡1軒、土坑1基が確認された。



第249図 I区全体図

1 竪穴建物跡

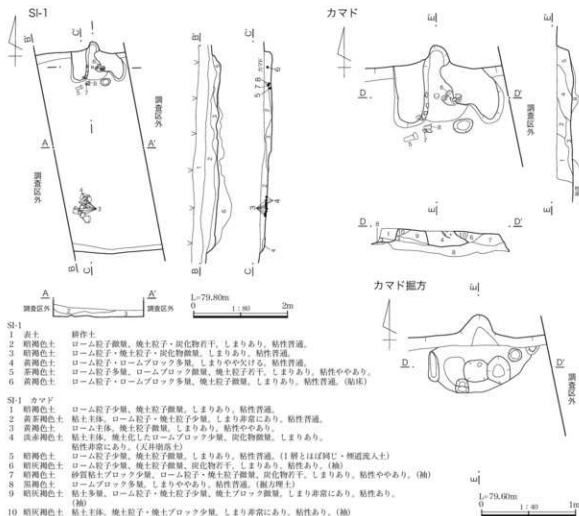
H区寄りの台地上に、1軒が確認されている。

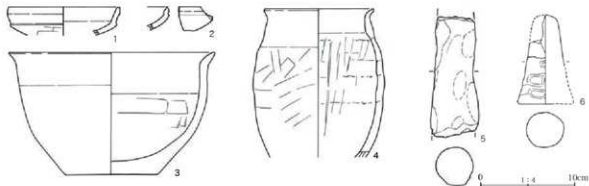
第147表 I区 竪穴建物跡計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	ピット	炉	カマド	竪穴	壁溝	間仕切溝	出土遺物	重複関係
SI-1	2	V-7・8	N-0°	方形か	-	4.00	0.19	無	無	有	無	無	無	有	

I区 SI-1 (第250・251図、図版七五・七六・一三七)

位置 2区中央部や北寄りにあたるV-7・8グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の中央部分とみられる。確認できた範囲で南北4.0m以上、壁は遺存状況の良い部分で19cmほどである。**主軸方向** N-0°**覆土** 貼床構築土以外の2~4層はいずれも自然堆積とみられる。**床面** ロームを多く含む黄褐色土の貼床がほぼ全面に確認された。**柱穴等** 確認されていない。**カマド** 北側に袖が残った状態で確認された。**出土遺物** 一括で廃棄された土師器の鉢(3)や甕(4)が床面より出土している。また、カマド内や周辺から土製支脚が出土している。土師器環2点、鉢1点、甕1点、土製支脚2点を図示した。このほかに土師器環2点44.49g、甕45点671.22g、土製支脚6点123.88gが出土している。**時期** 7世紀前葉。





第251図 I区SI-1出土遺物実測図

第148表 I区SI-1出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
251	1	土師器 坏	口径 (11.8) 底径 - 器高 [3.0]	外面 7.5YR6/6 橙 内面 7.5YR6/4 に赤い斑	砂粒少量	良好		口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/8 残存	覆土中	I区SI-1 フタ土一拵	
251	2	土師器 坏	口径 - 底径 - 器高 [2.5]	7.5YR6/6 橙	砂粒微量	良好	荒れている	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ 内面 ナデ	口縁一部 一部残存	覆土中	I区SI-1 フタ土一拵	
251	3	土師器 鉢	口径 21.8 底径 9.5 器高 13.0	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 7.5YR5/3 に赤い斑	砂粒・礫少量	良好	外面 厚膜 底面 内面剥落	口縁部 ココナデ 体一部残存	口縁部 1/2、底 部2/3 残存	床面直上	I区SI-1 No.2・3・4・ 5・7・10・ 11・13	
251	4	土師器 小形罐	口径 (11.4) 底径 - 器高 [15.7]	外面 10YR5/4 に赤い黄斑 内面 7.5YR5/3 に赤い斑	砂粒少量	良好	下半剥落している	口縁部 ココナデ 胴部外面 ケズリ 内面 ヘラナデ	口縁部 1/6、体 部1/4 残存	床面直上	I区SI-1 No.9・10・ 13・14	
251	5	土製支脚	口径 - 底径 - 器高 [12.8]	7.5YR5/4 に赤い斑	砂粒多量	良好	指頭痕あり	ナデ	一部残存	床上的約 3cm	I区SI-1 No.1	
251	6	土製支脚	口径 - 底径 - 器高 [9.3]	10YR5/4 に赤い黄斑	砂粒微量	良好	粘土付着 指頭痕あり	ナデ	一部残存	カマド 内	I区SI-1 カマド No.2・3・16	

2 土坑

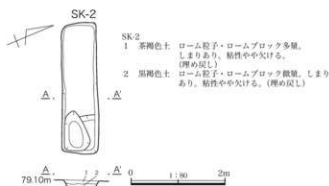
竪穴建物跡の北に1基確認されている。

第149表 I区土坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	垂復関係
SK-2	2	T-5	N-65°-W	長方形	2.78	0.72	0.15	箱形	有	

I区SK-2 (第252図, 第149表, 図版七六)

位置 2区南東部にあたるT-5グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向に長い長方形で、長軸278cm、短軸72cm、深さ15cmである。 **主軸方向** N-65°-W **覆土** ロームを多く含む土で、人為的に埋め戻している。 **底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器裏3点10.4gが出土している。 **時期** 不明。形状や覆土の状況から、近現代のいも穴の可能性が高い。



第252図 I区 SK-2 遺構実測図

3 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

I区遺構外の遺物(第253図、第150表)

粘板岩の用途不明の石である。穿孔の可能性がある穴の痕跡がみられる。



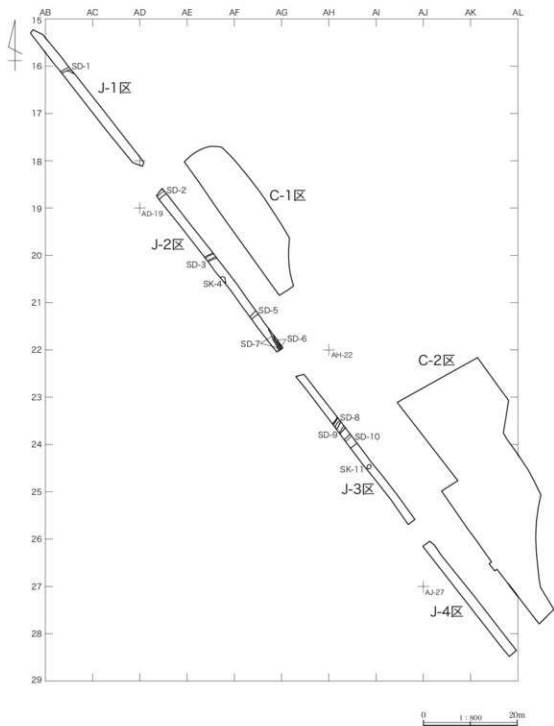
第253図 I区遺構外出土遺物実測図

第150表 I区遺構外出土遺物観察表

検出No	No	種類 器種	計測値 (mm/g)	色調	粘土・石質	構成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
253	1	石 (用途不明)	径 6.0 幅 5.2 厚 0.8 重 33.2		粘板岩			穿孔されているか	一部残存	表土中	1-25K 一託	

第13節 J区

J区は水路部分のため、トレンチ状の調査区であり、台地は東側が急傾斜となる。J-1からJ-4に向かって南東に傾斜する。4つの調査区に分割される。溝9条、土坑2基が確認されている。J-4区は削平を受けているため、遺構は確認されていない。



第254図 J区全体図

1 溝

台地上に9条の溝が確認されている。SD-1・2・5・10が北東-南西方向に、SD-6・7が北西-南東方向に伸びている。ほぼ等間隔で確認されている。SD-6・7以外の長さはトレンチの幅分である。

第151表 J区溝計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-1	1	AB-16	N-55°-E	L字状か	[2.00]	0.45～0.80	0.15～0.20	U字状	無	
SD-2	2	AD-18	N-40°-E	直線状	[1.95]	1.00～1.90	0.34～0.46	U字状	無	
SD-3	2	AE-19・20	N-55°-E	直線状	[1.95]	1.20	0.14	U字状	無	
SD-5	2	AF-21	N-40°-E	直線状	[1.80]	0.65～0.92	0.10	U字状	有	
SD-6	2	AF-AG-21	N-35°-W	直線状	[3.30]	0.30	0.30	U字状	有	SD-7より新
SD-7	2	AF-21・22	N-35°-W	直線状	[4.90]	0.30～0.40	0.20	逆台形	無	SD-6より古
SD-8	3	AH-23	N-30°-E	直線状	[1.76]	0.70～0.98	0.30	U字状	有	
SD-9	3	AH-23	N-25°-E	直線状	[1.90]	1.10～1.60	0.25～0.45	U字状	有	
SD-10	3	AH-23・24	N-50°-E	直線状	[1.76]	2.30～2.40	0.20	逆台形	無	

J区SD-1 (第255図、第151表、図版七六)

位置 1区北西部にあたるAB-16グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に直線的に伸びているものと、南北に屈曲する2本の溝と思われる。長さは2.0m以上、幅0.45～0.8m、深さ15～20cmほどで、東側の方が幅広くなっている。**主軸方向** N-55°-E **覆土** 流入土とみられる暗褐色系の土が主体である。底面付近では地山由来のロームが主体となっている。**底面** 丸みを帯びており、壁は底面よりL字状で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

J区SD-2 (第255図、第151表、図版七七)

位置 2区北西隅にあたるAD-18グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に伸びていると思われる。長さは1.95m以上、幅は1.0～1.9m、深さは34～46cmである。**主軸方向** N-40°-E **覆土** 上面を覆う暗褐色土と、底面を覆う明茶褐色土の2層である。いずれの層もしまりがあり、明茶褐色土には地山由来のロームブロックが多量に含まれている。**底面** ローム層中につくられており、やや凹凸が認められる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

J区SD-3 (第255図、第151表)

位置 2区中央部にあたるAE-19・20グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に直線的に伸びていると思われる。長さは1.95m以上、幅は1.2m、深さ14cmである。**主軸方向** N-55°-E **覆土** ややしまりのある暗茶褐色土が堆積している。**底面** 丸みを帯びており、壁は非常に緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

J区SD-5 (第255図、第151表、図版七七)

位置 2区南東部にあたるAF-21グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に伸びていると思われる。長さは1.8m以上、幅は0.65～0.92m、深さ10cm前後である。

主軸方向 N-40° -E **覆土** 上面を覆う暗褐色土と、底面を覆う明茶褐色土の2層である。このうち暗褐色土はSD-2に堆積する土と対応する。**底面** 丸みを帯び、壁は底面から非常に緩やかに立ち上がっている。

出土遺物 図示できる遺物はないが、土師器環3点12.89g、甕2点24.74gが出土している。**時期** 不明。

J区SD-6・7（第255図、第151表、図版七七）

位置 2区南東隅にあたるAF-21・22とAG-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-7と一部重複し、覆土の状況からSD-6が新しい。**平面形状・規模** 南北方向に直線的に延びている。SD-6は長さが確認された範囲で3.3m、幅0.3m、深さ30cmほどである。SD-7は南端付近では浅いため、一部途切れる箇所がある。確認された範囲で4.9m以上、幅30～40cm、深さ20cm前後である。**主軸方向** N-35° -W **覆土** 自然流入土とみられる暗褐色土と茶褐色土が堆積している。**底面** SD-6は丸みを帯びており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。SD-7は平坦となっており、壁は比較的緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕4点76.47gが出土している。**時期** 不明。

J区SD-8（第255図、第151表、図版七八）

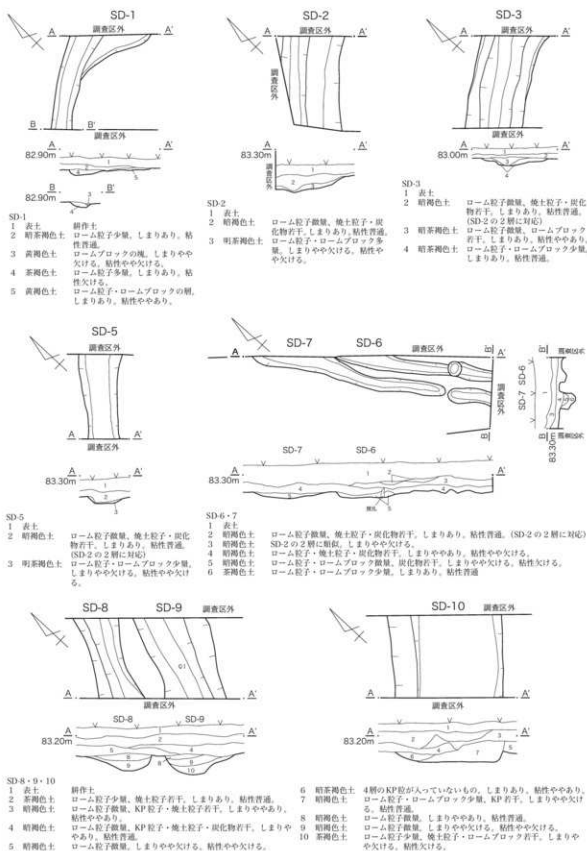
位置 3区中央部にあたるAH-23グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に延びているものと思われる。長さは1.76m以上、幅は0.7～0.98cm、深さは20cm前後である。**主軸方向** N-30° -E **覆土** 自然堆積とみられる暗褐色土が2層堆積している。なお覆土がSD-9と共通しており、同時期に機能し、廃絶した可能性が考えられる。**底面** 幅狭く丸みを帯びており、壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕5点41.9gが出土している。**時期** 不明。SD-9とほぼ同時期と考えられる。

J区SD-9（第255・256図、第151・152表、図版七八・一三七）

位置 3区中央部にあたるAH-23グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に延びているものと思われる。長さは1.9m以上、幅は1.1～1.6m、深さは25～45cmである。**主軸方向** N-25° -E **覆土** SD-8と共通した自然堆積土とみられる暗褐色土が堆積している。**底面** 丸みを帯び、壁は底面より緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 土師器の甕1点を図示した。そのほか土師器甕5点64.2gが出土している。**時期** 古代か。土層の状況からSD-8とほぼ同時期と考えられる。

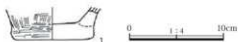
J区SD-10（第255図、第151表、図版七八）

位置 3区中央部にあたるAH-23・24グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に延びているものと思われる。長さは1.76m以上、幅は2.3～2.4m、深さは30cmほどである。**主軸方向** N-50° -E **覆土** 6・7層は掘り返しか。**底面** 平坦となっており、壁は底面から垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第255図 J区 SD-1～3・5～10 遺構実測図

0 1:80 2m



第256図 J区SD-9出土遺物実測図

第152表 J区SD-9出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 図録	計測値 (m・g)	色調	砂土・石質	造成	断面の状況	形状・断面の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
250	1	土師器 甕	口径 - 底径 8.7 断面 (3.5)	外面 10YR6/4 に黄・黄褐色 内面 10YR7/3 に黄・黄褐色	砂粒・微少量	良好		底部外面 ナデ・ヘラ ミガキ 内面 ナデか	底部 1/2 残存	底部より約 10 cm	J区SD-9 No.1	

2 土坑

J-2区で2基の土坑が確認されている。

第153表 J区土坑計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-4	2	AE-20	N-0°	楕円形	1.30	0.90	0.18	逆台形	無	
SK-11	3	AH-24	N-66°・E	楕円形	1.00	0.80	0.16	逆台形	無	

J区SK-4 (第257図、第153表、図版七七)

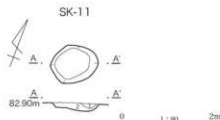
位置 2区中央部にあたるAE-20グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側に調査区外に延びているが、南北方向に長い楕円形とみられる。長軸130cm以上、短軸90cm以上、深さ18cmである。**主軸方向** N-0° **覆土** 流入土とみられる暗褐色土が2層と、壁の崩落土とみられる黄褐色土が1層認められた。**底面** 凹凸が顕著であり、壁は底面から急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

J区SK-11 (第257図、第153表)

位置 3区中央部にあたるAH-24グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向にやや長い楕円形で、長軸100cm、短軸80cm、深さ16cmである。**主軸方向** N-66°・E **底面** やや丸みを帯びており、壁は底面から急斜度で立ち上がる。**覆土** 流入土とみられる暗褐色土と暗茶褐色土が堆積している。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



- SK-4
1 表土
2 暗褐色土 ローム粒子少量 (0.5~1cm大) 若干、しまりあり。粘性普通。
3 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりやや欠ける。粘性欠ける。
4 黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック散見、しまりあり。粘性普通。

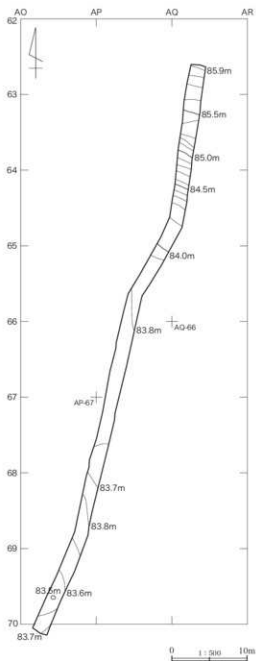


- SK-11
1 暗褐色土 白色粒子・微土粒子若干、しまりあり。粘性ややあり。
2 暗茶褐色土 ロームブロック少量、しまりあり。粘性ややあり。

第257図 J区SK-4・11遺構実測図

第14節 K区

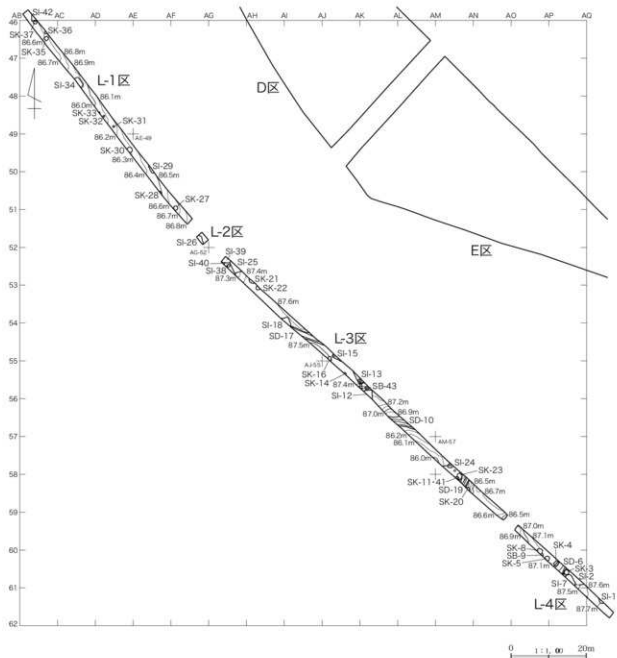
K区は本遺跡の南東端、L区の南に位置する。台地は北から南へ斜傾している。確認面はローム層で、表土下約40cmにある。水路部分のため、幅約2mのトレンチ状の調査区である。遺構は確認されなかった。須恵器の蓋1点4.5gと甕1点81.24gが出土している。



第258図 K区全体図

第15節 L区

L区はD・E区の南西に位置し、台地西側の落ち際に立地する。水路部分のため、幅約2mの細長いトレンチ状の調査区である。L-1～4区に区分した。古墳時代中期～平安時代の竪穴建物跡16軒、掘立柱建物跡2棟、溝4条、地下式坑1基、土坑20基が確認されている。



第259図 L区全体図

1 竪穴建物跡

16軒の竪穴建物跡が1～4区の各区に散在している。

第154表 L区 竪穴建物跡計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	東西 (m)	南北 (m)	深さ (m)	ピット	炉	カマド	竪穴	壁溝	掘仕 の溝	出土 遺物	重複関係
SI-1	4	AQ-61	N-20°-W	方形か	0.80	1.50	0.14	無	無	無	無	無	無	無	
SI-2	4	AP-60	不明	方形か	1.30	3.00	0.13	無	無	無	無	無	無	有	SI-7より古
SI-7	4	AP-60	N-25°-W	方形	1.40	3.10	0.16	無	無	有	無	無	無	有	SI-2より新 SK-3、SD-6より古
SI-12	3	AK-55	N-0°	方形	2.20	2.40	0.17	無	無	無	無	無	無	有	
SI-13	3	APAK-55	N-30°-W	方形	1.20	4.00	0.20	無	無	無	無	有	無	有	SB-43より古
SI-15	3	AJ-54-55	N-20°-E	方形	0.80	2.60	0.17	1	無	無	無	無	無	有	
SI-18	3	AH-53 AF-53-54	N-0°	方形	1.50	2.60	0.10	無	無	有	無	無	無	有	SD-17より古
SI-24	3	AM-57-58	N-0°	方形	4.00	4.50	0.47	1	無	有	無	有	無	有	SK-11・23・41より古
SI-25	3	AG-52	N-30°-W	方形	1.70	3.30	0.40	無	無	無	無	無	無	有	SI-38・39より新
SI-26	2	AF-51	N-20°-W	方形か	0.60	1.20	0.20	無	無	無	無	有	無	有	
SI-29	1	AE-49-50	N-25°-W	方形か	0.50	2.30	0.20	無	無	無	無	無	無	有	
SI-34	1	AC-47	N-35°-W	方形	1.10	2.80	0.20	無	無	無	無	無	無	有	
SI-38	3	AG-52	N-15°-W	方形か	1.50	3.50	0.30	無	無	有	無	有	無	有	SI-25より古
SI-39	3	AG-52	N-4°-W	方形か	2.50	1.60	0.26	無	無	無	無	無	無	有	SI-25より古 SI-40より新
SI-40	3	AG-52	不明	方形か	1.00	0.60	0.36	無	無	無	無	無	無	無	SI-25・39より古
SI-42	1	AB-45-46	N-0°	方形か	1.50	1.70	0.46	無	無	無	無	無	無	有	SK-37より新

L区 SI-1 (第260図、第154表、図版七八)

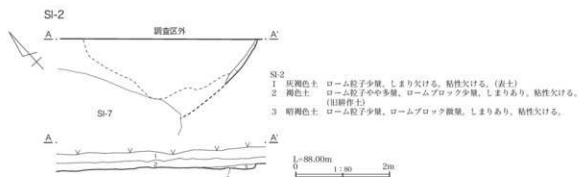
位置 4区南東隅にあたるAQ-61グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であり、方形を基調とした竪穴建物の南西隅部分とみられる。東西0.8m以上、南北1.5m以上、壁は遺存状況の良い部分で14cmほどである。**主軸方向** N-20°-W **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む明褐色土が堆積しており、人為的な埋戻しとみられる。**床面** 確認できた範囲では貼床等は確認されず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



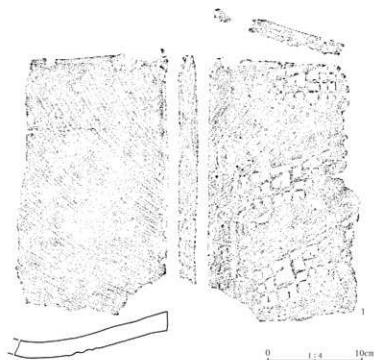
第260図 L区 SI-1 遺構実測図

L区 SI-2 (第261図、第154-155表、図版七八・一三八)

位置 4区中央部にあたるAP-60グリッドに位置する。**重複関係** SI-7と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が調査区外に延びており、また重複によって遺存状態も良くない。方形を基調とした竪穴建物の北壁の一部と西壁周辺部分とみられるが、西壁は失われており床面の硬化範囲で大きなラインを推定した。東西1.3m以上、南北3.0m以上で、壁は遺存状況の良い部分で13cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 大半は失われているが、しまりのある暗褐色土が床面の一部を覆っていた。**床面** 確認された範囲では貼床等は確認されず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等・カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 図示した瓦1点が出土している。**時期** 瓦の時期は9世紀第1四半期。



- SI-2
- 1 明褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(表土)
 - 2 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまりあり。粘性欠ける。(旧耕作土)
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量、しまりあり。粘性欠ける。



第261図 L区 SI-2 遺構・出土遺物実測図

第155表 L区 SI-2 出土遺物観察表

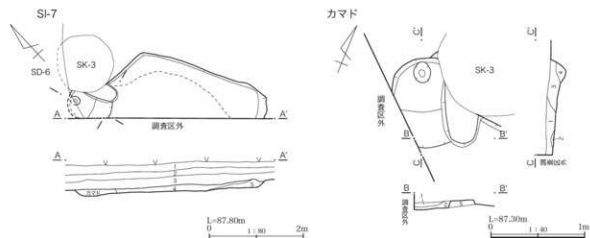
種別 No.	No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石屑 構成	断面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
201	1	瓦瓦	厚 2.0 重 1196.4	外面 7.5YR5/3 にぶい橙 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒・塵少量 やや 不混		凸面 格子タタキ・糸切り痕 凹面 布目痕・糸切り痕 側面 ナデ 底面 ナデ	1/4 残存	覆土中	L区 SI-2	

L区 SI-7 (第262図、第154-156表、図版七九)

位置 4区中央部にあたる AP-60 グリッドに位置する。重複関係 SI-2より新しく、SD-6・SK-3より古い。

平面形状・規模 方形を基調とした竪穴建物の東側半分とみられる。東西 1.4 m以上、南北 3.1 m、壁は遺存状況の良い部分で 16 cmほどである。主軸方向 N・25° - W 覆土 地山由来とみられるローム粒子・ロームブロックを多く含む暗褐色土および明褐色土が堆積している。このうち暗褐色土は人為的な埋め戻し、明褐色土は壁の崩落土の可能性が考えられる。床面 確認できた範囲では貼床等は確認されず、地山であるローム層を床面としている。やや凹凸がみられる。柱穴等 確認されなかった。カマド 北壁に位置しているとみられる。

ローム粒子を多量に含む褐色土で構築した袖の一部と燃焼部を確認した。袖は確認できた範囲で幅 35 cm、長さ 30 cm 以上、高さ 5 cm ほどである。燃焼部および袖の内側に明瞭な焼土化範囲は確認できず、覆土中に焼土粒子がやや多く含まれる程度である。出土遺物 須恵器環1点、皿1点を図示した。このほか土師器環5点 8.42 g、甕45点 459.27 g、須恵器環2点 8.58 g、甕3点 26.83 g が出土している。時期 9世紀後葉。



- SI-7
 1 灰褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(表土)
 2 褐色土 ローム粒子やや多量。ロームブロック少量、しまりあり。粘性欠ける。(表土)
 3 暗褐色土 ローム粒子やや多量、しまり欠ける。粘性欠ける。
 4 暗褐色土 ローム粒子3層より多い。焼土粒子微量、しまりややあり。粘性欠ける。
 5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり欠ける。粘性欠ける。

- SI-7 カマド
 1 褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰入土)
 2 暗赤褐色土 焼土粒子多量。ローム粒子少量、しまりやや欠ける。粘性欠ける。(灰入土)
 3 明褐色土 ローム粒子・焼土粒子やや多量、しまり欠ける。粘性欠ける。(灰入土)
 4 暗赤褐色土 焼土粒子微量、しまり欠ける。粘性欠ける。
 5 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりやや欠ける。粘性欠ける。(袖)



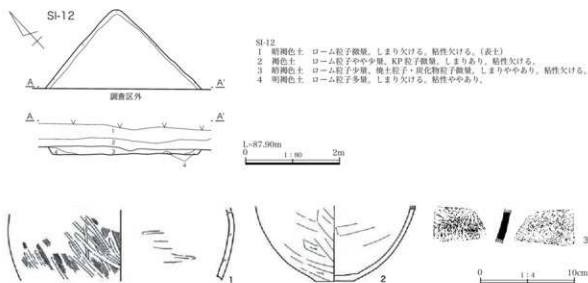
第262図 L区 SI-7 遺構・出土遺物実測図

第156表 L区 SI-7 出土遺物観察表

種別 No.	種類 図柄	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	器形・器形の特徵	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
262 1	須恵器 環	口径 - 底径 - 高さ [1.1]	2.5Y5/1 黄灰	伊粘質土	良好		底部ヘラケズリ	底部一部 残存	覆土中	L区 SI-7	産地不詳
262 2	須恵器 皿	口径 - 底径 (4.8) 高さ [1.8]	外周 2.5Y6/2 内周 灰黄 内面 灰3/ 暗灰	砂粒・黒色粒 子若干	良好		底部ヘラ切り後ナデ	体部下平 ~底部一 部残存	覆土中	L区 SI-7	産地不明

L区 SI-12 (第263図、第154-157表、図版七九・一三八)

位置 3区中央部にあたる AK-55 グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 大部分が調査区外に延びているが、方形を基調とみられる竪穴建物の北東隅部分とみられる。東西 2.2 m 以上、南北 2.4 m 以上、壁は遺存状況の良い部分で 17 cm ほどである。主軸方向 N-0° 覆土 大部分はややしまりのある暗褐色土で覆われ、部分的に地山由来とみられる明褐色土が堆積している。床面 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。柱穴等・カマド 確認されていない。出土遺物 土師器甕1点、甕1点、須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器環1点 2.87 g、甕3点 8.05 g が出土している。時期 5世紀代か。



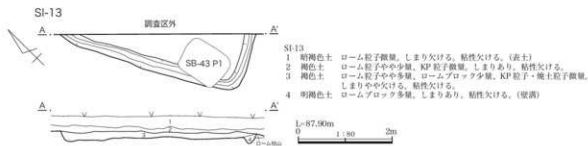
第263図 L区 SI-12 遺構・出土土物実測図

第157表 L区 SI-12 出土土物観察表

探尺 No.	No.	地層 名称	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	断面の状態	形状・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
263	1	土師器 壺	口径・ 底径・ 距離 (7.2)	外面 10YR4/3 に濃い黄褐色 内面 7.5YR4/2 灰褐色 (23.8)		良好	内面 焼成完全 けあばた状	外面 ハケ目後ミガキ 内面 ミガキ	胴部一部 残存	覆土中	L区 SI-12	
263	2	土師器 壺	口径・ 底径・ 距離 (8.0)	外面 7.5YR5/4 に少し暗 内面 7.5YR4/4 褐色	砂粒・塵少量	良好		外面 ケズリ・ナデ 内面 ヘソナデ	底部残存	覆土中	L区 SI-12	
263	3	須恵器 壺	口径・ 底径・ 距離 (3.6)	外面 5Y5/1 灰 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒少量	良好	自然焼付着	胴部外面 平行タタキ 胴部内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆土中	L区 SI-12	産地不明

L区 SI-13 (第264図、第154表、図版七九)

位置 3区中央部にあたるAJ・AK-55グリッドに位置する。**重複関係** SB-43と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の南西隅部分とみられる。東西1.2m以上、南北4m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** 地山由来のローム粒子・鹿沼軽石を含む褐色土と、ロームブロックを多量に含む明褐色土(壁溝)が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また壁に沿って幅25cm、深さ10cmの壁溝が巡っている。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土土物** 図示できる遺物はないが、土師器壺1点4.38g、須恵器壺1点14.92gが出土している。**時期** 不明。



第264図 L区 SI-13 遺構実測図

L区 SI-15 (第265図、第154・158表、図版七九)

位置 3区中央部にあたるAJ-54・55グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 大部分が調査区外に延びているが方形を基調とした竪穴建物の南西～南部付近とみられる。東西0.8m以上、南北2.6m以上、壁は遺存状況の良い部分で17cmである。**軸方向** N-20°-E **覆土** 焼土粒子や炭化物をわずかに含む褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等** 南西隅に1基存在する。南北方向に長い楕円形で長軸55cm、短軸40cm、深さ25cmである。**カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 土師器類1点を図示した。このほかに土師器類10点206.2gが出土している。**時期** 6～7世紀。



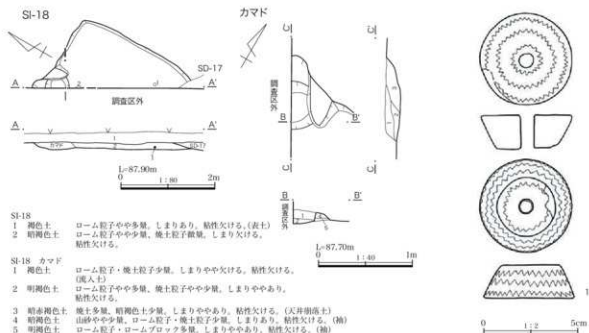
第265図 L区 SI-15 遺構・出土遺物実測図

第158表 L区 SI-15 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
265	1	土師器 壺か	口径 底径 器高 {62}	外面 10YR4/2 灰黄緑 内面 5YR5/6 明赤褐色	伊粘成壤、赤 色粒子若干	良好		外面 ケズリ後ミガキ 内面 ナデ	胴部一部 残存	覆土中 L区 SI-15		

L区 SI-18 (第266図、第154・159表、図版七九・一三八)

位置 3区中央部寄りにあたるAH-53、AI-53・54グリッドに位置する。**重複関係** SD-17と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の北壁および東壁と



第266図 L区 SI-18 遺構・出土遺物実測図

みられる。東西1.5m以上、南北2.6m以上、壁は遺存状況の良い部分で10cmほどである。 **主軸方向** N-O

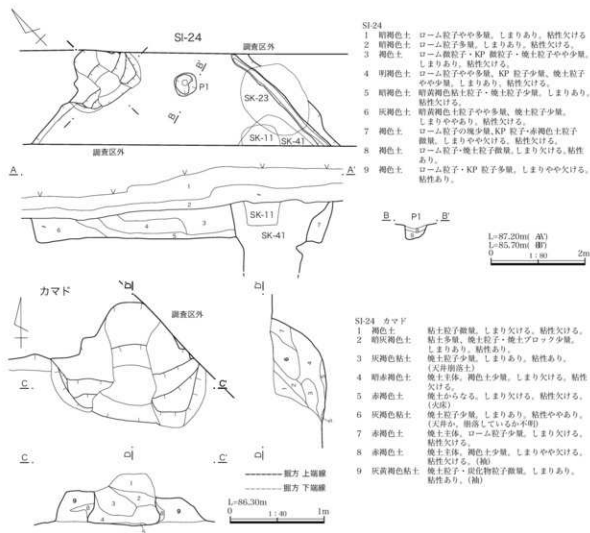
* **覆土** ローム粒子や焼土粒子をわずかに含む暗褐色土が堆積している。 **床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。 **柱穴等** 確認されなかった。 **カマド** 北壁中央で地山が袖状に掘り残されている部分がある。 **出土遺物** 図示した紡錘車1点が出土している。全面に鋸歯文が刻まれている。 **時期** 不明。

第159表 L区 SI-18 出土遺物観察表

図号	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
266	1	石製 紡錘車	径 4.8 厚 1.8 孔径 0.8 重 52.68		灰岩		鋸歯文		完形	床下の 5cm	L区 SI-18 No.1	

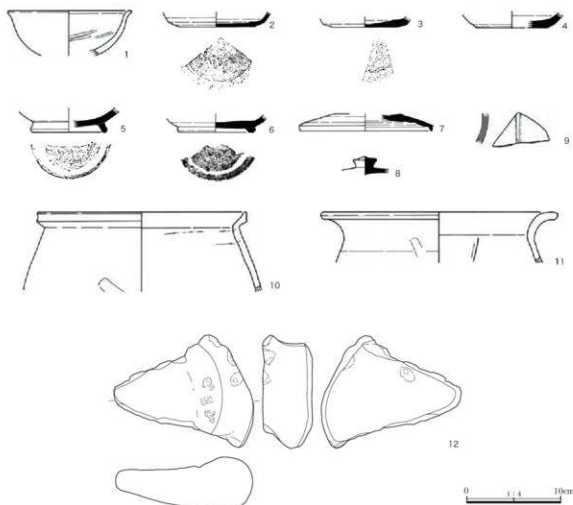
L区 SI-24 (第267-268図、第154-160表、図版七九・一三八)

位置 3区南東部にあたるAM-57・58グリッドに位置する。 **重複関係** SK-11・23・41と重複しており、本遺構が古い。SK-23は浅いため、壁溝は壊されずに確認された。 **平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の北および東壁の一部とみられる。東西4m以上、南北4.5m以上、壁は遺存状況の



第267図 L区 SI-24 遺構実測図

良い部分で47cmである。 **主軸方向** N-0° **覆土** 焼土粒子や、粘土・黄褐色土ブロックを含む土が堆積している。堆積状況から自然堆積土とみられる。 **床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また東壁に沿って幅20cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。 **柱穴等** 1基確認した。南北方向にわずかに長い楕円形で、南北50cm、東西47cm、深さ54cmである。 **カマド** 北壁中央に位置している。灰黄褐色粘土を積んで構築した袖と、燃焼部や煙道の一部が遺存していた。袖は幅55cm、竪穴壁からの長さ82cm、高さ32cm、両袖間の幅60cmである。左右の袖の間には崩落しているが天井構築材に用いられたとみられる灰褐色粘土が確認された。燃焼部および袖の内側は良く焼けており、赤褐色に焼土化している。煙道部分は燃焼部から竪穴外に向かって短く急斜度で立ち上がっている。煙道の掘方は凸字形を呈する。 **出土遺物** 土師器環1点、甕2点、須恵器環3点、高台付環2点、蓋2点、陶器1点、石1点が出土している。2・3には「一」の刻書が確認された。5は内面が摩耗し、転用硯として再利用された可能性が指摘できる。9は灰釉陶器の可能性が高い。10の甕は内面に炭化物が付着する。12はカマド構築材として再利用されたと推測される。このほかに土師器環54点433.78g、鉢1点15.3g、高台付環183.63g、甕189点2425.64g、須恵器環60点370.76g、蓋1点3.53g、皿1点7.2g、甕10点193.46gが出土している。 **時期** 9世紀前葉。



第268図 L区 SI-24 出土遺物実測図

第160表 L区 SI-24 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 詳細	寸法 (cm・g)	色調	粘土・石質	作成	器面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
268	1	土師器 環	口径 (13.0) 底径 - 器高 [4.8]	外面 10YR7/3 にぶい黄褐色 内面 10YR0/4 にぶい黄褐色	砂粘少量	良好	外面 荒れている	口縁部 ロココナデ 体部外面 ナデ 内面 ミガキカ	口縁部 1/5 残存	覆土中	L区 SI-24	
268	2	須恵器 環	口径 - 底径 (8.4) 器高 [1.6]	外面 N4/0 内面 5Y4/1 灰	砂粘少量	良好	割傷あり「一」	底面 ヘラケズリ	底面 1/4 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	産地不明
268	3	須恵器 環	口径 - 底径 (6.8) 器高 [1.1]	外面 10Y4/1 灰 内面 5Y4/1 灰	砂粘微量	良好	割傷あり「一」	底面内面 ロココ目顕著	底面 1/8 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	菓子産
268	4	須恵器 環	口径 - 底径 (7.7) 器高 [1.6]	外面 7.5Y4/1 灰 内面 5Y4/1 灰	砂粘少量、礫 若干	良好			底面 1/3 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	菓子産
268	5	須恵器 高台付環	口径 - 底径 (7.8) 器高 [2.6]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 10YR6/2 灰黄褐色	砂粘微量	良好	内面 厚粒 瓦輪跡くぼむ	高台付付	底面 1/4 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	輪径差 転用疑か
268	6	須恵器 高台付環	口径 (8.0) 底径 - 器高 [1.9]	内外面 2.5Y6/2 灰黄褐色	砂粘少量	良好		底面ヘラケズリ 高台付付	底面 1/4 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	産地不明
268	7	須恵器 蓋	口径 (13.8) 底径 - 器高 [1.9]	外面 7.5Y5/1 灰 内面 2.5Y5/1 灰	砂粘微量	良好		天井部 回転ヘラケズリ	天井～端 1/4 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	産地不明
268	8	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [1.8]	5Y4/1 灰	砂粘少量	良好			つまみ完 存	覆土中	L区 SI-24 一括	菓子産
268	9	陶器 壺	口径 - 底径 - 器高 [3.1]	外面 2.5Y5/3 黄褐色 内面 10YR6/2 灰黄褐色	黒色粘土微量	良好	瓦輪厚くハケ建 り		胴部一部 残存	覆土中	L区 SI-24	産地不明
268	10	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 [8.4]	外面 10YR5/4 にぶい黄褐色 内面 10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粘微量	良好	内面 炭化物付着	口縁部 ロココナデ 胴部内面 ナデ	口縁部 1/12 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	
268	11	土師器 甕	口径 (24.6) 底径 - 器高 [5.4]	5YR4/6 赤褐色	砂粘・礫多量	良好		口縁部 ロココナデ 胴部 ナデ	口縁部 1/5 残存	覆土中	L区 SI-24 一括	
268	12	カマド 構築材か	長 12.0 幅 14.9 厚 5.2 重 786.42		安山岩	焼熟か			一部残存	覆土中	L区 SI-24	石田転用

L区 SI-25 (第269図、第154-161表、図版八〇・一三八)

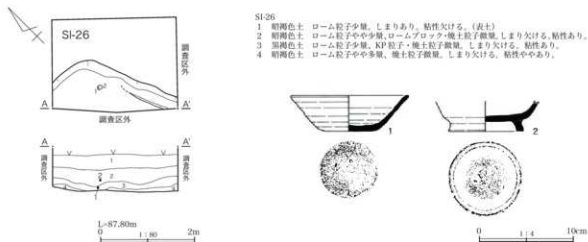
位置 3区北西隅にあたる、AG-52グリッドに位置する。**重複関係** SI-38・39と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 大部分が調査区外に延びているが、方形を基調とした竪穴建物の西側部分とみられる。東西1.7m以上、南北3.3m、壁は遺存状況の良い部分で40cmほどである。**主軸方向** N-30°-W **覆土** ローム粒子をわずかに含む暗褐色土が大部分を覆い、床面上に薄く褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。やや不明瞭だが壁際には壁溝が巡っている可能性がある。**柱穴等・カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 須恵器環3点、長頸瓶1点、壺2点、捏ね鉢2点、甕1点を図示した。1は「二」の刻書がみられる。5と6は同一個体の可能性が高い。このほかに土師器環4点25.8g、甕28点698.67g、須恵器環15点146.98g、鉢1点29.4g、壺1点81g、甕15点391.1gが出土している。**時期** 8世紀後葉。

第161表 L区 SI-25 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 説明	計測部 (cm・g)	色調	粘土・石膏量	構成	断面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	産地・備考
260	1	須恵器 環	口径 14.4 底径 10.2 高さ 4.5	2.5Y5/2 明黄	砂粒・少量	良好	割溝あり「二」	底部ヘラ切り後ナデ	口縁部一部欠損	床 1.5約 20 cm	L区 SI-25 No.1	菓子産
260	2	須恵器 環	口径 12.7 底径 6.4 高さ 4.1	外面 7.5Y5/1 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、微	良好		口縁目割溝 外部下縁 回転ヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	口縁一部 3.4 欠 損、底部 欠損	床 1.5約 20 cm	L区 SI-25 No.6	菓子産
260	3	須恵器 環	口径 (14.8) 底径 - 高さ [3.7]	外面 2.5Y5/1 内面 2.5Y5/2 黄灰	砂粒少量	良好		口縁下縁 回転ヘラケズリ	覆土中 一部欠損	覆土中	L区 SI-25 一括	産地不明
260	4	須恵器 長頸瓶か	口径 - 底径 - 高さ [4.8]	外面 5Y4/1 内面 7.5Y5/1 灰	砂粒少量	良好			頸部 1/4 欠損	覆土中	L区 SI-25 一括	産地不明
260	5	須恵器 壺	口径 - 底径 - 高さ [6.4]	外面 2.5Y6/2 内面 5Y5/1 灰	砂粒微量	良好	外面 自然軸付着		頸部一部 欠損	覆土中	L区 SI-25 一括	菓子産か 同一層 体か
260	6	須恵器 壺	口径 - 底径 - 高さ [10.8]	外面 2.5Y6/2 内面 5Y5/1 灰	砂粒微量、黒 色粘土若干	良好		底部付近外面ヘラケズ リ	頸部一部 欠損	床 1.5約 5 cm	L区 SI-25 No.5	菓子産 5と同一 層体か
260	7	須恵器 椀ね鉢か	口径 (15.4) 底径 - 高さ [7.5]	5Y6/1 灰	砂粒微量	良好			口縁一部 1/8 欠 損	床面直 上	L区 SI-25 No.4	菓子産か
260	8	須恵器 椀ね鉢	口径 10.2? 底径 - 高さ [10.0]	外面 7.5Y7/1 内面 5Y6/2 灰オリーブ	砂粒多量	良好	内面 自然軸付着	底部 手持ちナデ	体一底部 欠損	床面直 上	L区 SI-25 No.4	菓子産
260	9	須恵器 壺	口径 - 底径 - 高さ [11.0]	外面 5Y4/1 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・黒色粒 子微量	良好		頸部外面 磨粉子状平行 タタキ 頸部内面 無文当具痕	頸部一部 欠損	床面直 上	L区 SI-25 No.3-4	菓子産

L区 SI-26 (第270図、第154-162表、図版八〇)

位置 2区のAF-51グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の北東隅部分とみられる。東西0.6m以上、南北1.2m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。主軸方向 N-20°-W 覆土 ローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積している。床面上に堆積する4層は他の層に比べてローム粒子の含有量がやや多い。床面 確認された範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また西壁の一部では幅35cm、深さ5cm未満の浅い壁溝が認められる。柱穴等・カマド 確認されなかった。出土遺物 図示した須恵器環1点、高台付環1点が出土している。時期 9世紀中葉。



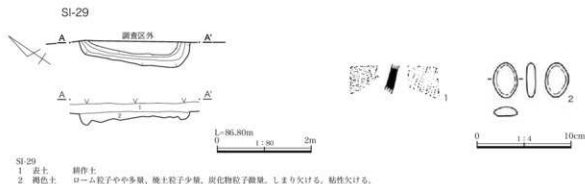
第270図 L区 SI-26 遺構・出土遺物実測図

第162表 L区 SI-26 出土遺物観察表

種別 No.	種類 図種	計測値 (m・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
270	1	須恵器 環	口径 (12.4) 底径 6.0 断面高 (3.8)	5Y4/1 灰	砂粒・礫少量	良好	ロクロ目圓裏 底部 ヘタ切り残ナデ	底部完存	床上約 6 cm	L区 SI-26 No.2	磁子産
270	2	須恵器 高台付存	口径 - 底径 7.8 断面高 (3.2)	外面 7.5YR4/2 灰黒 内面 7.5YR4/3 黒	砂粒多量、礫 少量	良好	ロクロ目圓裏 底部 ヘタケズリ 高台付存	底部完存	床上約 20 cm	L区 SI-26 No.1	磁子産

L区 SI-29 (第271図、第154・163表、図版八〇・一三八)

位置 1区南東部にあたる AE-49・50 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の西壁とみられる。東西 0.5 m 以上、南北 2.3 m 以上、壁は遺存状況の良い部分で 20 cm ほどである。**主軸方向** N-25°-W **覆土** 地山由来のローム粒子を多量に含む褐色土が堆積していた。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。床面は凹凸が著しく、北側に向かってわずかに傾斜している。また壁に沿って幅 25 cm、深さ 10 cm ほどの壁溝が巡っている。**柱穴等・カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 須恵器甕 1 点、石 1 点を図示した。このほかに土師器甕 5 点 18.96 g、須恵器環 1 点 2.25 g が出土している。**時期** 不明。



第271図 L区 SI-29 遺構・出土遺物実測図

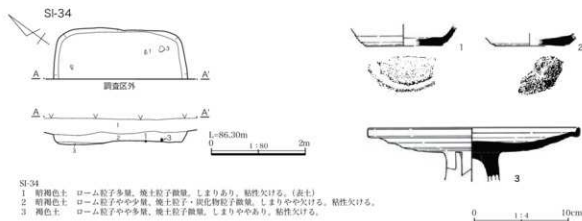
第163表 L区 SI-29 出土遺物観察表

種別 No.	種類 図種	計測値 (m・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
271	1	須恵器 甕	口径 - 底径 2.5 断面高 (3.0)	外面 7.5YR8/1 灰白 内面 10Y4/1 灰	砂粒微量	良好	外面 平行タテキ 内面 同心円内当具痕	一部残存	覆土中	L区 SI-29	産地不明
271	2	石 (用途不明)	長 3.7 幅 2.5 厚 0.9 重 12.23		良好	黒色で表面滑らか		完形	覆土中	L区 SI-29	

L区 SI-34 (第272図、第154・164表、図版八〇・一三八)

位置 1区中央部にあたる AC-47 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の東側を確認した。東西 1.1 m 以上、南北 2.8 m、壁は遺存状況の良い部分で 20 cm ほどである。**主軸方向** N-35°-W **覆土** 竪穴の大部分がローム粒子を含む褐色土に覆われ、床面の一部に暗褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。床面は平坦だが南側がわずかに低くなっている。**柱穴等・カマド** 確認されなかった。出

土遺物 須恵器環2点、高環1点を図示した。2は底面に「一」が刻書される。3の高環の透かし穴は3孔である。このほかに土師器環4点 13.4 g、甕21点 161.3 g、須恵器環6点 19.06g、高台付環1点 13.19 g、甕3点 60.53 g、甕4点 62.43 gが出土している。 **時期** 8世紀後葉。



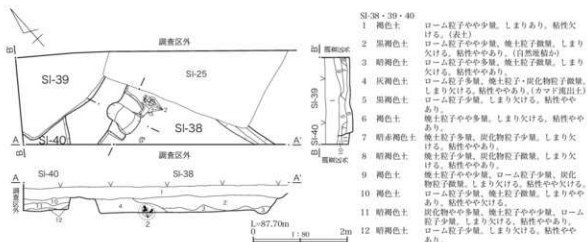
第272図 L区SI-34遺構・出土遺物実測図

第164表 L区SI-34出土遺物観察表

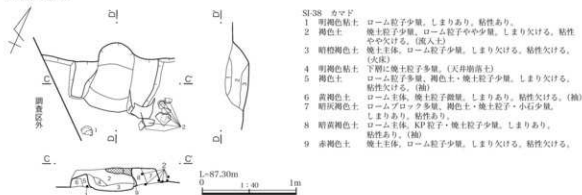
図面No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	粘土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
272	1	須恵器 環	口径 - 底径 (8.2) 器高 [2.1]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒微量	良好		ロクロ口圓蓋 底部 ナデカ	底部 1/5 残存	灰面直上	L区 SI-34 No.2	磁子産
272	2	須恵器 環	口径 - 底径 (7.4) 器高 [1.2]	2.5Y6/2 灰黄	砂粒微量	良好	刻書あり「一」		底部 1/5 残存	覆土中	L区 SI-34	磁子産
272	3	須恵器 高環	口径 (22.2) 底径 - 器高 [5.5]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒多量、黄・黒色 粘土少量	良好		ロクロ口圓蓋 透かし3孔	口縁部 1/2 残存	灰面直上 上~3 cm	L区 SI-34 No.1	磁子産

L区SI-38 (第273図、第154-165表、図版八〇・八一・一三八)

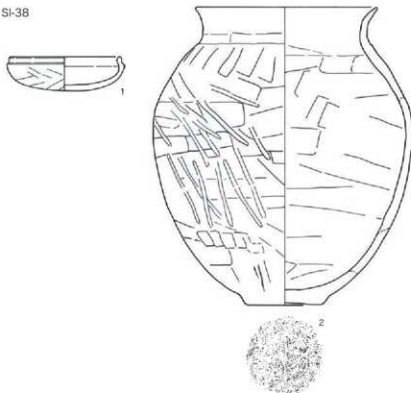
位置 3区北西隅にあたるAG-52グリッドに位置する。 **重複関係** SI-25と重複しており、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 大部分が調査区外または重複によって判然としないが、方形を基調とした竪穴建物跡の北壁および東壁の一部とみられる。東西1.5m以上、南北3.5m以上、壁は遺存状況の良い部分で30cmほどである。 **主軸方向** N-15°-W **覆土** 黒褐色土、暗褐色土、カマドからの流出土とみられる灰褐色土の3層が堆積している。 **床面** 確認された範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。床面は平坦となっている。また東壁に沿って幅25cm、深さ5cm未満の壁溝が巡っている。 **柱穴等** 確認された範囲では確認されなかった。 **カマド** 北壁中央に位置している。黄褐色ローム土を積み構築した袖とそれに挟まれた燃焼部を確認した。袖は幅30cm、竪穴壁からの長さ60cm、高さ20cm。両袖間の幅45cmとなっている。右袖の先端上部には半分に割られた土師器甕が置かれており、焚口構築材の可能性も考えられる。火床面および袖の内側にはわずかに焼土化した範囲が認められるが、全体的にあまり焼けていない。天井の構築材で使われていた粘土の塊がセクション上で確認されている。 **出土遺物** カマドおよびその周辺から土師器の甕・環類が出土している。土師器環1点、甕1点を図示した。2の底部には木葉痕がみられる。調査時、SI-25として取り上げられたものと接合する。このほかに土師器高台付環1点 1.84 g、甕18点 209.3 gが出土している。 **時期** 7世紀中葉。



SI-38 カマド



SI-38



SI-39



第273図 L区SI-38・39・40遺構・出土遺物実測図

L区 SI-39・40 (第273図、第154-165表、図版八一)

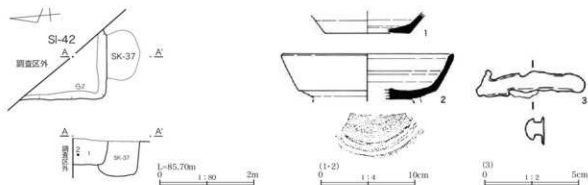
位置 3区北西隅にあたるAG-52グリッドに位置する。**重複関係** SI-25・39・40が重複しており、古い方からSI-40→SI-39→SI-25の順に構築されたと考えられる。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、いずれも方形を基調とした竪穴建物の南壁の一部とみられる。SI-39は東西2.5m以上、南北1.6m以上、深さ0.26m、SI-40は東西1m以上、南北0.6m以上、深さ0.36mほどである。**主軸方向** SI-39はN-4°・W、SI-40は不明。**覆土** SI-39の6・7層には多量の焼土粒子が含まれている。**床面** いずれも確認できた範囲では貼床等は認められず、地土であるローム層を床面としている。**柱穴等・カマド** いずれも確認できた範囲では確認されなかった。**出土遺物** SI-39の須恵器高台付環1点を図示した。このほかに土師器甕6点89.14g、須恵器杯3点28.05g、蓋1点3.28gが出土している。**時期** SI-39は9世紀代、SI-40はSI-39以前である。

第165表 L区 SI-38・39 出土遺物観察表

探検 No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器底の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
273	1	土師器 杯	口径 11.6 底径 - 器高 3.6	7.5YR4/2 灰黒	砂粒少量、礫・ 白雲母微量	良好	口縁部外面へ 内面 ほぼ上	口縁部 ココナデ 体部 外周ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 2/3 残存	覆土中 b	L区 SI-38	
273	2	土師器 甕	口径 (19.2) 底径 8.0 器高 31.5	5YR6/6 橙	砂粒・礫少量	良好	口縁部 ほぼ 体部 外周ナデ・ケズリ 内面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 底面 木葉痕	口縁部 ココナデ 脚部 外周ヘラミガキ・ケズリ 内面ヘラミガキ 内面ヘラミガキ 底面 木葉痕	口縁部 部3/4、 脚部約 2/3 残存、 底面 完存	床面直 上	L区 SI-38 No.1・5・7・8・ 9・10・方マド・ 方マド L区 SI-25 No.3・4・11・ 一括	
273	3	須恵器 高台付環	口径 - 底径 8.6 器高 [2.3]	外面 5Y5/1 内面 2.5Y4/1 黄土	砂粒多量	良好	底面 高台貼付	底面ヘラミガキ 高台貼付	底面へ高 台付存	覆土中	L区 SI-39	様子産

L区 SI-42 (第274図、第154-166表、図版八一・一三八・一五〇)

位置 1区北西隅にあたるAB-45・46グリッドに位置する。**重複関係** SK-37と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 大部分が調査区外であるが、方形を基調とした竪穴建物の南西隅部分とみられる。東西1.5m以上、南北1.7m以上、壁は遺存状況の良い部分で46cmほどである。**主軸方向** N-0° **覆土** しまりのない暗褐色土が堆積していた。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められなかった。**柱穴等・カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 須恵器杯1点、高台付環1点、銅製品1点を図示した。このほかに、土師器甕1点94.98g、須恵器杯5点50.94g、蓋1点21.72gが出土している。**時期** 不明。



1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。

第274図 L区 SI-42 遺構・出土遺物実測図

第166表 L区SI-42出土遺物観察表

序次 No.	No.	種類 図様	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	構成	器面の状態	器形・器形の精微	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
274	1	須恵器 杯	口径 (8.9) 底径 (2.2)	75YR5/4 に赤・黒	砂粘質	やや 不良			底部1/4 残存	覆土中 一括	L区SI-42 一括	菓子産
274	2	須恵器 高台付杯	口径 (17.9) 底径 (11.2) 器高 (4.3)	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 10YR5/2 黄灰褐	砂粘・礫少量、 黒色粒子微量	良好	スス付着	ロクロ目顯著 高台残付	口縁部 1/8、底部 1/4残存	床土約 20cm	L区SI-42 No.1	菓子産
274	3	調査品 不明	長 [5.74] 幅 1.40 厚 0.92 重 17.20						一部残存 か	覆土中	L区SI-42 一括	

2 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡2棟の一部が確認されている。

第167表 L区掘立柱建物跡計測表

遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	ピット	断面形	出土 遺物	重複関係
SB-9	SB-9	4	AD-60	N-31°-E	不明	不明	不明	0.18	1	逆台形	有	SK-8より新
SB-43	SB-38	3	AJ・AK-55	N-5°-W	不明	不明	不明	0.24～0.4	3	逆台形	無	SI-13より新

L区SB-9(第275図、第167表)

位置 4区北西部にあたるAO-60グリッドに位置する。**重複関係** SK-8と重複しており、本遺構が新しい。

確認状況 柱痕跡をもつ大型の柱穴1基を調査区際で確認したことから掘立柱建物跡の一部と認識した。

平面形状・規模 柱穴1基のため、建物の形状や規模は不明である。**主軸方向** N-31°-E **柱穴** 南側半分が調査区外であるが南北方向に長い楕円長方形とみられる。長軸60cm以上、短軸80cm、深さ18cmである。柱痕跡は柱穴中央に位置し、直径35cmの円形である。**覆土** 柱痕跡である暗褐色土と、掘方埋土であるローム粒子を多く含む褐色土が堆積している。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器杯12点19g、甕12点376.45g、須恵器杯8点28.23g、壺1点30.25g、甕2点40.2gが出土している。**時期** 不明。

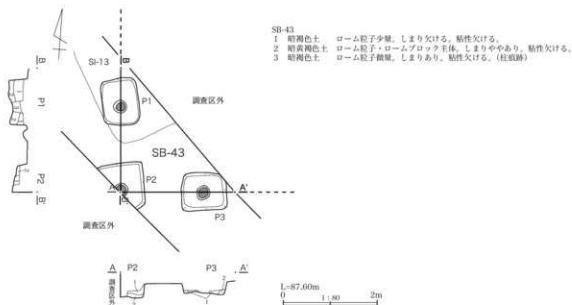


第275図 L区SB-9遺構実測図

L区SB-43(第276図、第167表、図版ハ一)

位置 3区中央部にあたるAJ・AK-55グリッドに位置する。**重複関係** SI-13と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 掘立柱建物の南東隅部分を確認した。確認できた柱穴は3基である。建物の規模は東西2.6m以上、南北2.8m以上である。**主軸方向** N-5°-E **柱穴** 3基の柱穴はいずれも長方形であり、長軸で95～100cm、短軸で75～80cm、深さ20～45cmである。また全ての柱穴中央において直径25cmほどの円形の柱痕跡を確認している。**覆土** 柱痕跡と柱穴掘方埋土で構成される。**出土遺物** 出土していない。

時期 不明。



第276図 L区SB-43遺構実測図

3 溝

台地上に4条の溝が確認されている。長さはトレンチの幅分である。SD-6・10は北東-南西に、SD-17・19は東西に延びる。

第168表 L区溝計測表

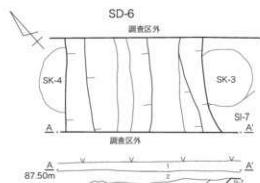
遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SD-6	4	AP-60	N-40° - E	直線状	12.00	3.40	0.80	U字状	無	SK-3・4より古
SD-10	3	AK・AL-56	N-85° - W	直線状	14.20	2.60	0.44	U字状	有	
SD-17	3	AI-AJ-54	N-40° - W	直線状	16.00	1.85	0.80	U字状	有	SI-18より新
SD-19	3	AM-58	N-30° - E	直線状	12.00	1.30	1.00	逆台形	無	SK-20より古

L区SD-6(第277図、第168表、図版八一)

位置 4区中央部にあたるAP-60グリッドに位置する。**重複関係** SK-3・4と重複しており、本遺構が古い。
平面形状・規模 北東-南西方向に直線的に延びているとみられる。長さは2.0m以上、幅は断面部分で3.4mである。**主軸方向** N-40° - E **覆土** 上層と下層で大別される。上層には褐色土が堆積しており、ローム粒子の混入量に大きな違いがある。下層は暗褐色土が堆積しており、全体的にロームの混入は少ない。**底面** 最も深い南側では鹿沼軽石層中に作られており、底面は丸みをおび断面形はU字状となっている。北側の壁は途中から非常に緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

L区SD-10(第277-278図、第168-169表、図版八一)

位置 3区中央部やや南寄りにあたるAK・AL-56グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北西-南東方向に直線的に延びているとみられる。長さは4.2m以上、幅は最大で2.6mである。断面の観察および底面の状況から少なくとも2度の掘り返しがあったものとみられる。**主軸方向** N-85° - W **覆土** 2・



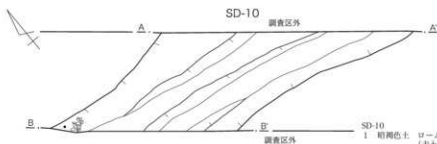
SD-6

- 1 灰褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。(表土)
- 2 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまりあり。粘性欠ける。(表土)
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり。粘性欠ける。
- 4 褐色土 ローム粒子多量、しまりあり。粘性やや欠ける。
- 5 褐色土 ローム粒子普通(3層と4層の中間)、しまりあり。硬い。粘性欠ける。
- 6 暗褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性欠ける。
- 7 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。粘性欠ける。
- 8 暗褐色土 ローム粒子少量(7層よりやや多い)、しまりあり。粘性欠ける。
- 9 暗褐色土 ローム粒子微量、しまりあり。硬い。粘性欠ける。(自然堆積か)



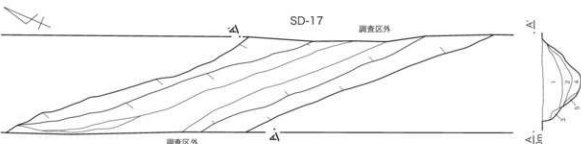
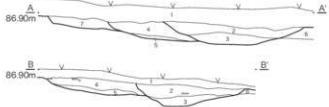
SD-19

- 1 暗褐色土 ローム粒子やや多量、しまりあり。粘性欠ける。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量、しまりあり。粘性欠ける。
- 3 暗褐色土 ローム粒子やや少量、KP粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。硬い。粘性欠ける。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・KP粒子少量、しまりやや欠ける。粘性あり。
- 5 褐色土 KP粒子やや多量、しまり欠ける。粘性あり。



SD-10

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、しまり欠ける。粘性欠ける。(表土)
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化物粒子微量、しまりややあり。粘性欠ける。(新しい溝)
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量、KP粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。粘性欠ける。(新しい溝)
- 4 暗褐色土 ローム粒子やや少量、しまりややあり。粘性やや欠ける。(古い溝)
- 5 褐色土 ローム粒子やや多量、しまりやや欠ける。粘性やや欠ける。(古い溝)
- 6 暗褐色土 ローム粒子微量(1層より多い)、しまりやや欠ける。粘性あり。
- 7 褐色土 ローム粒子やや多量、しまりあり。粘性欠ける。(最も古い溝)



SD-17

- 1 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、白色粒子微量、しまりあり。粘性欠ける。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 3 明褐色土 ローム粒子多量、白色粒子微量、しまり欠ける。(壁崩落土)
- 4 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまり欠ける。粘性ややあり。
- 5 明褐色土 ローム粒子多量、KP粒子多量、しまり欠ける。粘性欠ける。(壁崩落土)

第277図 L区SD-6・10・17・19遺構実測図

台形状となる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

4 地下式坑

3区の台地の落ち際に入り込む低地へ向かう西向きに1基確認されている。

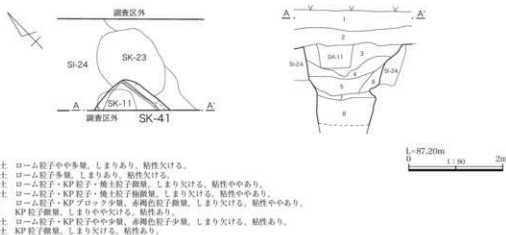
第170表 L区地下式坑計測表

遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SK-41	SZ-37	3	AM-58	N-0°	長方形か	0.84	0.80	1.00	逆台形か	無	SK-11・23より古 SZ-24より新

L区 SK-41 (第279図、第170表、図版八二)

位置 3区南東部にあたるAM-58グリッドに位置する。**重複関係** SK-11・23より古く、SI-24より新しい。

平面形状・規模 南西側の大部分が調査区外であるが、残存部で長軸84cm、短軸80cm、深さ100cmの方形を基調とした地下式坑の北東隅部分を確認した。**主軸方向** 主室N-0° **覆土** 3層から8層は埋め戻しの可能性が高い。**底面** 安全を考慮し、深さ2m以上より下部については掘り下げを断念した。ピンボールを刺した感触ではさらに40cmほど下に底面がある可能性が考えられる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 形状等から中近世か。



5 土坑

20基の土坑が、1・3・4区で確認されている。人為的な埋め戻しも多くみられる。

第171表 L区土坑計測表

遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土遺物	重複関係
SK-3	SK-3	4	AP-60	-	円形	1.25	1.25	0.46	箱形	有	SI-7, SD-6より新
SK-4	SK-4	4	AP-60	N-50°-E	楕円形	1.37	1.10	0.25	竪状	有	SD-6より新
SK-5	SK-5	4	AO-60	-	円形	[1.10]	1.20	0.44	箱形	有	
SK-8	SK-8	4	AO-59-60	不明	楕丸長方形か	[1.45]	1.48	0.21	逆台形	有	SB-9より古
SK-11	SK-11	3	AM-58	不明	楕丸長方形か	[0.80]	[0.45]	0.50	逆台形	無	SI-24, SK-23+4より新
SK-14	SK-14	3	AJ-55	不明	円形か	[0.85]	[0.34]	0.15	逆台形	有	
SK-16	SK-16	3	AJ-54	N-0°	楕丸長方形	[1.15]	0.78	0.65	U字状	無	
SK-20	SK-20	3	AM-58	N-45°-E	円形か	1.46	[0.50]	0.55	U字状	無	SD-19より新
SK-21	SK-21	3	AH-52	不明	円形か	[1.25]	[0.55]	0.15	逆台形	有	
SK-22	SK-22	3	AH-53	N-50°-E	楕円形	1.02	[0.80]	0.30	逆台形	無	
SK-23	SK-23	3	AM-57-58	N-0°	楕円形	1.70	1.25	0.22	竪状	無	SK-11より古 SI-24+SK-41より新
SK-27	SK-27	1	AF-50-51	N-0°	円形	1.10	1.02	0.20	竪状	有	
SK-28	SK-28	1	AE-50	不明	円形か	[1.02]	[0.25]	0.30	逆台形	無	
SK-30	SK-30	1	AD-49	-	円形	1.40	1.40	0.40	箱形	有	
SK-31	SK-31	1	AD-48	N-20°-W	方形	0.45	0.45	0.08	竪状	無	
SK-32	SK-32	1	AD-48	-	円形	0.45	0.45	0.10	竪状	無	
SK-33	SK-33	1	AD-48	不明	楕円形か	[0.40]	[0.40]	0.38	U字状	有	
SK-35	SK-35	1	AB-46	-	円形	1.10	1.02	0.90	逆台形	無	
SK-36	SK-36	1	AB-46	N-65°-E	楕円形	[0.52]	0.72	0.90	箱形	無	
SK-37	SK-37	1	AB-46	N-77°-W	楕円形	1.05	0.90	0.75	U字状	有	SI-42より古

L区 SK-3 (第280図、第171表)

位置 4区中央部にあたる AP-60 グリッドに位置する。 **重複関係** SI-7、SD-6と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 直径 125 cmの円形で、深さは 46 cmほどである。 **覆土** 灰褐色土と褐色土が堆積している。最上層の暗灰褐色土には地山由来のローム粒子・ロームブロックが多量に含まれており、人為的な埋め戻しとみられる。 **底面** 鹿沼軽石層中に作られており、平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕3点 7.4 g、須恵器杯1点 6.5 gが出土している。 **時期** 不明。

L区 SK-4 (第280図、第171表)

位置 4区中央部にあたる AP-60 グリッドに位置する。 **重複関係** SD-6と重複しており、本遺構が新しい。 **平面形状・規模** 北東-南西方向に長い楕円形で、長軸 137 cm、短軸 110 cm、深さは 25 cmほどである。 **主軸方向** N-50°-E **覆土** 褐色土と暗褐色土の2層を確認した。褐色土には地山由来のローム粒子・ロームブロックが多量に含まれており、人為的な埋め戻しとみられる。 **底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がっており、西壁の一部はやや傾いている。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器甕2点 15.1 g、須恵器杯2点 5 gが出土している。 **時期** 不明。

L区 SK-5 (第280図、第171表)

位置 4区中央部やや北寄りにあたる AO-60 グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 一部が調査区外であるが円形で、長軸 110 cm以上、短軸 120 cm、深さは 44 cmほどである。 **覆土** 暗褐色土が

堆積しており、上層はローム粒子・ロームブロックを多く含み、下層は少ない。人為的な埋め戻しとみられる。

底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がっており、南東の一部がやや挟れている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点 32.23 g、裏3点 28.71 g、須恵器環2点 5 g、裏2点 50.7 gが出土している。**時期** 不明。

L区 SK-8 (第280-282図、第171-172表)

位置 4区北西部にあたる AO-59-60 グリッドに位置する。**重複関係** SB-9と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 南西側が調査区外であるが、南北に長い隅丸長方形とみられる。長軸145 cm以上、短軸148 cm、深さ21 cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 地山由来とみられるローム粒子をやや多く含む明褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや凹凸が目立つ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示した須恵器環1点が出土している。**時期** 不明。

L区 SK-11 (第280図、第171表)

位置 3区南東部にあたる AM-58 グリッドに位置する。**重複関係** SI-24、SK-23・41と重複しており、本遺構が最も新しいとみられる。**平面形状・規模** 南西側が調査区外であるが、隅丸長方形の土坑とみられる。長軸80 cm、短軸45 cm以上、深さ50 cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 中～下層に堆積する褐色土層中には、焼土ブロックや粘土ブロック・灰などが含まれているが、底面や壁面には焼けた痕跡がみられないので、別の場所から持ち込まれたものと考えられる。**底面** 重複する地下式坑の覆土中に作られており、上層からみると、平坦となっている。壁は比較的急斜度で立ち上がるが、場所によっては緩やかな立ち上がりを示す部分がある。

出土遺物 出土していない。**時期** 不明。焼土遺構の可能性はある。

L区 SK-14 (第280図、第171表)

位置 3区中央部にあたる AJ-55 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側の大部分が調査区外であるが、円形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で長軸85 cm以上、短軸34 cm以上、深さ15 cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** ローム粒子がやや多く含まれ、しまりのある褐色土が堆積している。人為的な埋め戻しとみられる。**底面** ローム層中に作られており、底面は平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器裏1点 7.6 gが出土している。**時期** 不明。

L区 SK-16 (第280図、第171表、図版八二)

位置 3区中央部にあたる AJ-54 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南側の一部分が調査区外であるが、南北方向に長い隅丸長方形である。長軸115 cm以上、短軸78 cm、深さ65 cmである。**主軸方向** N-0°**覆土** 明褐色土・褐色土が堆積しており、地山由来のローム粒子・ロームブロックを多く含む層と少ない層が交互に堆積している。**底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

L区 SK-20 (第280図、第171表、図版八二)

位置 3区南東部にあたる AM-58 グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複しており、本遺構が新しい。

平面形状・規模 南西側が調査区外であるが、円形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で、長軸が

146 cm、短軸が50 cm以上、深さ55 cmである。 **主軸方向** N-45° - E **覆土** ローム粒子および鹿沼軽石粒子を少量含む暗褐色土および黒褐色土が堆積している。 **底面** ローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がっている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

L区 SK-21 (第281-282図、第171-172表、図版八二)

位置 3区北西部にあたるAH-52グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東側の大部分が調査区外であるが、円形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で、長軸125 cm以上、短軸55 cm以上、深さ15 cmである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** ローム粒子や焼土粒子を含む褐色土が堆積しており、人為的な埋め戻しとみられる。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。 **出土遺物** 土師器環1点を図示した。このほかに土師器環2点9.2 g、須恵器環2点5.2 g、甕1点35.7 gが出土している。 **時期** 不明。

L区 SK-22 (第281図、第171表)

位置 3区北西部にあたるAH-53グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 東側が調査区外であるが、東西方向にわずかに長い楕円形とみられる。長軸102 cm、短軸80 cm以上、深さ30 cmほどである。 **主軸方向** N-50° - E **覆土** 明褐色土で人為的な埋め戻しを行っている。 **底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

L区 SK-23 (第281図、第171表、図版八二)

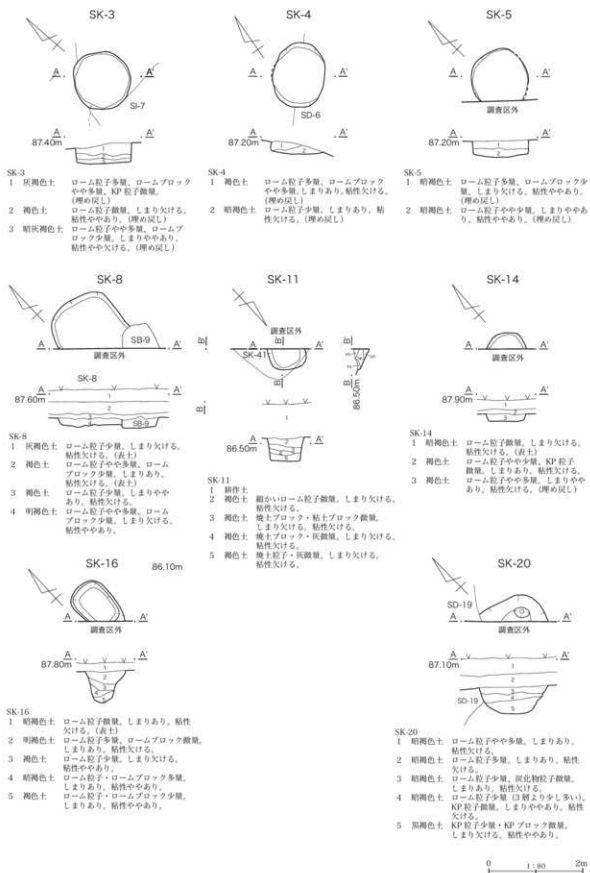
位置 3区南東部にあたるAM-57・58グリッドに位置する。 **重複関係** SK-11より古く、SI-24、SK-41より新しい。 **平面形状・規模** 南北方向に長い楕円形で、長軸170 cm、短軸125 cm、深さ22 cmほどと考えられる。 **主軸方向** N-0° **覆土** 鹿沼軽石粒子をやや多く含む暗褐色土が堆積している。 **底面** 重複するSI-24、SK-41の覆土中に作られており、丸みを帯びている。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。

L区 SK-27 (第281図、第171表)

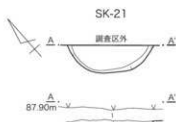
位置 1区南東部にあたるAF-50・51グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い円形の土坑である。長軸110 cm、短軸102 cm、深さ20 cmほどである。 **主軸方向** N-0° **覆土** ロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。 **底面** 底面はローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は緩やかな立ち上がりを示す。 **出土遺物** 図示できる遺物はないが、須恵器環1点12.6 g、蓋1点15.2 gが出土している。 **時期** 不明。

L区 SK-28 (第281図、第171表)

位置 1区南東部にあたるAE-50グリッドに位置する。 **重複関係** なし。 **平面形状・規模** 南東側の大部分が調査区外であるが、円形を基調とした土坑とみられる。確認できた範囲で長軸102 cm以上、短軸25 cm以上、深さ30 cmである。 **主軸方向** 不明。 **覆土** ローム粒子を含む褐色土で人為的な埋め戻しを行っている。 **底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 不明。



第280図 L区SK-3～5・8・11・14・16・20遺構実測図



- SK-21
1 褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。(表土)
2 褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量、しまり欠ける、粘性欠ける。(埋め戻し)



- SK-22
1 褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。(表土)
2 褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性欠ける。
3 明褐色土 ローム粒子多量、しまりあり、粘性欠ける。(埋め戻し)



- SK-23
1 明褐色土 KP粒子やや多量、KPブロック、焼土粒子少量、しまり欠ける、粘性ややあり。



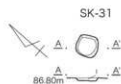
- SK-27
1 褐色土 ロームブロック多量、しまり欠ける、粘性欠ける。(埋め戻し)



- SK-28
1 緑黄色土 ローム微粉粒。(埋土)
2 明褐色土 ローム粒子やや少量、しまり欠ける、粘性欠ける。(埋め戻し)
3 褐色土



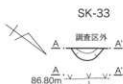
- SK-30
1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土 ローム粒子やや多量、しまりやや欠ける、粘性やや欠ける。(埋め戻し)



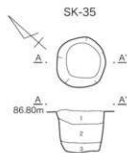
- SK-31
1 暗褐色土 赤褐色土粒子少量、ローム粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。(自然埋戻し)



- SK-32
1 暗褐色土 ローム粒子・赤褐色土粒子少量、しまり欠ける、粘性欠ける。
2 明褐色土 ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。(埋め戻し)



- SK-33
1 明褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。
2 暗褐色土 ローム粒子多量(1層よりやや多量)、しまり欠ける、粘性ややあり、ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、しまり欠ける、粘性ややあり。(埋め戻し)
3 明褐色土



- SK-35
1 明褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量、しまりあり、粘性欠ける。(埋め戻し)
2 暗褐色土 ローム主体、しまりややあり、粘性ややあり。(埋め戻し)
3 黒褐色土 ローム粒子微量、しまり欠ける、粘性あり。(埋め戻し)



- SK-36
1 暗褐色土 ローム粒子微量、しまりあり、粘性欠ける。(埋土)
2 褐色土 ロームブロック多量、しまり欠ける、粘性欠ける。
3 褐色土 しまり欠ける、粘性欠ける。(埋め戻し)



- SK-37
1 灰褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック微量、しまりあり、粘性欠ける。
2 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり、粘性欠ける。



第281図 L区SK-21～23・27・28・30～33・35～37遺構実測図

L区 SK-30 (第281-282図、第171-172表、図版一三八)

位置 1区中央部にあたるAD-49グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側の一部が調査区外であるが、直径140cmほどの円形の土坑である。深さは40cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 暗褐色土が堆積している。上面を覆う土にはロームブロックや焼土粒子が含まれている。人為的埋め戻しとみられる。

底面 ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は垂直に立ち上がる。**出土遺物** 土師器高台付坏1点、三足土器の脚部が土製支脚2点、瓦1点を図示した。このほかに土師器坏2点4.8g、甕9点116.9g、須恵器坏4点19g、蓋1点9.4g、鉢1点29.5g、甕8点200.7gが出土している。**時期** 不明。

L区 SK-31 (第281図、第171表)

位置 1区中央部にあたるAD-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 一辺45cmほどの方形で、深さは8cmほどと浅い。**主軸方向** N-20°-W **覆土** ローム粒子や赤褐色土粒を含む暗褐色土である。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

L区 SK-32 (第281図、第171表)

位置 1区中央部にあたるAD-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 直径45cmほどの円形で、深さは10cmと浅い。**覆土** SK-31と共通する暗褐色土と、ローム粒子を多量に含む明褐色土で埋め戻しを行っている。**底面** ローム層中に作られており、平坦となっている。壁は緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

L区 SK-33 (第281-282図、第171-172表、図版八二)

位置 1区中央部にあたるAD-48グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 西側の大部分が調査区外であるが、東西方向に長い楕円形とみられる。確認できた範囲で長軸・短軸ともに40cm以上で、深さは38cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 人為的な埋め戻しとみられる暗褐色土が堆積している。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がる。**出土遺物** 土師器甕1点を図示した。このほかに土師器坏1点2g、甕1点2.4gが出土している。**時期** 不明。

L区 SK-35 (第281図、第171表)

位置 1区北西隅にあたるAB-46グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向にわずかに長い楕円形である。長軸110cm、短軸102cm、深さ90cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 明褐色土、暗黄褐色土、黒褐色土の3層が堆積している。このうち明褐色土と暗黄褐色土には多量のロームブロックが含まれており、人為的埋め戻しとみられる。**底面** ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

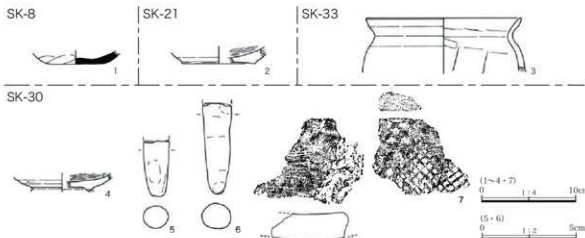
L区 SK-36 (第281図、第171表、図版八三)

位置 1区北西隅にあたるAB-46グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東側が調査区外であるが、東西方向に長い楕円形とみられる。長軸52cm以上、短軸72cm、深さ90cmである。**主軸方向** N-65°-E **覆土** ロームブロックを多量に含む褐色土と、ロームブロックを含まない褐色土の2層に分けられ

る。3層は人為的な埋め戻しである。底面 ローム層中に作られており、比較的平坦となっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物 出土していない。時期 不明。

L区 SK-37 (第281図、第171表、図版八一)

位置 1区北西隅にあたる、AB-46 グリッドに位置している。重複関係 SI-42と重複しており、本遺構が古い。平面形状・規模 東西方向に長い楕円形である。長軸105cm、短軸90cm、深さ75cmである。主軸方向 N-77°-W 覆土 上面の一部にみられる灰褐色土と、大部分を覆う明褐色土の2層を確認した。底面 ローム層中に作られており、やや丸みを帯びている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物 図示できる遺物はないが、須恵器鉢1点50.8g、須恵器甕1点30.5gが出土している。時期 不明。



第282図 L区 SK-8・21・30・33出土遺物実測図

第172表 L区 SK-8・21・30・33出土遺物観察表

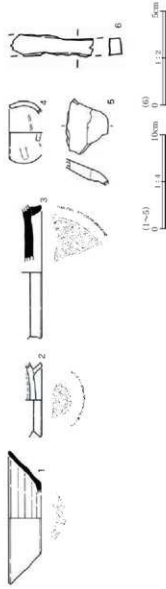
排戻 No.	No.	種類 図種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石目	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
282	1	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.4) 器高 1.4	外面 10YR7/3 にふい・黄褐色 内面 10YR7/4 にふい・黄褐色	砂粒少量	良好		外部外面～内面 ロケナデ 底部 手持ちヘラケズリ	底部一部 残存	覆土中	L区 SK-8 L区 SK-9	磁子産
282	2	土師器 坏	口径 - 底径 (7.7) 器高 1.7	外面 10YR6/3 にふい・黄褐色 内面 N2/0 黒	砂粒微量	良好	内面 黒色忌埋	外面 ロケナデ 内面 ヘラミガキ	1/4 残存	覆土中	L区 SK-21	
282	3	土師器 甕	口径 (16.4) 底径 - 器高 (5.8)	外面 7.5YR6/4 にふい・黄褐色 内面 10YR6/3 にふい・黄褐色	砂粒・稗少量、 透明胎子微量	良好		口縁部内外面 ココナデ 胴部内面 ヘラナデ	口縁～胴 部一部残 存	覆土中	L区 SK-33	
282	4	土師器 高台付坏	口径 - 底径 - 器高 (2.0)	外面 10YR6/4 にふい・黄褐色 内面 10Y2/1 黒	砂粒・透明胎子 若干	良好	内面 黒色忌埋	外面 ロケナデ 内面 ヘラミガキ 底部 ヘラケズリ 高台貼付	一部残存	覆土中	L区 SK-30	
282	5	土師器 三足土器	口径 - 底径 - 器高 (5.9)	2.5Y5/3 黄褐色	砂粒・稗多量、 白胎母少量	良好		ナデ	胴部一部 残存	覆土中	L区 SK-30	6之同一個 体か
282	6	土師器 三足土器	口径 - 底径 - 器高 (9.6)	10YR4/3 にふい・黄褐色	砂粒・稗多量、 白胎母少量	良好		ナデ	胴部一部 残存	覆土中	L区 SK-30	5之同一個 体か
282	7	瓦瓦	厚 2.6 重 227.39	外面 2.5Y5/1 黄褐色 内面 2.5Y6/2 黄褐色	砂粒微量	良好		凸面 格子クタクタキ・ナデ 凹面 布目織・糸切織 裡端面 ヘラケズリ	一部残存	覆土中	L区 SK-30	

6 遺構外の遺物

表土中から出土したものを掲載する。

L区遺構外の遺物(第283図、第173表、図版一五〇)

土師器高台付坏1点、小型碗か1点、須恵器坏1点、盤1点、軋土器1点、鉄製品1点の6点を図示した。6は鉄製と考えられる鉄製品が出土している。

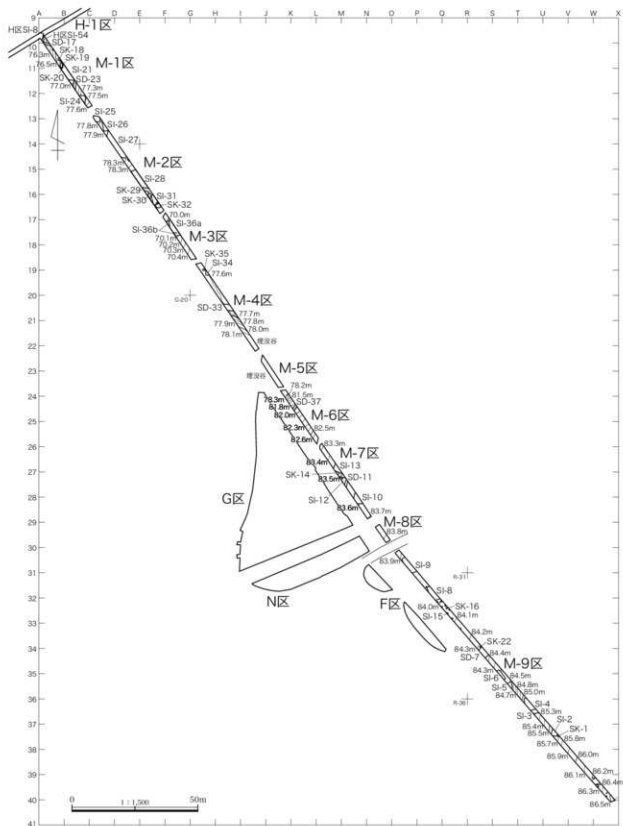


第283図 L区遺構外出土遺物実測図

第173表 L区遺構外出土遺物観察表

図版 No.	種類	数量	形状 (cm・重)	色調	胎土・石質	断面の形態	裏面・裏面の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
283 1	土師器 高台付 坏	1点	口径 (14.0) 底径 (7.6) 胎厚 3.4	外面 7.5Y5/1 内面 5Y5/1	伊賀・磯少量 良好	口テロ目調滑 底面ナナ	1/5 残存 裏様	1/5 残存 裏様	L区 一様	L区 一様	磁子産
283 2	土師器 小型碗か 高台付坏	1点	口径 (7.8) 胎厚 (1.7)	10R27/4 に赤い燻	伊賀調	体部外面 コロナナ 内面ベラスガキ 底面赤切り 高台付付	底面 1/4 残存	底面 1/4 残存	L区 一様	L区 一様	磁子産
283 3	土師器 軋土器	1点	口径 (14.0) 底径 (2.0)	外面 10Y5/1 内面 7.5Y4/1	伊賀・磯少量 良好		底面 1/5 残存	底面 1/5 残存	L区 一様	L区 一様	磁子産
283 4	土師器 小型碗か 高台付坏	1点	口径 (5.7) 底径 (3.4)	外面 10R6/4 内面 7.5Y4/4 に赤い燻	伊賀調	内外面ナナ	1/5 残存 裏様	1/5 残存 裏様	L区 一様	L区 一様	
283 5	軋土器 高台付坏	1点	口径 (4.5)	7.5Y6/4 に赤い燻	伊賀調	内外面ナナ	一部残存 裏様	一部残存 裏様	L区 一様	L区 一様	
283 6	鉄製品 鉄製か	1点	長さ 0.59 幅 0.59 重 7.39			断面 長方形	一部残存 裏様	一部残存 裏様	L区 一様	L区 一様	L区 一様

第16節 M区



第284図 M区全体図 (ピットは別図あり)

M区は水路部分のため、幅約2mのトレンチ状の調査区である。北側のM-1区とH区が接続する。M-4～6区に谷が入る。遺構は台地の傾斜面に立地する。確認面は表土から約0.25mである。竪穴建物跡21軒、方形竪穴3基、溝6条、土坑8基、ピット22基が確認されている。

1 竪穴建物跡

竪穴建物跡は21軒が確認された。M-1～4区とM-6区～9区は谷を挟む。本遺跡内で古い時期の古墳時代後期のものが多い。

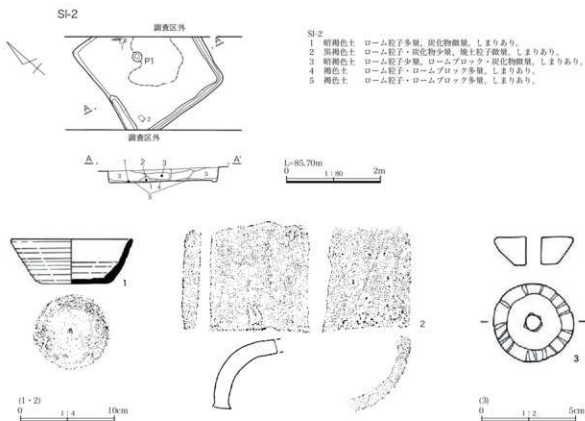
第174表 M区 竪穴建物跡計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	ピット	軒	カマド	貯蔵穴	壁溝	副柱切溝	出土遺物	重復関係
SI-2	9	U-37	N15°-E	方形	2.30	2.40	0.26	1	無	無	無	有	無	有	
SI-3	9	T-36	N10°-E	方形か	[2.10]	[1.75]	0.50	1	無	無	無	有	無	有	SI-4より古
SI-4	9	T-35・36	N5°-W	方形	(5.30)	5.30	0.70	1	無	無	無	有	無	有	SI-3より新
SI-5	9	S-35	不明	方形か	[1.40]	[2.00]	0.40	無	無	無	無	無	無	有	
SI-6	9	S-34・35	N40°-W	方形か	[1.00]	4.30	0.16	無	無	無	無	無	無	有	
SI-8	9	P-31・32	N20°-W	方形か	[2.10]	6.00	0.10	3	無	無	無	無	無	有	
SI-9	9	O-30・31 P-30	N55°-W	方形か	[2.00]	6.90	0.35	2	無	無	無	有	無	有	
SI-10	7	M-27・28	N10°-E	方形か	3.70	4.00	0.12	1	無	無	無	有	無	有	
SI-12	7	L-M-27 M-27	N11°-E	方形	[3.00]	[2.60]	0.10	1	無	有	有	無	無	有	SD-11より古
SI-13	7	L-26・27 M-27	N20°-E	方形か	[4.00]	[2.80]	0.30	2	無	無	無	有	無	有	SK-14より古
SI-15	9	Q-32	不明	方形か	[0.70]	[0.70]	0.18	無	無	無	無	有	無	無	
SI-21	1	A-B-10・11	N15°-E	方形か	(7.00)	(7.00)	0.15	1	無	無	有	有	2	有	SK-19・20・SD-23より古
SI-24	1	B-12	N10°-E	方形か	[2.00]	[3.00]	0.30	1	無	有	無	有	有	有	
SI-25	2	C-12・13	N0°	方形か	[1.70]	[2.50]	0.20	6	無	無	無	無	無	有	
SI-26	2	C-13	N15°-E	方形か	[1.90]	[4.10]	0.40	1	無	無	無	有	無	有	
SI-27	2	C-D-13・14	N20°-E	方形か	(9.00)	(9.00)	0.50	2	無	無	無	有	無	有	
SI-28	2	D-15-E-15	N0°	方形か	(7.00)	(7.00)	0.25	10	無	無	無	有	無	有	
SI-31	2	E-16	N10°-W	方形か	[1.90]	4.00	0.15～ 0.20	無	無	無	無	有	無	有	SI-32より古
SI-34	4	G-19	N0°	方形か	[1.30]	[1.90]	0.05 未満	無	無	無	無	有	無	無	
SI-36a	3	F-17	N0°	方形か	-	(5.10)	0.60	4	有か	無	無	有	無	有	SI-36bより新
SI-36b	3	F-17	N0°	方形か	-	6.00	0.60	3	無	無	無	有	無	有	SI-36aより古

M区 SI-2 (第285図、第174-175表、図版八三・八四・一三八)

位置 9区南東部にあたるU-37グリッドに位置する。**重復関係** なし。**平面形状・規模** 北東隅と南西隅が調査区外であるが、平面形は方形で、東西2.3m、南北2.4m、面積は5.52㎡、壁は遺存状況の良い部分が26cmで、床面から垂直に立ち上がる。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 大部分を覆う黒褐色・暗褐色土には微量だが焼土粒子や炭化材が含まれる。床面を覆う4・5層は地山由来とみられるロームブロックが多量に含まれている。**床面** 貼床は施されておらず、地山であるローム層を床面としている。床面は平坦となっており、中央部分には踏み締まりによるとみられる硬化面が形成されている。西・南・東壁では壁に沿って幅15～20cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 竪穴中央部分に1基認められた。平面形は円形で、直径20cm、深さ16cmである。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 床面よりわずかに浮いて須恵器環や瓦が出土している。また確認面付近から石製紡錘車が出土している。須恵器環1点、瓦1点、紡錘車1点を図示した。3は滑石製で、側面には文様がみられる。このほかに土師器環6点103.76g、

須恵器環6点 71.94 gが出土している。 時期 9世紀第1四半期。



第285図 M区SI-2遺構・出土遺物実測図

第175表 M区SI-2出土遺物観察表

検出 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	散土・石質	焼成	表面の状態	断面・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
285	1	須恵器 環	口径 12.8 底径 8.0 器高 4.8	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 暗灰青	砂粒・礫多量	良好		口内白陶質 底部へウ切り後ナデ	ほぼ完形	床面直上	M区SI-2 No.1	鉢子産
285	2	男瓦	厚 1.8 重 306.08	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 7.5YR5/3 にぶい濁	砂粒少量、礫 若干	良好	粘土付着	凸面 ナデ 凹面 布目痕 側面 ナデ 端面 ナデ	一部残存	床し約 3cm	M区SI-2 No.3	
285	3	石製 紡錘車	径 4.2 厚 1.5 孔径 0.8 重 36.20		滑石		断面に文様あり		完形	床し約 12cm	M区SI-2 No.2	

M区SI-3 (第286図、第174-176表、図版八四・一三八・一三九)

位置 9区南東部にあたるT-36グリッドに位置する。重複関係 SI-4と重複しており、本遺構が古い。

平面形状・規模 大部分が重複および調査区外のため、確認できたのは南壁とその周辺の一部である。東西2.1m以上、南北1.75m以上。壁は遺存状況の良い部分で50cmほど遺存している。主軸方向 N-10°-E 覆土 SI-4と近似した焼土や炭化物を含む黒褐色土や、地山由来のロームブロックを含む褐色土などが堆積している。床面 貼床などは認められず、地山であるローム層を床面としており、上面は平坦となっている。また壁に沿って幅20cm、深さ10cmの壁溝が巡っている。柱穴等 壁溝に接して1基確認した。P1の平面形は東西方向にわずかに長い楕円形で、長軸60cm、短軸55cm、深さ6cmである。機能等は不明である。カマド 確認されていない。出土遺物 土師器環2点、鉢1点、須恵器鉢1点を図示した。こ

M区 SI-4 (第286図、第174-176表、図版八四・一三九・一五〇)

位置 9区中央部やや南東寄りにあたるT-35・36グリッドに位置する。**重複関係** SI-3と重複しており、本遺構が新しい。またトレンチャーによる攪乱が認められる。**平面形状・規模** 北西隅から南壁にかけての範囲を確認した。その他は調査区外であるが、一辺5.3mほどの方形とみられる。壁は遺存状況の良い部分で70cmほど遺存している。**主軸方向** N-5°-W **覆土** SI-3に近似した土が堆積しており、上層は焼土粒子や炭化粒子を含む黒褐色土や暗褐色土、下層は地山由来のロームブロックを多量に含む褐色土や暗褐色土が堆積している。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としており、上面は平坦である。また壁に沿って幅15～20cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 竪穴南壁寄りに1基存在する。東西方向にわずかに長い楕円形で、長軸60cm、短軸50cm、深さ65cmである。規模や位置的に主柱穴と考えられる。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 床面直上に堆積する4層中から、完形の土師器環など多くの遺物が出土している。土師器環1点、高環1点、須恵器壺1点、甕1点、鉄製品1点を図示した。9は鉄鍔である。鍔身部は三角形を呈する。このほかに、土師器環31点279.47g、鉢1点59.99g、甕1点19.68g、手捏ね1点27.68g、陶器1点9.71gが出土している。**時期** 7世紀前葉。

第176表 M区SI-3・4出土遺物観察表

図号 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
286 1	土師器 環	口径 12.4 底径 - 器高 3.5	外面 10YR5/2 灰黄褐色 内面 10YR6/4 に5.5の溝	砕粒微量、黒 色粒子若干	良好	内外面 平坦 1.7	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデか 内面 ヘラナデ	ほぼ完形	床面直 上～3 cm	M区SI-3 No.3・4	
286 2	土師器 環	口径 13.2 底径 - 器高 4.8	外面 10YR6/3 に5.5の溝 内面 10YR3/2 黒	砕粒・黒色粒 微量	良好		口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁部 1/2 現存	床1約 3cm	M区SI-3 No.4	
286 3	土師器 鉢	口径 (16.0) 底径 - 器高 9.2	外面 7.5YR6/6 明赤 内面 5YR5/6	砕粒少量	良好	内外面 スス・コ ケ付着	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/4 現 存、底部 完存	床面直 上	M区SI-3 No.2	
286 4	須恵器 甕	口径 - 底径 6.0 器高 (16.1)	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砕粒多量、礫 若干	良好		胴部外面 格子タタキ、 カキ目 内面 同心円当具痕	一部現存	床1約 3cm	M区SI-3 No.1・フタ 土	産地不明
286 5	土師器 環	口径 13.0 底径 - 器高 4.3	外面 5YR5/6 明赤 内面 10YR2/1 黒	砕粒・礫少量	良好	外面 黒周あり	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ヘラナデ	口縁部 部欠損	床1約 2cm	M区SI-4 No.1	
286 6	土師器 高環	口径 - 底径 - 器高 (10.1)	外面 7.5YR5/6 明赤 内面 10YR2/1 黒	砕粒・礫微量	良好	内面 黒色処理	外面 ナデ 胴部 ココナデ	胴部 1/2 現存	覆土中	M区SI-4 フタ土	
286 7	須恵器 壺	口径 - 底径 (6.8) 器高 (6.8)	外面 7.5YR6/4 赤に5.5の溝 内面 7.5YR5/6 明赤	砕粒多量、赤 色粒子微量	不直		口クロ目顕著 胴部 カキ目 胴部下端 同心円当具 ヘラケズリ	胴下平～ 底部 1/2 現存	床面直 上	M区SI-4 No.2	産地不明 再利用
286 8	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (9.7)	2.5Y5/1 黄灰	砕粒少量	良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 現存	覆土中	M区SI-4 フタ土	産地不明
286 9	鉄製品 鉄鍔	長 [3.74] 幅 2.24 厚 0.30 重 2.34					平鍔 長頸部あり	基部欠損	覆土中	M区SI-4 東壁	

M区 SI-5 (第287図、第174-177表、図版八四・一五〇)

位置 調査区南西部にあたるS-35グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はないが、トレンチャーによる攪乱を受けている。**平面形状・規模** 大部分が調査区外で、方形を基調とした竪穴建物の北東隅部分を確認したに過ぎない。東西1.4m以上、南北2m以上、壁は北壁で40cmほどが遺存していた。**主軸方向** 不明。**覆土** ローム粒子を含む黒色土と、ローム粒子のほかに炭化物を含む黒褐色土の2層が認められた。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としており、平坦に作られている。**柱穴**

等・カマド 確認されていない。出土遺物 釘1点を図示した。このほかに土師器杯1点10.61g、炭10点75.61g、須恵器杯1点8.45gが出土している。時期 不明。



第287図 M区SI-5遺構・出土遺物実測図

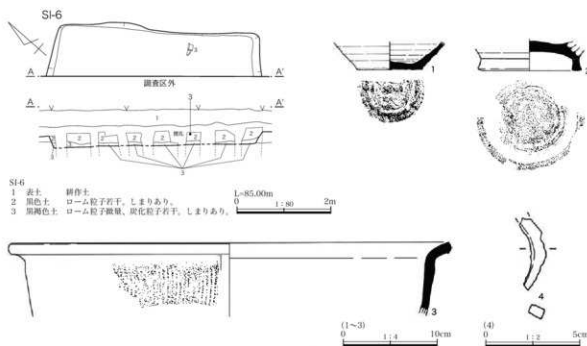
第177表 M区SI-5出土遺物観察表

発見 No.	種別 No.	種別 名称	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・ 備考
287	1	鉄製品 釘	長 2.86 幅 0.58 厚 0.37 重 1.34					断面をL字形に切る 断面方形	一部残存	覆土中	M区SI-5	

M区SI-6 (第288図、第174-178表、図版八四・一三九・一五〇)

位置 9区中央部にあたるS-34・35グリッドに位置する。重複関係 重複する遺構はないが、トレンチャーによる攪乱を受けている。平面形状・規模 大部分が調査区外であり、方形基調とした竪穴建物の東壁部分周辺を確認したに過ぎない。東西1m以上、南北4.3m、壁は遺存状況の良い部分で16cmである。

主軸方向 N-40° -W 覆土 隣接するSI-5と同様な黒色土と黒褐色土が堆積している。床面 貼床



第288図 M区SI-6遺構・出土遺物実測図

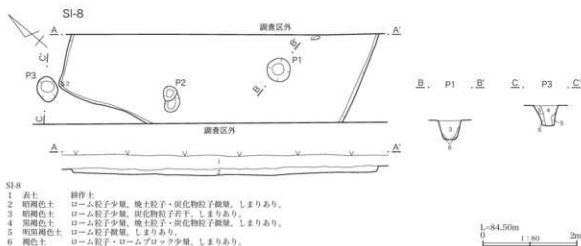
等は認められず、地山であるローム層を床面としており、上面は平坦になっている。柱穴等・カマド 確認されていない。出土遺物 須恵器環1点、高台付環1点、鉢か1点、鉄製品1点を図示した。このほかに土師器環2点13.2g、甕8点123.6g、須恵器環2点7.62g、高台付環2点120.56g、甕4点128.75g、陶器2点3.03gが出土している。時期 9世紀前葉。

第178表 M区SI-6出土遺物観察表

図号 No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
288 1	須恵器 環	口径 - 底径 6.8 器高 [2.9]	2.5Y6/2 灰黄	砂粒・黒色粒 子若干	良好		口縁ロウ顔著 底部へウケズリ後ナデ	体→底部 1/21 残 存	覆土中	M区SI-6 遺構確認時	益子産
288 2	須恵器 高台付環	口径 - 底径 10.8 器高 [3.5]	外面 5Y4/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・白色粒 子少量	良好		底部へウケ切り後ナデ 高台軸付	底部 1/2 残存	覆土中	M区SI-6 フク土	益子産
288 3	須恵器 鉢か	口径 (40.8) 底径 - 器高 (7.8)	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y4/2 灰オリーブ	砂粒多量、硬 白色針状物質 若干	良好		口縁部 ロウロナデ 器底外面 平行タケタ 内面 無文当具風	口縁部一 部残存	床土約 20cm	M区SI-6 No.1	笠間か南 部産
286 4	鉄製品 釘か	長 [3.88] 幅 0.86 厚 0.66 重 4.12						一部残存	覆土中	M区SI-6 フク土	

M区SI-8 (第289-290図、第174-179表、図版八四)

位置 9区北西部にあたるP-31・32グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 大半が調査区外であるが、方形基調の竪穴建物の北西隅から南壁中央にかけての範囲を確認した。東西2.1m以上、南北6m、壁は遺存状況の良い部分で10cmほどである。主軸方向 N-20°-W 覆土 ローム粒子や炭化物・焼土粒子をわずかに含む暗褐色土が堆積している。床面 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。柱穴等 3基確認した。P1は南壁寄りに位置する。円形で直径50cm、深さ40cmである。P2は西壁側に位置しており、東西方向に長い楕円形で、長軸55cm、短軸30cm、深さ24cmである。いずれも柱穴の可能性がある。P3は竪穴外の北西隅に位置しており、上屋に関わる竪穴外柱穴の可能性がある。長軸56cm、短軸44cm、深さ42cmほどである。カマド 確認されていない。出土遺物 須恵器環1点、高台付盤1点、甕1点を図示した。このほかに土師器環11点77.61g、鉢3点18.05g、甕19点718.31g、須恵器環5点16.44g、甕1点29.43g、瓦1点98.13gが出土している。時期 不明。



第289図 M区SI-8遺構実測図



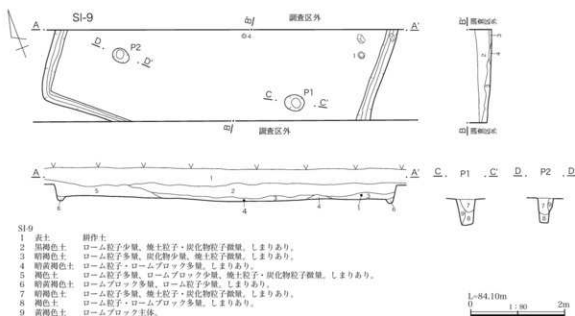
第290図 M区SI-8出土遺物実測図

第179表 M区SI-8出土遺物観察表

発掘 No.	No.	発掘 遺物	寸法 (cm・g)	色調	散土・石質	焼成	表面の状態	形状・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
290	1	須恵器 坏	口径 - 底径 - 高さ [2.5]	SY4/2 灰オリーブ	砂粒少量	良好		口クロ目顯著	体部一部 残存	覆土中	M区SI-8 ブク土一括	益子産
290	2	須恵器 甕	口径 (16.8) 底径 (9.8) 高さ 3.8	SY4/1 灰	砂粒多量、礫 少量	良好		口クロ目顯著 底部ヘラケズリ 高台附存	口縁~底 部一部残 存	床面直 上	M区SI-8 No.1	益子産
290	3	須恵器 甕	口径 - 底径 - 高さ (6.5)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 同心円状具筋	胴部一部 残存	覆土中	M区SI-8 ブク土	益子産

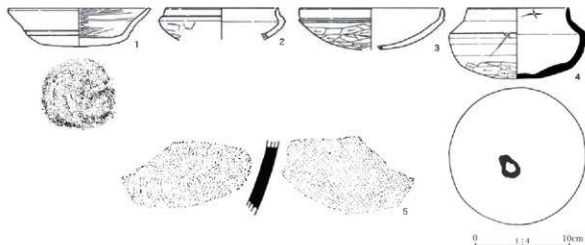
M区SI-9 (第291・292図、第174・180表、図版八四・八五・一三九)

位置 9区北西部にあたるO・30・31、P・30グリッドに位置する。重複関係なし。平面形状・規模
 方形を基調とした竪穴建物の北西隅から南壁中央にかけての範囲を確認した。東西2m以上、南北6.9m、
 壁は遺存状況の良い部分で35cmほどである。主軸方向 N-55°-W 覆土 1層を除いて、地山由来と
 みられるローム粒子やロームブロックが多量に含まれている。床面 貼床等は認められず、地山であるロー
 ム層を床面としており、平坦に作られている。また壁に沿って幅25cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。
柱穴等 2基確認されており、位置関係などから柱穴とみられる。P1は南北方向にわずかに長い円形で長
 軸40cm、短軸35cm、深さ55cmである。P2も楕円形で長軸30cm、短軸28cm、深さ50cmである。カ
 マド 確認されていない。出土遺物 床面から5~10cmほど浮いた位置で、完形の土師器坏や須恵器甕が
 正位の状態で出土している。土師器坏3点、須恵器甕1点、甕1点を図示した。1の底部外面に、「×」の刻



第291図 M区SI-9遺構実測図

書が確認された。4の底面には外面からの穿孔がみられ、刻書も2箇所みられる。このほかに土師器杯28点372.92g、鉢11点360.04g、甕73点1131.7g、須恵器杯9点82.67g、蓋3点66.55g、壺1点10.16g、甕1点43.66g、高杯1点17.67gが出土している。時期 6世紀後葉。



第292図 M区SI-9出土遺物実測図

第180表 M区SI-9出土遺物観察表

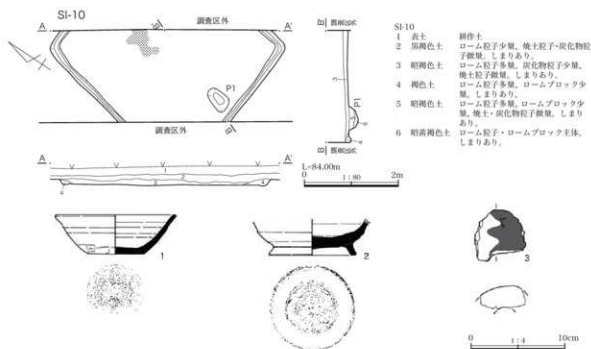
検出 No.	No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・形状の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
292	1	土師器 杯	口径 15.0 底径 - 器高 4.1	外面 10YR6/4 にふい黄橙 内面 10YR3/1 黒黒	砂粒・礫少量	良好	内面 黒色毛理 刻書あり(×)	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1/3欠損	床上約 8cm	M区SI9 No.2	
292	2	土師器 杯	口径 (11.8) 底径 - 器高 (3.4)	外面 7.5YR4/2 黒黒 内面 5YR5/4 にふい赤黒	砂粒微量	良好	内外面 漆位上げ 黒黒あり	口縁部外面～内面 ヨコ ナデ 体部外面 ケズリ	口縁部 1/4残存	覆土中	M区SI9 南フク土	
292	3	土師器 杯	口径 (15.2) 底径 - 器高 (4.4)	外面 7.5YR6/6 黒黒 内面 5YR4/4 にふい赤黒	砂粒多量、礫 少量、白雲母 微量	良好	内外面 漆位上げ 黒黒あり	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1/5残存	覆土中	M区SI9 フク土	
292	4	須恵器 蓋	口径 10.7 底径 - 器高 7.5 最大径 14.4	外面 2.5Y3/1 黄灰 内面 10YR4/1 黒灰	砂粒多量	良好	刻書2箇所あり (×) 底部 外から穿孔	胴部下部外面 手持ちへ ラケズリ	ほぼ完形	床面上	M区SI9 No.1	産地不明
292	5	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (8.0)	外面 10YR8/3 浅黄橙 内面 10YR8/4 浅黄橙	砂粒・礫少量、 赤色粒子若干	やや 不良		胴部外面 格子タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆土中	M区SI9 フク土	産地不明

M区SI-10 (第293図、第174-181表、図版八五・一三九)

位置 7区南東部にあたるM-27・28グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の、西壁から北西隅にかけての範囲と、南壁から南東隅にかけての範囲を確認した。東西3.7mで、南北4.0m、面積は14.8㎡、南北方向に長い長方形とみられる。壁は遺存状況の良い部分で12cmほどである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 3～5層では、地山由来の細かなローム粒子が多量に含まれる粘土塊が、中央部で確認されている。**床面** 図示できなかったが、周縁部を中心に貼床が施されている。貼床は地山由来のロームブロックを多量に含んだ暗黄褐色土で構築されており、厚さは最大10cmほどである。上面は平坦となっている。また壁に沿って幅15～20cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。

柱穴等 南壁中央付近に1基認められた。南北方向に長い楕円形で長軸50cm、短軸35cm、深さ25cmである。位置的に入口施設に関するピットの可能性が考えられる。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 須恵

器环1点、高台付环1点、羽口1点を図示した。このほかに土師器环2点4.17g、甕7点54.91g、須恵器环7点50.95g、甕1点197.78gが出土している。時期 9世紀後葉。



第293図 M区 SI-10 遺構・出土遺物実測図

第181表 M区 SI-10 出土遺物観察表

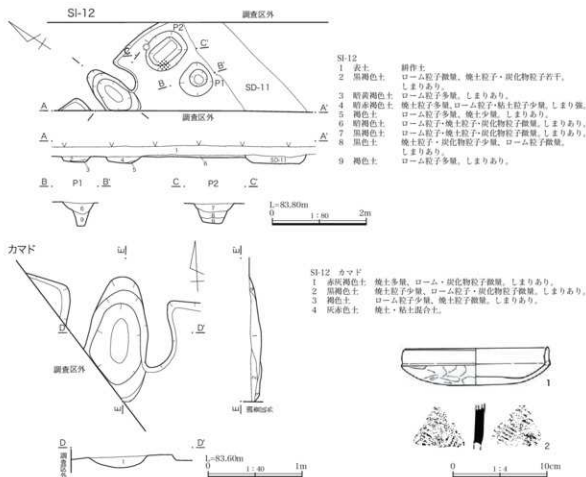
所在 No.	種類 名称	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	断面の状態	胎形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
293 1	須恵器 環	口径 12.8 底径 5.9 断面高 4.2	外面 10YR5/1 断面 2.5Y5/1 底面	砂粒・微少量	良好		体部下端 手持ちヘラケズリ 底部 手持ちヘラケズリ	2/3残存	覆土中	M区 SI-10 フク土	益子産
293 2	須恵器 高台付環	口径 - 底径 9.2 断面高 (3.9)	外面 2.5Y5/2 断面高 暗灰色 内面 2.5Y4/1 裏面	砂粒多量、微 少量、紫色粒 子若干	良好		底部ヘラ切り後回転ヘ ラケズリ 高台部分	底部完存	覆土中	M区 SI-10 其フク土	益子産
293 3	羽口	口径 - 底径 - 断面高 (5.5)	外面 2.5Y7/3 底面 内面 7.5YR7/4 にふい粉	砂粒少量	良好	洋が付着	ナデ	一部残存	覆土中	M区 SI-10 其フク土	

M区 SI-12 (第294図、第174-182表、図版八五・一三九)

位置 7区中央部にあたるL・M-27グリッドに位置する。重複関係 SD-11と重複しており、東壁は重複しているSD-11によって破壊されている。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の北壁および北東隅周辺部分を確認した。東西3m以上、南北2.6m以上、壁は北壁で10cmほどが遺存していた。**主軸方向** N-11° - E **覆土** 全体的に遺存状態が悪く、竪穴内の覆土として2・3・6層を確認した。**床面** 確認できた範囲では貼床等は確認されておらず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等** P1は北東隅付近に1位置しており、東西方向に長い楕円形で、長軸65cm、短軸60cm、深さ50cmである。位置と形態の特徴から柱穴の可能性が考えられる。**貯蔵穴** P2はカマドに向かって右脇に位置しており、東西方向に長い長方形を呈している。長軸60cm、短軸30cm、深さ40cmである。上端の南西隅には内部に落ち込むような状況で粘土塊が確認されている。**カマド** 北壁に位置している。遺存状態は良好ではないが、西

袖と燃焼部、下部の掘方を確認した。両袖は地山の削り出し部分が遺存しており、本来はこの上に粘質土を積んで構築していたものと思われる。規模は右袖で幅38cm、高さ5cm、竪穴壁からの長さ70cm、両袖間の幅50cmである。掘方は燃焼部下に10cmほどの深さで掘られており、掘方埋土は被熱によって変色している。

出土遺物 土師器杯1点、須恵器甕1点を図示した。このほかに土師器杯2点8.23g、甕29点388.83gが出土している。 **時期** 6世紀後葉。



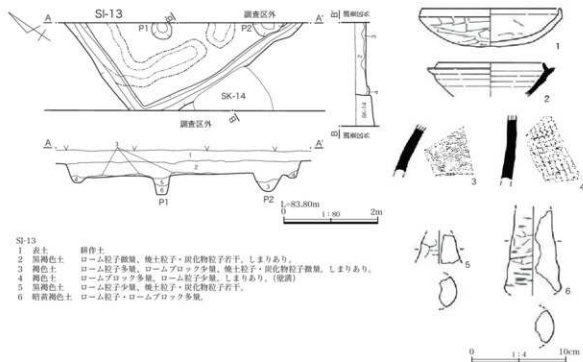
第182表 M区SI-12出土遺物観察表

図号	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
294	1	土師器 杯	口径 底径 器高 15.0 4.0	外面 5YR6/6 側 内面 7.5YR6/6	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁～体 部1/3欠 損	覆土中	M区SI-12	
294	2	須恵器 甕	口径 底径 器高 17.5 - [4.3]	2.5Y6/2 灰黄	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タタキ 内面 同心円当具痕	胴部一部 現存	覆土中	M区SI-12	産地不明

M区SI-13 (第295図、第174-183表、図版八五・一三九)

位置 7区中央部にあたるL-26・27、M-27グリッドに位置する。 **重複関係** SK-14と重複しており、本遺構が古い。 **平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の南西隅周辺部とみられる。東西4m以上、南北2.8m以上、壁は遺存状況の良い部分で30cmほどである。 **主軸方向** N・20°・E **覆土** 大部分は2

層とした黒褐色土で覆われている。3層は床面直上に薄く堆積し、4層は壁溝に堆積している。床面一部に塼方が認められた。掘方は最大で15cmほどで、壁際は厚くなっている。また壁に沿って幅20～40cm、深さ10～40cmほどの壁溝が巡っている。柱穴等 2基確認した。P1は竪穴中央部付近に位置しており、円形とみられる。南北45cm、東西30cm以上、深さ35cmである。形態的特徴や、位置などから柱穴の可能性がある。P2は南壁に近接して位置している。円形とみられ、南北50cm、東西30cm以上、深さ20cmである。柱は抜き取ったと考えられ、覆土は竪穴内堆積土とほぼ共通しており、竪穴廃絶時には開口していたものと思われる。カマド 確認されていない。出土遺物 土師器杯1点、須恵器杯身1点、甕2点、土製支脚2点を図示した。このほかに土師器杯21点253.91g、鉢1点28.27g、甕45点749.68g、須恵器杯2点14.25g、鉢1点12.82g、甕3点57.45gが出土している。時期 7世紀前葉。



- SI-13
 1 表土 耕作土
 2 黒褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子若干、しまりあり。
 3 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。
 4 褐色土 ロームブロック多量、ローム粒子少量、しまりあり。(密着)
 5 黒褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子若干。
 6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。

第295図 M区 SI-13 遺構・出土遺物実測図

第183表 M区 SI-13 出土遺物観察表

探検 No.	種別 No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	敷上・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	所在地・備考
295	1	土師器 杯	口径 14.7 底径 - 器高 4.0	7.5YR5/4 にぶい濁		砂粒少量 良好		口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	ほぼ完成	覆上中	M区 SI-13 No.1	
295	2	須恵器 杯身	口径 (11.2) 底径 - 器高 [3.5]	外面 10YR5/1 内面 2.5Y6/1 黄灰		砂粒微量、黒 色粒子若干 良好		口縁目顯著	口縁部 残存	覆上中	M区 SI-13 南アケ土	所在地不明
295	3	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [5.0]	外面 N2Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰		砂粒微量 良好		外面 縞線状起伏の上下 に改線	口縁部 残存	覆上中	M区 SI-13 北アケ土	所在地不明
295	4	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [6.8]	外面 N2/0 黒 内面 5Y4/1 灰		砂粒微量 良好		胴部外面 格子タタキ 内面 同心門当具痕	口縁部 残存	覆上中	M区 SI-13 北アケ土	所在地不明
295	5	土製支脚	口径 - 底径 - 器高 [2.6]	10YR7/3 にぶい黄褐色		砂粒微量、礫 若干 良好		ナデ	一部残存	覆上中	M区 SI-13 北アケ土	
295	6	土製支脚	口径 - 底径 - 器高 [8.4]	10YR7/3 にぶい黄褐色		砂粒微量、礫 若干 良好		ナデ	1/4 残存	覆上中	M区 SI-13 北アケ土	

M区 SI-15 (第296図, 第174表, 図版八五)

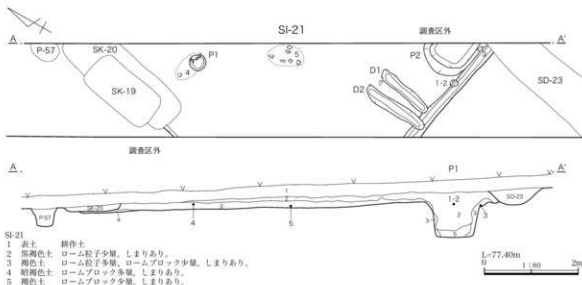
位置 9区北西部にあたるQ-32グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形基調の竪穴建物の北東隅のごく一部を確認したに過ぎない。東西・南北ともに残存部は70cmほどである。壁は18cmほどである。**主軸方向** 不明。**覆土** 床面および壁溝内に堆積する褐色系の土は地山由来のロームブロックが多量に含まれており、土層自体も良く締まっている。**床面** 確認された範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また壁に沿って幅10～25cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第296図 M区 SI-15 遺構実測図

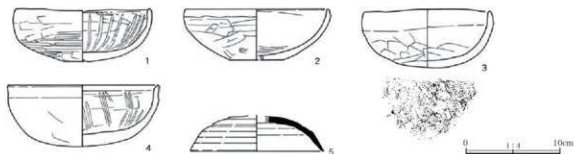
M区 SI-21 (第297・298図, 第174・184表, 図版八六・一三九)

位置 1区中央部にあたるA-10・11、B-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-19・20、SD-23などと重複しており、本遺構が最も古い。**平面形状・規模** 西壁の一部から南壁の一部にかけて範囲を確認した。規模は不明瞭だがおおよそ一辺7mほどの方形とみられる。壁は遺存状況の良い部分で15cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 上面を覆う黒褐色土のほか、ローム粒子やロームブロックを多量に含んだ褐色土・暗褐色土が認められた。**床面** 確認された範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また南壁では幅20～25cm、深さ5cm未満の壁溝が巡っている。**間仕切り溝** 2本確認されている。D1は長軸124cm、短軸22cm、深さ15cm、D2は長軸148cm、短軸26cm、深さ17cmである。**柱穴等** P1は径33cm、深さ48cmの円形である。**貯蔵穴** 南壁に接して1基確認した。(P2)



第297図 M区 SI-21 遺構実測図

半分は調査区外であるが、南西方向に長い楕円形とみられる。長軸 100 cm 以上、短軸 100 cm、深さ 70 cm ほどである。覆土は住居内堆積土と共通しており、廃絶時には開口していたことが伺える。位置や形態の特徴などから貯蔵穴と考えられる。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 土師器環 4 点、須恵器蓋 1 点を図示した。3 の底面には「一」の刻書がみられる。このほかに土師器環 52 点 354.57 g、鉢 5 点 141 g、甕 140 点 2370.48 g、須恵器蓋 5 点 29.74 g、高台付杯 1 点 7.02 g、甕 1 点 17.67 g、手捏ね 1 点 16.3 g が出土している。**時期** 6 世紀前葉。



第 298 図 M 区 SI-21 出土遺物実測図

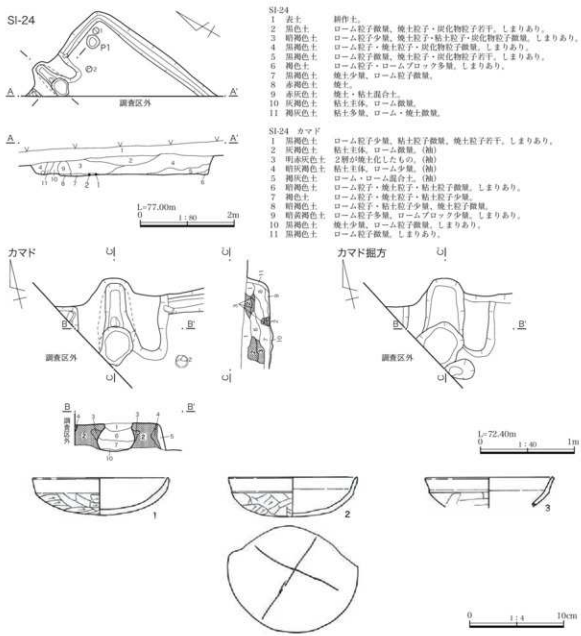
第 184 表 M 区 SI-21 出土遺物観察表

図号 No.	種類 器種	寸法 (cm・g)	色調	胎土・石質	構成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状況	注記	所在地
298 1	土師器 環	口径 14.3 底径 - 器高 5.6	外面 5YR5/6 内面 5YR5/4 にふい粉	砂粒少量	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 後ミガキ 内面 ココナデ・ナデ後 ヘラミガキ	口縁部 部欠損	貯蔵穴 上	M 区 SI-21 No.2	
298 2	土師器 環	口径 15.2 底径 - 器高 5.4	5YR4/4 明赤褐	砂粒・白磁母 多量	良好		口縁部 外面 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁～底 部 3/4 残 存	貯蔵穴 上	M 区 SI-21 No.2・南フ ク上	
298 3	土師器 環	口径 13.2 底径 - 器高 6.2	外面 7.5YR6/4 にふい粉 内面 5YR4/4 にふい赤粉	砂粒微量、礫 若干	良好	刻痕あり「一」 底面 黒灰あり	口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁～底 部 3/4 残 存	床面直 上	M 区 SI-21 No.1	
298 4	土師器 環	口径 16.0 底径 - 器高 6.5	外面 10YR7/4 にふい黄粉 内面 10YR7/3 にふい黄粉	砂粒微量	良好		口縁部 外面 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 1.6、底 部 2/3? 残存	床土約 25～ 28 cm	M 区 SI-21 No.5・南フ ク上	
298 5	須恵器 蓋	口径 (14.0) 底径 - 器高 [3.7]	外面 5Y5/1 底 内面 7.5Y5/1 底	砂粒・白磁少 量	良好		天月部ヘラケズリ	一部残存	床土約 14～ 23 cm	M 区 SI-21 No.4	所在地不明

M 区 SI-24 (第 299 図、第 174-185 表、図版八六・八七・一三九・一四〇)

位置 1 区南東隅にあたる B-12 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の北東隅周辺部分を確認した。東西 2 m 以上、南北 3 m 以上、壁は遺存状況の良い部分で 30 cm ほどである。**主軸方向** N-10° - E **床面** 貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としており、上面は平坦となっている。また壁に沿って幅 20～30 cm、深さ 5 cm 未満の壁溝が巡っている。**柱穴等** カマド脇で 1 基確認した。直径 25 cm ほどの円形で、深さは 10 cm ほどと浅い。**覆土** 自然埋没で、2～5 層はカマドの袖、10 層は火床面と考えられる。**カマド** 北壁中央に位置しており、両袖と燃焼部および下部の掘方が遺存していた。袖は幅 50 cm、高さ 26 cm、竪穴壁からの長さ 70 cm、両袖間の幅 10 cm ほどである。袖は地山を土手状に削り出し、その上に灰褐色系の粘土を積んで構築している。燃焼部はあまり焼けておらず、わずかに焼土粒子が散布し、袖内面が薄く焼土化する程度であった。燃焼部の中央には袖構築土と同質

の粘土塊が設置されており、支脚とみられる。下部の掘方は10 cm未満と浅い掘り込みである。出土遺物カマド周辺において、床面から10 cmほど浮いた状態で土師器環(2)が出土している。土師器環3点を図示した。2には「×」の刻書がみられる。このほかに土師器環15点93.61 g、鉢5点97.79 g、甌1点11.22 g、甕48点478.56 g、須恵器甕3点42.84 g、瓦1点3.92 gが出土している。時期 7世紀前葉。



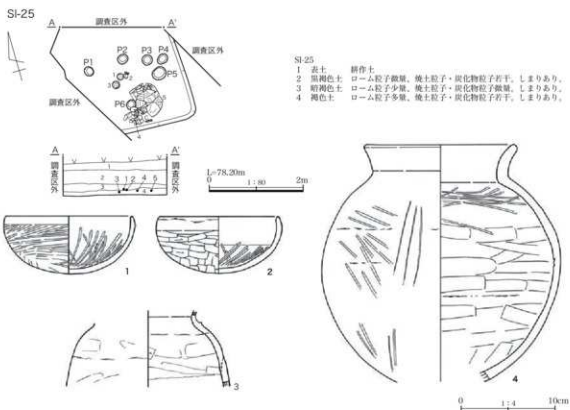
第299図 M区SI-24遺構・出土遺物実測図

第185表 M区 SI-24 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	注記	産地・備考
299	1	土師器 杯	口径 14.3 底径 器高 3.9	7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒・塵多量	良好	内外面 漆住上付 か	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	ほぼ完形	床面直 上	M区 SI-24 No.2	
299	2	土師器 杯	口径 13.6 底径 器高 4.3	7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒・塵・透 明粒子微量	良好	口縁~内面 漆住 上付 部珠あり 柄杓あり「×」	口縁部 ココナデ 体部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2、底 部 2/3 残 存	床面直 上	M区 SI-24 No.1	
299	3	土師器 杯	口径 13.5 底径 器高 (3.2)	7.5YR7/6 橙	砂粒少量	良好		口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁部 1/3 残存	カマド 内	M区 SI-24 カマドフク 上	

M区 SI-25 (第300-301図, 第174-186表, 図版八七・一四〇)

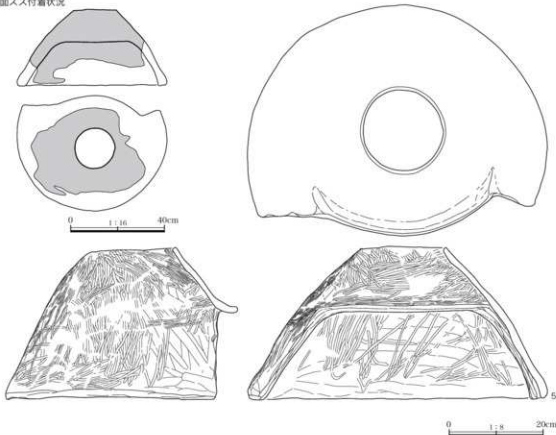
位置 2区北西隅にあたるC-12・13グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の南東隅部分とみられる。東西1.7m以上、南北2.5m以上、壁は遺存状況の良い部分で20cmほどである。**主軸方向** N-0°**覆土** ローム粒子や炭化物を含む。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としており、平坦となっている。**柱穴等** 6基確認した。いずれも直径20cm前後、深さ10～20cmほどの小穴で、機能等は不明である。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 床面から10cmほど浮いた4層上面に、完形の置きカマドが潰れた状態で、その周辺より土師器杯2点、土師器襖2点が出土している。襖は1点(3)が正位の状態で出土し、1点(4)が逆位の状態で置きカマドの脇から出土している。土師器杯2点、襖2点、置きカマド1点を図示した。4は置きカマドへの設置にちょうど良い大きさの襖である。3本の縦線が刻まれている。5の置きカマドの形態は上下が貫通した円錐台を呈し、正面に大きな焚口を有する。法量は掛口直径18.0cm、器高32.0cm、基部直径63.4cm、焚口高18.5cmである。胎土には砂粒や塵が含まれており、焼成は良好で、色調はにぶい橙色となっている。内外面ともに焼成時に



第300図 M区 SI-25 遺構・出土遺物実測図(1)

形成されたとみられる黒斑が形成されており、内面掛口付近には使用痕とみられるススが薄く付着している。成形方法は粘土紐による輪積成形とみられる。掛口側を下にして粘土紐を積み上げ、その後内外面を丁寧に磨いて積み上げ痕を消している。焚口部は成形後の胎土が柔らかい段階で逆台形状に体部をカットし、上部を折り曲げて庇を作り出している。なお焚口の端部もナデ・ミガキによって丁寧に整えられている。このほかに土師器甕 57 点 754.75 g、須恵器杯 1 点 5.14 g、高台付杯 1 点 13.6 g、甕 1 点 5.77 g、陶器 2 点 7.97 g が出土している。時期 6 世紀前葉。

内面スス付着状況



第 301 図 M 区 SI-25 出土遺物実測図 (2)

第 186 表 M 区 SI-25 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
300	1	土師器 杯	口径 13.4 底径 - 器高 6.1	外面 10YR4/2 灰黄褐色 内面 5YR6/6 橙	砂粒少量、白 雲母微量	良好	内面スス付着	口縁部ヨコナデ 体～底部ナデ・ミガキ 内面ナデ後ミガキ	ほぼ完形	床上的約 10 cm	M 区 SI-25 No.1	
300	2	土師器 杯	口径 (12.6) 底径 - 器高 6.1	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 2.5YR4/6 赤褐色	砂粒・礫多量	良好		口縁部ヨコナデ 体～底部外面ナデ・ケ ズリ 内面ヘラミガキ	1/2 残存	床上的約 10 cm	M 区 SI-25 No.2	
300	3	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 (8.05)	外面 7.5YR6/4 に赤い焼 内面 10YR6/4 に赤い黄褐色	砂粒・礫微量	良好	3本の縦線が入る	内外面ナデ 縦積あり	胴～体部 上部残存	床上的約 5 cm	M 区 SI-25 No.1	
300	4	土師器 甕	口径 16.0 底径 - 器高 [25.1]	外面 2.5YR4/8 赤褐色 内面 2.5YR6/8 橙	砂粒多量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部外面ナデ・ミガキ 内面ナデ	底部欠損	床上的約 5 cm	M 区 SI-25 No.4・5・ 7ヶ土	
301	5	置きカマド	口径 18.0 底径 63.4 器高 32.0 厚 1.8	2.5YR4/4 に赤い焼	砂粒少量、礫 微量	良好	内面スス付着	ナデ後ミガキ	ほぼ完形	床上的約 5 cm	M 区 SI-25 No.4	

M区 SI-26 (第302図、第174-187表、図版八七)

位置 2区北西隅にあたるC-13グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の南西隅付近を確認した。東西1.9m以上、南北4.1m以上、壁は遺存状況の良い部分で40cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **床面** 全面に貼床が施されている。貼床は地山由来のロームブロックを多量に含んだ暗黄褐色土で構築されており、厚さは最大15cmほどである。上面は平坦となっている。また壁に沿って幅30~40cm、深さ10cm前後の壁溝が巡っている。**柱穴等** 1基確認した。直径30cmほどの円形で、深さは34cmである。**覆土** 黒褐色土が竪穴部分を覆い、地山の崩落土とみられる褐色土が壁溝を覆っている。**カマド** 確認されなかった。**出土遺物** 土師器環1点、須恵器甕か坏身1点、襷1点を図示した。このほかに土師器環10点33.96g、鉢1点13.75g、襷35点502.63g、須恵器襷1点12.15gが出土している。**時期** 6世紀前葉。



第302図 M区 SI-26・27 遺構・出土遺物実測図

M区 SI-27 (第302図、第174-187表、図版八七・八八・一四〇)

位置 2区北東部にあたるC・D-13・14グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形基調の竪穴建物の北西隅から南東隅にかけての範囲を確認した。確認した範囲から推定すると1辺9mほどの大型の竪穴建物であったと考えられる。壁は遺存状況の良い部分で50cmほどである。**主軸方向** N-20°-E **覆土** 床面直上から焼土や少し浮いた状態で炭化材が確認されており、廃絶時に火災によって焼失したものと考えられる。また壁際に地山由来の褐色土層が厚く堆積しており、上屋の焼失後に周壁帯などの土を埋め戻した層と考えられる。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層をそのまま床面としており、上面は平坦となっている。また壁に沿って幅20～30cm、深さ10～30cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 北側と南側にそれぞれ1基ずつ確認された。方形の竪穴の対角線上に位置しており、柱穴の可能性が高い。P1は直径40cmほどの円形で、深さは66cmである。P2は南北方向に長い楕円形で長軸45cm、短軸35cm、深さ84cmである。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 土師器環1点、壺1点、埴1点を図示した。このほかに土師器環29点212.39g、壺1点52.78g、瓶78.68g、甕133点1512.81g、須恵器環2点19.08g、甕3点47.04gが出土している。なお、出土した炭化材は樹種同定の結果、コナラ属アカガシ亜属である。**時期** 6世紀前葉。

第187表 M区 SI-26・27 出土遺物観察表

図号	種別	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考	
302	1	土師器環 口径(14.6) 底径 - 器高(4.5)	5YR6/6 暗		砂粒・塵少量	良好	口縁～体部外面ナデ・ケズリ一部ヘラミガキ 口縁部ヨコナデ 内面ヘラミガキ	口縁～体部一部残存	覆土中	M区 SI-26 北フタ上		
302	2	須恵器 壺か身筒 口径 - 底径(3.8) 器高(1.3)	外面 5Y5/2 底径リブ 内面 2.5Y5/1 青灰		砂粒少量、黒色 粒点若干	良好	やや丸底 底面ヘラズリ	体部下位 ～底面	覆土中	M区 SI-26 北フタ上	産地不明	
302	3	須恵器 甕 口径 - 底径 - 器高(13.2)	外面 2.5Y3/3 黄灰 内面 2.5Y5/4 黄灰		砂粒多量	良好	外面 腹筋かタタキ 内面 同心円状肌	胴～肩部 の一部残存	床土約 20cm	M区 SI-26 No.1	産地不明	
302	4	土師器環 口径(15.2) 底径 - 器高(4.0)	2.5YR6/4 に灰・暗		砂粒少量	良好	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ケズリ 内面ヘラミガキ	口縁部 5/6、体 部1/4残存	床土約 26cm	M区 SI-27 No.1・北 フタ上		
302	5	土師器 埴 口径(12.4) 底径 - 器高(5.2)	外面 10YR5/3 に灰・黄肌 内面 7.5YR5/4 に灰・暗		砂粒少量	やや 良好	器面荒れている	口縁部ヨコナデ 外面ナデか 内面ヘラナデ	胴部一部 残存	覆土中	M区 SI-27 北フタ上	
302	6	土師器 埴 口径 - 底径 - 器高(4.4)	外面 2.5YR4/6 赤肌 内面 2.5YR4/4 に灰・赤肌		砂粒少量、赤 色粒点微量	良好		口縁～体部ヨコナデ後 タテ方向のヘラミガキ	口縁部一 部、胴部 1/4残存	覆土中	M区 SI-27 北フタ上	

M区 SI-28 (第303図、第174-188表、図版八八・一四〇)

位置 2区中央部にあたるD・E-15グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調した竪穴建物の北東隅から南壁中央にかけての範囲を確認した。確認された範囲から推定すると一辺7m前後とみられる。壁は遺存状況の良い部分で25cmほどである。**主軸方向** N-0° **覆土** 竪穴の大部分は流入土とみられる黒色系の土で覆われており、壁際におのみ崩落土とみられる地山由来の土が堆積している。**床面** 貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。また壁に沿って幅25～50cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等** 合計10基確認された。このうち位置関係などからP1・2が主柱穴の可能性が高い。P1は複数回掘り返された痕跡がみられることから、建て替えなどが考えられる。P1は不整形。P2・3は楕円形。P4・8は楕円形。P5～7・9・10は円形である。P1は長軸92cm、短軸90cm、深さ23cm。P2は長軸96cm、短軸40cm以上、深さ34cm。P3は長軸90cm、短軸40cm以上、深さ20

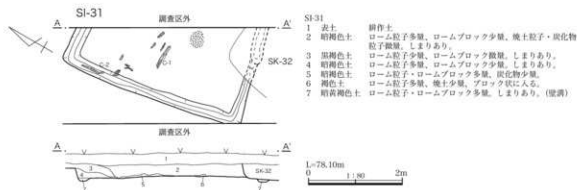
cm。P4は長軸46cm、短軸36cm、深さ21cm。P5は直径34cm、深さ19cm。P6は直径30cm、深さ41cm。P7は直径28cm、深さ27cm。P8は長軸50cm、短軸40cm、深さ34cm。P9は長軸84cm、短軸74cm、深さ30cm。P10は直径40cm、深さ31cmである。カマド 確認されていない。出土遺物 土師器環5点、甕3点、須恵器環2点、高環か1点を図示した。土師器の環のうち4点は漆仕上げが施されている。このほかに土師器環22点205.26g、高環1点8.59g、鉢5点155.41g、壺1点299g、甕1点31.64g、甕154点2025.31g、須恵器環9点98.86g、蓋1点14.35g、鉢1点80.64g、壺4点64.29gが出土している。時期 6世紀後葉。

第188表 M区SI-28 出土遺物観察表

検出 No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質 構成	器面の状態	器形・型形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考	
303	1	土師器 環	口径 14.2 底径 - 器高 4.6	外面 10YR5/3 にふい黄褐色 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒・煤少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ヘラミガキ	口縁部 - 体部 欠損	覆上	M区SI-28 No.12	
303	2	土師器 環	口径 (14.2) 底径 - 器高 (3.4)	7.5YR6/6 黒褐色	砂粒微量	良好	外面 ススカ	口縁部 ココナデ 体部ナデ	口縁 - 体部 1/6 残存	覆上中	M区SI-28 No.12	
303	3	土師器 環	口径 (16.7) 底径 - 器高 3.5	外面 10YR8/3 にふい黄褐色 内面 10YR7/3 にふい黄褐色	砂粒微量	良好	内外面 漆仕上げ やや荒れている	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁 - 体部 1/6 残存	覆上	M区SI-28 フク上	
303	4	土師器 環	口径 (15.0) 底径 - 器高 4.2	外面 7.5YR6/6 黒褐色 内面 7.5YR6/4 にふい黄褐色	砂粒多量	良好	内外面 漆仕上げ 底面やや荒れている	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 床土約 1/3 欠損	床土約 2cm	M区SI-28 No.1・フク 上・北フク 上	
303	5	土師器 環	口径 (16.2) 底径 - 器高 (3.4)	外面 7.5YR6/6 黒褐色 内面 10YR3/1 黒褐色	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ココナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁 - 体部 1/5 残存	覆上中	M区SI-28 No.6	
303	6	須恵器 環	口径 (14.8) 底径 8.6 器高 3.7	7.5YR5/4 にふい黄褐色	砂粒少量、礫 若干	やや 不良		ロクロ目顯著 底面ヘラ切り残ナデ	口縁 - 一部 残存、底 部完全	床面直 上 - 3 cm	M区SI-28 No.11・南 フク上	産地不明
303	7	須恵器 環	口径 - 底径 (8.4) 器高 (1.7)	外面 2.5Y7/3 浅黄褐色 内面 2.5Y6/3 にふい黄褐色	砂粒微量	良好		底面ヘラ切り残ナデ	底面完全	床面直 上 - 3 cm	M区SI-28 No.11	産地不明
303	8	須恵器 高環か	口径 - 底径 - 器高 (1.3) 径 2.9	外面 5Y4/1 灰 内面 5Y1/1 灰	砂粒・白色粒 子・黒色粒子 微量	良好		ロクロ目顯著 内面ヘラ痕か	胎土一部 残存	覆上中	M区SI-28 北フク上	産地不明
303	9	土師器 甕	口径 (18.2) 底径 - 器高 (25.2)	7.5YR5/4 にふい黄褐色	砂粒・煤少量	良好	内外面 黒化	口縁部 ココナデ 胴部外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ一部ミガキ	口縁部 - 胴部、胴部 2/3 残存	口縁部 - 体部 1/4 残存	覆上中	M区SI-28 No.5・8・9・ フク上・南 フク上
303	10	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 (17.0)	10YR4/2 灰黄褐色	砂粒・白土母 多量	良好	内外面 黒化	口縁部 ココナデ 体部 ナデ	口縁 - 胴部 1/4 残存	床面直 上	M区SI-28 No.5・6	
303	11	土師器 甕	口径 - 底径 9.0 器高 (4.7)	外面 10YR6/3 にふい黄褐色 内面 10YR7/4 にふい黄褐色	砂粒・煤微量	良好	内面・断面にコ ケ付着	内外面 ナデ	底面完全	覆上中	M区SI-28 フク上	

M区SI-31 (第304-305図、第174-189表、図版八八・八九)

位置 2区南東隅にあたるE-16グリッドに位置する。重複関係 SK-32と重複しており、本遺構が古い。



第304図 M区SI-31 遺構実測図

平面形状・規模 2/3程度が調査区外であるが、方形基調の竪穴建物の西側部分を確認した。東西1.9m以上、南北4m、壁は遺存状況の良い部分で15～20cmほどである。**主軸方向** N-10°-W **覆土** 6層確認された。このうち床面上に堆積する4・5層は、炭化材や地山由来のロームブロックを多く含んでおり、一部は焼土化している。**床面** 確認された範囲では貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としている。部分的に床面が焼けている箇所が認められた。床面上には炭化材も確認できることから、廃絶時に火災によって焼失した可能性が考えられる。また壁に沿って幅20～25cm、深さ5cm未満の壁溝が巡っている。

柱穴等・カマド 確認されていない。**出土遺物** 土師器環1点、鉢か1点図示した。このほかに土師器環5点37.6g、裏16点212.33g、須恵器環2点30.22g、蓋1点12.65gが出土している。**時期** 6世紀後葉。



第305図 M区SI-31 出土遺物実測図

第189表 M区SI-31 出土遺物観察表

図号	No.	種別 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
305	1	土師器 環	口径 底径 器高 [2.7] 最大 径欠 (13.9)	外面 10YR4/1 周灰 内面 5YR3/1 黒黒	砂粒微量	良好		口縁部ココナデ 体部外面ナデか 内面ナデ	体部一部 残存	覆土中	M区SI-31	
305	2	土師器 鉢か	口径 (20.0) 底径 器高 [3.8]	外面 7.5YR4/3 周 内面 5YR4/4 にぶ(赤黒)	砂粒少量	良好	口縁部外面～内 面 透仕上げ	口縁部ココナデ 体部外面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁部一 部残存	覆土中	M区SI-31	

M区SI-34 (第306図、第174表、図版八九)

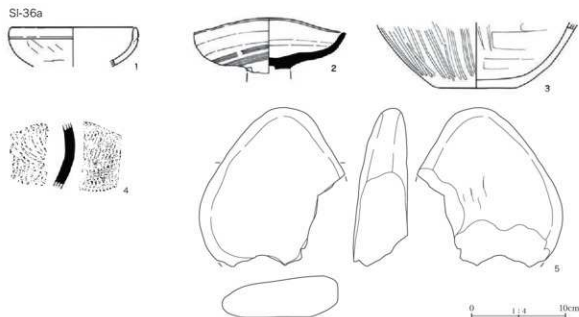
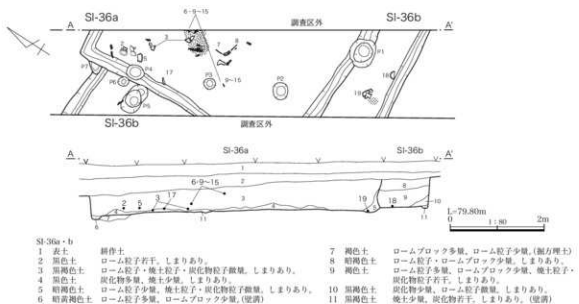
位置 4区北西部にあたるG-19グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 方形を基調とした竪穴建物の南西隅部分を確認した。東西1.3m以上、南北1.9m以上、壁は5cm未満と遺存状況が非常に悪い。**主軸方向** N-0° **覆土** 遺存状況が極めて悪く不明瞭な部分が多いが、床面を覆う褐色土と壁溝に堆積する暗黄褐色土には、地山由来のロームブロックが多量に含まれている。**床面** また壁に沿って幅15～20cm、深さ8cmほどの壁溝が巡っている。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。



第306図 M区SI-34 遺構実測図

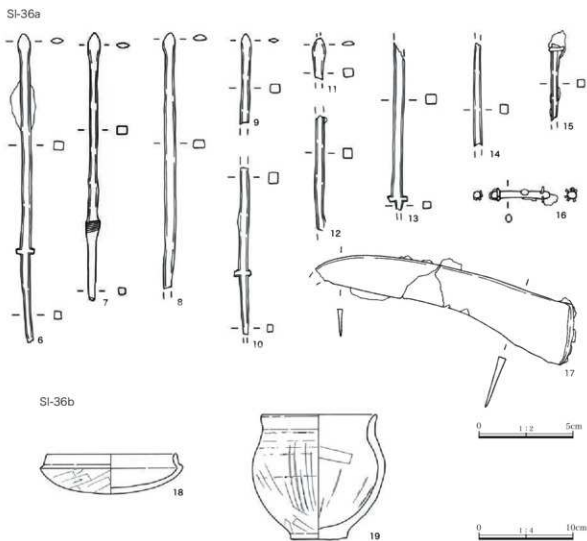
M区 SI-36a・b (第307-308図, 第174-190表, 図版八九・九〇・一四〇・一五〇)

位置 3区中央部にあたるF-17グリッドに位置する。**重複関係** SI-36aが新しく、SI-36bが古い。
平面形状・規模 方形を基調とした竪穴建物とみられる。規模が判明している SI-36a は南北で 5.1 m、壁は遺存状況の良い部分で 60 cm ほどである。SI-36b は南北 6 m、深さ 60 cm である。**主軸方向** a・b とともに N-O°。
覆土 a の大部分は黒色系の土で覆われている。ただし床面上に堆積する土には炭化材が含まれており、床面に部分的に焼土化範囲がみられる事から、火災によって焼失した可能性がある。b は床面から 30 cm ほどの高さまで地山に近似した褐色土が堆積している。**床面** a は北壁側の幅 80 cm ほどの範囲で地山由来のロームブロックを多量に含む土で貼床が施されていた。その他の範囲は地山であるローム層を床面としていた。壁に沿って幅 20 ~ 30 cm、深さ 5 cm 未満の壁溝が掘られている。b は地山であるローム層を床面として



第307図 M区 SI-36a・b 遺構・出土遺物実測図(1)

いた。壁に沿って幅20～30cm、深さ5cm未満の壁溝が掘られている。**柱穴等** aに伴う柱穴は4基確認された。P1は楕円形で、長軸60cm、短軸53cm、深さは68cm。P2は楕円形で長軸36cm、短軸30cm、深さ67cm。P3は円形で直径26cm、深さ37cm。P4は楕円形で長軸38cm、短軸28cm、深さ29cmである。bは3基認められた。P5は東西方向に長い楕円形で長軸68cm、短軸38cm、深さ60cmである。柱穴の可能性があり、抜き取り痕と考えられる痕跡も確認できる。P6は円形で直径20cm、深さ33cmである。柱穴に切られていることから、bに伴うと判断した。長軸24cm以上、短軸22cm以上、深さ36cmの楕円形と考えられる。**カマド** SI-36a・SI-36b どちらにも確認されていない。**出土遺物** aは土師器埴1点、甕1点、須恵器高坏1点、甕1点、砥石と推測されるもの1点、鉄製品12点、bは土師器坏1点、甕1点を図示した。6～15は鉄鏃で、まとまって出土している。16は飾金具、17は鏃である。このほかに土師器坏13点88g、鉢8点198.69g、壺1点29.89g、甕235点3486.41g、須恵器鉢4点41.41g、甕3点40.8g、手捏ね1点4.5gが出土している。**時期** SI-36aは7世紀前半、SI-36bは6世紀後半か。



第308図 M区SI-36a・b出土遺物実測図(2)

第190表 M区SI-36a・b出土遺物観察表

種別 No.	種類 品名	計測値 (cm・g)	色調	肌上・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 位置	目録	産地・備考
307 1	土師器 埴	口径 (13.0) 底径 - 器高 [4.1]	外面 2.5Y3/1 黒灰 内面 5YR3/2 暗赤褐	砂粒少量	良好	内外面 漆仕上げ	口縁部 ヲコナデ 体部 ナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中	M区SI-36 フタ上	
307 2	須恵器 高坪	口径 (15.8) 底径 - 器高 [5.5]	外面 2.5Y3/1 黒灰 内面 10YR3/1 黒褐	砂粒・塵少量	良好	自然釉付着 赤み大きい	体部外面 カキ目 透かし 2孔	口縁部 6/5 残存	床土約 14cm	M区SI-36 No.1	産地不明
307 3	土師器 費	口径 - 底径 8.0 器高 [6.9]	外面 10YR4/3 に赤い黄褐 内面 7.5YR5/4 に赤い黄	砂粒・白土粒 多量	良好		外面 ヘラミガキ 内面 ヘラナデ	底部完存	床土約 8cm	M区SI-36 No.4・5	
307 4	須恵器 費	口径 - 底径 - 器高 [6.8]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y6/1 黄灰	砂粒少量	良好		胴部外面 縦格子か平行 タタキ、カキ目 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆土中	M区SI-36 フタ上	産地不明
307 5	石製品 砥石か	長 16.9 幅 15.5 厚 5.8 重 1526.8		安山岩		研削方向は 不明瞭		一部欠損	床土約 11cm	M区SI-36 No.3	
308 6	鉄製品 鉄鏝	長 16.35 幅 9.97 厚 0.41 重 11.83					縦状態	ほぼ完存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 7	鉄製品 鉄鏝	長 14.13 幅 0.70 厚 0.42 重 7.64						一部欠損	床土約 37cm	M区SI-36 T3	
308 8	鉄製品 鉄鏝	長 [13.50] 幅 0.63 厚 0.40 重 11.19						一部残存	床土約 11cm	M区SI-36 T4	
308 9	鉄製品 鉄鏝	長 [4.71] 幅 0.56 厚 0.45 重 2.35						一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 10	鉄製品 鉄鏝	長 [8.85] 幅 0.81 厚 0.60 重 5.54					縦状態	一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 11	鉄製品 鉄鏝	長 [2.19] 幅 0.70 厚 0.48 重 1.17					縦状態	一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 12	鉄製品 鉄鏝	長 [6.16] 幅 0.48 厚 0.50 重 3.32						一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 13	鉄製品 鉄鏝	長 [8.85] 幅 1.06 厚 0.49 重 6.01						一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 14	鉄製品 鉄鏝	長 [5.58] 幅 0.40 厚 0.40 重 2.78						一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 15	鉄製品 鉄鏝	長 [4.08] 幅 0.76 厚 0.38 重 1.64						一部残存	床土約 15 ~ 37cm	M区SI-36 T2・3・6	
308 16	鉄製品 石金具 (両面金具)	長 3.10 幅 0.81 厚 0.28 重 1.68						ほぼ完存	覆土中	M区SI-36 T1	
308 17	鉄製品 鏝	長 [14.09] 幅 3.31 厚 0.35 重 35.35						ほぼ完存	床土約 7cm	M区SI-36 T5	
308 18	土師器 坪	口径 13.6 底径 4.2 器高 4.2	外面 7.5YR6/6 暗 内面 7.5YR6/4 に赤い黄	砂粒・塵・白 土少量	良好	内外面 漆仕上げ 底面外面 黒灰	口縁部 ヲコナデ 体部外面 ケズリ 内面 ナデ	口縁部 1/2 残存	床土約 2cm	M区SI-36 No.8	
308 19	土師器 小形費	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 13.2	外面 7.5YR5/4 に赤い黄 内面 7.5YR3/1 黒褐	砂粒・塵少量	良好	内面 黒色惣理か	口縁部 ヲコナデ 体部外面 ナデ 内面 ヘラナデ	口縁部 1/4、底 部 1/2 残存	床土約 3cm	M区SI-36 No.7	

2 方形竪穴

M-2区の谷へ向かう台地の落ち際に3基がまとまって確認されている。古代の竪穴建物跡よりも小型であるものを方形竪穴とした。

第191表 M区 方形竪穴計測表

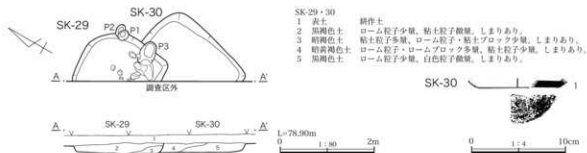
遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	断面形	出土遺物	重複関係
SK-29	SI-29	2	E-15・16	N-5°・E	隅丸方形か	[1.40]	1.80	0.10未満	逆台形	有	SK-30より新
SK-30	SI-30	2	E-15・16	N-15°・E	方形か	[1.80]	2.10	0.15	逆台形	有	SK-29より古
SK-32	SI-32	2	E-16	N-15°・E	方形	2.00	2.10	0.25～0.30	逆台形	有	SI-31より新

M区SK-29 (第309図、第191表、図版九〇)

位置 2区南東部にあたるE-15・16グリッドに位置する。**重複関係** SK-30と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 西側が調査区外であるが、隅丸方形とみられる。東西1.4m以上、南北1.8mと比較的小型の竪穴である。壁は遺存状況の良い部分で10cm未満である。**主軸方向** N-5°・E **覆土** 大部分を覆っている黒褐色土と、地山由来のロームブロックを多量に含む暗褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は認められず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等** 3基確認した。P1は楕円形で、長軸24cm、短軸18cm、深さ18cm、P2は楕円形で、長軸32cm、短軸16cm、深さ14cm、P3は長軸52cm、短軸33cm、深さ26cmほどの楕円形である。具体的な機能等は不明で、遺構に伴わない可能性もあり、P3はSK-30に伴う可能性も考えられる。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、土師器環2点4.01g、糞19点100.79g、須恵器環1点8.09gが出土している。流れ込みと考えられる。**時期** 形状や規模から中近世の可能性が高い。

M区SK-30 (第309図、第191-192表、図版九〇)

位置 2区南東部にあたるE-15・16グリッドに位置する。**重複関係** SK-29と重複しており、本遺構が古い。**平面形状・規模** 西側が調査区外であるが、方形を基調としてとみられる。東西1.8m以上、南北2.1mと比較的小型の竪穴である。壁は遺存状況の良い部分で15cmほどである。**主軸方向** N-15°・E **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む暗褐色土と、白色粒子を微量に含んだ黒褐色土が堆積している。**床面** 確認できた範囲では貼床等は施されておらず、地山であるローム層を床面としている。**柱穴等・カマド** 確認されていない。**出土遺物** 須恵器環1点を図示した。底部に「一」とみられる刻書がある。このほかに土師器糞22点141.9g、須恵器環2点11.13gが出土している。流れ込みと考えられる。**時期** 形状や規模から中近世の可能性が高い。



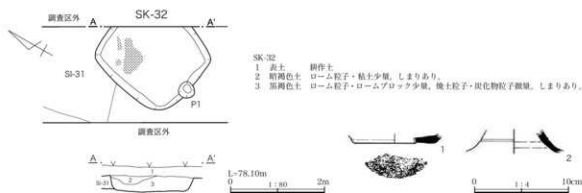
第309図 M区SK-29・30遺構・出土遺物実測図

第192表 M区SK-30 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
309	1	須恵器 坏	口径 底径 器高 (8.6) (0.9)	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒微量、確 若干	良好	刻痕あり「一」 か		底面 1/6 残存	覆土中	M区SK-30 フタ上	

M区SK-32 (第310図、第191-193表、図版八八・九〇)

位置 2区南東隅にあたる、E-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-31と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 北東隅が調査区外であるが、方形とみられる。東西2m、南北2.1m、壁は遺存状況の良い部分で25～30cmほどである。**主軸方向** N-15°-E **覆土** 自然堆積土とみられる暗褐色土と黒褐色土が堆積している。**床面** 確認された範囲では、貼床等は確認できず、地山であるローム層を床面としていた。ただし一部床面上に粘土が付着する範囲が認められており、床の造成に関連する可能性も考えられる。**柱穴等** 壁際に直径40cmほどの小穴が存在する。**カマド** 確認されていない。**出土遺物** 須恵器坏1点、高坏1点を図示した。1は刻書「一」がみられる。このほかに土師器坏8点31.78g、甕27点337.94g、須恵器坏12点49.67g、蓋1点12.02g、甕2点23.4gが出土している。9世紀前葉の土器が混入するが、流れ込みと考えられる。**時期** 中世か。



第310図 M区SK-32遺構・出土遺物実測図

第193表 M区SK-32 出土遺物観察表

探検 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
310	1	須恵器 坏	口径 底径 器高 (8.6) (0.9)	5Y4/1 灰	砂粒微量	良好	刻痕あり「一」 或部内面ナデ		底面 1/4 残存	覆土中	M区SK-32 フタ上	磁子産
310	2	須恵器 高坏	口径 底径 器高 [2.3]	外面 5Y4/1 灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	良好	沈線1条		断面一部 残存	覆土中	M区SK-32 フタ上	磁子産

3 溝

H区の南、G区の東に位置し、台地上から落ち際に立地する。水路部分のため、幅約2mのトレンチ状の調査区である。溝はM-1・4・6・7・9区で6条が確認されている。SD-17・33は東西方向、傾斜に対し直向、SD-7・11・23・37は南北方向、傾斜に対し平行する。

第194表 M区溝計測表

遺構番号	区	位置	土軸方向	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	重複関係
SD-7	9	R-33・34	N-45°-E	直線状か	[1.90]	4.10	0.69	V字状	有	
SD-11	7	M-27	N-17°-E	直線状か	[2.56]	0.95	0.11～0.14	逆台形	無	SI-12より新
SD-17	1	A-9・10	N-70°-W	直線状か	[3.00]	0.65	0.10	逆台形	無	H区SI-54より古
SD-23	1	B-11	N-10°-E	直線状か	[3.00]	0.90～1.00	0.35	U字状	有	
SD-33	4	H-20	N-80°-W	直線状か	[2.50]	2.30	0.62	V字状	有	
SD-37	6	K-24	N-30°-E	直線状か	[2.08]	0.85～0.95	0.08～0.18	逆台形	有	

M区SD-7 (第311-312図、第194-195表、図版九〇)

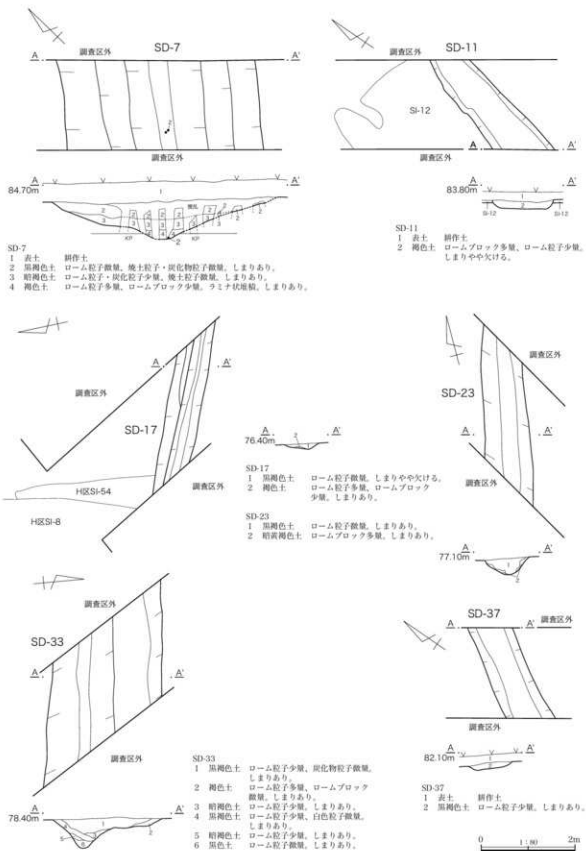
位置 9区中央部にあたるR-33・34グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はないが、一部でトレンチャーによる攪乱を受けている。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に1.9m以上延びているとみられる。幅は4.1m、深さは69cmと、大形の溝である。**土軸方向** N-45°-E **覆土** 上層には焼土粒子や炭化物を含む黒褐色土や暗褐色土が堆積し、底面には地山由来とみられるロームブロックを多量に含む褐色土が堆積していた。なお底面付近ではラミナ状の堆積が認められた。**底面** 底面は鹿沼軽石層中に作られている。丸みを帯びており、壁は段を持ち緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 須恵器片1点、瓦1点を図示した。底面から出土している。このほかに土師器片1点4.53g、壺2点6.27g、甕16点147.32g、須恵器環4点21.33g、甕7点154.45g、不明鉄製品が出土している。**時期** 不明。

M区SD-11 (第311図、第194表、図版八五)

位置 7区中央部にあたるM-27グリッドに位置する。**重複関係** SI-12と重複しており、本遺構が新しい。**平面形状・規模** 南北方向に直線的に2.56m以上延びているとみられる。幅は最大0.95m、深さは11～14cmと浅い。**土軸方向** N-17°-E **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。地山とほぼ同質な土であることから、人為的な埋め戻しである可能性がある。**底面** ローム層中につくられ、平坦となっている。壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 6世紀後葉以降。

M区SD-17 (第311図、第194表、図版九一)

位置 1区北西隅でH区と接続する部分にあたる、A-9・10グリッドに位置する。**重複関係** H区SI-54と重複し、本遺構が古い。**平面形状・規模** 東西方向に直線的に3m以上延びているとみられる。確認できた範囲で、幅0.65m、深さ10cm前後である。**土軸方向** N-70°-W **覆土** 流入土とみられる黒褐色土と壁の崩落土とみられる褐色土が堆積している。**底面** 底面は幅狭く丸みを帯びており、壁は非常に緩やかな立ち上がりを示す。**出土遺物** 出土していない。**時期** H区SI-54より古いため、6世紀後葉以前か。



第311図 M区SD-7・11・17・23・33・37遺構実測図

M区SD-23 (第311-312図、第194-195表、図版九一)

位置 1区中央部やや南東寄りにあたるB-11グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向に直線的に3m以上延びているとみられる。確認できた範囲で、幅0.9～1.0m、深さ35cmほどである。**主軸方向** N-10°-E **覆土** 流入土とみられる黒褐色土と、壁の崩落土とみられる暗黄褐色土が堆積している。**底面** 地山であるローム層中に作られており、丸みを帯びている。壁は急斜度で立ち上がっている。底面・壁ともに凹凸が目立つ。**出土遺物** 土師器環1点を図示した。このほかに土師器環2点4.48g、甌1点27.97g、甕18点180.18g、須恵器環2点7.7g、甕2点35.04gが出土している。流れ込みの可能性も考えられる。**時期** 不明。

M区SD-33 (第311-312図、第194-195表、図版九一)

位置 4区中央部にあたるH-20グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に直線的に2.5m以上延びているとみられる。確認できた範囲で幅2.3m、深さ62cmである。**主軸方向** N-80°-W **覆土** 北側立ち上がり部分以外は、黒色系の流入土で構成される。**底面** 底面は地山である鹿沼軽石層中に作られている。底面は丸みを帯びており、壁は南側では急斜度で立ち上がり、北側は広い段を有して緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 須恵器甕4点を図示した。このほかに土師器環7点31.07g、高環1点15.96g、甕19点206.47g、須恵器環4点35.54g、蓋1点11.11g、壺1点6.87g、甕7点180.99gが出土している。**時期** 流れ込みの可能性も考えられるが、古墳時代後期以降か。

M区SD-37 (第311図、第194表、図版九一)

位置 6区中央部やや北西寄りにあたるK-24グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 北東-南西方向に直線的に2.08m以上延びているとみられる。確認できた範囲で幅85～95cm、深さ

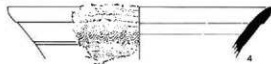
SD-7



SD-23



SD-33



0 1:4 10cm

第312図 M区SD-7・23・33出土遺物実測図

8～18cmほどである。主軸方向 N-30°-E 覆土 黒褐色土が堆積している。底面 底面は比較的平坦となっており、壁は緩やかな立ち上がりを示す。出土遺物 出土していない。時期 不明。

第195表 M区SD-7・23・33出土遺物観察表

図号	種別	種類	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	産地・備考
312	1	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [5.7]	外面 7.5YR6/4 にふい粉 内面 10YR5/3 にふい粉	砂粒・微量	中や 不良		胴部外面 平行タタキ	胴部一部 残存	覆上中	M区SD-7 フタ上	産地不明
312	2	瓦	厚 2.4 重 291.04	外面 7.5Y4/1 内面 7.5Y5/1	砂粒少量	良好	自然釉付着	凸面 糸切り後格子タタキ 凹面 糸切り痕・布目痕	一部残存	底面直上	M区SD-7 フタ上	
312	3	土師器 坏	口径 (15.8) 底径 - 器高 [3.7]	5YR4/4 にふい粉	砂粒少量、雲 母微粒	良好		口縁部外面 ココナデ 体部外面～内面 ナデ	口縁部 1/8残存	覆上中	M区SD-23 フタ上	
312	4	須恵器 甕	口径 (28.0) 底径 - 器高 [5.3]	5Y5/2 灰オリーブ	砂粒微量	良好		継ぎ目工具による波状 文の上を収線	口縁部 1/12残存	覆上中	M区SD-33 フタ上	産地不明
312	5	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [2.3]	外面 5R6/1 高灰 内面 N5/D 灰	砂粒少量	良好		胴部外面 平行タタキ、 方平目	胴部一部 残存	覆上中	M区SD-33 フタ上	産地不明
312	6	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [6.7]	外面 5Y6/1 内面 2.5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		胴部外面 縦格子タタ キ、方平目 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆上中	M区SD-33 フタ上	産地不明
312	7	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [7.7]	外面 7.5YR5/3 にふい粉 内面 2.5Y4/1 灰	砂粒少量	良好		胴部外面 縦格子タタ キ、方平目 内面 同心円当具痕	胴部一部 残存	覆上中	M区SD-33 フタ上	産地不明

4 土坑

台地上に立地する。8基が確認された。

第196表 M区土坑計測表

遺構番号	旧番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	東西関係
SK-1	SK-1	9	U-37	不明	楕円形または 隅丸方形か	0.90	0.60	0.45	逆台形	無	
SK-14	SK-14	7	L-27	不明	隅丸方形か	1.55	1.10	0.36	袋状	無	SK-13より新
SK-16	SK-16	9	Q-32	N-80°-E	不整楕円形	0.60	0.42	0.51	有段	有	
SK-18	SK-18	1	A-10	N-15°-E	隅丸方形	0.85	0.75	0.27	U字状	無	
SK-19	SK-19	1	A-10	N-10°-E	長方形	1.65	0.85	0.30	箱形	無	SK-20より新
SK-20	SK-20	1	A-10-11	N-10°-E	長方形	2.70	0.97	0.10	箱形	無	SK-19より古
SK-22	P-48	9	R-33	N-84°-E	楕円形	0.70	0.55	0.22	逆台形	無	
SK-35	SK-35	4	G-18-19	N-80°-W	不整楕円形	0.95	0.60	0.24	逆台形	有	

M区SK-1 (第313図、第196表、図版八四)

位置 9区中央部やや南東寄りにあたるU-37グリッドに位置する。重複関係 なし。平面形状・規模 大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、楕円形または隅丸方形とみられる。確認できた範囲で長軸90cm以上、短軸60cm以上、深さ45cmである。主軸方向 不明。覆土 上面を覆う黒褐色土と、底面を覆うローム粒子を多量に含んだ暗褐色土の2層を確認した。底面 平坦となっており、壁は急斜度で立ち上がっている。出土遺物 出土していない。時期 不明。

MIX SK-14 (第313図、第196表、図版八五・九一)

位置 7区中央部にあたるL-27グリッドに位置する。**重複関係** SI-13と重複しており、本遺構が新しい。
平面形状・規模 大部分が調査区外であるが、隅丸方形とみられる。東西155cm、南北110cm以上、深さ36cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 地山由来の褐色土が底面を覆い、自然流入土とみられる暗褐色土が上部を覆っている。**底面** 底面はローム層中に作られており、平坦となっている。壁は垂直または一部オーバーハンクして立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。**時期** 7世紀前葉以降。

MIX SK-16 (第313-314図、第196-197表)

位置 9区中央部北西寄りにあたるQ-32グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長いやや不整な楕円形で、長軸60cm、短軸42cm、深さは最大で51cmほどである。**主軸方向** N-80° - E **覆土** 不明。**底面** 段を持つ。**出土遺物** 底面付近から瓦片が出土している。須恵器高台付杯1点、瓦1点を図示した。このほかに須恵器杯1点3.02gが出土している。**時期** 不明。

MIX SK-18 (第313図、第196表)

位置 1区中央部にあたるA-10グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 南北方向にわずかに長い隅丸方形で、長軸85cm、短軸75cm、深さ27cmである。**主軸方向** N-15° - E **覆土** 流入土とみられる暗褐色土と、壁の崩落土とみられる暗黄褐色土が堆積している。**底面** 丸みを帯びており、壁は緩やかに立ち上がっている。**出土遺物** 出土していない。**時期** 不明。

MIX SK-19 (第313図、第196表)

位置 1区中央部にあたるA-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-20と重複しており本遺構が新しい。
平面形状・規模 南北方向に長い長方形で、長軸165cm、短軸85cm、深さ30cmほどである。**主軸方向** N-10° - E **覆土** 地山由来のロームブロックを多量に含んだ斑黒褐色土が堆積している。**底面** ローム層中につくられ、平坦となっている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。
時期 不明。

MIX SK-20 (第313図、第196表)

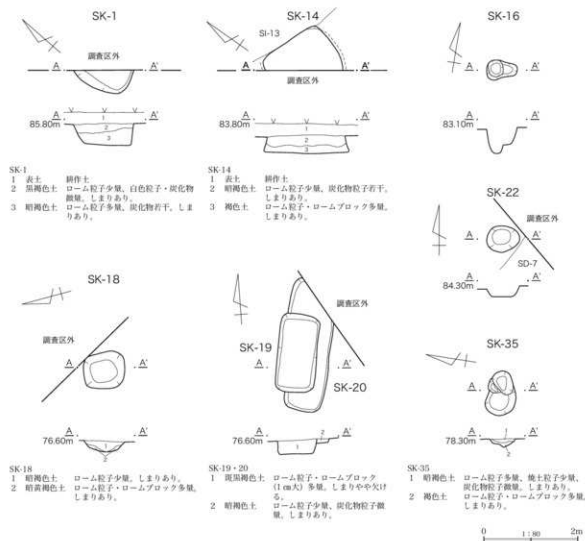
位置 1区中央部にあたるA-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-19と重複しており、本遺構が古い。
平面形状・規模 北東隅が調査区外であるが、南北方向に長い長方形である。長軸270cm以上、短軸97cm、深さ10cmほどである。**主軸方向** N-10° - E **覆土** 流入土とみられる暗褐色土が堆積している。
底面 ローム層中に作られ、平坦となっている。壁は垂直に立ち上がっている。**出土遺物** 出土していない。
時期 不明。

MIX SK-22 (第313図、第196表)

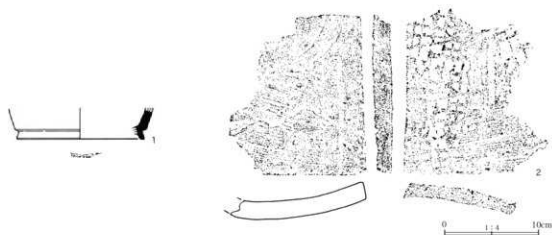
位置 9区中央部にあたるR-33グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い楕円形で、長軸70cm、短軸55cm、深さ22cmである。**主軸方向** N-84° - E **覆土** 不明。**底面** ローム層中につくられており、平坦となっている。壁は斜めに立ち上がる。**出土遺物** 出土していない。
時期 不明。

M区 SK-35 (第313図、第196表、図版八九)

位置 4区北西隅にあたるG-18・19グリッドに位置する。**重複関係** なし。**平面形状・規模** 東西方向に長い不整な楕円形である。長軸95cm、短軸60cm、深さ24cmである。**主軸方向** N-80°-W **覆土** 焼土粒子が混入した暗褐色土と、ロームブロックを多量に含む褐色土で構成される。**底面** やや凹凸が認められ、東側が1段深く掘り込まれている。**出土遺物** 図示できる遺物はないが、須恵器環2点6.99gが出土している。**時期** 不明。



第313図 M区 SK-1・14・16・18～20・22・35 遺構実測図



第314図 M区 SK-16出土遺物実測図

第197表 M区 SK-16 出土遺物観察表

種別 No.	No.	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・器形の特徴	遺存 状態	出土 状態	注記	産地・備考
314	1	須恵郡 高台付埴	口徑 底径 (13.4) 器高 13.4	外面 2.5Y3/2 内面 10YR4/2 灰青地	砂粒少量	良好	外面 自然剥付着	高台附付	一部残存 体部一部 、底面へ 高台 1/12 残存	覆土中	M区 SK-16 フタ土	益子産か
314	2	瓦瓦	厚 2.2 重 734.92	外面 5Y5/1 内面 5Y6/2 灰オリーブ	砂粒・雜少量	良好		凸面 格子タタキ 凹面 糸切り肌・布目肌・ ヘラケズリ 側面 ナデ 端部 ナデ	一部残存	覆土中	M区 SK-16 フタ土	

5 ピット

M区では22基のピットが台地上M-1・2・9区から確認されている。計測表にまとめる。遺物は出土して
いない。掘立柱建物跡や櫛列 (P-49・50・53・60やP-51・52・54 など) の可能性も推測される。

第198表 M区ピット遺構計測表

遺構番号	区	位置	主軸方向	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形	出土 遺物	参照関係
P-38	9	W-39	N 90° E	櫛形	0.44	0.36	0.20	-	無	
P-39	9	W-39	N 90° E	櫛形	0.36	0.30	0.31	-	無	
P-40	9	W-39	-	円形	0.24	0.24	0.08	-	無	
P-41	9	W-39	N 63° E	不整形	0.55	0.25	0.28	-	無	
P-42	9	W-39	N 45° E	不整形	(0.25)	0.25	0.07	-	無	P-43 と垂視
P-43	9	W-39	-	円形	0.25	0.25	0.11	-	無	P-42 と垂視
P-44	9	W-39	N 70° W	櫛形	0.36	0.21	0.10	-	無	
P-45	9	W-39	N 0°	櫛形	0.30	0.25	0.27	-	無	
P-46	9	W-39	-	円形	0.22	0.22	0.42	-	無	
P-47	9	V-39	N 0°	櫛形	0.30	0.25	0.19	-	無	
P-49	9	Q-33	N 0°	櫛形	0.35	0.30	0.38	-	無	
P-50	9	Q-32	N 90° E	櫛形	0.40	0.35	0.09	-	無	
P-51	9	Q-32	-	円形	0.45	0.42	0.37	-	無	
P-52	9	Q-32	-	円形	0.50	0.50	0.13	-	無	
P-53	9	P-32-Q-32	N 70° E	櫛形	0.42	0.34	0.44	-	無	
P-54	9	P-32	N 60° E	櫛形	0.40	0.32	0.09	-	無	
P-55	1	A-10	N 12° E	櫛形	0.60	0.47	0.25	-	無	
P-56	1	A-10	-	円形	0.45	0.40	0.16	-	無	
P-57	1	A-10	N 0°	櫛形	0.58	0.50	0.34	-	無	
P-58	2	D-14	-	円形	0.50	0.50	0.17	-	無	
P-59	2	D-14	-	円形	0.32	0.30	0.35	-	無	
P-60	9	P-32	-	円形	0.34	0.32	-	-	無	

栃木県埋蔵文化財調査報告第 418 集

小泉分校裏遺跡・本沼大塚遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小泉・本沼地区における埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃木県

宇都宮市瑞田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 令和 6 年 3 月 28 日発行

印刷 株式会社泰明グラフィックス
